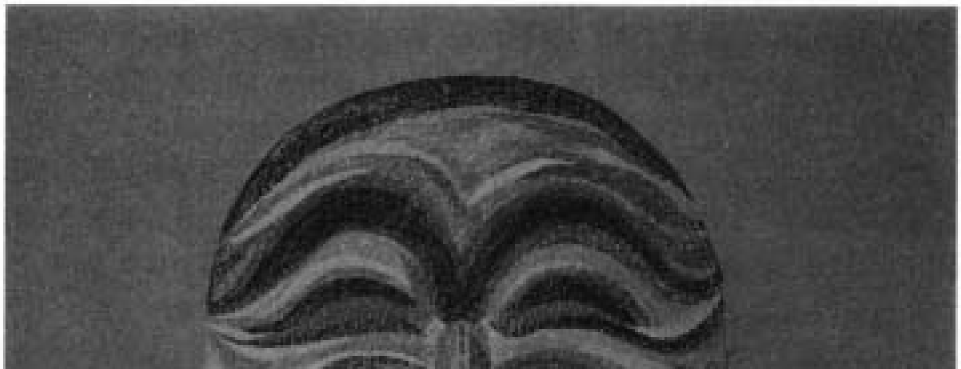
아버지（アボジ）聞かせて あの日のことを

――"我々の歴史を取り戻す運動"報告書――



在日本大韓民国青年会

316
Z

京都府立図書館
176010
蔵書

寄贈

916
Z

発　刊　辞

本書は、今から６年前の1982年の夏に起った日本国社会科教科書史実歪曲問題における教訓と総括の中から提唱、展開された"我々の歴史を取り戻す運動"の報告書である。日帝時代の韓国・中国をはじめとする近隣諸国の憤激を呼んだ教科書問題は日本国政府が過去の戦争・侵略行為に対する真摯な反省と総括を行わず、日帝時代の危険な体質を温存していることを明らかにした。我々青年会も日帝植民地支配によって傷を受けた民族の一員として、そしてその結果として生を受けた者の子として、この問題を把え日本政府に対して史実の歪曲是正と謝罪を求める糾弾活動を行った。この糾弾活動の中で、併せて自らの歴史認識に対する問いかけが為され、自分たち自身の努力により他国、他民族に侵害されることのない、在日同胞自身の歴史を発掘し創りあげてゆこうとの提起が為され、"我々の歴史を取り戻す運動"を展開したのである。

調査は、母集団構成並びに抽出方法の困難さ、老人対象の調査としては異例の設問数の多さ、青年自身の社会調査事業の経験性のなさ、加えて冬季での活動という厳しい条件の下で行われた。北は北海道から南は九州までの全国の青年会の仲間たちは奮闘してくれた。調査活動の中で青年たちは訪問先の同胞に心暖かく迎えられ、マンツーマンで長時間にわたって聞き取り調査を行った。そして一世の口から語られる生き様を集めていったのである。その内容は決して書物や講演などでは知ることのできない生きている歴史の証言であった。植民地支配の爪跡、戦争の恐怖、差別の不条理、異国で生きてゆくことの労苦等、そしてかつての時代の厳しさ、苦しさが増す程に、したたかでバイタリティーにあふれた楽天的で天真爛漫な一世の実像が浮かびあがってくるのである。一世との対話の中で調査に携わった青年は、かけがえのない自分たちの歴史と一世の築きあげた今日の社会基盤を受け継ぐ者としての責任と誇りを、そして一世の二・三世青年に寄せる愛情を感じ取ったのである。

本書は、苦闘に満ちた市井の一世たちの歴史の一断片を記したものであり、これからを生きる二・三世へのメッセージでもある。在日同胞社会の未来を建設してゆく為の礎として、本書は意義付けられるのである。

在日本大韓民国青年会中央本部
会　長　権　　清　　志

寛容とよばれる受け身の姿勢で
それでもいつかはあなたの瞳が
慈悲に満ちたやさしい心そのままに
微笑で輝やく時がくるのだろうか

素朴で寡黙なあなたの
瞳を見なくなって時は流れた
温かくもえる憧れや思慕の心を
思い出したところで何になろう

懐かしい母の懐で触れた乳房も
情けある幼い日の面影も見えない
ここ　凶の方位の異国にあって
時はいたずらに過ぎて消えていった

神聖なる　その地よ
何ゆえに呪われ　闘いの血を流すのか
母なる大地よ　何ゆえに矛盾に満ち
呪縛の糸を解くことができないのか

安らぎをもたない　わが故郷
一片の希望さえむなしい　わが未来
つかの間の溜め息なのか　わが歓び
空を翔ける鳥にも似た　わが青春

陣痛に堪え　多くの同胞(はらから)を
かの地へ送った　神聖なる大地よ
ひと時　瞳を閉じて安らかであれ
わたしらは永久に母胎へ蘇ろうとする

母なる瞳

崔　一　恵

異国の地を　人生に
踏みはじめようとした時
わたしは　あなたの瞳から
苦渋に色どられた涙を見た

波止場から船に乗り
産湯をつかった川を遠くに
半島を離れていく時　わたしは
身悶えて苦しむあなたを見た

東南は凶の方位
相性の悪いウエノムがいて
人の運命をたやすく止める
鬼があぐらをかいて住んでいる国

百遍　聞かされていた方角へ
疾風にふるえながら
玄海灘を走った　その日から
ゆうに　幾年月が流れただろう

暗黒だった植民地統治時代
ある者は太平洋を越え米国へ
ある者は豆満江を渡り海参威へ
ある者は間島から吉林省や黒龍省へ

大地が大国の戦火に巻きこまれ
戦略の足場として利用されるたび
その姿は骨と皮のように痩せ細り
多くの先達は新天地に生命を植えた

ああ　乾くことのないあなたの瞳よ
大地という偉大な宿命そのままに
深傷を負ってもなお毅然として
そこにあって動くことを知らない

目次

○発刊辞 …… 3
○詩「母なる瞳」――崔 一 恵―― …… 4
○運動の概要～運動が提起された背景及び意義～ …… 8

1．統　計　編

○アンケート調査実施の概要 …… 13
○Ⅰ、基本的属性 …… 15
(1) 性・年齢／(2) 婚姻状況／(3) 家族構成／(4) 法的地位(在留資格)
(5) 旅券の所持状況／(6) 出生地／(7) 学歴／(8) 現在の職業
○Ⅱ、渡日の状況 …… 25
(1) 渡日年度・渡日年齢／(2) 渡日前の職業／(3) 渡日理由
(4) 徴兵の状況／(5) 徴用の状況
(6) 経済的理由、結婚・親族との同居、留学等による渡日の状況
○Ⅲ、日帝の朝鮮統治政策について …… 36
(1) 土地調査事業／(2) 創氏改名・日本語使用強制・神社参拝
○Ⅳ、渡日当時の生活 …… 44
(1) 渡日当時の生活状況／(2) 渡日に対する気持ち
(3) 差別体験／(4) 移転体験
○Ⅴ、解放後の生活 …… 50
(1) 解放を迎えた場所／(2) 解放を迎えた気持ち
(3) 解放後の帰国の意志／(4) 解放後の生活の変化
○Ⅵ、民族運動への参加状況 …… 58
(1) 民族団体への参加経験／(2) 民族団体への参加時期
(3) 最初に参加した民族団体／(4) 民族団体への関わり方
(5) 民族団体への参加の動機

目 次

○Ⅶ、民族教育 …………………………………… 64
(1) 民族教育／(2) 民族学校／(3) 地域教育

○Ⅷ、帰化と帰国の意志 …………………………………… 74
(1) 帰化／(2) 帰国

○Ⅸ、青年会について …………………………………… 79
(1) 青年会の周知／(2) 青年会に対する評価

2. 分　析　編

○姜　在　彦　氏（京都花園大学　教授）…………………… 83
○金　両　基　氏（静岡県立大学　教授）…………………… 87
○李　度　珩　氏（朝鮮日報社　論説委員）…………………… 91
○池　明　観　氏（東京女子大学　客員教授）…………………… 96

3. 証　言　編

○第１章　プロローグ …………………………………… 103
○第２章　渡日の背景 …………………………………… 121
○第３章　日帝の政策 …………………………………… 162
○第４章　日本での生活 …………………………………… 192
○第５章　民族運動との関わり …………………………………… 250
○第６章　次世代に対して …………………………………… 268
○第７章　エピローグ …………………………………… 285

※巻末資料 …………………………………… 301

運動の概要～運動が提起された背景及び意義～

運動の起こりと意義

1．運動が提起された背景

日本国社会教科書における一連の史実歪曲記述の問題は、日本が敗戦を迎えてから37年を経た今でも、日本政府が日帝時代の体質を維持し続け、かつて植民地支配を行なった我が国に対しての植民地観を温存していることを明らかにした。改訂を認めようとしない文部省や、我が国、中国の正当な抗議に対して「内政干渉」であると暴言を吐く日本政府の一部閣僚らの存在がそれを証明してあまりある。青年会も日帝の軍靴に踏みにじられた国民の一人として、また日帝の植民地支配によって日本の地に居住せざるを得なかった者たちの子孫として、史実歪曲完全是正を要求し、日本政府を糾弾してきた。

しかし今、我われは、単に日本政府を糾弾するのみにとどまらず、自らをも問い直さねばならない必要性を痛感している。在日同胞社会の歴史は70数年に及ぼうとしているが、その歴史は近代史と現代史の狭間にあってまさに激動に満ちたものであった。その激動の荒波にもまれながらも我われの父母達は、血のにじむような労苦を重ね、言われなき偏見に苛なまれながらも、今日の在日同胞社会の基盤を構築してきたのである。しかるに二・三世世代である我われはその父母達の足跡を、歩んだ道を知り得ないのである。また五千年の歴史を有する韓民族の一員でありながら、自らの民族史すらも知り得ていない。何故か？それはそれが我われに伝えられていないからである。勿論、日々の生活に迫われていた生活状態もあったであろうし、本国の分断状況もあったであろう。しかしそれでも在日同胞社会内部において歴史を伝承する作業があまりにも放置されていたのではなかろうか。

我われの社会が、民族が、保有する歴史を今、我われ自身の手で継承しなければならない。世代交替の主体勢力である我われは、我われを生んでくれた父母達一世世代の築いた在日同胞社会を明るく幸せな社会へと変えてゆかなければならない責務がある。その責務を遂行してゆく為にも今、失われた歴史を取り戻すことが緊要なのである。

2．明るい未来創造の為の礎を築こう

去る９月１日に開催された"日本教科書史実歪曲完全是正要求在日韓国青年・学生代表者集会"において採択された決議文の中で「我われの保有する歴史は我われ自身の手によって継承してゆく」ことを謳い、青年会は行動提起の中で、①今後も日本政府に対して歪曲史実の即時完全是正を要求してゆくこと②青年会体内において歴史を取り戻す為の運動を展開することを表明したのである。

青年会は結成以来、多種多様な運動や活動を通じて現在の、世代交替時における旗手としての位置を確保した。とくに昨年から展開された「結成五周年運動」で「在日同胞社会の未来をみつめる会」を構成し文字通り自らが望む未来像を提示、その実現の為の最大限の努力を行なうことを確認

したのである。

今回の教科書問題は、青年会が明るい未来を構築しようとする上で、過去の歴史を学び受け継ぐことの重要性を知る強烈な契機である。我々は「みつめる会」をもって失われた歴史や日本の教科書で知り得なかった数々の史実を発掘しよう。父母達がいかにして今日の生活基盤を築きあげてきたかを知ろう。明るい未来の構築は、真の史実に裏づけされた過去という"礎"と過去の教訓を踏まえた現在の努力によってのみ可能なのであるから。

運動の概要

去る九・一集会で青年会の行動提起で打ち出された"青年自らが歴史を学ぶ為の努力を行い、その為の集中学習活動を設定する"ことから今回の運動の輪郭は形づくられた。第2回中央執行委員会で方向性を定めた上で、先日、9月23日に開催された第12回全国会長会議に於いて、活発な論議が重ねられた後、"我々の歴史は、我々自身の手で継承しよう！"をスローガンとした『我々の歴史を取り戻す運動』を来年の2月に予定されている第4回定期中央大会の前日までに広汎に展開してゆくことが確認されたのである。

1、目　　的

今回の運動の目的は、大きく三つに分けられる。①世代交替の主体勢力として、民族史を創造的に継承し、未来創造の礎とし、②既成世代の足跡を、発掘・探求することによって、在日韓国青年の主体意識を喚起し、③実践と学習を行うことによって幹部隊列の強化・拡大を図り、未来創造の担い手たる青年会組織を構築することにある。

2、内　　容

運動は、①一世同胞を対象に、その渡航から現在に至るまでの生活史の証言を収集する為の戸別訪問活動と、②我が国の近代史、在日同胞史を中心とした月間学習会の二つの柱から成り立っている。

①　一世同胞生活史証言収集活動

世代交替も完了期を迎え、一世世代の人口数も在日同胞人口数の１割弱になろうとしている。言うまでもなく、在日同胞社会の今日の基盤を築きあげてきたのは一世世代である。苛酷極まる日帝の植民地支配の為に異国の地に移り住まざるを得なく、その労苦は筆舌に尽し難いものであったはずである。これらの一世世代の歩んできた道のりを我々が辿ることによって単に書物や講演などだけでは決して得ることのできない生きた歴史を学び得られるのである。その生きた歴史は、たとえ日本政府や一部日本人が歪曲・隠蔽を図ろうとしても決して隠すことのできない、真の史実である。また在日二・三世である我々が一世の歩んできた道程を発掘し、研究することは、自らのルーツを踏まえ、主体性を培う上でも大きな意味を持つものである。

〈手　順〉

各地に割り当てられた一世同胞の収集目標数を地方内の支部単位で分担し、予じめ作成された「調査票」をもって同胞宅を青年会員が訪ねて調査項目に基いた質問を行い、証言を記録化する。

調査活動の結果は、地方本部単位で集計し、中央へ報告、中央はそれを小冊子に編集し発行する

予定とする。

② 月間学習会開催

在日同胞青年の大半は、我が国に関する史実や歴史を日本の教育機関で学んでいる。しかしながら今回の教育問題で明らかになったように、日本国社会科教科書の古代から現代に至るまでの韓日関係史や我が民族史の記述は歪曲・隠蔽に満ち満ちたものであった。(国史編纂委員会発表、167項目) このことは日本で生を受けた二・三世青年の大半が正しい史実を学び得ずに、韓国に対する植民地観を移植されていることを意味する。青年会に参加したり、本国に留学したりするという少数の自覚的な青年以外は全て、真の史実を知ることもなく放置されているのが現状である。青年会内部に於いても韓日関係史なり、在日同胞史などを体系的に具体的に知り得ている会員が何人いるのかということになると悲観的にならざるを得ない。

以上述べてきた現状を鑑みて、まず青年会会員自らが、自らの歴史を集中的に学習するというのが、この月間学習のねらいなのである。

〈手 順〉

運動の学習面での重要な任務、位置を課せられているのが「見つめる会」である。今年度においては教科書問題を踏まえた形でテーマを「教育問題」と設定する。特に在日同胞社会の体内における民族史、在日同胞社会形成史などの歴史の継承作業が効果的になされていなかったことを受けて、「見つめる会」が主軸となって韓国近代史、在日同胞史を研究報告する。また、各地の一世同胞の証言を収集した結果を分析するのも「見つめる会」である。

◎第1回月間学習会《運動展開にあたって》——10月開催——

今回の運動の意義を教科書問題の経過と問題点を踏まえた上で確認する。その上で活動内容の説明と任務分担を行う。(例えば、証言収集活動の支部単位での分担や、第2回、第3回学習会のテーマ担当の「見つめる会」を構成するなどがある。)

◎第2回月間学習会《近代史(1876年~1982年)》——11月中開催——

江華島条約が締結された時点を出発点とする。骨組みは、①日帝の侵略の経過、②植民地政策、③抗日独立運動、④分断の経過、⑤統一への動き、とする。

◎第3回月間学習会《在日同胞史》——12月中開催——

解放前の、①渡航史、②就労状況などを主とした生活史と解放後の動きを、③GHQの政策に端を発した法的地位の流れの視点と、④朝連、建青を出発点とする在日同胞組織の流れを追う視点で研究する。

◎第4回月間学習会《調査結果報告・総括》——1月中開催——

運動の地方単位での終了点とし、活動の結果を報告、総括する。報告する際の様式は統一的なものとし、各地方の歴史、産業動向、同胞分布状況、状況、職種傾向、民団史を柱とし、最後にこの運動を通じての考察を行う。

※組織強化

この運動を幹部訓練の"場"として最大限に活用する。また、会員制度を実施している地方に於いては提示された会員獲得目標数を達成すべく会員獲得作業も行う。

3、目　標

一世同胞証言収集　7,440名分

(在日韓国青年会中央本部機関紙「韓国青年」1982年10月9日付より)

1. 統　計　編

アンケート調査実施の概要

1．調査の対象

在日韓国人で1910－45年の間に日本へ渡航してきた者（ただし、渡航時に満12才未満の者は除く）

2．調査の時期

1982年10月25日－1983年1月15日

3．調査の方法

(1)　対象者の抽出方法

国民登録台帳をもとに、各地方に居住する在日朝鮮人の人数にほぼ比例するように4,205票の調査票を割当て、回収目標数を1,500に定め、調査を行なった。

(2)　調査方法

訪問面接による聴取

(3)　調査内容

1．基本的属性
2．渡日の状況
3．日帝の朝鮮統治政策について
4．渡日当時の生活
5．解放後の生活
6．民族運動への参加状況
7．民族教育
8．帰化と帰国の意志
9．青年会について

4．回収状況

回収数 —— 1,106人

《県別回収一覧》

	県　名	割当数	回収数		県　名	割当数	回収数		県　名	割当数	回収数
関東	東　京	395	114	東北	秋　田	7	6	中国	島　根	8	7
	神奈川	160	16		福　島	10	4		山　口	95	52
	千　葉	52	26	中北	愛　知	327	113	九州	福　岡	200	171
	山　梨	12	・		岐　阜	56	14		長　崎	19	15
	栃　木	10	・		三　重	50	32		佐　賀	11	3
	茨　城	20	10		石　川	13	・		大　分	17	・
	埼　玉	45	・		福　井	24			宮　崎	8	4
	西東京	63	38		富　山	12	10		熊　本	15	・
	群　馬	11	2	近畿	大　阪	1,311	128		鹿児島	4	5
	静　岡	46	12		兵　庫	484	113		対馬島	2	・
	長　野	25	21		京　都	273	45		沖　縄	2	・
	新　潟	19	・		奈　良	50	15	四国	香　川	6	3
東北	宮　城	20	・		滋　賀	47	13		愛　媛	15	・
	北海道	36	10		和歌山	41	12		高　知	6	4
	青　森	12	・	中国	広　島	95	45		徳　島	2	4
	山　形	5	5		岡　山	50	20				
	岩　手	7	・		鳥　取	7	14		計	4,205	1,106

《この報告書のみかた》

1．百分比は小数点第１位まで表示してある。小数点第２位で四捨五入してあるため、回答の合計が 0.1%前後増減することがある。

2．（）内に各質問や項目の回答者数（N）を表示した。百分比の数値（%）はこの数字を 100.0として計算してある。（ただし「I　基本的属性」では、基本集計の実数も（）内に表示した。）

3．１つの質問で２つ以上の回答があった場合、回答比率の合計は 100.0 %を越える。その場合は、複数回答率として合計を表示した。

Ⅰ、基本的属性

(1) 性・年齢

男女構成は、だいたい７：４の割合で男性が多い。

年齢構成は、60才代の人が多く半数以上を占めている。

〈性〉

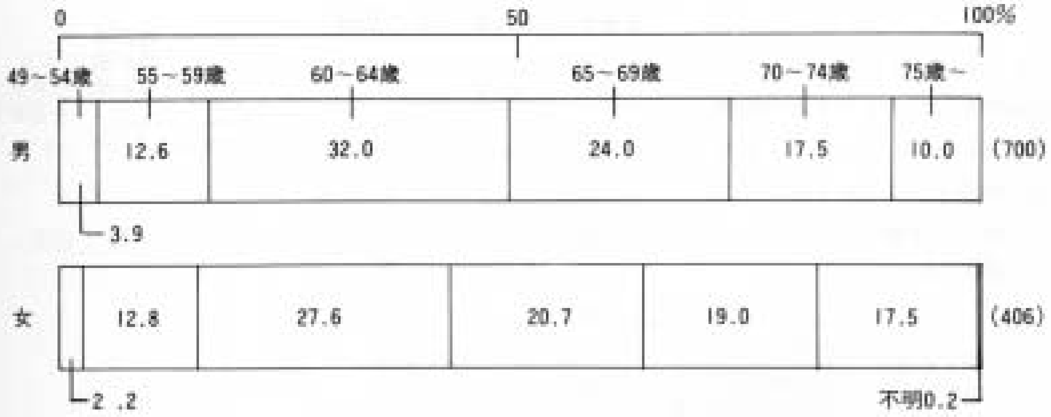
	男	女	計
% （人数）	63.3% （700人）	36.7% （406人）	100.0% （1,106人）

〈年齢〉

年齢	49～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～	不明	計
% （人数）	3.3 （36）	12.7 （140）	30.4 （336）	22.8 （252）	18.1 （200）	12.7 （141）	0.1 （1）	100.0 （1,106）

性別の年齢構成をみると、女性には60才代が少なく70才以上の高齢者が多い。

〈性別にみた年齢構成〉



(2) 婚姻状況

婚姻をしている人は99.0%で、ほぼ全員である。

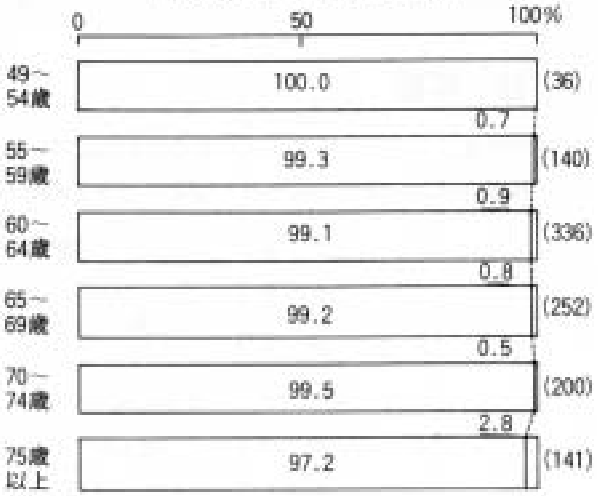
性別による差はみられない。

75才以上の人に結婚をしていない人が若干多い。

〈結婚の経験〉

	既　婚	未　婚	計
全　体	99.0% (1,095)	1.0% (11)	100.0% (1,106)
男	99.4	0.6	100.0 (700)
女	98.3	1.7	100.0 (406)

〈年齢別にみた結婚の経験〉



結婚をしている人（1095）人に配偶者の国籍をたずねたところ、10人に9人は韓国籍の配偶者をもっている。

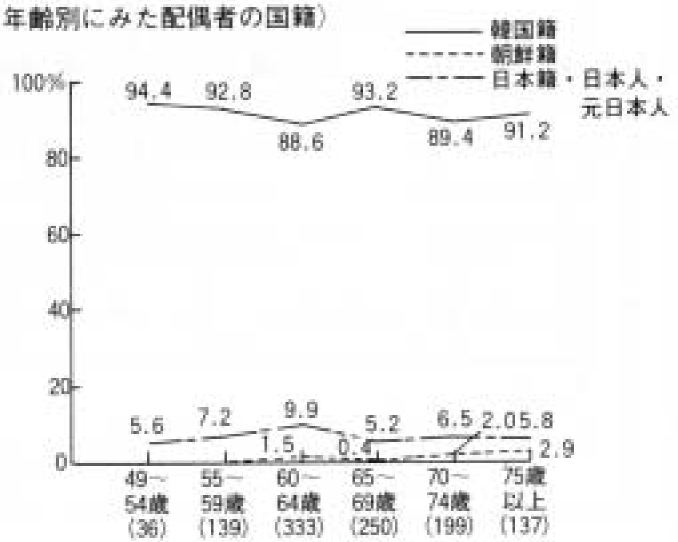
男性には日本籍や日本人の配偶者をもつ人が多い。

〈配偶者の国籍〉

	韓国籍	朝鮮籍	日本籍	日本人	元日本人	不　明	計
全　体	90.9% (995人)	1.3 (14)	3.4 (37)	3.4 (37)	0.5 (5)	0.6 (7)	100.0 (1,095)
男	87.6	1.0	5.0	5.3	0.7	0.3	100.0 (696)
女	96.5	1.8	0.5	—	—	1.3	100.0 (399)

日本籍、日本人、元日本人の配偶者をもつ人を日本系の配偶者をもつ人としてまとめ、年齢別に比較をしたものが右のグラフである。年齢による差は、ほとんどみられない。

〈年齢別にみた配偶者の国籍〉

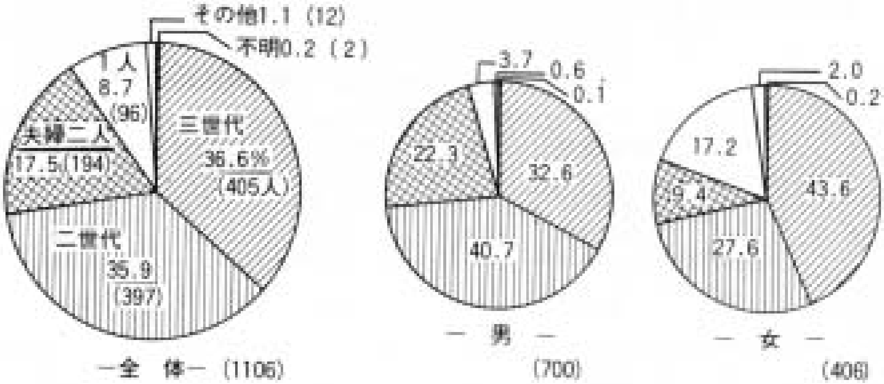


⑶ 家族構成

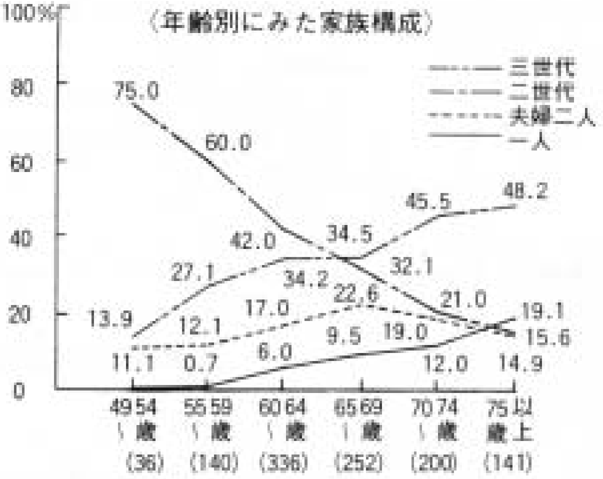
家族構成をたずねたところ、三世代（親と子又は子と孫がいる）で暮らす人は36.6%、二世代（親又は子がいる）で暮らす人は35.9%おり、いずれも３分の１以上を占めている。夫婦二人で暮らす人は17.5%、一人で暮らす人は8.7%である。

性別による差は大きく、男性は女性にくらべて二世代と夫婦二人で暮らす人が多い。

〈家族構成〉

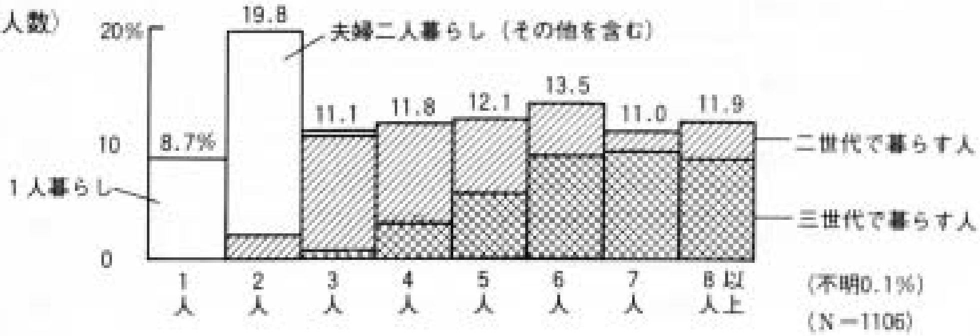


年齢による差をみると、三世代で暮らす人と、一人で暮らす人は年齢が高くなるほど多くなるのに対し、二世代で暮らす人は少なくなる。ただし、夫婦二人で暮らす人は60代後半にやや多くなるものの、あまり差がみられない。



家族人数については、２人で暮らす人が２割近くいる他は、１人から８人以上までいずれも一割前後おり、ばらつきが大きい。下のグラフは、各家族人数の者が全体に対して占める割合を表わしている。そのうち三世代で暮らす人と二世代で暮らす人の割合も示しておいた。三世代で暮らす人のうち、４人に１人は８人以上の大家族である。

〈家族人数〉



(4) 法的地位（在留資格）

在留資格は、日韓法的地位協定（1965）による協定永住権を取得している人が一番多く、9割近い。一般永住権を取得している人は6.6%、「法律126-2-6」に該当する人（戦前からひき続き1952年4月28日まで日本に在住した者とその子で、この時までに日本で生まれた者）は1.8%にすぎない。今回の調査対象者は韓国籍をもつ者に限られているため、協定永住権を取得している人が多いことは当然の結果といえる。性別による差はほとんどみられない。

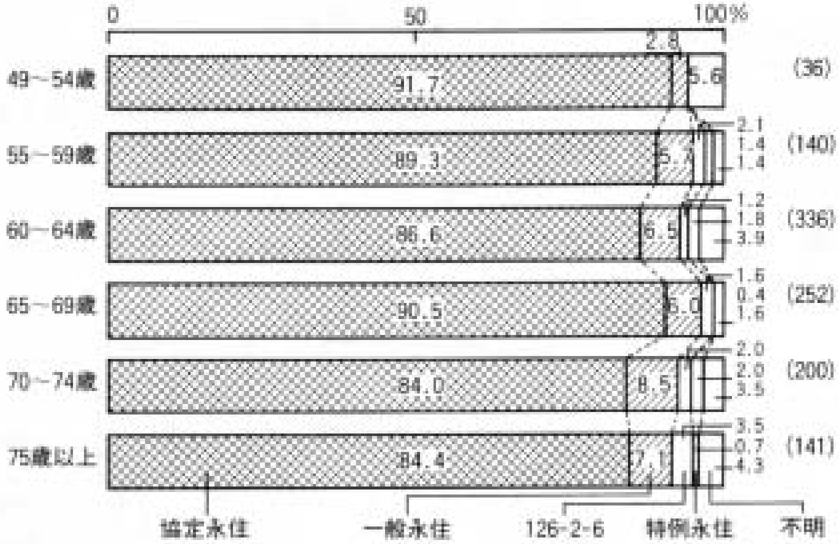
〈法的地位（在留資格）〉

	協定永住	一般永住	126−2−6	特例永住	不　明	計
全　体	87.3% (965人)	6.6 (73)	1.8 (20)	1.3 (14)	3.1 (34)	100.0 (1,106)
男	87.7	6.3	2.0	1.1	2.9	100.0 (700)
女	86.5	7.1	1.5	1.5	3.4	100.0 (406)

※調査票には、回答肢として「4−1−16−2」、「4−1−16−3」が用意されていたが、これは「126−2−6」の子及び孫の資格であり、この調査の対象者には該当しない資格であると思われる。そこで、これを回答した者は誤りと判断して不明にいれてある。

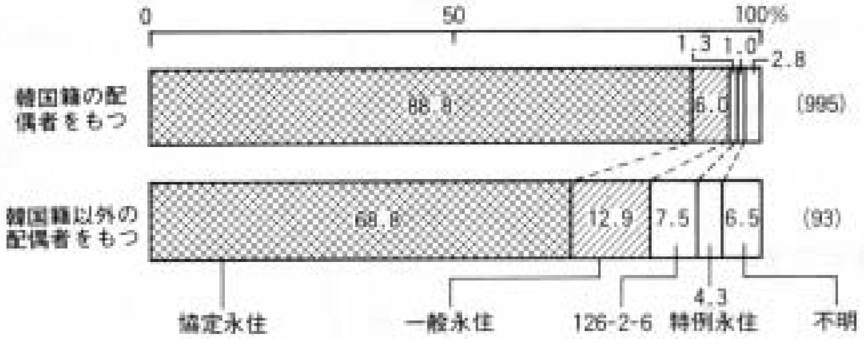
年齢による差をみると、60代後半の人を除いて、年齢が高くなるほど協定永住が少なくなり一般永住が多くなるという傾向がみられる。

〈年齢別にみた法的地位〉



韓国籍の配偶者をもつ人（夫婦二人ともが韓国籍）のうち、協定永住権を取得している人は88.8%を占める。韓国籍以外の配偶者をもつ人の場合は68.8%であり、韓国籍の配偶者をもつ人には協定永住権を取得している人が多いことがわかる。

〈配偶者の国籍別にみた法的地位〉



(5) 旅券の所持状況

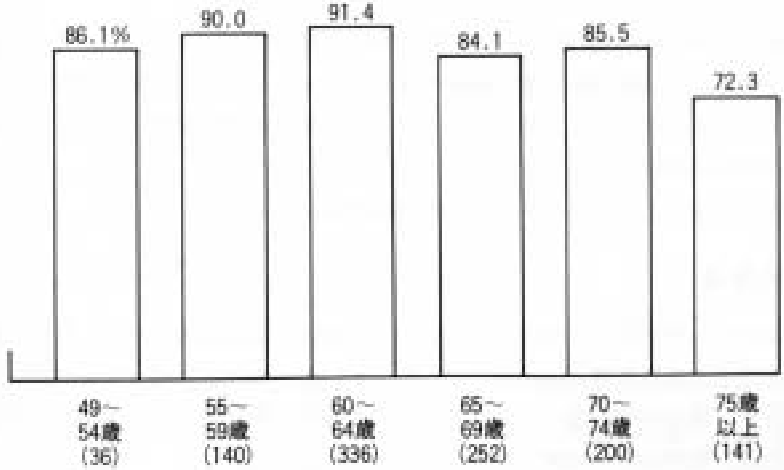
韓国政府発行の旅券を持っているかどうかをたずねたところ、旅券を持っている人は85.9%である。旅券を持っている人は男性に多い。

〈旅券の所持状況〉

	持っている	持っていない	不　　明	計
全　体	85.9%(950人)	13.9(154)	0.2(2)	100.0(1,106)
男	88.9	11.0	0.1	100.0(700)
女	80.8	19.0	0.2	100.0(406)

年齢による差をみると、旅券を持っている人は、75才以上の人にやや少なくなっている。

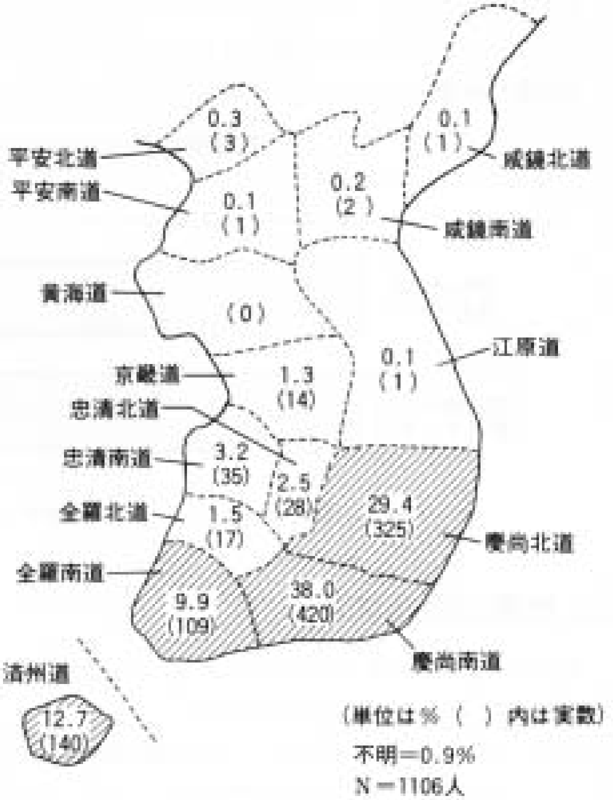
〈年齢別にみた旅券の所持状況〉



⑹ 出 生 地

右の地図中の数字は、各地方を出生地とする人の割合を表わしている。半島南部（済州島、慶尚南道、慶尚北道、全羅南道——地図中斜線部）の出身者が多く、合わせると９割に達する。

この半島南部出身者を各地方別にみていく。（12ページの表とグラフを参照のこと）



＜済州島出身者＞

済州島出身者は、一世全体の１割以上を占める。性別による差はみられない。現在49才から54才の若い層に特に多くなっている。関東及び近畿地方に住む一世のうち２割以上が済州島出身者であり、居住地は集中している。

渡日状況をみると、日中戦争勃発（1937年）前の1935年までに渡日した人、12才から14才という極めて若い頃に渡日した人、留学のために渡日した人に多い。

＜慶尚南道出身者＞

慶尚南道出身者は一番多く、一世全体の４割近くを占める。際立って女性に多い。年齢による差はほとんどみられない。中国・九州地方に住む人にやや多い。

渡日状況をみると、1920年代から30年代にかけて渡日した人に多く、渡日年齢による差はあまりみられない。渡日理由として、経済的理由、結婚・親族との同居、その他を答えた人に多い。

＜慶尚北道出身者＞

慶尚北道出身者は一世全体の3割近くを占め、慶尚南道出身者に次いで多い。性別による差はあまりみられず、現在49才から59才の若い層にはやや少なくなっている。中北地方に住む人に特に多い。

渡日状況をみると、渡日年度による差はほとんどみられず、20才代前半に渡日した人にやや多くなっている。渡日理由は留学にやや少ない。

慶尚北道出身者には全体としてはっきりとした特徴がみられない。

＜全羅南道出身者＞

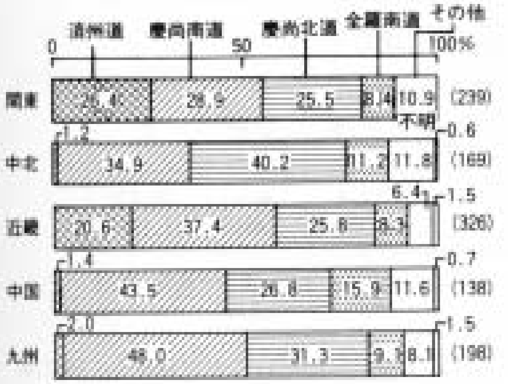
全羅南道出身者は、一世全体の１割近くを占める。性別による差はあまりみられず、現在54才以下の若い層と75才以上の高年齢層には少なくなっている。居住地による差はみられない。

渡日状況をみると、渡日年度が遅くなるほど多くなる傾向がみられる。渡日年齢による差はあまりみられない。徴兵・徴用のために渡日した人にやや多くなっている。

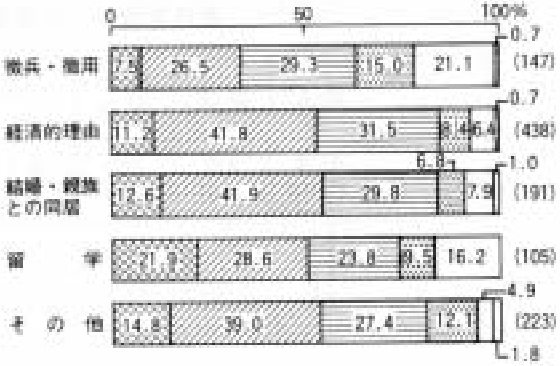
〈性・年齢別にみた出生地〉

		済　州	慶　南	慶　北	全　南	其　他	不　明	計
全　　体		12.7%	38.0%	29.4%	9.9%	9.2%	0.9%	100.0(1,106)
性	男	12.1	34.7	30.7	11.0	10.6	0.9	100.0(700)
	女	13.5	43.6	27.1	7.9	6.9	1.0	100.0(406)
年	49～54才	30.6	36.1	22.2	2.8	8.3	—	100.0(36)
	55～59才	12.9	38.6	23.6	11.4	12.1	1.4	100.0(140)
	60～64才	11.9	36.3	30.7	11.3	8.9	0.9	100.0(336)
	65～69才	10.7	37.3	30.6	9.9	10.7	0.8	100.0(252)
齢	70～74才	14.5	38.0	28.5	10.5	7.0	1.5	100.0(200)
	75才以上	10.6	42.6	33.3	5.7	7.8	—	100.0(141)

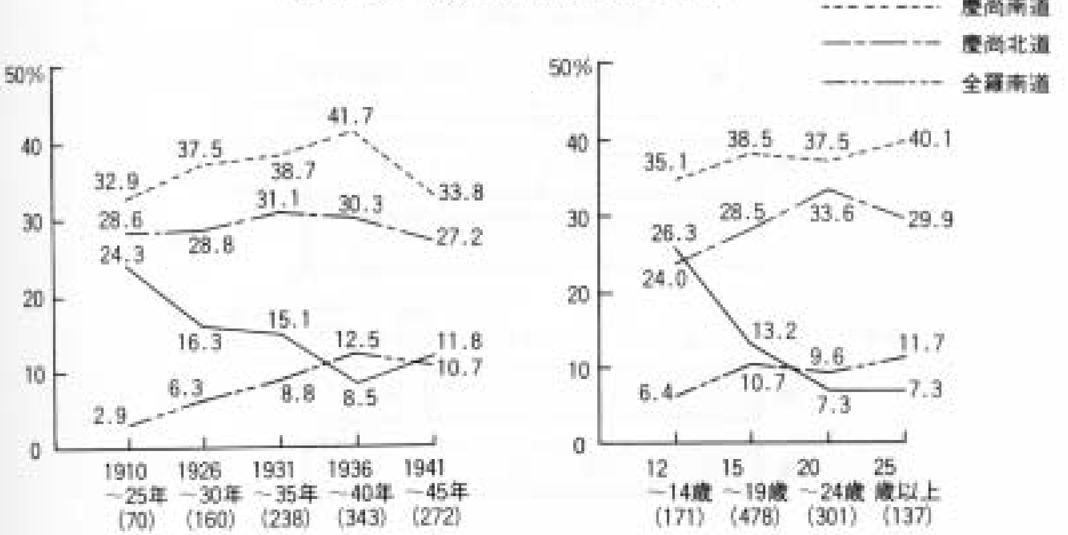
〈居住地別に見た出生地〉



〈渡日理由別にみた出生地〉



〈渡日年度・渡日年齢別にみた出生地〉



(7) 学　歴

下の表は、本国における最終学歴と日本における最終学歴を表わしている(中退は卒業とみなす)。

〈本国及び日本における最終学歴〉

	無し	書堂	尋小 高小	旧中	旧高	大学	不明	計
本国における最終学歴	54.5 (603)	8.2 (91)	32.0 (354)	4.5 (50)	0.6 (7)	— (0)	0.1 (1)	100.0 (1,106)
日本における最終学歴	81.3 (889)		4.1 (45)	5.5 (61)	2.4 (27)	2.4 (26)	4.3 (48)	100.0 (1,106)

注：尋小＝尋常小学校、　高小＝高等小学校
　　旧中＝旧制中学校（高等女学校、師範学校、実業学校を含む）
　　旧高＝旧制高校（高等師範学校、旧専門学校を含む）

本国における最終学歴と日本における最終学歴をあわせると下の表のような結果となる。

〈最終学歴 — 本国及び日本を通して〉

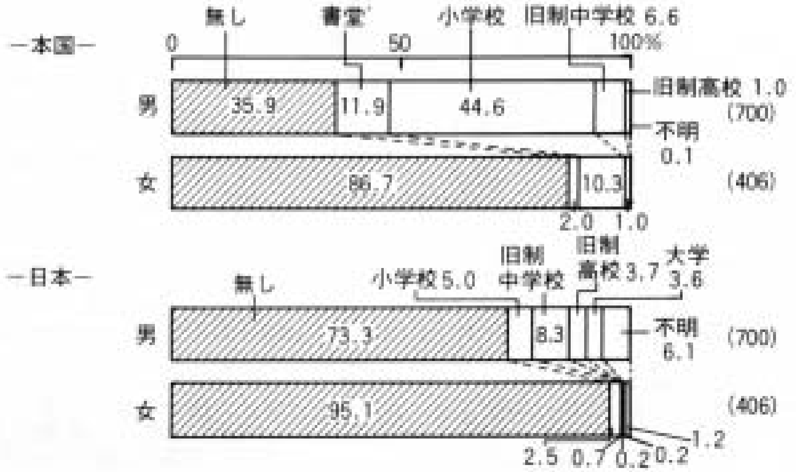
	無し	書堂	尋小 高小	旧中	旧高	大学	不明	計
最終学歴	51.9 (574)	6.9 (76)	24.1 (266)	8.0 (88)	2.5 28))	2.4 (26)	4.3 (48)	100.0% (1,106)

注：尋小＝尋常小学校、高小＝高等小学校

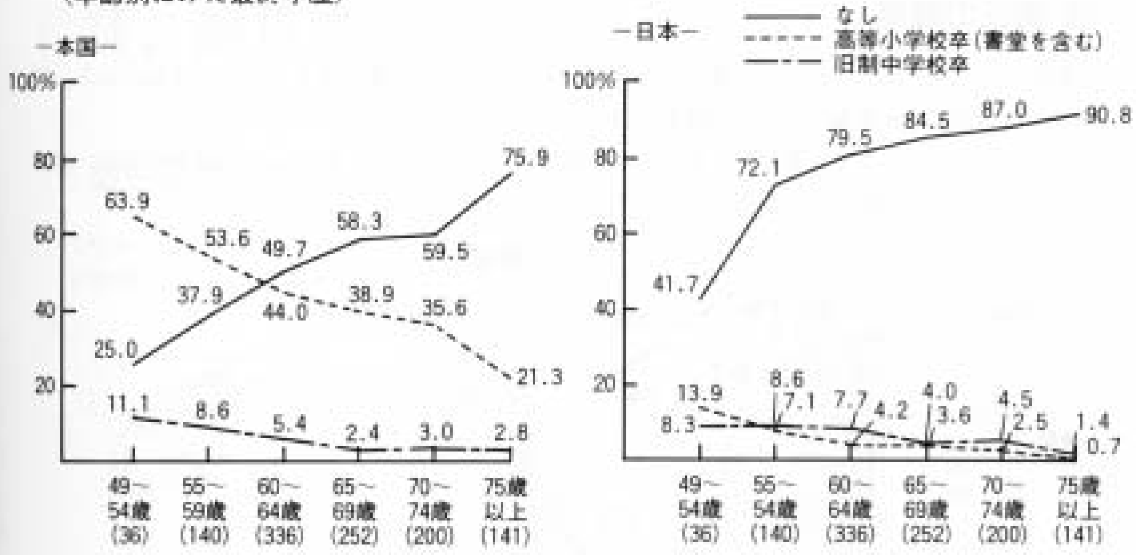
これを性別にみてみると下のグラフのようになり、男性の学歴の方が高いことがわかる。特に本国における最終学歴で、差が大きくなっている。

年齢別にみると、いずれも年齢が高くなるほど学歴が低くなる傾向がみられる。

〈性別にみた最終学歴〉



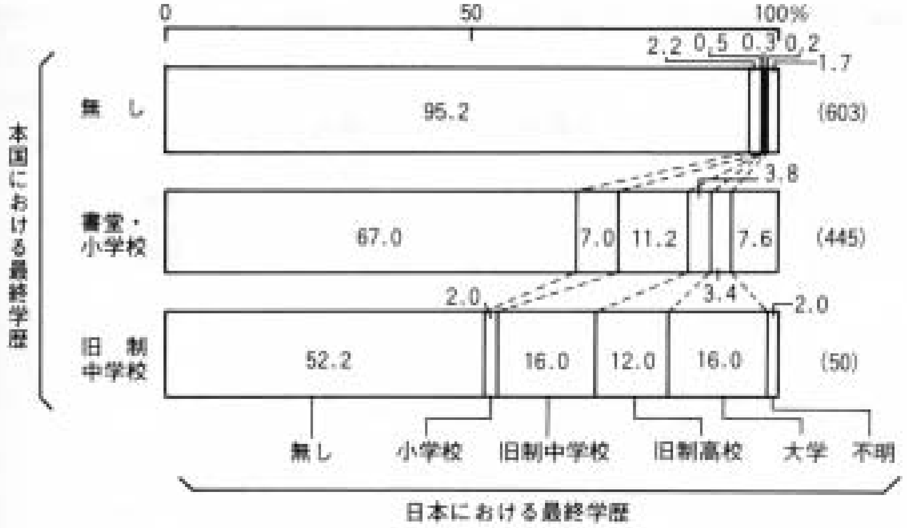
〈年齢別にみた最終学歴〉



＊旧制高校卒以上は数が少ないので省いてある

下のグラフは、本国における最終学歴と、日本における最終学歴の関係を表わしている。本国における最終学歴が高いほど、日本における最終学歴も高くなる。

〈本国における最終学歴別にみた日本における最終学歴〉

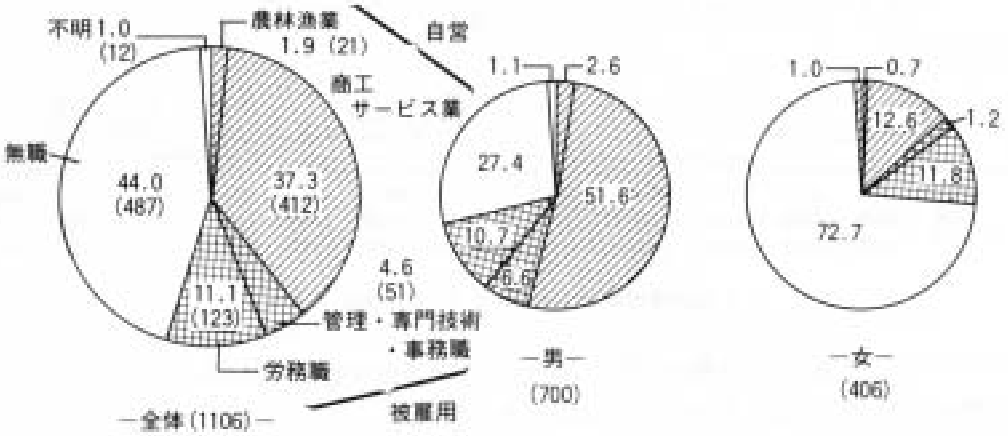


(8) 現在の職業

有職者のうちでは商工サービス業が一番多く37.3%を占める。農林漁業はごくわずかである。被雇用は15.7%で、労務職が多い。無職者は44.0%である。

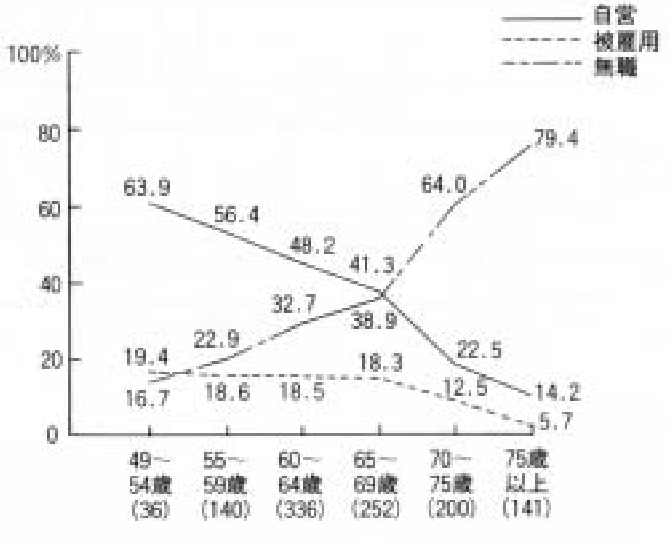
性別による差は大きく、女性の7割以上が無職であるのに対して、男性は3割に満たない。商工サービス業に比べ被雇用の方が男女差が小さくなっている。

〈現在の職業〉



下のグラフは、自営（農林漁業、商工サービス業)、被雇用(管理・専門技術・事務職・労務職)、無職の比率を年令別にみたものである。70才以上になると、無職の増え方が大きくなることがわかる。

〈年齢別にみた現在の職業〉



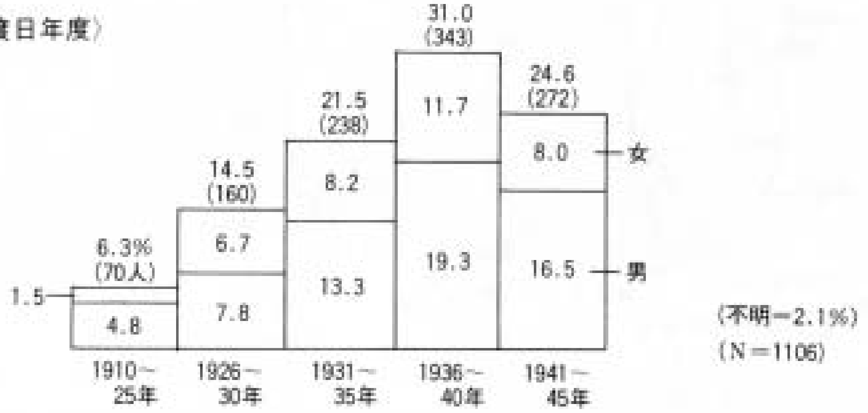
II、渡日の状況

(1) 渡日年度・渡日年齢

半数以上の人が日中戦争から太平洋戦争にかけての1936年から1945年に渡日している。

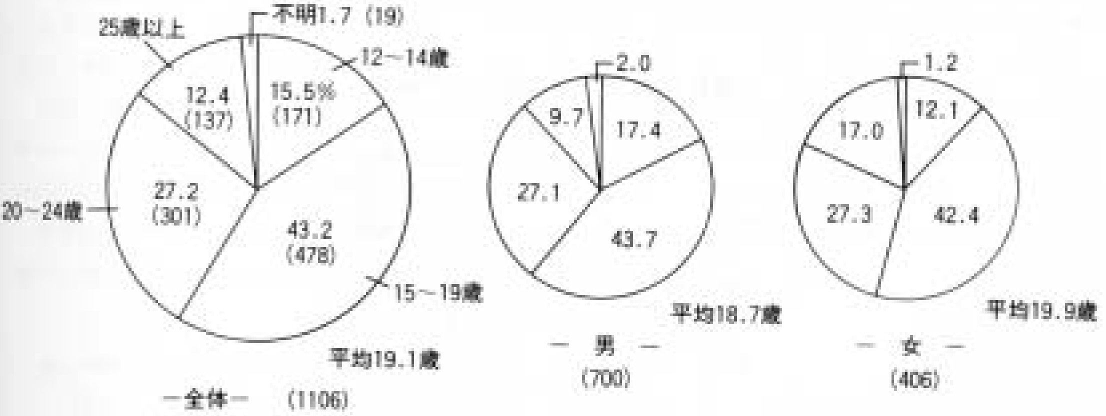
日韓併合初期の1910年から25年と太平洋戦争中の1941年以後は特に男性の渡日者が多くなっている。

〈渡日年度〉



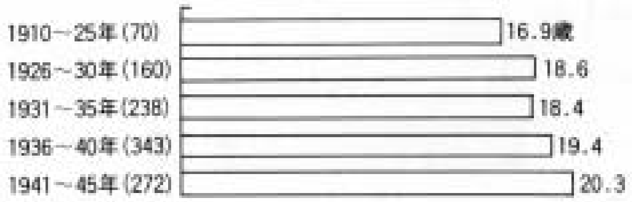
渡日年齢は、10代後半に渡日した人が一番多く、4割を超える。渡日年齢の平均は19.1才である。女性の平均渡日年齢の方がやや高い。

〈渡日年齢〉



〈渡日年度別にみた平均渡日年齢〉

渡日年度別に平均渡日年齢を比べると、渡日年度が遅くなるほど平均渡日年齢は高くなる。

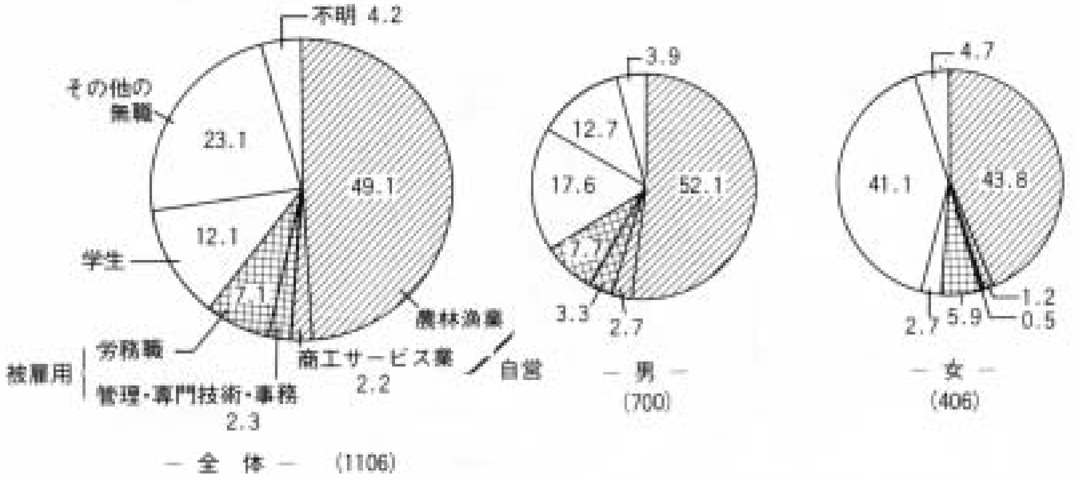


(2) 渡日前の職業

日本に来る前の本国における職業は、半数近くが農林漁業であり、商工サービス業はわずかである。被雇用は9.3%と1割に満たず､労務職が多い。学生は12.1%おり、無職者は23.1%である。

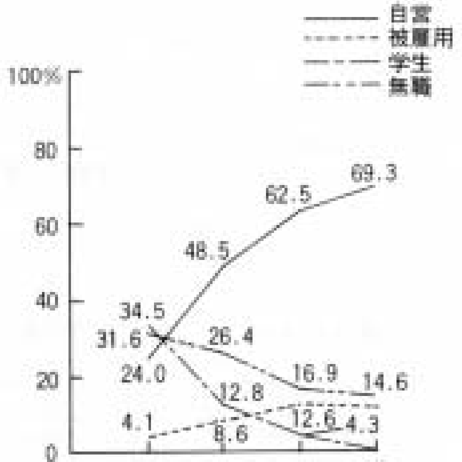
性別による差は大きく、男性はいずれの職種も女性を上回っているが、特に学生が17.6%とかなり多くなっている。女性は無職が4割を占めている。

〈渡日前の職業〉



渡日年度による差はみられない。右のグラフは、自営（農林漁業、商工サービス業）、被雇用(管理・専門技術・事務職、労務職)、学生、無職の比率を渡日年齢別にみたものである。渡日年齢が高くなるほど有職者が多くなるが、特に自営者は差が大きい。学生は19才以下に渡日している人に多い。

〈渡日年齢別にみた渡日前の職業〉

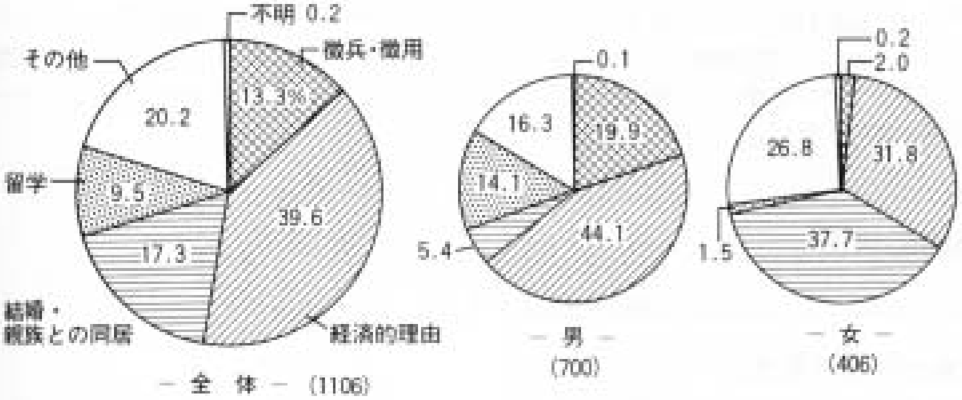


⑶ 渡日理由

渡日に至った理由は、経済的理由が39.6%で4割近くになり、生活苦による渡日が一番多い。以下、結婚・親族との同居、徴兵・徴用、留学と続いている。これらの範疇に含まれないその他の理由が20.2%もあり、渡日事情の多様さが窺われる。

性別による差は大きい。女性の場合、結婚・親族との同居が一番多く、経済的理由、その他と共に全体を三分している。

〈渡日理由〉



徴兵・徴用により渡日した人は13.3%おり、そのうち徴兵による人は0.5%とわずかである。ほとんどが男性で、1935年から1945年までの戦時中に渡日している人に多い。※中でも1941年から45年までに渡日した人の4分の1は徴兵・徴用による。渡日年齢は20才以上に多くなっている。

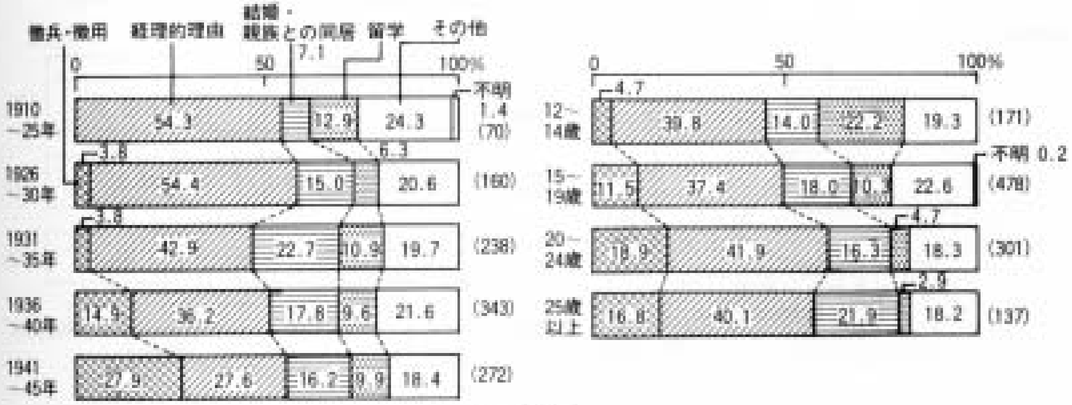
> ※注：国民徴用令がだされたのは1939年、徴兵制がしかれたのは1944年であり、1935年以前に徴兵・徴用による渡日は起こり得ないことになるが、ここではそれに似たような状況が生じたものと解釈した。

全体の4割近くを占める経済的理由は、男性にやや多く、1935年までの戦前に渡日した人に多い。渡日年齢による差はみられない。

結婚・親族との同居のために渡日した人は17.3%いる。極めて女性に多い。日韓併合直後の1910年から25年に渡日した人にはこの理由による人が少なく、1930年代後半にやや多くなる。渡日年齢は25才以上の高年齢になってから渡日した人に多い。

留学のために渡日した人は9.5%おり、ほとんどが男性である。事情はわからないが、1920年代後半に渡日した人に少ない。渡日年齢が若いほど多くなっている。

〈渡日年度・渡日年齢別にみた渡日理由〉



⑷ 徴兵の状況

徴兵により渡日した人（6人）に徴兵の状況をたずねた。徴兵により渡日した人はごくわずかなので、実数のみを記しておく。

「徴兵はどのように行なわれましたか」という問いに対して、「自発的に」と答えた人はおらず、「どちらかといえば自発的に」が1人、「どちらかといえば強制的に」が2人、「強制的に」が3人で、ほとんどの人は強制的に徴兵を受けている。

6人中5人は日本国内に配属され、残りの1人は東南アジア方面へ配属された。

「徴兵をうけてどのように思われましたか」とたずね、気持ちに近いものを回答肢の中からひとつ選んでもらった。「当然の義務であり、応ずるべきであると思った」「何とも思わなかった」は答えた人がいない。「やむを得ないと思った」人が3人、「不当だと思った」「絶対に応ずるべきでないと思った」人はいずれも1人で「不明」が1人いる。

⑸ 徴用の状況

徴用により渡日した人(141人)に徴用の状況をたずねた。

＜徴用の行なわれ方＞

「徴用はどのように行なわれましたか」という問いに「強制的に」(「どちらかといえば強制的に」を含む）と答えた人は6割近くになる。

徴用により渡日した人は男性がほとんど（94.6%）なので、性別の比較は行なわない。

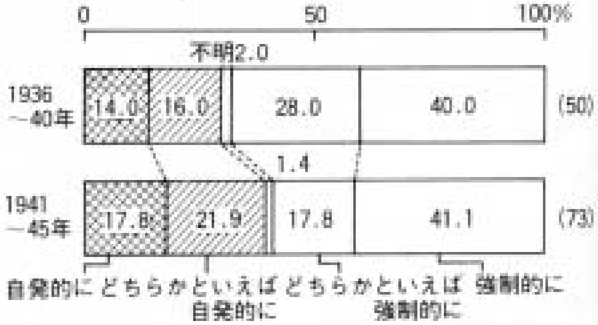
日中戦争が起こった1930年代後半と太平洋戦争が展開した1940年代前を比較すると、1930年代後半に「強制的に」渡日した人が多い。

渡日年齢別にみると、20～24才に渡日した人に「強制的に」渡日した人が多い。

〈徴用の行なわれ方〉

(N－141)

〈渡日年度別にみた徴用の行なわれ方〉



〈渡日年齢別にみた徴用の行なわれ方〉

<徴用時の契約書>

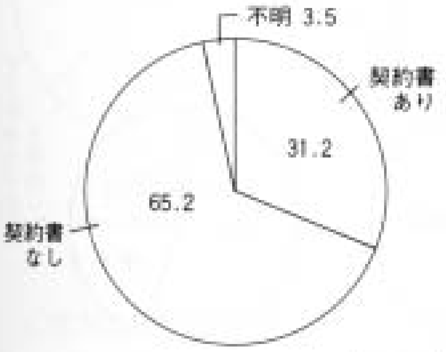
徴用時に契約書をとりかわした人は3割にすぎない。

渡日年度による差はみられない。

渡日年齢が25才以上の人に契約書をとりかわした人がやや少ない。

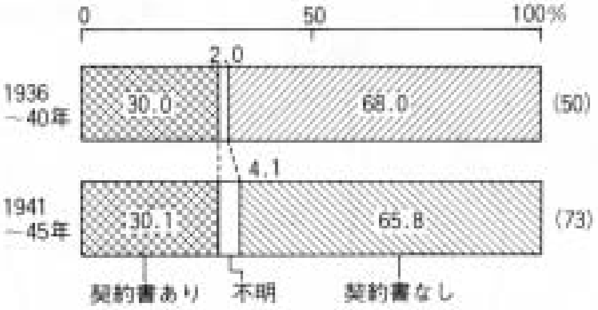
自発的に徴用を受けた人と強制的に徴用を受けた人で契約書をとりかわした割合を比べるとほとんど差はなく、徴用が強制的であるかどうかと契約書の有無との間に関係はみられない。（契約書を取りかわした人――自発的徴用：33.9%、強制的徴用：30.1%）

〈契約書の有無〉

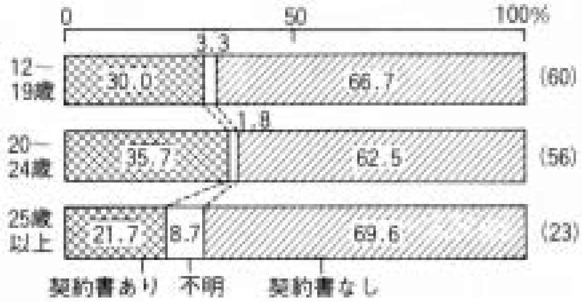


（N＝141）

〈渡日年度別にみた契約書の有無〉

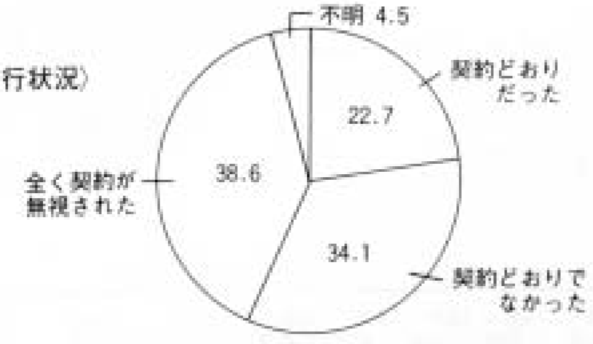


〈渡日年齢別にみた契約書の有無〉



契約書をとりかわした人（44人）にその契約が履行されたかどうかをたずねたところ、「契約どおりだった」と答えた人は22.7%にすぎず、「契約どおりでなかった」は34.1%、「全く契約が無視された」は38.6%となっている。7割以上の契約書はあまり役に立たないものであったことがわかる。

〈契約の履行状況〉



（N＝44）

⑹ 経済的理由、結婚・親族との同居、留学等による渡日の状況

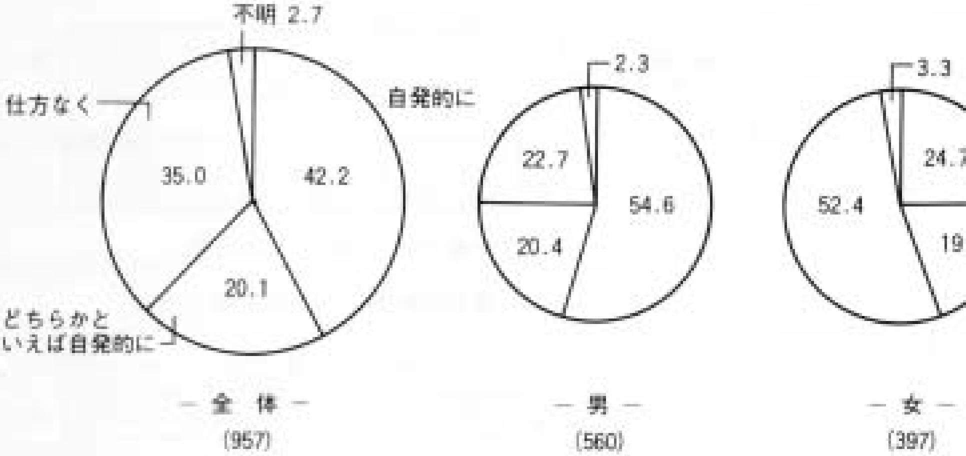
徴兵・徴用以外の経済的理由、結婚・親族との同居、留学、その他の理由により渡日した人（957人）に渡日の状況についてたずねた。

＜渡日決意の状況＞

渡日を決意したときの状況について、「自発的に」（「どちらかといえば自発的に」を含む）と答えた人は62.3％で、「仕方なく」の35.0％を大きく上回る。

「仕方なく」渡日した人は女性に多く、半数を超える。

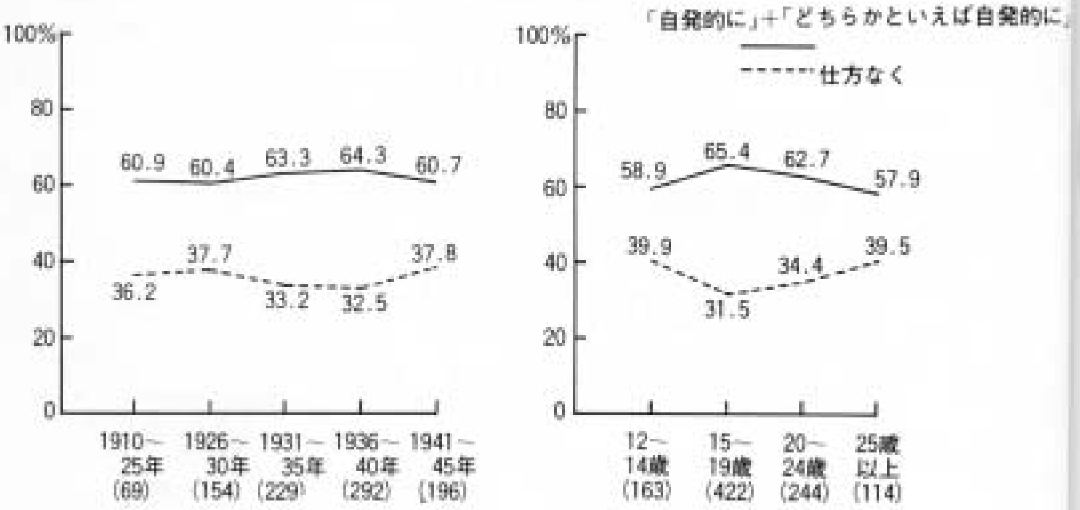
（渡日決意の状況）



渡日年度による差はほとんどみられないが、1930年代に渡日した人に「自発的に」渡日した人がやや多くなっている。

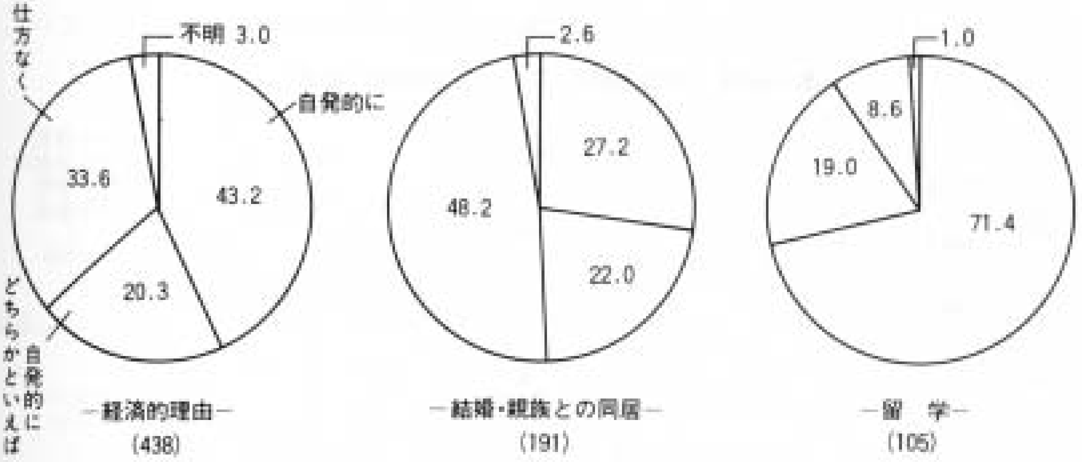
渡日年齢は、10代後半に「自発的に」渡日した人がやや多い。

（渡日年度・渡日年齢別にみた渡日決意の状況）



「自発的に」と答えた人は留学に一番多く，ほぼ9割を占める。以下，経済的理由，結婚・親族との同居の順に「自発的に」は少なくなる。結婚・親族との同居のために渡日した人の約半数は「仕方なく」渡日している。

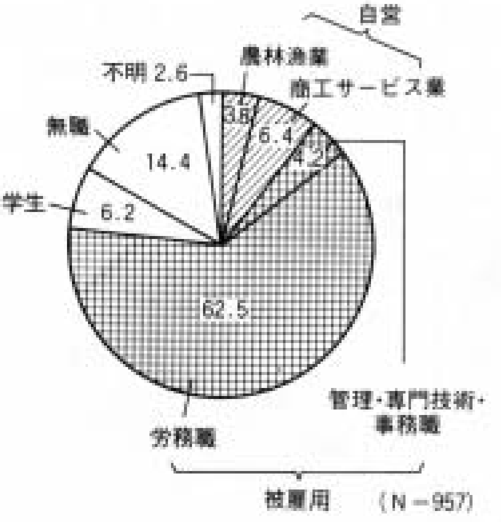
〈渡日理由別にみた渡日決意の状況〉



<渡日直後の職業>

次に，渡日直後にたずさわった仕事をたずねたところ，労務職が一番多く，62.5%を占めている。農林漁業，商工サービス業を合わせた自営はほぼ1割になる。

〈渡日直後の職業〉

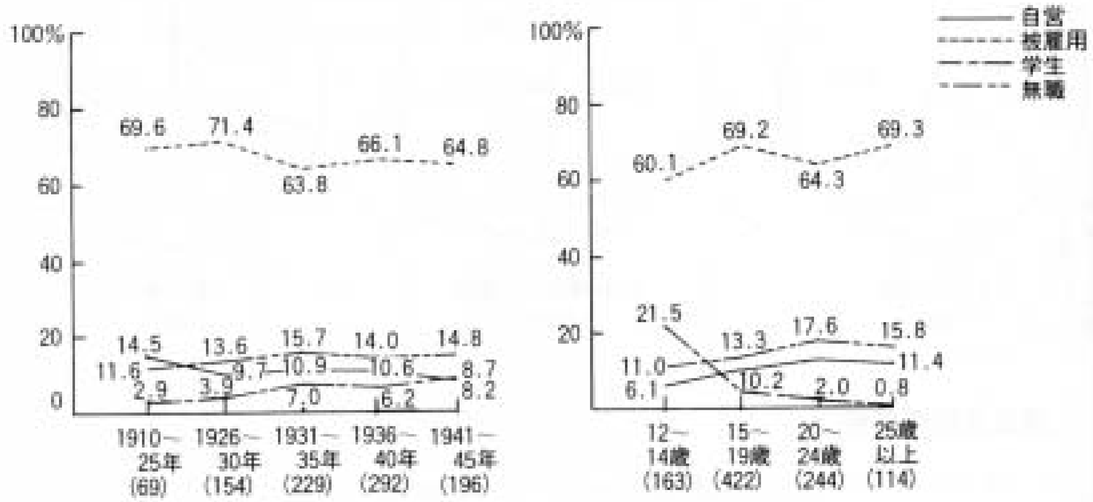


次の表は、自営（農林漁業、商工サービス業）、被雇用（管理・専門技術・事務職、労務職）、学生、無職の占める割合を渡日年度及び渡日年齢別にみたものである。

渡日年度が遅くなるほど、有職者（自営、被雇用）が少なくなり、学生及び無職者が増えるという傾向が若干みられる。被雇用の内訳をみると、1910～25年に渡日した人には他にくらべて管理・専門技術・事務職に就いた人が多い（7.2% 内訳は表に示していない）。

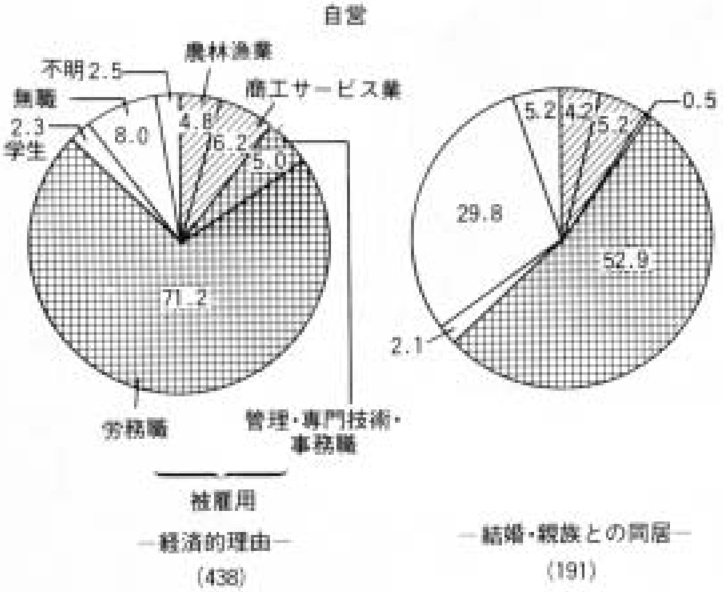
渡日年齢による差は、12～14才のごく若い頃に渡日している人に学生が多いことが目立っている。

〈渡日年度、渡日年齢別にみた渡日直後の職業〉



渡日理由別にみると、経済的理由に労務職が極めて多い。結婚・親族との同居のために渡日した人には女性が多いせいか、管理・専門技術・事務が少なく、無職が多い。留学のために渡日した人には、当然、学生が36.2%と多いが、管理・専門技術・事務職もやや多くなっている。

〈渡日理由別にみた渡日直後の職業〉

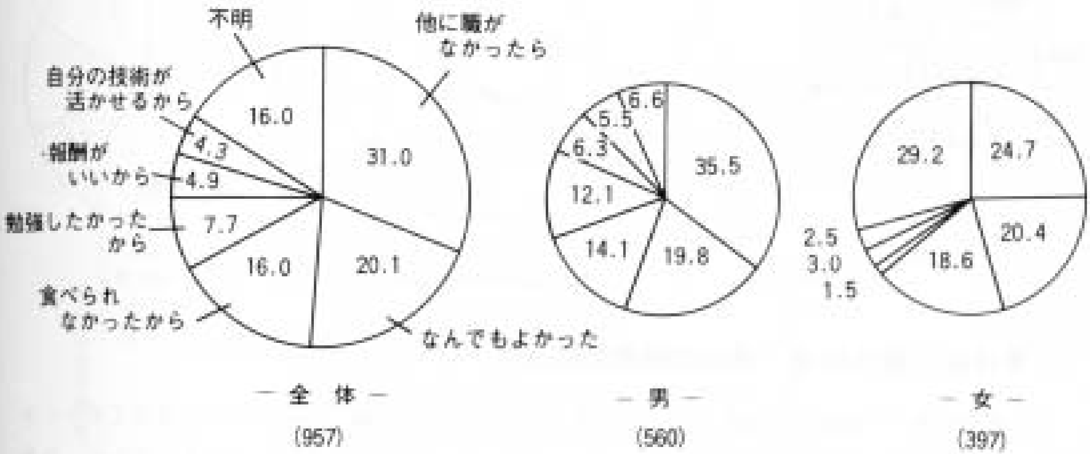


その仕事（学生及び無職も含む）を選んだ理由として、もっとも気持に近いものを選択肢の中からひとつ選んでもらった。

「他に職がなかったから」が一番多く31.0%を占める。「なんでもよかった」は20.1%、「食べられなかったから」が16.0%と、やむを得ずその職に就いた人が3分の2を占める。

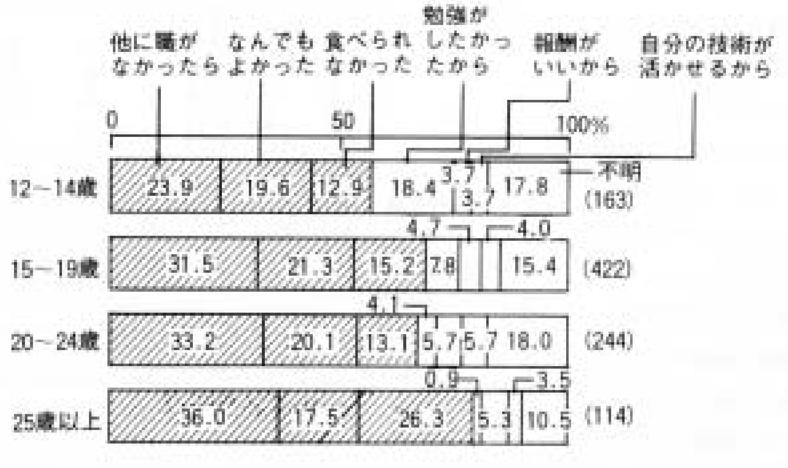
「他に職がなかったから」と「勉強したかったから」は男性に多く、「不明」は女性に多い。

〈仕事を選んだ理由〉



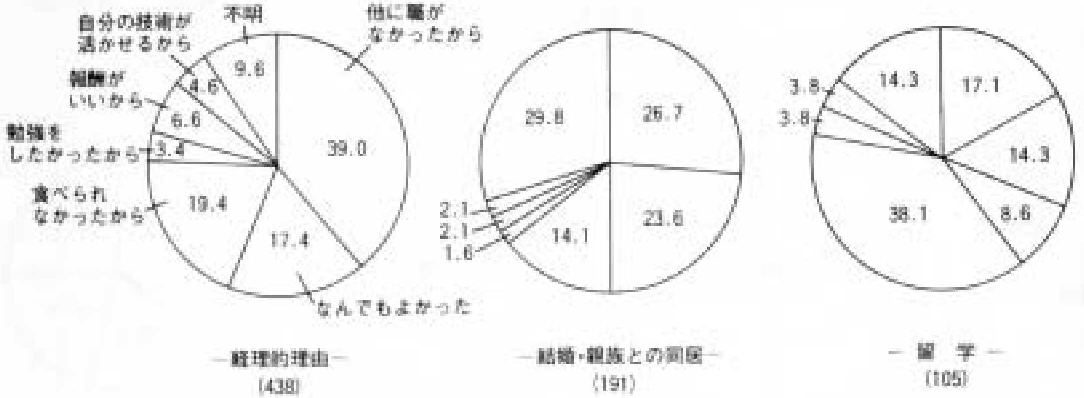
渡日年度、渡日年齢別にみても「不明」が多いため傾向がつかみにくい。ただし、渡日年齢別にみた場合、「勉強したかったから」は若い頃に渡日した人に非常に多くなっており，渡日理由で留学が若い頃に渡日した人に多かったことと同じ傾向を示している。

〈渡日年齢別にみた仕事を選んだ理由〉



渡日理由別にみると差がはっきりとしており、経済的理由で渡日した人には「他に職がなかったから」等のやむを得ずその職を選んだ人が多い。結婚・親族との同居のために渡日した人には不明が多く、「報酬がいい」等の積極的な理由が少ない。留学のために渡日した人には当然ながら「勉強したかったから」が多くなっている。

〈渡日理由別にみた仕事を選んだ理由〉



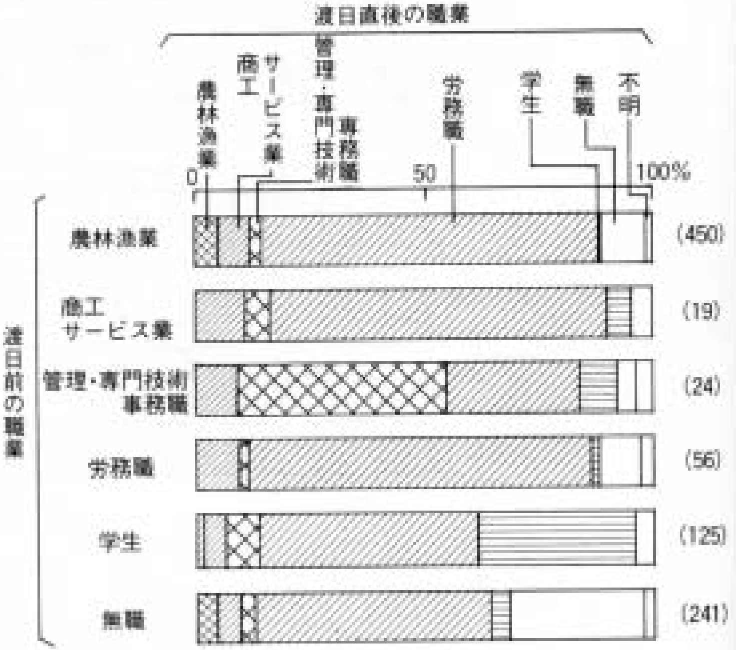
<渡日前・渡日直後・現在の職業の変化>

渡日前の本国での職業では農林漁業、渡日直後の職業では労務職、現在の職業では商工サービス業がそれぞれ際立って多くなっている。このように職業構造が激しく変化していることから、大多数の人は何回かの転職を余儀なくされたのではないかと思われる。

そこで、渡日前と渡日直後の職業の関連と、渡日直後と現在の職業の関連をみてみる。(商工サービス業と管理・専門技術職・事務職は、該当者が少く、%の数値の変動が大きいため、注意して比較を行なう必要がある。)

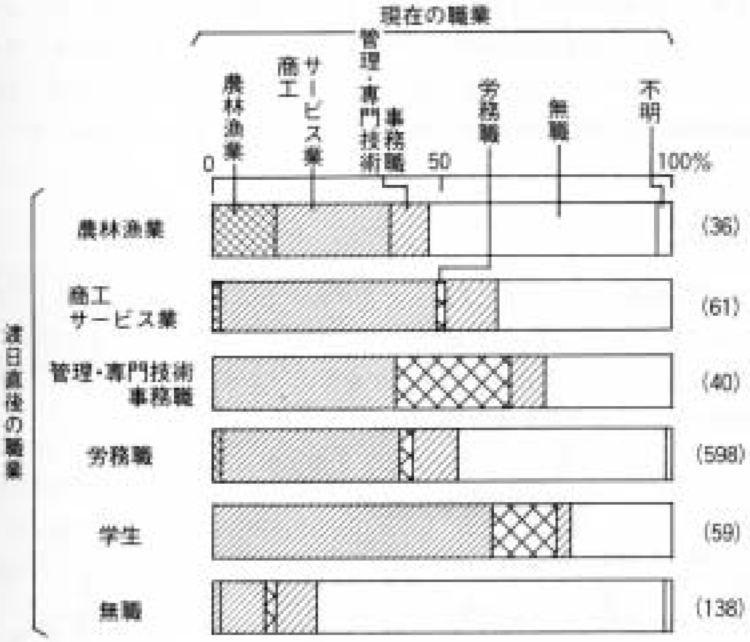
まず、渡日前と渡日直後の職業の関連についてみたものが右のグラフである。渡日直後に農林漁業にたずさわった人は、本国でも同職種であった人と無職であった人が大部分を占める。管理・専門技術・事務職、学生、無職も同職種であった人に多い。商工サービス業は渡日前の職業とほとんど関連がみられない。労務職は、管理・専門技術・事務職、学生、無職であった人に少ない。

〈渡日直後の職業〉



次に、渡日直後と現在の職業との関連についてみたものが下のグラフである。現在、農林漁業、管理・専門技術・事務職、無職である人に渡日直後も同職種であった人が多い。これは渡日前後にもみられた関連である。また、渡日直後学生であった人に、現在、管理・専門技術・事務職に就いている人が多い。

〈現在の職業〉



Ⅲ、日帝の朝鮮統治政策について

(1) 土地調査事業

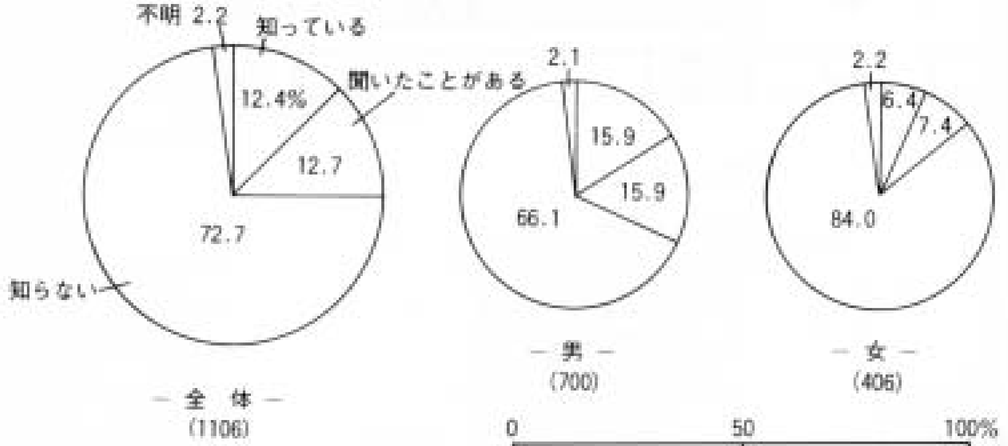
1912年、朝鮮総督府より「土地調査令」がだされ、日帝による土地調査事業が始まった。この「土地調査令」は、申告により土地所有権を認めたので、申告をしなかった人、また申告をしても土地所有の証拠をあげることのできなかった人の土地は無主地として取りあげられた。この「土地調査事業」によって、近代法の経験や知識のない当時の農民は多くの土地を奪われ、没落していったといわれている。

＜土地調査事業の周知＞

「日帝が行なった『土地調査事業』をご存知ですか」とたずねたところ、「知っている」「聞いたことがある」と答えた人は4分の1（25.1%）であり、「知らない」と答えた人の方がはるかに多い。一世の半数近くが農民であったことを思うと周知度がやや低いように感じられるが、「土地調査事業」という言葉が理解されにくかったかも知れない。

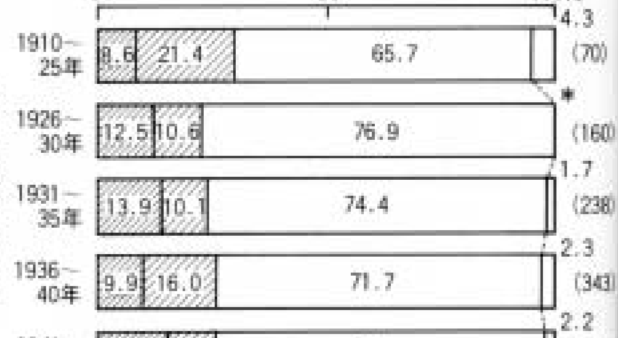
「土地調査事業」を「知っている」「聞いたことがある」と答えた人は男性に多い。

〈土地調査事業の周知〉



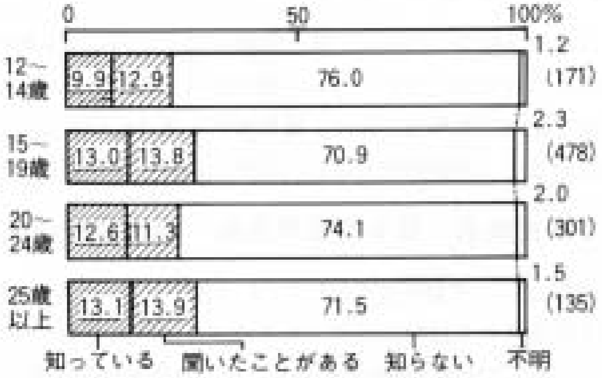
渡日年度では、1910年～25年の早い時期に渡日した人に「聞いたことがある」が多くなっている。「土地調査令」がだされたのは1912年であり、当時渡日した人に「土地調査事業」の周知度が高いことがうなずける。

〈渡日年度別にみた渡日に対する気持ち〉



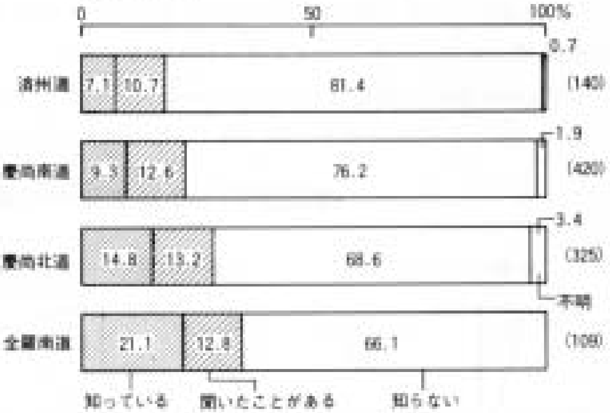
渡日年齢では差が小さく傾向は定まらない。

〈渡日年齢別にみた土地調査事業の周知〉



出生地により、かなりの差がみられる。済州島、慶尚南道、慶尚北道、全羅南道の順に「知っている」「聞いたことがある」と答えた人が多くなる。他の地域については該当者数が小さいので比較を行なわないが、「土地調査事業」を実施するにあたって何らかの地域差があったのではないかと思われる。

〈出生地別にみた土地調査事業の周知〉

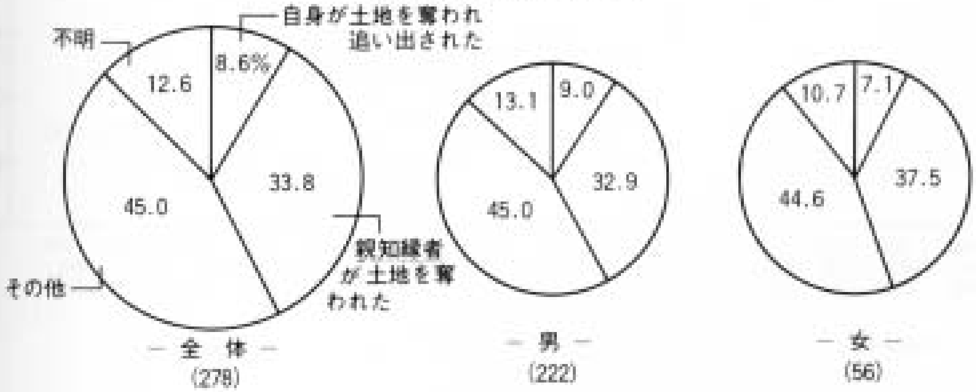


＜土地調査事業の体験＞

「土地調査事業」を「知っている」「聞いたことがある」と答えた人（278人）に「どのような体験をされましたか」とたずね、３つの回答肢の中からひとつを選んでもらった。

「自分が土地を奪われ追い出された」という直接の被害を受けた人は8.6％であり、「親知縁者が土地を奪われた」は33.8％である。これらの「土地を奪われる」という事実を目の当たりにした人は、合わせて４割を超えている。性別による差はほとんどみられない。

〈土地調査事業の体験〉



⑵ 創氏改名・日本語使用強制・神社参拝

日中戦争勃発（1936年）後、内鮮一体を目的とする種々の政策がとられた。そのひとつが朝鮮人の姓名を日本式に改めるという創氏改名であり、1940年には改名を強制するに至っている。また、日帝は朝鮮に協和会を設け、協和事業を推進した。これは朝鮮人の皇民化をはかるための組織的な教育政策で、韓国語使用禁止・日本語強制・神社参拝の強要といったことが行なわれた。

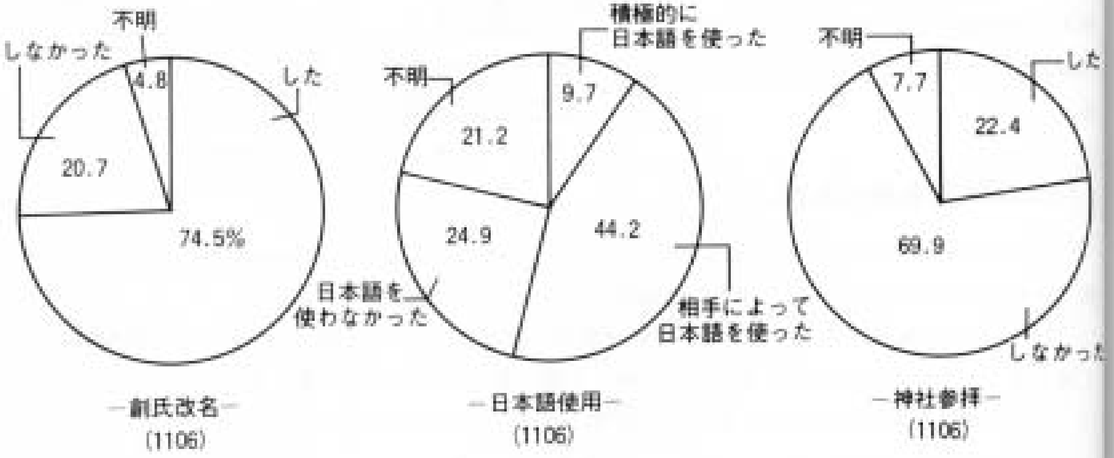
＜創氏改名・日本語使用強制・神社参拝の実施状況＞

「日帝によって創氏改名が行なわれましたが、あなたは行ないましたか」とたずねたところ、創氏改名を行なった人は74.5%で、4人に3人は改名を行なっている。

「日帝により韓国語使用が禁止され日本語使用が強制されたとき、あなたはどのようにされましたか」とたずねたところ、「積極的に日本語を使った」「相手によって日本語を使った」はそれぞれ9.7%、44.2%で、日本語を使用した人は合わせて半数を超える。「不明」が多いが、この中には韓国語使用禁止を知らなかった人も含まれている。

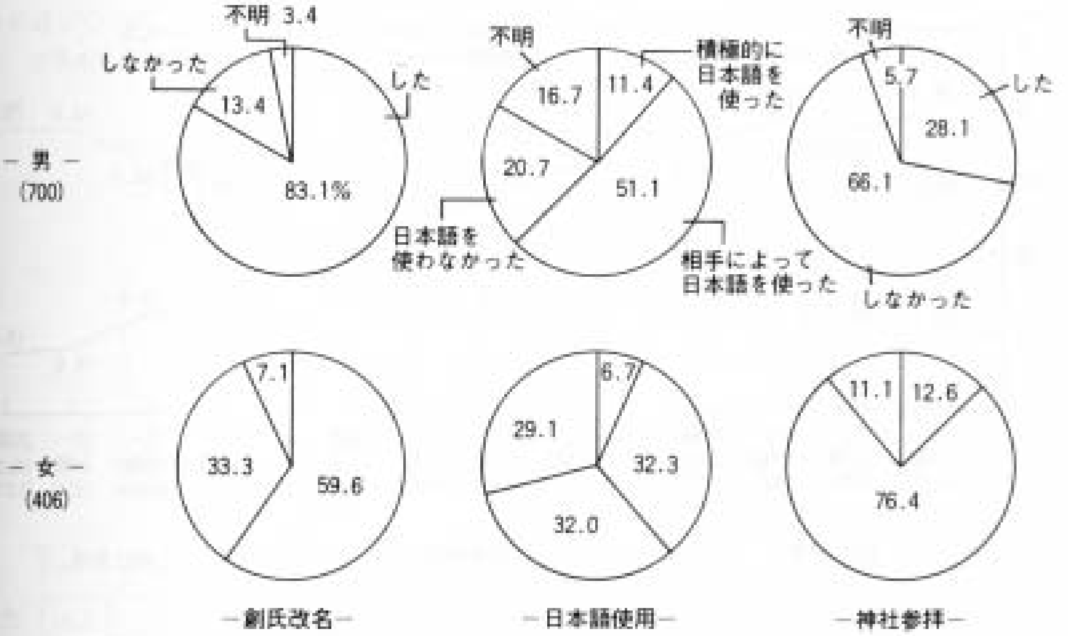
「日帝は神社参拝を強要しましたが、あなたは行ないましたか」とたずねたところ、神社参拝をした人は22.2%、しなかった人は69.9%で、しなかった人の方がかなり多い。

〈創氏改名・日本語使用・神社参拝の実施状況〉



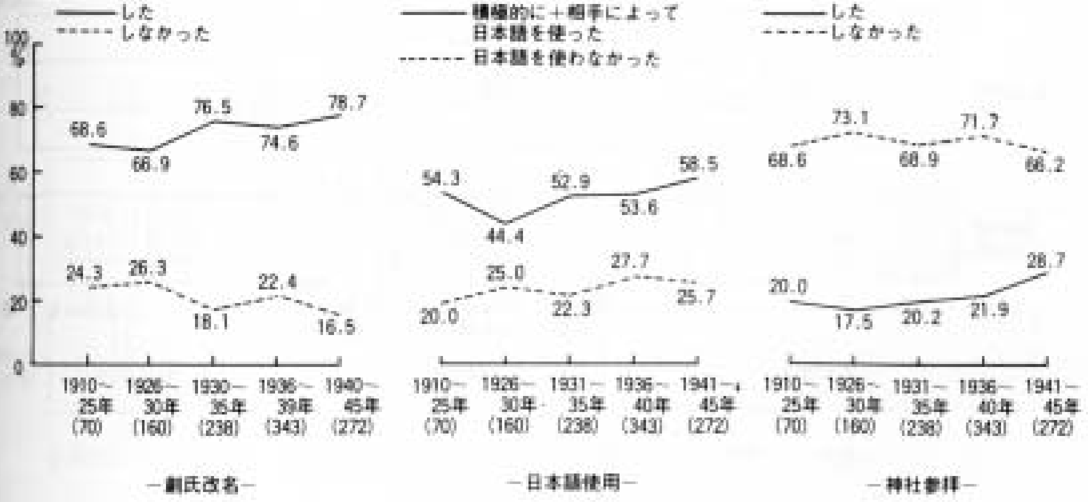
創氏改名、日本語使用強制、神社参拝のいずれにおいても行なっている人は男性に多く、朝鮮統治政策の影響は男性に強くみられる。

〈性別にみた実施状況〉



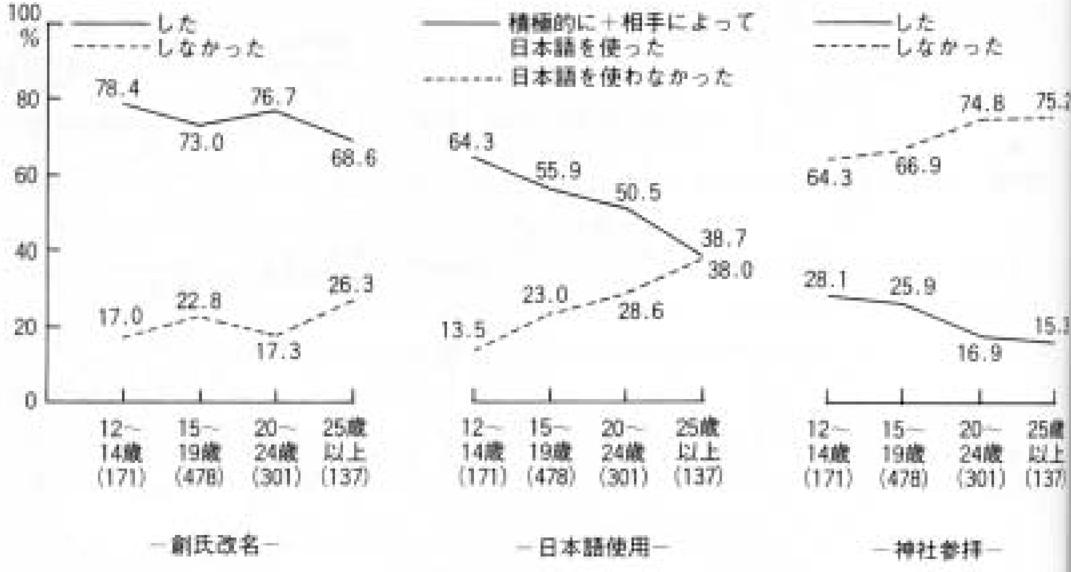
渡日年度別にみると、創氏改名において、1931年以後に渡日している人に改名している人が多くなっているという傾向がみられるが、日本語使用強制、神社参拝はいずれもはっきりとした傾向がみられない。

〈渡日年度別にみた実施状況〉



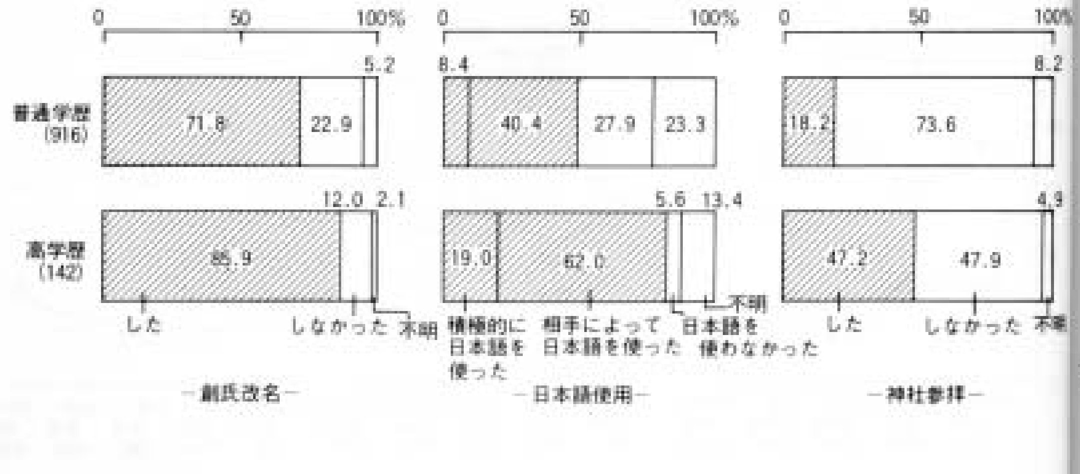
渡日年齢は創氏改名、日本語使用強制、神社参拝のいずれにおいても若いほど行なっている人が多い。若くして渡日した人ほど朝鮮統治政策の影響が強くみられるといえよう。

〈渡日年齢別にみた実施状況〉



最終学歴（本国における最終学歴と日本における最終学歴をあわせたもの）が高等小学校以下の人を普通学歴（82.8%の人がこれに該当する）旧制中学以上の人を高学歴とすると、創氏改名、日本語使用強制、神社参拝のいずれにおいても高学歴の人の方が行なっている人が多く、朝鮮統治政策の影響が強くみられる。

〈最終学歴別にみた実施状況〉

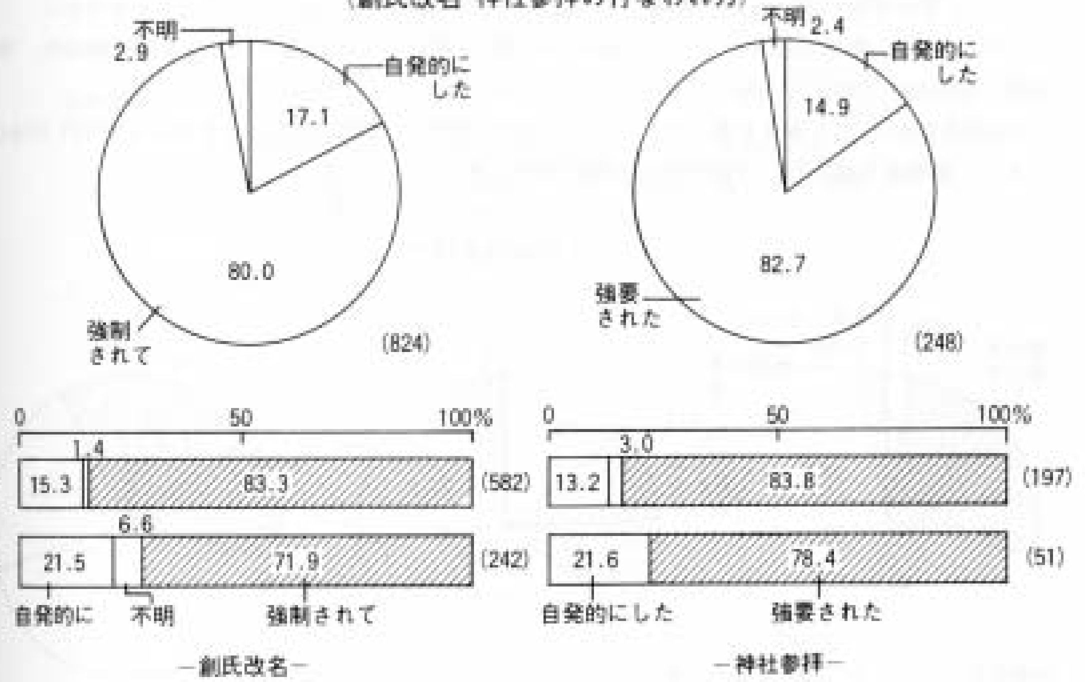


＜創氏改名・神社参拝の行なわれ方＞

創氏改名を行なった人（824人）と神社参拝をした人（248人）に「どのように行ないましたか」のたずねたところ、「強制されて」「強要されて」行なった人はそれぞれ80.0%、82.7%で、8割に達している。

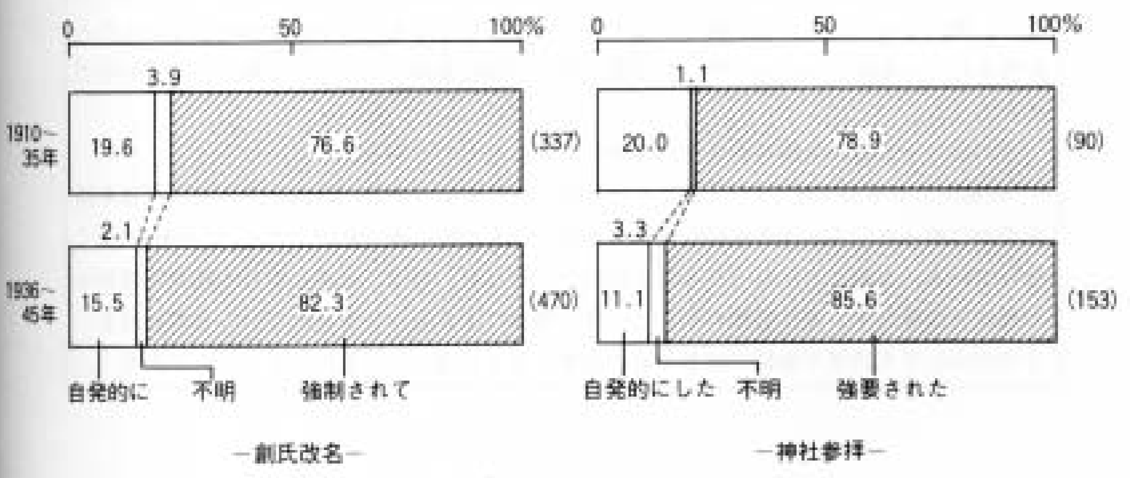
どちらも「自発的に」行なった人は女性にやや多くなっている。

〈創氏改名・神社参拝の行なわれ方〉



渡日年度を日中戦争勃発前（1910-35年）と日中戦争勃発後（1936-45年）にわけて比較をすると、日中戦争後の方に「強制されて」「強要されて」行なった人が多くなる。

〈渡日年度別にみた創氏改名・神社参拝の行なわれ方〉



<その時の気持ち>

創氏改名を行なった人(824人)、日本語を使用したかどうかがはっきりしている人、(「不明」を除く871人)、神社参拝をした人(248人)に、それぞれにその時どのような気持ちであったかをたずね、選択肢の中から最も気持ちに近いものをひとつ選んでもらった。

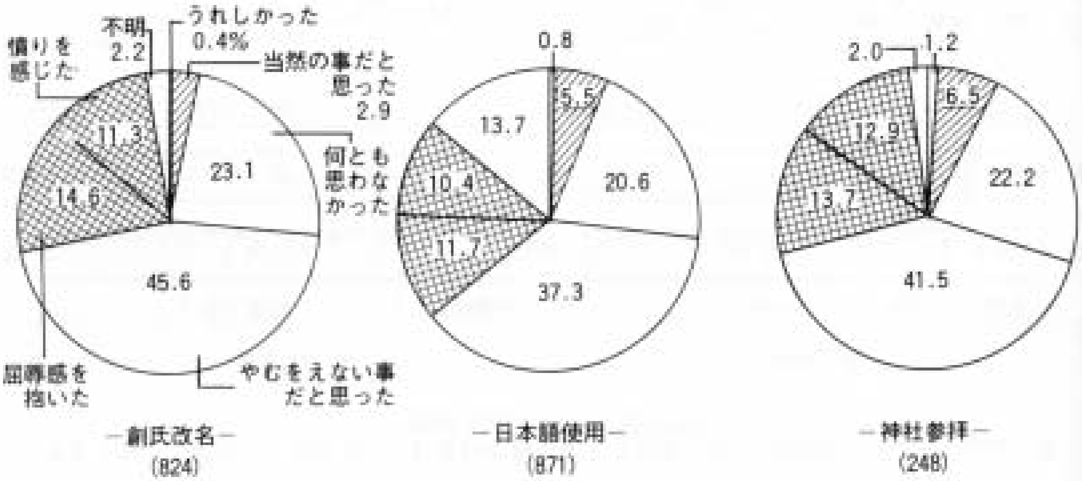
「うれしかった」「当然の事だと思った」という肯定的な気持ちを持った人はいずれもわずかで、特に創氏改名に少ない。

「何とも思わなかった」という無関心な人はいずれも2割前後いる。

「やむをえない事だと思った」という諦めの気持ちを抱いた人が一番多い。日本語使用強制、神社参拝、創氏改名の順に37.3%、41.5%、45.6%と多くなる。

「屈辱感を抱いた」「憤りを感じた」という否定的な気持ちを持った人はいずれも4分の1前後になる。「屈辱感を抱いた」は創氏改名と神社参拝に多くなっている。

〈その時の気持ち〉

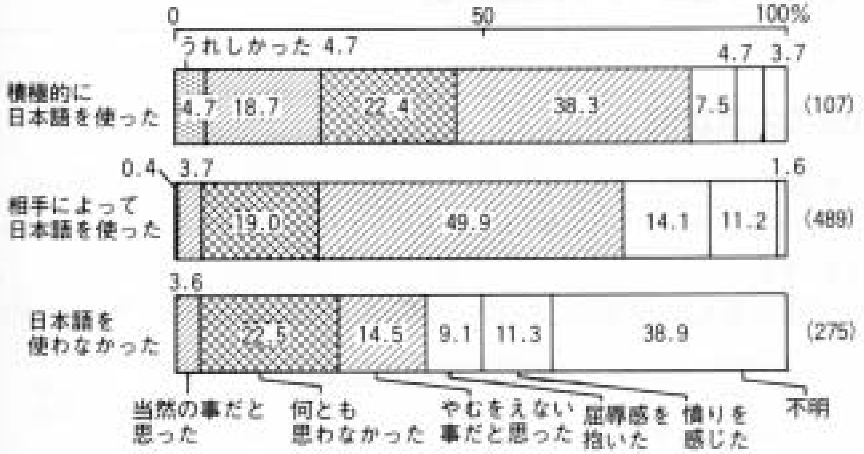


※ここでひとつ注意しておきたいことは、日本語使用強制だけは日本語を使った人だけでなく、使わなかった人にも気持ちをたずねていることである。日本語を使用しなかった人が含まれているにもかかわらず、なぜ創氏改名や神社参拝と同じような結果がでているのであろうか。

下の表はその時の気持ちを日本語使用の別でみたものである。

「積極的に日本語を使った」人にはやはり肯定的な気持ちを持った人が多いが、「日本語を使わなかった」人には否定的な気持ちを持った人が特に多いわけでなく、「不明」が多くなっている。このことから「日本語を使用しなかった」のは、必ずしも日本語使用強制への抵抗とは限らず、使う必要がなかった等の理由による場合も含まれていると思われる。このために日本語使用強制の結果が他の結果とあまり違わないものとなったのであろう。

〈日本語使用の別にみた日本語使用の気持ち〉



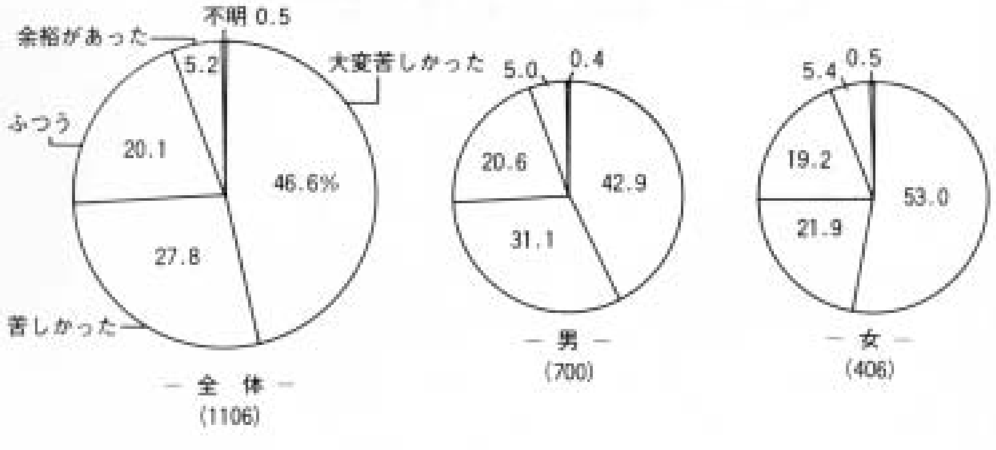
Ⅳ、渡日当時の生活

(1) 渡日当時の生活状況

「渡日当時、生活はいかがでしたか」とたずねたところ、「大変苦しかった」は46.6%、「苦しかった」は27.8%おり、7割以上の人は苦しい生活を送っていたことがわかる。「余裕があった」人は5.2%にすぎない。

「大変苦しかった」と答えた人は女性に多いが、「苦しかった」を合わせると男女差はなくなる。

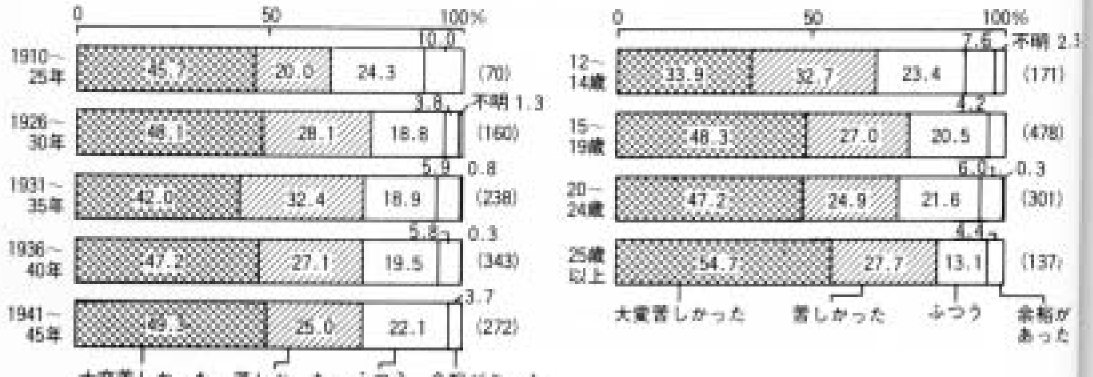
〈渡日当時の生活状況〉



1910〜25年に渡日している人に「苦しかった」と答えた人がやや少ないほかには、渡日年度による差はみられない。

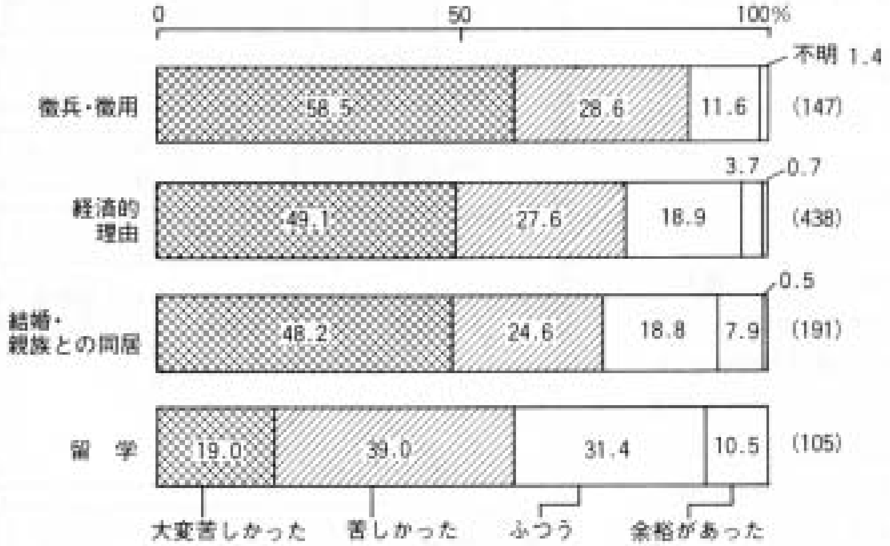
渡日年齢が高くなるほど、苦しい生活を送った人が多くなる傾向がみられる。

〈渡日年度・渡日年齢別にみた渡日当時の生活状況〉



渡日理由別にみると、徴兵・徴用により渡日した人には苦しい生活を送った人が多いことがわかる。一方、留学のために渡日した人には余裕があった人が多い。

〈渡日理由別にみた渡日直後の生活状況〉



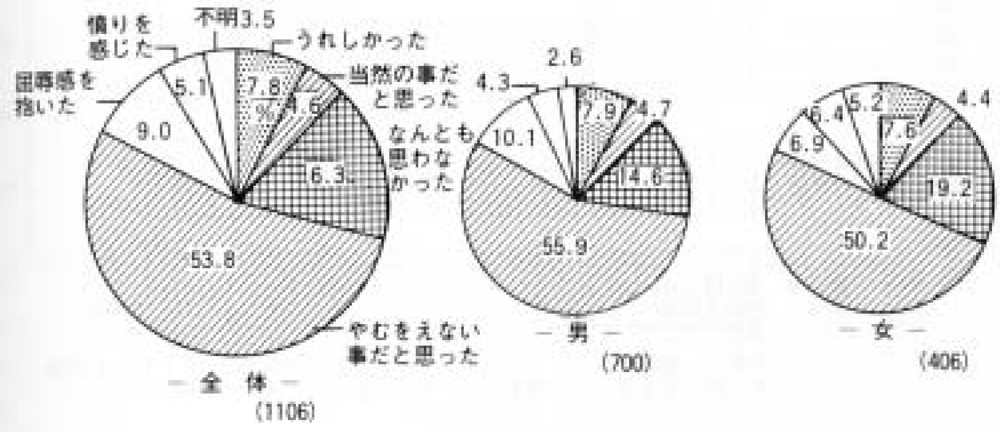
(2) 渡日に対する気持ち

「日本で生活することになったことをどう思われましたか」とたずね、選択肢の中からもっとも気持ちに近いものを選んでもらった。

「やむをえない事だと思った」という諦めの気持ちを持った人が53.8%で、過半数を占める。「なんとも思わなかった」が次いで多い。「うれしかった」「当然の事だと思った」という肯定的な気持ちを持った人や「屈辱感を抱いた」「憤りを感じた」という否定的な気持ちを持った人もそれぞれ1割あまりいる。

男性には「やむをえない事だと思った」「屈辱感を抱いた」が多く、女性には「なんとも思わなかった」が多い。

〈渡日に対する気持ち〉

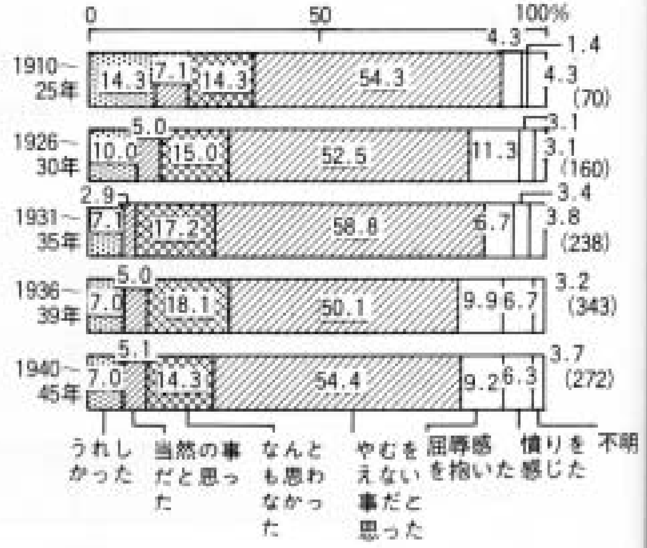


渡日年度別にみると、1930年以後になると、「うれしかった」が少なくなり、「屈辱感を抱いた」や「憤りを感じた」が多くなる。

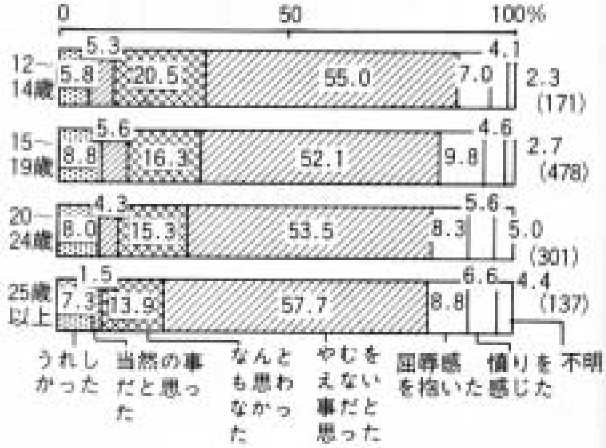
渡日年齢が高くなるほど「当然の事だと思った」や「なんとも思わなかった」が少なくなり、屈辱感や憤りを感じた人が多くなる。

渡日理由別にみると、徴兵・徴用により渡日した人に「屈辱感を抱いた」「憤りを感じた」人が多いことが目立っている。経済的理由のため渡日した人には「うれしかった」が多く、新しい生活に希望を持っていた人が1割近くいる。結婚・親族との同居のため渡日した人には「何も感じなかった」と「憤りを感じた」が多い。「何も感じなかった」が多いのは女性が多いためであろう。留学のため渡日した人にも「何も感じなかった」が多い。

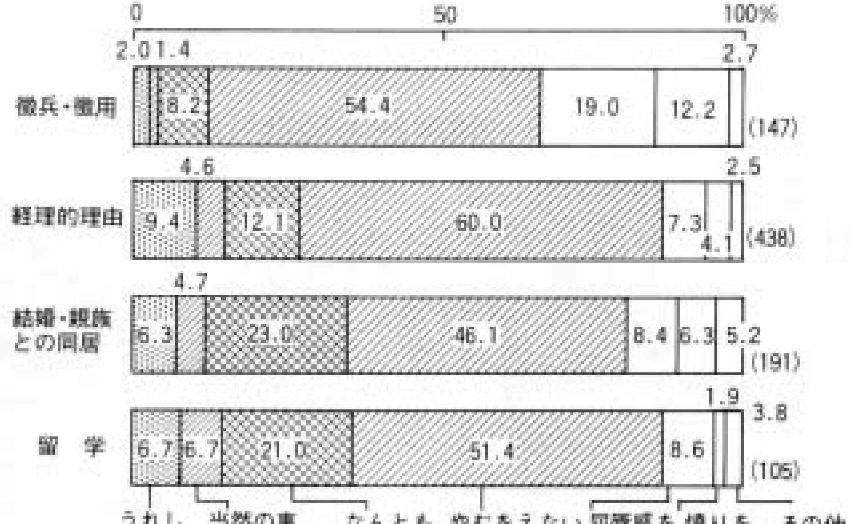
〈渡日理由別にみた渡日に対する気持ち〉



〈渡日年齢別にみた渡日に対する気持ち〉



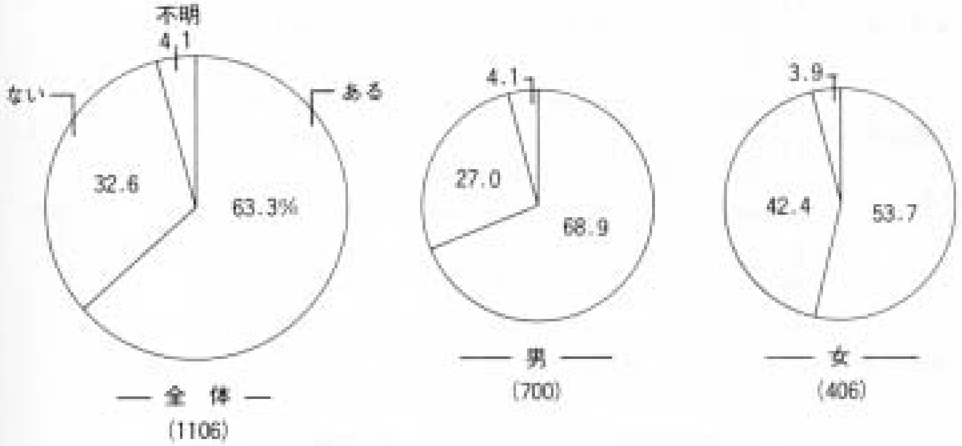
〈渡日理由別にみた帰国の意志〉



(3) 差別体験

「当時、あなたは差別体験がありますか」とたずねたところ、差別体験がある人は63.3%いる。差別体験のある人は、男性に多い。

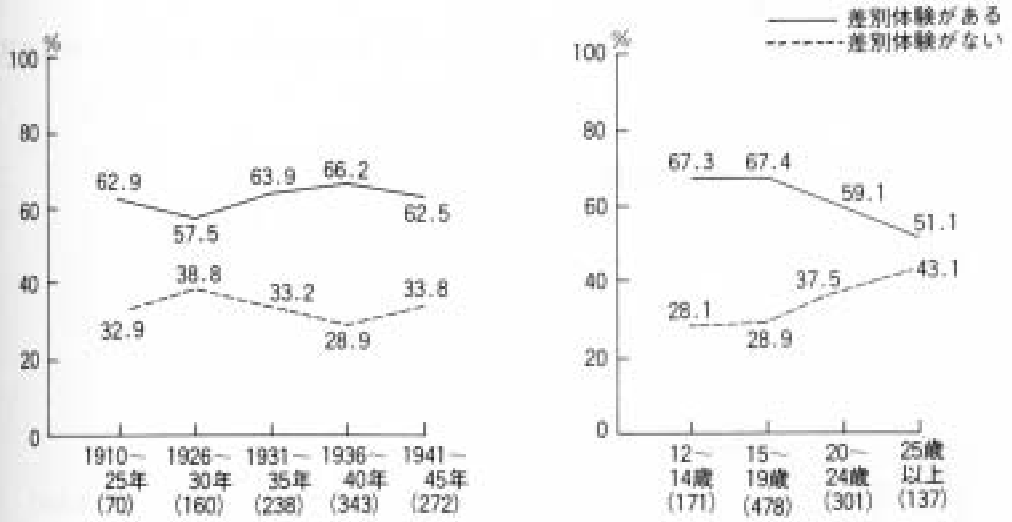
〈差別体験の有無〉



1920年代後半に渡日した人に差別体験のある人がやや少ない。

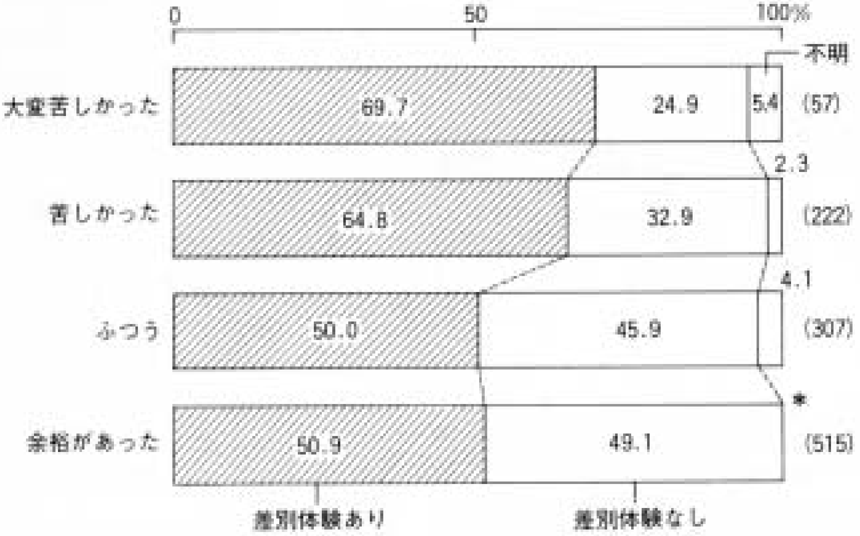
渡日年齢別にみると20才をすぎてから渡日した人には差別体験が少なくなるというはっきりとした傾向がみられる。若い人ほど差別の対象となりやすかったことがわかる。

〈渡日年度・渡日年齢別にみた差別体験の有無〉



渡日当時の生活が苦しかった人には差別体験のあった人が多くなっている。しかし、生活に「余裕があった」人と「ふつう」の人の間には差がみられず、生活に余裕があっても差別の対象とされる事に変わりはなかったようである。

〈当時の生活状況別にみた差別体験の有無〉

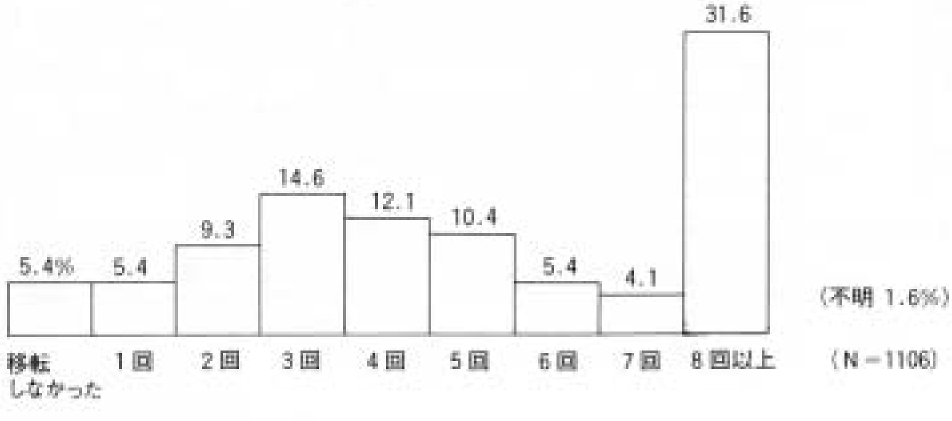


(4) 移転経験

渡日後の生活は、経済的にも精神的にもかなり苦しい状況であったことが想像されるが、それは移転回数の多さによっても裏づけられる。

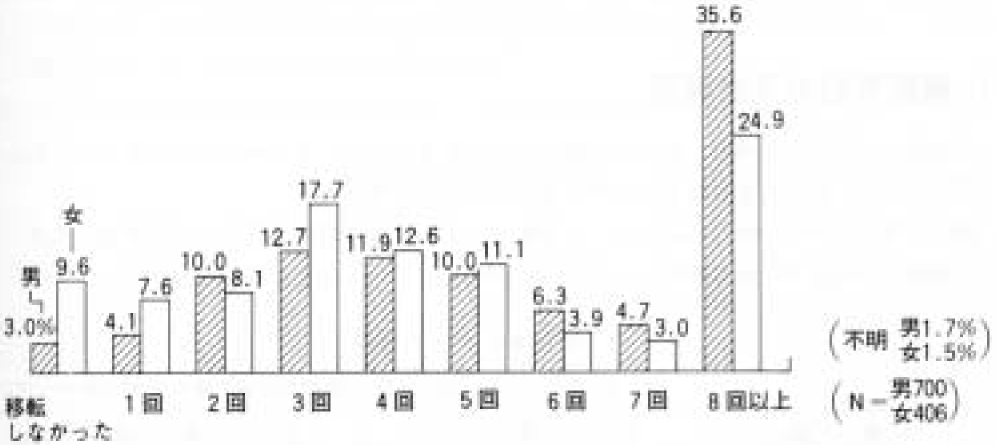
「あなたは渡日から現在までに何回位移転しましたか」とたずねたところ、8回以上も移転経験がある人が3割以上いる。

〈移転の回数〉



男性の方が移転回数が多い。男性の３人に１人は８回以上の移転を経験している。

〈性別にみた移転回数〉



V、解放後の生活

(1) 解放をむかえた場所

愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県で解放（1945年８月15日）をむかえた人が多い。これらの県は大都市を抱え、現在も在日韓国人一世が多いと思われる県である。

調査対象者の居住分布（回収分布）と比較をすると、東京都と福岡県において差が大きく、これらの都県では解放後に在日韓国人一世の人口が増加していることが予想される。

〈解放をむかえた場所〉

() 内は今回の調査対象者の居住分布を表わしている。

	県　名	%		県　名	%		県　名	%
	北海道	0.9 (0.9)		愛　知	8.6 (10.2)	四	高　知	0.3 (0.4)
東	青　森	0.3 (−)	中	岐　阜	1.5 (1.3)	国	徳　島	0.3 (0.4)
	山　形	0.5 (0.5)		三　重	2.4 (2.9)		福　岡	10.9 (15.5)
	岩　手	0.1 (−)		石　川	0.4 (−)		長　崎	1.4 (1.4)
	秋　田	0.5 (0.5)	北	福　井	0.5 (−)	九	佐　賀	1.3 (0.3)
北	宮　城	0.3 (−)		富　山	0.7 (0.9)		大　分	0.6 (−)
	福　島	0.6 (0.4)		大　阪	11.7 (11.6)		宮　崎	0.6 (0.4)
	東　京	5.4 (10.3)	近	兵　庫	9.0 (10.2)	州	熊　本	0.8 (−)
	神奈川	1.8 (1.4)		京　都	3.2 (4.1)		鹿児島	0.1 (0.5)
関	千　葉	1.6 (2.4)		奈　良	0.8 (1.4)		沖　縄	0.4 (−)
	山　梨	0.7 (−)	畿	滋　賀	0.5 (1.2)		韓　国	0.8
	栃　木	0.3 (−)		和歌山	0.9 (1.1)		其他の外国	0.4
	茨　城	0.7 (0.9)		広　島	5.2 (4.1)		不　明	7.8
	埼　玉	0.5 (−)	中	岡　山	2.3 (1.8)		計	100.0 (100.0)
	西東京	1.5 (3.4)		鳥　取	1.5 (1.3)			
	群　馬	0.2 (0.2)	国	島　根	1.4 (0.6)			
東	静　岡	0.8 (1.1)		山　口	4.8 (4.7)			
	長　野	1.7 (1.9)	四	香　川	0.3 (0.3)			
	新　潟	0.3 (−)	国	愛　媛	0.3 (−)			

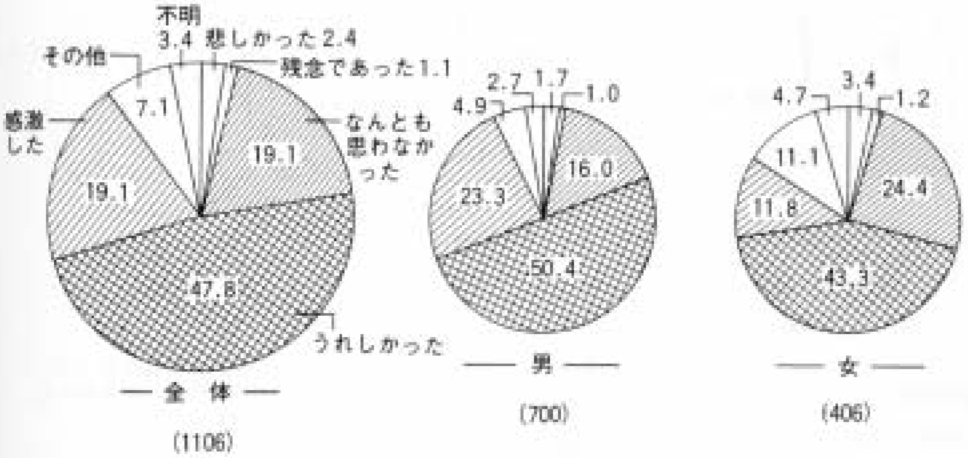
176010

(2) 解放を迎えた気持ち

解放を「どのような気持ちで迎えましたか」とたずねたところ、「うれしかった」が47.8%で一番多く、「感激した」の19.1%と合わせると解放に喜びを感じた人は3分の2を占める。「悲しかった」「残念であった」と答えた人はわずかである。

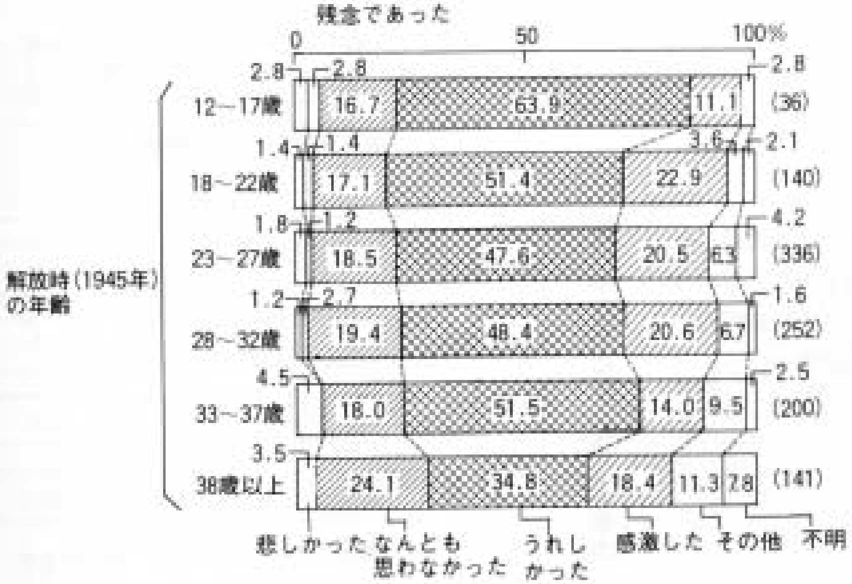
女性には喜びを感じた人が男性よりも少なく、「何とも思わなかった」人が多い。

〈解放を迎えた気持ち〉



解放当時12－17才であった人には「感激した」がやや少なく、「うれしかった」が多くなっている。年齢が高くなるほど喜びを感じた人は少なくなる一方で「その他」が多くなり、喜びや悲しみでは説明のできない解放の受けとめ方が多くなる。

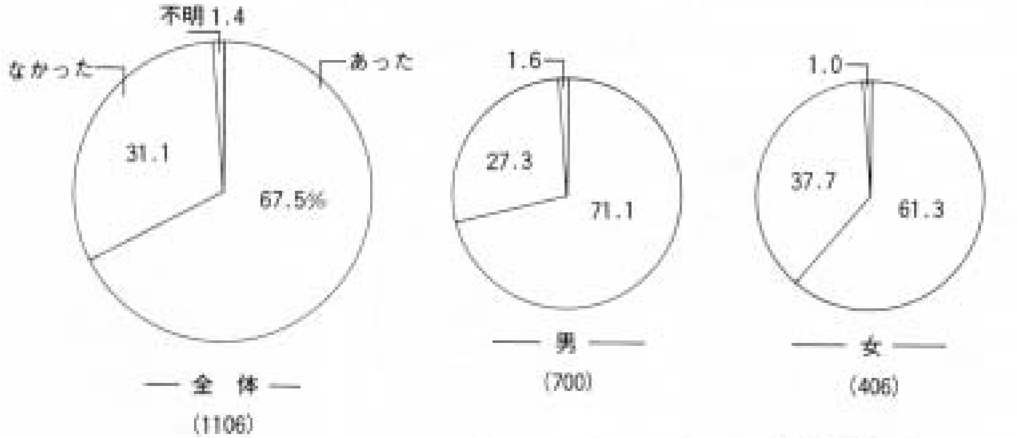
〈年齢別にみた解放を迎えた気持ち〉



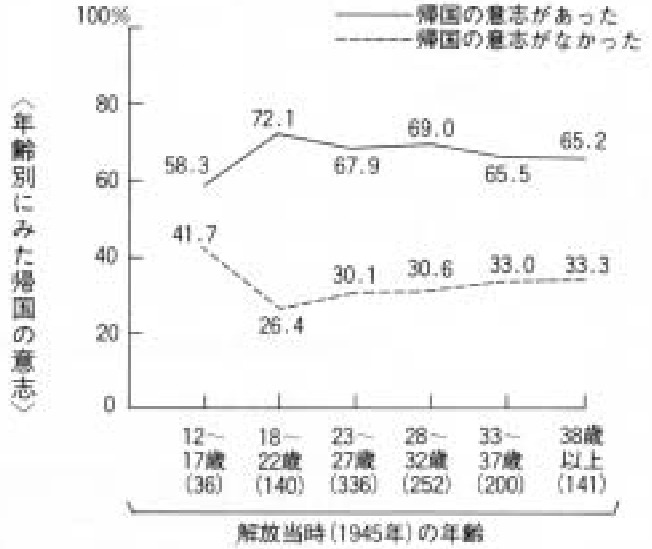
(3) 解放後の帰国の意志

「解放後帰国の意志はありましたか」とたずねたところ、帰国の意志があった人は67.5%で、3人に2人いる。帰国の意志があった人は男性に多い。

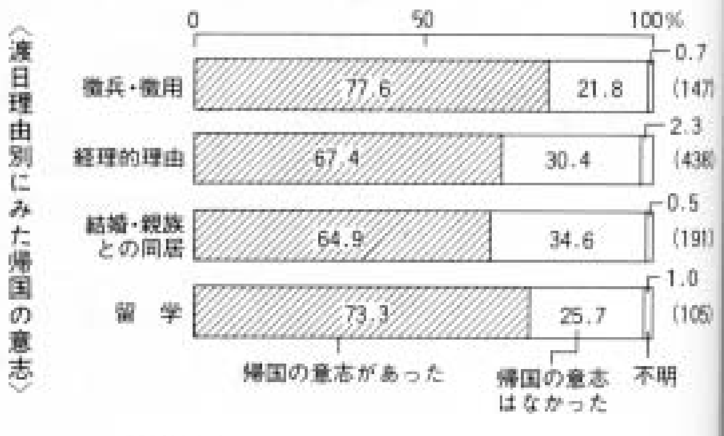
〈解放後の帰国の意思〉



解放当時12～17才であった人には帰国の意志があった人がやや少ないが、18才以上になると多くなる。



渡日理由別では、徴兵・徴用により渡日した人と留学のために渡日した人に帰国の意志があった人が多い。

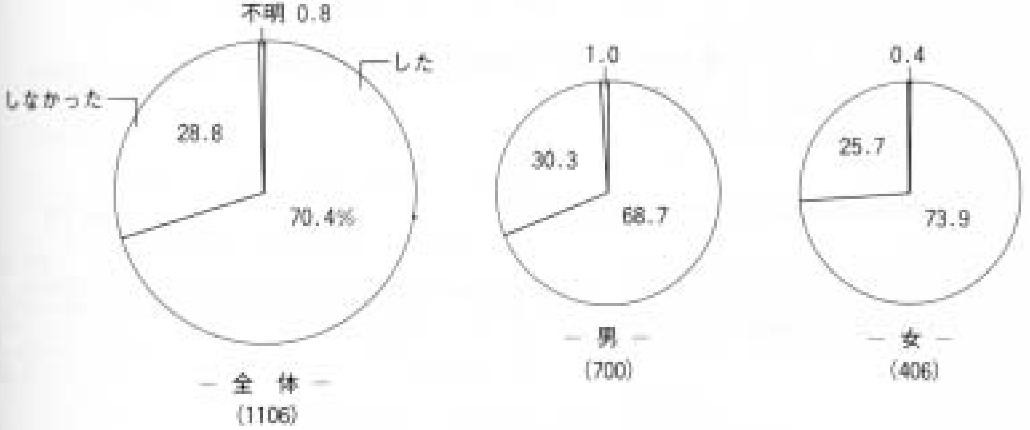


<帰国の準備>

帰国の意志があった人（747人）に「帰国の為に具体的な準備をしましたか」とたずねたところ、7割（70.4%）の人は準備をしている。

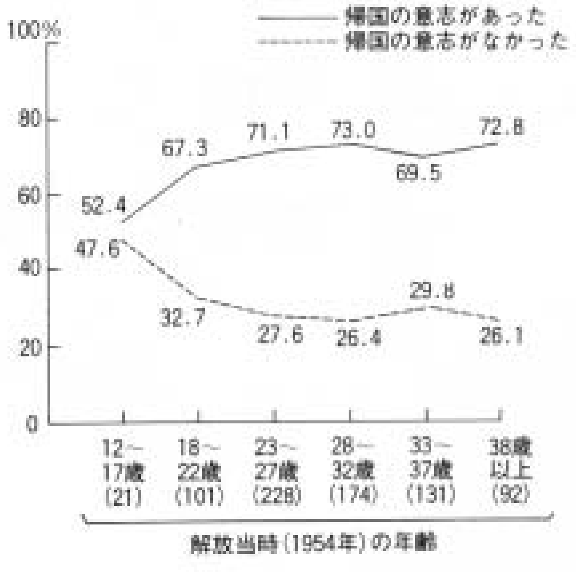
帰国の準備をした人は女性に多い。

〈帰国の準備をしたか〉



該当者数が小さいのではっきりとは言えないが、解放当時12～17才の人に帰国の準備をしなかった人が多い。解放の意志のあった人12～17才の人に少ない事から、解放を極めて若い頃にむかえた人には、帰国の意志が弱かったように思われる。

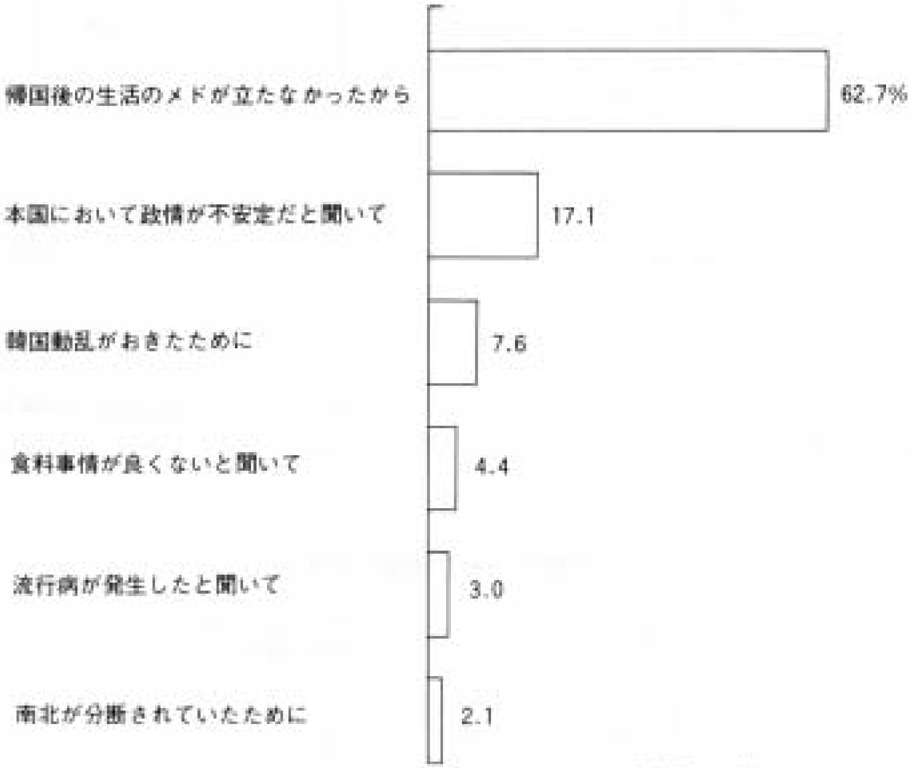
〈年齢別にみた帰国の準備〉



帰国の準備をした人（526人）に「具体的な準備をしながら帰国しなかった理由はなんですか」とたずね、選択肢の中からあてはまるものをいくつでも選んでもらった。

「帰国後の生活のメドが立たなかったから」と答えた人が一番多く、62.7%いる。「本国において政情が不安定だと聞いて」は17.1%、以下「韓国動乱がおきたために」「食料事情が良くないと聞いて」「流行病が発生したと聞いて」「南北が分断されていたために」と続いている。帰国を妨げた要因は、政治的なものよりも、経済的なものの方が大きかったといえよう。尚、半島南部の出身者が多いせいか、「南北分断」はほとんど帰国の妨げとはならなかったようである。

（準備をしていながら帰国をしなかった理由）

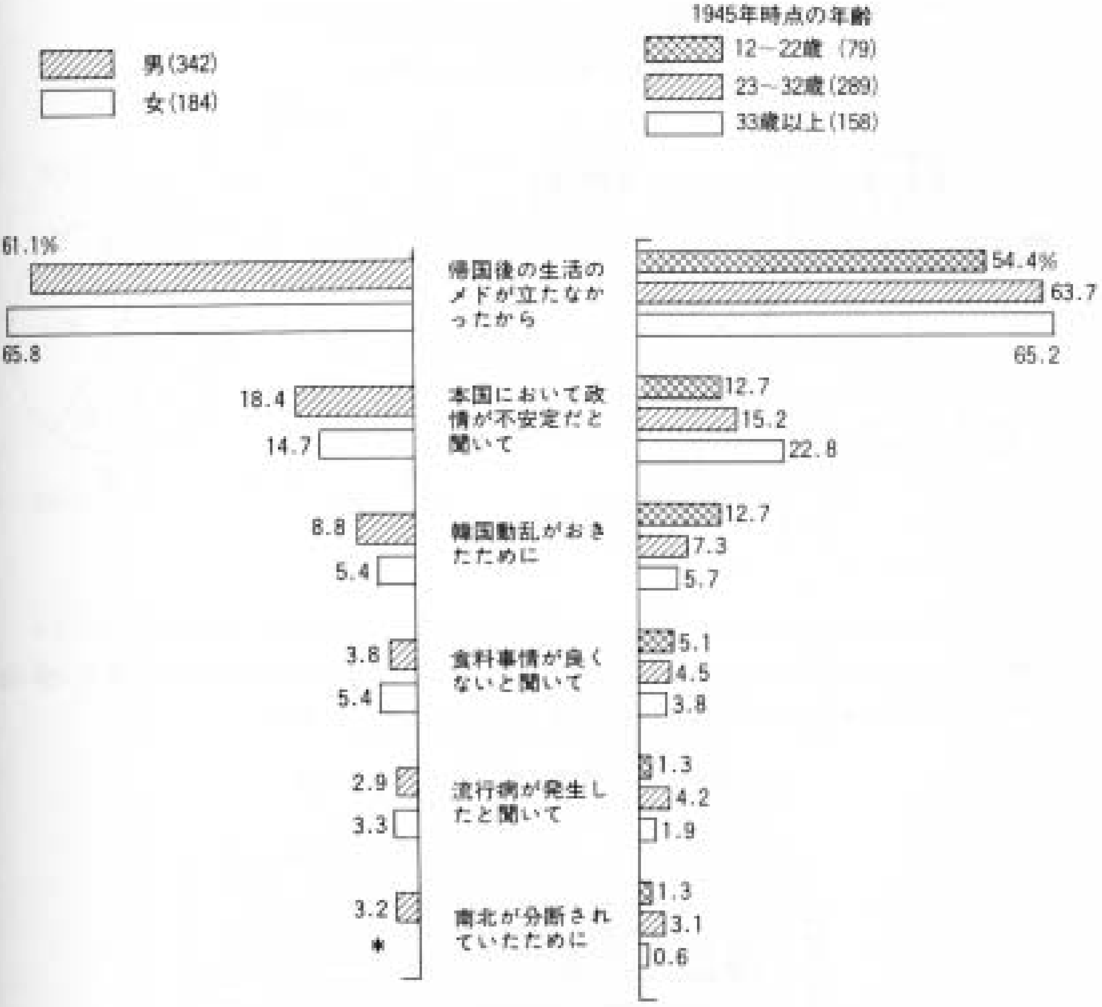


（不明20.2%）
（複数回答率117.1%）
（N＝526）

「生活のメドが立たなかった」という経済的な理由は女性に、「政情が不安定」「韓国動乱」といった政治的な理由は男性にやや多くなっている。

年齢別に比べると、「生活のメドが立たなかった」は年齢が高くなるほど多くなる。政治的な理由についてみると、「政情が不安定」は年齢が高くなるほど、「韓国動乱」は年齢が低くなるほど多くなるという逆の傾向がみられる。

〈性、年齢別にみた帰国をしなかった理由〉



不明 男 21.1% 複数回答率 119.3%
　　 女 18.5% 　　　　　 113.0%

不明 12～22歳 22.8% 複数回答率 110.1%
　　 23～32歳 21.1% 　　　　　 119.0%
　　 33歳以上 17.1% 　　　　　 117.1%

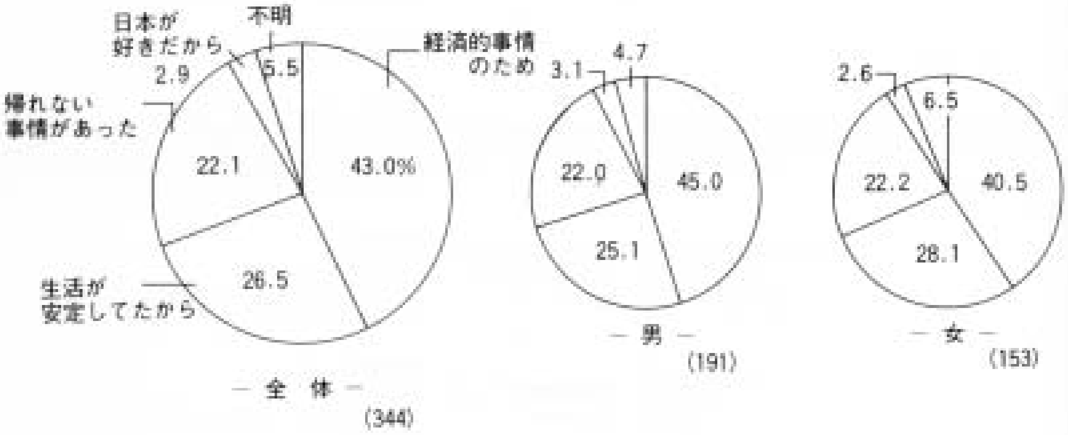
＜帰国の意志がなかった理由＞

解放後に帰国の意志がなかった人（344人)にその理由をたずねた。「経済的事情のため」が43.0%で一番多い。「生活が安定してたから」と答えた人は26.5%で、約4分の1になる。「日本が好きだから」と答えた人は2.9%にすぎない。

帰国の準備をしながら帰らなかった人と同様にここでも経済的理由が多く、一世を日本にとどまらせた要因は、帰国をして仕事を探すだけの金銭的なゆとりがなかった点にあったようである。

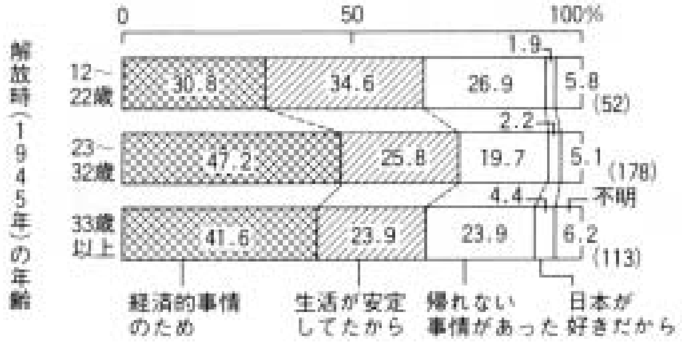
女性は男性と比べて「経済的事情」が少なく「生活が安定してたから」がやや多い。

〈帰国の意志がなかった理由〉



解方時に12～22才であった人に「生活が安定してたから」帰国を考えなかった人が多く、23～32才の人に「経済的事情のため」帰国を考える事ができなかった人が多い。

〈年齢別にみた帰国の意志がなかった理由〉

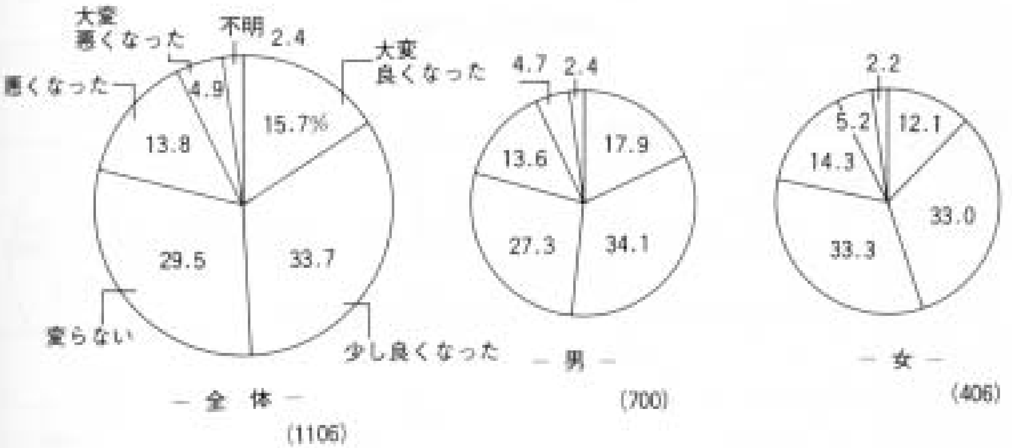


(4) 解放後の生活の変化

「解放前と比べて生活水準は変化しましたか」とたずねたところ、「大変良くなった」は15.7%、「少し良くなった」は33.7%で、生活水準が良くなった人は合わせて半数近くになる。「変わらない」は29.5%、「悪くなった」「大変悪くなった」という生活水準が悪くなった人は合わせて18.7%になる。

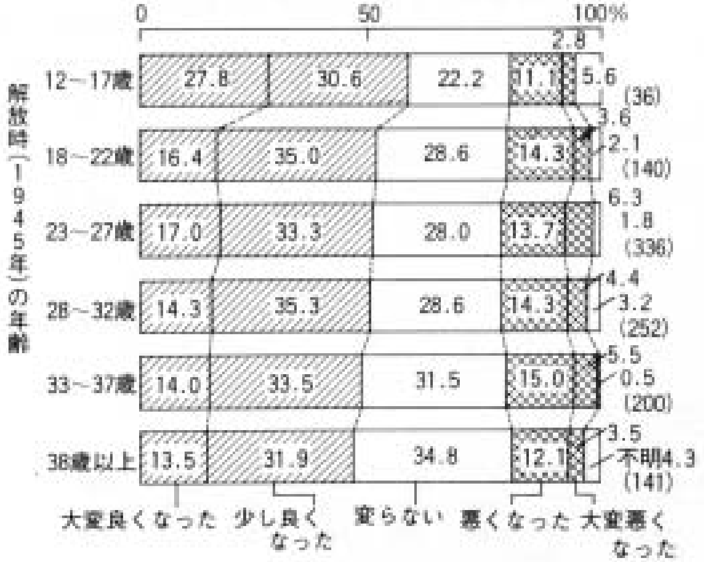
良くなったと答えた人は男性に多く、「変わらない」と答えた人は女性に多い。

(解放前と比べた生活水準の変化)



年齢が高くなるほど、解放後に生活水準が良くなったと答えた人は少なくなり、「変わらない」と答えた人が多くなる。

(年齢別にみた生活水準の変化)



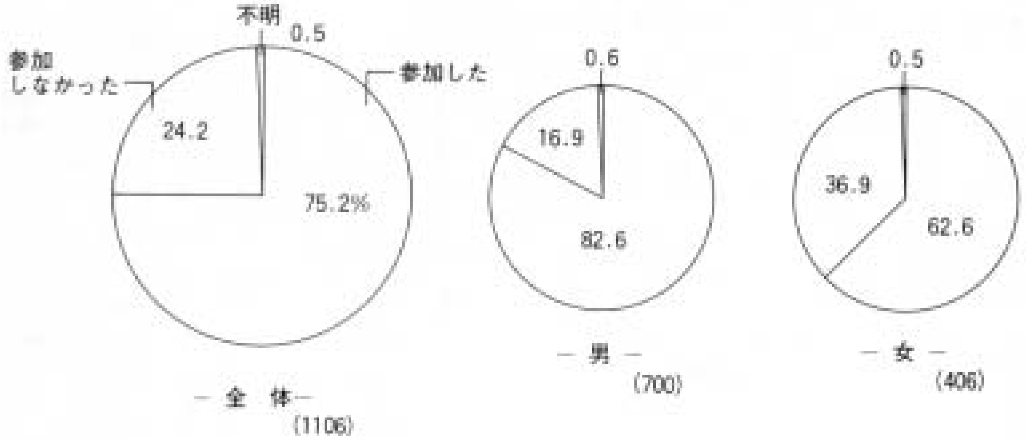
Ⅵ、民族運動への参加状況

(1) 民族団体への参加経験

「解放後、民族団体に参加しましたか」とたずねたところ、参加した人は75.2%で、4人に3人いる。

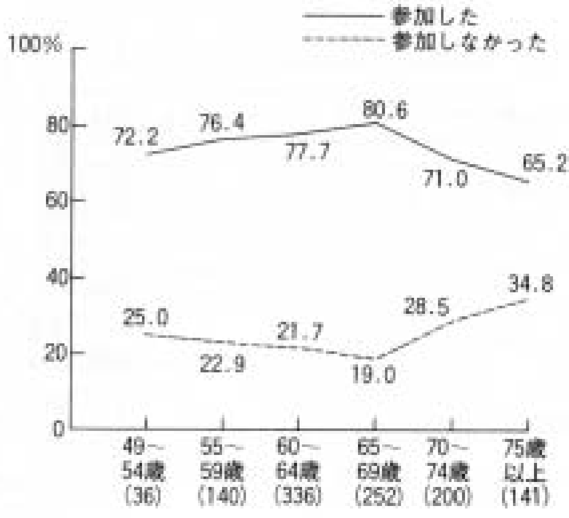
民族団体に参加した人は男性に多い。

〈民族団体への参加〉



年齢が高くなるほど民族団体に参加した人は多くなるが、現在70才以上の人には少なくなっている。現在70才以上の人は、民族運動が盛り上がった40年代後半に、すでに30才を越えていた。

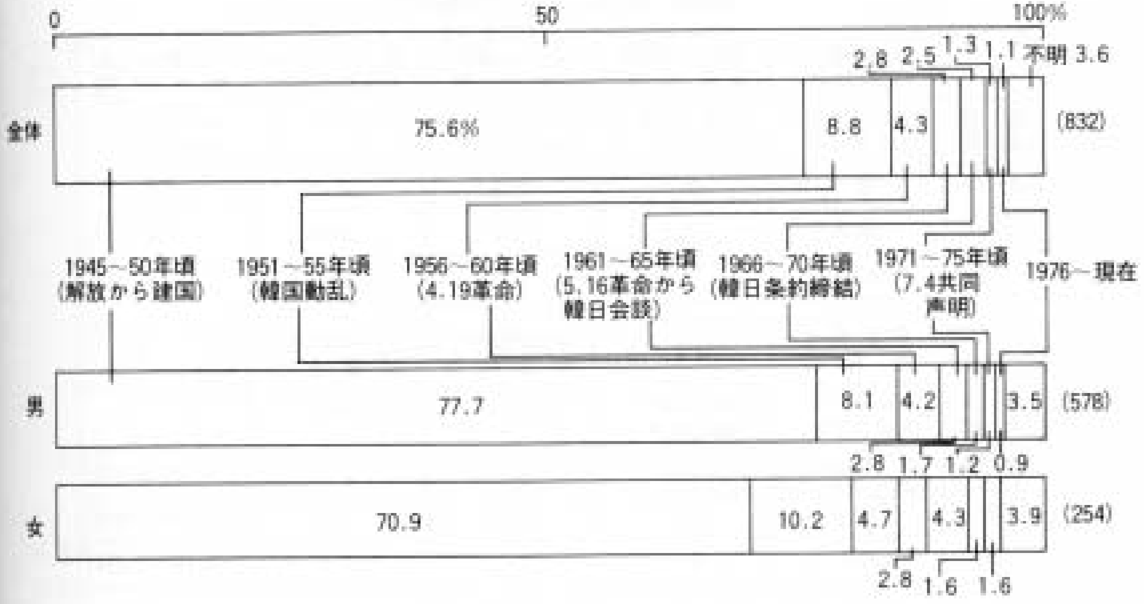
〈年齢別にみた民族団体への参加〉



⑵ 民族団体への参加時期

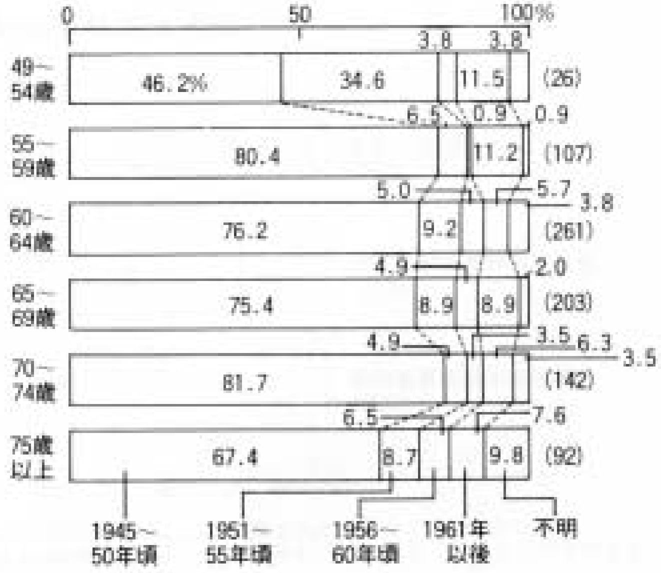
民族団体に参加した人（832人）にはじめて団体に参加した時期をたずねた。1940年代後半の解放から建国の時期に参加した人は75.6%で、4人に3人はこの時期に参加している。以後、年を追うごとに少なくなる。女性は参加時期がやや遅い。

〈民族団体への参加時期〉



年齢別にみると、現在49～54才という若い人に、1950年代前半、韓国動乱の頃に参加した人が多くなっている。

〈年齢別にみた民族団体への参加時期〉



(3) 最初に参加した民族団体

民族団体に参加した人（832人）に、最初に参加した団体名をたずねたところ、1945年10月に結成された一番最初の民族団体である在日朝鮮人連盟（朝連）に参加した人が一番多く、43.8%を占める。次に多いのが、朝連の方針を不満に思い脱退した人々により、1946年10月に結成された在日本大韓民国居留民団（民団）で、これに参加した人は36.1%である。朝連に次いで、1945年11月に結成された朝鮮建国促進青年同盟（建青）に参加した人も9.9%と比較的に多い。

民団に参加した人は、極めて女性に多い。一方、建青に参加した人は男性に多い。

〈朝連、民団、建青の年齢構成〉

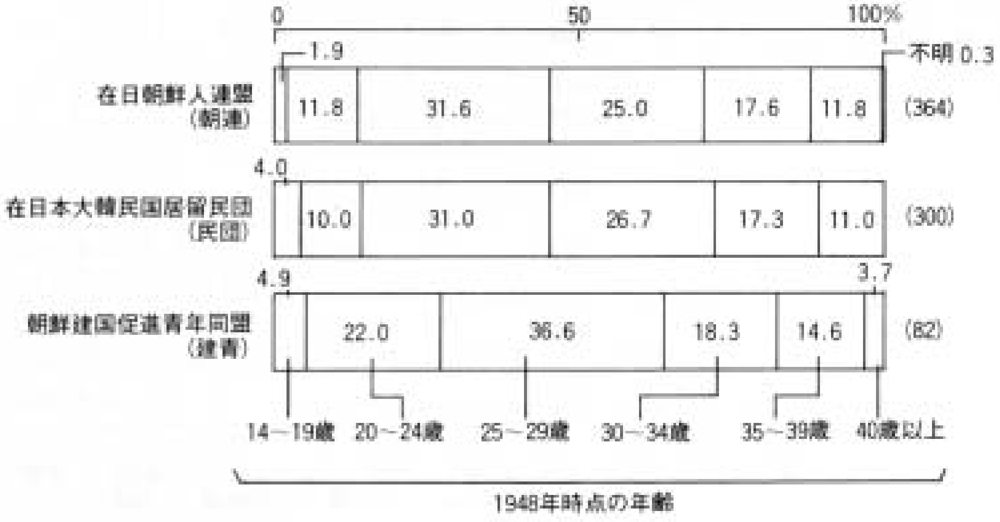
	在日朝鮮人連盟(朝連)	朝鮮建国促進青年同盟	新朝鮮建設同盟	在日本大韓民国居留民団	在日朝鮮民主青年同盟
結成期間	1945.10.15〜1949.98	1945.11.16〜1950.8.29	1946.2.10 〜 1946.10.3	1946.10.3 〜	1947.3.6 〜 1949.9.8
全体	43.8	9.1	0.8	36.1	1.0
男	44.8	12.6	1.0	30.8	1.2
女	41.3	3.5	0.4	48.0	0.4

	祖国防衛委員会	大韓青年団	在日朝鮮統一民主戦線	在日本朝鮮人総連合会	不明	計
結成期間	1950.7 〜 1955.5.25	1950.8.29 〜 1960.10.8	1951.1.9〜	1955.526 〜		
全体	0.1	1.6	0.1	3.1	3.6	100.0(832)
男	*	2.1	0.2	2.9	4.3	100.0(578)
女	0.4	0.4	*	3.5	2.0	100.0(254)

下のグラフは、朝連、民団、建青の1948年時点の年齢による参加者の年齢構成を表わしている。（民団については1951年以後に参加した人を約4割（40.3%）含んだ数字である）

朝連と民団の年齢構成にはほとんど差がみられないが、建青には20代の人の占める割合が高い。

〈朝連、民団、建青の年齢構成〉

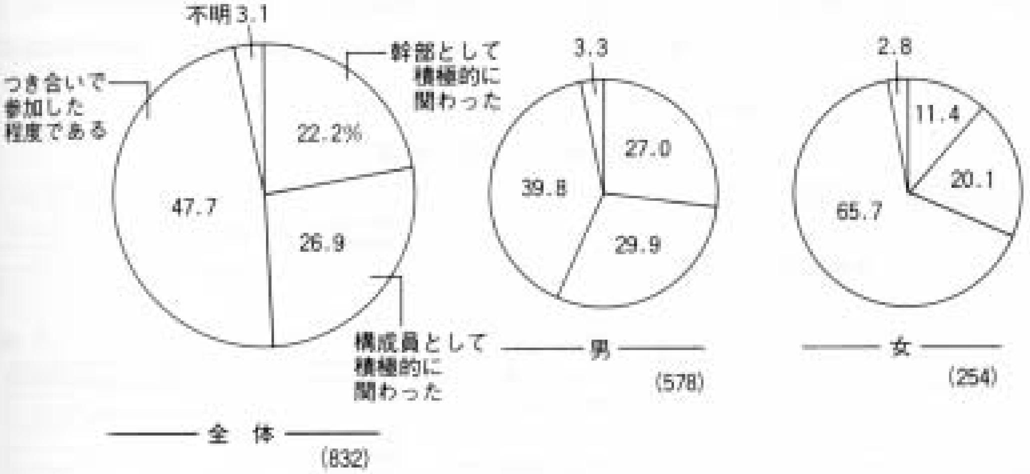


(4) 民族団体への関わり方

民族団体に参加した人（832）に、最初に参加した団体に「どのように関わり合いましたか」とたずねたところ、「幹部として積極的に関わった」人は22.2%、「構成員として積極的に関わった」人は26.9%になり、合わせると2人に1人は積極的に関わったと答えている。

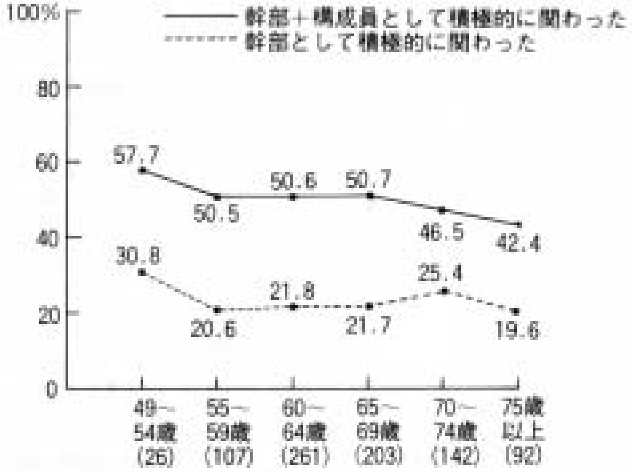
積極的に関わった人は、幹部としても構成員としても男性に多い。

〈民族団体への関わり方〉



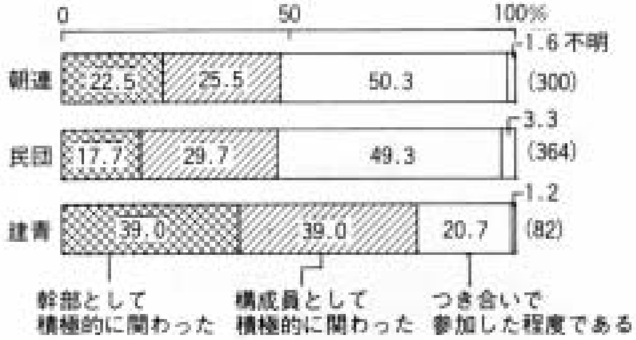
現在49～54才（1948年には14～19才）の人には民族団体に積極的に関わった人が多く、70才以上になると少なくなる。しかし、幹部として積極的に関わった人は49～54才の人と共に70～74才の人にも多い。

〈年齢別にみた民族団体への関わり方〉



初めて参加した民族団体として答えた人の多かった団体、朝連、民団、建青についてみると、建青には積極的に関わった人が多く、8割近くを占めている。

〈団体別にみた民族団体への関わり方〉

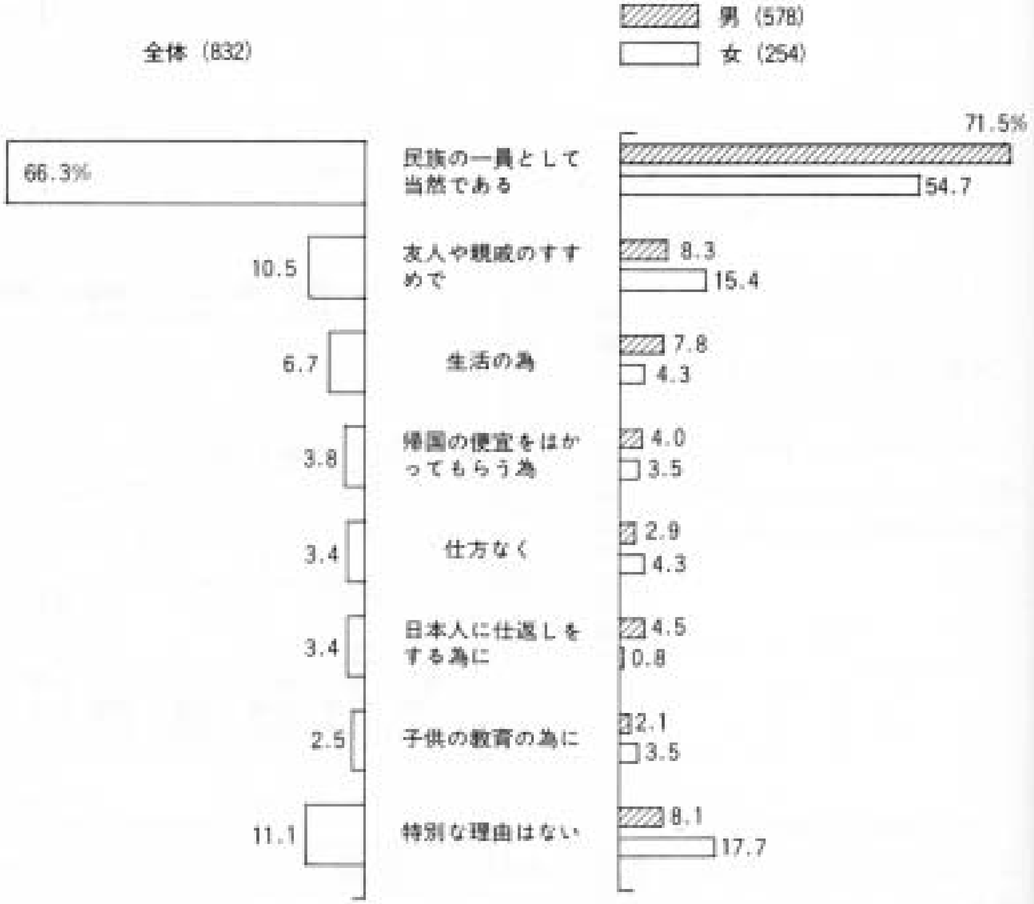


(5) 民族団体への参加の動機

民族団体に参加した人（832人）に参加の動機を選択肢の中からいくつでも選んでもらった。一番多かったのが「民族の一員として当然である」と答えた人で、66.3%いる。「友人や親戚のすすめで」が次いで多く、10.5%である。「生活の為」が6.7％、以下「帰国の便宜をはかってもらう為」「仕方なく」「日本人に仕返しをする為に」「子供の教育のために」と続いているが、どれも２－３％とわずかである。

女性には「友人や親戚のすすめ」「仕方なく」「特別な理由はない」といった動機がやや多くなっており、「民族の一員として」参加した人は男性に比べて少ない。民族団体への参加意識は、女性の方がいくらか弱いといえよう。

（民族団体への参加の動機）



（不明　4.0%　複数回答率　111.7%）

（不明　男 3.5%　女 5.1%　複数回答率　112.6%　109.4%）

初めて参加した民族団体として答えた人の多かった団体、朝連・民団・建青について、その参加動機を比べた。朝連参加者には「生活の為」「帰国の便宜をはかってもらう為」という実質的な動機が他に比べて多く、初めて結成された団体らしい性格が表われている。民団参加者には「友人、親戚のすすめ」が多く、「民族の一員として」「日本人に仕返しをする為」「子供の教育の為」という民族意識の強さを表わす動機についてはどれも一番低い。これは民団参加者に女性が多いためであると思われる。建青参加者には「民族の一員として」が極めて多く、民族意識の強い団体であることがわかる。

参加時期別にみると、参加時期が遅くなるほど「民族の一員として」が少なくなる一方で「友人、親戚のすすめ」「特に理由はない」が多くなり、民族意識が弱くなっていることがわかる。

（団体別・参加時期別にみた参加の動機）

（不明朝連 2.7%　複数回答率 115.1%
　　民団 6.0%　　　　　108.0%
　　建青 *　　　　　　　108.5%）

（不明　1945－50年頃 2.7%
　　　　1951－60年頃 8.3%
　　　　1961－現在　6.3%
複数回答率　1945～50年頃 111.4%
　　　　　　1951～60年頃 118.3%
　　　　　　1961～現在　104.7%）

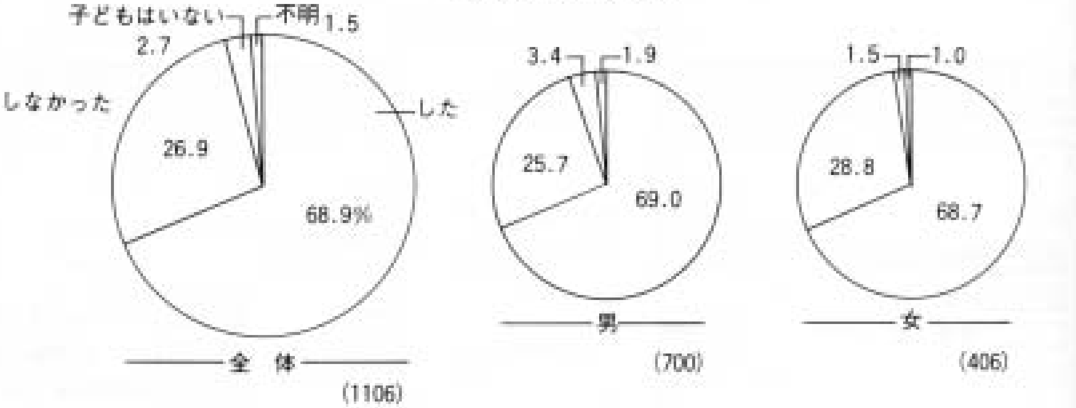
Ⅶ、民 族 教 育

(1) 民族教育

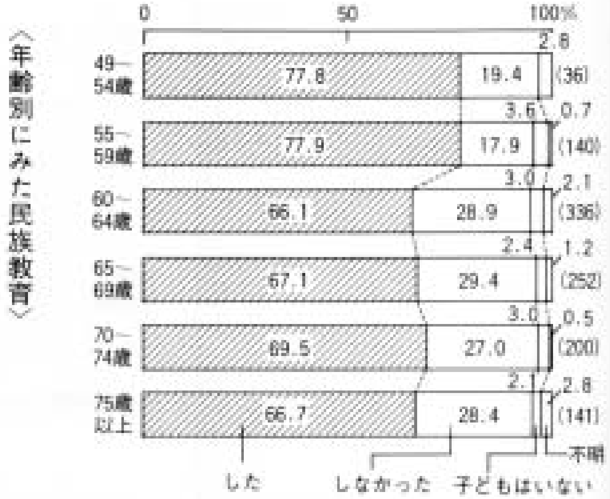
「あなたはお子さんやお孫さんに対して民族教育をほどこしましたか」とたずねたところ、民族教育をした人は68.9%である。

性別による差はほとんどみられない。

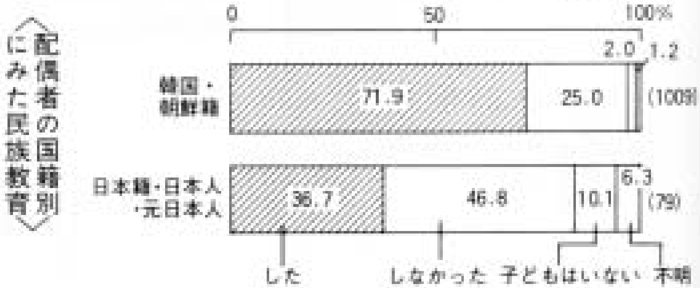
〈民族教育をしたか〉



年齢別にみると、民族教育をした人は50才代の若い人に多くなっている。

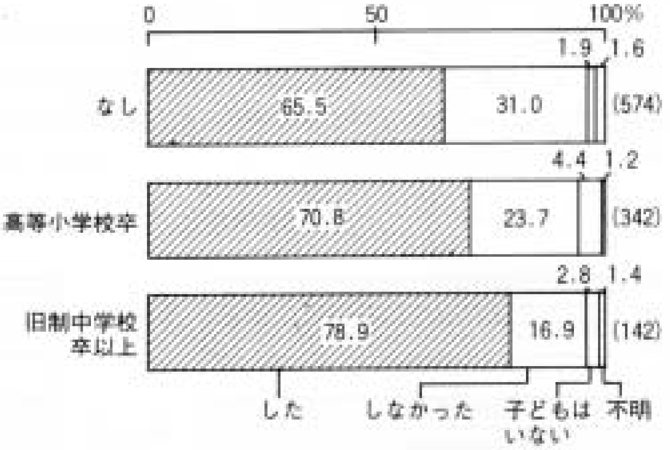


配偶者の国籍による差は大きく、日本籍・日本人・元日本人の配偶者を持つ人で民族教育をした人は、韓国籍・朝鮮籍の配偶者を持つ人の半分にすぎない。



最終学歴（本国における最終学歴と日本における最終学歴を合わせたもの）を「なし」、「高等小学校卒(書堂を含む)」、「旧制中学校卒以上」の３段階にわけて比較をすると、学歴が高くなる程民族教育をほどこした人が多くなる。

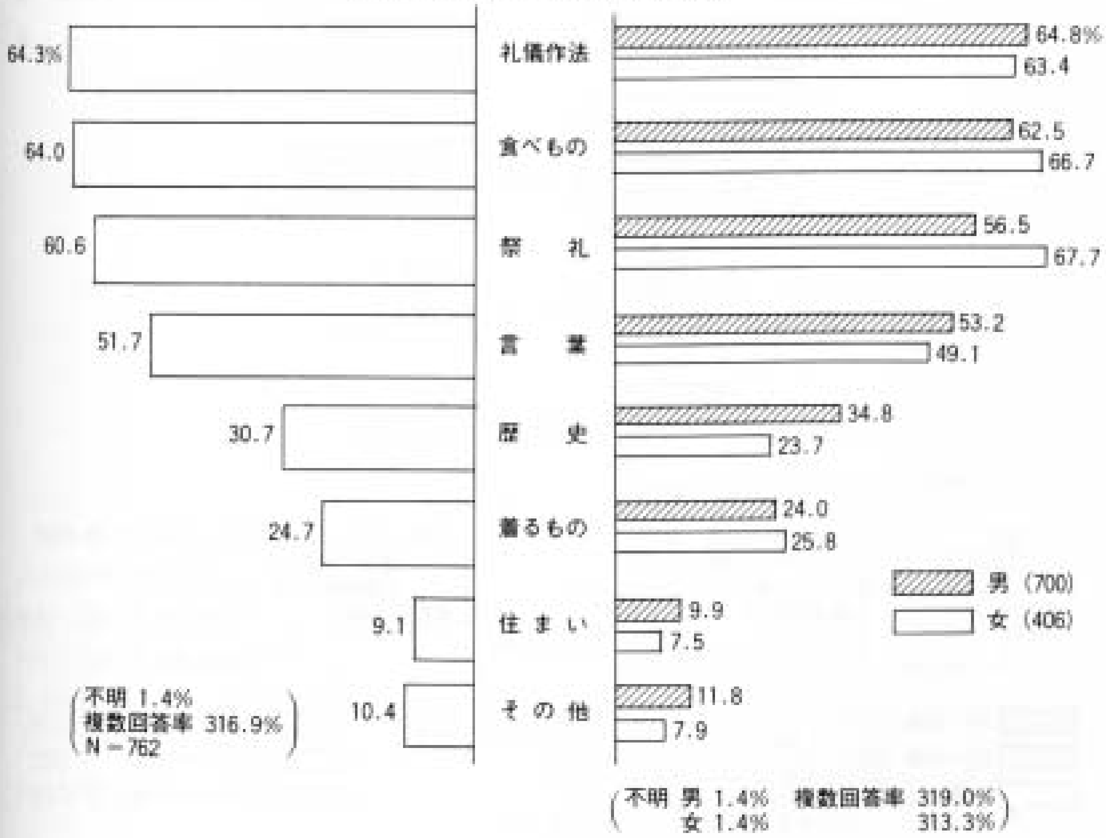
〈学歴別にみた民族教育〉



民族教育をした人(762人)に「家庭内で具体的にどのような教育をされましたか」とたずねたところ、「礼儀作法」「食べ物」「祭礼」がいずれも６割以上を占め、多い。次いで多いのが「言葉」でこれも過半数を占める。以下「歴史」「着るもの」「住まい」が続いている。

性別による差をみると、「祭礼」の教育をした人は女性に多く、「歴史」の教育をした人は男性に多い。

〈家庭における民族教育の内容〉

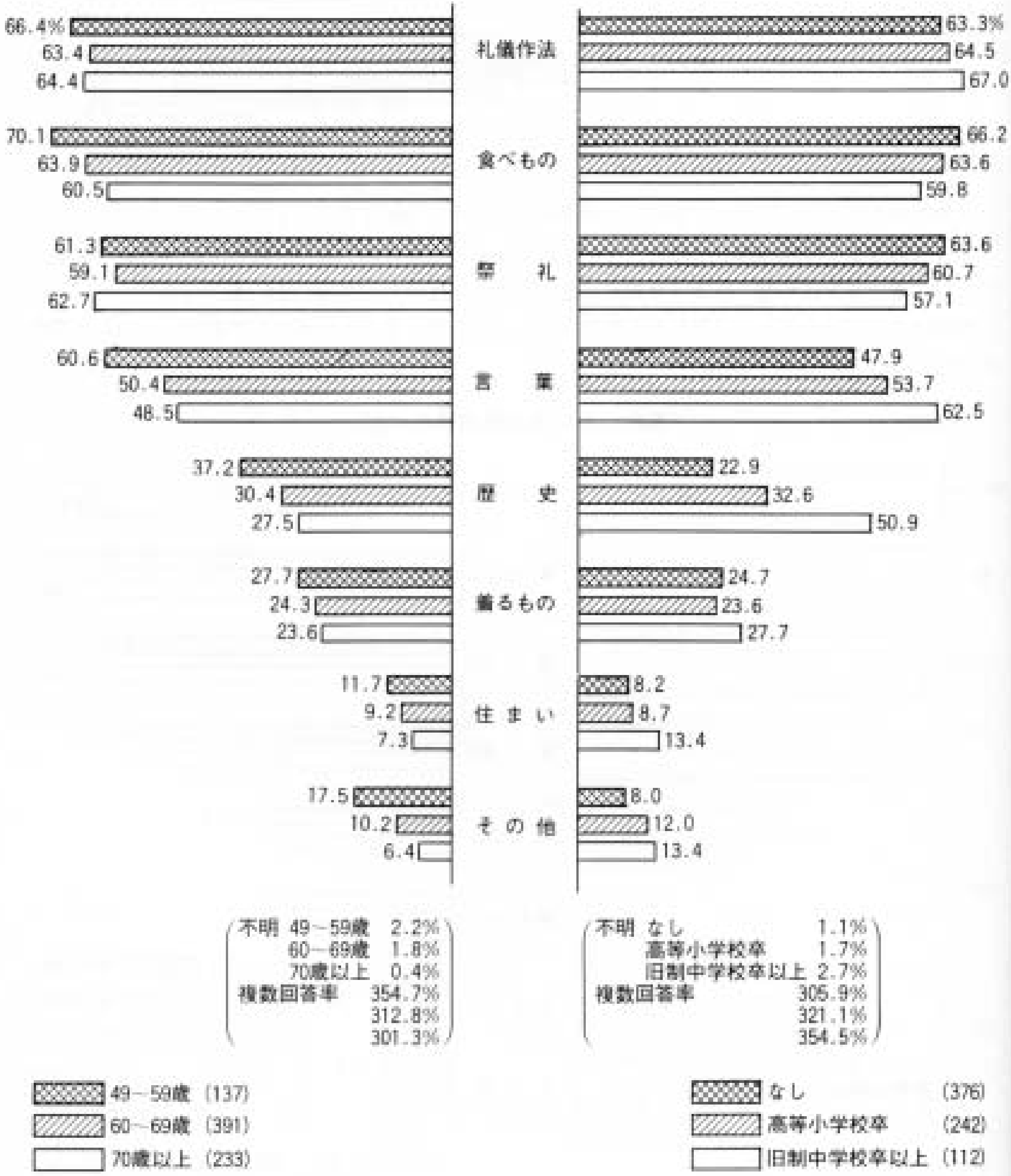


年齢別にみると、若い人ほど回答率が高く、民族教育の内容が豊富である。中でも「言葉」の教育をした人は50才代の人に特に多い。

「礼儀作法」「祭礼」は70才以上の人にも多くなっている。

学歴による比較では、高学歴の人ほど回答率が高く、内容が豊富である。中でも「言葉」と「歴史」は高学歴の人に多くなっている。高学歴の人に少なくなるという逆の傾向を示す項目は、「食べもの」と「祭礼」である。

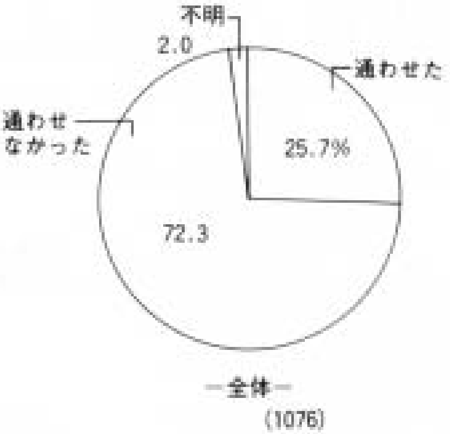
〈年齢別・学歴別にみた民族教育の内容〉



⑵ 民族学校

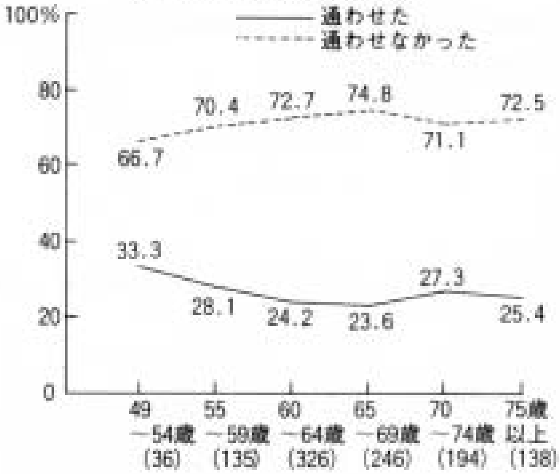
民族教育の質問で「子供はいない」と答えた人を除いて（1076人）「あなたは子供又は孫を民族学校に通わせましたか」とたずねた。民族学校に子供や孫を通わせた人は25.7%、4人に1人である。

〈民族学校に通わせたか〉



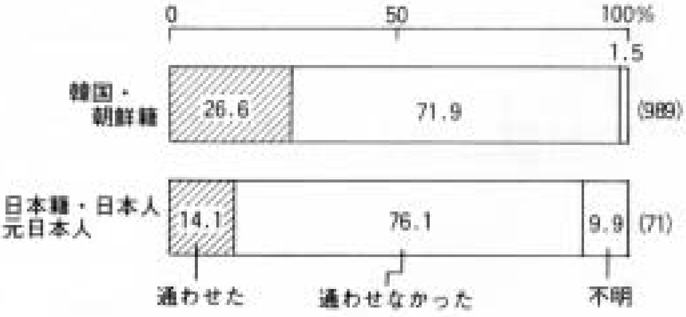
年齢による差をみると、民族学校に子供や孫を通わせた人は50才代の若い人に多いが、70才代前半の人にもやや多くなっている。

〈年齢別にみた民族学校〉



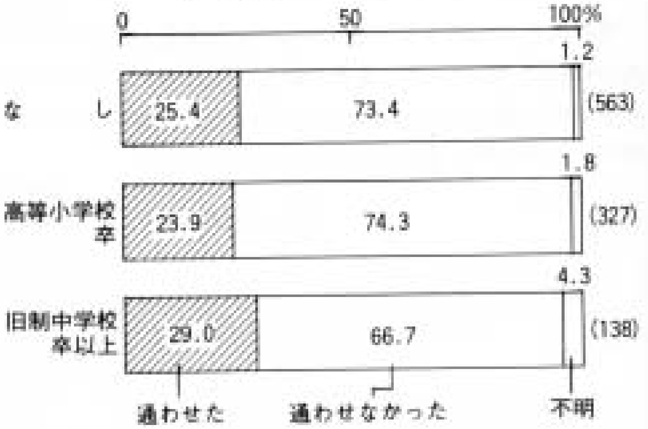
配偶者の国籍別の比較では、日本系の配偶者を持つ人に民族学校へ通わせた人が少ない。ただし、日本系の配偶者を持つ人に不明が多いので、実際の差がこれほど大きいものかどうかはわからない。

〈配偶者の国籍別にみた民族学校〉



学歴別にみると、旧制中学卒以上の高等教育を受けている人に通わせた人がやや多いものの、その差は大きくない。

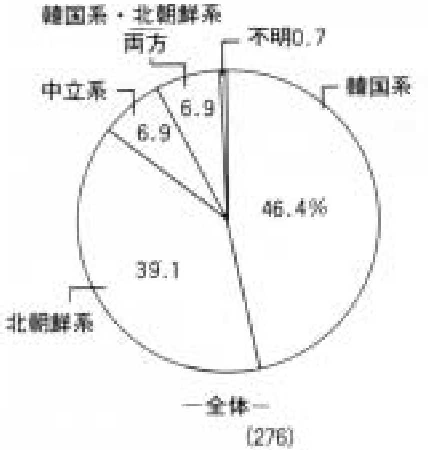
〈学歴別にみた民族学校〉



〈民族学校の種類〉

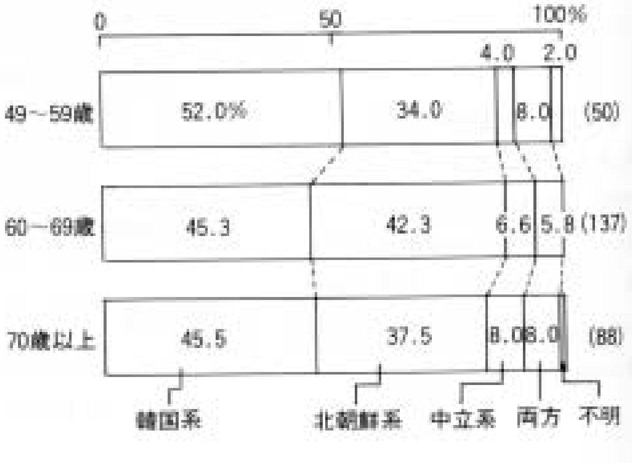
民族学校に子供や孫を通わせた人（276人）に、何系の学校に通わせたかをたずねた。韓国系が一番多く46.4%であるが、北朝鮮系も39.1%でそれほど大きな差ではない。

〈何系の民族学校に通わせたか〉



年齢別にみると、50才代の人に韓国系が多く、60才代の人に北朝鮮系が多くなっている。

〈年齢別にみた民族学校の種類〉



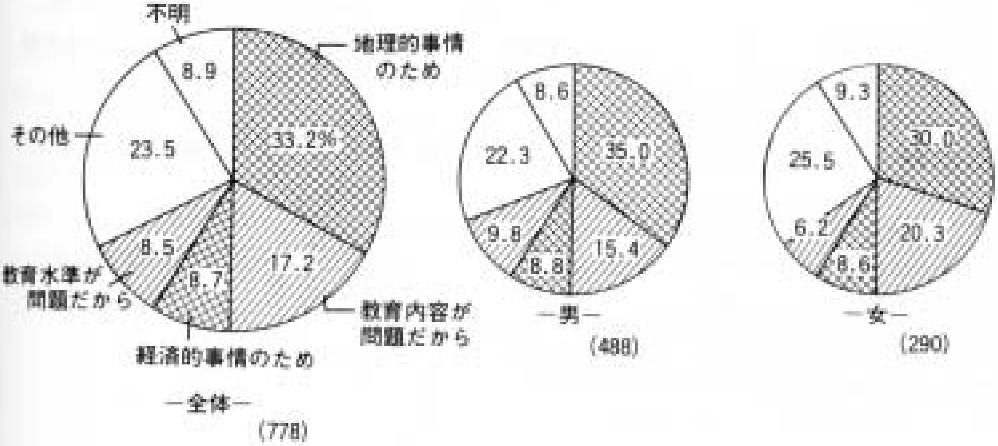
<民族学校に通わせなかった理由>

民族学校に子供や孫を通わせなかった人(778人)に、その理由で最も大きいものをひとつ答えてもらった。

「地理的事情のため」が一番多く33.2%である。「教育内容が問題だから」が17.2%、「経済的事情」が8.7%、「教育水準が問題」が8.5%と続いている。「その他」が23.5%もおり、回答肢に挙げられた理由では説明できない事情のあった人が多い。

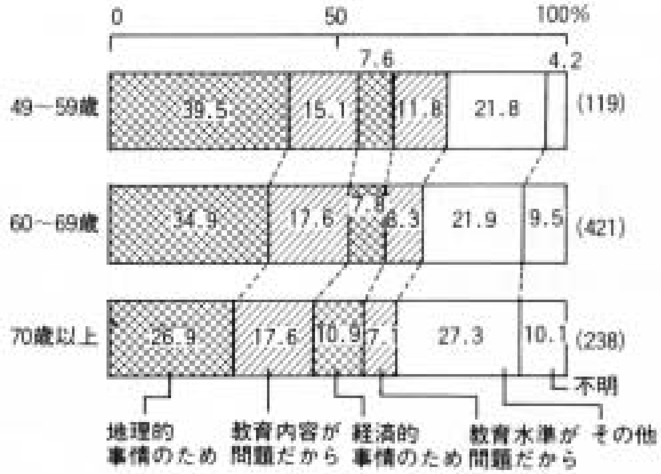
「地理的事情のため」子供や孫を通わせることのできなかった人は男性に多く、「教育内容が問題だから」と考えている人は女性に多い。

(民族学校に通わせなかった理由)



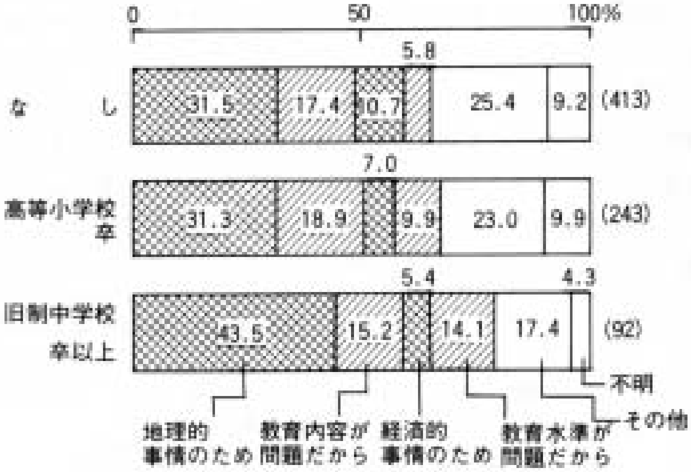
(年齢別にみた民族学校に通わせなかった理由)

年齢別にみると、「地理的事情」と「教育水準が問題」は若い人程多くなっており、民族学校の減少、進学競争の激化という日本社会の近況を反映している。「経済的事情」は、終戦直後に子育てをした70才以上の人に多い。



学歴別にみると、学歴の高い人程「経済的事情」が少なくなり、「教育水準が問題」が多くなる。また、旧制中学卒以上の高等教育を受けている人には、「地理的事情」が多く、「教育内容が問題」が少ない。

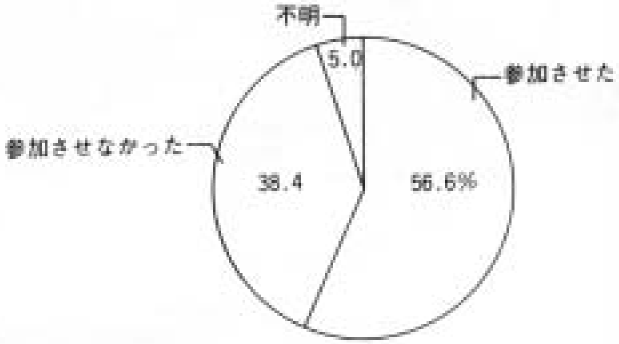
〈学歴別にみた民族学校に通わせなかった理由〉



(3) 地域教育

子どもがいる人(1,106人)に「あなたはお子さん又は孫を民団、青年会等の主催する行事や集まりに参加させましたか」とたずねたところ、参加させた人は56.6%である。

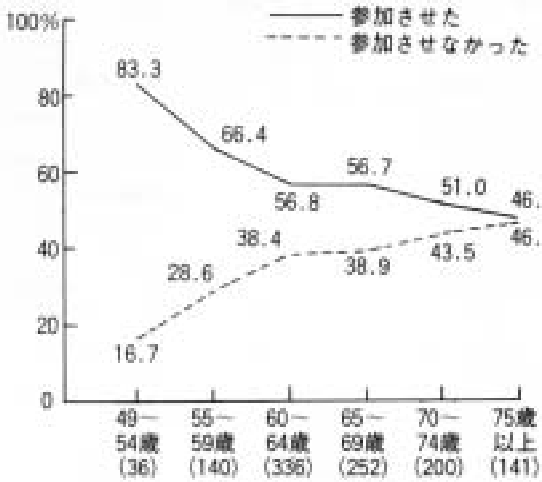
〈民団等の主催する行事や集りに参加させたか〉



—全体—
(1106)

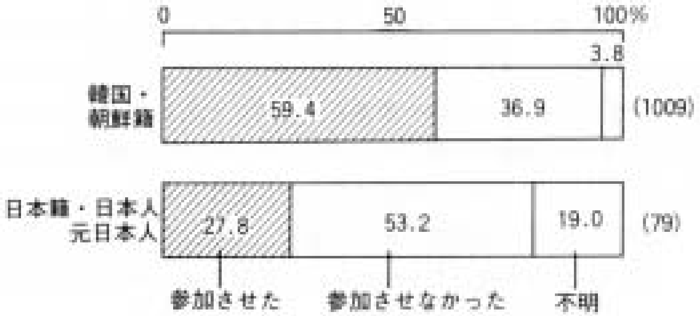
年齢別にみると、50才代の人に参加させた人が多くなっている。この年代層の人には、家庭内における民族教育、民族学校、地域教育のすべてにおいて子どもや孫の民族教育に熱心な人が多い。

〈年齢別にみた行事や集りへの参加〉



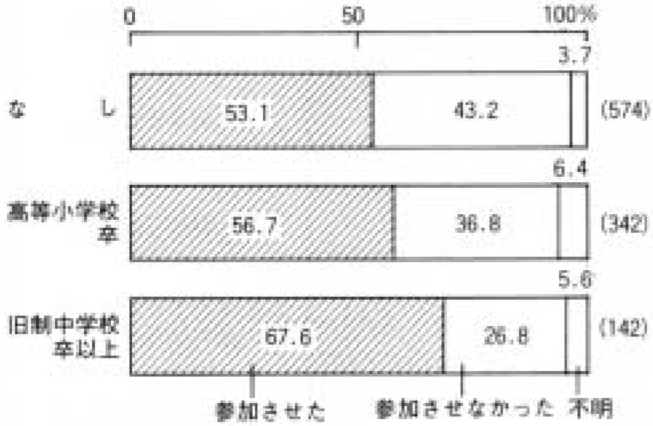
配偶者の国籍別にみると、不明が多いため実際の差ははっきりしないが、日本系の配偶者を持つ人は参加させている人が少ない。これまでの結果から、配偶者が日本系であるか否かは民族教育に大きな影響を与えるものと思われる。

〈配偶者の国籍別にみた行事や集りへの参加〉



学歴別にみると、学歴の高い人程、子供や孫を民団等の行事や集まりに参加させている。これまでの結果をみると、学歴なしの人と高等小学校卒の人との差はあまり大きくないが、旧制中学卒以上の高等教育を受けている人に民族教育に熱心な人が多いと思われる。

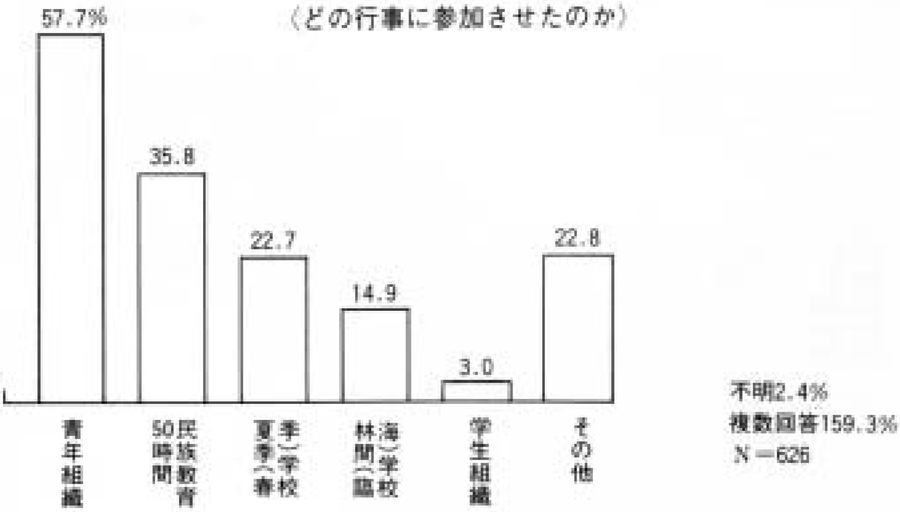
〈学歴別にみた行事や集りへの参加〉



＜参加した地域教育行事の内容＞

子供や孫を民団等の行事や集まりに参加させた人（626人）にどの行事に参加させたのかをたずねた。「青年組織」が一番多く、57.7%である。以下「50時間民族教育」「夏季(春季)学校」「林間(臨海)学校」「学生組織」と続いている。

〈どの行事に参加させたのか〉



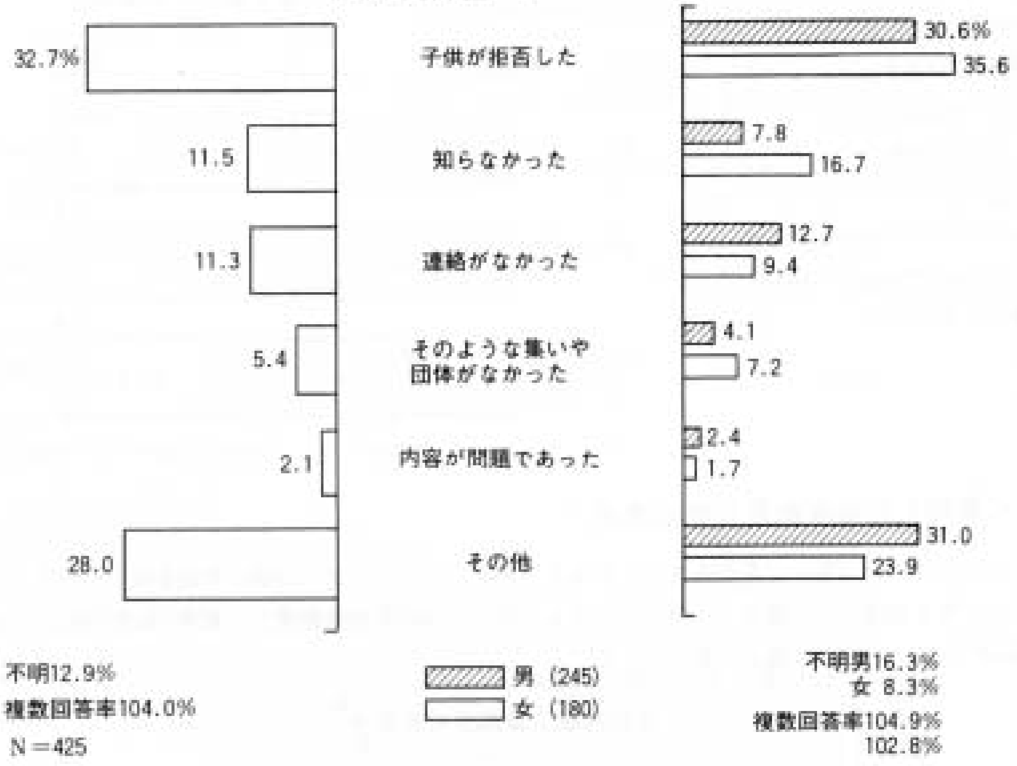
＜地域教育行事に参加させなかった理由＞

子どもや孫を民団等の行事に参加させなかった人（425人）に、その理由を選択肢の中からいくつでも選んでもらった。

「子供が拒否した」が一番多く、32.7%であった。「知らなかった」「連絡がなかった」「そのような集いや団体がなかった」という参加の機会に恵まれなかった人がそれぞれ11.5%、11.3%、5.4%になる。「内容が問題であった」と答えた人は2.1%とわずかである。

女性には「子供が拒否した」の他に、「知らなかった」「そのような集いや団体がなかった」という行事の開催を知らなかったために参加させる事ができなかった人が多い。

〈行事に参加させなかった理由〉

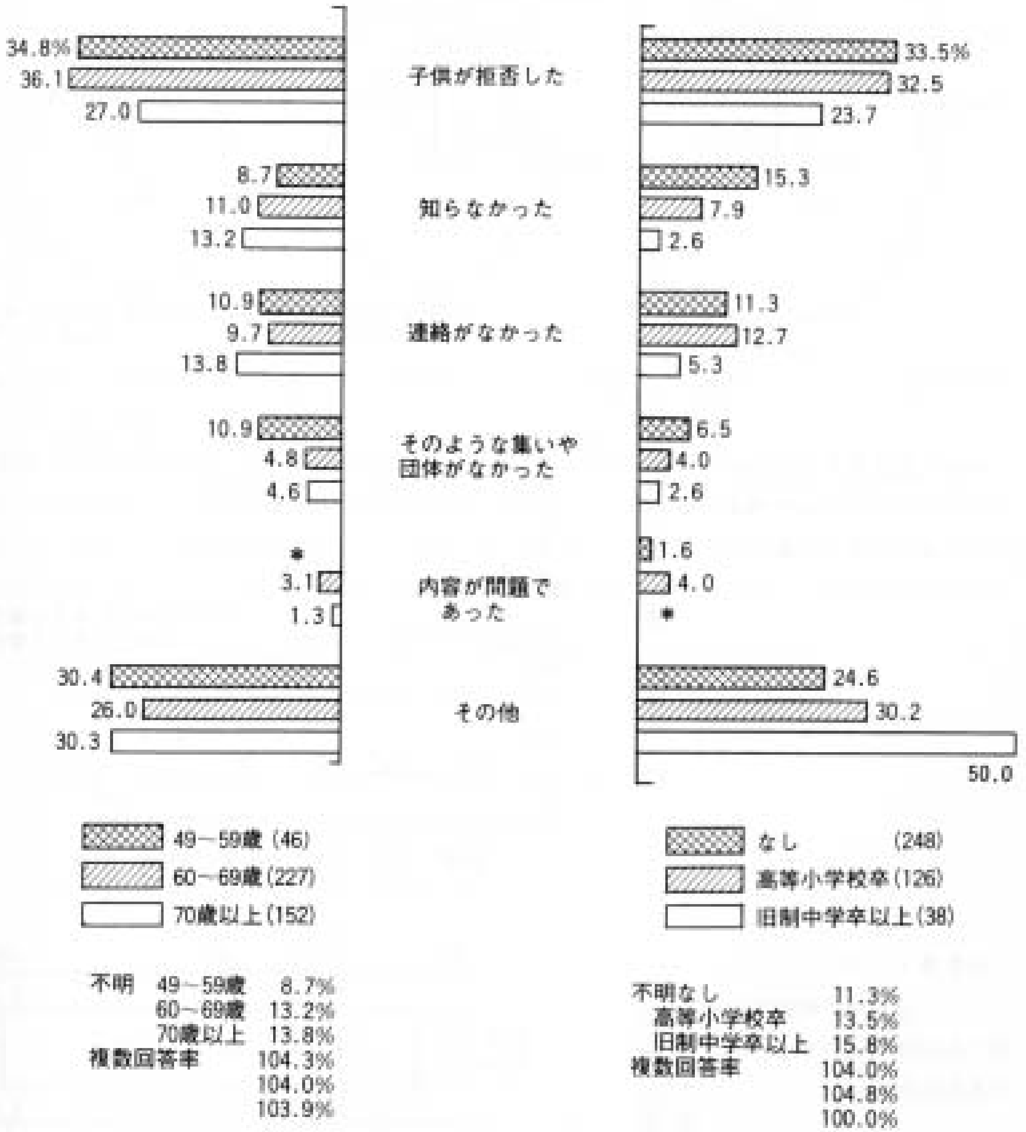


年齢別にみると、70才以上の人に「子供が拒否したから」が少なく、「知らなかった」「連絡がなかった」といった参加の機会に恵まれなかった人が多い。ただし、「そのような集いや団体がなかった」は50才代の人に多い。

学歴別にみると、旧制中学卒以上の高等教育を受けている人に「その他」を答える人が多く、用意した回答肢を回答した人は少ない。

「知らなかった」が学歴なしの人に多い他は、学歴なしと高等小学校卒の人の間にはほとんど差はみられない。

〈年齢別・学歴別にみた行事に参加させなかった理由〉

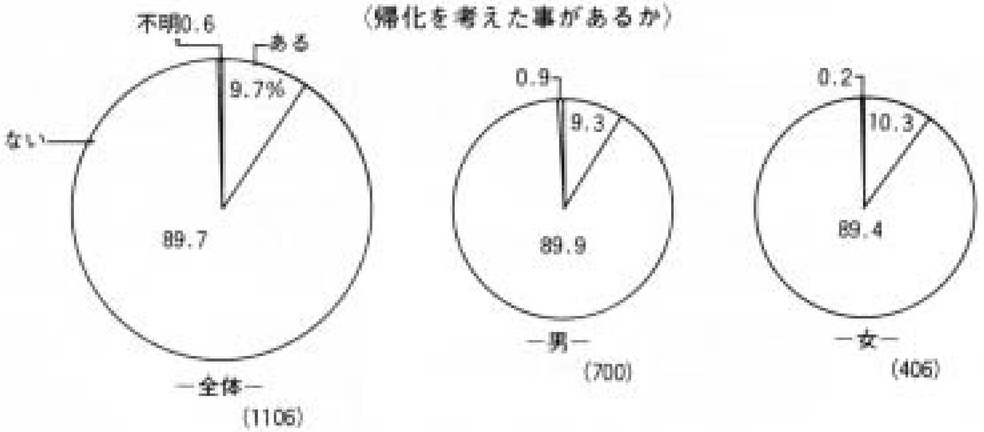


Ⅷ、帰化と帰国の意志

(1) 帰　　化

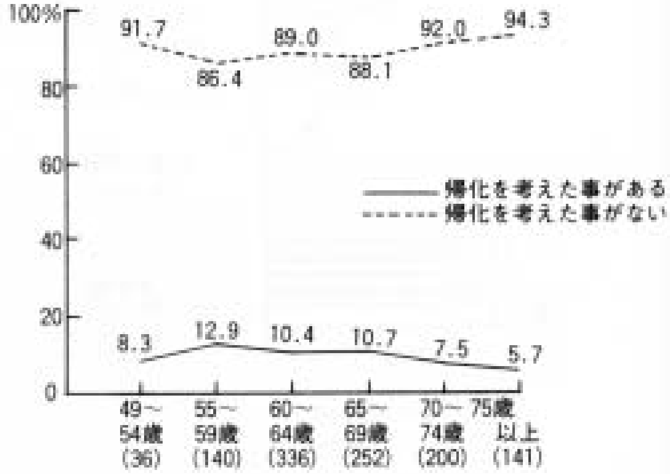
「あなたは帰化を考えた事がありますか」とたずねたところ、帰化を考えた事がある人は9.7％で、1割に満たない。性別による差はほとんどない。

〈帰化を考えた事があるか〉



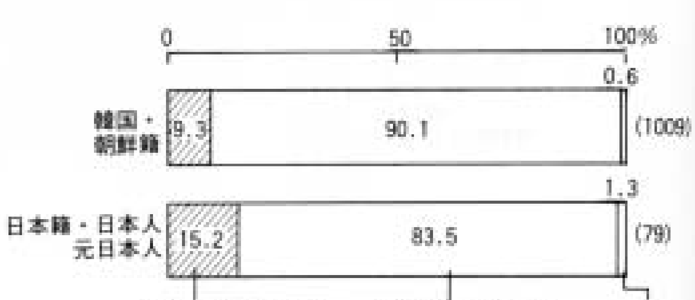
年齢による差もほとんどみられないが、50才代後半の人に帰化を考えた事がある人がやや多い。

〈年齢別にみた帰化の意向〉



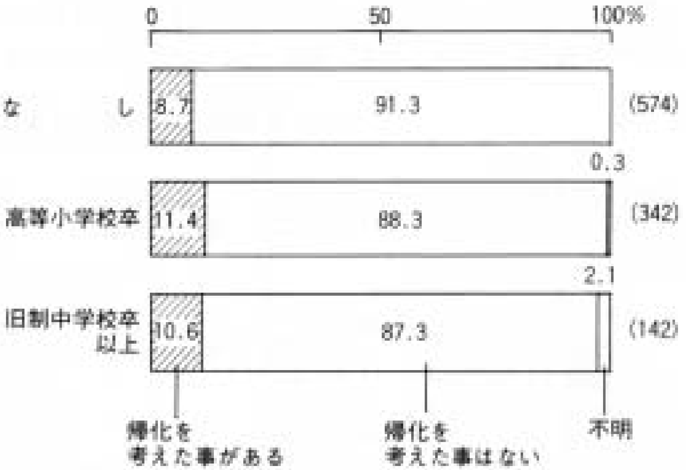
日本籍・日本人・元日本人という日本系の配偶者を持つ人には帰化を考えた事がある人が多い。

〈配偶者の国籍別にみた帰化の意向〉



最終学歴（本国における最終学歴と日本における最終学歴を合わせたもの）を「なし」「高等小学校卒（書堂を含む）」「旧制中学校卒以上」の３段階にわけて比較をしたものが右の表であるが、学歴による差はあまりみられない。

〈学歴別にみた帰化の意向〉



＜どこまで帰化の準備をしたか＞

帰化を考えた事のある人（107人）に「具体的にどこまで準備しましたか」とたずね、選択肢の中からいくつでも選んでもらった。

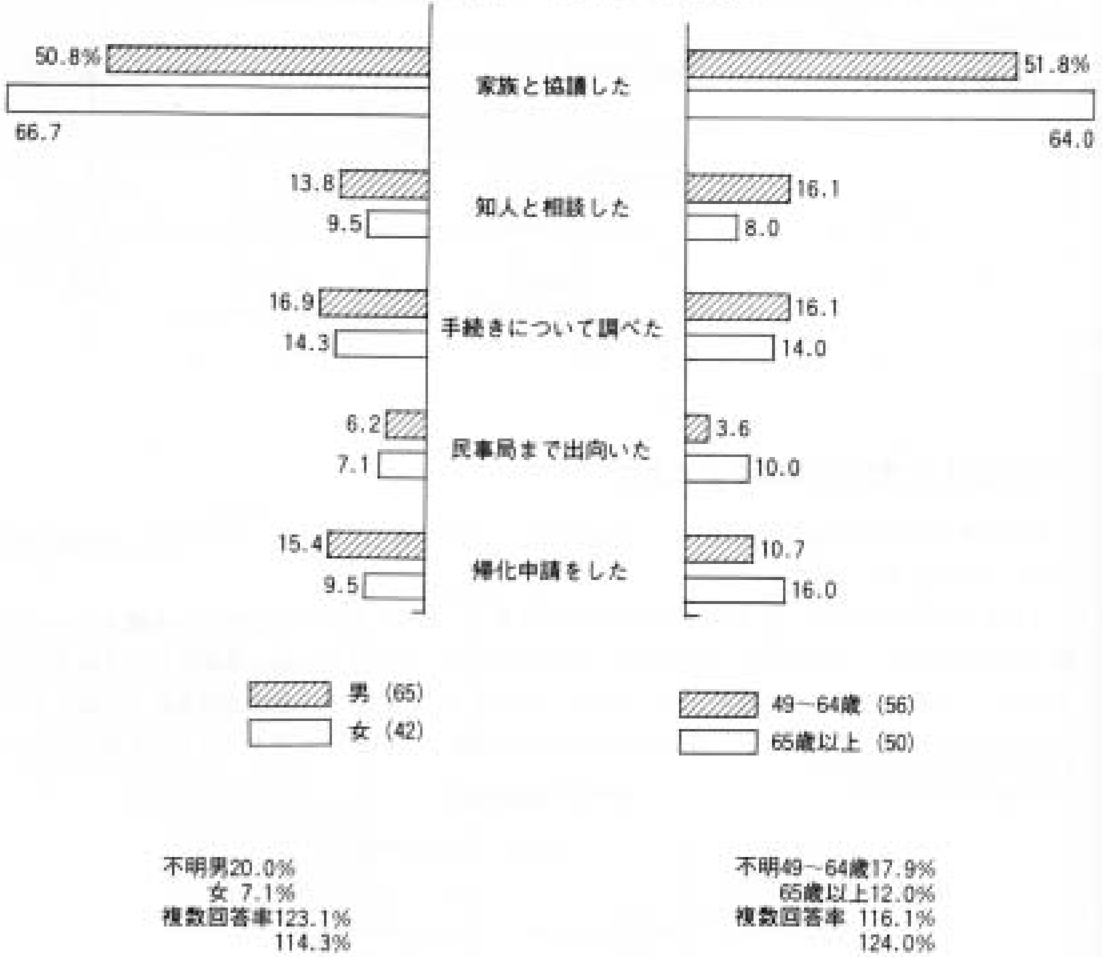
「家族と協議した」は一番多く57.0％である。「知人と相談した」は12.1％、「手続きについて調べた」は15.9％、「民事局まで出向いた」は6.5％で、いくらか具体的な準備をした人はあまり多くない。実際に、「帰化申請をした」人は13.1％である。この質問は複数回答なので、はっきりとした傾向はとらえにくいが、大部分の人は家族と協議をする程度にとどまったものと思われる。

〈帰化の準備内容〉

性別による差をみると、女性には「家族と協議した」が多く、他の項目はほぼ同じか少なくなっている事から、女性の方が家族と協議をする程度の帰化の準備にとどまった人が多いと思われる。

年齢を64才以下と65才以上に区切り比較すると、高年齢の人には「家族と協議した」が多いが、「民事局まで出向いた」「帰化申請した」も多くなっている。

〈性・年齢別にみた帰化の準備内容〉

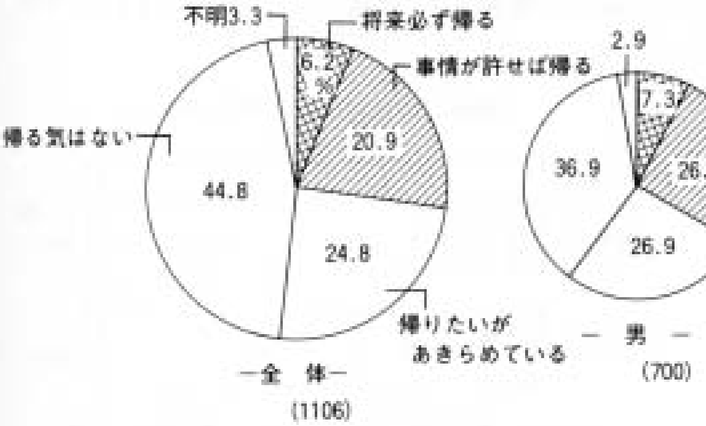


(2) 帰　　国

「現在、あなたは帰国についてどのようにお考えですか」とたずねたところ、「将来必ず帰る」と答えた人は6.2％と少ないが、「事情が許せば帰る」は20.9％、「帰りたいがあきらめている」は24.8％で、帰国の意志がある人は合わせて半数を越えている。

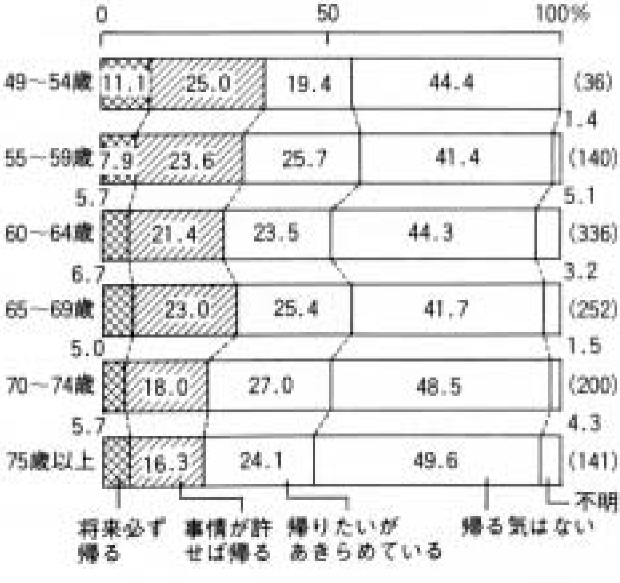
「帰る気はない」を答えた帰国の意志がない人は女性に多い。

〈帰国の意志〉



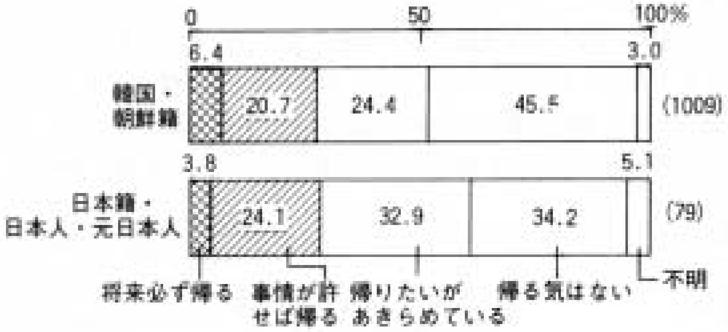
年齢別にみると、「将来必ず帰る」「事情が許せば帰る」というかなり強い帰国の意志を持つ人は、70才代になるとやや少なくなり「帰る気はない」が多くなる。

〈年齢別にみた帰国の意志〉



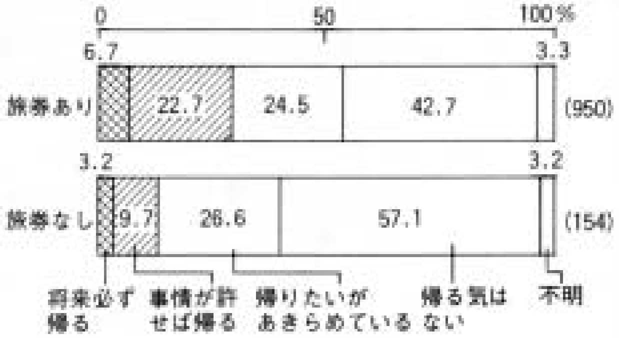
配偶者の国籍別にみると、日本系の配偶者を持つ人には「帰る気はない」が少なく、「帰りたいがあきらめている」が多い。

〈配偶者の国籍別にみた帰国の意志〉



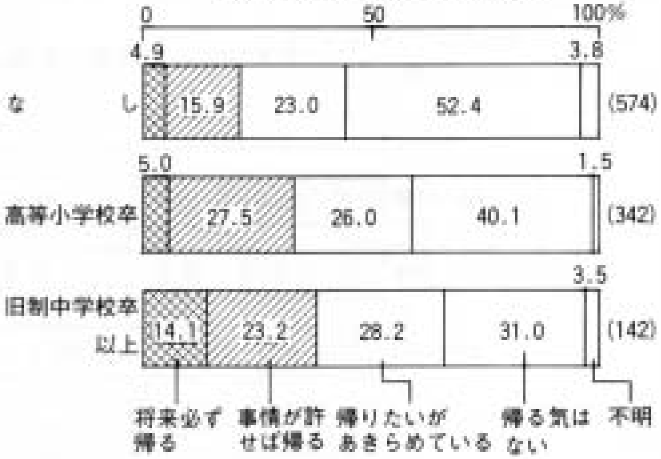
旅券を所有している人としていない人を比べると、旅券を所有している人に帰国の意志が強くみられる。

〈旅券の有無別にみた帰国の意志〉



学歴による差もはっきりしており、学歴の高い人ほど帰国の意志は強い。

〈学歴別にみた帰国の意志〉



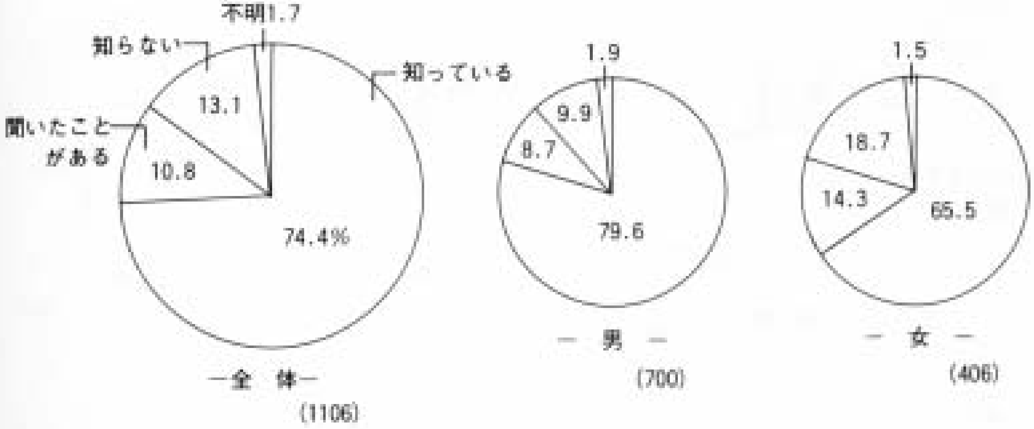
Ⅸ、青年会について

(1) 青年会の周知

「在日韓国青年会をご存知ですか」とたずねたところ、「知っている」人は74.4%を占め、「聞いたことがある」人も10.8%いる。

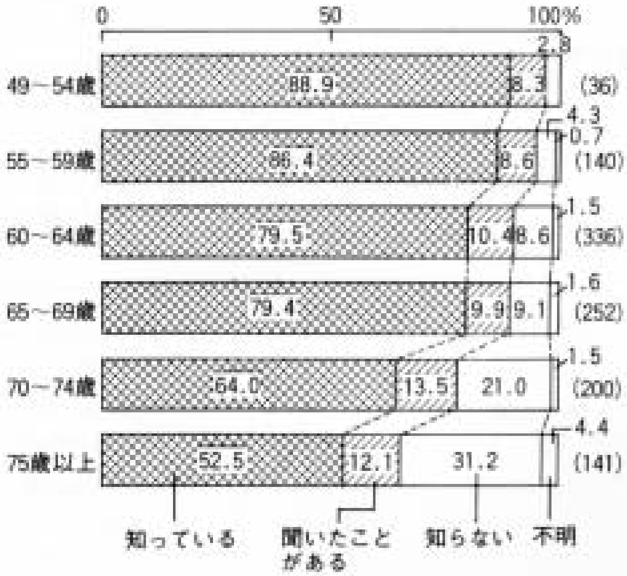
青年会を「知っている」人は男性に多く、「聞いたことがある」人を合わせると９割近くになる。

〈青年会の周知〉



年齢が高くなるほど青年会の周知度は低くなる。

〈年齢別にみた青年会の周知〉

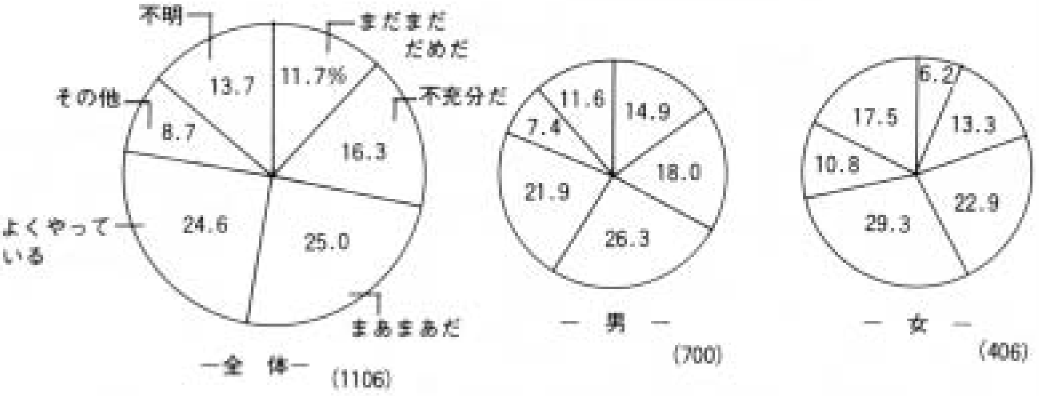


⑵ 青年会に対する評価

「あなたの青年会に対する評価を、次の中からひとつ選んで下さい」とたずねたところ、「まだまだだめだ」「不充分だ」という批判的な評価を下した人はそれぞれ11.7%、16.3%である。「まあまあだ」と答えた人は25.0%であり、「よくやっている」という評価を下した人は24.6%で、4人に1人いる。

女性に高い評価を下している人が多い。

〈青年会に対する評価〉

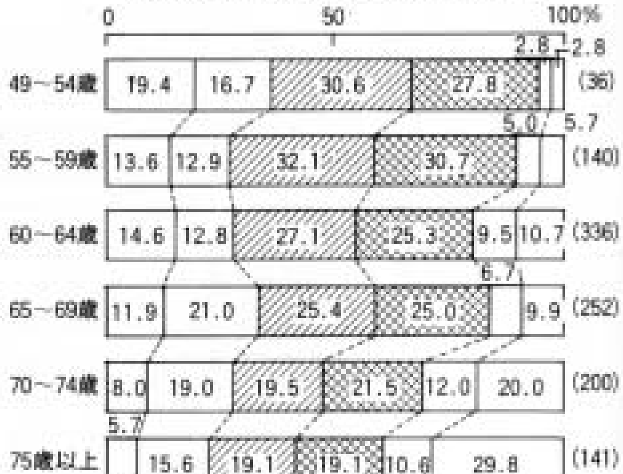


青年会を知っている人のみをとりだしてみると、批判的な評価を下している人は約3割。「よくやっている」という評価を下している人も約3割いる。

年齢が高くなるほど「不明」が多くなり比較しにくいが、50才代前半と60才代後半の人に批判的な評価を下している人が多い。

〈青年会を知っている人の評価〉

〈年齢別にみた青年会に対する評価〉



2. 分　析　編

姜　在　彦 氏

プロフィール

○京都花園大学教授。歴史学者。大阪市立大学・関西大学講師。
○1926年、済州道済州市生まれ。1953年、大阪商科大学（現大阪市立大学）研究科修了。
○著書：『朝鮮近代史研究』(日本評論社)、『朝鮮の開化思想』(岩波書店)、『近代朝鮮の思想』(未来社)、『朝鮮近代史』(平凡社選書)、『日本による朝鮮支配の40年』(朝日カルチャーブックス・大阪書籍)他。訳書：『朝鮮歳時記』『海游録―朝鮮通信使の日本紀行』(以上平凡社東洋文庫)。編著：『近代朝鮮の社会と思想』(共編、未来社)他多数。

この調査の意義

「一世の渡航及び生活史」の第１次分析を読ませていただいて、先ず二つの感じたことを述べておきたい。

その一つは、我われが解放前の在日同胞の渡航および生活史を研究する場合、全く日本官庁側の資料に依拠せざるをえなかったのが実情である。すなわち、我われ自身の主体的な調査や記録が欠落していたことである。

もちろん個人的にそういう気持ちをもっていたとしても、それは自伝風の記録か、限られた地域の調査に限定せざるをえなかった。

このたび在日韓国青年会がおこなった実態調査は、何よりも在日同胞側からの主体的な取り組みとしてばかりでなく、たとえ一部に回収されていない地域があるにせよ、全国的な調査として画期的な意味をもつ。こういう作業は、青年会のような巨大な組織力と若い情熱、またそれを分析しうる知的能力がなければ不可能なことである。

他の一つは、この実態調査を「我々の歴史を取り戻す運動」として取り組んだ、その崇高な精神である。

よくいわれているように、植民地体験をもつ世代と、もたない世代との断絶は大きい。しかも後者の方が絶対大多数であるばかりでなく、在日同胞社会の中堅となっている。

このような世代の断絶は、しばしば家庭破壊をもたらす原因ともなっている。この実態調査の結果にもみられるように、一世の場合は高年齢層であればあるほど無学の人が多く、日本の底辺労働市場での不安定で、荒っぽい肉体労働に耐えてきた前歴をもつ。いいかえれば若い世代の眼から見れば、一世である祖父母や父母は、カッコウのよくない世代である。ところが若い世代のなかにはしばしば、その由ってくる所以を考えようとせず、カッコウよくない祖父母や父母を疎外し、親子間の断絶によってもたらされた悲劇を目撃し、或は聞く場合が多い。

青年会はこの調査を「自分たちの手で祖父母や父母の歴史を正しく伝承する作業の必要性はもちろん、今後の民族教育への活用のため」と位置づけているようだが、何とすばらしいことか。

1910－45年の間に渡航してきた、当時十二歳以上の一世たち1106名に対する実態調査に、どのく

らいの人員が動員されたのかしらないが、かれらはこの作業をつうじて多くを学び、考えたことだと思う。かれらはきっと青年会の中核として、断絶した世代間をつなぐつがい的役割りを果たしていくことだろう。

経済的背景について

この実態調査は末長く、研究者たちにとって貴重な資料として重宝がられるはずだ。つぎに実態調査の結果について、若干の感想を述べることにしたい。

まず渡日の理由をみると「経済的理由」が39.6%で「徴兵・徴用」(主として徴用）が13.3%、合わせて52.9%となっている。「結婚・親族との同居」が17.3%となっているが、これは女性か未成年者であるはずだから、「経済的理由」に加えてよいはずだろう。してみると強制的に連行された徴用と、「経済的理由」による渡航者が7割以上占めることになる。「留学」9.5%を除いて「その他」20.2%も含めて、渡日の理由をほぼ「経済的理由」と「徴用」に単純化して差し支えないと思われる。

「徴用」が強制連行であることはいうまでもないが、「経済的理由」による渡日は、日本での豊かな生活にあこがれて、自由意志できたといえるだろうか。

渡日前の職業をみると、49.1%が農林業（主として農業）となっている。このほか「その他の無職」が23.1%となっているが、これはほとんど独自の職業はないが、農家の女性または未青年者とみてよいだろう。だとすれば、渡日前に農業に従事していた者が72.2%となる。この数値はほぼ官庁統計と符合する。

例えば1935年の東京府の調査によれば、渡日前に農業に従事していた者が、世帯持ちの場合90.74%、単独者の場合79.73%、1932年の大阪府の調査でも、世帯持ちの場合86.81%、1936年の神戸市の調査でも、単独者の場合90.2%となっている。

このように「経済的理由」で渡日した同胞の絶対大多数が、世帯持ちであれ単独者であれ、農業出身者とみてよいであろう。ところが調査票には、自営業としての農業に区分しているが、これではあいまいさを免れえないだろう。それは小作農・自作農兼小作農・自作農・地主に区分すべきであった。「経済的理由」で渡日を強いられた農業者は、渡日前の小作農または自作兼小作農が大多数であるはずだ。なぜそうなったのだろうか。

農業者が渡日した理由として、「土地調査事業」によって土地を奪われたから、と直結させるのは短絡しすぎる。事実「『土地調査事業』をご存知ですか」の質問に対して、知らないが72.7%、聞いたことがあるが12.7%で圧倒的に多く、知っているが12.4%にすぎない。

そもそも「土地調査事業」という歴史用語が、無学層の多い高年齢者に、たとえそれを身をもって体験したとしても、概念として理解できるはずがない。「土地調査事業」を直接体験したとしても、それが完了したのが1918年である。当時15歳の少年であったにしても、この調査がおこなわれた1982年10月－1983年3月には80歳にならなければならない。

渡日前の農業者が、なぜ「経済的理由」による渡日者の圧倒的大多数を占めたのか。その理由を知るためには、「土地調査事業」に直結させるよりは、それによってつくりだされた植民地支配下の韓国農村の生産関係を理解し、それを調査票の項目設定にも反映させなければならないであろう。

「土地調査事業」が完了した当時、韓国全人口の8割が農民であった。ところが、全人口の8割が生活手段としていた土地の所有状況はどのようになっていただろうか。全農家戸数のわずか3.9%（9万戸）にすぎない地主が（大地主ほど日本人地主が多く、中小地主ほど朝鮮人地主が多い)、

全耕地面積の50.4%を所有した。

ところが耕地のない農民、または耕地の不足する農民は、労働者に転業できるほど近代産業が発達していなかったから、土地にしがみついて地主の土地を耕す小作農および自作兼小作農に転落せざるをえなかった。しかも小作料は年間収量の6～7割である。全農家戸数のなかでこういう小作農が37.6%、自作兼小作農が39.3%、合わせて 200万戸余りとなっている 自作農は19.6%（50万戸）にすぎない。

1920年前後の全人口は1,500万名と推定されるが、1戸平均家族数5名とすれば、200万戸の家族数は1,000万名となる。全人口の3分の2を占めるこの人たちが、小作農または自作兼小作農ということになる。植民地支配下におけるこういう農村の生産関係が、朝鮮全体の貧困を規定し、海外への人口流出を規定したのである。海外への流出先としては北方の満州やシベリアがもっとも多く、日本へは調査結果にもあらわれているように、地理的関係からして慶尚南北道、済州道、全羅南道だけで在日同胞全体の9割を占めた。

渡日理由のなかで、いうまでもなく「徴用」を直接的強制によるものとすれば、「経済的理由」は、植民地政策による間接的強制ということができよう。

在日同胞の職業は、おおまかにいえば、本国での農民層が、日本での労務職に転換したとみてよいだろう。ところが「労務職」だけでは、渡日後の生活実態を反映させることは困難であろう。たとえば職工といっても、労働条件や賃金において、大企業のそれと零細企業のそれと同じはずはない。さらに職工、土工、雑役人夫、坑夫が同じはずもない。すなわち同じ労働市場にも、上層部と底辺部がある。

一般的に渡日後の在日同胞の職業は、日本人労働者も忌みきらう「未熟練・長時間・不安定・過激」の単純肉体労働に集中している。具体的には土工（および雑役人夫）、職工、坑夫が三大職種となっており、しかも同一労働にたいして、賃金は日本人の2分の1か3分の2がほとんどである。祖父の地をはなれて渡日を強いられた「経済的理由」からの脱出は、依然として不可能であったとしかいいようがない。

教育程度について

在日同胞一世たちの生活史をかえりみるとき、高年齢層ほど無学者が多く、そのためにいかに多くの侮辱と蔑視をうけたことか。いまの若い世代には、その苦しみや悲しみを理解しにくいだろう。

本調査でもそのことはよく反映されていて、年齢別にみた最終学歴は75歳以上の場合、本国での無学75.9%、日本でのそれも90.8%となっている。一世の女性の場合はもっとひどく、年齢層に関係なく本国での無学が86.7%、日本でのそれも95.1%となっている。本国および日本を通しての無学も、年齢および性別を平均して51.9%となっている。

例えばいま75歳の一世は、解放当時35歳前後となろう。その当時の40代、50代、60代には、さらに無学層が多かったはずだ。日本官庁側の調査でも、1930年に大阪市が、韓国人工場労働者 8,092人を対象におこなった調査のなかで、その教育程度を「全然教育をうけないものは全体の半数以上にのぼり、これを男女別にみれば女において特に甚だしく約8割5分近くを占めているが、これに更に小学校中途退学者を加えると男7割、女9割5分が殆ど文字を解せざるものといえる」と書いている。

私は1958年頃、何人かの学生をつれて大阪府泉北郡信太山地区と、尼崎の大庄地区（神戸製鋼の近辺）で泊まりがけて実態調査をしたことがある。当時も一世たちの8割ないし9割は無学であっ

た。新聞も読めないのにどうして世の中の動きを知るのか、と聞いたところ、全くラジオに頼っているということであった。当時はテレビなど、高価なぜいたく品であった。

在日同胞の一世の高年齢層に無学者が多いことは、植民地本国における教育状況を、そのまま反映したものであって、けっして特殊事情ではない。

いうまでもなく韓国では、日本の敗戦当時まで義務教育が実施されなかった。したがって子女を小学校に通わせるような家庭は、すでに述べたような総体的な貧困のなかで、そうあるものではなかった。また学校数が極端に少なく、大多数の子女に教育機会を与えなかった。

例えば植民地支配も、その末期の1942年末の調査によれば、日本語を解する者が全人口の２割弱、男女別にみると男子３割弱、女子１割強となっている。日本語を解しえないということは、小学校にもいっていないことを意味する。なぜなら韓国では小学校においても、いわゆる「国語」(日本語)が最重要科目として、最大の時間数をこれに割いていたからである。とどのつまり韓国における植民地的教育政策というのは、大多数の子女たちに教育の機会を与えない愚民化政策が基本であり、少数の就学者には皇民化（天皇の臣民化）教育を実施することであった。

いまでも在日同胞の一世のなかには、日本社会における韓国人差別が、民族的差別とは知らず、無学であったから馬鹿にされ、さげすまれてきたと思う人が少なくない。だから子女たちには、自分の辛い体験を味あわせまいとして、日本人並に高校や大学にいかせても、なお差別があることが理解できないという人が少なからずいる。

このようは在日同胞の職種や生活環境、および無学層が多いことから、戦前の日本社会ではいつの間にか「無学・非衛生・放浪性・雑居性」が韓国人の民族性であるかのように、官庁資料や日本人の著書などで書いてある場合が多い。

むすび

以上わたくしは、青年会がおこなったこの実態調査の意味を高く評価しながら、若干の注文をつけてきた。在日同胞一世の渡航及び生活史を、たんに字面の上だけでなく、マン・ツー・マンの触れ合いを通じて理解するなかで、カッコウの悪い一世たちを疎外するのでなく、かれらに対する温かさ、優しさが生まれてきたものと確信する。また一世たちをそうさせた、35年間にわたる植民地政策とは何であったか、を問う気持ちも湧いてきたはずである。私はこれこそ、在日同胞社会における青年運動の出発点であり、原点でなければならないと考える。

と同時に、一世たちの生活史のなかには学ぶべきものもあり、止揚すべきものもある。例えば在日同胞の家庭内にはいれば、民族色をもっとも顕著に残しているのが、祖先の祭祀をして自分のルーツをしのび、キムチを食べ、チマ・チョゴリを着ることであろう。こういう民族色をなりふりかまわず守ってきたのは誰であったか。それはカッコウのいい高学歴者ではなく、無学な一世の女性たちであった。

一世の生活史のなかで肯定的なものと否定的なものを区分けして、肯定的なものを継承し、否定的なものを止揚してこそ、若い世代による青年運動を、より高い次元に発展させることができるのではなかろうか。

願わくば青年運動の重要な一環として、例えば10年に１回ずつ、こういう実態調査を定例化してほしい。実態調査の対象も、青年運動がよって立つところの日本生まれの世代にもひろげてほしいものである。それは莫大な時間と人員と財政的負担をともなう困難な作業であろう。逆説的にいえば、だからこそ青年会のような組織にとって、やりがいのある作業だといえないこともない。

金　両　基 氏

プロフィール

○静岡県立大学・国際言語文化学科教授。

○1933年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。ソラボール芸術大学客員教授、韓国中央大学客員教授、前カリフォルニア・インターナショナル大学教授をつとめる。韓・日・米の三国で比較民俗学、比較文化の論述と講演。在日同胞文化の創造をめざす。

○著書：『韓国の石仏』（中央公論社）、『能面のような日本人』（ＴＢＳブリタニカ）、『ハングルの世界』（中央公論社）、『キムチとお新香』（川出書房新社）、『韓国人カ日本人カ』（サイマル出版会）など。

この調査の意義

やはり自分の国にいるほうが安心できてうれしい（『自由回答』）という一主婦のことばに、一世の望郷の想いがこもっている。彼女のいう安心とは、経済的な意味ではなく精神的なものであろう。もしそうだとすれば、日本は精神的には安住の地ではないということになる。そういう想いが、一世たちの間には確かに強い。

なぜ日本に来たのか、隠してまで日本人のふりをしたのか、今考えても苦しい。

というほかの一世のことばが、それを裏づけてくれた。この短いことばのなかに、かれの日本での苦い生活体験が見事に圧縮されている。生きるためには、それしか方法がなかったのだ、といいながら、心のどこかで本当にそれしか方法がなかったのであろうか、という反問がおこっている。わたしにはそう読めた。

本調査報告書（以下、本調査と略す）を通読中、わたしはその種の反問をおりおりに直感した。それを感じたとき、正直いってわたしはおどろいた。勿論良い意味において。反問とは、自分たちの歩みを振り返る余裕ができたことの証しであるからだ。それはわたしの読み過ぎとは思わない。わたしが本調査を高く評価するのはデータの群像にあるのではなく、反問の声の響きが聞こえてきたことにある。その声は、伏線の位置に控えてはいるが、確かな手応えを感じた。

これまでのこの種の報告書はどちらかといえば、被抑圧者の抑圧者に向けたデモンストレーションや抗議に傾き過ぎ、硬直で、直截的であった。そのために、被抑圧者自身への反問や反省はほとんど表出されなかった。もし、それが表出されればその分だけ抑圧者を利するという考えが潜在的にあったのであろう。そうした硬直的な姿勢からの脱皮現象が、本調査の行間に強く押しだされている。それは、従来あまり表面にあらわれなかったことだけに、大変重要な変化といってよい。それは、在日同胞が自ら自分の存在空間に強い関心をしめしているということの証しとみてよかろう。自分たちの存在空間が関心事になったのは、80年以後とみて大誤はない。すくなくとも、意識的にその存在空間に強い関心をしめしたのは、80年代に入ってからである。本調査はその段階に入った本格的な作業の濫觴である。わたしはそう位置づけておきたい。

在日同胞という意識のめばえ

さて、在日同胞とは何者なのであろうか。自問自答をいくら重ねてみても、現段階ではその名答を得ることは至難である。そもそも、その問いを自分に向けて発した時期が非常に浅い。在日同胞がそれぞれの政治的信条にしたがって、比較的自由に祖国の南北に往来し、自分のからだで祖国と出会った以後、祖国とのさまざまなギャップを知覚するようになってからのことである。短い祖国での生活体験から、自分がそこでは異他的であるということを直感するようになった。その時期は個人によって多少異なるが、その直感が声になるのは80年代に入ってからであろう。それによって祖国の同胞と同一・一体と思い込んできたそれまでの確認に亀裂が生じ、それが幻想であったことを思い知らされたのである。そこで初めて自分が何者であるかを真剣に考え、自問自答をつづけている。

日本にいる韓国人として本当に自分の国がない。具体的にいえば日本にいても外国人、韓国においても外国人である(『自由回答』)。という答えは、そうした過程から生まれた。祖国の同胞と同一と信じて疑わなかった一世たちが祖国との往来を重ねているうちに、祖国の同胞との間にコミュニケーション・ギャップがあることに気づいたのである。それは強烈なカルチュア・ショックであった。そのショックで、多くの在日同胞は自分が何者であるかを問うことになった。その結果、韓日どちらにも属し切れない、食み出し者に自分を位置づけるものが多くなっている。韓日どちらにとっても外国人だ、という前記の回答はその典型的なものである。

法的には、韓国籍(或は朝鮮籍)であるから明らかに韓国(或は朝鮮)人であるが、精神的にも生活リズムの上からも、祖国に住む平均的同胞のカテゴリーからは大きく食み出す。つまり、よそものなのである。前記のように、一世たちですらそれを痛烈に感じているのだから、二・三世たちにとってはそのギャップはさらに広く深い。もし、そのギャップを意識的に埋めなければ、20世紀をもって今日のような在日同胞社会は終焉を告げるであろう。自然に崩壊し、再生不能な状況を迎える。

定住のはじまり

わたしはそのギャップを60年代に知覚し、それを声にしたが極く小さな小数異見として見過ごされた。それが、この十年来、とくに80年代に入って急速に広がり、在日同胞社会で市民権をうるほどに成長?した。本調査がはじまった83年は、まさにその時期だったのである。その間の意識の変移がデータ — 数字によく現われており、数字を比較し、分析してみると明確にその像が浮かぶ。

1945年の解放時には、勿論そのようなギャップは生じていない。本調査によれば、解放後の帰国の意志の有無に対して、76.5%が帰国を望んでいたという。つまり、三分の二以上が帰国を希望していたというのだ。その数字から、一世たちの故国への熱い想い入れと、強い望郷の念がよく判る。その信憑性に疑問を抱くかも知れないが、それに対する答えが数字で表わされているから、疑う余地がなさそうだ。帰国希望者のどれほどが帰国の準備をしていたのか、という設問に対して、70.4%が準備をしていたと答えている。三分の二強が準備をととのえていたのである。もし、そのとき彼らが帰国をしていたならば、今日のような在日同胞社会は多分形成されなかったであろう。彼らの帰国行動は、未準備のものにとどまらず、様子をうかがっていた他をも誘発し、80%以上が帰国する可能性があったことを容易に推測できる。歴史に仮定は禁物だが、本調査の数字からそれを予測することはむずかしくない。しかし、結果的には諸般の事情 — 多くの場合、祖国の政情と社会

不安 — から帰国を断念した。

そうした状況下での帰国断念は、文字通り断腸の思いであったろう。いったん帰国準備をしたり決意したものたちにとって、経済的基盤は不安定状態に陥り、しかも日本社会全体が失業者で溢れていた時代であるから、食生活を解決することは至難なことであった。それこそなりふりかまわず職をあさり、家族を食わせるために身を粉にして働き、われわれ二・三世たちの多くはそうした環境のなかで生まれ育った。その強靭な一世たちのヴァイタリティが、激しい差別の風波の防波堤となって二・三世たちを守ってきた。その防波堤のおかげで、二・三世たちは厳しい差別を肉感的に直接的に体験していない。その差が在日を考えるときの一世とその後の世代とのギャップといってもよい。そのギャップを、両者が感情的にではなく、歴史的に、科学的に、生産的な手段をもって埋めあう必要がある。その作業を怠れば、在日同胞社会の存続に大きな亀裂を生むことになるであろう。どんなことがあっても、亀裂だけはさけなければならない。そのための方法や手段はいろいろと考えられるが、おたがいに相手の位置に近づいてみることだ。もしいま、二・三世たちが一世のような状況に身を置いたら、どんな行動をとるであろうか。本調査のさまざまな数字を手立てに、それを考えることは可能だ。

無機質な数字を一つ一つ具体化し、そのなかに身を投じてみてはどうか。もしそこで、一世たちとの共同体験がおこれば、それこそ素晴らしい。たとえ実体験はできなくとも、その数字の絵解きはできる。本調査の無機質なデータ群のなかに凝縮されている一世たちの声を、一つ一つ絵解きしながら在日同胞社会を考え分析すれば、在日同胞社会の未来を拓く鍵を発見できると思う。

定住志向化

断腸の思いで帰国を断念した一世たちは、その強靭なヴァイタリティによって食生活を解決し、それなりの経済的基盤を築いたが、望郷の念は断ち切れなかった。しかし、そのかれらもいつしか祖国を定住の地としては考えなくなっていた。

本調査がおこなわれた83年現在の、帰国意志の有無に対する設問に、帰る気がない44.8%、帰りたいがあきらめている24.8%、69.6%が帰国する意志がないと答えている。それに、事情が許せば帰る20.9%を加えると、なんと90.5%が定住志向ということになる。事情が許せばということの具体的内容は判らないが、現実的には帰国する状況にないということであり、そのかれらが帰国できそうな状況が訪れるであろうか、かなり難しいと考える方が自然であろう。その可能性を半半と仮定しても、80%が帰国しないということになる。そのパーセンテージに比べて、将来必ず帰るが 6.2%と非常に低い。必ず帰るという 6.2%を基準にして考えれば、なんと94%が定住の意志をあらわしていることになる。この数字をより正確に知るために、事情が許せばという事情の内容を具体的に設問してほしかった。たとえば、老後とか、経済的な面とか、そして統一といったような。事情が許せば帰るという答えのなかには、願望の部分がかなり高く反映されているように考えられる。

それらの疑問的な部分をも考慮しなくとも定住志向のパーセンテージは非常に高い。しかも、それがノスタルジァに取られている一世たちの統計なのである。このアベレージをどこに設定するか、それは非常に重要で大事なことである。祖国の生活体験のない二・三世に同じような設問に答えてもらったら、そのアベレージは100%に近い数値であらわれるであろう。一世たちも、この先、年々定住志向のアベレージを高めていくであろう。一時的な帰省者は多くなるが、永住帰国は死後祖国の大地に埋もれたいと希うひとたちのほかには、非常に少ないとわたしは予測している。その大きな要因を、わたしは生活リズムの異質感の知覚にあるとみたい。それを知覚するまでに、解放後40

年近い時間の経過を必要とした。その時空間を、在日的にわれわれは分析し、解析しなければ本調査の目的がただたんなる調査、つまり数字的な記録におわってしまうであろう。

本調査をもとに在日同胞全体の定住志向のアベレージを予測すれば、90から95%になろう。わたしはそう予測する。この現実をただたんなる数値としてではなく、現実として認識する時代を迎えているのである。これまでの在日同胞社会の展望は、定住志向の上で切り拓いてはこなかった。日本に定住しながら、祖国に定住している同胞と同じ次元で考え、思案しようとしてきた。解放後40年という時間の経過と、生活空間—日本—への風化を計算に入れてこなかった。計算に入れたくなかったといった方が、より正確であろう。その種の心情的拒絶反応には、もうピリオドを打つべきだ。それに拘りつづけることによって、在日同胞社会が豊かになるという保証はなにもないからである。

定住志向から定住思考へ

本調査の数値は、日本に定住する現実を基点に在日同胞社会の問題を考え、行動しているわたしに、新たなる勇気をあたえてくれた。わたしの思考と行動が非現実的なことでないことを、いみじくも本データが裏づけてくれた。現在の帰国意志の有無も問うた設問への回答で、前記のように日本への定住が優に80%をこえ、拡大解釈をすれば90%をこえるハイアベレージになる。これを定住志向のアベレージとしてとらえるよりも、わたしは志向ではなく定住思考として考えたい。現在は定住をめざしたり、志向するといった時代を通り過ぎ、定住はもっと具体的になってきていると思う。結論的にいえば、定住を基点にした思考が定着しつつあるということだ。それをわたしは定住志向と区別して、定住思考と呼ぶことにしている。

本調査のデータ群を、定住志向者の数値として読むか、それとも定住思考として読むかでは、その対応に著しい差が生じる。わたしは定住思考が大きく働いていると読んだ。ただ、回答者のなかにはことさらそれを意識化していないものもいるようだ。が、すくなくとも、帰国を基点にしていないことだけははっきりと判る。然るに、定住思考による回答とみてよかろう。ただ、本調査の対象者が主に韓国籍であるために、本調査をそのまま在日の全体に適応させるわけにはいかない。が、非韓国籍の在日同胞も、こと定住に関してはほとんど変わらないとわたしは考えている。

わたしにとって本調査によるもっとも大きな収穫は、定住思考時代を告げるデータ群に出会ったことである。それをわたしは在日同胞社会の未来を切り拓くための、もっとも重要な確認事項と考えていただけに、そのデータ群との対面に歓喜勇躍、新たなる勇気を得た。従来、この種のデータをもたないところで、在日の過去・現在・未来が問い語られることが多かっただけに、具体的なデータをえたことは非常に悦ばしい。そこから建設的な論争を展開できるからだ。建設的な論争の育ちにくい在日同胞社会に、建設的な論争を誘発する本調査の企画・進行・完成は、在日の明日を切り拓くための基本資料として活用されるであろう。青年会のみなさんは、本調査を過去帳としてではなく、活用する場を開拓する新たなる情熱を沸きたたせてほしい。日本に定住する在日同胞にとって、民族とはなにか、そして日本とは何かを問わないかぎり、在日同胞社会は歴史の呪縛から脱けだせないことは、もう周知の事実である。本調査を、わたしは歴史の呪縛から脱出するためのテキストとして活用したいと思う。

「歴史を取り戻す運動」という表題は、在日の歴史を探り、記録することにあるようだが、本当の目的は在日の未来を切り拓くためのテキスト作りにあると聞く。そうあってほしい。初志の貫徹を心から期待し、本調査を歴史的骨董品の位置に追いやることのないよう、切に希っている。

李　度　珩 氏

プロフィール

○韓国朝鮮日報社　論説委員。

○1933年、韓国ソウル生まれ。1950年、ソウル工業高等学校五年在学中、韓国動乱勃発で軍入営。1962年、韓国建国大学国文科卒。1963年、大尉で除隊、朝鮮日報社入社。1966年～1967年、ヴェトナム駐在特派員。1974年、外信部次長。1975年～1976年、日本慶応義塾大学新聞研究所訪問研究員。1978年～1985年、駐日特派員赴任。

○著書：『日本の韓国報道は信じられない』(エール出版社)『桜は返り咲く』など。翻訳書：『天皇裕仁』その他。

在日韓国人の渡日及び居住について

在日本大韓民国青年会の画期的な労作である「一世の渡航及び生活史実態調査報告」(以下「実態調査」と略す)を読んで受けるもっとも強い印象は、国家民族の没落と共に起こる「民族移動」という側面である。周知のとおり、我が国は1905年に日本から所謂「保護条約」を強要されたあと、1910年には、売国的上部階層と王室が日本の韓国併合を合法化させている。

そこで、頼り甲斐のない支配層に絶望した韓国の民衆は、より良い生活条件を捜し求め祖国を離れたのである。地理的に日本にもっとも近い慶尚南道出身の在日韓国人が全体の38%にもなり、慶尚北道を合わせると67.4%に及ぶのは、そのような背景を物語っているものといえよう。同じく、中国東北部に接している咸鏡北道の人々は、日本が韓国を併合する為、半島に進出するや近くの間島に新しい民族の活路を捜し求めた。ちなみに、併合直前の1909年現在の満州・間島地方の朝鮮人は、原住民の中国人の数（約２万7,300)を遙かに超える８万2,900余名であったという。

従って、移住先が日本であれ満州であれ、多数の民衆が祖先伝来の土地を捨て他国に新しい生活の場を求めたのは、民族移動史的・経済史的側面から観察をしなければいけないと思う。ローマ帝国に潰されたユダヤ人が世界各国に流浪の旅立ちをせざるをえなかったように、新羅に追われた多数の百済人が日本に流れ込んだように、日本の韓国併合が多数の韓国人を日本または中国東北部に追い込んだのは、まぎれもなく民族移動史的意味を含蓄しているのである。

実態調査によれば、在日韓国人の6.3%％だけが併合から五年の間日本に移住している。併合以後20年目に当る1930年までにも韓国から日本への移住者は全体の20.8%に過ぎない。一番多く渡日したのは1931年から1940年までの間。すなわち、日本としてはそれほど強制的に韓国人の労働力を狩り出さなくてもよかった時期にあたる。また、渡日した人々達も1910年から５年間、そのあとの５年間の渡日理由として経済的理由を54.3%と54.4%を各々挙げている。というのは、日本に近い韓国の貧困層が、ひたすら経済的理由で国を捨て、日本に行き活路を発見しようとしたことを裏付けている。

これは、日本の支配により派生した韓国民衆の貧困という経済的理由とともに、日本の朝鮮統治が構造的にわが民衆にして祖先伝来の土地から消え去るように仕掛けた結果として現われた現象と

もいえよう。日本の軍国主義者たちが、エスカレートさせた戦争の時期、つまり1936年から1940年（日中戦争）と1941年から1945年（太平洋戦争）の間に渡日した韓国人の42.8%は徴兵または徴用によるものと実態調査は明らかにしている。これはまさに「内鮮一体」のスローガンを実現させるために行なわれた日本の朝鮮抹殺政策の一環といえよう。

大抵以上のような背景をもつ在日韓国人は、血統的には確かに韓国人である。しかし、その後理由はともかく、40年以上もの間に生活の根拠地となった、日本という国に対する在日韓国人の心理と感情はとても単純明快に裁かれない。だからといって日本に血の繋がりをもたない彼等は、韓国人に対しても日本人に対しても常に二重のコンプレックスを抱くことになる。つまり在日韓国人は外国人である日本人に対しても、同胞である本国人に対しても同じく、ある種のコンプレックスから脱しえないのである。

一世・二世あるいは三世を問わず、日本に住む事を余儀なくされたのは変わりない。

しかし、日本人は彼等を同族としては扱ってくれない。と同時に、本国の人々も在日韓国人を同胞と見るよりは「準日本人」のような視角で見たがるのが常である。従って、在日韓国人は両方からある種の差別感、疎外感ひいては被害意識までも感ずるのではないかと思われる。しかし、日本人も韓国人もそれらに対する直接的な責任は負いかねる。

そのような感情をとり除くため、韓国と日本の間では他の両国関係とは違う特別な配慮と制度的装置を一応備えてはいる。韓日両国間に結ばれている「在日韓国人の法的地位」に関する諸約束がそれである。

しかし、1965年韓国と日本との間の基本関係に関する諸条約の中のひとつとして結ばれた「在日韓国人のための法的地位協定」は、彼等が日本に来て在住せざるをえなかった諸条件に照らしてみると、非常に不公平かつ不利なものである。まずその内容を大別すると、次のような四項目から成っている。

1、在日韓国人に対する永住権の許可

2、強制退去要件の規定

3、義務教育、国民健康保険、生活保護規定

4、本国帰還者の携帯または送金の額を一万ドル以下とする規定

この協定は極めて制限的なものである。韓日基本条約が結ばれた当時の韓国の政治的経済的に不利な諸条件が、そのような不利な協定を派生したのはいうまでもない。まず、在日韓国人の日本での永住権を「許可」事項として扱っているのは、日本の官憲が、常時在日韓国人を監視・監督の下に置くということを意味する。第二に、第三世以下の法的地位に関しては何にも触れていない。第三に、5年という有限的な申請期間が過ぎると協定永住権希望すらできないようになっている。

以上の諸制限以外にも数多くの差別的事項は「民団」がすでに出した「差別白書」に詳述されているのでここでは省くことにする。

創氏改名・日本語使用・神社参拝強制について

実態調査によると、回答者の74.5%が創氏改名を行ない、53.9%が日本語を使ったことになっている。日本政府は、1982年夏、教科書問題が取り沙汰されたとき、かつての創氏改名と神社参拝は奨励しただけであり、日本語は朝鮮語と共用した。と弁解したことがある。これはいまだに変わらない日本政府の公式立場でもある。

しかし、実態調査は、創氏改名を行なった 824人の在日同胞の45.6%が「やむをえないことだと

思った」と答えている。

日本語使用者（871名）の37.3%、神社参拝者（248名）の41.5%も「やむをえないことと思って」日本語を使い神社参拝をしたのである。

つまり、日帝統治下の在日韓国人の大多数は「仕方がない」という一種の諦めの感情で日本の構造的強制装置に順応したのである。その中には、屈辱感を抱いたとか、憤りを感じたとか、あるいは何とも思わなかったなど、様々な感情と気持ちが現われている。

しかし、確かなのはその感情や気持ちが、軍国主義を背景とする日本の「内鮮一体」政策の一環として推し進められた創氏改名・日本語使用・神社参拝などに、逆らうことのできない状態で湧いたものであるということだ。日本の敗戦により、軍国主義は一応清算されたかにみえる。しかし日本の支配機構というものは、第二次大戦後の40年余りを除くと、鎌倉時代以来、世界にその類例をみられないほどの「武装的・軍隊的集団」のようなものであったといえる。

山本七平氏に言わせれば、市民社会と軍隊とが峻別されている西欧（西欧以外の社会でもその両者は区別されている）では各々別々の法律・道徳・規範で律せられる。ところが「武装的・軍隊的集団」であった日本という武家社会は「軍法」が世俗法の中に混入して、日本のすべてを様々な面で律して来たところに、日本社会とその社会的規律・規範の特色があるという。

だから、日本の社会の組織のみならず、すべての面に「軍隊的秩序」が見られるのは当然であると山本氏は述べている。軍隊的秩序の普遍化は「組織的家族」という日本的社会特有の特徴を生みだしたともいえよう。

ところが、国破れて流浪の旅に立った韓国の人々が、そのような日本社会の中に放り込まれたとき、彼等はとてもその組織的家族社会の構成要員として受け入れられなかったであろう。と同時に、韓国人の方からも排他的な日本社会に織り込まれようと積極的に努力しなかったようにみえる。日本に移住した韓国人の大部分は、たとえ彼等が無識（無学であるという事の韓国語的表現〈編集部〉）で貧困だったとはいえども、固有の言語と血統と氏名を誇りにしていた。日本に行ったのは貧困打開のための活路を捜し求めることにあったとはいえ、そこで名前を変え、日本語を使いながら神社参拝に行く気にはとてもなれなかったであろう。

日本語を積極的に使った人々の38.3%、相手によって日本語を使った人々の49.9%が各々「やむをえないことだと思った」ということは、日本の一般社会に漲ぎっている「軍隊的秩序」に圧倒されたからではないかと思える。日本社会の「軍隊的秩序」というものは戦前に限る状況ではない。就職上の差別をはじめとするあらゆる種類の行政的差別は、日本特有の組織的家族を生み出した軍隊的秩序の普遍化によるものである。

だから在日韓国人の大半は、日本の支配層が法制的な強制こそしなかったが、状況的に日本人に順応せざるをえなかったのであろう。そのような状況は戦後41年たった現在でも変わっていないのである。

従って在日韓国・朝鮮人の中にはいまだにその名を日本式に呼び、日本語を日常的に使っているのは、日本社会特有の軍隊的秩序による組織的家族集団の排他性によるものと断定せざるをえない。

しかし、そうかといって在日韓国人の通名・日本語使用が合理化されるのではないことを次項で述べることにする。

民族教育

在日韓国人の大多数は、彼等の子女に民族教育を施しているようにみえる。特徴的なのは、比較

的若い層と学歴の高い人ほど民族教育に熱意を持っているということである。

これは頼もしいというか、非常にいい傾向だといえる。というのは、一世よりは二世が、低学歴より高学歴の人々が自国に自信をもっているからである。無学あるいは高等小学校以下の学歴しかもたない一世は、没落した故国に対し懐かしさとかノスタルジーは抱くかも知れぬが、民族的自負心が強いとは言えまい。それに比して五十代以下の二世は徐々に自国の経済発展と国際社会での発言力の高揚にともない、ある種の自負と自信をもつようになったといえよう。

しかし、実態調査を一歩踏み下がってみると、本国人からの目からはさほど好意をもって評価できない内容にぶつかる。二つの面で失望せざるをえない。

まず第一に、言葉の問題である。「家庭における民族教育の内容」をみると、子女達に言葉を教えた人は51.7%に過ぎない。在日韓国人は言葉よりも礼儀作法（64.3%）食べ物（64%）祭禮（60.6%）などを重視し教えている模様である。

しかし、言葉は思想の根本であり行動の指針でもある。言葉は一応あるいは便宜上属地主義にしておいて、礼儀作法とか食べ物だけを故国のもので教えるということは、中身はにせものにしながら包装だけをそれらしく装うのと変わりがない。東ヨーロッパ等に散在したゲットーというユダヤ人の集団居住区では、死語化したヘブライ語と現地語とを混成したイーデッシュ語を作り使用したことがある。

しかし、1948年彼等はイスラエル国を建国しながら，世界50数ヶ国に散在しているユダヤ人の帰国に備え、死語化したヘブライ語を再生・活用しはじめた。建国当時は英・仏・独・露国語が混用されたイスラエルも、今はヘブライ語がすっかり国語として定着している。

在日韓国人が、もし“韓国”を彼等の祖国と名乗ることを望むならば、まずはその言葉を教育させるべきである。言葉は魂であり思想の根本であるからである。母国語が堪能であると礼儀作法・祭礼もおのずと解するようになろう。

ある者はこういうであろう。在日韓国人は現に日本という社会で生きていかねばならぬと。しかし、焼き肉屋の主人も従業員も日本語が上手で結構ではあるが，中国料理屋の人々は必ずしもそうでなくても、日本での金儲けや商売は韓国人に優るとも劣らない。又、ある者はいうかもしれない。韓国語はむずかしいと。しかし、そのような言い分も成人になって韓国に来て学ぼうと努力し、韓国人そっくりの韓国語を覚えていった数多くの日本人には通らない理屈になろう。とにかく、言葉を覚えずして、その国に所属することを名乗るべからずといわざるをえない。

第二に民族学校の問題がある。実態調査によると、応答者の25.7%だけが子供や孫を民族学校に通わせたという。応答者全体（1,076名）の72.3%が民族学校にそっぽを向いたことになる。これはどういうことか？

民族学校にそっぽを向いた人達（778名）の言い訳の中には、「地理的事情のため」（33.2%）とか、「教育内容が問題だから」（17.2%）というようなものがある。実態調査はそれらの理由を、“民族学校の減少、進学競争の激化という日本社会の近況を反映している”と解釈している。が、より根本的な理由は韓国人のコミュニティ（共同生活体）形成能力の欠乏にあるとしか思えない。

韓国のソウルに在住する日本人の数は，東京に住む韓国人の数より遙かに少ないが，それでも一人漏れず立派な日本人学校に子供達を通わせている。ソウルの日本人学校は都心（日本人の住居の多い）から15～16kmも離れているにも拘らずである。

ソウルに比べると東京韓国学校は理想的な所に位置している。東京都内の新宿区の牛込は東京のど真ん中なのである。それにも拘らず、少なくとも4～5万にのぼる東京在住在日韓国人の中で、

子供を韓国学校に通わせているのは100~200名を越さない。初中高合せて500を越さない学生の大半は本国の駐在員の子女である。京都にも立派な韓国人学校ができて久しい。が、事情は東京よりもひどい。立派な施設に比べて人間が集まらないのである。

民族意識の問題である。自国の歴史と文化と言語・風習に対する誇りをもつことも重要である。が、なによりも重要なのは、民族の魂であり、思想の根本である母国の言葉を家庭から覚えさせるべきである。自民族に対する誇りは、その言葉に対する自重自愛精神なくして芽生えるはずがないからである。

池　明　観　氏

プロフィール

○徳成女子大学教授、東京女子大学客員教授
○1942年、韓国平安北道生まれ。
○韓国・国立ソウル大学文理大宗教学科、同大学院にて宗教哲学を専攻。徳成女子大学助教授、ソウル大学文理大講師、『思想界』主幹などを経て、現在に至る。
○著書：『流れに抗して』『アジア宗教と福音の論理』『韓国現代史と教会史』(以上新教出版社)、『韓国文化史』(高麗書林）など。

アイデンティティーを求める新しい問いかけ―なぜ新しい問いなのか―

1985年の「青年の船」の中で、在日韓国人の新しいカップルの「洋上結婚式」が行なわれた。「青年の船」について報告した『羅針盤』はこの結婚式に言及する文章をつぎのような一節で始めている。「在日韓国人の婚姻状況は1976年を境に、同胞同士の婚姻率が、日本人との婚姻率を下回り、今日に至るまで低下の一途をたどっています」

このような状況であるならば、その中で在日韓国人、特に若い人たちはこれからどう生きて行くべきなのか。このような問いを提起するのはあたりまえである。それは隠蔽してしまうことではなく、大胆に直面して考え抜かねばならない現実である。

在日韓国青年会中央本部女子部の現代感覚溢れる美しいフォト・マガジン「ミレ」第2号によれば、若い女性たちは「国籍って何だろう？」と問われて、おじ気もなく「私の場合は〈韓国籍〉だから韓民族で、〈日本国籍〉だから韓民族じゃあないということではない」(13頁）と答えている。それでもいざ「帰化」となると迷ってしまうもようである。そこでこの人生をどう生きて行くかが問題にならざるをえない。

一方考えて見れば、この悩みまたは迷いは、苦しいものではあっても、かけがえのない財産なのかもしれない。ユダヤ系のアメリカ人女性であり、偉大な政治哲学者であったハンナ・アレントは、抑えられている少数民族にとっては「おまえは誰であるか」というアイデンティティーへの問いが起こった時、唯一の答えは、彼女の場合では、ただ「ユダヤ人」というものであったと書いた。どのような人間であるか、いかに生きるべきかという問いがわいてきた時、われわれはまず韓国人であると答え、韓国人としてどう生きるかを考えざるをえない。差別され、抑圧されればされるほど少数民族のアイデンティティーへの問いはこのように民族的に答えられるのである。

アイデンティティーを常に問わねばならないということは、人生を安易に生きていないことを意味する。その意味では日本において韓国人であるという悩みは貴重な財産であるともいえるわけである。しかしそのようなアイデンティティーへの重大な問いが、韓国人であるとしか答えられないというのは、人生がそれだけせばめられていることを意味するともいえよう。まずは自分のアイデンティティーを例えば、芸術に向くものとして、教育または経済などに向く者として捉え得ないから

である。しかし韓国人としてのアイデンティティーは、つぎの段階ではそのような方向を指向しなければなるまい。例をあげれば在日韓国人として芸術の道を行くとすればなどと考えるわけである。アレントは差別のある中で、自分は民族を離れた、または越えた存在であると自負することは、空想的世界への逃避にすぎないといった。それは不誠実な人生を生きることである。

過去への率直な問いかけ

『羅針盤』を見ても「ミレ」を見ても、印象的なのは、在日韓国人の若い世代がその悩みにもかかわらず、一世よりはるかに明るくオープンであり、事実に直面して恐れることなく、率直であるということであった。これは「一世の渡航及び生活史・実態調査報告書」「我々の歴史を取り戻す運動・自由回答」の中にも同じように流れている精神であると思える。

「自由回答」の方をみると、勿論そこには暗い物語りが満ちている。「炭坑に入った人は、逃げることもできなかった。警察の人より炭坑の人がもっと怖かった。逃げる人もいたが、そういう人は叩かれた。炭坑は刑務所と一緒や」というような体験である。しかしそこには「無銭飲食を覚悟」で「旅館に宿泊し」後日事情を話して、日本人の旅館の主人に助けられ「その温情にむくいるように一生懸命」働いたという話もある。また「特に忘れられないほどの差別体験はなく、自らの誠意を示すことによって、国籍の違いはあれど信頼し合えるものだと感じた」という回答もある。そこで「実態調査報告書」も「差別体験」を持っている人は全体の63.3パーセントであると報告したのであった。

このように若い在日韓国人たちは、ただ一世たちの体験は暗いものであり、日本人はすべて悪い人々であったと決定してしまうことにこの報告書を使おうとはしていない。

そこで「解放を迎えた気持ち」という統計においても「うれしかった」が47.8パーセントであり「感激した」が19.1パーセントであったことを示し、わずかではあるが「悲しかった」「残念であった」と答えた人もいたと報告する。そしてそれは「日本の教育を受けたため意識が薄れていた」せいであったと回答者は答えるのである。

「実態調査報告書」も「自由回答」もその誠実性のために高く評価されねばならない。今まで在日の民族団体がこのようにどのような偏向もなしにわれわれのおかれた現実をそのまま把握しようと努めたことがあるだろうか。そこで「自由回答」は「解放後、民族団体に参加しなかった方」に「その理由」などをたずねたが、そのような項目においても、民団への批判も、青年会への批判も率直に受け入れている。勿論そこには「朝総連は同胞の車を盗み、それを売り飛ばして飯を食ったりしていた」というような回答もある。しかしそれとともに「民団と総連に別れて、どちらも政治的な意味あいを強くしてきたので統一によくないと思った」とか「当時は民団側と総連側の抗争が激しく、物を投げたりしていた。この当時から民団に入っていた人はあまりないと思う」ということもためらうことなく公表している。

「実態調査報告書」も「自由回答」もこのように率直であることには、実に多くの意味がこめられていると言えるのではなかろうか。若い世代は事実をして語らしめるという原則に立っているのであろう。歴史の流れをくい止めることはできない。その流れの中で在日韓国人の生き方を求めねばならない。そのためには事実を事実として認め、そしてその上に立っておたがいが自由な対話を交わしながら、未来を模索して行かなければならない。このような新しい姿勢が胸を打つのである。若い世代が大きく成長したのであろう。もう自信をつけてきたのではなかろうか。

新しい可能性に向けて

「実態調査報告書」によると「渡日理由」は男性の場合「経済的理由」が44.1パーセントであり、「徴兵・徴用」が19.9パーセントである。従って本国における最終学歴「無」が54.5パーセントにものぼる。そこで一世たちはこのように語るのであった。「当時のうちらの生活いうて、そりゃ苦しかった。とにかく苦しかったな。いっぱいあるけどな、話したら涙でるわ。お金もないしな、米を買う金もないしな。よう働いた。死ぬほど働いたわ」

このような一世の時代はもう終ろうとしている。高等教育までうけ、経済生活においてもそれほど困窮していない世代が育ってきた。そしてこれから在日韓国人はどのようにこの地、日本で生きて行くべきかを考えるのである。

文化は真空では起こらない。今、日本の中で教育の機会を得た新しい世代はきっと一世とは違って、この地において文化的な営みを求めて為すであろう。「お金もないしな……死ぬほど働いたわ」とはいわないかもしれない。ただ稼いで金を貯えるというよりは、文化をその生活に取り入れざるを得なくなるだろう。

今このように新しい現実的な生き方を求めながら、「外登法改正への闘い」を展開しているが、それは若い世代であればこそ取り上げるようになった課題であろう。またこのように実態調査を展開したのも、そのような新しい生き方が必然的にそれを要求したからであろう。今どのように生きるべきか、どのように明日を展望しなければならないかと問うならば、それは必然的に過去に向けて問いを投げかけねばならない。

あなたたちにとって日本とはどのような国であり、在日とはどういうものであったか。あなたたちにとって韓国とはなんであり、それと今までどのようにかかわってきたか。あなたたちにとって子どもたちである、われわれはどのような存在であったし、われわれに何を期待したか。あなたたちの在日の生活のために、在日の民族団体はどのようなものであったか。今後そのような民族団体はどうあるべきか。このような問いを問わずしては、若い世代が新しい現実と未来に対処することはできない。「実態調査報告書」と「自由回答」はこのような問いかけに対して答えるものである。それはいかに小さくとも確かに新しい時代への出発点であると思える。それは在日韓国人史における一つの転機を意味するのではなかろうか。

特に在日韓国人を結集させる運動であるためには、ありのままの現実に直面する誠実性と勇気を必要とする。そのためにこれらの報告はなによりもオープンで真実なものであろうとしたであろう。そのように開かれているならば、多くの人びとが信頼をよせ、それに向けて結集してくるであろう。そこに在日韓国人のすばらしい共同体も生まれよう。

「自由回答」を見ると「今後青年会、あるいは青年達に望むこと」をたずねられて、一世たちは口をそろえて「頑張って欲しい」「しっかりやってくれ」と訴えた。その一人は「青年、若い人は光り輝く宝石なんだ。私は民族の自覚を持って活動している君らを見るとまぶしいくらいだ。ますます多くの青年が輝いて太陽がいらなくなるほどにしてほしい」とまで叫んでいる。この報告書においてはじめて、このように一世と若い世代が心を強く通わせたのかも知れない。

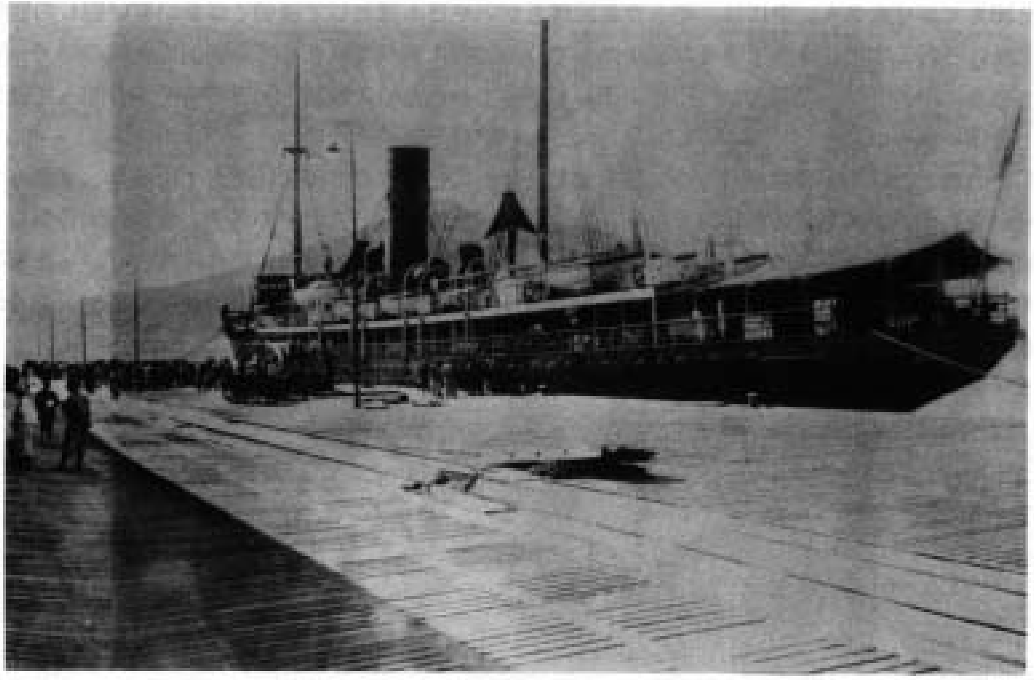
未来へと勇気を持って進むときには、常に過去とも強力に結ばれるものである。民族的自覚とは具体的には、またその第一歩としては、父と母とを結び息子と娘とを結ぶのである。そのためにユダヤ民族は常に祖先の名前を思い起こし、その祖先が未来への祝福の源泉であると思った。

今度の「実態調査報告書」と「自由回答」を読んで、私自身も大きく励まされた。これらの文章

は在日韓国人の歴史に長く残るであろう。これを出発点にして、一世の体験の聞き取りや在日韓国人史の資料収集と編纂など、若い世代の手で為し遂げられることを望んでやまない。アンケートや「自由回答」に答えた一世たちとともに、私も青年たちの働きに期待して、今後も彼らに注目して行こうと思う。

3. 証　言　編

第1章　プロローグ



① 数多くの同胞が釜山から渡航していった（1930年頃）

今回の調査に際して、私たちは今までのかつて語られ表された同胞史が極めて政治的で特定のイデオロギーの立場に立ったものか組織的な視点に基づいたもの、もしくは個人の立心出世のサクセスストーリー物がほとんどであることを感じていました。その中で特に私たちが気になったのが、在日同胞、特に一世の姿の見方、視線が憐愍的で、ただただ歴史の狭間に呻吟する虐げられるままの同情すべき人たち、といった類いのものでした。たしかにアボジ・オモニたち一世の歩んだ道のりは、苦闘に満ち満ちたものであり、歴史のひずみに翻弄され続けてきたと言えます。現時点にあっても、教科書問題や現職の文部大臣の暴言、厳然と存在する差別や偏見、南北分断の状況等を見る時、まだ一世の苦悩は続いていると言えるでしょう。しかし私たちが平素知る一世の姿は、逞しく楽天的で、したたかにして大らかな姿です。文字通り裸一貫で、異国にあって逆境の中を生きぬき、今日の在日同胞社会を築きあげてきた礎の世代としての一世の実像です。この一世の姿を、実像を、歩んだ道のりを一世の子である私たちが自らの手によって浮かびあがらせ、後に続く三世、四世に引き継いでゆこうとして、今回の調査に取り組んだのです。市井のごく普通の一世のアボジやオモニの姿や生き様を残してゆこう、政治的な色付けをすることなく、ありのままを記してゆこうと設問を設けました。そして単なる数値やデータ群では知り得ない肉声をも集めてゆきたいということで、自由回答を設けたのです。

全部で18項目の設問が設けられアボジ・オモニたちに語ってもらいました。何分、お年を召した方を対象にした調査であったので、聞き取りにくい場面が多々ありましたが、一世の方々は、元気に答えてくれました。その証言内容を質問別に編んだのが本編です。編まれた証言は、ほとんど手を加えておりません。中には、明らかな記憶ちがいや日本語として適切ではない言い回しの箇所が見受けられますが、あえて手を加えませんでした。例え適切ではなくても異国の逆境の中で一世たちが身につけてきた結果としての言い回しを残しておきたい、所謂、一世の喋り方を知って欲しいとの願いからです。

この章では「Q：渡航から今日に至るまであなたにとって最も印象に残っている事」を語ってもらいました。1900年代の前半から中半期を生き、植民地支配、異国での苦労、民族差別の悔しさ、戦争のやるせなさ、祖国の分断等といった苦しみと民族の解放、運動に携る充実感といった喜び、そして極めて少数であっても、韓国人、日本人を問わず人間を信ずることの素晴しさが、数々の無名のアボジ・オモニの証言から浮かびあがってくるのです。

質問Q：渡航から今日に至るまででであなたにとって最も印象に残っていることをお話し下さい。

② 歴史の激動を生きぬいてきたアボジ・オモニ

北海道 男 59 忠南 '42 ・特に印象はない。1日1日生きることが大変だった。これからは、若い時には苦労したから少し楽をしたい。綺麗に生きたい。人に迷惑をかけない、卑怯な事をしない、生き方をしたい。

北海道 男 56 全南 '40 ・今でも日本から差別や虐待された事が頭から抜け切れない。最近でも私の妻が入院した時に、日本人なら与えられる色々な権利を韓国人だからということで与えないという事があった。

北海道 男 59 忠南 '42 ・日本で解放を迎えた事に、とても優越感を感じた。その事が一番の思い出だ。

福 島 男 65 慶南 '42 ・各地において仕事を求める場合、韓国人として日本人よりの差別である。そのため、自分の生活を自分なりの方法で求めることであった。

東 京（不明） ・ただ苦しかっただけ。焼夷弾が落ちてきて、防空壕に逃げた事などは、今でも思い出す。

東 京 男 62 済州 '31 ・姉が大阪の空襲で焼け死んだこと。

東 京 男 69 京畿 '34 ・民団との関わりの中で、この10年間自分なりに最善を尽くしてきたが、全然むくわれた気がしない。それには自分の責任もあったと思うが、民団の中心となっている人たちの姿勢に問題を感じることが多々あっ

た。もっと皆、人のために、在日韓国人、同胞のために徹する姿勢が必要なのではないか。互いに評価し合うなど助け合うことが必要である、という気持ちが、残念だったこと。

東 京 男 65 全北 '27 ・解放の時、同胞と見たらお互いにあり金をはたいて飲み回って、解放を喜びあったこと。

東 京 男 62 慶南 '42 ・戦争中の苦しく恐怖に満ちた生活。

東 京 男 66 済州 '36 ・本妻を亡くして、その時に葬式代もなかったこと。

東 京 女 56 済州 '42 ・日本にいる韓国人として、本当の自分の国がない。具体的に言えば日本にいても外国人、韓国においても外国人である。

東 京 男 70 慶南 '31 ・神田事件で総連系の人に腹をさされたことが忘れられない。

東 京 女 68 慶北 '31 ・東京大空襲のショックが一番大きい。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・日本に渡って、一番最初に仕事につく時が一番辛くて、印象に残っている。今の土方は昔の土方に比べて本当に楽だと思う。

千 葉 男 64 慶南 '39 ・日本に来て、特別印象に残っている事は、戦前の苦しい事の繰り返しである。

千 葉 男 69 慶北 '37 ・親や妻の死が印象に残っている。本国か、畳の上で死なせたかった。

千 葉 男 65 済州 '35 ・戦争中、皆が倒れて行くのが、印象に残っている。

千 葉 男 58 忠北 '42 ・日本に渡って来たことは、私の人生の大きな不幸であるということ。

千 葉 男 66 慶北 '33 ・日本人にバカにされた事が悔しいし、悲しい。

千 葉 女 64 全南 '44 ・差別された事、解放時、そして、李承晩大統領の国外脱出と朴正煕大統領の暗殺。

千 葉 男 65 慶南 '40 ・一旦帰国した時、それまでの財産を捨てたこと。

千 葉 男 63 慶南 '37 ・良いこともあったし、悪いこともあった(沢山有りすぎる)。当時、日本人は、砂糖、正月には餅米もたっぷり、配給されたが、韓国人には、3分の1もくれなかった。

茨 城 男 53 忠南 '44 ・清水建設に勤務し、日本の大企業の日本人の好意で、学校に行く金を出してもらった事に対して感謝、祖国の分断によって生き方が変ってしまったと思うぐらい分断のショックは大きかった。

茨 城 男 57 慶北 '41 ・封建社会から近代社会への時代の流れの中で人権尊重が叫ばれたり、男女平等など、法的ルールが確立され、日々人間社会が発展して来たこと。

茨 城 男 51 慶南 '45 ・祖国独立。

西東京 女 66 慶南 '29 ・会社の人(未亡人の主人で色々面倒見てくれた人)が一番印象に残っている。今はもう亡くなっている。

西東京 女 72 慶北 '28 ・とにかくその日その日の生活が大変だった。子供が6人いたので食べるのが精一杯だった。

西東京 女 66 慶南 '36 ・特にない、いつも同じだった。家族皆一緒に居られた。

西東京 女 59 慶南 '37 ・生活が苦しかったことしか覚えていない。

西東京 男 64 慶北 '42 ・終戦の八・一五、日本が戦争に負けた事が一番嬉しかったし、その時の事が今も、強く印象に残っている。

西東京 男 69 慶北 '28 ・戦争中空襲を受け、子供を抱えて逃げ回っていた事が印象に残っている。

西東京 男 63 忠南 '40 ・日本人に差別され、殴られた事が一番記憶に残っている。

西東京 女 70 慶北 '31 ・特にないが、とにかく苦労した事だけ記憶にある。ただ子供が嫁をもらって、孫が出来た事が嬉しかった。

西東京 女 78 忠南 '30 ・戦後に随分苦労した。それまでは別に差別もなく、仕事をしてこられたが、戦後は仕事も余りなく、一人娘も亡くなり、夫や従兄弟も亡くなってしまった。よく主人が飲み遊びをしたものである。今は、役所から手当をもらって生活している。

西東京 男 65 慶南 '41 ・家族がみんな元気で仲良く暮らしていること。

西東京 女 72 慶南 '30 ・渡航から現在までが "生活苦" という状況で、この "生活苦" という言葉だけが、脳裏に焼き付いて離れない。

西東京 男 66 忠北 '37 ・なんで日本に来たのか、隠してまで日本人の振りをしたか、今、考えても苦しかった。

西東京 女 68 忠北 '42 ・韓国人でありながら堂々と言えないことが、納得出来なかった。なぜ苛められながら暮らさなくちゃいけなかった。

西東京 女 59 慶南 '39 ・昔は本当に苦しかったが、今はとても幸せでよかったです。

西東京 男 65 慶北 '38 ・真面目にやって来て信用を築けたことが良かった。

西東京 男 60 全北 '38 ・18才の頃、貨物の運転手の助手をして15円の給料で途中で免許をとり、運転手をしたところ 100円に昇給したのが一番印象に残っている。運転手様々だった。嬉しかった。

西東京 男 72 慶南 '40 ・広島の原子爆弾の凄さが最も印象的だった。

西東京 女 61 慶北 '41 ・日本が自分の国だったらいいと思う。

西東京 男 62 慶南 '39 ・日本において自分たち同胞がこれだけ発展させてきたにもかかわらず、登録をしなくてはいけないということに憤りを感じる。

西東京 男 57 全南 '40 ・生活苦が一番最初に頭に浮かぶ。戦中戦後、食うに食えずにいた毎日。子供を満足に上の学校に上げられなかったこと、等々が今でも心の底に浮かび上がって来る。

西東京 男 57 全南 '39 ・戦争によって家族がバラバラになり、その事により兄弟を亡くし、今ではもう本当の肉親が居なくなってしまったので、その時の淋しさが忘れられない。

西東京 男 72 忠南 '40 ・友に恵まれていた。

西東京 男 62 済州 '43 ・食べること（生活）に忙しかった。

西東京 男 59 全南 '42 ・これといってないが民族を汚すことだけはしないように心がけてきた（生活全てにおいて）。

西東京 女 56 全南 '27 ・子供が多く、食べるのも食べさせてあげられなかった事は子供達が不憫だった（老人もいたし余計に）。

静 岡 男 64 慶北 '38 ・八・一五。当時、日本に居ながら、日本人が悲しみに沈んでいることなど一切忘れて心から祖国の解放独立を喜んだこと。

愛 知（不明） ・日本で生活していて、八、九年程前に裏で豚を飼っていたが、洪水で

一帯が海になり、豚を助けようにも助けられず、自分自身の命も危なくなったので何も持たず、屋根へ逃げた、というのが一番の思い出です。

愛 知（不明） ・しいて言えば、民族解放と長女の結婚だろうか。

愛 知 女 67 慶南 '24 ・働いても働いてもお金は少ししか貰えず、食べられなくて大変苦労した。

愛 知 女 65 慶北 '43 ・戦争中、みそ汁を飲んでいる時、この中にご飯が入っていたらどんなに美味しいだろうと思ったこと。

愛 知 男 58 慶南 '40 ・日本の敗戦が一番印象に残っている。

愛 知 男 60 慶北 '43 ・私の妻は日本人で妻方の親戚から凄い反対があったが、それを乗り越えて日本人である妻と結婚したこと。昨年、妻を連れて本国に帰った時、私の親族から祝福を受け結婚式を挙げたこと。

愛 知 男 77 忠北 '28 ・日本に渡って来て仕事をしている時に、母が亡くなりました。しかし、その当時許可がなければ国へも行けなかったし、仕事をしなければ食っていけなかったので、母の葬式に出られなかったことが一番辛かった。後は、苦労したことばかりです。

愛 知 男 65 '42 ・昔に比べると世の中が平和になり、韓国も発展した。苦しい時もあったが、国が良くなったことが、一番嬉しい。

愛 知 男 73 慶南 '28 ・南北分裂後、私の家の近所の昔からの友だちが、殆ど総連に入ってしまった。それが、理由で彼らと仲が悪くなり、口も聞かなくなった。それが悲しい。

愛 知 男 71 慶北 '34 ・米を買い出しして帰る途中、警察に質問され、食うものにも困る時代なのに、買い出ししてきたわけがない、盗んだ物だと言って、手錠をかけられ、警察の本署まで連れて行かれたこと。

愛 知 男 74 忠南 '26 ・今までにいろんな苦労もして現在に至ったが、本国が統一できなかったということ。

愛 知 75 慶北 '30 ・日本人にバカにされたり、苛められたりした悔しい思い出が最も印象に残っている。

愛 知 男 82 慶北 '16 ・鋳工場を経営して来て人を使ったり、物価の変動が頭を痛めたりして、難しかったなぁと思った。小さい頃から老いるまで仕事一筋に生きてきたので、その他の事は別にない。

愛 知 男 58 慶北 '39 ・民族解放の時の喜び、それと同じように日本で受けた差別体験による屈辱感。

愛 知 男 60 慶北 '40 ・徴兵されて生きて帰れたこと。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・私が学生時代、下宿の部屋で小さい頃、覚えた李白の漢文を書いていると、特高警察が来て連行されてしまった。熱海署で同じ韓国人のヤミの焼酎などのスパイをしろと命令されたが、自分は韓国人の友達は1人もいなかったので断った。

愛 知 女 60 京畿 ・終戦後、先に述べたように父と弟と離れ離れになったこと。

愛 知 男 62 全南 '41 ・戦時中は、徴用されるのが嫌で逃げ回ったものだ。解放後も私は字が

書けたので、いつも特高刑事がついて回った。コーヒー屋に入っても刑事が隣りに座っていたので落ち着くことも出来なかった。私の親戚が少し共産活動をしたことがあったのでスパイと勘違いしたのだろう。

愛 知 女 65 全南 ・組織活動により、大使館が見れたり、東京婦人会大会に出られたり有り難く思った。今でも朝、韓国のラジオを聞いているが、同胞同士の殺し合いを悲しく思い、韓国のほんの小さな出来事も見逃さずにしている。

愛 知 男 62 慶南 ・特にない。兵隊に行く。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・質問Lに明記した解放時の気持ちが一番印象に残っています。

愛 知 男 57 慶北 '42 ・無我夢中で仕事をして来た事だけです。

愛 知 女 56 京畿 '45 ・家を新築しようと思い税務署へ融資相談に行った時、税務署に「あんた達は、韓国人だろ、帰るところがあるくせに日本で家を建てるのか」と言われた。その時「あ〜、やっぱり経済的に豊かになってもやっぱり、ここは私達の国じゃないんだな」と悔しかったが、逆にそれを聞いてファイトも湧いて来た。

愛 知 男 60 慶北 '38 ・日本に来て今日まで唯一の楽しみは、国へ帰ることである。帰ると言っても永住帰国ではないが、年に五、六回帰り兄弟に会うことが一番嬉しい。しかし、この先自分はどうするのか全くわからない。帰国したいがそうもいかない。死んでから国へ骨を埋めるか、日本にするのか、もし国へ埋めたら子供達は来てくれないだろう。この先どうしたらよいのだろうこんな悲しいのは日本人のせいだ。

愛 知 男 60 平北 '44 ・好景気だった時代の事くらいか。

愛 知 男 76 全南 '28 ・国から母親が危篤状態にあるという電報を受け、横須賀の特高警察の内鮮係へ行き、国へ行く許可をもらおうとしました。しかし、係の人は「兵隊達が親が死んだからと言って国へ帰って来れるか」と言われ、許可されませんでした。そしてその後、すぐ母親が亡くなりました。今でも忘れられないことです。

愛 知 男 71 慶南 '37 ・いつも頭の中にあるのは故郷のことである。

愛 知 男 66 慶南 '40 ・口では言えない程苦労した。今になって息子達が親孝行してくれるのが一番嬉しい。

愛 知 男 72 忠南 '27 ・朝連を苦労して結成させたときの喜びだ。多くの朝鮮人が集まり泣き続け、万歳を繰り返し大騒ぎをしたものだ。それを総連に取られたのが悔しい。

愛 知 男 79 慶北 '31 ・日本人からバカにされたことがやはり一番印象に残っている。

愛 知 男 73 慶北 '28 ・米が1斗1円二、三十銭の頃に、約2万円近くもっていた。そしてその金を持って韓国へ行き商売を始め雑貨屋を開いた。しかしつけ売りが多くなり、そのうち経営がままならなくなり店を手離し、日本へ帰った。

愛 知 男 75 慶南 '27 ・75才になれば悲しかった事も、辛かったこともみんな忘れてしまった。思い出すこともしたくない、あとは死ぬのを待つだけだ。

愛　知 女 61 慶北 '40 ・「苦労した」ということだけ。

愛　知 女 80 慶南 '32 ・一人息子は韓国にいますし、夫とは殆ど同居していませんでしたから、とても寂しい毎日でした。でも女手一つでここまで来たことをとても誇りに思っています。印象に残る事と言っても思い出せばきりがないほどあります。一つだけ言うとしたら、言葉がわからなく、他に頼る人もいなくとても寂しい思いをしたこと。

岐　阜 男 56 済州 '44 ・向学心に燃えて来た。本国ではなかなか勉強もできなかったのでとにかく勉強ができればと思ってきた。

岐　阜 男 71 慶北 '27 ・差別体験はないが、日本人は何かあれば民族差別がある。政治家を見てもそうだ。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・苦しいことは忘れない。日本に来て食べ物がなくて配給で菜葉二つだけもらって食べた。とにかく貧しかった。

富　山 男 65 慶南 '37 ・解放時に、本国に帰国しようと準備しているときに、知人の誘いで資産を先にもっていってあげるからと口車に乗せられて預けたところ、だまされて帰国できなくなり、いま考えるとその事件がなかったら自分は、今日の本国でどんな生活をしていることだろうと思う。その後、近年になってから本国に帰る準備のために不動産を購入しようと田畑等を手に入れたが、自分自身の住民票が日本にいてはとれず、結果的には日本にいる者が自分名義では本国内の不動産を手に入れることができず、悔しい思いをしたことがあった。こんなことならいっそ日本人になってしまおうかとも思う。

富　山 男 53 咸北 '43 ・子供（16才）の時、日本敗戦のショックと解放の喜びは忘れがたい。韓青創草期の盟員として参加したときの精神的昂揚、充実感、その余韻はいまだに心中に残るをさわやかに偲ぶ。

富　山 男 70 慶南 '32 ・山の中で生活をしている時、私がきんま（ソリの一種）を引張って、後から家内が、子供をおしめもせずにおんぶして押していた。その時子供がおしっこをして、家内の背中が濡れてしまった。それを見て、何で私達はこんな苦労をしなければならないのだろうと泣いたこともあったし、私が町に降りていって馬のホルモンを買ってくると、子供達が生で、切りもしないホルモンを食べるのを見るとなさけなかった。

富　山 女 73 慶南 '35 ・スクラップの問屋をして比較的儲かり、漢方薬等を主人が開いて安定した収入を得、またアパートの賃貸等の副業もあって子供達にも高等教育を受けさすことが出来、子供、孫も身近に多数おり、幸せである。

富　山 女 80 慶北 '30 ・あまりたくさんあって何を話していいかわかりませんが、子・孫が伸び伸びと生活できないことがとても残念です。目に見えない差別がどうしてもあり、孫からもなぜ韓国人に生まれたかと質問されるととてもつらい。

富　山 女 61 慶南 '43 ・夫が病弱で、対馬で炭焼きをして、雨の日も毎日子供をオンブして炭を焼いた（10何年)。その苦しい思いが一番苦しかった。そのとき一番自分でも頑張ったなあと思った。

大　阪 男 76 済州 '26 ・経済向上を図りたい気持ちは常にあったが、学力も低いためただ精一杯、労務して生活し続けて来たことだけが胸に残る。もし、昔に戻ったとしても結局日本に渡って来なければならないほど貧しかった。

大　阪 女 73 済州 '33 ・戦争の苦しさが堪らない。朝鮮戦争では息子が徴兵で取られ戦死した。とにかく戦争が堪らないくらい嫌だ。

大　阪 女 70 慶北 '33 ・生活が苦しくて考える時間がなかった。

大　阪 男 71 慶南 '31 ・若い頃に・・・してやりたいこともやれば、老いて悔いが残る。日本に来て何も分からず夢中にやって来たから。

大　阪 男 57 京畿 '43 ・韓国動乱の時、親達はソウルにいたので、義勇軍で日本から参戦した人もいるし、手紙も出したけど音沙汰もなかった。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・解放が印象に残っている。

大　阪 男 62 済州 '43 ・最も印象に残っていることは、家庭を持ち子供が大きくなった事だ。

大　阪 男 69 慶北 '34 ・書類を書くとき学歴がないのでその時、親を恨んだ。胸が痛むほど辛かった。

大　阪 女 75 慶北 '27 ・両親の死に目に会えなかったこと。若い頃分からなかったが、年が行くにつれ思う。

大　阪 男 76 済州 '18 ・戦争中はお金なくて、鉄屑を持ち寄った。道端に釘１本でも探して集めた。

大　阪 男 55 慶南 '44 ・別にない。同胞同士の中で騙された事が一番悔しい思い出として残っている。

大　阪 女 61 慶北 '30 ・おなかが空いたという事だけです。

大　阪 女 76 慶南 '33 ・働いて食べるそれだけしかなかった。それの繰り返しで暮らして来ただけで別に印象に残ることはない。今、弁当を持って老人ホームへ遊びに行くのが楽しみなだけだ。孫が何も分からず苛めるぐらいだ。

大　阪 男 70 済州 '27 ・戦争前に日本人に差別されながら生きて来て、自分の国が解放後、立派な国であると感じた。日本に好きでいるわけはないけれど、もう家族が大きくなってきたために思うように身動きは取れないが、今では自由に生きられるようになった。

大　阪 男 69 済州 '34 ・日本の戦争当時、統制的な生活が最も苦しかった事を忘れられない。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・戦争中の苦。空襲警報などの戦争独自の悩み。今でも戦争当時の話を聞くと、空襲警報のサイレン音が頭の中をぐるぐる巡り回る。

大　阪 女 62 慶北 '40 ・子供を育てている時が一番良かった。今は夫を亡くして悲しい。夫と子供に囲まれて生活している時が、今まで生きて来たなかで一番幸せだった事。

大　阪 男 61 慶南 '41 ・戦時中に生き残れた事と、自分の国へ何度も帰れた事と、民団にいた事。総連にいれば、国にも帰れないところであった。

大　阪 男 52 済州 '43 ・疎開先の日本人に優しくされて暮らしたことを有り難く思っている。一例として、そこで働いていて、3時になると、あるおばあさんが、お茶と、お菓子を持って来てくれて、「一休みしなさい」と、親切にしてくれた。こんな風に、日本人から親切にして貰う度に、一生懸命

仕事さえしていれば、決して、差別されることなどないと痛感した。

大 阪 男 63 全南 '37 ・奥さんを死なせたこと。

大 阪 男 67 全南 '38 ・日本に来れば、生活良くなると思って来ましたが、長年日本で、生活していますが、これといって、いい事もない様ですと。

大 阪 女 57 慶南 '40 ・末っ子が大学に通った時、一番嬉しかった。苦労ばかりしていて、いい事なかったので、そのことが印象に残っている。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・主人のする通りしたので、それだけだ。自分自身で考えた苦労はしたことない。

大 阪 女 71 慶北 ・戦争の時食べ物も少なく、一番苦労した。闇には手を出さなかった（こわくて……）。

大 阪 男 59 慶南 ・特になし。

大 阪 65 済州 ・一度、結核で死にかけて、妻が逃げたこと。

大 阪 男 63 慶南 ・忘れない事として、国に帰ったとき姉に、朝鮮動乱の時に食料を買いに来た時に断ったため、あくる日の朝起きれば、稲の根からみんな持っていかれたと聞かされた時に自分達の本当の敵はシナ人だと思った（種まで持って行った）。この時代は、金を出しても種は買えない時だった。朴大統領が、暗殺された事、自分が本当に尊敬していたので、大変悲しかった。その時に娘さんが泣き出した。

大 阪 男 64 ソウル ・韓国人に昔だまされた、今から20年前、金本という韓国人に仕事を手伝ってくれといわれ仕事を手伝ったところ、新大阪の管理の仕事で、２億５千万の不渡り手形を出した。全部合わせて４億５千万の負債を背負った。その時は若いし、 400人の社長だったがコジキになってしまった。しかし朝鮮だとバカにされたくないので、全部払いハダカ一貫で出直した。５年間は返済で苦しんだ。ところが返済の途中で、近くにスーパーができ、商売がうまくいかなくなってうちの家系は、金の縁がないと思った（家内は金を借りてまで家は必要ないといった）。銀行で金を借りる時、保証人に日本人３人たてろといわれ「日本人だけが人間じゃない」と突張って保証人が必要だったら金を借りないといったところ、住友銀行が銀行の責任で1700万貸してくれた。無期限、無担保、保証人なしで、５億の金を使える、カードをくれた。同胞同士で、騙す根性が気に入らない。30年ぶりに韓国に行った時、釜山空港で止められた。その人が３番目の弟の息子だった。家に呼ばれた。空港の高速道路建設のため畑を取られた。その金で家を建てた。畑を取られたことをあやまられた。韓国からの国際電話が毎日コレクトコールでかかってきて、家内に注意され電話がこなくなった。

大 阪 女 61 慶北 ・生活が楽でなく生活に追われて何とか今まで生きてきたけど余り良いこともなかったみたい。ただ現在に至って何とか人様に迷惑を掛けないで生きていけるようになった。ただ韓国から日本に来ては後悔していない。

大 阪 男 60 全南 ・早く儲けて帰って祖国の為につくしたいけど、それができないので悔

やむ。

大 阪 男 69 済州	・戦時中に焼夷弾攻撃をうけたのに助かった事、子供を抱いて池の中に飛び込んだ。
大 阪 男 64 済州	・外登令闘争の時、本国では反対したし、近所で反対する人がいたが、これで私たちも自由に住めるようになると、先頭にたって運動した。指紋を押すことに反発あるが日本に住んでいるのでは止むを得ない、ここら辺で差別意識があるのかもしれない。
大 阪 女 59 全羅	・主人が死んだ時、辛かった。主人を頼りに生きてきたのに、死んでしまって17年間辛かった。
大 阪 女 60 済州	・戦争中の空襲で逃げ回っていた事。戦中、戦後食べる為に苦労し、満腹感をこらえきれなかった
大 阪 女 72 慶北	・日本での衣食住に満足した。子供ら職業にも恵まれていたし、まあまあだった。
大 阪 女 68 済州	・国に帰ってみて人がすっかり変わっていて、人を信じられないし、がっかりして国に行く気がなくなった。辛いことしかなかった。
兵 庫 男 68 慶南 '30	・印象に残ったと言われれば、一言で言うと、苦労したと言う一言に尽きる。
兵 庫 女 68 済州 '40	・忙しかったから別に覚えてないですね。孫が生まれた時は、嬉しかったな。それぐらいやな、他は別にないな～。
兵 庫 女 60 慶南 '37	・難しいねえ。一杯あった。
兵 庫 男 59 慶南 '39	・トンネル掘りの仕事で、自分が親方になってやった事ぐらい。仕事の為に名古屋に機械（コンプレッサー）を買いに行った事ぐらい。二十七、八年前だったので、神戸で一番にその機械を持った。
兵 庫 女 68 慶南 '30	・日本に来てから今日までいろんな事あったけど、うちは自分の子供にも、自分の苦労話とか昔の話しはしないの。仲のいい友達にもしない。いっても自分の心の中にだけ置いてるの。誰にも言いたくない。だから言わない。
兵 庫 女 59 済州 '36	・女手一つで子供５人を育てて来た、苦しみだけで特に印象に残ることはない。
兵 庫 男 60 慶南 '41	・何と言っても、差別を受けた事が印象に残っている。日本人だったら、良い、韓国人だったら悪い。いつも状態がそのようになっている。日本人は韓国人を圧迫、奴隷と同じように思っている。
兵 庫 男 65 慶北 '38	・解放当時の気持のことが特に印象に残っている。
兵 庫 男 63 済州 '40	・戦争中にいつ徴用につれていかれるか、ひやひやしながら生きとった時が一番辛かった。
兵 庫 女 55 慶南 '43	・余りないが40年も住んだら苦労はようけあった。ええことは少ないけど日本の方がええよ。韓国行っても日本へ帰ってきた方がホッとする。何でかしらんけどホッとする。
兵 庫 女 72 慶北 '24	・死んだお父さんが生きてる内に、韓国にいる親戚の顔を見せてあげたかった。ただ、顔を見に行くという訳にもいかず、その頃はお金もな

かったので行けなかった。お父さんが生きている間に一緒に韓国に行けたら良かったなあと思う。

兵 庫 男 67 慶北 '33 ・日本の植民地下にあり、色々苦労もして来たが、親、兄弟と別れて暮らし、親の死に目にも逢えなかったこと。知らせを知ってもすぐに国に帰れなかった。手続上も、金銭的にも、あの時の気持ちはどう言ったらいいか、ほんとに辛かった。

兵 庫 男 67 慶北 '36 ・他国に来たんだから淋しい事もあったが、忘れてしまった。自分の身許調査をされた事がある（独立運動等に関係があるのではないかと云うことで）。日本に来て良かったなというより、まだましだなと思っている。貧しい暮らしをしているよりも、余裕のある生活が出来たので、悪くはなかったと思っている。

兵 庫 82 慶南 '31 ・戦争中と戦後から今までずっと苦労のしっ放し。普通、苦労をして病気にはならないが自分は苦労苦労の連続で腰が痛かったり足が痛かったりして困っている。生活に困っているのを見て近所のおっさんが（日本人）「区役所へ行って、お金を貰えるようにしたろ」言ったけど、おっさんが二、三年前死んだ。日本人だけどええ人やったのになぁ。今小遣いくれる人もおらへん、ほんま苦労ばっかりや。

兵 庫 女 63 慶南 '39 ・韓国で生まれて育ち、年頃になると親の決めた日本に住んでいる今の夫と結婚させられた。小さな頃から末っ子として、可愛がられて育てられたが、教育は受けてない、日本に嫁に来てからは夫の稼ぎも少ないし、酒飲みで子供が７人、生活は苦しく、何よりも辛いのは言葉がわからないこと。言葉が不自由なため、常に家にいて台所にこもり、主婦業に専念するだけで社会に接することもなかったし、夫もすすめて家から出さなかった。日本に嫁に来て40年余り立つが、自分の世界は自分の家庭と台所だけの生活でした。生きていくことの為にだけに、がむしゃらで、他に何も考えることが出来なかった。

兵 庫 男 61 慶南 '42 ・祖国の解放。

兵 庫 女 70 慶南 '37 ・自分がめちゃくちゃ苦労したのは、死んでも忘れない。

兵 庫 男 74 慶南 '27 ・ヒロポンを製造している所を捕まり、覚醒薬で20年間監獄に入れられた時です。はじめは３年の刑だったのだが、友人も後から捕まって、いもづる式に皆、捕まって刑が３年から５年になり、20年も監獄に入れられた。20年間ずっと本国に帰る事ばかり考えていた。本国へ帰れないことが凄く悲しかった。監獄から速く出て皆の所へ帰りたかった。しかし、刑を終えて出て来た時は年もとっていたし、帰る気もなくなっていた。そして日本にずっと住むようになっていた。しかし、将来必ず本国に帰るつもりです。死ぬ時は絶対に本国で死んで墓を立てて貰いたい。

兵 庫 女 65 済州 '28 ・仕事を探しに行っても朝鮮人だと言う事で相手にされなかった事があった。

兵 庫 男 60 慶北 '36 ・解放された時の感激だけしか印象に残る事はない。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・同じ国の人間が、お互いに差別し合うのが嫌で、朝連に酷い目に合わせられたのが、一番忘れられない。日本人に「朝鮮人」と言われても相手にしなかったけど、同じ国の人間に差別されるのがとても辛かった。

兵　庫 女 58 慶南 '44 ・苦労した。

兵　庫 女 60 忠北 '41 ・いつもなんで、私だけ親不幸したのか、悔やんでいる。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・原爆を受けて、その後遺症が今だに残っているのでそのことが一番印象に残っている。

兵　庫 男 76 慶南 '33 ・炭坑の仕事をしていたが、子供が多かったので食うものも食われなかった。子供達が少し大きくなったら、仕事を手伝ってもらわなければならなかった、苦しい苦しいの生活だった。粟や麦で生活した。

兵　庫 男 63 忠南 '42 ・自分の家を建てる時が一番苦しかった。食べることは容易ではなかったし、自分も日本に居なかったし…。それでもやっとのことで家を建てたらこんどはその代金（当時 100万）を払うのにムチャ苦労した。その事が忘れられない。

兵　庫 男 60 慶南 '38 ・いい印象は残っていない。帰国するのが最大の希望で、他の事は頭の中に残らない。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・ただ、40数年間、苦労ばかり。息子や孫達にも恵まれたけど、今の私には、何も残っていない気がする。これから先できるなら韓国で誰にも遠慮しないで韓国人らしく自由に暮らしたい。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・病気で生死をさ迷ったこと。その当時医者が言ったことには「やっぱり朝鮮人は大蒜を常食としているから、心臓も強いんだなぁ」と言っていたそうだ。その時看病してくれた義兄のことを一生忘れないと思う。

兵　庫 男 69 慶南 '30 ・平々凡々といつも暮らしていたので別に印象に残っていることはない。渡日前本国において、白い服を着ていたら墨をかけられたりして、差別されたことはあったが、こちらに来てたら、差別もされなかったし住みやすいので特に印象に残っているような事はない。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・八・一五の解放。

兵　庫 男 65 全南 '37 ・印象に残っている事は、どこに住んでも、どこで働いても、私は常に一生懸命働いた。それが一番印象に残っている。ただ、年が来て思うのは、祖国に帰って、祖国で死にたいが、それも無理なことや。これも運命や仕方ないこと。

兵　庫 男 60 慶南 '36 ・20年前、ここで儲けて韓国で会社を作って失敗した。朴大統領のクーデター。

兵　庫 女 78 慶南 '28 ・そんなん今もう思い出してもしゃーない。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・寝ても明けても、日本人が韓国人に冷たいと言うことが一番印象に残る。

滋　賀 女 78 全北 '20 ・生活が安定し、子供たちも結婚して差別も前よりなくなって来た頃、子供達が韓国に連れて帰ってくれたこと。長い間、会えなかった兄弟

	達に会えて嬉しさ、おばあちゃんたちにとって韓国はやっぱり自分の国だと思った。
広　島（不明）	•一、二度本国に行って、かならずお墓をつくろうと思い、三度目にやっと行ってお墓をつくった。わししかおらんと思って作った。 族譜を今度、長男にもたせたいので去年行った時、頼んだ事。
広　島（不明）	•民団の政治家に泣かされた。30年ぶりに韓国に帰った時、税関に荷物を全部調べられた。他の商売人は、荷物が全部通ったのに、自分の姉、兄にみやげの服をもっていったら、バックされた。
岡　山 男 57 慶北 '43	•戦後、ハンセン氏病にかかり、ライとの闘い。今になって２年に一度ぐらい韓国に行くことができるが、後遺症の重い者は、偏見の為、訪韓できるのに受け入れてくれない。
岡　山 男 64 慶南 '34	•大阪で空襲を受けた時、防空壕に入ろうとしたら、中にいた人がよその防空壕に入るなと言われ、追い出された。（朝鮮人の為）同じ職場にいる人に言われた。
岡　山 男 65 全南 '34	•昭和９年渡日し、お金がなくひもじい思いをした。お腹が空きすぎて水を飲んでは腹を膨らし、故郷の方を向いて涙した。そんなとき、頑固な父が想い出され、あれだけ体罰をした父の心がわかり、優しかった母よりも思い出され、涙流し耐えてきた。この時の空腹は忘れられない。
鳥　取（不明）	•昭和20年８月15日解放日!!
鳥　取 男 67 慶南 '67	•戦時下、空襲の最中を協和会のもとに慰問団を組織して、全国回った事。異郷生活60年自分を犠牲にして建国のため団体活動続けたこと。
鳥　取 女　　慶南 '37	•朝鮮動乱の時、出兵した弟の事がつねづね気になる。弟は北鮮で捕虜になって捕まり、その後の消息はない。
鳥　取（不明）	•弟が北へ行った時、とても悲しかった。
山　口 男 55 慶北 '43	•45才の時、一時帰国した。その時、30年ぶりに母と再会したが、よく顔を覚えていなくて戸惑った。釜山のフェリーの出迎えで知らない男２人が、荷物を持とうと言ったが断った。が、その後で母が「何を言っているか、その人はお前の弟である」と言われ、びっくりした。当時泥棒が多く警戒していた。
山　口 男 66 慶南 '41	•自分達が勝手に日本に連れてきておきながら、事が終わればそのままで、何故連れてきたものなら帰すことをしないのかという事が、死んでも心に残ると思う。韓国に帰ったらどうなったかわからないが、もしかしたら良くなっていたかもしれないし、子供も本国だったら偉くなっていたかもしれない。
山　口 女 65 慶南 '39	•全部で６人子供がおったんじゃ。ほいで１人途中で亡くなった（自殺）それが一番印象に残る。
山　口 男 66 慶北 '41	•自分の思うような生活ができなかったこと。
山　口 男 78 慶北 '27	•やっぱり無理やり仕事に連れていかれたことが忘れられない。
山　口 女 59 全南 '39	•やはり家を追い出されそうになった事で、何の為にこんな思い、苦労

をしなければ行けないだろうと、これなら死んだ方がましじゃないかと考えたこと。反対に、そんな時、同じ部落の人がかばってくれて助けてくれた事も忘れられません。

山　口 男 68 慶南 '28 ・生活の為に苦労した事だけ。

山　口 男 67 慶南 '39 ・日本に来て差別された事もないし、警察に1回も行ったことがない。ただ平凡に今日まで生きてきた。

山　口 男 60 忠南 '44 ・日韓会議（ママ）の折、国交回復で互いに協力しあうということ。

山　口 女 59 慶南 '42 ・今は生活も楽になったが、昔は苦しかった。何度も死のうと思った。

山　口 男 68 慶北 '31 ・さあ初めはね。来てからやっぱり友達とワンワンやってたから嬉しい事もあったいの、子供の時は、別に私は、苦労しとらんよ。日本に来てからも向こうに居る時もやから、どうとかこうとか全然考えてない。もう七十になるけどよいよ生活に困ったとかいうのはなかったの。

山　口 男 70 慶南 '31 ・私が人夫の親方になった頃、大牟田の三井炭鉱に朝鮮人として初めて入った。三井炭鉱は、日本人だけで炭坑を掘り朝鮮人を雇わなかった。私は、募集に行ったりしていた。炭坑内では、通訳をしたり朝鮮人人夫の身の回りの世話をした。当時の炭坑では、逃げる者が後を断たなかったが、私は1回目は許すように会社に言った。それをよく思わなかったのだろう。ある日、朝鮮人を先導して暴動を起こす恐れがあると言われ本国へ強制送還させられてしまった。その時は、家族と一緒に住んでいたが、家族を残して行くと日本に入国するかもしれないので全員送り返されてしまった。

山　口 男 64 慶南 '38 ・戦争中は、厳しかったが、青年同盟に加入してからは楽しかった。同胞が集まって一緒に活動してゆくことは、解放前では考えられなかった。私達は、警察署長が太極旗の前で帽子をかぶっていたので、糾弾したことがある。彼はしょうがなしに帽子を脱いで通って行った。本当に胸がスッとした。

山　口 女 57 全南 '42 ・夫が死んで女手一つで子供を育て長男の結婚式の時が一番嬉しく、夫が生きていたらどんなに喜んでくれたかと思うと涙が出てきて止まらなかった。

山　口 男 55 慶南 '41 ・生活が苦しかったこと、惨めな思いをしたこと（朝鮮人と言われたこと）。

山　口 女 57 慶北 '43 ・女手一つで子供3人を何としても育てあげなければと思い、力仕事も男と変わらない程したが、食べる物も食べられなくてよく今まで生きて来られたと思う。

山　口 女 60 慶南 '41 ・自分の国、韓国の山や川が恋しいし、女であっても同級生が恋しい。でも自分の時代は、終った。今からは二・三世の子供の時代。子供にとっては、ここ（日本）が恋しいし、同じ同級生が恋しいだろうから自分のことと同じようにその気持ちを考えたら、子供を国に帰すことが出来ない。でも韓国人として将来の子供のことを考えると苦しい。

山　口 男 66 慶南 '31 ・韓国内の生活水準が上がって来た事が印象的だ。

山　口 女 62 慶北 '38 ・日本が負けて終戦が来て嬉しかった。

山　口 男 61 忠北 '30 ・日本に来てすぐの頃、言葉はわからないし、生活が苦しかった事が今でも忘れられない。

山　口 男 64 全南 '33 ・特に苦しい事はなく、昭和16年日本人の経営する輸送会社に勤め、そこの主人に良くしてもらった。

山　口 男 62 忠南 '24 ・戦争が終って自由になれた時が、一番印象に強く残っている。

山　口 男 78 慶北 '24 ・戦争が終って山の奥に住んで居て、電気も通らず不便な生活をしていたが、今のこの土地を自分のものにすることが出来て、ちゃんとした生活が出来るようになった事が一番嬉しい。

山　口 男 68 慶南 '31 ・植生炭坑での生活ぶりが一番残っている。1ヶ月何も食べられず、ずうっと座って…仕事をして本当に苦しかった。現在、喘息、神経痛の病気で悩まされている。1ヶ月間休まずにぶっとおして働けば普通買う米に3俵の黒い米が貰えた。

山　口 男 59 慶北 '24 ・契約の内容と異なった期間・賃金で働かされ、朝鮮人だという事で暴力を受けたり、暴言を聞かされたり、まるで人間扱いされなかったこと。その当時に汽車から飛び降りて逃げ出した事で、今でも肩から腕にかけての部分が痛い。

山　口 女 68 全北 '34 ・夫を早く亡くし、多くの子供を抱えて食べる物もなく、買いたい物も買えず、着る物も無いくらい生活困難で1日の生活をどのように暮らしていくか必死だった。

山　口 男 68 忠北 '40 ・飛行機がね、爆弾で自分の目の前に落ちたことやね。怪我、全然なかったけど。岩国でね。

山　口 男 65 慶北 '31 ・日本統治中、昭和初期、軍国主義遂行の為、祖国同胞は、最大な苦痛を余儀なくされ、解放後30年を迎えた今、なお両断されている現状ほど痛く思うことはない。

香　川 男 60 慶北 '36 ・1976年、民団に加入し、省墓団事業に参加して渡日後、初めて帰国し、親族と対面した時です。両親は、既に他界していましたが、姉と会った時の感動が一番印象的でした。

香　川 男 66 慶南 '40 ・解放直後、仲間と騒いだ時、詳しくは判らないが、自分と仲間が一番世の中で、幸せ者に思えたのです。1973年帰国した時、正直言って故郷の者に気恥しい気持ちもありましたが、兄弟と会った時の感激は、今日まで鮮明に記憶しています。

徳　島 男 61 慶北 '38 ・よく働いた、ただこの一言に尽きると思う。よく働いて、真面目に日本人から差別されない為に、人一倍、働いたことが心に残っている。今、考えれば自分でも、驚く程働いたものだ。今の気持ちでは、到底出来るものではない。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・朝から晩まで、働いても働いても低賃金で、いくら重労働で体を張ってみたところで、日本人より賃金は少ないし体はえらいし、いくら当時若かった言えども、肉体的にも精神的にも苦しかった。

福　岡 (不明) ・苦労から苦労ばかりであった。

福 岡（不明）	・両親が帰国して、自分達が日本にいて、親の死に目に合えなかったのが一番悲しかった。
福 岡（不明）	・徴用された為、韓国にいた父の死に目に合えず、又、六・二五動乱の為、母の死に目にも合えなかった。
福 岡（不明）	・勉強が好きだった。韓国が植民地化されなければ、韓国で十分に、勉強出来たはずなのに、それが出来なかったこと。差別体験より、勉強出来なかった事が悔しい。
福 岡 女 65 慶南 '43	・里帰りした時、韓国に着いた時が一番嬉しい。嬉しい事は何も無かった。言葉もわからないし、苦労ばかりだった。
福 岡 男 62 慶北 '35	・徴用で取られた時、2ヶ月で帰って来た。当時、全国から来てた。歩いて1時間帰ってくる時は、汽車賃だけであった。8時間3交替で、食事は朝は、みそ汁と沢庵だけ、夜は魚が一切れくらいだった。飯場ではなく、寺に泊まっていた。
福 岡 男 73 慶北 '32	・炭坑で、日本人の中に入り、犠牲者として、一生懸命働いていた頃が、一番思い出だ。そこで大きな事故があり、死ぬ思いをした。
福 岡 男 72 慶北 '27	・日本に来た朝鮮人の中、よく生きていたなぁと思う。子供を抱いて、防空壕の中に隠れてた。
福 岡 男 62 慶北 '38	・海運の工場に徴用で行った人達が食べられず首を吊って死んだ人がいた。解放された時、日本の敗戦で祖国を取り戻した事が一番嬉しかった。
福 岡 男 61 慶南 '42	・8月15日解放が一番嬉しかった。帰るつもりで福井から博多へ17時間乗り継いで来たのに、帰国できなかったのが悲しかった。
福 岡 男 70 慶北 '41	・帰国しようにも帰れない、その悔しさがある。
福 岡 女 57 巨済 '44	・日本に来てすぐの差別、長男が大学の途中で職の問題で履歴書の事で差別感を感じた。国籍だけで人間を差別するのか。
福 岡 男 71 済州 '24	・商売人なので色々と仕事をし生きてきたが、渡日当時、年が幼く日本語がわからない時によく殴られ苛められたこと。
福 岡 男 60 慶南 '37	・長男が大学の途中の就職問題。子供には本国の教育を受けさせないといけない思い。
福 岡 女 61 慶南 '38	・生活が苦しかった事、日本人の中には優しい人もいたし現在親友もいるが、当時よく苛められたし又、夫が負傷し片足だけになり、当時から現在まで生活苦だけだ。
福 岡 男 68 慶南 '37	・大阪にいた時、爆弾がよく落ちて来て空襲で多くの同胞が死んでいったの見て、よく生きていられたなどと。
福 岡 男 60 慶南 '42	・韓国の故郷に行ったり来たりすることが嬉しい。戦争中に食べ物に困った事が一番苦しかった。
福 岡 男 75 慶南 '25	・別にいいことってあるわけない。恨む、何故、青春時代に他の国で住まなければならなかったのか、何故、他の国に骨を埋めないといけないようになったのか。
福 岡 女 59 慶南 '39	・朝鮮人といわれるより半島人と言われた時が悔しくて忘れられない。

福　岡　男 58 慶南 '42 ・親の（本国の）死に目に合えなかった。昭和18年頃、韓国に帰って、はじめて聞いてわかった。

福　岡　男 73 慶南 '26 ・男の子２人子供が出来た事が、一番嬉しかった。特別に日本人から差別を受けた事がない。

福　岡　男 63 慶北 '39 ・炭坑で殆ど毎日人が死んでいったこと。それもあっさり殺される事もあった。解放後の筑豊又博多での同胞の助け合い。

福　岡　男 73 忠南 '24 ・私は大部分の同胞とは異なり渡日後、日本人に差別された事がなく、むしろ日本人により日本社会で育てられた面が多く、戦時中日本の有力人士との付き合いも深かった。当時は日本の力がこのまま発展するものと信じていたし、その中に自発的に入り込んでいったのが実情だった。今考えると遠い昔の様だが、今はただ昔の鉄をふむことのない様、時代の流れそして、強い国家と強い意志の国民たるべく努力が必要だと言うことを考えている。

福　岡　男 72 慶北 '31 ・韓国人に参政権がないのが不思議で、行政差別があるのが不思議。外登不携帯で警察と喧嘩した。

福　岡　男 67 忠南 '42 ・言葉では言えない程、一杯ある。

佐　賀　男 59 満州 '45 ・長年、組織活動に携わってきた。反体制の中にいたこともあるが、自由な社会の中に飛び込んできて、その自由を味わうことができる喜びが印象に残っている。

佐　賀　男 65 慶南 '40 ・長女が３才の時、小児マヒにかかり色々不自由な思いをさせた。身体障害者手帳は交付してもらったが、形だけで外国人には実際の援助金が出ないと説明された。娘の将来だけが一番気になる。

宮　崎　男 67 慶北 '32 ・時の流れと言うものは淋しいものだ。日本に来て50数年間、何を考えて住んでいたのか。自分は居留民団で、最初から役員を務め、現在は数年前より顧問になっているが、ずっと役員をしてきた。県下の団員・総連の人でも知らない人はいないと言って良いし、民団は私にとって切っても切れない程、関わりがある。

第2章　渡日の背景

③　済州島の港で日本・大阪へ向かう人々を見送る村の人たち

今から遡ること約百年前に日本は、大陸への侵攻を妄想し、1876年韓国に対し「日朝修好条規」所謂“江華条約”を強要しました。そのことが、後の1910年から始まる“韓日併合”という植民地支配を招き、1945年に解放されるまでの36年間にわたり、韓民族は日帝による塗炭の苦しみを舐めることになったのです。

この章では、併合による日帝の様々な政策により、日本に渡航することを余儀なくされた同胞たちの姿を、Ａ～Ｅまでの５項目の質問についてまとめ、満州事変から第２次世界大戦に至る徴兵・徴用の歴史について、当時の背景を浮かび上がらせることにします。

江華条約の強要によって、日帝は大陸侵攻への足掛りを作りますが、更に1910年８月22日、「併合」条約を調印させることにより韓国は日本の植民地となりました。これは明治以降の日本の国策とも言うべき“征韓論”の完成を意味しており、逆に韓国にとっては“国恥日”となったのです。併合当時、日本で生活していた在留韓国人は、殆どが勉学のために渡っていた留学生たちで、その数も千人に満たないものでした。しかし、36年という植民地支配の結果により、1945年に解放を迎えた時点では200万人を超える同胞が存在していたのです。では、何故これほど大勢の韓国人が日本に渡って行ったのでしょうか。

日帝の植民地政策の象徴は、何といっても収奪の歴史であったと言えます。併合後すぐに始まる

「土地調査事業」によって、韓国全土の約半分にものぼる土地の所有権を奪いました。この結果、農民は田畑を奪われ、職と食を失うはめになりました。生活に窮することは当然で、日本人地主から高い小作料を払って土地を借りても、借金は雪だるま式に増えて行き生活苦に更に拍車が掛かります。日帝の毒牙は農村を中心に、ほとんど壊滅的な状況を造り出しましたが、更に「産米増殖計画」の実施によって、農民たちは決定的な致命傷をおうこととなったのです。このような状況の下、農民たちは生きるために糧を求めて、遥か彼方の中国・満州や、日本に向けて玄海灘を渡らざるを得なかったのです。おそらく一世の望郷はこのような事態に陥る前の、のどかで平和な農村や、魚や兎を追って遊んだ優雅な山河にあるのでしょう。

銃と剣による暴力的支配は、韓国民をなぶるように扱いましたが、1919年３月１日、日帝の強圧的な政策に黙りかねた韓国民衆の祖国光復・独立に対する願いは"三・一独立運動"という形で表出しました。パゴダ公園で独立宣言文を朗読すると、韓国全土では一斉に「大韓独立万才!!」と叫ぶ群衆で溢れたのです。この事件の後、日本の政策も文化政治へと形態を変えて行きますが、実際には大陸侵攻を諦めた訳ではありません。

1930年代にはいると、満州事変、上海事変と続き、「満州国」が建国されますが、これ以降「兵站基地化政策」を進め、韓国を軍事要塞として位置付けて行きます。そして「皇民化政策」が強化されると伴に、"内鮮一体"という言葉が頻繁に使用されます（この言葉に惑わされて、日本人と平等になると思った人たちも多い)。皇民化政策の実態は同化政策の一環である、韓国語使用の禁止、神社参拝の強制、創氏改名の強要、そして強制徴用だったのです。

1937年に始まる日中戦争により、日本は戦争の泥沼に陥ります。そして1941年には太平洋戦争の開戦など満州事変以来、日本は人的資源供給地として韓国から多くの労働力と兵力を狩り出したのです。これが所謂"強制連行"と呼ばれる国民徴用令を引き起こし、終戦まで絶え間なく続いたのです。その方法も、農民たちが昼食どきで一息をついている時にトラックで農村に乗り入れ、銃剣を突きつけ、有無を云わせず無理矢理に連れて行くのです。そしてまた、従軍慰安婦として多くの同胞女性が徴用されたり、謂わば"戦争の道具"として扱われたのです。家族を引裂き、殆どの村から働ける者たちは姿を消し、必然的に残された者たちの生活は苦しさを増して行きます。妻や子供たちも夫や父の後を追うようにして、同じ港から日本を目指して船に乗り込んだのでしょう。

日本の終戦により解放を迎えた1945年当時、日本に在留していた同胞は約200万人にものぼりました。この人々は皆、自分の意思に関係なくして、日帝の政策によって日本に渡らざるを得なかったのでしょう。解放と共に大半が祖国を目指して、帰国の途についたことを見ても、常に一世のまぶたの裏には故郷の山河が焼きついていたのではないでしょうか。

以上の様に、日帝36年間の歴史はまさに収奪と暴力の歴史であり、在日同胞の存在は日帝の歴史が造り出した産物と云っても過言ではないでしょう。あらためて、一世の歩んできた歴史が今日の韓日関係史の上で大きな位置を占めている、そのことが証言の行間から浮かびあがってくるのです。

質問Ａ：あなたが渡日された当時、本国内においての出来事の中で特に記憶されていることをお話し下さい。

④ 京城神社への参拝を強要される当時の朝鮮人女性たち

北海道 男 59 忠南 '42 ・16才の時に日本に渡ってきた。弟が汽車に乗るとき見送りにきたことが記憶に残っている。本国の生活は苦しく、日本でお金を儲けるつもりできた。

北海道 男 56 全南 '40 ・部落の１面につき、１人ずつ徴用されていくのを覚えている。また、日本人が部落の中に居住していた。

東　京 男 65 済州 '27 ・我々韓国人は昔、白い服を着る風習があり、白い民族と呼ばれていた。だが日本人が来て私が白い服を着ていると、彼らは我々の民族性を消すという理由で白い服に墨を塗り付け、白い服を禁止した。

東　京 男 62 全北 '52 ・天皇の弟が汽車で通るのに、頭を下げなかったため怒られた事がある。

東　京 男 64 済州 '32 ・青年会のようなものを組織し、日本兵に呼出された事が何度もあった。

東　京 男 55 済州 '45 ・学校で日本語を使わなかったら、罰を受けた。韓国人の教師もその刑罰を行なった。教育勅語の朝礼の時に行なうが、身体が少しでも動く様なことがあると半殺しの目にあった。学校へは日本語のできる子、関心のある子などを入学させた。

東　京 男 64 慶南 '39 ・生きて行くのがやっとだった、という事のみ。

東　京 女 58 済州 '41 ・田舎ではお金のある方は中学校等へ行けたが、自分は勉強したかった。

東　京 男 53 済州 '43 ・植民地になって教師が日本人なので、奴隷扱いだった。運動場で薩摩芋などを作っていた。勉強はほとんどできなかった。

東　京 女 63 全北 '38 ・高等女学校当時、神社参拝問題を起こした。神社参拝を拒否し憲兵に囲まれた。また金品は全部、日本人が奪った。

東　京 男 58 忠南 '42 ・毎年農閑期に村で何人か飢える人が出て、みんなでドンブリ飯を持って行った。

東　京 男 56 慶南 '40 ・生活が苦しかった、と云う事ぐらい。

神奈川 男 85 慶南 '22 ・農業で作っても半分は借金にとられた。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・朴大統領の田舎と近かったので、同級生などもまわりに結構いた。一緒に仕事をした。

千　葉 男 64 全南 '42 ・役所の人が日本の命令で韓国式の頭髪を切られた。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・日本政府統治になって、生活が随分厳しくなった。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・学校での母国語の禁止。

千　葉 男 61 慶南 '41 ・白い服を着ていたら、水鉄砲みたいなもので、黒く染められたそうです。頭のチョンマゲが見つかったら丸坊主にされていた。

千　葉 女 64 全南 '44 ・夫の弟が皇国臣民の歌を、村の人に教えていた。

茨　城（不明）　・日帝の手先である警察のいやがらせがひどかった。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・満14歳の時、1人で渡日してきた。当時は日本統治下であり、貧困農村の中で生活していたが大同製鉄株式会社の工員募集をみてそれに募集した。満6歳で当時尋常小学校と呼ばれていた今の小学校に入学する。学校では日本人の先生により、日本語による学習を受ける。家に帰ると、それ程日本語を理解できない老人達が韓国語を使用していた程度だったと記憶をしている。学校内ではほとんど日本語を使用した。自然に日本に対する憧れが強くなる。山村の貧困家庭から脱出したい意識と日本に対する憧れから工員募集に自ら募集することにし、1人で渡日する決意をする。国が統治されている事や朝鮮人であることによって差別されているとかの意識はほとんどなかった。今思えば本当に自然のうちにおまえは日本人だといわれれば日本人なのだと思うくらい完全に、徹底的な内鮮一体化の思想を学校教育の中で教えこまれたものだと思う。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・満16歳渡日。貧困生活に追われていた中、徴用されて渡日。面・里の責任者によって徴用される人員が配分されたと思う。長男を除いた人が配分された。自発的な面もあった。日本に対する憧れもあった。畑作においても豆が作りたくても、日本総監府によって綿を作るよう強制されたことがあった。日本の権力機構が、当時住んでいた山奥にまで浸透していたと思う。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・米国のB29が飛んできて近くの山に激突炎上。米国の飛行機から韓国民は白い服を着る様にとの韓国文字のビラがまかれ、日本の敗戦が真近であることを知らされた。

茨　城 男 69 慶南 '32 ・1913年出生。16歳の時渡日。塩田業を営む親の下で働いたが倒産にあ

う。食うにこまって日本に渡る。塩田、農地ともに日本の飛行場（鎮海飛行場）の用地として没収された。経済的理由により、自発的に、また憧れを抱いて渡日する。

西東京 女 66 慶南 '29 ・別に変わったことはない、食べ物のことで心配はなかった。

西東京 女 72 慶北 '28 ・自分の父が、農業をしていて田畑も多く生活は楽だった。

西東京 女 66 慶南 '36 ・若かったので何も知らない、その当時はよかった。

西東京 女 74 慶南 '32 ・３才の時母を亡くし、５才の時父を亡くし親戚の家に世話になっていた。韓国で結婚してこちらに来た。

西東京 女 59 慶南 '37 ・両親と一緒に来て、家事手伝いに終わった。本国でも同じ。

西東京 女 59 慶北 '40 ・家が地主で結婚前の娘に対して厳しかったので家から外に出させてもらえなかった。結婚は日本に来るまで、御主人の顔も見ていなかった。小作人は地主の接待に大変だった。（料理等）
小作人と地主との差が厳しかった。貧富の差が大きかった。

西東京 男 63 忠南 '40 ・特に出来事という出来事は記憶にないが生活の方は農家だったから食べ物には不自由してなかったし、まあまあの生活をしていた。

西東京 女 88 慶南 '38 ・食べる物もない時代であった。賃金が安く、働いても良くならなかった。

西東京 女 82 慶北 '40 ・生活はまあまあだったと思う。

西東京 女 79 慶北 '21 ・子供の頃だったので、農業をしていた事くらいしか記憶にない。

西東京 女 68 忠北 '42 ・働いている所で殴られたことがあるので逃げた。日本の人々が乱暴していた。

西東京 男 65 慶北 '38 ・強制連行で渡日する人もいた。３年間の労働で帰された。兄が日本と韓国を行ったり来たりしていた。兄の友人が日本で町会役員をやっていた。お金を儲けようと日本にやって来た。11月頃来て、半分遊びがてらのつもりが住みついた。

西東京 女 59 慶南 '39 ・まあまあの生活をしていた。

西東京 男 60 全北 '38 ・日中戦争時、生活は苦しかった。

西東京 男 72 慶南 '40 ・戦争中で日本が入って来たりしてゴタゴタしていた。周りの人達の生活は貧しかった様だが自分の家はまあまあ良かった。

西東京 女 61 慶北 '41 ・一部の人達が、日帝に対して小規模な独立運動を行なっているのを見た。

西東京 男 57 全南 '39 ・とにかく家族がバラバラになってしまった。

西東京 男 62 済州 '43 ・日本人によくいじめられた。ただけんかをしないようにしていた。あとで何をされるかわからないから。

西東京 女 72 済州 '41 ・とにかく大家族だったので、その日その日一日を過ごすのに苦労した。

西東京 女 56 全南 '27 ・生活が不安定だった。

静 岡 男 64 慶北 '38 ・父親が朝鮮人の警官になぐられているのを見たこと。

愛 知 男 58 慶南 '40 ・食器類を全部持っていった。武器を作るため。実際の政策としては日本人との差別があった。

愛 知 男 60 慶北 '43 ・戦争中なので、砂袋を持たされ訓練をやらされていた。

愛 知 男 77 忠北 '28 ・三・一独立運動が起きた。私はまだ小さかったので運動には参加しませんでしたが、所々で人々が殺されました。偉い人達は皆、捕まえられました。街では白いチマ・チョゴリ姿の女性が日本人にいじめられ、水鉄砲で真黒な墨をかけられたり、年老いた者達は頭のマゲを切り取られました。また、田んぼに隠れていた人は、兵隊に見つかり鉄砲で撃ち殺されました。そして、村の道では日本兵のために麦茶を沸かしました。

愛 知 男 73 '28 ・独立運動。当時、馬山には軍隊があり、丘の上から降りて運動者達を目がけて日帝の軍隊の銃弾があちこち飛びかい、私は12才でしたけれど、すぐ近所で、私の友人が頭を撃ち抜かれたのを覚えています。

愛 知 男 60 全南 '42 ・戦争中で、食べる物がなかったので松の根などを配給してもらい食べていた。

愛 知 男 76 慶北 '24 ・私は学校へ行きたかったが、日本の学校だったため入学することが出来なかった。農業だったが食べることも難しく、父に日本に行き頑張って来いと言われて日本へ来たが、それ程に苦しかった。

愛 知 男 74 忠南 '26 ・貧困で食べる物がなかったので日本へ来た。

愛 知 75 慶北 '30 ・食べる物など全くなく、人間の生活ではなかった。

愛 知 男 71 慶南 '29 ・私の故郷の近くの釜山・馬山などでは、日本人が多く移住していました。そして、この近辺の田畑を日本人が買い取り、それも農民達に貸したりしていたことを覚えています。

愛 知 男 59 忠北 '34 ・日本人による権力支配と学校の日本人学生の"いばり"がひどいのを覚えている。

愛 知 女 60 京畿 ・私の生まれ育った所は大変田舎で、とにかくみんな食べる物も食べられぬ程貧しかった。

愛 知 男 62 全南 '41 ・私の家は農業をしていた。私が住む村には、33世帯があったが、米は全て日本軍に徴収（押収）され、我々は麦を食べさせられた。米を隠していないか、家中をひっくりかえして捜索された。強制志願兵を募集に軍がやってきた。1回目の強制志願兵は若い者が志願していったが、数回目からは村から2名ずつ連行してゆくという強制的なものだった。最後に残されたのが私で、それから逃げるように日本へ行ったのだ。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・当時、本国は植民地化されていて、日本人は旧制中学は全て義務教育化されていたのに、韓国学生は、10人に1人しか行けなかったし、役所でも何でも長がつくポストは日本人に占められていたのが悔しかった。

愛 知 男 57 慶北 '42 ・その当時生活に追われていた私は、家の外の出来事さえ記憶にありません。

愛 知 女 56 京畿 '45 ・当時女学生でしたが、学校内では日本人教師が教えていました。教室内で全て韓国語禁止で神社参拝、創氏改名などを実際に強要されたことを記憶しています。

愛　知 男 60 平北 '44 ・別に思い出（記憶に残ること）はない。

愛　知 男 71 慶南 '37 ・昭和12年来日、白い着物を禁止されていた。村の人たちが歴史を守るため日本人とのトラブルが絶えなかった。

愛　知 男 72 忠南 '27 ・三・一事件、三・一独立運動の日、私たちの村でも一斉に万歳運動を展開したが、日帝の騎兵隊が一個隊になって鎮圧にやってきた。私の父も運動に参加していたが、私の目の前で騎兵隊の1人が銃の裏で父の頭を思い切り打ちのめし、父の頭から血が噴き出し倒れてしまった。（当時8、9才のころ）

愛　知 男 73 慶北 '28 ・国でとれた米は日本人にとられてしまい、北の方から"あわ"などを持ってきて食べた。また松の皮などとって食べる人もいた。

岐　阜 男 56 済州 '44 ・植民地政策に従って生活していた。植民地政策に反対する運動なんかはなかった。

岐　阜 男 71 慶北 '27 ・聖書学校に通った。生活苦しかった。自由奪われた。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・はた織りをしていた。何も知らなかった。戦争で全部日本に送った。ちょっと米をたいて食べた。松の川をむいてゆでてたたいて米ぬか混ぜて蒸して食べた。

富　山 男 64 慶北 '33 ・私は少年時代に渡日したので当時本国内にどのような大きな事件が起きたのかは知る由もありません。

満州事変：私は農家の長男に生まれ、公立普通学校に通いました。2年生の時、満州に事変戦争のため、日本から満州の貨物列車で兵隊を昼夜となく多くの兵士が送られました。その度毎に学校挙げて駅まで行って日本の旗、日の丸を振ったら（ママ）万才万才と歓送しました。兵隊たたちも喜んで応えました。ただし、心の中では判然としない何の為の見送りかわからないまますっきりしない気持ちで陸軍の日本兵を見送ったものです。

天皇即位：私の3年生の時に今の天皇が即位されました。やはり学校挙げての行事として学校から日の丸の旗と紅白の提灯が手渡され、生徒全員が参加するようにと命令されました。昼は旗を振りながら町筋を歩き、夜は提灯行列ですっかり疲れてしまい、我々は日本の天皇のためになぜこんな事をしなければならないのかと想いながらやはり判然としないままに帰りました。幼少の頃を思出しながらとりとめもないままに書いて見ました。

富　山 男 53 慶北 '43 ・小学1年の頃から授業の中で日本語が始まった。無論、通知票でも評価されたが概して日本語は軽蔑されており、日本の官憲の目から逃れて寺子屋で学んだことがある。子供心にも特に記憶にあることといえば、善人のアボジが理由は分からないが日本の警察官に殴られたのを目の当たりにしたことで、今でも印象に強く心に残っている。

富　山 男 70 慶南 '32 ・19才（昭和5年）の時に日本にはいってきたのであまり大きな出来事はなかった。ただ家が貧しかったので食べるので目一杯だった。

大　阪 男 57 慶北 '43 ・農業の事しか覚えていない。日本語を使って女性を冷やかすのがイキ

に感じていたし、警察官などを「あなた」と言わずに「あんた」等と言って見下した言い方で冷やかしたりして警察に叱られると、日本語を覚えたてであるとごまかしたりした。

大 阪 女 70 慶北 '33 ・別に記憶はないが、仕事が農業だったので別に苦労はしていない。

大 阪 男 71 慶南 '31 ・学校に行けば覚えているかもしれないが、海辺に日本軍が来たと聞いたことがある。小さかったからあまり覚えていない。

大 阪 男 57 京畿 '43 ・徴兵制度によってどんどん日本に狩り出された。軍事教練、人的資源を有効に使うため、旧制中学生を毎日、2時間学校で受けた。（ママ）点呼令が引かれていた。（朝鮮総督府の政令）中学5年でスタートした。在郷軍人会。

大 阪 男 61 慶南 '39 ・満州に行く兵隊が多かった（汽車道が近かったので）。

大 阪 男 62 済州 '43 ・教室で殆ど食べるのでいっぱいだった米を、家のなかに隠して保持していた。特に記憶に残っているのは、徴兵と徴用であった。部落長が強制的に徴兵した。

大 阪 男 69 慶北 '34 ・協和会に入れば警察から証明書をくれた。それを持てば日本に行けた。それは持っている人も持っていない人もいる。

大 阪 男 76 済州 '18 ・近所全部が農業をしていた。

大 阪 男 55 慶南 '44 ・勉強する際は日本語。

大 阪 男 70 済州 '27 ・電気もないしガスもない原始時代の頃のような生活だった。石油ランプをつけて生活していた。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・小さな村だったので特に変化なしで、ただ嫁に来たので覚えなし。

大 阪 女 62 慶北 '40 ・家族が多いのでわからない、当時女性は学校に行かしてもらえなかったこと、税金が高かった、何でも申告したし、また字を知らないので何でも持って行かれた。

大 阪 男 61 慶南 '41 ・日本人の支配下にあり、韓国内で食えんから、日本においてどうか？兄さんが日本にいたので来てみようと思った。日本になかなか来れない時代だったが、私はすぐに来られた。

大 阪 男 52 済州 '43 ・実姉の結婚式は鮮明に記憶している。

大 阪 男 67 全南 '38 ・当時韓国は就職難でであった。

大 阪 女 57 慶南 '40 ・生活が苦しかったことしか覚えていない。兵隊の行き来するのぐらいはみた。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・おぼえてない。

大 阪 男 79 済州 '20 ・戦争ないときに来た。イジェス（中文里…現、西帰浦市《編集部》）選挙先導（ママ）したと殺された。こわくて逃げる。

大 阪 女 71 慶北 ・農事やってて、雨が降らないので、困ったことがある。台風が吹いて。

大 阪 男 59 慶南 ・支那事変あった。駅に兵隊がいた。

大 阪 男 60 全南 ・日韓両国民にとって不幸な時代であり、日帝の支配下にあったために自国の歴史並に自国語を教われなかった様です。各方面の偉いさんはみんな日本人であった。

大 阪 男 64 済州 ・自分の船で漁とり（ママ）変わったことはなかった。

大 阪 女 59 全南 　　・暮らしまあまあだったが、兄に呼ばれて日本に来た。来なければ縁を切ると言われたので、来た。土地を親戚に貸したうえ、その人が借金の肩がわりに土地を日本人にやってしまった。学校、交番、お菓子屋は、みんな日本人だった。終戦後、日本人がみんな韓国から逃げ出して、その土地を奪い合った。

大 阪 女 60 済州 '41 ・畑仕事の事ばかり、家に家畜がたくさんいたので、その世話や家族の世話に明け暮れた。

大 阪 女 72 慶南 '27 ・結婚のため日本にきた。プサンに住んでいて万歳事件でウリナラマンセイといった人は蔚山に連れて行かれて殺された。父親が厳格であまり外出できなかった。

大 阪 男 68 済州 '30 ・親が早く死んで日本に来た、どうせ働くなら、日本で金もうけしようと思った。

大 阪 男 69 済州 　　・済州道は、少し遅れていたから、そんなに記憶していない。山に向かって「朝鮮万才」を叫んで逮捕された人もいたのを、小学校の時見たことがある。

兵 庫 男 68 慶南 '30 ・記憶というほどのものはないが、その当時は日本の風習が浸透していたので、日本国が何かしろと言われればそれに完全に従っていた。昔、韓国では男は頭にチョンマゲをしていたので、日本人が村にやって来てハサミを持ってそのチョンマゲを切るのに追いかけるし、逃げまわるわでひと騒動でした。

兵 庫 女 68 済州 '40 ・ミシン場の仕事をしてた。ただ、それだけですね。

兵 庫 男 65 慶南 '35 ・当時私達は、昔ながらの百姓の生活だった。ところが満州事変の頃から面役場の人達が同じ朝鮮人でありながら、私達に米、大豆などを植えるな、綿を作れと言い、私達の食糧となるものを勝手に植えることを禁止した。村の人達もそれに反発したが、勝手に米など植えていると、役人が来て根元から折られたりした。その頃から役人と村の人達の対立が起こり、役人達を村の人達がよってたかってなぐったりした。それでもどんどん厳しくなって勝手に山へ行って木を切ってはいけない牛のえさにと刈っておいた草も軍部にとられたり、韓国では草を炊いて牛のえさにしていたのを生で食わせろとか、とにかく禁止禁止だった。正月には白衣を着ていたら、日本人の水鉄砲に墨を入れたもので白衣を黒く汚されて、白衣を着るな「日本人と同じ様にしろ」と言われた。私も役人を恨んだ。日に日に生活が苦しくなって行くので、そんな役人達を殴りとばしてどこかの町へ逃げようかと考えたこともあった。

兵 庫 女 60 慶南 '37 ・（本国で）別にどこにも行ったことがないからね。家で親の手伝い、子守、農業の手伝い。女子挺身隊を日本の人がよく募集してきたので、それについてきた。女の人が白い着物を着たらあかんいうて、市場で殴られるのをよく見た。ゴエモン風呂みたいな所で炭をたいていた。父親がチョンマゲを切られて帰ってきて泣いているのをみた。

兵　庫 男 59 慶南 '39 ・八、九才の時に小学校一年生になって、14才の時に小学校を卒業した。山奥だったので、キツネとかが掘り出した土葬の人の死体の骨だとか散らばっていた。村では総出で運動会をした。

兵　庫 女 73 慶南 '28 ・水に流れて死ぬ、大水が出て水に飛ばされてみんなが死んで行った。近所には日本人はおらんかった。ろうそく工場で働いた事もある。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・当時の生活はとても苦しかった。本国内にいればいるほど苦しくなるような生活なので日本人に土地や田を売り、その土地を貸してもらい農業をしていた。その時は収入は4：6の割合で日本人に6割とられていた。また、当時密航で日本に渡るものも多分にいたが、ほとんどはつかまり、徴兵等に連行されて行った。徴兵等に行かれない老人または高年者等は炭鉱等の要望で日本に渡り、手帳を作ってもらい、それで嫁や子を呼んでいるようだ。

兵　庫 男 58 慶北 '38 ・密航で日本に渡った。おじいさんが政府の交かん士（ママ）だった。最後までおじいさんが王様に印鑑を押してはいけないと、とがめた人だった。その当時は手紙などで秘密にやりとりしていた。

兵　庫 女 72 慶北 '24 ・貧乏人やから、けんかばっかり、暮らしていけないからこっちへ来た。1人の仕事をもらっても、ぬかやかぼちゃや大根の葉を入れた物しか食べられなかった。弟にやる分もなく、自分の分もない、こんなみじめな暮らししかできなかったから日本へ来た。

兵　庫 女 64 慶南 '38 ・日本の人も近所にいて二、三軒見たけれど、けんかしたりしたところを見た事はない。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・生活が苦しく、百姓も自由にできなかった。その中でも日本人の生活はうらやましく思った。それで日本に行こうと思い、学校の校長先生に証明してもらい、留学という名目で日本に来た。当時は、日本に来るのはむずかしかった。私の村でも生活苦の為、日本に行きたがっていた人は何人かいたが、手続きができず、日本に来れなかったようだった。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・学校に行ってるから苦労はあまり知らないし、大掃除があってその時に掃除をさぼった人がいて荻でどやされるのを見た。その人は生活の為に、掃除を怠けたのだが「掃除を怠けた」と言われてどやされた。日本人の憲兵に！

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・本国にいる時は学校に行けなかった。いろいろな理由で（経済的な事もあり）。父母に反対されて、そこで、日本に行って勉強しようと思って日本に留学した。

兵　庫 女 65 済州 '28 ・韓国にいる時、日本語を教えていた。韓国語をしゃべったり、韓国バンザイとか言ったら日帝に連れて行かれた。

兵　庫 女 60 忠北 '41 ・1人で日本へ来た。本国で知り合いの人が日本のことをよく言っていたので日本に憧れていた。本国では戦争が始まりかけていた。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・不作が4年ほど続いて、それで仕方がないから、食えないから日本に来た。その時、親が広島にいた。日本に来ることは親は反対したけど、

本国では食べられないから、父親に知らせないで日本に来た。

兵 庫 男 63 忠南 '42 ・仕事ばかりしていたので、他の事は耳に入ってこなかった（食うために）その当時は朝鮮人は白い服は着られなかった。日本人や日本関係の朝鮮人が上からの命令（無理矢理）で「朝鮮人は白の服きるな」と言って服にスミを塗りよった。ハンメ達は白いチョゴリをよく着ていたので、とてもかわいそうだった。また髪の毛を伸ばしていたら、日本人に追いかけ回されて無理矢理坊主にされた。

兵 庫 男 59 慶北 '39 ・市場に行った時、白いチマチョゴリを墨の水鉄砲でかけられたり、市場の中の商品もメチャクチャにしたりした。家に警察が来て、おじさんのチョンマゲをどうやって切ろうかと言ったり四、五人が来て、おじさんのチョンマゲを切っていた。昔はチョンマゲを切られたら命をとられたのと一緒だった。米など地面などにかくしても捜し出されて、出てきたら半殺しのめにあい、どこかに送られてわからなくなった。米も強制的にとられた。親戚の人が急に呼び出されていなくなった。日本に送られたと思う。朝鮮人狩りであった。

兵 庫 女 77 慶南 '24 ・その当時、町に風変わりな人がいるなあという感じであったが、その後、あれが日本人だったんだなあと思う。

兵 庫 女 60 慶北 '43 ・チョッパリやチョッパリに味方する韓国人達が村に来て、自分達の土地を勝手に測量してこの土地は国、ここは誰とか言って、結局無学な私達親子は土地をとられた。生活が苦しくなって人に土地を借りて百姓をして暮らした。その土地も、小さい荒れた土地でろくな作物がとれないで日に日に食べ物がなく、あの頃覚えてる事といったら苦労、苦労ばっかりです。

兵 庫 女 57 慶南 '43 ・私は田舎に住んでいたので何もわからなかった。ただ今、日本に来て思い出すのはあの当時、町に出ると着物を着ていた人がいたのが日本人だったんだなあと思う。

兵 庫 男 69 慶南 '30 ・平和な時代であったので別に記憶していることはなかった。

兵 庫 男 63 全南 '32 ・私自身生活に苦労していなかった。当時私は、小学生でしたのであまりその時のことは記憶にございませんでしたけれども、ただ村では自分の土地をなくし百姓が思うように出来なかった人達がいた。私は当時、親類が日本にいたので兄達が先に留学していた。私も親に行くように言われて日本に来た。

兵 庫 男 65 全南 '37 ・田舎だったのであまり変わった事もなかった。ただ、日本に来る前、親が死んでしまったので一人ぼっちになり、1人で日本に来た。

兵 庫 男 62 慶北 '41 ・本国の日本軍隊に自分から志願して入った。

兵 庫 女 78 慶南 '28 ・イルボンサランばっかりようけおってええとこ住んで、田んぼでもええとことって畑もとって。日本人が学校を建てた。日本の学校がいいから行くといったけどあかんというて髪の毛を切らなければならなかったので金送ってくれへんし、夫が病気になって韓国帰って、1年経って、また日本人もまた女がおって…。

兵庫	女	72		'26	・家の仕事に専念しており、また、田舎町なので情報が思ったように入らない。
広島	(不明)				・田3反、畑3反、日本に来る時、本家にやった。畑で大豆、きび、麦を作り食べた米は食べなかった。
広島	(不明)				・米作っても供出された。全部もっていかれた。食料一切日本人に持って行かれた。こんな事ならば米は作らんけねの一。ご飯食うて行けない。日本に行こうと思った。
広島	(不明)				・主人の兄弟で長男が土地を全部売って遊んだので、主人は畑ひとつも親から土地をもらえなかった。主人が早くから東京に行って、そして、庄原に来てから私を呼んでくれた。はた織りで自分の服を編んだりした。
鳥取	男	63	慶南	'41	・月60銭の月謝が払えないためとか、生計のため働かなければならないとか、友達の周りの同年代の人たちほとんが就学できないでいた事が、一番の記憶されていること。
鳥取	女	63	慶南	'37	・夫が親類をたよって、私より先に日本に早く渡っていた。その3年間が不安だった。
鳥取	男	63	慶南	'32	・同じ町の人に、"朝鮮人"とバカにされた様な言い方をされた。
鳥取	女	63	京畿	'39	・日本人が地主になり、綿花を栽培してしいた。
鳥取	男	67	慶南	'29	・独立運動で父が関係していて、詳しくわからないけどゴタゴタしていた。
鳥取	男	66	慶南	'29	・学校の月謝50円がなかなか払えないので、日本では月謝はいらないので学校に通うため、日本に居たおじを頼って日本に来た。
鳥取	(不明)				・私の夫の先代が本国内において、財産を全て失ったため、夫は一攫千金を夢みて、私より3年位先に日本に渡航しました。その間、当時30才だった私は、3人の幼い子供をかかえ時代の大きな流れを我身にひしひしと感じながら、それからの将来に非常に不安を感じた。
鳥取	(不明)				・家庭が大変貧しく、父が家庭をかえりみない人だった。私が長男で両親と弟・妹6人の9人家族でした。なんとか小学校へは通えたが、日本人と共学校で日本人生徒とトラブルがあり、正しかろうが正しくなかろうが、いつも教師に叱られた。弁当(麦めし)では、よくからかわれたりもした。中途退学し、17才の時、家族を養うため従兄をたよって単身渡日した。
岡山	男	78	慶北	'34	・農作物を割り当てされ、供出された。割当て分を供出できないので、金を借りて農産物を買い、供出した。そして、借金のカタで土地をとられ、経済困難になり、そのうえ金の価値が下がり、土地を売っても大した金にならなかった。当時の日本の大蔵大臣が殺害され、岡山県出身の犬養が殺された。
岡山	男	59	慶南	'42	・内鮮一体の風潮であり、志願兵を募集してまわっていた。また労働者を甘いさそいで募集していた。
岡山	男	65	全南	'34	・非常に不景気であった。学校で週2回2時間ぐらい朝鮮語の学習があ

った。（朝鮮語読本使用）学校長は日本人、他の教師は同胞、全南昇州郡別良面の駐在所にいた鹿児島出身の巡査部長に、下関までいっしょに連れてきてもらった。当時の本国内のできごとは記憶がない。

山 口 女 60 忠南 '44 ・当時、住んでいた部落で、若い者は強制的に竹ヤリ等の軍事訓練を1週間に1回位行っていた。また、志願兵として戦争に参加して下さいといって、よく勧められた。

山 口 男 60 全南 '41 ・戦争中で苦労した。学生時代であったが教練にかりだされて、きつい目にあった。

山 口 男 62 全南 '36 ・小学校での授業の際、日本人教師による「天皇教育」が思い出に残る。「朕は国家なり」という言葉をくり返し覚えさせられた。学校と警察は、1人、または複数の日本人により統制されていたと思う。

山 口 女 59 慶南 '42 ・朝鮮で結婚してすぐに夫は日本へ行ったので小さな田畑しかない私は苦しかった。その日の食事もできないくらいだった。夫の送金もなく、早く夫が帰ってくるか、私が夫について日本に行けたらと思っていた。

山 口 男 68 慶北 '31 ・別にないね。こまい時じゃったから。学校ではね。1日2時間が韓国語で1時間が日本語を教えられたこともあるの。

山 口 男 70 慶南 '31 ・私の出身地は小さな所だったので仕事は農業しかなく、その日の食事にも困るくらい苦しかった。兄弟も多くとても生活していける状態ではなかった。故郷での思い出はそんなことばかりだった。私は故郷を捨て日本に渡りたかったが、日本に伝手もなかったのでその機会がなかった。しかし友人が日本に渡航することになったので一緒に連れてきてもらった。

山 口 女 64 慶南 '38 ・当時の生活は非情なほど苦しかった。六畳一間で一家5人が生活していた。同胞で大きな家を持っている人もいたが、僅かだった。皆乞食同様で食べるものも着るものもなかった。そんなわけで日本に来たが日本に渡る船に乗る前に「君が代」を歌わされたが、私は学校へ行ったので知っていたが、知らない者はネクタイを噛んで四つん這いで乗れと言われていた。屈辱的だった。

山 口 女 57 全南 '42 ・創氏改名が行なわれ物資不足で、なんでも配給制度で、金とか銅とかは戦争に使うからといって強制的に出させていた。また、白い服は着ていけないという。

山 口 女 57 '43 ・真鍮で出来た鍋やおわんなどを日本政府が全戸から全部とりあげた。

山 口 男 57 全南 '66 ・田舎の人が食えなくて兵隊に志願していくのを二、三人見た。

山 口 男 61 忠北 '30 ・村全体の老人が団結して日本の学校には、子供を行かせなかった。

山 口 男 59 慶北 '24 ・睡眠中に無理矢理起こされ、2年で1ヶ月4円の約束で日本に連れてこられた。

山 口 女 68 全北 '34 ・幼い時に父親を亡くし、母親、兄弟との生活が苦しかった。結婚した。

山 口 男 68 忠北 '40 ・自分の田じゃなしに、人の田をもろてする訳よ。米ができたら1反で何ぼ収めんじゃいけんよ。それでようけ出来たら自分もいいし、出来んじゃったら、食べ物もないよ。あちこち仕事を見つけに行っても仕

事もないよ。仕事ようする人間しか使わんわけ。苦しかったから日本に来て金儲けしようと思ってね。

山　口 男 65 慶北 '31 ・漢文、書道塾で日本語教育が盛んだった。

香　川 男 60 慶北 '36 ・身近な事では、税金の取り立てがきびしかった記憶があります。面事務所の書記と警察が一緒になって、人々から税金を徴収して居りました。その時いつもけんか騒ぎになるので、恐怖心を感じた思い出があります。何の税金かはよくわかりません。確か税金の徴収だったと思います。

香　川 男 66 慶南 '40 ・私は、無学で世間の事には、ほとんど関心がありませんでした。ただ家業である農事に日々を送って居りました。農地も借金の為取られ、毎日苦しい生活をしていました。

香　川 男 74 忠南 '34 ・国民組合というのがありまして、民間人に金を貸していました。私の親も国民組合から、借金していました。何時頃か忘れましたが、組合に返済出来ないため、土地をほとんど全部失くしてしまったんです。両親、親戚の人が一体となって、組合の者ともみ合っていたことを覚えて居ります。それ以後、生活苦が始まり、とうとう私は日本に出稼ぎに来たのです。

徳　島 男 61 慶北 '38 ・みんなが内地と云う言葉が印象に残って居ります。

福　岡（不明） ・父が雑貨店を経営していたが、うまくいかず、日本人の店はだいぶん前から増えていって、同胞の店はつぶれたり、借金したりして、町から出て行ったりする者が多かった。

福　岡（不明） ・家は土地も広く、働き手もたくさんいたが父が家をかえり見ず、母が小作人で家を維持している状態であったので、又、日本人に土地を取られたりし、あげく借金を作り、その返済の為、土地を売ると言う悪循環を繰り返し、当時満州から日本へ旅行中そこで働き出した父を頼って母子で日本に渡る。

福　岡 女 65 慶南 '43 ・泥棒が多くて、日本がいいと思って親戚と一緒に下関へ船でやってきた。

福　岡 男 73 慶北 '32 ・田舎に日本人の人達が入ってきた、田を耕す様になり、私の心の中では色々と感情があったが、その日本人達も人の良い人達が多くそれ程大きな問題はなかった。田の一部を売り、田舎の家族の生活にあて日本へ出発した。

福　岡 男 72 慶北 '27 ・日本で金もうけしようという考えしかなかった。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・兄が日本に居て許可証をもらって日本に渡って来た。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・大阪に兄が居たので頼ってきた。駐在所に渡航許可証をもらう為に、タバコのような、今でいうワイロをあげて出してもらった。小学校当時、家ではウリマル、外では日本語を使うように言われ、もし外でウリマルを使った事がわかると、学校内で先生から草むしり、便所清掃など罰をあたえられた。学校で朝、東を向いて皆並び一礼した。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・田舎から汽車で釜山まで出てきて、1人で日本に渡ってきた。釜山の

町はほとんど日本人であった。市場ではどこでも日本人が居た。大きい家はほとんど日本人であった。夫だけ先に日本に来て、妻は日本の警察から許可証をもらって1年後に渡って来た。男は日本に来ることが楽だったが、女は難しかった。

福　岡 女 57 巨済 '30 ・満州に居た。平和的であった。2回目はひどかった。

福　岡 男 71 済州 '24 ・済州島には日本人の商売人が多くいて中心地の仕事（公務等）はほとんど日本人がしきっていた。農業は元来、田畑が無い土地だったので日本人もする人が少なかった。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・親に聞いた話では、女性を強制的に日本人が自由にして相手して、嫁入りを早くしなければならなかった。

福　岡 男 61 慶南 '38 ・日本人の高利貸しがたくさんいた。韓国人が田畑の肥料を買う時等、とても高く高利貸しに借りる場合が多く、また一般日本人だけではなく警察や役人達も、陰で高利貸しを応援している様であった。それで土地を失くしたものが多かった。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・本国に居る時、日本の炭坑募集で日本に来た。1日約3円（当時）、韓国に居る時、山関係の仕事で1日25銭。黒水の水鉄砲を白い着物にかけられたり、まげを切られたりしたのを聞いた事があるが、自分は日本人からされた事がないし、差別的な事を受けた事もない。

福　岡 男 75 慶南 '25 ・うれしかったことはない。学生服を着て1人で船に乗って来た。労働の為に日本に行く人達は、警察に言って許可証をもらった。学生服を着て日本に勉強しに行くといって渡ってきた。許可証があるものも、ないものもいた。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・近所に住んでいた日本人（佐賀の人）はやさしくしてくれた。日本人の方が強いということもなく仲良かった。日本に来る時も、泣きながら餞別までくれた。この時、苦労した事はない。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・団体で飯塚の炭坑に来た。日本人の兵隊にいっぱい出ていた。

福　岡 男 73 慶南 '26 ・日本人が、村の米などの食物を持っていくので食べるのに困った。夜中に浜に出て歩いていると、日本の兵隊から拷問を受け、暴力をうけ「何で夜中にこんなところにいるかと」言われ早く帰れと言われた。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・家は貧しく、15才で家を出て、韓国元山の炭鉱で働いていた。町には日本人の商人や土地を持つ者が増え、韓国での生活も食べ物等の状況が悪く、日本に行けば生活がしやすいとの噂があり、事実雇われて日本に行く者が多かった。当時、日本に行く前に故郷に里帰りをしたが、山の墓を作る土地にも日本の警官の管理にあり、韓国人の死者は先祖代々の土地に埋められることなく、別の条件の悪い所に埋められる様になっていた。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・日本人校長の息子をなぐり、学校を退学になり、行く所がないので日本で勉強しようとか思っていた。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・父が大正3年に日本に来て1度も連絡がなく、父を捜しに日本に渡ってきた。日本の警察に少しの事があっても引っ張っていかれていた。

自分は日本語が少しできたので通訳みたいのをしていた。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・炭坑でたたかれながら一生懸命働いたが、給料もなく働いた。若い人間は無差別に連れていかれた。日本に来る連絡船を米国の軍艦の魚雷で沈められた所を見た。

佐　賀 男 65 慶南 '40 ・自分の家は密陽駅の近くにあって、シナ事変に出兵して行く人を見送りに日の丸の旗を持って行った。近くの人達もみんな強制的に旗ふりに行かされた。

質問B：徴兵を受けられた方、あなたの体験された状況、出来事をくわしくお話し下さい。

⑤ 日帝の侵略戦争の為に徴兵制が実行された（一九四四年）

東　京 男 62 全北 '52 ・ごはんが少なく、皆で暴動を起こしたら、お前たちの命は1銭5厘のハガキですむといわれた。

大　阪 男 63 全南 '37 ・事故を起こした時に、韓国人であるため、憲兵に連れていかれ、逮捕された。韓国人に対して、危ない仕事ばかり（火薬運び）兵長だった。戦争渦中に韓国に旅券もなしで帰ったが、陸軍にまた、日本に連れ戻された。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・田舎で住んでいたから何もなかった。生活が苦しかった。親戚がこちらにいて、日本の方が生活が楽だと言われて日本に来た。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・軍に入ったらすぐ日本に送られて、日本に1700人位の同胞達と一緒に来て順番に戦地に送られていった。送られた人々は、次々に死んでいった。自分の番がくる前に、軍の中での差別を受けることが腹立たしくて軍を逃亡した。そして軍法会議を受けて死なずにすんだ。

鳥　取 男 63 慶南 '32 ・私の場合は幼い頃日本へ来たので、徴兵を受けたのが当然の義務の様な気がしていましたけど、今考えてみるとそういう気持ちを持ったこと自体悲しい、恐ろしいことだと思います。私が徴兵に出た時は、殆ど日本兵と同じ待遇を受けたのでこれと言って、たいしたことはなかった。

質問C：徴用された方で、契約書をとりかわさなかった方、その理由、状況をお話し下さい。

⑥ 安価な労働力の確保を目的として徴用令が発布された（一九四四年）

北海道 男 56 全南 '40 ・3年たったら帰すという口約束があったため、それを信じた。

東　京 女 58 済州 '41 ・自分は幼かった為、契約書は取り交わした事はなかった。仲介に立った人達が、どういう契約を交わしたかは知らない。ただ口約束で勉強させてくれるということです。

千　葉 男 64 全南 '42 ・一つの "面" で何人だせ、との命令のもとにきた。2年間という話であったが、本人とは契約書を取り交わさず、面の役場としたようだ。2年という話は嘘だった。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・村（面）の役場と日本政府が取り交わしたらしい。2年間という話は聞いていた。東京の側ということも聞いていた。（実際は、仙台の松島）

茨　城 男 66 慶北 '39 ・知り合いの人がいて、仕事がしたいので何かないかと警察に行き、そこで日本に行ったらと言われてきた。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・（意味もわからず、）契約書らしいものの記憶なし。

徳　島 男 61 慶北 '38 ・南方へ軍属として徴用されたが、契約書の事は知らない。仕事をしていた仲間（日本人）と貨物船共に徴用された。軍用物資を運ぶのが目的だった。

西東京 男 63 忠南 '40 ・契約書なんか貰わなかったし、知らない。
西東京 男 57 全南 '40 ・契約書を取り交わす間もなく、無理矢理引っ張られて来たため。
愛 知 男 60 平北 '44 ・総督府の命令で来たため。
大 阪 男 57 慶北 '43 ・役場から強制的に働かされた。放浪癖が有ったので区長から、それなら日本へ行けと言われたので。
大 阪 男 62 済州 '43 ・高さんの場合は契約はなかった、募集の炭坑夫などは契約があったと思う。小さい頃は契約はあったと思う。
大 阪 男 67 全南 '38 ・日帝は、日本において3年間炭坑に（九州）働きに出て逃げなければ、日本と韓国の行き来できる証明書をあげると行った。日本政府は、賃金を本人に与えない。米国の家族に送金すると言い、事実、送られていました。なぜ、本人が賃金を受け取れなかったのは、逃亡の恐れがあると、思われていた。
兵 庫 男 65 慶北 '38 ・命令されて契約書なんか無視された。2年間どこそこへ行けという感じで。
兵 庫 男 63 忠南 '42 ・その時、日本から仕事の募集があって、方の朝鮮の人達と一緒に日本に渡って来た。丁度その時、日本に行きたかったので何も気にせずに日本に渡って来た。
兵 庫 男 64 京畿 '44 ・強制的で契約書なんかなかった。一応、2年と言う約束だったが、そんなものは嘘だった。戦争中だったのでそんな状況じゃなかった。
広 島（不明） ・契約書、強制的で自分の意志はなかった。
広 島（不明） ・強制的に行かされた。徴用に行かなければ、村の人々にいじめられた。朝鮮人同志で迫害された。日本人が契約書を書く訳がないと思う。
福 岡 男 63 慶北 '39 ・存在を知らなかった。
福 岡 男 67 忠南 '42 ・口約束だけはした。

質問D：徴用された方で、あなたの体験された出来事及びその時の状況をくわしくお話し下さい。

⑦ 劣悪な労働条件の下で重労働を強要される当時の同胞たち

北海道 男 56 全南 '40 ・炭坑に来ても自由もなく（タコ部屋）非常に危険な所で仕事をし、嫌だといっても強制的に働かされ、その中で多くの人達が死んでしまった。

東 京 男 62 慶南 '42 ・和歌山の炭坑で石炭を掘っていた。死にたくなる程、苦しく終戦前に逃げ出した。もし捕まっていたなら、殺されていただろう。

東 京 男 66 済州 '36 ・日本の警察の証明で渡日した。1日35銭で働き、下宿代を1ヶ月7円払っていて、風呂へも行かれなかった。

東 京 女 58 済州 '41 ・一生懸命働いているのに、食べ物もひどく、休みも月に2回で、自分は子供で働く量が少ない。と、よく暴力をふるわれた。鈍器のような物で殴られ血だらけになり、今だにその傷跡が残っている。

神奈川 男 67 慶南 '33 ・長崎海軍所で魚雷運びをやった。支那事変の時、南方に食料を運んだ。船の機関室にいたので、弾にあたらず助かった。他の同僚は船の甲板で弾にあたってよく死んだ。

千 葉 男 64 全南 '42 ・約束は、四、五時間だったが違うので、「朝鮮へ帰せ！」と言ったが、それは聞き間違いだと相手にしない。半年目だったので、残り1年半おとなしく、働くことを誓約させた。2年経った人には、家族を呼ん

であげたが、費用はほとんど収入でとられる。警察に60円で渡日手帳を作らせて出る。日本人及び手帳をもっている韓国人（自発的に来た人）は、1日20円だが徴用で来た人（何千人）は、2円70銭で名前は呼ばず、番号で呼ばれていた。労働時間にも差があり、昼食は40分で12時間2交替。1週間で昼組と夜組が替わり、冬でもフンドシ一つで労働（坑内は熱い）。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・鉄道のトンネル工事で暗いうちに朝食してから、みんなで集まって、15分話を聞いてからすぐ仕事。昼食は1時間位で、15分また話を聞いてから、夜8時頃まで仕事。話は、軍人の精神訓示で、何だかよくわからなかった。食事は足らない。冬はさつまいも、夏はじゃがいもをきざんで、徴用者は、日給2円、うち、食費80銭引かれる。一般者は4円60銭～5円。

千　葉 男 58 忠北 '42 ・宿舎で朝4時30分起床。朝食は7分づきの米、いんげんを五、六割いれたご飯。水のようなみそ汁で、1週間に1度おしんこが出る。5時に宿舎を出て、1時間半徒歩でトロッコまで行く。30分位それに乗り、2時に詰め所に行く。打ち合わせ、配分を貰い、仕事に向かう。仕事は8時間、食事30分、弁当持参。夜9時～9時30分に宿舎に戻る。入浴、食事で10時～10時30分になる。一つの部屋に16人～20人（韓国人）入れられていた。月に1度の休日がある。その時、徴兵前の人は、早朝訓練をする。炭坑内にセイロウがあり、韓国人、日本人女性が15人位居た。逃げたいと思っても、手帳は炭坑側で保管していたので、できない。月給40円。ヤミ屋から、買い出しもした。一升餅8円。

千　葉 男 63 慶南 '37 ・九州の炭坑労働で金はくれないし、朝から暗くなるまで働かされた。ほとんどの労働者は朝鮮人で、崩れて死んだ人を沢山みてきた。食事も満足に与えてくれなかった。ネズミに昼寝の最中に足をかじられたおかげで、落ばんから逃げられた。

茨　城 男 66 慶北 '39 ・日本に来て仕事をしたのは、土方であった。約300名余りがいた。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・香川県香川郡直島村三菱精錬所に配属され（当時の16才～19才）、3年間仕事をしながらも、待遇が人間的でなく逃亡に至る。(19才）日本人工員との待遇が全ての面で違った。名古屋、土木関係の仕事につく。（親戚を頼って）

茨　城 男 53 忠南 '44 ・食うに追われる生活の中で、労働時間が長い関係上、自由のない強制された生活だった。食事が保障されていたので仕事に打ち込んだ。2年契約後は自国に帰りたい意識が出てきた。それは、働いた分の給与が支払われなかったり、その仕事場でつらい事が多かった。戦時中は仕事もなく飢餓状態が続いた。逃亡については黙認するようになった。逃亡後は飯場生活を送る。腹一杯に食べられる魅力で暫く働いた。生き延びる生活で一杯だった。

西東京 男 66 全南 '35 ・先に渡日していた人達に話を聞いたら、約束通りじゃないと言っているので逃げた。

西東京 男 63 忠南 '40 ・大きな工場で、人数も多く働いていた。仕事がきつくていつも空腹の状態だった。働いて5日目に空腹に耐えきれなくなって逃げ出した。5人で逃げ出したが、自分を除いて他の4人は全員捕まってしまった。とても運が良かった。

西東京 男 65 慶南 '41 ・とにかく約束とは全然違った。食べる物も不味く、少なく、いつも腹を減らしていた。

西東京 男 57 全南 '40 ・有無を言わさずに無理矢理連れて来られて、炭坑の中で働かされ、良く仕事をしないと殴られ、飯も食べさせてくれなかった。

愛 知(不明) ・日本がよい国に見えた。だが、日本に来ても仕事がなく、親友と一緒に、当時90銭という仕事でも1ヶ月半ほどの仕事しかない。そういう事態で知人を頼り、土方を1円の給料ではじめ、でも1食約15銭だったので、当時かなり苦しかった。

愛 知 男 65 '42 ・横須賀の海軍に徴用されたが、仕打ちが酷く、友人達が殺され、次々に人々が死んで行った。そういう状態に耐えられなくなり、運良く逃げ出すことができた。

愛 知 男 60 全南 '42 ・ 250名。私は2年間の契約で炭坑で働いたが、1日3交替で朝から晩まで働いた。食べる物は酷く、皆、栄養失調になった。国から持ってきたものを隠れて食べた。落盤が酷く、毎日同胞が死んでいった。死んだ者は、親にも連絡されず、無縁仏になる。あまりに仕打ちが酷いので、逃げ出した。そこは高い塀に囲まれていて、サーチライトで照らされていた。

愛 知 男 61 慶南 '23 ・九州の小熊炭坑に18才の時連れて来られた。1日12時間労働で、食事代を引いて15円の給料だった。もし、本国で働いていたら、食べさせてもらえるのが精一杯で、お金は貰えなかった。炭坑内の状況は辛く、1日に10人は死んでいった。

愛 知 男 60 平北 '44 ・当時 100人位の同胞が軍需工場へ回され、私もその中の1人として働かされました。労働時間は朝から晩まで、約12時間で、ろくに休憩も与えられずの毎日で食事も粗末でした。そんな生活が続いたせいか一緒に働き出した仲間達も、倒れたか、死んだかは知りませんが少しづつ減ったような事を覚えています。賃金等は、国へ仕送りするという理由で1回も貰えませんでした。

大 阪 男 62 済州 '43 ・最初に行ったところは三井北海道(砂川)。人数は40人位であった仕事は、雪の上で一、二週間位で気候に慣らされ、以後すぐに坑内に入り仕事をした終戦まで。給料は少なくやみ市でいもやかぼちゃの蒸した物をよく食べた。仕事時間は朝8時〜夜11時位までで夜食に握り飯1こをもらって食べた。

兵 庫 男 68 慶南 '30 ・その当時の話を今せよと言われれば、涙も出ないくらい厳しい生活だった。自分の宿舎でも周りがブロックに囲まれ、入口には門番が見張りをし、食事と言えば一人一人同じ量の麦飯を1杯ずつ食べさせられ、おかわりなんかは決して許されなかった。

兵 庫 男 65 慶北 '38 ・強制的に徴用されて給料はよかったが、2年間の契約だったのに2年6ヶ月たっても何も言うてこない。一緒の班だった日本人と友達になり、日本語を教えてもらったり、母国語を教えてやったりした。

兵 庫 男 63 忠南 '42 ・仕事は福岡の炭鉱で、仕事はとてもきつく食事も粗末な物だった。1度朝寝坊をしたらビンタをはられた。そのことで朝鮮人3人と1ヶ月後逃げ出した。着物もなく、裸同然で道も分からず山へ逃げた。普通の道も通れず、見つかれば半殺しに会うから。そしてやっと夜中に駅につきキップを買うにも日本語がわからない。駅員が炭鉱から逃げて来たとわかったらしく、鹿児島までのキップを売ってくれた。その時には終電の後で、寝てたら憲兵に見つかったが大丈夫だった。

兵 庫 男 64 京畿 '44 ・腰を立てないぐらいしばかれて、今でもその時の傷が残っていて、今でも腰を悪くして病院に通っている。

広 島（不明） ・炭坑で働いていたが、人間扱いではなかった。

広 島（不明） ・御飯を少ししかくれなかった。それでも働かされた。半島人と言われた。病気になっても、手、足を怪我しても、仕事をさせられた。なぐる、けるの暴力をふるわれた。安い賃金で無理矢理働かされた。日本での半分の賃金でも良いから、韓国で働きたかった。

岡 山 男 59 慶南 '42 ・日本人の募集人があり、日本へ行く交通費を出し、飯をたらふく食わし、学校に行かしてやるという宣伝で私を誘いに来た。それで年の幼い私は、勉強ができるという事で頼みました。すると、南京袋地の軍服を1着もらい、ついて行った。その時、共に行った者が、40〜50人ぐらいだった。（昭和17年10月）。北海道の空知郡の茂尻炭坑に連れていかれた。そこまでの交通費、食事代は募集人が支払っただけである。またタコ部屋に入れられ、2年間仕事をすれば、まとめて給金を支払うが、それまでは金を出さなかった。毎日12時間労働で肉体的に疲れ、夜休養するときも、シラミで眠れなかった。翌年4月19日、厳しい監視の中をトイレの天井をやぶり、逃亡し、当時の朝鮮部落にかくまってもらい、岐阜まで逃げ警察に捕まり、三、四日留置され騙されたとして放免してもらった。

京 都 男 68 慶南 '39 ・日本に行けばお金が貰えると言われ、10ヶ月契約で日本に行ったが、大東亜戦争が始まり、契約期間が一方的に無期になり継続して、長崎県北まつら郡、エムカイ村（ママ）の住友炭坑で働いた。1,600人の朝鮮人が一緒に働いていた。徴用で日本に来るのは 100人単位であった。

鳥 取（不明） ・昭和14年9月に北海道夕張炭鉱に徴用され、主に穴堀りをした。仕事は大変辛く穴の中は、殆どが韓国人労働者であった。日本人労働者は、比較的安全な作業などについていた。内容は、仕事も厳しく休む事はできなかった。（医者の診断書がない限り休むことはできなかった。）労働時間は8時間だが守られていなかった。労金は1日3円50銭だった。昭和15年までは食べ物は良かった。それ以後は主食の米に豆を混

ぜるだけで大変悪くなった。作業中は事故が多く、死亡事故も多かった。契約期間が明け、昭和16年10月鳥取の兄・父をたよってきました。その再会の幸福もつかの間、今度は強制的に米子飛行場建設工事に徴用されました。（朝鮮人1500人、日本人 700人、1ヶ月40円）3年間が2年間で終わり、残り1年は舞鶴方面に徴用された。苦しかった。

山　口 男 60 忠南 '44 ・北九州市の炭坑に韓国から 180人の徴用。

山　口 男 67 慶北 '42 ・旅費がただだから、自分が進んできた。この頃は、日本語があまり通じなく、私達も韓国語がわからなかったので、意思の疎通が図れなかった。相手に私達の質問の意味をわかってもらえなかった。

山　口 男 66 慶南 '41 ・ 100人位日本に連れてこられ殆どが逃げたが（どうせ死ぬのだから）自分は逃げてもどうせ戦争の中だし、ここのほうが、その中を逃げるよりもいいんじゃあないかと思った。2 年間踏んだり蹴ったりの生活だった、2年契約で約束通り見送ってくれた。お金も契約通りだった。（兵隊と同じ位）自分が本当に真面目にやったので信用してもらった。

山　口 男 66 慶北 '41 ・徴用3ヶ月訓練で成績が悪かったら、3年の契約期間が過ぎても出られなかった。閉じ込められていた。島根でトンネル掘りをしていた。

山　口 女 62 慶北 '38 ・村から何人出せというノルマが来て強制的に出させられた。金持ちは裏から逃げる道があったが、貧乏人から徴用された。一人息子でも徴用された。北九州の炭坑に入ったが、炭坑がどんな所かも解らずに騙されて来た。四六時中監視されていたが、スキを見つけて逃げ出した。

山　口 男 62 忠南 '24 ・炭鉱で石炭を箱に移す仕事で体の調子が悪くなり、他の仕事に変えてもらった。1日8時間位の労働。一日のご飯も、ちゃんとしてても少ないのに、飯場の親方がピンハネをして酒もなにも少なかった。

山　口 男 59 慶北 '24 ・4円の約束で仕事についても、3円50銭しかもらえず、2年が過ぎたら帰れるはずが、そうでなく雪が20～30cm積もっても靴も与えて貰えず（逃げ出せないように）、2年の約束も無になり1年で20円しかもらえず、そのお金も本国の方に送られた。

香　川 男 66 慶南 '40 ・私達は、60人程で3年間の契約で福岡の炭坑に来ました。本国出発時は、1日5円の賃金契約でしたが、実際は食事代を引くと1日1円位にしかならず、本国への送金も出来ず重労働の為、仲間が次々と逃げ出す状態でした。私も、体力には自信があったが、1年目に、これ以上坑内に入るのは無理と思って仲間3人と逃げました。その後は、福岡県内で土方をしながら、本国に送金しました。私が坑内に入らず逃げ出す時は、本国から一緒に来た60人の仲間の内、10人程まだ残って居たと思います。

徳　島 男 61 慶北 '38 ・フィリピン沖、バシー海峡、そして地点は忘れたが、7回程、潜水艦の攻撃を受けた時は、生きた心地はしなかった。やがて船も止まっている時に飛行機で爆撃され、森林地帯へ右往左往するのみで、飲まず食わずの毎日で、これで本当にこの世のお別れと思った。

徳　島 男 68 慶北 '42 ・親戚の外三寸（母方のおじさん）が大阪の市役所にいて、そのつてで、

大阪市役所へ徴用で来た。その時に証明書を大阪の外三寸が作った。大阪市役所で3年程居て、徳島木沢村へ、炭焼きに入った。当時、配給がかなり悪くなって来た。解放はその木沢村で迎えた。小屋は、バラック（自分で建てた）で夏には、隙間から蛇などが入ってくる。冬にはオンドルたくが隙間から、雪が入り布団の上に積もった事もあった。道は、兎の通る様な道しかなかった。

福　岡 女 62 慶北 '40 ・朝早くから、夜日が沈むまで手作業をした。30人一緒に渡って来て、8月末に来て、正月に3人逃げた。川で砂利を掘っていた。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・飯塚の炭鉱で朝から夜まで無賃で働いていた。しかし他の人とは違い、一番偉い人から呼ばれて、人の倍の日当をもらった。それは60〜80人ぐらいの人の命を助けてやったから。日当は普通で2円30銭だったが私は5円30銭もらっていた。親方から可愛がられて監督みたいな事をしていた。

佐　賀 男 65 慶南 '40 ・契約書は取り交わしたけど、契約の3年を過ぎても帰して貰えなかった。契約内容は全く無視されて事実上無期限に働かされた。終戦時には責任者が逃げてしまって給料は1銭も貰えなかった。

質問Ｅ：徴兵、徴用以外の理由で渡日された方、あなたが日本で仕事につかれるにあたって体験された状況、出来事をお話し下さい。

⑧　炭抗労働者としていかに多くの同胞が酷使されたかを示す案内板

北海道 男 59 慶南 '31 ・当時、日本に来て洋服製造販売の職業に従事しましたが、同じ服を販売するにしても、日本人の販売したものを買うお客が多く、販売自体、とても苦労が多かった。その時、韓国人への差別感をとても強く感じ、くやしい思いをした。

東　京 男 62 済州 '31 ・子供であった為、丁稚奉公という形で就職し、住み込みでその家業であるゴミひも製造機械によってゴムひもを編んでいく仕事のほか、主人、職人などの食事の世話までしなければならなかった。その時ちょっとしたことでなぐられた。

東　京 男 61 済州 '40 ・叔父の所有する工場で働き、長時間ではあったがその分、給料が良かった。朝７時から夜９時まで働いて月120円になった。

東　京 男 69 京畿 '34 ・友人が証明書を発行してくれて、日本への渡航が許され、友人の務めるメリヤス工場に務めた。工場では朝６時から夜12時まで、又は徹夜となり翌日も仕事となり、大変長時間であった。休日は月１回あればまともであり、その仕事場には１年いた。

東　京 女 73 済州 '22 ・朝鮮人が少ししかいなかった頃なので、仕事はあまり見つからなく、知り合いを通じて見つけた。給料は安く、丁度、冬だったため、水仕

事などきつく、体がとても冷えて、渡日してからの二、三年間はつらい時期だった。

東　京 男 65 全北 '27 ・坊さんと暮らしていたら、警官に国のために働けと言われたので、署長の所へ言ったら「お前は警官になれ」と言われ警官となった。だが坊主が警官になったのではかっこが悪いので、署長に頼んで職を替えてもらった。そうしたら、今度は消防署員となっていた。消防署で終戦まで働いたが、解放とともに官庁へは朝鮮人は就職できないということを理由に職をとかれてしまった。

東　京 男 64 慶南 '39 ・対馬島で炭焼きの仕事をした。

神奈川 男 85 慶南 '22 ・２円50銭で土方、じゃり堀りやった。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・給料はまあまあだったが、日本人に朝鮮人は豚だと言われた。最初は土方をした。言葉がわからなかったので、その時は何と言われているのかわからなかった。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・土建業（土木）をした。親戚がやっていたのだ。石川県の金沢でお金をもらえず、日本の警察とけんかした。（会社が倒産した為）樺太の軍用施設へ人夫150人で行った。１回行き、又行こうとしたら行けなくなった。あとの人たちは帰ってこれなくてそのまま……。従兄がまだ樺太にいる。本国の身内が泣いている。

神奈川 女 70 全南 '32 ・下関で三菱造船に勤めた。来る時、父が医者をしていて、50円くれた。１年間は50円で暮らせた。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・選べる状態ではなく（工場）、朝鮮人は何もできないという日本の差別政策があった。

茨　城（不明） ・親類が日本に来ているので、仕事はすぐ見つかりました。ですが内容はひどかった。朝早くから、夜遅くまで働いて少々の金にしかならなかった。

茨　城 男 69 慶南 '32 ・親類の紹介により（人足としての立場）東京大島の日本製粉会社に入社（当時16才）。朝鮮人としての差別はさしてなかった。ただ年若くして能力技能がないゆえ苦労した。日本人同僚とも仲よくやっていたといえる。日本人の長屋で同居した。
炭坑で20年ぐらい終戦の時まで働いた。

西東京 女 66 慶南 '29 ・主人（未亡人の日本人）にとてもよくしてもらった。娘のように（食べ物、着る者、洗濯）面倒を見てくれた。夜は自分の布団に入れて抱いて寝てくれたこともあった。

西東京 女 72 慶北 '28 ・主人は日雇いの仕事をしていて大変だったが、自分は家事だけをしていた。

西東京 女 66 慶南 '36 ・仕事が土方しかなかった。

西東京 女 74 慶南 '32 ・韓国で結婚して日本に渡ってきた。主人が働かないため、野菜売りをして食をつないでいた。

西東京 女 56 全南 '27 ・初めのうちは言葉もよくわからず馬鹿にされてくやしかった。

西東京 女 59 慶北 '40 ・割と恵まれていた。のんびりと過ごしてきた。

西東京 男 69 慶北 '28 ・言葉がわからなかったためなぐられたり、ずい分、いじめられた。
西東京 男 63 忠南 '40 ・雇用者に差別された。よく悪口を言われたりして辛かった。
西東京 女 78 忠南 '30 ・夫が樺太の炭坑で働いていた為、そこで皆のごはんを作っていた。その当時としては仕事はつらいのかわからないが、生活は楽な方であった。希望するものは大体、手に入ったということである。その後、北海道などの地方を廻り、その時、韓国から連れてこられた人にも会った。その時には、そのような人達に給金を支払ったこともあった。
西東京 男 60 全北 '38 ・やはり国籍の問題で差別され、なかなか仕事がなかった。
西東京 男 72 慶南 '40 ・お酒を密造して売って生活していたのだが、近所の人に密告されて警察に逮捕された。その後、日本軍の仕事をした。(憲兵)
西東京 女 75 慶北 '30 ・自分は仕事(職業)を持たなかったけれど、主人が材木関係の仕事を四、五人で行なっていたけれど、1日30円位でも5円位余ったみたいだった。私はその人達の食事の用意をしていた。言葉もわからなくて、外にも余り出なかったし、あそこの人は朝鮮人だと言われた。
西東京 女 61 慶北 '41 ・義兄が既に日本に来ていて古物商をしていたのでそれを手伝った。
西東京 男 62 慶南 '39 ・日本において兄が古物商を行なっていたので、自分も日本に行ってみたいと思い、兄の仕事の手伝いをすることになった。
西東京 男 57 全南 '39 ・給料は安いし、食べるのに精一杯だった。やはり差別はあった。
西東京 男 72 忠南 '40 ・大学時代の友達の会社で働いた。友達に恵まれていた。会社内では差別は無かったが、他の同胞は大変だった。
西東京 男 62 済州 '43 ・同じ仕事をしても賃金は安く、日本人との間の待遇が違った。
静 岡 男 64 慶北 '38 ・製鉄業についてが、それは兄が働いていた為である。40名位の労働者は殆どが韓国人だったので働きやすかった。但し、仕事は15分働き、15分休むという形できつかった。(昼、夕食は1時間休み)これは韓国人だからということではなく、職種の為であり、当時、日給80銭のところを4円もらえたので、全体的に満足のいく職場であった。
愛 知 女 67 慶南 '24 ・ガラス瓶を作る工場で、2交替制で1日中働いたが、給料などはほとんどなく、肌着さえ着られないほど苦しかった。
愛 知 男 58 慶南 '40 ・職場で固まっていた。夜間通っていたが、同じ立場の人が多く、差別は特になかった。特攻警察の目が非常に厳しく、落書きまで細かく注意され、誰が書いたのか追求された。だから暗号を使って連絡し合った。
愛 知 男 77 忠北 '28 ・始めは友人のいた豆腐屋で働いた。毎日自転車で遠くまで豆腐を運んだ。その後、人を使った土木の仕事をした。軍の仕事で大崎で飛行場を作ったりもした。当時仕事があまりなく、軍の関係が多かった。給料は3円20銭であった。若い人は2円80銭だった。
愛 知 女 62 慶北 '40 ・毛布を織る工場へ、女工をして働きに行った。そこでは、1日好きな時間だけ働くことが出来たので以外に楽だった。
愛 知 男 73 '28 ・兄を頼って渡日し、河原で砂利を採取する仕事を2週間やったが、あまりに苦しくて、明道町の菓子問屋に入った。そこでは朝5時から夜

9時まで働かされたが、他の者と同じ様に店の主人が優しくしてくれた。

愛 知 男 67 慶南 '28 ・職場では朝早くたたき起こされ、仕事をさせられた。夜遅くまで休日もなく働いた。賃金が安く、1ヶ月3円程しか貰えなかった。

愛 知 男 75 慶北 '32 ・レンガ工場で働いた。朝5時から午後3時まで働いた。歩合制だったのでよく働いた。しかし、レンガの運びがえらく、なかなか能率があがらず、1日60銭程しか貰えなかった。

愛 知 男 74 忠南 '26 ・電気部品を作る工場で2年働いた。給料1日20銭で、他の仕事より楽であった。そして監督の地位までになった。

愛 知 75 慶北 '30 ・ちょっとでも気に入らない仕事があると、辞めてくれと簡単に言われる時代だったから、どんなにつらい仕事でも文句言わずに働くしかなかった。

愛 知 60 慶北 '39 ・繊維工場で働いた。16才で来て18才で結婚をした。早く結婚しないと軍隊に連れて行かれ、工場で働かされるため。

愛 知 男 61 慶南 '23 ・炭坑の生活は辛く、言葉では言えない。とにかく食事が合わないのと、労働がきついので炭坑を逃げ出した。

愛 知 男 82 慶南 '16 ・鋳工場で働きました。1日12時間位労働し、食べて、こづかいをもらう程度の丁稚奉公の様のものでしたが、21才からは一人前の給料がもらえるようになりました。日本に来たのは大正5年位のことで、当時15才でした。当時、韓国の男性はチョンマゲをする為に髪を伸ばしていました。また、服も韓服を着てきたので、港に着くとすぐ日本人が集まって珍しそうそうに私を見ていました。そのうち巡査がその騒ぎを収拾するためにやってきて私を不審そうに思い、私を交番に連れて行き、色々質問しましたが、私は言葉がしゃべれなかったので、手振り、ジェスチャーで働きに来たと訴え、その警察官に鋳物工場を紹介してもらい、そこで働くようになりました。

愛 知 男 71 慶南 '29 ・熱海トンネルを造ったのは朝鮮人達でした。その頃、朝鮮人の人夫達が死んでも知らん顔で、見捨てておかれました。当時あまり仕事がなく、3日に1回位の土方の仕事がありました。しかし、仕事がきつく重たいものを運ぶ仕事とかが多く、次の日にはスコップも持てないくらい腕や体が痛かったこともあります。

愛 知 男 60 慶北 '40 ・工場へ働きに行ったが、そのうち一番上のポストに着いた。何事も信念をもってやれば良いと思った。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・自分は学生の身分でありながら、毎日軍需工場へ学徒動員され、重労働を強制されたことを大変不満に思っていた。

愛 知 女 60 京畿 ・私は当時15才で体も小さかった。父の知り合いの朝鮮人が経営していた工場なので年少ということもあり、大変かわいがってくれたし、仕事も本国の農業と比べるときつくなかった。

愛 知 男 62 全南 '41 ・日本にやって来て、大阪で職を捜しているとき、韓国人が経営する軍の指定工場の社長と知り合いになった。8人の増員をするから仕事の

ない朝鮮人を雇ってやるからと任された。

愛　知 男 60 慶北 '41 ・日本語を韓国人とばれないように使ったり、軍需工場へもぐり込んだりした。

愛　知 男 57 慶北 '42 ・言葉もわからなく、周りを見ても日本人ばかり、そして1人ぼっち。軍の飛行機製造の工場で毎日毎日同じ事のくり返し、決して生やさしいものではありませんでした。でも、一つ言える事は私に対しては日本人がすごく親切だったことです。

愛　知 男 76 全南 '28 ・私の仕事は、港で船から荷をおろしたり、運んだりする人夫でした。人夫の殆どは韓国人でした。毎朝5時に飯を食って弁当をつめ岸壁に行きました。皆は岸壁に立ち並び、仕事が来るのを待ちました。そのうち船に乗った親方がやってきて働きが良さそうな者達を船に乗せ、仕事場までつれて行きました。私は飯を10時と2時に2回食べました。毎月15日に給料が支払われました。しかし飯場で寝泊まりし飯を食っている料金を1日に70銭づつさし引かれました。飯代をひかれると給料はほとんど残りませんでした。酒を飲むとか、遊ぶとか全くありませんでした。

愛　知 男 71 慶南 '37 ・瀬戸物工場に勤めた。労働時間は9時〜10時間。正月に給料と松のゲタを正月にもらう程度であとは食べるだけ。

愛　知 男 66 慶南 '40 ・道路工事の仕事をしていたが、父と一緒に働いていたので父がかばってくれた点が多かった。給料45銭　（背広1着4円）

愛　知 男 72 忠南 '27 ・朝4時に起きて番頭の顔を洗うお湯を沸かしたり、1日中働き通しだったが、肉体的な苦痛はあまりなかった。とにかく1日に2回も3回も仏壇の前でお経を唱えさせられた。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・すみ焼きをして月に5円の給料をもらったが、他の仕事といえば土方がほとんとで、土方より楽だし金になるので炭焼きの仕事をした。その時、山森に300名程の同胞が働いていた。

愛　知 男 73 慶北 '28 ・1日12時間交替で1ヶ月12円の給料。サージのズボンが一着仕立て1円だった。差別など全くなく、朝鮮人が少なかったのでやさしくしてくれた。1年ぐらい勤めると朝鮮人の評判がよくなり、あちこちから声をかけられた。当時21円もらっていたが、ある場から25円出すといわれそちらへかわった。

愛　知 男 75 慶南 '27 ・庄内川を船に乗って水の中にある砂利を採っていた。韓国人も日本人もたくさん働いていた。

愛　知 女 80 慶南 '32 ・初めて仕事についたのが美容師ですが、とにかく言葉がわからないことはとても苦労しました。でも当時のお金で1ヶ月5000円もらっていて生活には不自由しませんでした。けれど仕事は大変きつく1日1時間ほどの睡眠しかできなくてそれでも歯をくいしばって頑張ってきました。

岐　阜 男 56 満州 '44 ・同胞経営のところで就職。特に差別をうけたこともなく、植民地政策に従順であった。

岐 阜 男 71 慶北 '27 ・勉強に来た。学校に通った。自分の理想通りに行かなかった。特高の強行。政治的なものを抜きにしても問題があった。牧師は連行された。侮辱をされたことも1度ではない。クリスチャンには特高が目を光らせていた。

岐 阜 女 69 慶北 '44 ・夫が徴用でとられて、七、八年してから日本に来た。家で子供を見た。言葉が通じなくて何もできなかった。家でミシンの内職をした。初めて来て1ヶ月ぐらいして八百屋にイワシを買いに行って「いくらですか」という言葉がわからず「これは何だ」と言った。1本を指でさし、金を出したらたくさんおつりが来た。あとで聞いたら10円を出していた。

富 山 女 73 慶南 '35 ・日本語を覚えるために和歌山の田舎で養蚕業を手伝っていたが、2ヶ月もしないうちに主人を残して本国へ一時帰還する。

大 阪 女 61 慶南 '43 ・いちご獲りは朝早くから働いた。いちご獲りを終わってカンズメの会社に通った。夫は病気のため、女でも働かねば食べていかれなかった。

大 阪 男 76 済州 '26 ・初めて携わった仕事が途中で（1年半）倒産してしまった。日本へ来て2日目で働きました。先に来ている知人の紹介でした。

大 阪 男 62 慶南 '35 ・天元のガラス工場。言葉もわからず工場の2階で暮らしていた。言葉もわからないので工場で社長、奥さん、その他の人に親切にされた。

大 阪 男 73 済州 '33 ・初めのうちは被雇用で、しばらくして自営で仕事を始めた。とにかく戦争の時は疎開でのがれていた。

大 阪 男 71 慶南 '31 ・当時、兄と一緒にやっていたが言葉がわからず思うように出来ずに、兄に叱られ何とか品物を売るようにして全国を回った。

大 阪 男 57 京畿 '43 ・東京のサムチュンの子がうしなったので、後を継ぐという事で親同志の話し合いが出来た模様。金物（金属加工）を幅広くやっていた。18才ぐらいの時でおじさんの下で加工を手伝っていた程度。

大 阪 男 62 慶南 '39 ・差別無かった。親切だった。山奥なのですぐやめた。

大 阪 男 69 慶北 '34 ・船に韓国人は自分1人だったがみんな可愛がってくれた。差別は感じなかった。

大 阪 女 75 慶北 '27 ・ガラス工場で働いていた。言葉がわからないので馬鹿にされた。

大 阪 男 76 済州 '18 ・韓国人ばかり下宿させている主人からガラス工場へ行くよう紹介された。日に40銭もらっていた。下宿代、日に50銭で足らなかったので、給料の多い工場へ主人が紹介してくれた。

大 阪 男 55 慶南 '44 ・人夫募集で来た。うちの者は反対をしていたが、直接募集の課長に頼み込んでやってきた。

大 阪 女 76 慶南 '33 ・松原市岡町の紡績工場に勤めた。日本人でも韓国人でも働けた。賃金はハナクソみたいなもの。

大 阪 男 70 済州 '27 ・この頃は20才を過ぎた人達にはすごく差別された。日本語はすぐ覚えた。料理屋の仕事は夜2時頃まで働かされた。まるで奴隷のように…。だいたい朝は8時ぐらいから働いた。

大 阪 男 58 慶北 '41 ・油粕のかたずけ。日本の会社1/4ぐらい韓国人。喧嘩無かった。一切

差別はなかった。

大 阪 女 62 慶北 '40 ・夫が長男だったので親と一緒に暮らしていた。

大 阪 男 61 慶南 '41 ・自発的に自由に来日した。証明を発行してもらった。徴兵で、強制的に来日される前に来た。

大 阪 男 52 済州 '43 ・徴用令を恐れて、仕方なく疎開先の島根で炭焼きの仕事に従事した。

大 阪 男 63 全南 '37 ・仕事も、そこそこしたので、別になにもない。朝5時～7時まで長靴をつくっていた。1ヶ月200円、当時では報酬が良い方だった。

大 阪 女 57 慶南 '40 ・日本人、韓国人一緒に仕事。幼かったので、内容はよくわからない。給料は約束どうりもらった。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・結婚したので。

大 阪 男 79 済州 '20 ・仕事がなかった。兄の紹介。油さしやらした。日本人ばかりいた。船では差別がなかった。

大 阪 女 71 慶北 ・人の世話ではいった。韓国人は多くなかった。みんな、バラック長屋に住んだ。工場の飯は少ないので困った。みんな腹をすかした。会社で主人が仕事をよくしたので待遇がよかった。給料が良かった。

大 阪 男 59 慶南 ・差別は別にない。人に負けないように頑張った。釜山では給料に差があった。日本では資格をとったので待遇は日本人と同じ。

大 阪 男 63 慶南 ・何気なしにやった。その当時はボンボン育ちであったので、世間もあまり知らなかったので生活に対しては、人よりは苦労をしていなかった。日本政府が1度にたくさんの韓国人を徴用でつれて来た。連れて来られた人達は、仕事がつらくて逃げたりしたが、つかまった人達は日本人になぐられた。日本人はけられたりしてみせしめをしていた。若いころ世間しらずに育った。

大 阪 女 61 慶北 ・糸まきの仕事をしていた。条件面としては、朝5時～夜10までして20銭ぐらいしかなかった。他の労働者のことは、言葉がわからなかったので、あまりわからない。あの当時の韓国人は、朝早くから夜遅くまで働いて、何とか食べられる位にしかなかった。そのうち言葉が理解出来る様になったら、馬鹿にされているのがわかった。

大 阪 男 60 全南 ・第二次大戦後、学校中退。本国に帰る事が出来ませんので、友人の紡績会社へ就職した。四、五年後、所謂、朝鮮動乱勃発と同時に紡績会社を退職し、繊維原料商を営みつつ、紡績業、並びに染色業を営み現在に至る。

大 阪 男 69 済州 ・ブリキ屋で1日に40銭。下宿代を払ってごはんを食べるのが、精一杯だった。他に仕事なくて、何でも良かった。臨時もやった、5～6人ぐらい同胞が一緒に働いていた。

大 阪 男 64 済州 ・貨物船は、全部軍隊に配属されていて仕方なく、軍隊の関係に使った。私の船に乗った人は、戦場に行ったが、船の故障整備で下関に降り、そのままそこで船の整備をした。差別はなかった。むしろ技術をもっていたのでいばっていた。

大 阪 女 59 全南 ・家族は、徴兵・徴用でとられるのをおそれて、一旦韓国に行った。仕

事をしなければ飯を食えないので、一生懸命働いた。職がないのでその仕事をしていた。女だけで日本人はやらなかった。私は、学歴がないのでその仕事をやめた。学校へ行きたくて親にねだったが、だめだった。韓国人だけ集まって、その工場で働いた。給料は安いが、良く働いたので、いろいろな人に勧誘された。給料よりも人間を大切にしたので他の勧誘は断った。

大 阪 女 60 済州 '41 ・渡日したとたん戦争が始まり、いったん疎開し、終戦後も買い出し等をして生活をつないでいた。

大 阪 女 72 慶北 '27 ・結婚していたので、主人の仕事（ガラス玉を糸で通してネックレス等を作る）朝から晩で一生懸命仕事したが、あまり儲からなかった。他にする仕事がなかったので55年間した。

大 阪 女 68 済州 '30 ・下宿で働いていたが、女中同然で、そこを出て紡績（ミシンの仕事）そこで体をこわした。2年間闘病生活した。それから親戚を見つけて、そこに行った。メリヤス工場一ヶ月働きどうし30円（当時いい給料）日本人の中で、1人だけ言うことをきかず親方を困らせたこともある。

兵 庫 女 68 慶南 '30 ・日本に来てな、すぐに店をしたんや。今のな、クラブみたいのとこや、よう働いたで、一日中働いたな。人の何十倍もな、それで、体もこわしてしもうた、病気ばっかりや。

兵 庫 女 65 慶南 '35 ・私より先に渡日していた兄の紹介で、紡績工場で生地、糸の運搬の仕事についた。そこで生まれて初めて大勢の日本人女性たちの働く姿を見て日本人はこんなに働くのかとびっくりした。私はそれまで田舎で百姓しかしたことがなかったので工場で何十倍、何百の女工さん達が働く姿にはとにかくびっくりした。私の仕事は工場で使う糸や出来上がった生地の運搬でした。糸などを積んで運ぶ車、手押し車のことをここでは「ネコ」といって会社の人に「ネコをもってこい」といわれても分からない、言葉の不自由を感じました。もちろんこの仕事は重労働でした。

兵 庫 女 71 慶北 '34 ・おじいさんのお父さんが、おじいさんを勉強させるために日本へ行かせた。そのあと5年後におばあさんも日本へ来た。

兵 庫 女 60 慶南 '37 ・一番最初に来たのは四国の高知県で、一番最初にした仕事は塩やき、塩田で働いた。向こうで募集されて自分の希望ではなかったが、こなしやすかった。

兵 庫 男 59 慶南 '39 ・勉強するつもりで日本に来たが、金がないので出来なかった。ただ日本に来る前に学校で習っていたので、日本語は話せた。日本に来る前に当時の金で 100万円ほどもっていたが、日本円に代えなかったので、何も買えなかった。おなかがすいて、うどん屋の前で立っていたら、そこの主人がうどんをごちそうしてくれた。その主人がくだもの屋を紹介しくれて、兄と一緒に12年間働いた。給料、10銭、住み込みで食事も食べさせてもらった。自分が貯めたお金 300円を身内に預けたけど使われてしまった。仕事は朝、早かった。遊びに行く時は、売り上

げを入れておくカゴから自由にお金を持っていけた。それだけ信用があった。

兵　庫 女 73 慶南 '28　土方、鉄道工事の山から土を積んで来て降ろしたり、京阪電車、昭和4年頃、日当（8時～9時）2円、仕事はえらいけど良かった。さぼっていると監督が棒を持ってなぐりかかる。休憩なし。名古屋で働いた。人間があまって仕事で苦労した。寒かった。

兵　庫 女 59 済州 '36 ・メリヤス工場で働いていた（勤務時間：朝7時～夜11時）1日45銭、1ヶ月14～15円（残業手当てなし、日本人との差なし）仕事にはミシン掛けと下ばりとがあった。下ばりを3年すればミシン掛けに上がれる。ミシン掛けは請け負いで仕事をした分だけ金になる。日本人従業員は全員ミシン掛け。韓国人は多くが下ばり。私も下ばりだったが、ミシン掛けに上がった。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・仕事はとても苦しくきつかった。言葉がわからないので良い事、悪い等を言われても、何も返答できなかった。ほとんど悪口を言われていたように思う。（目付きや態度で感じる）仕事の中での差別は多かった。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・どこでもよかったし、いちばん家に近くあったから。仕事時間は朝7時～夕方5時まで残業はあまりなし。小規模な鉄工所で、韓国人労働者は少なかった。差別はなかった。1日60銭。

兵　庫 女 55 慶南 '43 ・仕事といわれても土方しかなかった。仕事がなければ良い仕事を求めてあっちこっちへ宿替えばかりしていた。現場又は飯場を点々とした。

兵　庫 女 72 慶北 '24 ・仕事で指は血が出る位、帰って洗濯やそうじで指に穴があく位、その頃は日本人のかっこして、おさげ髪をして仕事した。

兵　庫 女 64 慶南 '38 ・日本の方が食べ物はあった。でも1ヶ月働いて、5円ももらえない。オーバーが1着8円もした。お金がなかった。始めはなかなか慣れないので、仕事ができなかった。日本人は親切にしてくれた。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・日本語をうまく話せないし、これといった職も持ってなかった。それより、何でもいいから仕事をしたかった。同胞の人に紹介してもらって土方をした。それから、何度も仕事を変わったが、とにかく仕事といったら重労働で、しかも、給料も安かった。給料がもらえる所はまだいい方で、へたをすれば飯が食えるだけといった所もあった。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・植民地政策を取ったために、給料の差別があった。（2倍位違った）差別された事は承知の上だった。就職しようと思って履歴書を書いたが駄目で土方等の仕事しかなかった。老後保障は出来なかった。

兵　庫 女 82 慶南 '31 ・夫を追って日本に来たが、まともな職もなく苦しいばかりの生活だった。毎日鉄を拾いに行って、お金にして食べるだけで精一杯だった。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・学生だった。日本に来て勉強がしたかったが、韓国人が勉強し、知識を得ても何の役に立たないという事がわかり、遊ぶ時間が増え、勉強がいやになり、学校は早く中退した。

兵　庫 女 70 慶南 '37 ・1947年に主人が死んで、生きて行く為に、土方から会社に至るまで働

いた。10円でも多いところを捜して、日本語がわからなかったので、仕事は半年も持たなかった。

兵 庫 男 74 慶南 '27 ・始め、うどん屋で働いたが、何もわからなかったし、夜の3時まで働らかされて、勉強がぜんぜん出来なかった、それでうどん屋をやめて、べっこうあめを作る所で働いた。その仕事ならうまくやって行けそうだったので神戸青年学校に入って勉強した。その後、べっこうあめ屋を自分でやって行った。

兵 庫 女 77 慶南 '30 ・紡績工場で、麻袋等を作っていたが、すぐ結婚したので、あとは何もしていない。工場へは近所の人達と一緒に行き、日給であった。

兵 庫 女 65 済州 '28 ・年令的に女中という仕事にしかつけなかった。とても辛い仕事であった。後、17才になり、紡績の仕事についた。女中の仕事は月に当時1円だった。たばこは拾ってすい、ごはんはちびたゲタ、たき木をひろい、たいていた。

兵 庫 男 66 慶北 '36 ・川崎重工に務め、やめてから町工場を点々とし、終戦後は、靴屋を始めて、ちょっともうけて、それからすっからかんになって今の非鉄金属商をしている。

兵 庫 男 65 慶北 '34 ・姉が日本に来ていた、国にいるより生活が楽になると思って、憧れてきた。丹後ちりめん屋で働いた。給料は見習いとして住み込みで1日50銭、食べ物はひどかった。預金をしていた。苦労（働くのに努力して手に職をつけた）した、それから田をかりて百姓をした（仕事がなかった為と徴兵でとられる）ため、3反以上つくったら徴兵がまぬがれた。

兵 庫 女 72 慶南 '38 ・我先に日本に渡った。夫の親が日本におるから日本へ行けと言った。

兵 庫 女 58 慶南 '44 ・両親とともに渡ってきたから、何も覚えていない。親の下でミシンがけをしていた。日本の軍事用品を作っていた。

兵 庫 女 60 忠北 '41 ・日本へ来て、本国でもした事がない畑仕事ばかりで辛かった。けがしたり、言葉を知らなかったりの苦労で本国へ帰りたかった。ごはんも食べられなかった。お金もなかった。人がいない所へ言っていつも泣いていた。九州〜大阪何回も引越をした。

兵 庫 男 63 慶南 '41 ・今とちがい、当時は配給制度で、その配給だけでは生活ができない。だから食べる為に工場を点々とした。配給の少しでも多いところを捜した。

兵 庫 女 59 慶北 '39 ・教員になろうと思っていた。（日本語も出来ないとダメ）それで日本に来た。留学生で来た者は韓国に帰りたかった。日本に来て、わらぞうりを作って売ったり、松の木の実を売ったり、千人針をぬったりして勉強できなかった。

兵 庫 男 60 慶南 '38 ・そらぁ、つらかったなあ。だけど、食っていくためには当たり前という気持ちもあった。一般工員の給料は朝日で差はなかった。公務員は差があったと思う。勤務時間は朝7時〜夕方5時。

兵 庫 女 77 慶南 '24 ・私は繊維会社に勤めていて、普通、世間並みの月給は20円程であった

が、私は30円のお金をもらっていた。その中から月々10円を預金していまた。

兵 庫 女 57 慶南 '43 ・その当時、朝鮮人が出来る仕事といえば、まともな仕事にありつけなかった。ボロ買い、土方といろいろな仕事をした。

兵 庫 男 69 慶南 '30 ・あの頃は、外国人だという事で差別されていた。ただそのことだけが体験したことである。

兵 庫 男 63 全南 '32 ・私は留学で来たので仕事は全くしていなかった。学校では朝鮮人が少なかったことから私には朝から晩まで朝鮮人、朝鮮人と言われたり、しゃべると言語がおかしいから、いじめられたり、笑われたりした。

兵 庫 男 65 全南 '37 ・町で広告をみて、三菱造船所の下請け会社に入った。旋盤工見習いで3年くらい働いた後、本工として採用された。会社の中に同胞はわずかでみんなにやさしくされ、働くのは別に苦労もなく、生活は楽とは言えないが、まあまあだった。差別もこれといってなかった。だから、日本に来てから数年間は、いい人達にめぐまれて、今考えると、幸せな方だったと思う。

兵 庫 男 60 慶南 '36 ・16才頃、ウィルキンソンに勤めた。仕事は工員、2年勤めた。

兵 庫 女 78 慶南 '28 ・赤ちゃんがおったので、いろいろな商売をした。朝鮮のもちを作ったり、キムチこしらえて売ったり、ボロ屋もしてみたり、もやしを売ったり、露店を出したり…。旦那さんは女がおった。

兵 庫 男 62 慶北 '44 ・終戦後は日本人でも仕事がないのに朝鮮人だったらよけいに仕事がなかった。

不 明 女 78 慶南 '28 ・息子がおったので、いろんな商売をした。朝鮮もちを売ったり、露店出したり、だんなが女おって…。キムチ売ったり、もやし売ったり…。どろぼうだけはせんど。

兵 庫 女 72 不明 '26 ・就職するにあたっては、斡旋で和歌山の紡績工場で日45銭で行い、日本へ来て結婚しようと思い、着る服とか買おうと思い、少しでも金になる仕事をしようと日本に来て仕事をした。

京 都 男 68 慶南 '37 ・日本の生活は楽だと聞いていたので、日本にやってきた。船に乗る事が非常に好きだったので、日本にいる韓国人の友人から大阪造船会社に入らないかと誘われたので喜んで行った。上海シンガポール、東南アジアの港を回った。

広 島(不明) ・1とうの米2円50銭。1俵(10kg)も100俵を1ヶ月で作って出した。(ママ)100円をもらってた。

鳥 取 男 63 慶南 '41 ・青年学校の入学の目的で渡日したのだが、入学してみれば軍事教練ばかりで、いやになり、2ヶ月でやめ、本国の親よりの仕送りもとだえて、仕方なく、古物商で食べて行った。今、口では言えないような苦労も多かった。田舎へ行った時、官憲に「われ何しに来た、帰れ」と言われ、まるでドロボーを追い払うように扱われた。朝鮮人、古物商という二重の差別を受けた。

鳥 取 女 慶南 '37 ・夫が病身のため、小さな子供を連れてリヤカーを引いてその日の糧を

稼いだ。

鳥　取（不明）　・当時下請けの下請けではあるが、夫が土建業を営んでおり、私はその人夫達（朝鮮人、親戚30人位）の水事係を、私１人でやっていたため朝３～４時に起き、食事の準備に追われ、とても大変だった。それと賃金がとても安かった。

鳥　取（不明）　・日本火力発電の下請会社丸中組の支配人を、従兄がやっていたので、その下で働いたのが、大変仕事がきつかった。丸中組の人夫総数 300人のうち 200人程が同胞で作業内容など、かなり差別されて、私たちはいつも危険できつい作業に従事させられた。日給は２円20銭で（割と高給）月に換算すると75円程度で15円を食事代（配給制により量も少なく質も悪いしまずい）を引かれ、10円をこづかいにし、50円を本国に仕送りし、生活していた。昭和18年春、徴兵令状が来たので、親類を頼って樺太まで逃げた。そこで三菱炭坑の下請会社で従事した。炭坑で働いているとき、軍属に招集された。昭和18年秋、家族を本国から呼んだ。

岡　山 男 65 全南 '34　・明石の製缶工場で、見習いとして就職し、昼働き、夜、商業学校に通い、最初は学校に行くお金もなく、給与が少しあがるまで一生懸命働いた。その工場には同胞が50%いたが、親方から給与面や待遇で日本人と冷遇され、日本語がうまくできないので馬鹿にされた。

岡　山 男 64 慶南 '34　・ビンを割ったりなどの失敗をすると、殴る、蹴る等の暴力を振るわれ、ひどい目にあった。

山　口 男 60 全南 '41　・初めは自分の意志で炭坑に入ったが、すぐ徴用され、そこで身動きができなくなった。

山　口 男 62 全南 '36　・船乗りの仕事を退職後、下関市竹崎町周辺で人夫請負業を行う。同胞を10人程斡旋し、日本人軍兵の物品、その他を入れる為の飯場、防空壕建設を行う。

山　口 男 67 慶南 '39　・最初は福岡に来たが、いい仕事がなく、下関に来た。炭坑の仕事があったが、仕事内容がきつく、厳しいと聞いていたので行かず、土方をしてどうにか食べていた。

山　口 男 68 慶南 '28　・先に渡日していた兄から、かまぼこ屋で仕事ができるという「許可書」みたいなものが送られてきたので、渡日し、その店で働いた。月収は１円50銭くらいだった。しかし、その後、徴用された。契約書があったかどうかは記憶にないが、下関高島の三菱造船所で２年働いた。寮で１年、通勤で１年。毎日８時間労働で半強制的だった。部品や鉄板の旋盤の仕事だった。仕事をさぼれば憲兵に注意され、仕事の合間に兵隊の訓練をさせられた。（閲兵訓練－軍隊を整列させて検閲すること。）

山　口 男 67 慶北 '42　・山仕事をしていたが、いくら働いても農協の方に全部出さなければならないので、生活は良くならなかった。少し食べるくらいのお米はもらっていたが、とうてい足りるものではなかった。

山　口 男 78 慶北 '27 ・友達のところへ行きたくて汽車に乗ったが、お金がなくて、その途中に仕事場があるのでそこに泊まって行けばいいと教えてもらって、行った所が、自分の仕事場になった。そこで、むちゃくちゃに働かされたが、差別というのは別になく、ただ働いて食べさせてもらっていた。

山　口 男 66 慶北 '41 ・知り合いの鉄鋼所で働いたから食べられないとか、差別という事はなかった。

山　口 男 68 慶北 '31 ・九州の飯塚に来て、炭鉱へね、初め来たら年が少ないので炭鉱へ志願できんじゃた。志願できんから2年位、姉さんの所で遊んで、それでもまだ18才にしかなるまあが、じゃけ嘘をいうてね、炭鉱内に入ったそいや。先輩の人が石炭を掘ったりせんでも、あんたにむく仕事があるいうと入ったそいね。山口の坑内はそうでもないけど、九州あたりは梯子をべったり、地に埋め込んで上がるくらいの傾斜があったいの。石炭を掘るキラ（？）というのがあって、そこへマイトで石炭を掘ってツルハシで掘る人も、トイ(鉄板でこさえて)にエブで入れる人も、スクで入れる人も傾斜があるから火が出るほど下るいの。下がってもつまる時があるんじゃ。その時に押す役をしたんじゃ、15日位でそこはやめた。その仕事はきつい事はないけど恐ろしかった。何千mちょう坑内に入って、汗はふんどし1枚でやるのにだらだら出てなあ。もうどうも危ないし、むかんからやめた。

山　口 男 70 慶南 '31 ・日本に来てすぐに飯場に入った。仕事を始めた時は、言葉も解らず仕事もきつかったので故郷に帰りたくていつも泣いていた。当時の人夫給料が1日経験者で1円20銭、未経験者で60銭、ところが私の体は小さかったので45銭しか貰えなかった。これは1日の下宿代と同じで病気で休むといつも借金をしていた。これでは国に送金することも出来ずなんの為に日本に来たのか意味がなかった。

山　口 男 64 慶南 '38 ・兄が先に日本に来て、土木業を営んでいたため私も土方をした。最初にやったのは、トロッコに土を積み工場の基礎現場まで押して行くことだった。仕事は厳しかったが飯は腹一杯食べられた。他の同胞よりも恵まれていたように思う。日本に慣れてきたら、人夫を集めて兄と同じ土木業を営んだ。人夫は同胞と日本人半々だった。日本人は別にして同胞は炭鉱スクラップ、土方の三つしか仕事がなかった。

山　口 男 66 全南 '36 ・日本の人夫出しの親方みたいな人が田舎に来て、日本の炭鉱で働けばいい金になると誘われて来た。約束の給料の半分位しか貰えなかったし、宿舎のまわりは塀をめぐらして外出禁止で、もし無断外出が見つかれば半殺しにされた。

山　口 男 66 慶南 '31 ・対馬で炭焼きをしていたが、朝鮮人の口きき屋に騙されて北九州の炭坑に行ったがつらくて逃げ出した。

山　口 男 61 慶南 '40 ・1948年頃、韓国に帰るつもりで下関に来てみたが、帰る船もないので下関におちついてしまった。そして、その当時私と同じ人が沢山いて、その子供達が非行にはしっているのを見て、数人がお金を出しあって

バラック小屋を買って昔の寺子屋みたいに子供たちに韓国語、数学等を教えた。

山 口 男 64 全南 '33 ・別に苦しいことはなかった。割と店の人（日本人）によくしてもらった覚えがある。

山 口 女 68 全北 '34 ・先に渡日した夫を捜して日本に渡り、夫が炭坑で働いたので一緒に働いた。仕事は重労働だったけれど、後にその炭坑をまかされる事になって生活はそんなに苦しくなかった。

山 口 男 68 慶南 '40 ・八幡やら戸畑やらの鉄工所で働いた。ワシやずーっと鉄工所ばっかりじゃ。小倉でも宇部でも、岩国に行った時解除になって、ウリトンポが中で仕事受けた訳よ。ある人が人夫連れて入るわけよ。仕事はなんぼでもあった。ほとんど日本の人は兵隊に行って、年寄りと娘と学生と、ほとんど韓国人ばっかりじゃった。スクラップを溶かす所で働いた。技術者と年寄り以外は全部韓国人じゃった。給料は２円40銭（上の人が引いたから）ヤミ米が高くなった。配給になってからは自由にかえず３日に１度。

山 口 女 54 慶南 '42 ・職がなく、仕方ないのでボタ山で石炭を拾い、それを売って家計のたしにした。その他、内職程度で、お金になることは何でもした。

山 口 男 65 慶北 '31 ・昼も夜も働く、両立は苦労も多かった。

山 口 男 55 慶北 '43 ・日本に行けば職があるというので、渡日し水産会社の船員になった。大変苦しかったが、船員同志は仲良く楽しく過ごせた。

香 川 男 60 慶北 '36 ・友人と２人で渡日しました。郷里にあった駐在所の警察官の紹介状をもって渡日、九州熊本市にまで２人で行きました。駐在所警察官の親戚者で、大きな農家だったのです。２人は朝早く起きて、新聞配達をし、朝食を終えて農事を夕方迄皆なと一緒にやっていたのです。農家の人達はみんな親切で、仕事もそんなにつらくはありませんでした。手当ては寝て食べて月２円程もらってました。

徳 島 男 72 慶南 '27 ・生活の為、一生懸命働くだけでした。言葉（日本語）がしゃべれなかっので仕事を捜して、いつもいつも重労働の方へばかりまわされ、それで自分の身体にむち打って頑張ってみても、思ったより賃金は安く、何度職を変えても同じであった。ただただえらかった。くやしかった。

福 岡（不明） ・雑貨商のでっち奉公で、親が働いていたので、その仕事についた。２年でやめ、レンガ工場に勤め、家族ぐるみで佐賀に引越した。朝４時頃から仕事をはじめ、家族皆で働いた。レンガ工場では韓国人がほとんどであった。給料は能率給で、日本人と同じであった。

福 岡 女 65 慶南 '43 ・飯場で働きながら、酒などを作ったりしていた。腕のある人はいくらでも仕事はあった。

福 岡 男 62 慶北 '35 ・親族が先に日本に来ていたので、親族の仕事（金属業）の手伝いをしていた。それで韓国に仕送りをしていた。１年位そこで働き、その後菓子屋の番頭を二、三年し、パン屋に二、三年いた。

福 岡 男 73 慶北 '32 ・土木労働をしながら、人より良く働いたので、お金も少しもうかり、

わりと良い生活が出来た。そして人を少し使い、仕事を請負う様になった。仕事の上で、日本人に差別を受けた様な事はなく、スムーズな面が多かった。もちろん、韓国人と日本人との間に対立や少しの差別はあった。

福　岡 女 72 慶北 '27 ・その頃、朝鮮人は炭坑しか仕事はなく、お金もいい方だった。一つの炭坑で20年ぐらい終戦の時まで働いた。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・学校に行きたくて、夜間学校へ通ったが、勉強についていけなかった。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・鉄工所で鉄を溶かしたカスを工場から運びだす仕事。しかし自分にはむかないと思い、1ヶ月位して別の職についた。今でいう飯場で3勤交替で働く。

福　岡 男 70 　　 '41 ・仕事を選べる段階ではなかった。飯場に入って、親方から指図され左官をした。飯場は親方から全員韓国人であったので、言葉の心配等はなかった。

福　岡 男 71 済州 '24 ・渡日時、13才で日本語もほとんどわからず、親族は日本に居たが日本人によくいじめられて苦労した。ピン工場とか色々職場を変えたがよく殴られた。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・給料は安く、食生活をまかなうだけ、仕事が苛酷で日本人は勤まらないので。

福　岡 女 61 慶南 '37 ・食べる物が少なかった。町では朝鮮人と言われた。山の中では危ない仕事を朝鮮人に多くさせていた。たくさんの人が、事故やまた人為的に殺されていた。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・日本人との区別は当たり前であった。賃金の格差はあった。日本人に対して3分の2から2分の1。

福　岡 男 60 忠南 '42 ・募集で日本に来たが、右も左もわからず職も転々としたが、日本人の経営する所よりも韓国人の経営する所のほうが待遇がものすごく悪かった。

福　岡 男 75 忠南 '25 ・留学するつもりであったが、留学できなく、会津若松で蚕種屋に入った。（本国で経験があった）東京に行ってる同胞は、インテリが多かった。朝鮮人は帝大には入れなかった。東京の学生の仕送り30円。下宿代食事付15円。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・川に行ってバラスを1年間位あげていて一つ上げると15銭、砂は5銭していた。麦かりや田植え、稲刈りも金をようけくれたので手伝いに行っていた。日本人はやさしくしてくれた。夫の兄弟は徴用でみんなひっぱられた。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・日本政府の募集で飯塚に2年契約で来た。1年位で村の人間がボタが落ちて死んだ。それがこわくなって逃げ出し20人位で、あいた炭坑に移り、芦屋の飛行場整備に行く、親方が食べ物がないので十〜何人逃げてほとんどつかまり、もとの炭坑にもどされた人間もいた。日本政府の契約とは全然違っていた。終戦までは色々な仕事をした。賃金はもらったが、食べるのに精一杯であった。本国に仕送りできる状態で

はなかった。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・韓国で炭坑にいたので、日本でも炭坑の仕事に従事する事にした。予想していたのとは違い、日本の炭坑の生活も苦しく同胞のひどい生活があった。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・日本語の覚えが早く、仕事がよく出来ると言ってよくかわいがられた。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・密航で漁船につめられて来た。父が炭坑に3年程働いていると、本国から人々が何千何万と渡って来た。1ヶ月に 200人～3000人。逃げても何もできなかったので、逃げても仕方なかった。

佐　賀 男 59 満州 '45 ・開放された喜びで組織活動に参加した。その付録として勉強ができた。

第3章　日帝の政策

⑨　乙巳保護条約が締結され、日帝の支配が始ってゆく（1905年）

この章では、日本が半島を植民地化した際に採った政策の中で、在日同胞の渡航のもとをつくった土地調査事業をはじめ、その後の民族性抹殺政策における象徴的事項について尋ねています。

明治維新により西洋化－近代化を達成した日本は、後発資本主義国として先発国に追いつく必要を感じ、その資本主義的侵略の矛先を大陸へと向けました。その端緒として、まだ列強の手がついていない朝鮮に目が向けられたのは当然だったと言えるでしょう。

この帝国主義化した日本は、1876年の江華条約を皮切りに朝鮮の「開国」を要求し、不平等条約を押しつけ、経済的侵略を開始してゆきました。そして、このような海外からの侵略に対する朝鮮の国内的反抗や、崩れつつあった封建体制への反対の動きに乗じて朝鮮を政治的にも侵しはじめ、やがて日清戦争、日露戦争を通じてライバルを蹴落とし、1910年８月22日当時朝鮮から大韓と国号を変更していた韓国を併合するに至りました。

そして、日本による朝鮮経済（併合に伴って呼称は再び朝鮮となった）の植民地的再編成の主軸として、土地調査事業が1910年３月から1918年２月にかけて強行されました。これは、表向きには「土地所有権の確立と地税賦課の整理」を目的としていましたが、実際は、封建地主と日本人地主ならびに土地会社の土地所有権を確立し、植民地統治のための財源を確保するためでした。土地所有権は所有者の申告によるとされたため、証言にもあるように、日本語の問題や手続の問題などで農民の土地が奪われ、共有地なども総督府の管轄となり、やがて日本人地主や土地会社に払い下げられました。

また、1910年12月には、「会社令」が公布され、朝鮮総督が朝鮮における会社設立に関する全権限を与えられ、こうした一連の措置により、「朝鮮」における民族資本の形成・発展の抑制がはかられ、日本資本を保護し、食糧・原料供給地としての固定化がはかられました。

このため、朝鮮人民の生活は極度に悪化し、土地を失った農民は職を求めて都市に流入したりしましたが、職もなく、あったとしても劣悪な労働条件の中で、民衆の不満は極度に高まって行きました。

こうした中で迎えた1919年２月８日。東京において朝鮮人留学生は集会を持ち、独立宣言を発表し、３月１日には、ソウルのパゴダ公園で独立宣言が発表され、半島全体で独立示威デモがおこりました。日本は、軍・憲兵・警察を動員して血の弾圧を繰り返して鎮圧しましたが、この運動は、日本による朝鮮支配の方向性を大きく転換させるほどのものでした。すなわち、それまでのようにいくら武力を強化しても、それだけでは安定した支配は続けられないということでした。

この後、日本は、「文化政治」を旗印として、一部の大地主や金持を懐柔して「親日分子」を育成し、民族解放運動を分裂させようとし、民族精神・民族文化を抹殺しようと試みました。そして、朝鮮を日本の資本主義の商品販売市場と仕立てあげ、食糧・原料の供給地と化そうとしました。さらに、世界恐慌の後、中国への侵略戦争が拡大するにつれ、日本の兵站基地としようとしました。

このような背景をうけて、日本資本が朝鮮に進出し「産米増殖計画」の名のもとに、増産する米はどんどん日本に持ち出され、農民の没落は一層進み、綿花の作付や繭の増産を強制し、原料として日本に安く輸入した後、高い値段で朝鮮に輸出されました。

こうした経済的植民地化政策に伴って、民族性抹殺政策である「皇国臣民化政策」が強行されました。これは、日中戦争の拡大に伴い、朝鮮人をこの侵略戦争にかり立てるものでした。志願兵制度実施、学校における朝鮮語教育・使用禁止し、「皇国臣民ノ誓ヒ」を宣布し、神社参拝、日の丸掲揚、国民服着用を強制しました。

しかし、日帝(日本帝国主義)はこれに飽き足らず、朝鮮固有の姓名を日本式にかえる「創氏改名」(チャンシケミョン)を断行し、ハングルを使用した新聞・文芸雑誌を全て廃刊させました。

この間、抗日運動は、パルチザン、ストライキなどの組織的抵抗などで根強く闘いましたが、こうした半島情勢を背景とし、私たちのアボジ・オモニが玄海の波涛を越えて日本に、ある人は知人をたずねて、ある人は職を求めて、ある人はだまされたりして渡ってきたのでした。

この章には、日本の帝国主義侵略の犠牲にされた一世の、悔し涙にくれた思い出の強烈な証言のある一方で、以外とドライな反応があったりするところに、「日帝36年」の長い支配の影響力と一世のしたたかさに改めて驚かずにはいられません。

質問F：土地調査事業を体験された方、その時の状況をくわしく、具体的にのべて下さい。

⑪　ソウル効外にて鉄道敷設に向かう日本の測量隊

北海道 男 59 忠南 '42 ・村の知り合いがタダ同然の安さで土地を売った。例えば肥料を買っても借金が重み、水田を売らざるを得なくなった。また、米を作っても自分たちは食べられずに外米を食べていた。

北海道 男 69 慶南 '31 ・自分の家族や親類の中で、土地を奪われた者はいなかったが郷里の人の中で生活苦のため借金をして、その利子として先祖代々の農地を奪われた事実を目にした。

東　京 男 69 京畿 '34 ・「土地調査事業」については体験していないが、当時日本人が農協のような形で金融機関を設け金貸しをしたが、その日の生活に困り借りるのであるから、結果として返済できず、担保となった土地などを取り上げられた。ただし、この農協のようなものは、あくまで農民を助ける目的で設けられたが、当時の生活状況を踏まえた、たくみな商売？であった。

東　京 男 73 済州 '22 ・日本の兵隊による軍事目的で、川を渡るための橋などの足場を作成するため、松の木などが切り倒されたという話しを聞いた。

東　京 男 53 済州 '43 ・保障もなく命令的に土地を取られた。面積に応じて強制的に麦、米なども取られた。その時に法事でつかう食器（先祖代々からのスカラ）

などもされた。

東　京 女 56 済州 '42 ・畑の面積を区切られて、全ての物が配給制にされたのが、とても困った。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・アボジが土地を取られた。（借金のカタに）日本で言えば、市役所のような“所”の「長」が日本人で、その部下が韓国人であった。

千　葉 男 64 全南 '42 ・父が山を国のものにすると言われて裁判をしたが、十何年間裁判をして取られた。周りでは、田んぼをみんな取り上げられ、小作農とさせる。秋に田を役人が見て、年貢の割当てを決めて徴収した。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・日本が取り上げた土地を朝鮮人に耕させ、その収穫の半分を取られた。

茨　城 男 69 慶南 '32 ・五反の農地（親の所有）を没収された。（無条件に）悔しい思いをして、母親が泣いていた姿を憶えている。日本総督府により没収された土地には日本人が入って来て、農地を耕すようになった。

西東京 女 72 慶北 '28 ・自分の親が持っていた畑の真中を道が通るというので、無理矢理取り上げられてしまった。その時お金を貰ったかどうかは解らない。

西東京 男 69 慶北 '28 ・知人から聞いた話だが、良い土地は全部騙されて取られてしまった様だ。

西東京 男 63 忠南 '40 ・知人が奪われたのを見たが、どうしようもなく結局泣き寝入りの状態で安い金（二足三文）で追い出され、どこかへ消えてしまった。

西東京 男 65 慶南 '41 ・勝手な事を言い、強制的に取られた。

西東京 女 68 忠北 '42 ・取られなかったが、使わないうちに他の人に取られてしまった。

西東京 女 75 慶北 '30 ・そういう事は聞いた事はないけど、日本人が土地をすごく持っていたので、どうやって手に入れたのかと思った。当時一坪 4,500円程だったと思う。

西東京 男 72 忠南 '40 ・余り憶えていない。後から考えて騙されたと思った。

西東京 男 59 全南 '42 ・理由もなく奪っていったという感じだった。（騙された）

愛　知 男 71 慶南 '29 ・韓国人の土地を日本人が借りて、工場を建てました。土地の名義は韓国人のもので工場は日本人のものでした。そして税金をとる時には、韓国人から税金を取っていた。そのうち苦しくなり、土地を手離す人がいた。

愛　知 男 60 慶北 '40 ・日本人があらゆる土地を奪っていった。当時の人達は、日本語を読み書きすることができないので、書類を日本人に書いてもらった。すると嘘を書いて土地を奪っていった。又、村の共有地もみな奪われた。そして、取り上げた土地を貸しつけて年貢を取り上げた。また、拓殖銀行が土地を担保に金を貸しつけ、借金が払えなくなり土地を取り上げられた者もいる。

愛　知 男 59 忠北 '37 ・日本人が土地を盛んに計測していた。

愛　知 女 56 京畿 '45 ・私の実家はソウルの中心だったので実体験はないが、両親から農業地帯での理不尽な行為を聞かされていた。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・土地を沢山持っているところに無理矢理土地を奪われた。又、税金を掛けたりした。税金を申請しない人達には、申請しないという事で土

地を奪った。目で見たりした。

大　阪 男 57 京畿 '43 ・話に聞いた程度。

大　阪 男 55 慶南 '44 ・聞いた事は無い。

大　阪 男 63 全南 '37 ・少しの借りが、10倍くらいになって引換えに土地を取られた。土地を奪われた人達は、日本人地主に一斗米を作ると八升の米を取られたりした。

大　阪 男 79 済州 '20 ・土地を取られることは無かった。山を取られた。囲いのない所は、みんな取られた。全体にあった。おじいさんの土地を取られた。

大　阪 女 71 慶北 ・米の収穫高の調査はあった。

大　阪 男 59 慶南 ・子供だったので余りわからなかった。感じなかった。今考えたら、酷いことだった。

大　阪 男 64 ソウル ・日本から一定の品種しか、栽培を許可しなかった。

大　阪 男 60 全南 ・韓国人は、測量学の知識が乏しかった為（名古屋か長野に半田農林部というところがあった）無理矢理合併させられ日本が本国に進入し半田農林部が島にやって来て細部測量を行い、島の人間が少ないのに島のあっちこっちに住んでいたため誰の名義か分からなかった為、その当時に耕していた所は、その人の名義にして、その他の所は、半田農林部の名義にされた。大戦後その半田農林部の名義の所は、韓国政府のものになり、今でも島では、その時の所が多くある。

兵　庫 男 66 慶南 '33 ・他の人が必要として借りた者やお金も連帯責任を取らされたので、土地がどんどん取られて行った。

兵　庫 女 68 済州 '40 ・親類の人が土地を持っているが、直接土地を取られたとかはないのでわからない。

兵　庫 女 71 慶北 '34 ・調査事業の事は知らない。誰かが田畑の周りを計ったりしたところはみたことがある。

兵　庫 女 60 慶南 '37 ・そんなのはようやりよった。田んぼなんか役場の日本の人が出てきて、県内の下で仕事しよる人と一緒に田んぼに来て、田植えをしている人が殴られたり、植えをぬかれたりしたのをよく見た。

兵　庫 女 73 慶南 '28 ・日本人が土地を買った。金貸して返さないと取られた。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・本国内での仕事で、そのような事であるかどうかはわからないが、体験した事がある。区画整理等はよくした。山のだんだん畑等の所に田んぼがあり、それを平たくした。その時は、やはり日本人の都合のよいようされたのは真実である。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・税金みたいな形で大地主などから、小作して、土地を取っていた。日本人は金借しみたいなことをやって、高い利息を取っていた。

兵　庫 女 72 慶北 '24 ・おじさんが人の保証人になって、全部土地を取られた。奉公に行ったりして仕事をしていたが、暮らしていけず日本へ渡って来た。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・境界線というものはなく、大体の見当で（こっちの峰から、そちらの峰まで）とか（こっちの田からそったの田まで）という感じでしかわからない。数字的に正確にはわからないので、土地を誤魔化されてい

た可能性はある。が、自分の親戚等にはそういう事は無かった。

兵　庫 男 65 慶北 '34 ・畑に豆などを作ったら禁止して綿を作れと言った。日本人に売るため綿を作らされて、日本にもって帰って服などを作ったりしていた。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・チョッパリやチョッパリにつく韓国人達が村に来て、測量をした。自分の土地を申請してとられずに済んだ人もいたが、私達家族やそれ以外の無学な人達の殆どが自分の土地を取られた。取られても文句も言えないし、とっても悔しかった。

兵　庫 男 69 慶南 '30 ・韓国の人で土地を持っている者でも農業は下手だった。日本人が農家へ来て安く値切って土地を買って、日本人は上手に米を作っていた。多くの米が出来たものだった。作り方が違うのか日本人が農業をやると米が沢山出来るんだ。私は小さくてはっきり分からないが、自分の親も土地を奪われ農業ができなくなり病気になってしまった。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・私の知っている限りでは、村に金融組合ができ、肥料代とか、その他名目をつけ金を貸し付けて高い利子を取った。お金を帰せないと土地を取り上げた。その土地を日本人に安く貸して最後には日本人の土地となってしまった。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・場所のいいところは、全部日本人が取っていった。無条件に取っていった。

広　島（不明）・皆から土地を取りあげ、払いさげをしていた。親から聞いた。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・土地調査業をするといっては、家に葉タバコがあれば押収された事を覚えている。

岡　山 男 78 慶北 '34 ・一反あたりの作付割当、木綿など供出させられた。しかし、我田は100%で収穫が無く、不足分を他人から買わなければならないので、金融組合で田を抵当に入れ資金を借入れ、期日まで返済できず、田を取り上げられた。又、調査する時、 300坪あるのに 100坪しかないとして登録していたので、私は官吏立合いで自分で測量した。

山　口 男 60 忠南 '44 ・良い場所は田舎の水田でも、町中でも日本人が買い上げて（半強制的に）韓国人を小作人として働かせて作物は分けた。

山　口 男 62 全南 '36 ・自分の田舎ではこういう事はなかったが、他地方では行われていたと耳にした事がある。

山　口 男 68 忠北 '40 ・日本の人が田をみんな買ってからやる訳よね。困った時に日本の人が韓国を取ったから、後で聞くと土地も強制的に取ったかもしれない。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・10才ぐらいの時なので、よく憶えてないが、道路を作ると言うので、その道路が親の持っていた田畑の真中を通るので、殆ど無償で取られたので、親がおしいおしいといつも言っていた事を憶えている。

福　岡（不明）・土地は多くあったものの米は日本人が安く買って行くし、物を買った値が高く、当時父が各地を旅行中であった為、家を維持する事が出来ず、生活の為、土地を売り、借金をし、それを返す為また土地を売るという状態だった。土地も安い値でしか売れなかった。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・韓国人同士の土地で奪い合い、賢い韓国人が土地を測量して自分の物

にしていたのが一件あった（自分の村で）。

福　岡 男 71 済州 '24 ・済州島に於いてお金に困る人が多く、田畑を手離す人が多くいたが、お金を貸す日本人達により安い値で売らされていた。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・日本に来て話を聞いた事はある。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・日本人の暮らしは良かった。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・日本人が道を作ると言って、自分の土地を取られた。道の中に家があったら勝手に取られた。文句を言える段階でなかった。

佐　賀 男 59 満州 '45 ・遠い親族が土地の申告の時に申告漏れ（申告しなかった）の為、土地を没収された。その当時、申告をしなければならないという通達が徹底されていなかったので、知らない人が多かった。しかしながら親日派の人には、十分に知らせが行き届いていた為、没収される人は無かったと小さい時に聞いた。

質問Ｇ：創氏改名を行なわなかった方、その理由をお話し下さい。

⑪　同化政策の一環として創氏改名が施行された

千　葉 男 63 慶南 '37 ・日本中を転々としていて、別に変えろと言われなかった。

西東京 女 72 慶北 '28 ・行われる前に日本に来た。

西東京 女 59 慶南 '37 ・そのようなことが行われたというのは知らなかった。

西東京 女 59 慶北 '40 ・韓国に於いての創氏改名は記憶にない。結婚後、主人の日本名を使った。

西東京 男 64 慶北 '42 ・その当時、満洲の方面へ行っていて、帰って来てからすぐ渡日したため。（日本へ来てから日本名を名乗った）。

西東京 女 72 慶南 '30 ・自分の国ではその様な事は行われなかったため。

愛　知（不明）　・韓国の立派な名前があるのに必要ないと思った。

愛　知 男 60 慶北 '38 ・すでに日本に渡っていたから。

愛　知 男 60 平北 '44 ・私は小さい時両親を亡くし、生活する為に住み込みの使用人として働いていました。そんな頃に創氏改名が行われていましたので、直接的には関係ないまま本名を使っていました。今の通名は徴用で日本に来て６ヵ月後に軍需工場を脱走し、ある工事現場の飯場に住みついた時に人から勧められつけた名前です。

愛　知 男 76 全南 '28 ・すでに日本に渡っていたから。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・本国にいた時、青年団にいて日本人に反抗して留置場に入った時、日本の警察官につけられた。

大　阪 男 76 済州 '26 ・国にいる時はまだ実施されていなかったように思う。

大　阪 女 73 済州 '33 ・具体的には周りで創氏改名を行っていなかったように思う。

大　阪 男 70 済州 '27 ・知らなかった。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・村の方で父が事務所で頭を丸刈に刈られるや、日の丸を作らされたりしたけど、名前を変えるなど直接の事はなかった。

大　阪 男 67 全南 '38 ・全然聞いたことがなかった。

大　阪 男 59 慶南 '59 ・学校では、日本語やらされた。朝鮮語を使ったら、土曜日に学級会に（ポルル　チュオッタ）罰をうけた。先生（エ　ションニョンイラソハルス　オプソッタ）の命令なのでしようがなかった。昭和12～3年に朝鮮語（スオプ　ペジ）授業廃止。

大　阪 男 63 慶南 ・本国内に於いては、聞いていないのでわからなかった。

大　阪 女 60 済州 '41 ・済州道では創氏改名を行なわなかったはずだ。

大　阪 女 61 慶南 '43 ・日本語もわからないし、韓国人だから別に強要されもしなかった。

兵　庫 女 68 済州 '40 ・名前を変える変えないも、主人がいたし、自分としては登録するときに（高）という名前にした。

兵　庫 女 68 慶南 '30 ・どうしてしなかったかって言ったって、それは主人がそういうのを嫌がったから、ずっと本名のままでいたんです。

兵　庫 女 71 慶北 '34 ・つけたことはあった。そのあと解除になったので…。（日本で日本人が来て白いチョゴリを着ていたら、墨などで汚されたりした。日本の着物を持ってはいたが着方がわからないので教えてくれと言ったりした）。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・韓国滞在中にはなかった。日本に来てから行なわれたので。

兵　庫 男 60 慶北 '36 ・自分達はもう日本に来ていた。韓国の方から、名前を変えたと手紙が来た。上洛したという事で、"上本"になった。本当は、"安藤"とかになるはずだが…。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・小さかったので何もわからなくて、親が勝手に変えたと思う。

兵　庫 女 77 慶南 '24 ・私の勤めていた会社は、朝鮮人の作業場、宿舎が日本人と独立していたので、現場監督も朝鮮人がしていた。よって、そういう創氏改名を強制されなかったし、する必要がなかった。

福　岡 女 57 慶南 '44 ・はじめから創氏改名を行なわず、結婚しても変わらなかった。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・日本名を使わなくても日本人が自分を金ちゃんとか金さんとか呼ぶし、使う必要も感じなかった。

質問Ｈ：創氏改名をされた方、どのようにして日本名をつけましたか。

⑫　当時のソウルの創氏改名相談所の前で列をつくる当時の同胞たち

北海道 男 59 忠南 '42 ・"金" は "金山" や "金本" や "金海" と言う名を付けるよう日本に強制された。日本から韓国の郡、そのあと区長と命令が下がって来て、名を付けた。命令であるから止むを得ず、又、まだ若かったからその意味するところもわからなかった。言われるままに従った。

北海道 男 69 慶南 '31 ・名前を変えなければいけないと思うと、とても腹が立ったが、仕方ないと思い、自分の本名に基づいて、日本名を付けた。

北海道 男 65 済州 '34 ・自分には先祖代々の名があり、日本名に改名をしようという考えはなかったが、日本に来て職業に就くために日本名を付けたが、やはり本名に基づいて改名した。

東　京 男 61 済州 '40 ・本国で親が付けた。しかし、現在は自分の子供たちは学校、職場で本名を名乗っている。

東　京 男 69 京畿 '34 ・渡日した時は、生活の便宜上日本名を使っていたが、後年、本国の家族より韓国の地名をとった日本名を連絡して来た。

東　京 男 73 済州 '22 ・創氏改名することに関しては特に抵抗はなかったが、やはり本名の "金" を残したくて "金田" とした。

東　京 男 65 全北 '27 ・自分の生まれた田舎の村の名を付けた。

東　京 男 62 全北 '52 ・同じ村で、みんな一緒に同じ名前を付けさせられた。だから、今でも同じ名前の人は同じ村だとすぐわかる。

東　京 男 64 済州 '32 ・強制的に本名を名乗ってはいけないという事で、付けられた。日本人になりすますという事ではなく、仕方がなかった。

東　京 男 64 慶南 '39 ・本貫の中の同派の年寄りが決めたのにならった。

東　京 女 58 済州 '41 ・漢文などをしている人達がいて、名前を作る人達がいた。親戚など集まって作ったりしたが、学校などへ行って先生が呼びにくいと、また改名を強制された。

東　京 男 53 済州 '43 ・軍の命令で"呉本"と付けた。

東　京 女 56 済州 '42 ・同じ名でも一緒にできなかったから、その親戚の中でも名前を区切って作った。

東　京 女 63 全北 '38 ・父からの手紙で"木村"と記された戸籍が送られてきた。

東　京 男 58 忠南 '42 ・上から一族全員に連絡があり、"姓"を付けた。"名"は自分で付けた。

東　京 男 56 慶北 '40 ・親の付けた姓にならった。強制的ではあるが、一族の名を何らかの形で残そうと思い、親族会議を開いて、そこで本貫にならって姓を決めた。

東　京 男 70 慶南 '31 ・韓国名では就職できなかったので、日本名をつけてアルバイトを探して勉強を続けた。

東　京 女 68 慶北 '31 ・夫の兄から手紙が来て、そこに"松島"とあり、それを使った。

神奈川 男 85 慶南 '22 ・羽田で日本人の所で働いていた時、(釣り堀屋下働き)付けて貰った。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・日本名をつくる気持はなかった。釜山で切符を買う時、日本名を作らないと日本へは行かれないと言われて付けた。元の"金"は残すように"金本"と付けた。解放後"金子"と変えた。

千　葉 男 64 全南 '42 ・朴氏は、井戸から生まれたという伝説が有り、朴家が集まって会議をして、皆で新井にしようと決めた。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・渡日後二、三年は、自分で考えて付けていたが、本国の家から手紙が来てからは、現在の名前になった。本貫毎に姓字を決めたらしい。

千　葉 男 65 済州 '35 ・警察の方で煩くいうので自分で考えて、高に山を付けただけ。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・親が付けた。

千　葉 男 70 慶北 '36 ・主人が商売上、今の名前にすると言ったのでそれにした。なぜかは、わからない。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・自分の村の名をそのまま付けられた。

千　葉 男 61 慶北 '41 ・みんな同じ名前を付けたものだから、止むを得ず"岩本"と付けた。

千　葉 男 60 慶南 '36 ・はじめは韓国の日帝関係から"金岡"にするように言われたが、私は日本に居たので、先輩が"金田"にしたらどうだと、勧められたので、"金田"にした。

千　葉 男 65 慶南 '40 ・"李"氏なので…。

千　葉 男 69 慶南 '33 ・飯場で働くうちに、"池田"がいいと言うので付けた。

茨　城 (不明)　　・強制的に改名しろと言われ、しかたなし日本名にしたが、"金"とい

う文字は入れて改名しようと思い、仲間と相談して「金山」とつけた。

茨 城 男 53 忠南 '44 ・半強制的、皆がやるからやるという気持。良いとか悪いとかの判断は無かった。親が適当に付けたと思う。

茨 城 男 66 慶北 '39 ・私共、親戚一同が一体となって話し合い初めは"松岡"（韓国名字の"安松"の下の松をとり松岡）と称したが、"安"が何故松岡となるのか疑問になり、親戚一同、再度話し合い、満場一致で"安田"とした。

茨 城 男 51 慶南 '45 ・自分の本当の姓を二文字に分けて、日本姓にした。（元の韓国姓の意味をなくしている）。

茨 城 男 69 慶南 '32 ・徐→大城。地名に由来して付けた。派、族譜に由来した。

西東京 女 66 慶南 '29 ・解らない。旦那さんが使っていたからそのまま自分も使っていた。

西東京 女 66 慶南 '36 ・良く解らない。既に日本名を使っていた。

西東京 女 59 慶南 '37 ・創氏改名の強要はされなかった。

西東京 女 75 慶南 '28 ・政府から姓名を決められていたと思う。自由に名乗ることはできなかった。地域で区別されていた。

西東京 女 59 慶北 '40 ・主人が日本に於いて創氏改名済みだったので。

西東京 男 69 慶北 '28 ・自分の名字が"金"なので、そこから取った。自分の名字が捨てきれず、"金"を入れた名字にした。

西東京 男 63 忠南 '40 ・親が決めて使っていた。自分が好きな様に日本名を付けた。

西東京 女 70 慶北 '31 ・すでに夫が創氏改名済みだったので、そのまま使う様になった。

西東京 女 78 忠南 '30 ・職場を変えるたびに、名前を変えてもっていた。本名よりも日本名の方が社会の中で呼び易いため。また、今使っている名前は、最後の職場で使っていた名前である。

西東京 女 70 全南 '30 ・結婚していたから自然に夫の名を使うようになった。

西東京 女 88 慶南 '38 ・親類の人と同じ名前を付けた。

西東京 女 82 慶北 '40 ・夫がすでに使っていたから、そのまま使った。

西東京 女 79 慶北 '21 ・全部主人にまかせたので、問題はなかった。

西東京 男 66 忠北 '37 ・知らない間に日本名が付けられた。

西東京 女 68 忠清 '42 ・わからない。"李"は"国本"に昔からなるようだ。知らない間になった。

西東京 男 65 慶北 '38 ・出身地の地名をとった。

西東京 女 59 慶南 '39 ・先祖代々"岡田"だったので、まあごく自然に岡田になってしまい、自分で好きで付けた。

西東京 男 60 全北 '38 ・日本政府によって付けられた。本名が"白"なのでそこから"白石"と名付けられた。

西東京 男 72 慶南 '40 ・父親が勝手に考えて決めた。

西東京 女 61 慶北 '41 ・自分の出身地（故国）等々の名前をとって付けた。

西東京 男 62 慶南 '39 ・創氏改名はこの当時においては、止むを得ない事だと思い、日本人のされるまに至っていた。自分の故国の地名、出身地等々を取って改名に使用した。

西東京 男 57 全南 '40 ・自分の出身地の山の名前をとって日本名にしたみたいだ。
西東京 女 72 済州 '41 ・よくわからない。親が付けたのでそのままなんとなく。
西東京 男 59 全南 '42 ・先祖出身と時代を汲み意味をもったつけ方をした。
静　岡 男 64 慶北 '38 ・"大野"…"大"先祖を尊う為。"野"故郷の"所野"からとった。
愛　知 男 58 慶南 '40 ・日本語をしゃべることを強制された。日本名は、本名から関連づけてつけた。朴だったので普通は"新井"だが、本貫から"江本"という名を付けた。皇国臣民政策によって、名前を日本式にする親族会議で決定した。
愛　知 男 77 忠北 '28 ・"金"氏だったので、"金村"という名を付けた。
愛　知 男 73 慶南 '28 ・村の有力者が隣り近所まとめて名前を付けた。実際には当時使ったことはなかった。
愛　知 男 60 全南 '42 ・行っていた小学校の校長先生に"成田"と付けられた。
愛　知 男 71 慶北 '34 ・最初に九州で仕事をしたので、宮崎の地名を取って付けた。
愛　知 男 76 慶北 '24 ・日本人に無理に名前を変えろと言われた。しかたなく通名を使用したが、通名を使用しない者は、子供を学校へ行かせてやらないとか脅された。淋しく悔しかった。
愛　知 男 82 全南 '23 ・渡日後、会社で勝手に付けられた。退職した男の名前をそのまま付けられた。
愛　知 男 61 慶南 '23 ・"金海金氏"だったので、"金海"と名乗った。
愛　知 男 58 慶北 '39 ・親が姓名判断などで調べたりした。結局は、新羅の国の王様が松の村で生まれたから、それによって付けられた。
愛　知 男 59 忠北 '37 ・私は"光山金氏"だから、本名を残そうと思って"金光"にした。
愛　知 女 60 京畿 ・本国内では付けなかった。日本に来てつけた日本名は、父の思いつきだと思う。
愛　知 男 62 全南 '41 ・私が働いていた会社の社長の"利"という字をもらった。
愛　知 女 65 全南 ・日本に渡来後、すぐ兄弟に勧められ結婚し、その結婚した相手の通名が現在使っている"吉田"という通名であった為、現在に至る。
愛　知 男 60 慶北 '41 ・日本名の中に少しでも民族の名の流れを残そうと思い"真城"とした。
愛　知 男 57 慶北 '42 ・両親を尋ねて日本へ来た私は、創氏改名と言えば、始めは強制的に"竹岡"という名を付けられましたが、両親が見つかってからは親が松岡と名乗っています。
愛　知 女 56 京畿 '45 ・"崔"なので山を取り、語呂合わせで"山田"にしました。
愛　知 男 71 慶南 '37 ・日本に来てから市役所（警察）から日本人に呼び易いように付けられた。
愛　知 男 66 慶南 '40 ・"鄭"氏は"東"と決めていたので、一族全員"東"と名乗った。
愛　知 男 72 忠南 '27 ・日本の学校の先生に付けて貰った。
愛　知 男 75 慶南 '27 ・自分自身で付けた。思いつきのままで付けた。
愛　知 女 80 慶南 '32 ・仕事先の人が強制的に名前を改名した。
岐　阜 男 56 済州 '44 ・村の長老と区長がつけた。同じ本貫の"陳氏"は、全員同じ通名をつけられた。

岐　阜 男 71 慶北 '27 ・日本人によって"朴"はみんな"新井"にされた。
岐　阜 女 69 慶北 '44 ・日本に来たときすでに主人が"金田"を使っていた。
富　山 男 65 慶南 '37 ・その当時はすでに日本に居たので、その状況はよく知らないが、本国の実家より何々という日本名を使うことになったので、お前もその様にしろと言ってきたのでそうした。
富　山 男 70 慶南 '32 ・はじめは勝手に名前をつけていたが、親戚の人が来て名前を統一しようということで今の通名をつけた。
富　山 女 73 慶南 '35 ・"朴"という本名を名のりたかったが、韓国人だとだれにでもすぐにわかり、子供達にすすめられて主人が"城野"なる名前を選んだ。
大　阪 男 62 慶南 '35 ・名前の使用は親が使っていたため、現在まで聞いた事が無い。
大　阪 男 57 京畿 '43 ・朝鮮総督府の命令により、そうすることが義務のようだった。おじいさんが"元"というものをなくすのは考えられないから（具合が悪いので）下に"村"を付けて"元村"とした。
大　阪 男 61 慶南 '39 ・呼びやすいいい名前を付けた。
大　阪 男 62 済州 '43 ・"高"さん一族が祖先の墓の前に集まり決めた。
大　阪 女 75 慶北 '27 ・夫が使っていたので。夫は工場の方でかってに変えられたと思う。
大　阪 男 76 済州 '18 ・働いていた工場から呼びやすい名前として最初に"吉村"と言う名を付けた。兄がいて兄は"藤田"と呼ばれていて、そのまま藤田に変えた。十分言葉がわからず、日本的な名前ができて嬉しかった。
大　阪 男 55 慶南 '44 ・慶州の"崔"は全部"青山"にしろとかいうことで付けられた。
大　阪 女 61 慶北 '30 ・近所の人が名乗ったから"福田"とつけた。
大　阪 女 76 慶南 '33 ・夫の兄弟が考えて付けた。
大　阪 男 69 済州 '34 ・親戚会議にて、祖先の名前を取った。
大　阪 男 58 慶北 '41 ・日本人が強制して。村の人はみな同じ。
大　阪 女 62 慶北 '40 ・日本式の名前を付けなかったら、当時変な目で見られた事もある。
大　阪 男 61 慶南 '41 ・神野…先祖が"姜氏"は、農業の先生がいた。そこから、農業の神様という事で付けた。日本に来た時、兄さんが"大倉"と名前をつけていたので、"神野"から"大倉"に変えた。
大　阪 男 52 済州 '43 ・親類が多数いたため、政府から三つの通名を名乗るように指示されて、現在の通名をその当時に名乗った。
大　阪 男 63 全南 '37 ・親が名を使っていたので。
大　阪 女 57 慶南 '40 ・"申氏"はみな、"平山"にしていたので。"平山申氏"なので。
大　阪 男 79 済州 '20 ・済州出身なので、島全体を原と見て"高氏"に原をつけた。
大　阪 女 71 慶北 ・主人が三人兄弟の真中なので、"中本"と付けて日本から手紙が来た。
大　阪 男 59 慶南 ・親父が付けた。"金氏"なので、金を取り、"金原"。
大　阪 女 61 慶北 ・兄が居って半強制的に変えられたみたいで、同じ改名するのであれば出身地から名前を付けた。
大　阪 男 60 全南 ・林と言う名は、日本にあったからそのままでいった。
大　阪 男 69 済州 ・"白家"だから（水原白氏）（日本にいる親戚が集まって）。
大　阪 男 64 済州 ・兄が"金"を光らせる為に"金光"と付けた。

大　阪 女 59 全南　　・（山村）夫が付けたのでわからない。（林）日本名として、そのまま本名使った。"リン"→日本人の反応なし"ハヤシ"→反応あった。"秀子"→日本人の呼び易いように勝手に付けた。

大　阪 女 72 慶北　　・日本に居って呼び易いように、名前をつけた。（子供が学校に行くのに呼び易いように）。

大　阪 女 68 済州 '30 ・"高氏"なので山でも付けて日本の名前らしく付けた。

兵　庫 男 66 慶南 '33 ・仕方なしに付けた。職場で呼びにくいので"金田"さんと付けられた。その理由は"金田"さんがいなかったから。自分自身では"延山"と付けた。理由は恩師の名をそのまま頂戴した。

兵　庫 男 65 慶南 '35 ・故郷が慶南密陽郡清道面なので"清本"とした、韓国からも手紙で"清本"に決めたと連絡があった。

兵　庫 女 60 慶南 '37 ・結婚していない時、日本人がこの名前をつけなさいと言って"宮本"という名前をつけた。向こうにいる時は本名であった。

兵　庫 男 59 慶南 '39 ・ずっと昔の代から、"金本"という名前がついていた？子供の頃の事だから、別に何とも思わなかった。

兵　庫 女 73 慶南 '28 ・飯場で付けなければあかんかった、ふじもと。

兵　庫 女 59 済州 '36 ・主人が"宇垣"という姓に変えたので、私も変えた。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・当時する人もいたし、しなかった人もいた。自分の名は本国の故郷の名を名乗った。例えば、"金海"の近くに住んでいた者は"金○"と名乗るように、私もそうした。知らない人は付けてもらっていたようだ。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・"李"は木という字が上にあるから、木が高いと言う意味で"高木"とした。

兵　庫 男 63 済州 '40 ・本貫から、日本のすることだから仕方ない（逆らっても無駄）。名前を付ける際に村の字を読める人（偉いさん）が村人を集め、貴方はこう貴方はこうと付けてくれたそうな。

兵　庫 女 55 慶南 '43 ・金の名前に一文字加えた名前に変えなければいけないと言われたので、親が"金山"と名前を替えたと朝鮮から手紙が来た。自分達は、日本に居たので、そういう経験がないのでよくわからない。

兵　庫 女 64 慶南 '38 ・初めは"河島"という名前を付けていた。それから後に"河本"に変えた。結婚するまでは本名を使っていた。結婚してから日本式の名前を付けた。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・本姓が"長水黄氏"であるため、長い水、"長谷川"にした。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・兄が早くから日本に来ていて、名前を"松村"と付けていたので、自分も名乗った。

兵　庫 女 70 慶南 '37 ・本名が"金"で、本貫が"金村"なので、自分で"金村"にした。

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・自分のおじいさんが、"金本"だったのでおじいさんの言う通り"金本"を付けた。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・戦後に付けた。強制されたが、改名はしなかった。喧嘩腰であった。登録をする時に通名を入れた。

兵　庫	女	65	済州	'28	・市役所の人が名前を決めて、町会長が自宅へ来た。それでもしなければ、警察が来て、名前を変えて、着物を着ろと言った。
兵　庫	男	65	慶北	'34	・その時本国から手紙が届いて、"朴"は"新井"になったから名前を変えろと来た。本国では強制的みたいだった。腹立たしかった。
兵　庫	女	62	慶南	'38	・張家の祖先の墓の為。
兵　庫	女	57	忠北	'44	・親が"上田"にしろと言った。
兵　庫	女	58	慶南	'44	・親が日本にいる韓国人は、日本名を付けなければだめと言って、"金"だから"金本"とした。
兵　庫	女	60	忠北	'41	・終戦後、登録の時に使った。前も通名を使っていた。
兵　庫	男	63	慶南	'41	・本貫にそって付けた。本国からの知らせで変えた。
兵　庫	男	63	忠南	'42	・韓国におる時"松原"と付けられた。そして日本に来た時、"松下"に変えた。
兵　庫	女	59	慶北	'30	・村の名前を取って付けた（おじさんが）"吉永"だった。
兵　庫	男	60	慶南	'38	・会社の人（日本人）が付けてあげるという事で、つけてくれた。別に強制という感じはなかった。
兵　庫	女	60	慶北	'43	・"朴"をウリマルの発音をしないで、"ボク"とした。
兵　庫	女	57	慶南	'43	・自分の主人の姓が"金"だったので、それにちなんで"金沢"と名乗った。決して、日本人から押しつけられた事はなかった。
兵　庫	男	69	慶南	'30	・別にこれといった理由もなく、日本名をつけた。先祖から伝わってきたものじゃないんだから、いい加減に、この名前いいなって感じで付けた。
兵　庫	男	63	全南	'32	・"柳"だから日本名を"柳"にした。
兵　庫	男	65	全南	'37	・親が付けたもので訳は知らない。
兵　庫	男	60	慶南	'36	・おじいさんが、"全州李"は"国本"とした。日本に来てから付けた。
兵　庫	男	62	慶北	'41	・日本が強制的に言って来たけど、その時本家が"木村"にしようと言って来たので"木村"にした。
兵　庫	男	64	京畿	'44	・先祖代々の墓がある。山が部落にあって、その山の名前"華山"と言う名前で"華山"とした。
兵　庫	女	72		'26	・日本で暮らしていく以上皆さんするからした。"茂山"という通名は本貫から取った。
広　島	（不明）				・反対はしたが、強制的につけられた。その時の気持ちはやりきれず、胸が塞がれる思いがした。
広　島	（不明）				・生まれた所（地名）からつけた。生まれた所を忘れないように生まれた地名から一字取った。
岡　山	男	57	慶北	'43	・役場の官吏が適当に"山元"と付けたので、父が"南"（本名）と呼べるからそのまま使うと言ったが、朝鮮総督の名と同じなので、ダメだとして仕方なく、その訳のわからない"山元"にした。
岡　山	男	64	慶南	'34	・本国から慶州の"李氏"は"岩本"と付けるように言われたので。
岡　山	女	59	全南	'40	・本貫が"大山"という名に由来していたので。
岡　山	男	78	慶北	'34	・姓は林（仏）なのでハヤシと読み、名を"春吉"と付けた。"春"は

本名の一字だが、下の"発"はおかしいと言って、"吉"とせよとの事でいやおうなしに変えた。

岡　山 男 59 慶南 '42 ・当時の面事務所の同胞の偉い方が"井村"と付けた。"朴氏"は、普通"新井"とか"井"の字をよく付けたので、その村として"井村"と付けた。

鳥　取（不明）・日本に渡航した当時は、土木人夫頭に強制的に日本名を適当に付けられたが、その後親戚が集まり、我々の家系図等を見たりして、一同が同じ名字を付けた。

鳥　取 男 63 慶南 '41 ・出身の月城郡の"月"と本名"李"の二字で、"月李"と付けた。死んでも月城郡と"慶州李氏"を忘れないため。

鳥　取（不明）・本名"金"を日本人によって"金本"と改姓された。

山　口 男 55 慶北 '43 ・私は慶州の"金"であったが各"派"によって決まっていた。日本政府の役人が勝手に決めた。例えば「あなたは慶州の金であるから"金本"であるとか、金海の"金"は"金山"である」と一方的だった。

山　口 男 66 慶南 '41 ・日本人が勝手に付けた。その点がものすごく頭に来た。役場から一軒々回って、お前は何々というふうに強制的に付けていった。

山　口 女 65 慶南 '39 ・もう結婚したときから主人の名前になっていた。（韓国で強制されたから）ついてゆかんじゃいけんやろ。

山　口 男 60 全南 '41 ・自分の本貫の"慶州李氏"は、全部"山村"という名前にする様決まっていた。

山　口 男 62 全南 '36 ・一族の連帯を絶やしたくなかったので、村一帯の相村派の金家だから、一族全員"金村"という日本名にした。

山　口 男 67 慶南 '39 ・田舎に於いて身内の"金氏"は皆、金に源をつけないといけないと言うので"金源"と付けた。

山　口 男 59 済州 '40 ・先祖の名前の中から徳という字を取って一族が集まって会議を開き、"徳山"とつけた。

山　口 女 59 全南 '39 ・日本名をつけることを強要されて、自分の家が山の下にあったのでつけた。

山　口 男 67 慶北 '42 ・どうして、この日本名にしたかはわからない。親族がみんなこの名前にしたから。

山　口 男 78 慶北 '27 ・強制的に日本名を付けられ、この名前にしても何年かすれば、無くなるからと言われ、この名前にした。この日本名にしたのは、近くに大きな看板があり、それを見たら忘れる事がないと思った。

山　口 男 66 慶北 '41 ・本国の地名を取って"吉田"にした。

山　口 女 59 慶南 '42 ・創氏改名は、私が小学校の時だった。村の役所から各家に早く改名するようにいってきたのを覚えているが詳しくは、知らない。

山　口 男 68 慶北 '31 ・本国から手紙が来て強制的に名字を変えたからと言って来たから。わしらはここに居たから、向こうでウチは"藤井"にしたからと、この"朴"という人は全部、井戸の井が入っちょるんじゃ。新井・藤井・井上。こういう人は全部"朴"なんじゃ。この井戸の井をつけとった

ら何百年経っても"朴"ということを忘れんという意味で付けた。

山 口 男 70 慶南 '31 ・私が日本で仕事をする為には、周りの状況からいって本名では無理だった。しかたがないので親方にいって"森本"という名を付けてもらった。これは別に抵抗なかった。

山 口 男 64 慶南 '38 ・私は改名前に日本に来た。日本で生活していこうと思ったら無条件に日本名を必要とした。そうしないと仕事もなにも出来なかった。私は"安藤"と名乗ったが、これは兄が先に日本で生活していたためだ。

山 口 男 57 全南 '42 ・父の名前を付けたのでよくは解らないが、"呉"は"大山"という名前を付けていた様だ。

山 口 男 55 慶南 '41 ・"李"の木をとって一字を加えて付けた。

山 口 男 64 全南 '33 ・おじさんから名前が変わると言われ、ごく自然に日本名を使った。

山 口 男 68 慶南 '31 ・最初は字が見易いので"金本"という名前にしたが、七、八年はその名前で過ごしたけれど、その後は、別に本名でも悪い事をしなければいいと思って、本名を使うようにした。今の日本名は、本国から買って来た名前。

山 口 女 68 全北 '34 ・生活して行く上で韓国名であるよりも、日本名の方がよかったので自分自身の意志で決めた。韓国の名前を日本読みで読んで付けた。

山 口 男 68 忠北 '40 ・あの当時、絶対日本の名前つけんじゃいけんいうて、つけたわけよ。韓国に居った時からいい気持ちせんかったけど、韓国人には自由がなかったから、しかたがなかった。日本が韓国を奪ったから、日本人の言う通りせんじゃいけんよ。殆どの韓国人が日本名つけちょるよ。うちの家の脇に大きな岩があった訳よ。それで"岩崎"と付けた。

山 口 女 54 慶南 '42 ・私はまだ小学生だった。当時、学校の校長や警察の人が村に来て、創氏改名を進めていた。私の家の主だった者が集まって改名を決めたようだった。改名した時、"石川"になったが、なぜ石川としたか理由は、知らない。

山 口 男 65 慶北 '31 ・自己流に考えて付けた。

香 川 男 60 慶北 '36 ・本国に居てる時は改名しませんでした。渡日して改名しました。慶州金氏は、"金城"に同一するように聞いていたので、金城と名乗りました。

香 川 男 66 慶南 '40 ・日本に来て色々な名前を使ったが、最終的には、本貫の"昌原"を名乗っています。

香 川 男 68 慶北 '42 ・夜学というのがあり、日本人の指示で、韓国人で日本語をよく知っている人を先生にし、村の韓国人に日本語を教えていた。その先生が誰は青木、誰は金村と言ったように、いわゆる原則的に淡々と付けていった。自分は何の名前にしたらよいかわからず、そのまま受け入れた。

徳 島 男 72 慶南 '27 ・強制された記憶はないが、日本名を付けなければいけないということで親類が相談して、一族は金村という姓にすることに決めた。

福 岡 (不明) ・レンガ工場で働き、そこの親方（日本人）が付けた。工場では、日本名であったが、学校では"金"で通し、差別された。

福　岡（不明）	・全州李は、その当時"茂山"であった。
福　岡（不明）	・韓国で一族全体が公的機関によって、強制的に命名された。
福　岡（不明）	・"星山李"だから"星山"。
福　岡（不明）	・自然にあるものが良いと思い、故郷を思い出しながら、花と山を思い浮かべ、"花山"とした。父の説明。
福　岡 女 62 慶北 '40	・慶州李は、平という字を使っていたので、"平岩"と付けた。
福　岡 男 62 慶北 '35	・自分の本貫から"星山"。
福　岡 男 73 慶北 '32	・姓が朴だから"新井"。
福　岡 男 72 慶北 '27	・村で白氏が"水原"と"大山"と"松本"というのをつけていて、親戚が集まって、"松本"に決めた。先祖の位からとった。
福　岡 男 62 慶北 '38	・日本に来て、勝手につけた。
福　岡 男 61 慶南 '42	・最初は"金本"と付けた。自分の"金"を一字頭に持ってきて"金本"とする。
福　岡 男 70 慶北 '41	・日本人が強制的にかえた。自分が知らない間に日本名が付いていた。
福　岡 男 71 済州 '24	・故郷に岩の田んぼと呼ばれる所が有り、意訳して"岩田"とした。
福　岡 男 60 慶南 '37	・故郷元州から取った。
福　岡 女 61 慶南 '38	・"金川"としたが、それが姓で、"金"で田舎に綺麗な川があったので、川字を付け"金川"とした。
福　岡 男 60 慶南 '42	・"崔"の上一字をとって"山田"とした。
福　岡 男 75 慶南 '25	・親から手紙が来て、みんな改名することになった。とソウル、仁川の間富平の山に先祖の墓があったので、"朴"（富平）に変えた。先祖を忘れないように。
福　岡 女 59 慶南 '39	・父が"姜"という氏なので、"姜本"という名を強要されたらしい、中村という名、記憶になし。
福　岡 男 58 慶南 '42	・本貫"慶州月城李"家は"岩城"と勝手に付けて来た。
福　岡 男 73 慶南 '26	・日本に来て炭坑にある事務所にいる韓国人が、"ウォルフン李"なので"岩本"にしろといわれた。
福　岡 男 63 慶北 '39	・"平山申氏"なので"平山"とした。
福　岡 男 72 慶北 '31	・"平海黄氏"だったので"平松"とした。無条件で警察が勝手に作ってきてこれを使えと言った。
福　岡 男 67 忠南 '42	・市役所から言われてつけた。"金氏"だから別に何でもよかったが、"井"をつけて"金井"にした。
佐　賀 男 59 満州 '45	・公務員だったので、役職上の上司（日本人）から与えられた名前を付けさせられた。
佐　賀 男 65 慶南 '40	・当時日本に居たが、強制的に名前を変えるように言われた。また韓国ではみんな日本名に変えているとも言われた。そこで本国に手紙で連絡してみたら、張家の同じ派は"玉山"とか"玉村"とかつけていると聞いたのでそのようにした。

質問１：韓国語使用が禁止されましたが、その時の体験をくわしく
具体的にお話し下さい。

⑬ 韓国語の使用を禁じられ日本語を強要された

北海道 男 59 忠南 '42 ・雰囲気が日本側の圧迫にあったため、止むを得ず日本語を習った。昭和16年以降は特に厳しくなった。また、英語のスペルを少し書くだけでもスパイとして捕らえられた。

北海道 男 56 全南 '40 ・当時日本人は良い服を着て白米を食べている時に、私達はそまつな服を着、ポリサルを食べる、そうゆう時代だから日本に憧れる事もあったし、又、各家庭にも日本語の日常会話をプリントして配ってあるいていた。

北海道 男 69 慶南 '31 ・その時、そのような時代だったので日本語を使う事についてはなんとも思わなかったが、ウリサラムに対してはウリマルを使ったが、周囲の人々にいやみを言われた。

北海道 男 65 済州 '34 ・故郷では、日本語を使わなかったが、日本に来て周囲が日本人のため、日本語を使うようになった。それは、仕事のためだし、生きるためだと思った。

東　京 男 73 済州 '22 ・渡日当時から、生活するために自然に日本語を使っており、生活環境が日本人ばかりの中にあり、韓国語使用禁止に関して強制されたという意識は持っていなかった。日本で生活するにあたって、日本語を使

用するのは、ごく自然であると思っていた。

東　京 男 64 済州 '32	・歌・服なども禁止された。抵抗しても大した力にならないので、日本語を使った。もう当然の事であった。仕事場などでは日本語を知らない人もいたので、そういう時は韓国語を使った。
東　京 男 53 済州 '42	・小学校の時からみんな日本語を使っていたが、自分は日本語を覚える様な機会がなかった。日本語を覚えたのは、渡航してから。
東　京 男 62 慶南 '42	・学校へ行っている者たちは、韓国語使用を禁止されていたようだが、私自身は学校へ行っていないので体験はしていない。
東　京 女 58 済州 '41	・地理・歴史など全て日本語で日本人の教師から授業を受け、韓国語の本は一冊しかなかった。皆で授業を受け、皆も同じこともしているので、普通だと思って特別に何ということはなかった。
東　京 女 56 済州 '42	・韓国語を使用禁止された時は、日本語は全然知らないから、大変困ってしまった。その時に、知らない言葉を使わなくてはいけないという事に対して怒りを感じた。
東　京 女 63 全北 '38	・小学生の時、朝鮮語の時間以外に使うと言いつけられた。
東　京 男 58 忠南 '42	・カードを学校で付けられ、そこに何回ウリマルを使ったかなど記録された。だが、子供の時であるので禁止、強制といったことはそんなに強く感じなかった。
東　京 男 56 慶北 '40	・学校に入ったら日本語を使わなければならなかった。もし日本語を使わなければ、放課後、残って掃除をやらされた。
千　葉 男 64 慶南 '39	・教室で韓国語を使うと体罰を受けた。日本人教師よりも韓国人教師の方が厳しかった。
千　葉 男 64 全南 '42	・あまり、朝鮮語を使っていて、迫害は受けなかった。
千　葉 男 69 慶北 '37	・日帝時代に散々「朝鮮」という言葉を使って、馬鹿にされたので、その時から言葉を使わないようになった。警察に入れられたこともある。
千　葉 男 65 済州 '35	・小学校の時から、学校で教えられていた。商売の相手が日本人だったので、日本語を使うのは当り前だった。
千　葉 男 64 忠南 '42	・田舎の大人は大して関係ないが、学校へ行っている子供にキップを50枚配って、韓国語を使うたびに一枚ずつとられた。
千　葉 男 58 忠北 '42	・学校で国語（日本語）の時、韓国語を使って懲罰を受けた。
千　葉 男 66 慶北 '33	・韓国語を使うと、罰金を取られる。
茨　城 男 53 忠南 '44	・積極的に日本語を喋らされていた状況であったので、何ら感じるものはなかった。意識する以前に、日本語のみを使用する環境だった。
茨　城 男 57 慶南 '41	・山奥に住んでいた為、その事自体あまり知らない。
茨　城 男 51 慶南 '45	・日本で強制された日本の学校に通い、外では日本語、家では韓国語、漢文を親から習い、使い分けた。
茨　城 男 69 慶南 '32	・夜、学校に行ってた（３年間）時、授業の半分は日本語を使用した。先生は韓国人だった。日本に憧れていたので、韓国語禁止されても何とも思わなかった。もっとも山村の奥だったので、それほど韓国語を禁止されていた事は鮮明に覚えていない。

西東京 女 66 慶南 '29 ・特別にない。
西東京 男 66 全南 '35 ・役所等で働くのに必要なので自分からやった。
西東京 男 64 慶北 '42 ・自分は強制された覚えはない。
西東京 男 69 慶北 '28 ・日本語を使いたくなかったけれど、苛められたくないので、仕方なく日本語を使った。韓国人だとわからない様に一生懸命だった。
西東京 男 63 忠南 '40 ・別に日本語使用禁止を強制されていなかったので、韓国語を自由に使っていた。田舎だったから、よく知らなかった。ただ挨拶（こんばんわ）程度の日本語はなぜか知っていた。
西東京 女 70 慶北 '31 ・子供だったのでよくわからなかったが、韓国語を使ったり、日本語を使ったりしていた。
西東京 男 65 慶南 '41 ・その時はその場その場で仕方なかった。今考えると、悔しい。
西東京 女 70 全南 '30 ・日本語を覚える気がなかったので、よく喋れなかった。そういう状態の中、無理に使っていたから発音も悪かったし、バカにされ悔しかった。
西東京 女 88 慶南 '38 ・浅草に居る時は、周りが日本語ばかりだったので、外に出なかった。（日本語が良く出来ない）。
西東京 男 66 忠北 '37 ・自分は日本語は使わなかった。そんなことは知らなかった。
西東京 男 65 慶北 '38 ・韓国人の間では韓国語を使い、人により分けた。
西東京 男 60 全北 '38 ・学校などで韓国語を使用すると、事前に配られている10枚のカードを一枚づつ取られ、全部無くなると罰を受けた（日本人教師に）。
西東京 男 72 慶南 '40 ・他の人は学校で罰を受けていたらしいが、自分はもう既に成人していたので、そういう体験はなかったし、大した不自由はなかった。
西東京 女 61 慶北 '41 ・住んでいた所が田舎だったので、日本人と会うことも殆どなく、使うときも片言だけだった。普段は家族と韓国語を使っていた。
西東京 男 62 慶南 '39 ・山形の田舎に居たので、それ程日本語を使用しなくて良かったのと、仕事が兄のもとだったので。
西東京 男 57 全南 '40 ・日帝が強制的に韓国語を使わせないようにして、使用していると酷い目に合わされた。
西東京 男 57 全南 '39 ・本当に頭にきた。この事で色々苦労した。
西東京 男 72 忠南 '40 ・そうしないと、殴られるので。
西東京 女 72 済州 '41 ・喋る気もなかったから覚えも悪いし、発音も悪く笑われたりしたので特別な時以外、話さないようにしていた。
静　岡 男 64 慶北 '38 ・日本に来た当時は、厳しくなかったし、職場でも殆どの韓国人が日本という国で日本語を使っていたので、それ自体（日本で日本語を使うこと）に抵抗はなかった。従って、禁止されたからと言って、既に日本に来て何年か経っていたので、個人的には抵抗はなかった。
愛　知 男 58 慶南 '40 ・積極的に日本語を使わなくてはならず、国語（日本語）と朝鮮語の授業があった。カードが月の終わりになくなると軽い罰があった。日本人は校長だけだった。
愛　知 男 71 慶北 '34 ・韓国語使用禁止を知らなかった。日本で生活していく上で日本語が必

要であるから使った。

愛 知 男 76 慶北 '24 ・協和会の者が見回り、強制的に韓国語を禁止させた。

愛 知 60 慶北 '39 ・田舎にいたため、伝わってこなかった。

愛 知 男 58 慶北 '39 ・人によって使い分け、いつも屈辱感を感じていた。又、日本人に日本語を話してもアクセントの違いなどから結局は朝鮮人だとわかってしまう。そんなことから抱く屈辱感から、憤りを感じた。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・韓国人の友達とは学校でもウリマル使用した。

愛 知 女 60 京畿 ・私の故郷は田舎なので、皆ウリマルで会話していた。

愛 知 女 65 全南 ・戦前に渡日したため、別にその時の体験は知らないが、日本に於いては強制されなかった。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・官公庁近辺は電車や街中でも日本語を使っていたし、学校でウリマルを使用した学生は、掃除当番をさせられた。

愛 知 女 56 京畿 '45 ・学校内では全て韓国語使用禁止でした。日本語も使わないと、罰則を与えられ、罰金を取られた人もいました。自分の家族は、全て日本留学していたので、他の生徒よりは日本語コンプレックスは少なかったと思います。

愛 知 男 76 全南 '28 ・韓国語を使ってはダメだと言われて、仕方なく日本語を使いました。日本人の警官が酷い仕打ちをしました。白い着物には、墨をぶっかけ、年寄達のチョンマゲを切り取り、そんな酷い時代ですので言われるままに日本語を使いました。

愛 知 男 73 慶北 '28 ・韓国語禁止ということはなかったが、小学校では韓国語が1週間に3時間あり、その他は日本語で授業を行っていた。

愛 知 男 75 慶南 '27 ・自分は経験していない。

愛 知 女 80 慶南 '32 ・どうせ日本へ行く気持ちでしたので、積極的に覚えようと努力しました。いくら禁止といっても、急に変えられるものではないから、いつも通り使っていた。

岐 阜 男 56 済州 '44 ・小学校5年生くらいの時に、学校内では日本語以外は禁止された。家に帰ればウリマルを使用した。日本語を使用することに関して、本当に日本人になっていくのかなという気がした。それは仕方がないような風潮であった。

岐 阜 女 69 慶北 '44 ・韓国にいるときは、日本に行くなら「君が代」を覚えなければならないと言われた。来てみたらどうということはなかった。

富 山 男 64 慶北 '33 ・韓国語使用禁止も知らなかったし、必要によっては母国語を使った。

富 山 男 53 咸北 '43 ・日本語を単なる学業として学びましたが、韓国語の使用禁止については知りません。

富 山 女 73 慶南 '35 ・禁止令が発布されたときには、すでに日本に来ており、日本人との会話に必要となって覚えた。

大 阪 女 61 慶南 '43 ・まわりの人が韓国人が多かったので、日本の人も韓国語を使った（尼崎）。

大 阪 男 57 慶北 '43 ・日本語を覚えて日本語を使って、細かく警官に対し軽くからかって僅

かな抵抗を示した。

大 阪 女 73 済州 '33 ・学校にも行ってないし、日本語を強制された覚えがない。

大 阪 女 70 慶北 '33 ・日本語を知りませんので、何を言っているかわからないし、私が言っても分かってくれなかった。私はその時、日本語が英語だと思った。従って私は殆ど、手振りでした。一番買物に苦労した。買物している時に、よく日本語を知っている韓国人によく言葉を訳してもらい買物をした。

大 阪 男 57 京畿 '43 ・当時学生だったので、社会に出て日本語を使う必要がなかったのが、学校でそうなったので相手によって使い分けた。
強制的に教育勅語を暗唱、皇国臣民の誓い。

大 阪 男 61 慶南 '39 ・日本人には日本語、韓国人には韓国語、日本語うまく話したので差別は感じなかった。

大 阪 男 62 済州 '43 ・全般的に韓国語使用禁止になったので、自分１人ではどうにもならなかった。学校が日本語を教えていた。徴兵から二、三年後にその様になったと思う。学校の先生は韓国人であったが、校長は日本人であった。

大 阪 男 69 慶北 '34 ・差別をされた経験はない。

大 阪 女 61 慶北 '30 ・知らなかった。

大 阪 女 76 慶南 '33 ・日本語がわからなかったので使えなかった。それでも別に何ともなかった。

大 阪 男 70 済州 '27 ・学校でしか話さなかった。

大 阪 男 69 済州 '34 ・警察関係などでは日本語しか通じなく、強制させられた。同胞の巡査が通訳に入り、書類を作成した。

大 阪 男 61 慶南 '41 ・日本に来た時は、言葉が殆どわからないので、紙に行先を書いて買物をした。日本語を覚えなければならないと、自分で思い込んでいた。

大 阪 男 52 済州 '43 ・学校内で韓国語を用いると（数枚のカードを前もって受け取っていたものであるが）カードを１枚ずつ取られてしまって、数がゼロになると、国語の点数が減点された。

大 阪 男 79 済州 '20 ・言葉が通じなくて、水道の使い方がわからなくて、水を止めなかったら、巡査に殴られた。最初は日本人とたくさん喧嘩した。

大 阪 女 71 慶北 ・日本に来てから覚え始めた。買物をする時も、姉に品名を最初に聞いてから、それを覚えてから買いに行った。言葉がわからないということで差別されたことはない。日本語を何故使わなきゃならないのかと腹が立った。

大 阪 男 59 慶南 ・子供なので、あまり感じなかった。学校で、日本語ばかり使わせるので、日本語の方が便利だった。

大 阪 男 63 慶南 ・学校内では２年以上にカード10枚渡し、日本語を使わせ、韓国語を話すと罰としてカードを１枚取り上げ、それを国語の点数（甲乙丙）の対象とした。カードがなくなれば丙といったようにされた。

大 阪 女 61 慶北 ・日帝による韓国語使用が禁止されたのは知らなかった。当時、日本で

生活していくためにはどうしても日本語が必要であり、韓国人同士では韓国語で話していた。

大 阪 男 60 全南	・学校では日本語を使い、家では親と話す時は、母国語を使った。
大 阪 男 69 済州	・学生の時に強制的に日本語を使わされた。「君が代」も歌わされた。みんなしたから何も思わなかった。
大 阪 男 64 済州	・(船の中)部隊で聞いたことがある。木浦の人が言葉を知らないので通訳をしたことがある。言葉で困ったことはない。国の言葉を使いたかったが、日本人がいるので仕方ないと思った。
大 阪 女 59 全南	・戦争の時あった。なるべく日本語を使いたかった。日本人に日本語の間違いを指摘されたことも沢山あった。
大 阪 女 72 慶北	・別段使用を禁止されたことはなかったので、韓国人同士ではずっと使っていた。日本人と話す時は、日本語を使っていた。
兵 庫 男 68 慶南 '30	・自分の家の前で、韓国語を話している友達が連れて行かれた事があった。
兵 庫 男 66 慶南 '33	・そのような事はなかったと記憶している。
兵 庫 女 68 済州 '40	・私の場合は、ウリマルを禁止されたというよりも、服装で色々言われた。チョゴリを着てはいけないなど、そんな事が思い出される。
兵 庫 女 68 慶南 '30	・え、韓国語を使ったらあかん？そんなんあったかなー。うちらそんなん全然知らんかった。
兵 庫 男 65 慶南 '35	・日本に来た時から生活上日本語を覚えようと努力したが、同胞達と話す時は韓国語を使用した。日本では生活する以上は、仕方のないことだった。
兵 庫 女 60 慶南 '37	・チョゴリを着ていると、学校の教室の中へ入れてくれない。学校の制服を買えなかった。近所で学校に行っていた女の子が、学校を休むことが多かった。仕事場で日本語を覚えさせられた。台所の言葉を覚えないと殴られたりして、飯を抜かれたりして一生懸命覚えた。
兵 庫 男 59 慶南 '39	・国民学校の門をくぐったら、日本語を学校の中で使ったらいけないと言われた。友達同士で話をしたい時に日本語を使ったら、友達から叩かれた。
兵 庫 女 59 済州 '36	・働く為に一生懸命覚えた。
兵 庫 男 60 慶南 '41	・ある所では、橋を渡るのに日本国歌を歌わなければ通れなかった。また、日本の国歌を歌えなかった者は、立ち小便のまま、走り回された。
兵 庫 男 65 慶北 '38	・強制的だったが、国語と言うものがあって、どちらかと言えば、積極的に覚えた方だった。
兵 庫 男 63 済州 '40	・本国（済州島）にいるときは韓国語を使用し、周りもそれぞれ日本語を使用していなかった。渡日してより日本語を生きるため覚えたので、使用禁止されたという観は全くない。自発的に積極的に生きる為に覚えた。
兵 庫 女 64 慶南 '38	・夫は「日本にいても将来は自分の国に帰らなければならない。自分の国の言葉を覚えなくてはだめだ」と行った。そして本を使って、一生

懸命に韓国語を勉強していた。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・日本語は韓国にいた時から、学校でも使っていたし、日本に来てからも覚えようと必死だった。それが当たり前だと思っていた。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・学校の授業で国語というのが日本語の時間となり、韓国語は週1回だけしかなかった。学校では日本語しか使われなかった。

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・相手によって自分から日本語を積極的に使った。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・韓国にいた時は、そんな事はなかった。日本ではよく言われた。

兵　庫 男 60 慶北 '36 ・田舎だったので、あまり強い影響を受けなかった。校長先生が日本人、他に1人、韓国人の先生が3人、警察署長、駐在所の巡査部長が日本人。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・学校では日本語を使っていたが、家に帰って来ると韓国語を使った。

兵　庫 女 58 慶南 '44 ・別に私は何も言われなかった。

兵　庫 女 60 忠北 '41 ・全然なかった。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・本国では学校に行ってないので、日本語を全然知らなかったし、日本に来てからは日本語を無理にでも使って覚えていた。でも仕事が土木だったので、職場は同胞ばかりだったから何もないです。

兵　庫 男 63 忠南 '42 ・本国において町内会の中で週一、二回、日本語学校（夜学）を開いて勉強させられた。

兵　庫 女 59 慶北 '39 ・学校に入った時カード5枚をくれて、その紙には朝鮮語が書いてあった。名前を呼ぶのもだめで、呼んだらカードをとって、多くもっていたら成績がよくなる。勉強できなくても。

兵　庫 男 60 慶南 '38 ・使用禁止された事は知らなかった。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・家が山奥で日本人がいなかったので、殆どウリマルを使いました。学校に行っている友達は学校で日本語を習い、学校では日本語を使ってたようでした。だから、私は強制された事はなかった。日本に来たのは、結婚の為だったので、その頃は自分で覚えようとした。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・韓国語を使ってはいけないということはなかった。かえって、私が初めて仕事についた時、そこの職場の日本人が昼時間になると手振り、身振りで食事をしなさいと合図してくれたものだった。大変、親切な人が多かった。

兵　庫 男 69 慶南 '30 ・学校で韓国語というと国語として日本語があった。韓国でも6年間学校へ行ってそこで日本語は習っていた。相手によって日本語を使ったのも、止むを得なかった。両親に対してはウリマルを使っていた。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・小学校の時から日本語を習っていたから、別にそれは普通であった。なんとも思わなかった。日本で留学するつもりだったから、進んで日本語を覚えていた。

兵　庫 男 65 全南 '37 ・田舎だったからよくわからなかった。日本に来てからは日本語を使うのは、当たり前と思う。

兵　庫 男 60 慶南 '36 ・学校の中で朝鮮語を使ったら、カードを1枚ずつ取られて、なくなったら罰があった。一日中、立ったり、バケツを下げたり。あの時は何

も思わなかった。日本に行かしてくれるというのがあった。一生懸命に日本語を覚えた。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・その時は学校でも日本のことばかり教えた。朝鮮語を使ったら、先生がバケツに水を入れて廊下に立たされた。その時は、誰よりも日本人が怖かった。人の見ている前でも平気で日本人が朝鮮人の大人を鉄砲で打ち殺していた。

兵　庫 男 64 京畿 '44 ・強制的には、日本語を使わされていなかったが（日本語）学校には通っていた。友達などは、日本語を相手によって使ったり、使わなかったりしていた。私は殆ど使わなかった。

兵　庫 女 72 '26 ・当時日本に住んでいたので韓国語は家で、日本語は友達（日本人）と遊ぶうちに覚えた。

京　都 男 68 慶南 '37 ・日本人がやってきて、韓国語使用禁止と日本語の使用の強制を命令したが、村の人で日本語を知っている人は殆どいなかったので、韓国人同士ではウリマルを使用した。白い衣服を着るなと言われた。また、日本人のように坊主頭にされた。

広　島（不明） ・当時、日本語を使う人が偉いのだとされていた。一語でも多く、日本語を学ぶ事が必要かと思われた。祖国を奪われ、言葉を失った虚しさを感じ、死ぬほど辛かった。今、考えると日本語を使ったということは、とんでもないことであったと思う。

広　島（不明） ・日本語及び世界の言葉を習わなければいけないと思った。

岡　山 男 59 慶南 '42 ・学校で韓国語を使うと、その場に1時間立たされた。また、白衣の老人に衣服めがけて、墨をかけられたりして、言葉、服までとられた。

岡　山 男 78 慶北 '34 ・当時、日本に在住しておったので、全て下手な日本語を使い、家の中では韓国語を使用した。私はクリスチャンなので、当時韓国教会で韓国語で説教したり、賛美歌を歌っていたが、特高がきて、日本語でしろといい、そうすると結局、教会を潰されてしまった。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・相手によって使い分けた。日本人が言葉を聞いて、朝鮮人だとわかれば、どこでも通りすがりの人でも殴ったり、蹴ったりして暴力をふるった。

岡　山 男 57 慶北 '43 ・村で反抗し抗議してみたが、日帝に圧せられた。そのときの面長が親日派であったので、全く無駄だった。解放後、すぐにこの面長は殺された。

鳥　取 女 63 京畿 '39 ・日本語の使用が強制的でなかった。また、日本語を喋られなかったので、別に普通だった。

鳥　取（不明） ・家庭内では勿論、韓国語を使用したが、学校で使用すると先生に告げ口され、よく叱られたもので、努めて日本語を使用した。

山　口 女 59 慶南 '42 ・学校内では日本語を使わないと罰金を取られたが、それ以外では別に咎められることは無かった。

山　口 男 70 慶南 '31 ・私は日本にいたので、日本人相手は日本語で、同胞と話す時は韓国語でといった具合にしていた。別に韓国語で話していることを咎められ

たことはない。

山　口 男 64 慶南 '38 ・日本で生活していくには日本語を使用しなければならなかったが、同胞とは韓国語で話した。それを咎められたことはない。

山　口 女 57 全南 ・故郷は大変な田舎だったので、日本人も殆どいなく、学校にも行かなかったので、日本語を使う必要がなかった。

山　口 男 55 慶南 '41 ・学生時代で学校から10枚カードを受けて、韓国語を使う毎にカードを１枚ずつ取り上げられ、10枚全部取られたら罰を受けた。罰の内容は主に掃除だった。

山　口 女 57 慶北 '43 ・自分は子供だったので勉強はしなかったが、親達が夜学で日本語を勉強していたのを覚えている。

山　口 男 66 慶北 '41 ・日本語を使えなかった（知らなかった）。学校へ行く者は日本語を使っていた。

山　口 男 64 全南 '33 ・日本に住んでいるのだから、日本語を使うのはごく自然で、別にいやな気はしなかった。

山　口 男 62 忠南 '24 ・日本にいたら日本語を使わなければ生活していけないし、韓国語を使っても相手に通じないから、無理に覚えた。周りの人間が、仕事場では韓国人が多かったから、何語かだけ日本語を覚え、あとは韓国語を使っていた。

山　口 男 59 慶北 '24 ・半年間、日本語の訓練を受けた。使いたくなかったのだが、どうしても使わなければいけなかった。

山　口 女 68 全北 '34 ・特に強制されてはいないが、言葉が分からないでは困るので、進んで覚えた。

山　口 男 68 忠北 '40 ・言われても日本語分からんし、日本の学校行っちょらんから、商売関係では、あの時は日本語を知っといた方がよかった。学校に行く人は無理に韓国の本止めさせて、本を作って全部日本語よ。特に40代、50代の人は試験があって、日本語できんと上に上がれんかった。

山　口 女 54 慶南 '42 ・小学校になった時、日本語を強要された。日本語は難しく、嫌だったが、皆が使うので仕方なかった。学校では使っていたが、家ではウリマルしか使わなかった。

山　口 男 55 慶北 '43 ・当時漢字の塾に通っていたが、田舎の方だったので、試験も半分半分使い分けて使っていた。そこでは片仮名も覚えさせられた。

山　口 男 60 全南 '41 ・当時の学校の校長が軍人の下士官で大変厳しく、日本語を使わないで、酷い目にあった。生徒同士で韓国語を使った人を密告していた。

山　口 男 62 全南 '36 ・自分の田舎では禁止されなかった。

山　口 男 68 慶南 '28 ・自分の田舎では禁止されなかった。

山　口 男 67 慶北 '42 ・わからないが、仕事をする上でどうしても上の人の指示が必要で、言葉がわからなければ仕事をやっていけないので、無理やりに覚えた。

山　口 女 59 全南 '39 ・韓国語を使うと、みんなが馬鹿にするのではないかなあと、そういう気持ちで韓国語を使わないようにした。

山　口 男 66 慶北 '41 ・日本語がわからないと、何もダメだから覚えるしかなかった。

香　川 男 60 慶北 '36 ・本国に居てる時は、ウリマルを使っていた。日本に来てから仕事をしていた時は、まわりが日本人ばかりで、皆、日本語を話していたので別に抵抗なく日本語を話していた。

香　川 男 66 慶南 '40 ・私は、日本語が全然分からなかったので、韓国語禁止令が出ても関係なくウリマルを使用していました。近所の人、親類も全部ウリマルを使用していたと記憶しています。

香　川 男 74 慶北 '34 ・大阪の瓦製造工場で働いている時の事だったと思います。仕事中は、殆ど話をしませんでした。仕事以外、プライベートな時はいつも従兄と一緒でしたので、小さな声でウリマルを話していました。日本語も余り話出来ませんでしたので、殆どウリマルを使用しました。工場の者は、そんなに厳しく言わなかったと記憶しています。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・自分の記憶としては、住んでいる所が田舎の方であったので禁止されたことは知っていたが、韓国語をやはり使っていたように思う。

福　岡（不明）・日本語を覚えるのに苦労した。

福　岡（不明）・父の仕事を助ける為、一生懸命日本語を覚えた。特に在留同胞から、よく教わり、可愛がられた。

福　岡（不明）・日本語を進んで覚え、仕事をしたいと思った。幸い覚えが早く、父が働く炭鉱の事務所の雑務が出来るようになった。

福　岡 女 62 慶北 '40 ・市場では、日本語を使わないと物を売ってくれなかった。女性は、町に出なかったので、日本語自体聞かなかった。

福　岡 男 62 慶北 '35 ・学校の生徒が、日本語で返事しないと廊下に立たされた。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・学校内でウリマルが１週間に１回授業中に使ってよいことになっていた。小学４年までで五、六年生は授業になかった。科目には韓国語の授業があったが、名目だけで殆ど行われていなかった。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・相手によって使い分けた。韓国では、そんなお話しは聞かなかった。２年間位（日本で）は苦労した。二、三年間位で仕事の言葉、生活していく言葉だけは使えるようになった。

福　岡 女 57 慶南 '44 ・５枚各自にやって、韓国語の関係で日本語を使わなかったら剥ぎ取られ、全部なくなると罰、清掃をさせられた。

福　岡 男 71 済州 '24 ・日本に来ていたし、使わないと生活できないし、一生懸命に覚える様にした。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・日本内で言葉が思うように言えなく、日本人から差別されるので商売をしながら相手にわからないように四、五年かかった。韓国語を使うと券を取られる。（５枚）券がなくなると罰、清掃をさせられる。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・小学校に入ると、日本語で日本の先生が教えていた。小学生だったので、指示されるままだったが、やはり日本語を使う事に嫌な気がした。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・小学校で韓国語を使ってはいけない状態であった。学校の中では日本語を使うよう指導された。小学校では年令の差があったので、特にいじめられた経験はない。その当時は日本語を早く覚えたかった。

福　岡 男 75 慶南 '25 ・別に言われたことはない。

福岡	男	58	慶南	'42	・日本語を知っている人は偉かった。
福岡	男	63	慶北	'39	・韓国にいる時は、少しの会話を知っていれば支障がなかったが、日本に来てからは、使わなければ仕事が出来ないので、一生懸命覚えた。日本人の鉱夫に教わり、それで日本鉱夫と仲よくなるきっかけになる事が多かった。
福岡	男	73	忠南	'24	・勉強に慣れていたし、正確な日本語をマスターしつつあったので、同胞の代筆をしたり、日本人会社の帳面をつけたり重宝がられた。
福岡	男	67	忠南	'42	・なるべく日本語を使ってくれと言われたが、知らないので使わなかった。みじめだなと思った。人から圧力をかけられることに悲しかった。
佐賀	男	65	慶南	'40	・日本語を上手に使う同胞は、仕事につけてもらったりしていたので羨ましいとは思った。

第4章　日本での生活

⑭　九州八幡の河川工事に従事する同胞たち（1920年頃）

この章では、日帝の侵略により故郷の地を離れることを余儀なくされた私たちの祖父母や父母の、“日本での生活”について、以下の様な三項目の質問「J：（渡日）当時の生活状況」、「K：特に忘れられない差別体験」、「L：解放時の気持」を設定し、渡日から解放に至るまでの生活史を浮き上がらせることをねらいとしました。

暴力と欺瞞をもってなだれ込み国を言葉を、そして名前までをも奪い取った暴力的支配者たちの波に、押し流されるかのように玄海の波涛を渡った、私たちの胎（はらから）。日本帝国主義が生み出した歴史の爪跡は21世紀を目睫する今日にあっても、未だにその傷を癒そうとしてはくれません。唯一の被爆国として戦争の愚かさ、平和と人間の尊さを強調してやまない、先進国日本。しかし在日・在韓被爆者の存在を強調することはないし、サハリンに抑留されている韓国人の存在についても同様だと言えるでしょう。戦後、急激な経済発展をなし、先進諸国の頂上を極めようとしている大国日本。その経済構造を底辺で支えてきた人々が、私たちのアボジ・オモニなのです。

日帝の植民地支配下に置かれた36年間に及ぶ渡日の経緯やその後の生活も、歴史的な背景の推移によって特徴づけられています。併合当時日本に在留していた韓国人のほとんどは、勉学を目的とした留学生でした。1919年に東京・神田のＹＭＣＡにおいて「二・八独立宣言」を発し、それが本

国の「三・一独立運動」烽起を導いたことはあまりに有名です。この時代を前後して武断統治から文化統治へと日帝の政策も転換され、日本への渡航者の数も増えていきました。しかし、基本的には土地調査事業に象徴されるような収奪の強化に伴い、職をなくした農民たちの多くが生活の糧を求めて日本へ渡ってきたのです。

1920年代にはいると、日本国内での労働力不足と安価な労働力として、更に韓国人が増えて行きますが、1923年9月1日に起きた関東大震災は昼時の関東一円を襲い、瞬く間に火の手があがりほとんど壊滅的な惨状となりました。家屋、衣食のほか、ありとあらゆる物をなくし落胆と苛立ちのみが残された民衆の間に「朝鮮人が火を放った」、「井戸に毒を流したのは朝鮮人だ」などと流言飛語が交錯し、6000人にも及ぶ同胞が民間人で構成された自警団によって虐殺されたのです。このような虐殺事件は1922年にも、信濃川水力発電所の工事現場において起っています。何故、同胞たちが虐殺の対象とされなければならなかったのでしょうか。深い憤りと哀しみを感じざるを得ません。

日本で生活する同胞たちの就業状況や生活実態は、かなり厳しいものだったようです。同胞の多くは、日雇いの肉体労働者として鉄道工事や土木工事、そして炭坑などの飯場で、所謂“タコ部屋”生活を強いられました。朝早くから夜おそくまで苛酷な条件のもと、休みなく泥まみれになって働いたのです。賃金も日本人の半分以下だったり、食事や部屋代を引かれれば殆ど残らない、それでもなんとか生きるために歯をくい縛り耐えてきたのです。このような状況下で同胞たちは自己を守るため、また生活苦から密集地、所謂“部落”を形成して行きました。よく「日本人に負けるな」とか「人の2倍、3倍働け」という一世の言葉を耳にします。異国の地にあって、それも自分たちを支配している大本の日本に渡って、今日の生活基盤を確立してきたことの証左が、こうした様々な差別にも負けずに頑張ってきたバイタリティーにあるのではないでしょうか。それは第2次世界大戦、太平洋戦争の中で徴兵・徴用という、所謂“強制連行”によって無理矢理連れてこられ、ある者は日帝の盾として遠く異国の戦火の中に、またある者は暗く煤けた坑の中で、まさに生死をかけた闘いで否応なく培われてきたのです。

そして1945年8月15日。日本の敗戦に伴い、夢にまで見た祖国の解放を迎えました。本国は勿論のこと、日本全国各地で喜びに身を振るわせ「マンセー」を連呼する同胞たちは、みな目頭を熱くしたのです。一刻も早く祖国に帰りたい、そう思ったに違いありません。家や家具、そのほか金目の物は全てお金に替えて、国へ帰るために下関を目指しました。当時、約200万人にものぼる同胞の大半は、われ先にと船に乗って帰国の途につきます。しかし、祖国での生活に不安を抱いたり、船に乗るお金のなかった人たちは、やむをえず日本に残りました。そのような人々が今日の、所謂在日同胞なのです。

在日同胞の「日本での生活」について語られた生の声は、一世から二・三世に引継がれる“在日の歴史を繙(ひもと)く鍵であり、また“在日の未来”を切り開く際の貴重な資料でした。そして、私たちが日本で生きてゆく上での、勇気と活力を与えてくれる、大切な財産ではないでしょうか。

質問J：当時のあなたの生活状況をくわしく、具体的にお話し下さい。

⑮　当時の同胞たちの主な仕事は肉体労働を必要とするダム建設・河川・金属鉱山だった

北海道 男 69 慶南 '31 ・衣・食・住には不自由を感じなかったけど、自分の故郷とは違う、なんとも言えない気持ちになったし、差別など強く感じて、寂しい気持ちだった。

福　島 男 65 慶南 '42 ・各種の職を経て、神奈川県横浜市にて日雇労働をして生活をしていた頃、仕事がなく食べるだけの収入でしかなかった。当時、私の住まいは、自分の持家などではなく間借りである。しかし、前記のような収入では家賃などは支払えるわけもなく、滞納するのみであった。

東　京（不明）　・苦しい事もあったが、楽しい事もあった。細かい内容は全然覚えてない。

東　京（不明）　・日本人の下で皆働いていた。生活は苦しかった。

東　京 男 61 済州 '40 ・渡日当時は職に恵まれ楽だったが、資金を作り上京して兄弟で飲食店を開いて、翌昭和18年頃になると大変苦しくなった。当時、1カ月に二、三回ではあったが、勤労奉仕をやった。別に自発的なものではなく、勤労奉仕に出ないと商売で必要な材料が配給してもらえなかった。

東　京 男 69 京畿 '34 ・最初にメリヤス工場に1年、看板などをホーロー仕上げする工場に3年、そして上京し、鞄加工業に従事した。この時、まだ昭和14年だっ

た。メリヤス工場では仕事場の二階で、かなり広い所に住んでおり余裕があった。ホーローの会社では下宿していた。鞄加工業の時は、借部屋住いでした。食事はおもに外食していた。貨幣価値が割と安定していたので、少しずつだが貯えができた。

東　京 男 73 済州 '22 ・10才の頃、母が亡くなり、継母が大変厳しく、16才の頃家出のような形で故郷をあとにした。韓国本土に渡らずに親類の多い大阪へ渡り、差し当たっての仕事として、ガラス工場に勤め、その間3年は多少の辛苦を味わった。しかし、苦労といっても特に韓国人故のものではなく、日本人同様のごく人並みのものと感じていた。その後、森永キャラメルで20年余勤務し、その間の生活は大変安定していた。

東　京 男 65 全北 '27 ・戦争中に消防署で働いていた時は、24時間寝ずに起きていなければならなかったりして、苦しいことばかりであった。

東　京 男 62 全北 '52 ・苦しかった。帰りたくても船がない。帰る船をどんどん沈没させられ、船が全然なかった。

東　京 男 64 慶南 '39 ・韓国で生活していた時よりは、日本で生活をするようになった方が、生活水準はよかった。

東　京 男 62 慶南 '42 ・お金がないので当時は非常に苦労した。

東　京 男 53 済州 '43 ・上野公園に並んで "すいとん" を食べた。並ぶのが遅くなると食べられなくて、1日1回食べるのがやっとだった。

東　京 女 56 済州 '42 ・終戦後の生活に対しては、大変困った。終戦直後で、お金は全然なくて、豆やいもなど、全ての物が配給された。

東　京 女 63 全北 '38 ・戦争が始まってからが、特に苦しかった。子供へのミルクの配給がなく、代わりに栗拾いに行った。子供がいなければ死んだ方がいいと思った。

東　京 男 66 済州 '31 ・当時はかなり苦しかった。とにかく一生懸命に働くだけだった。石にかじりついても頑張る気持ちだった。

東　京 男 56 慶北 '40 ・昼間は新聞配達をし、夜は学校へ通っていた。

東　京 男 70 慶南 '31 ・兵隊の残飯などを食べたりして、1日15銭で暮らしていた。勉強をしたいがために、苦労を耐えて頑張った。

東　京 女 68 慶北 '31 ・毛糸、おもちゃなどの内職をやったりした。若い頃は苦労した。日本語が分からないので、韓国へ帰りたくてしょうがなく、夜になると一人で泣いた。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・市の方で土木関係の人は普通の人の2倍配給を受けていたので、食べる事にはさほど苦労した方ではないと思う。

神奈川 男 67 慶南 '33 ・三菱で働いたが、御飯を食べさせてくれて、80銭で働いた。

千　葉 男 64 慶南 '39 ・思いだすのも嫌だ。食べる物もなかったときもあった。

千　葉 男 64 全南 '42 ・終戦まで土木工事をしていた。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・昼は働き、夜は言葉を習った。

千　葉 男 65 済州 '35 ・ハングでは、見張りの目はあったけど自由に暮らしていた。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・本国内のときに事業に失敗して 750円の負債があり、日本に行って

1,000 円儲けようと思って徴用にきて、毎日トンネル工事のみの生活だった。

千　葉 男 70 慶北 '36 ・日本に来てから仕事もなく、非常に苦しかった。10日間位、何も食べられずおまけに、借りていた家を出ていくように言われ、言葉もわからなくただ泣いていたら、一人の男が来て（言葉のわかる人だった）、なぜ泣いているのかと聞いたので、訳をいうと市会議員の所へ連れていった。そこで訳を言うと、警察に連れていってくれた。そこで偉い人がなぜ泣くのかと聞いたので訳を話し、豚箱でもいいから借してくれるか、そうでなければ韓国へ帰してくれと言った。そうしたら、その人は、 500円をくれ、市のゴミ捨て場へ連れて行き、そこに住むようにしてくれた。そこにはもう一人同胞が居た。その人がトタンで家を作ってくれ、そこに親子で住んだ。そこに住みながら、子供たちといろいろ物をかき集めて、古物屋を始めた。10日間位、何も食べていなかったとき、隣のおばさんが豚足を食べていた。分けてくれとも言えずに、そのおばさんが食べ終わって捨てた骨をかじったことがある。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・悲惨の一言につきる。シャツを買う金がないので、3ヶ月ぐらい着て、シラミがわいた。

千　葉 男 60 慶南 '36 ・最初は、父から送金があったが、父が亡くなってからは、昼、働いて夜、勉強をした。

千　葉 女 64 全南 '44 ・軍需工場を夫が借りて経営していた。朝5時出発（4時に起きて弁当）男は工場、女は家へ、夜は空襲で戦争が終わるまでやった。焼けなかったので保険はもらえなかった。

千　葉 男 65 慶南 '40 ・商売を1年して、建設業に転職。苦しくて困るということはなかった。

千　葉 男 63 慶南 '37 ・とにかく苦しかった。地獄と同じだった。働く場所もなく、リンゴを一つ買うのもやっとで、家族で分けて食べた。

茨　城（不明） ・生きのびるには、食べなくてはいけない。でも金はない。言葉はできない。働いても少しの金では買えない。それで、仲間と金を出し合い、食べ物を買って食べる生活であった。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・食うのが精一杯の生活で、食料事情を満たすため精一杯だった。差別状況はなかった。2年前には、帰国する楽しみで働いていた。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・日本に憧れてきたが、日本の生活状態も悪い中、自分達徴用されてきた者はひどい極貧生活だった。食うのに追われた生活の連続であった。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・単身で渡日し、少年であった為、親戚の家に御世話になったり、数多い苦労を強いられた。（目的であった勉強もする事ができなかった。）

茨　城 男 69 慶南 '32 ・食べるのに困って日本に渡ってきたので、どうにか食を得たので嬉しかった。同胞の多くが渡日してきても職がなく、食べるのに食べられなかった状態。日本人もその様な人々が多くいた中で、どうにか職を得て食べていけるので大変嬉しかった。

西東京 女 66 慶南 '29 ・美味しいものを食べられたし、可愛がられ、服も着させてくれた。いじめられたこと、喧嘩したことなどない。近所で区別する人などいな

かった。現在でもそういうことはない。何か作ってはお互いに持って行ったり、持って来たりして近所の人やお店の人にまでハルメと呼ばれている。

西東京 男 66 全南 '35 ・戦後、混乱していたので適当にやった。

西東京 女 72 慶北 '28 ・主人は土方で朝から晩まで仕事で、子供を育てるので精一杯。遊んでいる暇などなくその日暮らし。

西東京 女 59 慶南 '37 ・その日の生活に追われ、母のやっていることを後ろから付いて回っていた。

西東京 男 72 慶南 '39 ・土木関係の仕事であるが、日本に居る方が良かったと思う。

西東京 女 59 慶北 '40 ・まわりの人達が韓国人で、部落になっていた。主人の両親の代から日本に住んでいた。職業的に周りは「ジャリ屋」ばかりだった。気楽に韓国語を使っていた。

西東京 男 69 慶北 '28 ・食べるには何とか食べられたが、それでも余裕は全くなく、一生懸命働いた。

西東京 男 63 忠南 '40 ・とにかく苦しいの一言。食べ物も"いも、麦、豆のかす、配給米"だけだったし、空腹の時期だった。家は日本人の家や、納屋等を借りて住んだり自分で小屋を作ったりして住んでいた。

西東京 女 70 慶北 '31 ・収入が少なく、生活が苦しかったが、それでも無我夢中で何とかやった。夫が鉄工所に勤務していて、休日には浅草へ芝居を見に行ったり、夜店を見に行ったりが唯一の楽しみだった。

西東京 女 68 慶南 '34 ・その日その日がどうにか食べられた。近所の韓国人と助け合った。周囲に韓国人が多く住んでいたので、差別はなかった。しかし、生活は苦しかった。

西東京 男 65 慶南 '41 ・ただ食えなかったし、何か仕事場であると、自分に疑いの目があった。日本人にはよく殴られた。周囲に同胞が多かったので、その仲間と仲良くした。

西東京 女 70 全南 '30 ・夫について来たので、苦しい中、共に頑張ってきた。家族が多かったから、お金になるということで、ただ一生懸命働いた。

西東京 女 82 慶北 '40 ・10人家族で食べるだけで精一杯だったし、言葉も全然わからなかったから、大変苦労した。殆ど家から出ない状態だった。

西東京 女 72 慶南 '30 ・日本には、嫁で来たので、当然のことだと思われた。当時、家族が多かったし、他に仕事も無かったので生活は大変苦しかった。

西東京 女 79 慶北 '21 ・韓国人はバカにされて相手にしてくれなかったし、仕事もあまりなかった。

西東京 男 66 忠北 '37 ・米国が日本に乗り込んでくるという噂が有った。竹槍などを作らされた。何かあれば、殺されるのではないかと日本人に対して恐怖心があった。

西東京 女 68 忠北 '42 ・食べる物もなかった。豆のしぼり汁とか、いもを食べた。アメリカ人が来たら、竹槍で殺せと言われた。来たらどうしようと困った。昔は皆朝鮮人が火を付けたとか、噂で言われて殺されるかと怖かった。

西東京 男 65 慶北 '38 ・知人に町会職員が居たりしたので、割と楽に過ごして来た。
西東京 女 59 慶南 '39 ・何はともあれ、苦しいの一言につきる。食べ物もなかったし、思い出せば豆を食べていた。
西東京 男 60 全北 '38 ・生活をする為、無我夢中で働いた。食事などは切符制でいつもお腹がすいていた。お腹一杯食べてみたかった。
西東京 男 72 慶南 '40 ・当時日本軍の仕事（憲兵）をしていたので、周囲の同胞の人達より、良い生活をしていた。食べ物にも不自由はしなかった。
西東京 女 75 慶北 '30 ・日本に来て思う事だが、韓国での苦労した事などしなくていいと思うと嬉しいけれど、やはり自分の国に居る方が安心出来て嬉しい。自分は仕事は全くせず、主人や親戚の者が働きに行くので、お弁当を作ったり、夕食の支度をしたりといった様な主婦業に専念していた。東京へ来るまでは、色々な所を回って来た。大阪、奈良、姫路、南多摩、中野、埼玉、小金井といった具合に転々として、その時は屋根もなく、壁もない所に寝た。東京へ来る前は、土木の仕事をしていたが、東京へ来てやめてしまった。食事は御飯と醤油だけの事が多かった。
西東京 女 61 慶北 '41 ・あまり外に出なかったので、わからない。ただ、韓国と生活が変わらないので、こんなものかと思った。
西東京 男 62 慶南 '39 ・渡日をしてみたものの、故国の生活とそれ程違わなかったので、又自分の思っていた程、良い所ではなかった。
西東京 男 57 全南 '40 ・まあ働けば仕事は有ったが、大変安い賃金で働かせるだけ働かされた。当時、食うのも満足に食うことが出来なかった。
西東京 男 57 全南 '39 ・自分の兄が日本に留学していたので、それで後を追って来たのだが、なかなか職はなかったし、自分はまだ小さくて働けなかったから、1日1日食べるので精一杯だった。とにかく毎日空腹だった。
西東京 男 72 忠南 '40 ・他の同胞に比べると、余裕があった。
西東京 男 62 済州 '43 ・兄が居たので、どうにか生活は出来た。1人だったら、どうなっていたかわからない。
西東京 女 72 済州 '41 ・とにかく大変だった。大家族だったせいもあるが、一食一食どうやって子供達に与えられるか心配で。
西東京 女 56 全南 '27 ・苦しかったのみ。
静　岡 男 64 慶北 '38 ・経営者と住人が韓国人である下宿にいた。生活は楽ではなかったが、働けば金は入ったので、それ程苦しいという感じはなかった。
愛　知（不明）　・徴用で40日程、土管工事に携わった。生活のためと、またそれしかなかった。タコ部屋同様で時間の自由もなく、非常につらい目に合った。
愛　知（不明）　・毎日毎日、牛や馬みたいに労働して1日1日生き延びてきたという感じ。
愛　知 女 65 慶北 '43 ・日本に来たのは終戦直前だった。食うに食えず、日本語が分からないことで一番苦労した。
愛　知 男 58 慶南 '40 ・苦しい生活で戦時中食事が出来なかった。白い御飯はなく、豆かすなどを食べた。

愛　知 男 60 慶北 '43 ・職場を転々としながら生活していた。

愛　知 男 77 忠北 '28 ・私の住んでいた近所には同胞がいませんでしたが、周囲の人達はとても親切にしてくれました。妻が子供達を連れて、稲刈りや田植えなど農家に手伝いに行くと、必ず何か貰って帰って来ました。豆腐屋にいた時は苦しかったけれど、土木の仕事をする様になり、まあまあ食べていける様になった。その後、戦争が終わってから仕事がなくなり、大変苦しかった。

愛　知 女 62 慶北 '40 ・日本語がわからないので、物も買うことが出来ず苦労した。八百屋へ行って、大根の葉を貰って食べたりしたが、あんな物を食べるのは朝鮮人だけだと言われ悔しい思いもした。

愛　知 男 60 全南 '42 ・炭坑から逃げ出して、見つからない様に同胞達が働いている飯場で隠れて仕事をした。始めは京都の知り合いの所へ行き、1ヶ月程隠れていて、次に長野の炭坑飯場へ行った。生活状況は良いものとは言えない。

愛　知 男 67 慶南 '28 ・渡日する時、親から技術を身に付けると自転車屋に入れられたが、そこでの仕事と言えば下男の様な仕事ばかりで給料も安くて、約半年で辞めた。清掃関係の仕事に就き、朝から晩まで働いたが、前よりも賃金が良く、そこの飯場には同胞がいたので精神的には楽だった。

愛　知 男 75 慶北 '32 ・家がなく、土がむき出しになっている家に板をひいて住んでいた。仕事が終った後、友人と二人で酒を飲みに行っても、清酒は売ってくれず、焼酎を飲んだりしていた。大変苦しい生活でした。

愛　知 男 74 忠南 '26 ・生活面では努力したので給料も高くなったが、朝鮮人だということで家を見つけるのに苦労した。

愛　知 男 82 全南 '23 ・働かざる者食うべからずであって、右も左も知らぬ者に誰が飯一杯でも食わしてくれるか。最低1日に12時間は働いた。

愛　知　　75 慶北 '30 ・始めの仕事では1円40銭もらい、飯代を60銭取られていた。これでは生活できないと思い、別の仕事をした。しかし、こんどは1円10銭でやはり飯代は60銭取られた。寝る所も飯場ではろくな布団はなく、起きてすぐ仕事をし、寝るという単純な生活だった。

愛　知　　60 慶北 '39 ・徴用された夫を連れに呉まで行ったこともあった。夫は病気をしたため、軍隊から出ることが出来た。いつ爆弾が落ちるかわからない。不安な毎日だった。米の配給はなく、鍋一つに二、三個の家財道具を買った。

愛　知 男 82 慶北 '16 ・私は丁稚奉公でしたので、朝から工場へ行き、夜は飯を食って後は寝るだけの別に変わったことのない生活でした。

愛　知 男 58 慶北 '39 ・靴下、石鹸などいろいろな物を売り、それにより移転を何度も繰り返した。また、遊技業を経営している時、客に朝鮮人と言われたことがショックだった。

愛　知 男 71 慶南 '29 ・工場の親方に気に入られ、可愛がってもらったが、給料が少なかったので、ラムネを飲んだらもうなくなってしまうぐらいだった。

愛　知 男 60 慶北 '40 ・初めは工場へ働きに行き、独学で勉強した。そして戦争が始まると徴兵として南方へ行った。その時の気持ちは「仕方がない」これだけです。

愛　知 男 59 忠北 '37 ・勉学を身につけようと思って、日本に来ていたのに戦争で志を絶たれ、半ばヤケクソになっていた。祖国の親の仕送りを勉学の為にも使えず、申し訳ないと思っていた。

愛　知 女 60 京畿　　・機織りの仕事を終えると、私と父と弟の３人で住む部屋へ往復するだけだった。家では韓国語しか話さなかったので、日本語を覚えるのに苦労した。

愛　知 男 62 全南 '41 ・大阪で働いた後、東京へ行き読売新聞の発送係や牛乳配達、トラックの運転手、飛行場建設の土工など、ありとあらゆる仕事をした。重労働だったが、本国の食料事情に比べれば天国のようだった。

愛　知 女 65 全南　　・その当時の自分達の生活は安定していた。と言うのは、自営で衣類又は、色々な物をミシンで縫う仕事をしていたので、自分の所で職人を抱え、仕事もうまくいっており、当時は金銭的にも安定していた状況にあった。

愛　知 男 60 慶北 '41 ・日本の高校で勉強しながら働いていた。日本での生活は酷かったが、本国よりはまだよかった。とにかく生きていくのが、精一杯というのが実情だった。

愛　知 男 57 慶北 '42 ・両親を尋ねて来た私は、お金も何もかもありませんでした。ただその日１日を食べる事だけで精一杯でした。いつも一人ぼっちで住む所も転々とし、寂しさをこらえきれない日もありました。でも次第に慣れてくると、少々言葉も通じるようになり、大変日本人に親切にされた事だけは幸せでした。その時の苦労話をすれば、このような紙が何百枚、何千枚あっても足りませんので大雑把に言わせてもらいました。

愛　知 女 56 京畿 '45 ・日本の名古屋で事業をしている亡夫のとこへ嫁いで来たのだが、名古屋駅周辺を見た時、ソウルの中央に住んでいた私はあまりに田舎の所へ来たので愕然とした。しかし生活は大変裕福で、メイドが三名いるくらいの暮らしだった。

愛　知 男 60 平北 '44 ・最初徴用で軍需工場で働かされ、工場と宿舎を往復するという毎日でした。そんな生活に耐えられなくなり、私は半年後に脱走しました。脱走し落ち着いた所は、ある工事現場の飯場でした。そこには同胞も数多くいて、仕事的には前とあまり変わらなかったが、食事面、賃金面等で優遇はされていたので、前よりは生活し易かった。

愛　知 男 76 全南 '29 ・生活などと言うものはない、毎日泣いていた。

愛　知 男 66 慶南 '40 ・きつい仕事をしなければ食べていけないし、土方で働きにいっても親方が逃げていったりして、金銭的に非常に困った。

愛　知 男 72 忠南 '27 ・菓子問屋を退職した後、牛乳屋を経営した。その頃、大卒の初任給が五、六円だったが、月収 100円は儲けた。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・とにかく日本語はできないし、仕事さえないし、夜になると本国へ帰

りたくて非常にさみしく苦しいと思った。しかし少しでも働いて本国に仕送りするため働いた。

愛 知 男 73 慶北 '28 ・当時は朝鮮人が少なかったので珍しがられ、周りの人から大変親切にしてもらった。一生懸命働いたので給料もよく、大して苦労はしなかった。

愛 知 男 75 慶南 '27 ・当時韓国は植民地だったので、精神的には日本で生活しているのも韓国に残っているのも同じような気持ちだった。下層階級の日本人との付き合いが殆どだったので特別な差別もなかった。

愛 知 女 61 慶北 '40 ・戦時中で食物は配給制だったので、腹一杯食べることは出来なかった。

愛 知 女 80 慶南 '32 ・当時一人で美容院に勤め、収入は5000円でした。そのうち2500円を韓国にいる家族へ仕送りしていました。お金では恵まれた方ですが、仕事といっても自分を削るような思いを毎日していました。1日1時間位の睡眠する程度のハードな生活、また言葉がわからないためよく店主に叱られたり、仕事を覚えると同時に言葉も覚えなくてはならないので、大変苦労しました。とにかく、無我夢中でやっていたので、仕事を覚えるのも人並み以上とよく誉められたものです。

岐 阜 男 56 済州 '44 ・神社参拝に関して、小学生の頃、東を向いて参拝させられた。小さな頃だったので深くは考える事はなかったが、日本の体制に反発するような意識も何もなかった。自分が進んで渡航してきたので、苦しくても止むを得ないと思った。
配給制度を受けながらギリギリの生活をしていた。同胞経営の職場であったから賃金差別など無かった。

岐 阜 男 71 慶北 '27 ・自分の意志で来たので，苦しいのは苦にならない。一時帰国をよくした。

岐 阜 女 69 慶北 '44 ・韓国では戦争中でも兄さんが助けてくれたし、私も働いたし、物を隠して子供に食べさせたし、まだ余裕のある方だったが、日本ではバラックに住んで畳はボロボロだし、なんで日本に来たのかと思って泣いた。"来てしまった"と思った。何も持って来なかったし、体一つで夫に会いに来たが、来た当初は本当に悲しかった。東京での生活が酷いので、東京に来て10日目に兄を頼って名古屋に行った。空襲が酷いので長野に疎開、それから戦争後の盆に岐阜に来た。

富 山 男 53 咸北 '43 ・私が日本に来たのは親の意向で、日本で留学するためであり、本国から仕送りをもらって神戸の親戚に預けられ、そこから市内の中学に通っていたので、生活が苦しいとか、楽とか別段感じたことはなく、学校でもすぐにまわりと馴染むことができたので、本国にいる時とは、そう環境が変わったとは思わなかった。

富 山 女 61 慶南 '43 ・夫が病気なので、自分が働いて生活を助けた。大変生活が苦しくその時、本国へ帰りたかった。引越しは何十回もした。ごはんがないからアメを食べた。空襲から何回も逃れた。

大 阪 男 57 慶北 '43 ・約2千人ぐらいの者と一緒に雑魚寝していた。初めのうち生活も苦し

くなかったが、戦争が緊迫するうちに生活も苦しくなって来た。仕事を休むとその理由を徹底的に調べられたので休むことはできなかった。

大　阪 男 76 済州 '26 ・食住で精一杯で仕送りも出来なかった（友人と酒盛等をしていたことを覚えている）。休日はお金も無いので外でぶらぶらしているしかなかった（気を休める唯一の事）。仕事のない時期は土方等をしていた。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・14才から18才までは苦労した。18、19才までは楽だった。下宿代を払ってもお金があまり、裕福に暮らしていた。仕事で全国を回りながらもちゃんとした旅館などで泊まりながら仕事をしていた。九州の小倉に日本人経営で韓国人相手に遊ぶ場所等もあった。

長崎川南造船所で組長になった、捕虜が 800名。捕虜20名ぐらいを任された時、外人の捕虜に芋などを空腹をしのぐためにあげると、日本人労務の人達が反抗した。

女子挺身隊 200名、韓国のピョンヤン（現北韓）から来ていた。女の子達が苦しくて死にたいなどと言っていた。その後、女の子達は爆弾で全滅して全員死亡。白の韓国服など着て歩いていると日本人が墨などで服を汚したりした。

大　阪 女 73 済州 '33 ・夫がこっちに渡っていたので、仕方なく渡日した。生活も極端に苦しくなかったが、また物として残るほどの余裕などもなかった。

大　阪 女 70 慶北 '33 ・韓国に帰ろうと思ったが、帰るお金もなかったし、帰っても韓国の生活に不安であった。戦争が終わって夫が仕事をして、私は主婦で生活も楽だった。

大　阪 男 71 慶南 '31 ・日本人というのは、たくさんお金を持っていると感じた。自分達は国で自分で作っていたから買物というものをしなかった。

大　阪 男 57 京畿 '43 ・叔父が子供がいなく、養子という形で来たので特別にない。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・韓国人が集まってアパートで共同生活をした。五、六人で一緒に日本に来たので。

大　阪 男 62 済州 '43 ・戦争中は食べ物がないのだけが苦しかった。戦後の日本の生活は働く所がなくいたかった。戦後、在日韓国人の人達は殆ど国へ帰ってしまった。まず日本語が少ししか分からなかった。日本語の分かる人は買い出しに言っても得であった。家も三、四回ぐらい変わったが、別に差別はなかった。

大　阪 男 69 慶北 '34 ・生活は苦しい、楽なことはなかった。長男だったので親、兄弟を養うことしか頭になかった。

大　阪 女 75 慶北 '27 ・家族が多かったので生活が苦しかった。1日働いても働いても1人分ぐらいの食べるものしかないほどだった。

大　阪 男 76 済州 '18 ・米30kg 2円20銭していた。一日生活するのに20銭必要、働いて一日40銭ぐらいだった。

大　阪 男 55 慶南 '44 ・横浜では空襲なんかがあって死ぬんではないかと思ったこともある。それで京都へ引っ越して炭焼きなどをした。

大　阪 女 76 慶南 '33 ・夫が土方をして生活をしていたが苦しかった。今の方がはるかに良い。

大 阪 男 70 済州 '27 ・日本の家でただ働いているという感じだったが、20才を過ぎると大人としての付き合いがあるが、朝鮮人というだけで差別をした。日本人は私達の事を人間と思っていなかった。日本人と給料がすごく差があった。誰もやりたくないような嫌なことばかりさせられた。力仕事やゴミ拾いぐらいしか職がなかった。いつか自分の国が解放されることを望んで必死に働いた。

大 阪 男 69 済州 '34 ・運送屋に勤め、体力があれば賃金は均等分配され、別段不満なく生活できた。付近に同胞の家庭も多く、日常ともに暮らしていた。

大 阪 男 58 慶北 '41 ・軍属（徴用）にとられて兄が死んだ。呉海軍施設に入った。差別があり17、18才の子には飯をあげなかった。日本人は飯は思う存分食べられた。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・米屋を営業。特に貧しいこともなく余裕があった。この時期は韓国よりも日本の方が住みやすかった。近所その他は特になかったが、子供の間で"朝鮮ブタ"等となじられたこともあったが、実際に当たりが悪かったことはなかった。

大 阪 女 62 慶北 '40 ・その日暮らしで苦しかった。ガラス工場の中に部屋を作って暮らした。雨が降ったら食べられなかった。当時、夫達は土方をしていた。賃金は日本人との差があった。

大 阪 男 61 慶南 '41 ・屈辱感はあったが、生きて行くためには仕方がなかった。仕事等は同国人同士で、言葉等は不自由はなかった。家にいる時は、生活は普通であるが、家を離れると日本人に馬鹿にされたりしたが、生活は言葉がわからなくても、漢文が同じだったので不自由とは思わなかった。

大 阪 男 52 済州 '43 ・よもぎに少量の米を加えて食べたりして、どん底の生活だったので、母国に帰りたいと何度も思った。

大 阪 男 63 全南 '37 ・荒川で下宿をしていた。食生活において、ある一定の生活はできた。映画を見たりもした（15~35銭で）。

大 阪 男 67 全南 '38 ・韓国にいる時は、大変生活が苦しくて、止むを得なく日本にくる様になった。そして本人も含め、家族の生活は、多少なりとも楽になった。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・結婚して、ずっと家にいた。社会のことは分からない。

大 阪 男 79 済州 '20 ・４万5000で、裁縫やった。家を買った。韓国人が固まって住むことはなかった。月給３円。日本人と同じ給料。

大 阪 女 71 慶北 ・ホルモンを売ったり、キムチを売ったりして生活を建てた。言葉がわからなかったのが、一番辛かった。田舎にいた時は、皆な差別なく、親切にされた。

大 阪 男 59 慶南 ・韓国より物は豊富にあった。日本と韓国の差は、あまり感じなかった。

大 阪 65 済州 ・言葉、食べ物が合わないことだけ。当時は食べてチョンだった。五年間見習いの為。

大 阪 男 63 慶南 ・帰りたいと思いながらもどうしようもなかった。職をもてず、国籍差別のために苦労した。建設業を始めるのに登録が取れずに苦労をした。取るために、賄賂を役人に対して贈った。熊本では、特に差別がひど

く、なかなか取れなかった。韓国人では、書類上の資格の、差別がきつく取る事が出来ず泣いた。子供の頃からその差別に何度も泣かされた。

大 阪 男 64 ソウル ・朝4時に憲兵に叩き起こされて、神社参拝、朝御飯を食べて仕事。船賃ができたら自分の国に帰りたかった。知人に会いたかった。死ぬ時は、韓国でと思ったが、今は帰る気なし。徴兵にとられて捕虜になった。皆、殺されたが私だけ生き残った。対馬に行ったとき、船と船長をおさえて自分が操縦して壱岐の手前で大波を受け転覆して全滅。六人だけ死体が上がった、山を二足三文で売って、1870万の賠償金を払った。

大 阪 女 61 慶北 ・小さいときに親と一緒に来たので、怒りも悲しみもあまりなかった。ただ生活が苦しかった。韓国にいるときより、それでも多少ましであった。働けば何とか食べていける様になった。

大 阪 男 60 全南 ・当時は帰りたくとも帰れなかったため、止むを得ず日本に住むことになり、母国の親からの仕送りが……。

大 阪 男 69 済州 ・父母が亡くなっても、一人息子なのに死に目にも会えなかった。親が死んで帽子をかぶることがなかったから、今だにかぶれない。胸が苦しい。親と会えなかった昭和37年までは、苦しかった。焼夷弾が降った。死んだ人を踏みながらも子供を守って逃げた。

大 阪 男 64 済州 ・国に帰ろうとして船に乗ってて、沈没されて家族全滅した。

大 阪 女 59 全南 ・すぐ「朝鮮」と引張りだされたが、いちいち気にしていたら生きていけないので、聞き流した。

大 阪 女 60 済州 '41 ・食生活もろくろくできないくらい苦しく、また渡日したものの国が恋しくて堪らなかった。しかし国に帰るお金もないし、帰る人になんとか一緒に連れてもらえるように泣いてすがった。

大 阪 女 68 済州 ・子供を食わせるため、一生懸命働いた。ケチもした。金のない人に差別はあるが、日本では金がなくても表面的には差別ないと思って生活した。

兵 庫 男 68 慶南 '30 ・船員をしていた時、日本人は日本語を話せと強制されたが、分からない言葉を話すわけにはいかないし、話せというし、はがゆく思ったものだ。そして私達が韓国語を話していると、日本人が自分達の悪口を言われていると誤解されて困ったものでした。

兵 庫 男 66 慶南 '33 ・10人いれば、10人ともが生活は苦しかったと思う。3畳の部屋で7人が住むというほど苦しかった。3年で韓国へ帰ろうと思っていたので、お金を貯めようと必至だったが、無理だった。

兵 庫 女 68 済州 '40 ・年中苦しいばかりで、子供一人を抱えて1日働けばその日やっと食べ、また1日働いて食べていけるという状態だった。五つの子供と一緒に空襲を逃れて、1日1日を生きていた。その時、「ああ、1日生き延びれた。」

兵 庫 女 68 慶南 '30 ・当時のうちらの生活いうて、そりゃ苦しかった。とにかく苦しかった

なあ。いっぱいあるけどな、話したら涙出るわあ。お金もないしな。米を買うお金もないしなあ。よう働いた、死ぬほど働いたわ。

兵　庫 男 65 慶南 '35 ・紡績工場から徴用で石川島播磨重工場に移された。軍需工場は規則も厳しく、工場以外の仕事はできなかったし、配給もかつかつで生活に全然自由がなかった。1週間も徹夜で働かされたりもした、他の同胞達は地方に買い出しに行ったり、ヤミをしたりして生活していたが、私はそれすら出来ず、苦労苦労の連続だった。

兵　庫 女 71 慶北 '34 ・苦しくはなかった。いい社会に入っていたので。本国にいるときは親がいたので、日本に来て初めて自分達で生活した。

兵　庫 女 60 慶南 '37 ・服装も髪形も日本人と同じ様にもんぺはいて「大日本帝国婦人会」とかぶらされて皆な一緒にお参りした。みんなと同じ様にしないと配給かなんかでのけものにされる。来た当時は毎日泣いていた。死のうと考えた。身内が誰もいなかった。一緒に来た同胞は一人ずつバラバラにされた。朝4時に起きたら、8時まで仕事するんですわ。御飯が与えられるのは10時頃、御飯もはかり、はかって与えられ、足らない人もいた。食べる物がない、口にあわない、殴られる。言葉が分からない、帰りたい。

兵　庫 男 59 慶南 '39 ・おじさんの家に住んでいたのでよくわからないが、おじさんの家は苦しかったと思う。

兵　庫 女 73 慶南 '28 ・差別はなかった。仕事は辛いけど兵隊が韓国からも志願して来た。海軍の仕事ばかり、日本来たら食べ物は十分食えた。昭和2年3月上陸。

兵　庫 女 59 済州 '36 ・日本に来て、3年間ぐらいは言葉もあまり分からないし、国の事を思って泣いた事もある。食って行く事はできた。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・韓国でいるよりは生活は良かったが、日本内で他の者と比較すると低い方であった。たとえば、ある仕事をすれば韓国人で40銭、日本人では5円位貰っていた。それだけ差があいていた。言葉は分からないが、差別しているという事は感じていた。何でもない事でよく殴られていた。口答えは絶対にできない様であった。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・収入は多かったが、本国に居る親戚のことが心配でお金などを送ったりした。苦しいとか苦しくないとかは問題ではなかった。自分で歩いて捜して、一銭でも収入の多い所の仕事を捜した。

兵　庫 男 63 済州 '40 ・飯場みたいな所で朝、昼は弁当を作ってくれ、夕食付きで暮らしていた。生活費は殆ど給与と同額であったため、小遣いなしであったが、飯は韓国よりうまいものが食べられた。その飯場は韓国人経営で韓国人労働者ばかり居住していた。

兵　庫 女 72 慶北 '24 ・土方の仕事を貰って生活していた。日本中全国、仕事が暇で困った。日本へ来たら、米の御飯を食べられる。向こうは麦ぬか、粟の御飯を食べていた。

兵　庫 女 64 慶南 '38 ・本国でも苦しかったが、日本に来ても苦しかった。仕事がなかった。よく涙を流して国に帰りたいと思った。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・日本に来た頃は、年も若く、あまり体力もなかった。それでも仕事といったら重労働ばかりで、食う為に働く、働いて食うこんな生活で仕事もよく変わった。人にもまれ、そのうち気性も荒くなり、喧嘩もよくした。そうでないと生きていけなかった。20才を過ぎた頃からは日本にも慣れ、私は字の読み書き（ウリマルと日本語）ができたので、韓国人にしてはいい仕事もした。例えば、ガラス工場の寮長とか、レンガ工場で今でいう主任くらいの仕事もした。苦労も多かったが、その頃にしてはいい時もあった。しかし、それも、戦争のどさくさで長続きはしなかった。レンガ工場で初めて働いた時、金が無くてスイカを買い、朝、昼、晩食べて働いた事もあった。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・こちらに渡るのに憧れて来た。韓国では夢のある生活はなかったので渡りたかったが、警察等の規制が厳しかった。密航者を摘発し、全員を座らせて銃殺するのを見た。その頃は皆、日本へ渡ると良い暮らしが出来ると思われていた。仕事をして低賃金しか貰えないが、日本にいた方が国にいるよりも生活状態がましだったと思う。

兵　庫 女 82 慶南 '31 ・食べるんに精一杯の毎日で苦労ばっかりや。うちみたいに、苦労ばっかりして年とってもて、死んだらそれで終わりや。若い時は男の二、三人分の仕事もしたけど、内蔵の病気なんかしたことはない。せゃけど、腰、足痛いし……。

兵　庫 女 63 慶南 '39 ・収入が少なく、夫が酒飲みで子供が７人の苦しい家庭。食べる物もなく、塩水を飲んだり、糠を食べたりしていた。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・学生だったので、生活は本国からの仕送りがあり、別に苦労はしなかった。しかし、戦争が始まり、状況が変わった。

兵　庫 女 70 慶南 '37 ・裸で日本に渡って来たのでとても苦しかった。

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・食べる物が全然なかった。仕方なく、みかんの皮やバナナの皮等を食べた時もあった。風呂もなかなか入れなかった。すごく苦労した。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・製工で主人が働いていた。月40円位。その後、土方で雇われていた。韓国が貧しかったし、親がいないため帰れなかった。神社等に行った、強制的に行った。

兵　庫 女 65 済州 '28 ・米を買うお金がなくて、小米（米の粕）が安いのでそればかり買っていた。小米には石なども混じっており、おいしくなかった。麦とかもよく食べた。市場へ行って、鯖の頭等を拾って来て、炊いて食べた。

兵　庫 男 60 慶北 '36 ・働いたら困る事は無かった。稼いだら国へお金を送っていた。仕事さえ見つかって、真面目にしてたら生活できた。親や家族も生活できた。

兵　庫 男 65 慶北 '34 ・朝鮮人は四季に白衣を着ていたが、水鉄砲で墨で黒くされた黒い服を着ろということだった。苦労はあったけど、これからよくなるという希望があった。本国では一生百姓で終わるけど、こっちではお金を貯めて、一旗上げようと思った。1000円貯めたら帰ろうと思っていた。

兵　庫 男 62 慶南 '38 ・昭和８年、生活が大変苦しかった。仕事がなくて暇だった。飯場が全部してくれた。五、六年してから妻が来た。言葉がわからなかった。

買物に行く時、手で欲しい物を指したり、近所の人が一緒に行ってくれた。

兵 庫 女 57 忠北 '44 ・大変苦しかった。嫁に行った先の家の要領もわからなかった。米も味噌も配給制で一年に4回もあっちこっち貰いに回った。

兵 庫 女 58 慶南 '44 ・毎日が大変苦しかった。周りの日本人からすごくいじめられた。しかしそれをじっと我慢していた。食べて行くだけで精一杯。毎日麦とか豆御飯ばかり食べていた。周りの同胞も耐えていた。苦しいの一言。

兵 庫 男 63 慶南 '41 ・ちょうど来た時は、配給制度の時だった。配給そのものでは生活できなくて、それでヤミというものができた。今とは比べられないほど苦しかった。兄弟が多く、14人家族だったので一人はいつもヤミに米を買いに行って生活していた。戦争中は、警察よりも軍が政治を握っていたから、ほんとうに怖かった。

兵 庫 男 76 慶南 '33 ・炭坑に入った人は逃げる事もさぼる事もできなかった。警察の人よりも炭坑の人の方がもっと怖かった。逃げる人もいたが、そういう人達は叩かれた。炭坑は刑務所と一緒や。炭坑に入った後、奥さんが本国で死にそうになったので戻って来て欲しいと手紙を書いたが、絶対ダメで許してもらえなかった。炭坑からは一歩も外へ出られなかった。1日も遊べないし、出られない。

兵 庫 男 63 忠南 '42 ・炭坑を逃げ出して、福岡の飛行場を作っている飯場に着いた。そこで朝鮮人のおばちゃんが飯炊きをしていた。そのおばちゃんは僕達に飯を丼大盛で食わしてくれた。それからそこで働くようになった。仕事場では食事は十分食べさせてくれた。

兵 庫 男 60 慶南 '38 ・韓国にいた時よりは、色々な面でよかった。差別もないし、特に腹一杯食べれたのが良かった。

兵 庫 女 77 慶南 '24 ・日本の生活は経済的にはもちろん苦しかったが、それよりもその当時、戦争また戦争で恐怖感におそわれた事が印象に残る。

兵 庫 女 60 慶北 '43 ・日本での結婚生活は、韓国と同じくらいに食べ物がなく、バラックに住みました。配給もろくに貰えず、豆粕とかとうもろこし、黒パンとかで、今考えると豚のエサ以下のような物ばかりだった。買い出しにも行けず、苦しい生活だった。主人も一定の仕事がなく、土方をしたり、百姓を手伝ったりして、それも重労働ばかりで、お腹を減らして帰ってくる主人に少しでもいいものを食べさせようとして、食べ物の心配ばかりしていました。

兵 庫 男 69 慶南 '30 ・おじさんが先に渡日していたので、そこに下宿していた。食費などを毎日払って暮らしていた。朝8時くらいから、5時くらいまで工場で働く毎日であった。

兵 庫 男 63 全南 '32 ・日本に来た頃は学生だったし、私のいた親類の家は普通の生活だった。別にこれといった苦労はしていない。ただその頃は一生懸命勉強して、韓国に帰ることだけを考えていた。

兵 庫 男 65 全南 '37 ・来てすぐに仕事はあったので、不自由と言えば言葉くらいだった。朝、

昼、晩の食事がろくに取れない事もしょっちゅうだった。私は日本にたった一人で来たし、自分の食い分位はなんとかなった。

兵　庫 女 78 慶南 '28 ・ものを言われへん程苦しい。言葉も喋られへん。うちのおじいちゃんが、女連れて来たのに何が嬉しいか物を頭の上に載せて、浜行って物売った。夫が日本で他の女の人と住んでいて、一人で子供を大きくして、女手一つで大変であった。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・その時の生活は生活とは言えなかった。道に落ちている物も拾って食べても、栄養があるとされていた。私は山の中に入って、山菜とか柿とかを食べて生きていた。

兵　庫 男 64 京畿 '44 ・私は殆ど３年間入院してまして、すごく苦しかった。お金はないし、物は高いし、苦しかった。米が１円50銭だった。働けなかった。働き口も殆どなかった。

兵　庫 女 72 '26 ・日に45銭生活費をのけて本国へ仕送りをしていた。字が書けないので手紙が書けず、本国の親の生死も確認できない状況であった。民団により生死を確認してもらい、死んでいたのを確認してもらった。

京　都 男 68 慶南 '39 ・１日の労働賃金が、２円40銭、40銭は１日の食費として支払った。食事は、お粥、冷飯、小麦が主。１ヶ月10円貯金するのが精一杯だった。仕事が終わってからの遊びは禁止されていた。

広　島（不明） ・呉の方向で光が見え、ものすごい光だった。そして、そのあと黒々とした雲をみた。自分は呉が空襲かと思った。後に広島に落ちた原爆だとわかった。音が雷の音そっくりだった。となりの家の弟が広島におった。となりの人と一緒に広島市内に原爆が落ちたあと、市内に入り、米を貰おうと行ったら、皆んな嫁さんも子供も、あとかたもなく死んでいた。そして、家もどこに有るのか、わからんかった。朝７時から６時、土方で働いて、４円５銭だった。空襲で電気をつけると罰金だし、連れて行かれるんで、ろうそくつけて、カーテン締めておむつを変えた。変えたらすぐろうそくを消したもんだ。主人に徴兵の紙が来たので逃げまわった。島根の山奥に逃げて、仕事で炭焼きをするつもりだったが、結局しなかった。親戚もなくて、主人一人が働いた。苦労した。

広　島（不明） ・市内にいなかったけど、市内は焼け野原で駅、福屋など大きな建物しか残っていなく、人間はとても無残な状況であった。

広　島（不明） ・半額の収入でもあれば、祖国で暮らしたい。食うのも食わずに働かされた。自分達の管理者である日本人達は、いいものばかり食べて、自分達には、ろくに飯を食わせなかった。

鳥　取 女 慶南 '37 ・夫が病弱のため、私がリヤカーを引いて田舎を回って、鉄屑等を拾ってそのお金で生活した。又、ドブロク等を作って売った。

鳥　取 男 66 慶南 '29 ・とにかく苦しい毎日の生活だった。日本人宅の住み込みで子守りをしていたのだが、使いも荒く、学校へも通えないし、ただ食べさせてもらうだけだった。学校へ通う目的で渡日したのが、学校へ行けないで

渡日を後悔したりした。

岡　山 男 78 慶北 '34 ・徳島で発電所の土木工事へ単身で行き、和歌山の串本で鉄道工事をやり、精一杯働いたが自分の腹を満たすのも事欠くぐらいの苦しい生活だった。明石の日の出町にあった、明石ジョージ園（キリスト教関係、100 名の孤児３～20才の英国帰りの人経営）で働くようになり、月25円の収入で、８人家族をどうにか呼び寄せ、生活することができた。

岡　山 男 65 全南 '34 ・日本人に負けない能力があっても、最低の職場（汚い、危ない、しんどい）しか与えられず、また世の中が不景気であり、給料も少なく、最初の日当が40銭下宿代45銭、働いても５銭の赤字。下宿の主人が仕方なく５銭負けてくれた。しかし、夜間の学校へ行くだけの交通費もなく、教材の金もないので日当が70銭になって学校に通った。風呂代３銭であったので、滅多に風呂に入れなかった。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・結婚式を挙げるのも韓式はダメ、純日本式で挙げるようにさせられた。朝５時から働いても１日25銭しか貰えず、冷御飯とたくあんだけの食事がつらい。冬になると御飯が凍ってしまうが、それしか食べる物がなかった。よく泣いた。

山　口 女 59 慶南 '42 ・夫が人夫を集めて土木工事をしていたので、食べることはできた。しかし日本語がよく分からなかったので、不便だった。私達は、１度本国へ帰ったが、生活が思うようにならず、また日本に来た。

山　口 男 68 慶北 '31 ・26の年に炭坑の組所に居て、80人位部下があった。幽霊の米のチケットがあったんじゃ。じゃからね、人は明日の米がないのかと言うけど、わいはもう一つもそういう事はなかった。別に苦労した事はないな、私は。炭坑自体は、戦争中は大目に見てくれた。タバコがないない言うてもね、一ぺんタバコを受けに行ったら、大きな箱にいっぱいくれた。

山　口 男 70 慶南 '31 ・日本に来てすぐに飯場に入ったので、飯場以外のことは何も分からなかった。飯場は、タコ部屋と同じで、外にも自由に行けなかった。割当てられた部屋には１畳に１人の割で人夫がいたので、働いて食べて眠ったら、他に何もすることはなかった。飯場は楽しいことは全くなく、苦しいことばかりだった。

山　口 男 64 慶南 '38 ・生活はそんなに苦しくなかったが、日本に来て半年位は帰りたくて堪られなかった。夜寝て見る夢も故郷の夢ばかりだった。しかし、慣れてくると楽しかった。私は土方を集めて軍の工場で仕事をしていた為、米が沢山あった。その頃米は、配給で皆食べられなかった時代だったから、土方の親方は軍に秘密で横流ししてもらったりしていた。

山　口 女 57 慶北 '43 ・炭坑住宅に住んでいた。配給制度で食事もまともに出来なかったので馬の餌も食べたりした。夫は徴兵で韓国へ帰った。アメやタバコを作ったり、田舎へ行って米などのやみ商売をしていた。

山　口 男 66 慶北 '41 ・配給の豆かすなどを食べていた。食料を買う金も無かったし、食料自体も悪かった。炭山の徴用で炭を焼いていた。山小屋（バラック）に

住んでいた。

山　口 女 60 慶南 '41 ・日本は韓国に比べて優れているのにびっくりした。そして共同風呂に行くと日本人がシラミを口で吸って潰しているのもびっくりした。食べ物は、全部切符制度と配給で、米はとうもろこしを潰したのと、外米、麦。そういうので何でも配給だけど全部闇肉、闇米、すべてが闇だった。

山　口 男 66 慶南 '31 ・生活が苦しく、御飯を食べるのがやっとだった。量はとても少なく、いつもひもじかった。

山　口 女 62 慶北 '38 ・食料が少なく、とても生活が苦しかった。山で木を切ったりして生活をした。

山　口 男 64 全南 '33 ・小倉に行って免許書を交付してもらったり、割とおもしろく生活していた。

山　口 男 62 忠南 '24 ・仕事は休みなく、1月に1回あるかないかの休みも監禁されて、外へ出る事ができなかった。

山　口 男 78 慶北 '24 ・ものすごく苦しかった。でも韓国に居るよりは、御飯を食べる事ができた。わりかしよくしてもらった。百姓の手伝いだったがその時は、腹いっぱい食べさせてもらった。飯場から飯場へ移っていた。

山　口 男 68 慶南 '31 ・一人で生活をしている時は、大変苦労したというほどでもないが、お嫁さんを貰ってから、それはもう口では言えない。でも誰でも苦労している事。一人で生活していると、会社で寝て、食べさせてもらってそんなにきつくはなかったが、配偶者や子供達に食べさせなければいけないので、生活していけなくなってきた。自分が、旅をしながら稼いで仕送りしていた。

山　口 男 59 慶北 '24 ・食べ物はお米だけを与えられて、無賃金で着る物も薄い布だけで冬も過ごしていた。日本に来た当時は狭い部屋に多くの人数が詰め込まれ、動くゆとりもないままに座ったまま夜を迎える、そんな生活だった。何もしていないのに、無理矢理、罪をきせられ、殴る蹴るの暴力行為、毎日、新しい傷・あざができた。日本が裕福になったのは、自分達の労働力があってこそだと思う。

山　口 女 68 全北 '34 ・日本に渡った当時は苦しかったが、本国に比べれば色々な面で生活し易かった。

山　口 女 54 慶南 '42 ・生活は常時苦しかった。当時は夫が船に乗り、私は家事をしていたが、それだけでは食べていけないので、石炭を拾って、それをお金に替えて、生計の足しにしていた。日本に来て、暫くして子供が生まれたが、家が狭く足の踏み場がないくらいだった。家と言っても、小屋みたいなもので辛かった。しかし、他の同胞も皆同じだった。私は、日本語も上手ではなく、国には両親がいたので早く帰りたくてしょうがなかったが、国に帰っても夫の職がないので、日本にいるよりしょうがなかった。

山　口 男 65 慶北 '31 ・戦争中は、他人に比較してよい生活をした。

山　口 男 60 全南 '41 ・当時食料がなく、お金があっても配給制なのでどうにもならない。

山　口 男 67 慶南 '39 ・兄が先に日本に来て、仕事をして生活基盤を作っていたので、食うのは困らなかった。

山　口 男 62 全南 '36 ・家の近所では「韓国人！」と罵倒されたのを覚えている。

山　口 男 68 慶南 '28 ・食べるのがやっとだった。国へ帰っても、生活のメドが立たないので、ここで自分が辛抱するしかないと思った。

山　口 男 59 済州 '40 ・親からの仕送りをしてもらって、足らない分をアルバイト等で学費に当てた。

山　口 女 59 全南 '39 ・日本に来て、言葉も分からず、知人もいないので毎日が涙の生活だった。こんなことなら日本に来なければ良かったといつも思っていた。日本に来たら、良い生活ができると言われたので嫁に来たが、こんな苦しい毎日が続くのなら本当に韓国の方が良かった。同じ仕事を精魂込めてやったのに、全然生活は良くならないし、いつも生活に追われていた。衣服は嫁に来た時もってきたので、いろいろあったから困ることはなかった。

山　口 男 78 慶北 '27 ・子供は二人いたし、何も食べるものはないし、無理矢理、光市の方に連れて行かれて、強制労働させられ、自分が食べていくのがやっとで、子供たちの面倒まで見ている余裕がなかった。

山　口 男 67 慶北 '42 ・１合飯で１日を過ごした。とにかく苦しかった。食べるものも、食べられないから体、顔がすごくむくれていた。

山　口 男 66 慶北 '41 ・配給で暮らしていた。別に食べられないという事はなく、お腹が空いたとあまり思った事はない。もちろん、いいものを食べたというのではなく、何でも食べなければいけなかった。

山　口 男 55 慶北 '43 ・船員であったので魚の苦労はしなかったが、米が食べられなかった。大豆油を絞った粕の配給で家に持ち帰り食べたが、とても食べられたものではなかった。油分なしの大豆粕でパサパサし栄養もなく、全員が皮膚病や栄養失調になった。

山　口 男 66 慶南 '41 ・働いている時はいいが、怪我をしたり、病気になったりすると、１回に米を３合ぐらいしか食べられず、本当にみじめな暮らしだった。３合といっても今は甘い物や、油物などがいろいろあってお腹が膨れるが、御飯しかないので足りるものではない。

香　川 男 60 慶北 '36 ・渡日当時は、九州の農家で新聞配達と農事に精を出して仕事をしていた。食べる事、寝ることには苦労はなかったが、金を本国に送金出来なかったので、もっと金を蓄えたい為、１年間で九州を出て大阪に行った。大阪では土方をして生活するが、四国地方を各地転々とする。そのうち、徳島県小松島の軍用空港で仕事をするようになる。軍事空港には、本国からの徴用で数十名来ていたし、又、在日同胞も50名程いたと思う。この時は、いろいろ差別され苦労した。仲間の中で、現場を離れて行く者も多く居たと思う。私は、解放時まで小松島に居て仕事する。

香　川 男 66 慶南 '40 ・本国では仕事もなく、生活苦に追われる毎日だった。町で仕事を見つけても、1日50銭にならなかった。こんな時、日本に行けば金が残ると思い、仲間と一緒に炭坑の仕事を希望したのです。日本での炭坑はとてもきつく金を残して送金ということは出来ません。その上重労働の為、身体まで悪くするという状況でした。一緒に来た仲間も、次々と逃げ出しました。私も坑内の仕事よりも、外気の方が良いと考え、仲間と炭坑から逃げ出し福岡県内でいろいろな日本名を使って、飯場を転々としました。それでも炭坑にいてるより、金が残り送金を続けていました。1945年8月15日解放時は、四国愛媛県新居浜市で土方をしており、そのまま新居浜に居住することになりました。

香　川 男 74 慶北 '34 ・1934年故郷では、これ以上生活出来ないと思い妻、子供を残して、一人で大阪の従兄をたよりに渡日しました。従兄と会って、彼の勤めている瓦工場で働くようになり、日給1円から、月食事代10円引かれましたが、それでも毎月5円を本国に送金していました。仕事はセメント、瓦製造で従兄と一緒でしたので、そんなに苦労はなかったように記憶しています。ところが翌年、仕事をはじめて13ヶ月後、妻と子供3人が渡日して来ました。一家5人の生活が始まりますと、出金が重み、途端に生活苦になりました。妻は、身体が弱く、子供も幼い為、私一人が働いていましたが、収入は増えることはありません。メリケン粉を主食にして、毎月 100時間を越える残業をして生活しながら、本国に送金していました。1945年1月、香川県丸亀市に移転するまで頑張りました。丸亀市には知人が居まして、大阪の空襲がひどくなり、知人の勧めもあって移転したのです。丸亀では、食料状況が良かったので、食べることには気楽になりました。解放後は、密造酒、養豚、古鉄商、等々何でもやりました。

徳　島 男 68 慶北 '42 ・大阪へ来た時は、配給もなく、1年程して配給がまわる様になった。3年程すると、日本の戦況も悪く配給も悪くなり、徳島の木沢村へ行った。木を切ったあと地に少々野菜を植えたりした。配給品は、麦が殆どで外米は匂いがして悪く、みそ、醤油、塩、たまにいりじゃこ、じゃがいもなどで肉類はなく、その日暮らしの生活だった。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・本国に毎月15円ぐらい送金しなければいけなかったので、1日24時間近く働かなければならない。毎日、死にものぐるいであった。本国では、田、畑が道路に取られて、殆どなく実母実父は、病気で働けず、幼い弟、妹がいた。

福　岡（不明） ・食べるだけであった。兄弟全部で働いていた。昭和20年に徴兵で取られ、光復節は本国で迎えた。

福　岡（不明） ・12才の時、織物工場で働く。当時の金にして5円程であった。日本人よりも賃金が少なめであった。悪いことがあればすべて朝鮮人のせいであった。食事も、日本人と朝鮮人の食卓が違っていた。今日の食事の残りを明日、朝鮮人にだけ食べさせていた。

福　岡（不明）　・徴用による炭坑労働を苦しさから逃亡。その途中、徴兵にかかり、日本全国渡り歩いて逃亡を続ける。

福　岡（不明）　・父の仕事がうまくいかず、又、住む所も良く変わったので、食べる事も含めて、大変苦しかった。

福　岡（不明）　・なんせ食べる物が少なかった。炭坑の雑務をする様になったものの給料は少なく、小遣いをもらう程度だったし、炭坑で働く同胞とその家族はいつも腹をすかしていた。

福　岡 女 65 慶南 '43 ・食べるものには、苦労しなかった。戦争が終わると仕事も無くなり、それからは苦しかった。

福　岡 男 62 慶北 '35 ・自分の衣食には不足しなかったが、本国に送金する分が二、三ヶ月遅れになった。菓子屋で働いていた時は、昭和17年で65円位で十分生活が出来た。固定した仕事はなかった。7年位、どぶろく、焼酎の密造をしていた。

福　岡 男 73 慶北 '32 ・韓国では小作の仕事しかなく、日本では土木でも仕事があり、仕事が出来る状態が若い私には必要だった。大した差別もなく、仕事も多く順調だった。

福　岡 男 72 慶北 '27 ・この頃、朝鮮人と言うと珍しがられたが、みじめなものだった。言葉も知らなかったし、朝6時から夜8時まで働き、死んだ人もたくさんいたので、逃げる人も多かったが、捕まると半殺しにされた。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・水飴屋の職人として月30円、背広 7.5円、大卒が30円位であったので生活としては楽であった。毎月五円位本国へ送金して、そのお金で兄が本国で土地を買っていた。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・兄が働いている鉄工所で1ヶ月、他を転々として日本内でも戦争が激しくなってきたので、一つの所に3ヶ月以上いなかった。工場に長く勤めると徴用として取られるので、転々と職を変えた。仕事仲間で韓国人でありながら、日本人のふりをしていた人がいた。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・渡日すぐはそんなに苦しくはなかったが、配給制になった時に苦しくなってきた。食物がなかった。軍事工事に入った人間は生活（食料）はよかった。普通の町の現場では苦しかった。

福　岡 女 57 慶南 '44 ・日本人とは仲良くしていた。家が借りられなかった。海産物業は長くやれなかった。家計のやりくりが大変だった。家がバラック建てだった。日本人は生活的には裕福だった。物質的には大変困った。

福　岡 男 71 済州　・どの職場に行ってもよく叩かれるし、全て危ない仕事ばっかり充てられた。それで野菜等を田舎で仕入れ、町で売ったりして少しずつお金を貯める努力をした。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・日本人の生活に比べたら乞食。家が借りられない。近所付き合いは仲良くできていた。戦争が来るので軍事工場に入れられた。バラックの建物。日本人は昔からの生活基盤が出来ている。韓国は気持ち的には、助け合うが物質には助けあえなかった。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・日本に来て石炭掘りをした。食べ物はなく、仕事はきつく、たくさん

死んでいった。特に終戦直前、夫が米軍機により負傷し、片足を無くし、大変な生活だった。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・日本に入って来た時の方がよかった。日本に来て儲けて、本国に帰るつもりであったが、金がなかなか貯まらなかった。大阪にいる時、徴用に行き、食べられなく、人の家に豆を貰いに行った。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・炭坑に２年働く条件で入った。１年で逃げ出して、別の炭坑に移った。韓国人の経営する飯場に入ったが、日本人よりも待遇が悪かった。次に長崎の土木（韓国人経営）八幡製鉄所、材料運び、朝６時から夕方６時、ドロ押し、賃金は当時５円。同じ同胞が逃げてつかまり、叩かれていた。

福　岡 男 75 慶南 '25 ・友達も多いし、東京から晋州まで30円もあったら帰れたし、親からも帰ってこいと送金があったが、本人は成功して帰ろうと思っていたので帰らなかった。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・日本に来て生活が苦しくなって、２年後に配給になった。炭坑の手伝いもしたが、子供ができて手伝うことも出来なかった。日本人から「半島人」と言われて、臭いとも言われた。買物する時も、ノートを持って手振りでしていた。村にいた時、父の馬が取られてしまった。その取った韓国人は、金があったので本国に行った。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・日本人の女性から結婚の申し込みがあったが、自分は韓国人としか結婚しないと思っていた。

福　岡 男 73 慶南 '26 ・金儲けが出来ると言われ、仲間と一緒に日本に来たが、下関に降りると兵隊から長崎の炭坑の徴用で三年間努めた。穴の中に入り、石炭を掘る。朝６時に起きて９時から夜の10時まで仕事、食事は坑内ににぎり飯を持って行った。農家に手伝いにも行ったが、１日当時の金で七、八円位であった。朝鮮動乱が終わって、生活状態も少しよくなった。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・坑夫として日本で働き始め、生活と仕事は予想以上に苦しく、一生懸命働いた。おかげで班の長になり、それが私にマッチしたのか苦しい仕事ながらも同胞との協力する毎日が始まり、苦しさも忘れる事が出来た。しかし、炭坑では同胞がよく死んでいった。弱い者ほど叩かれ、同胞の命よりスコップの方が大事にされた様な状況だった。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・渡日当時はお金を使い果たし、苦しかったが日本人のお金持ちの家に住み込みで書生をしながら学校に通う事が出来、大変幸運だったし、各方面の日本人に可愛がられた。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・親と会うために来た。労働はきついし、そばに居る人間が死んでいった。食べ物は腹一杯に食べられず、茶碗１杯にみそ汁だけであった。浜炭坑、その時炭坑爆発で日本人と韓国人が80人位死亡。見舞金 380円のところ80円位しか貰ってなかった。それを見て、怖くなり他の炭坑へ移った。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・炭坑に入る時は毎日“今日は死ぬ”と思いながら入って行った。そして出る時、外の光を見て“まだ生きているんだな”と思った。炭坑を

	半年ぐらいで逃げ出して、軍事工場を転々としていた。食うものがなかったので、他人の畑に行って、芋をがめて食べたこともある。西東
佐　賀 男 59 満州 '45	・満州から来る時に、貯えたお金があったし、組織に入って生活費も出たから普通に生活ができた。
佐　賀 男 65 慶南 '40	・昭和16年頃までは配給があったけど、その後は配給も減り、米類は殆どなく、雑穀ばかり食っていて苦しかった。

質問K：あなたの差別体験の中で特に忘れられない出来事を、お話し下さい。

⑯　貧困と差別の中で同胞同士が集落を構成していった

北海道 男 59 忠南 '42 ・いろいろあったが気にしない。外国なのだから、当たり前だと思わなければならない。自分の国の利害を優先し、多少の差別をするのはどの国でも同じである。韓国でも外人に対してそうするであろう。

北海道 男 56 全南 '40 ・始め船に乗る時は普通の客として乗り込んだが、船底に押込められ見張りを付けられた時に、祖国がなく人間としてみなされていないことを知り、また、下関の収容所に入った時、軍人や軍用犬の見張りを付けられて、日本にもっていた夢や希望もうち崩され、屈辱感を抱いた。その後は皆さんと同じだと思うが、言葉に言い表せない。

北海道 男 69 慶南 '31 ・道でウリナラのお祖母さんが警察官に道を聞いているところを見た、その時警官がお祖母さんを馬鹿にして道も教えず、追払う様子で背を押していたが、その時受けたショックが今日までも思い出される。

北海道 男 65 済州 '34 ・自分がなにもしていないのに「朝鮮人」と言われた。職場でも他人のミスまで自分がしたように言われたり、なにかにつけて言われた。

福 島 男 65 慶南 '42 ・何ごとにつけても、日本人より暴力的制裁を受けたことである。

東 京 男 62 済州 '31 ・丁稚奉公の時、朝鮮人ということで大人から差別され、乱暴されることが多かった。

東　京 男 61 済州 '40 ・日本人の中にも親しい人が多かったが、希に口の聞き方が悪い日本人がいた。人を馬鹿にした言い方をする。比べてみると、大阪より東京の方がそういう人は少なかった。

東　京 男 73 済州 '22 ・大阪での仕事（森永キャラメル）を経て、閣の仕事の関係で青森へと移転した当初、韓国人ということでスパイ等の疑いをもたれたが、さして大袈裟なものでなく、時が経つにつれ大変気のおけない交流をもつに至った。然るに、特に忘れられないほどの差別体験はなく、自らの誠意を示すことによって、国籍の違いはあれど信頼しあえるものだと感じた。そして、逆に青森での体験は私にとって生涯忘れられないものとなっている。

東　京 男 65 全北 '27 ・子供達が東京23区の野球大会で準優勝したときに、町会長にカンパを頼んだところ「朝鮮人の子供が入っているところにそんなもの出せるか」と言われたことが一番印象深く覚えている。

東　京 男 62 全北 '52 ・砂糖の配給がなかった。配給も日本人のが多く、同じ会社でも給料が日本人のが50％も多かった。

東　京 男 64 済州 '32 ・直接された事はないと思う。普通の人から特に感じなかったが、官庁などへ行った時はやはり日本人と比べて大分違った扱いをされた。

東　京 男 53 済州 '42 ・神社参拝を強制的に行わされていたが、自分自身のことについて考えたことはなかった。21、22年頃、朝鮮人帰れなどと言われ、喧嘩をしたことがあった。その頃に外登ができた。

東　京 男 64 慶南 '39 ・失敗などをした時に「この朝鮮人」と呼ばれたりしたことぐらい。

東　京 男 62 慶南 '42 ・「朝鮮人、朝鮮人」と指されたこと。

東　京 男 66 済州 '36 ・同じ腕で、同じ仕事をしていたのに日本人と給料の差が激しかった。帰国用の証明を警察にもらいにいったら、2階に呼びつけられて、4人に殴る、蹴るの暴行を加えられた。

東　京 女 58 済州 '41 ・警察の人達に蹴っ飛ばされたり、銀行へ行っても、役所へ行っても、「朝鮮人」というレッテルを貼られ、日本人とよく喧嘩をした。

東　京 女 63 全北 '38 ・日本名でアルバイトをしていた夫が、同僚に知られ、韓国人だから殺すと追いかけられた。

東　京 男 56 慶北 '40 ・日本名で戦争中、部屋を借りていたが、朝鮮人だとわかった時、いろいろないやがらせをされて部屋を出て行かざるをえなくなった。

東　京 男 70 慶南 '31 ・朝鮮人として、不当な理由をつけられ警察に拘置された。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・朝鮮人という事で悪口、陰口を言われた。現場監督が朝鮮人なのに、自分が日本語がわかるから、日本語で朝鮮人の悪口を言っている。朝鮮人は牛だとか豚だとか……。それを日本人の監督が教えてくれた。土方をしている時、氷の上で働く事があったが、絶対に靴を履かせてくれない。（日本人監督が絶対履かせてくれなかった）これが一番、印象に残っている。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・土木で人を使っていたので（日本人を雇っていた）、あまり差別を受けた事はない。

千　葉 男 64 慶南 '39 ・よるとさわると悪口を言われ、配給は僅かしか分けてもらえなかった。芋でも炭でも、悪いものしかもらえなかった（朝鮮人は何でも食うからいいじゃないかというぐらいなもの）。

千　葉 男 64 全南 '42 ・半島人と言われたことが一番腹がたった。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・言葉から、仕事から、食べ物から、全てのことが日本人の馬鹿にする内容になった。一つや二つじゃない。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・日本人の家で、にんにくも食べていないのに、日本人に朝鮮人は「くさい」と言われた。

千　葉 男 61 慶南 '41 ・朝鮮人、半島人だと言われ、馬鹿にされた。言葉がちょっとでも訛っていると、すぐさま半島人と言われたので今でも日本人は嫌いだ。忘れることは出来ないな。

千　葉 女 64 全南 '44 ・「朝鮮人」と言われ、差別されたのが悔しい。朝鮮をさげすんだ言い方が悔しかった。

千　葉 男 65 慶南 '40 ・交通事故の時、対応などが悪かった。

千　葉 男 63 慶南 '37 ・土方の飯場で、日本人の妻と結婚している同胞がいたが、彼らが率先して差別していた事。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・特になし。殆ど同胞の中で生きたので、外部との接触がなかったので、差別される環境でなかった。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・遊技業を始めるにあたって、融資申込の時点で差別された。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・朝鮮人である事で、言葉尻をつかまえられ、馬鹿にされたり何事もないのに白眼視された。

西東京 男 66 全南 '35 ・無理矢理日本人にしておいて「朝鮮人、朝鮮人」と呼ばれた。現在もあるのでは？

西東京 女 75 慶南 '28 ・学校等で朝鮮人と言われたが、他は記憶にない。

西東京 男 69 慶北 '28 ・韓国人というだけで「朝鮮人、朝鮮人」といじめられた。食べ物の事でも「人間の食べる物じゃない」など、色々な事を言われた。とにかくすごく辛かった。韓国人だとわかると仕事もなかったので、かくして仕事についた。いざ仕事についても、危険な仕事と言えば、韓国人にしかさせなかった。まともに人間扱いされなかった。豚や牛などと同じ様に扱われたのが、忘れられない。

西東京 男 63 忠南 '40 ・話かけてももらえず、「朝鮮人、朝鮮人」とからかわれた。仕事も結局、日雇の土方しかなかった。

西東京 女 68 慶南 '34 ・三度目の移転先は、韓国人が少なく、何かというと目立った。子供もよくいじめられた。

西東京 男 65 慶南 '41 ・仕事場で何かあるとすぐ疑われた。しかし自分はしていないので闘った。その後はいつも皆に殴られた。

西東京 男 66 忠北 '37 ・子供が石をぶつけられた。自分達は韓国人を隠していた。隠さないと仕事ができなかった。

西東京 女 68 忠北 '42 ・子供は石をぶつけられた。又、殴られた。歌で「朝鮮人は可哀相、なぜなぜ可哀相……」ひどく扱われた。会社でも悪口を言われた。

西東京 女 59 慶南 '39 ・話し相手にもなってくれなかったし、誰かが（日本人）悪い事でもしたら、皆な朝鮮人のせいになってブッとばされて、弟も毎日鼻血を出して帰って来たものです。それで私は学校に意見しに行ったものです。

西東京 男 60 全北 '38 ・仕事をいくら一生懸命やっても1度も誉めてもらえた事がなかった。他の日本人は大なり小なりほめてもらっていたのに……、すごく淋しかった。

西東京 女 61 慶北 '41 ・戦争の為、家を壊され、家を借りようとしたが、なかなか貸してもらえなかった。

西東京 男 62 慶南 '39 ・戦争の為、家を壊され、田舎に家を借りに行ったけれど、朝鮮人ということで家を貸してくれなかったことで、憤りを感じる。

西東京 男 57 全南 '39 ・細かい事を言えばきりがないけど、とにかく仕事がなくて辛い思いをした。

西東京 男 72 忠南 '40 ・会社ではなかったが、子供が家の近所や学校でいじめられた。

西東京 男 62 済州 '43 ・仕事も決まったものしかなかったし、どんなに努力しても賃金も上がらなかった。

西東京 女 56 全南 '27 ・日本の人よりも重労働をしたにもかかわらず、給料の額が大分違った。

愛　知（不明） ・非常に差別が多かった。日本人は本当に韓国人を馬鹿にしていた（警察官から個人に至るまで）。本当に悔しかった。

愛　知 女 67 慶南 '24 ・子供達が学校で、天皇誕生日に配給されるアンコ入りのオモチを二つずつ皆に配られるが、先生に「おまえはやらない」と言われたなどした。当時食料が少ないおりにアンコは貴重なものであった。

愛　知 男 58 慶南 '40 ・プールの番をしていた人に指を4本出して「おまえはこれだろ」と言われた。その時は意味がわからなかった。

愛　知 男 60 慶北 '43 ・家を借りる時は不自由だった。下請けの仕事を受け、現場へ行ったところ韓国人ということで中に入れてもらえなかった。信用を得るため、日本人は暖をとるため、色々なものを取ってきたが、我々は何もせず耐えていた。

愛　知 女 62 慶北 '40 ・学校で子供達が、日本人の子供達から「朝鮮人」と言ってはいじめられていた。そのことが一番悲しく、悔しかった。

愛　知 男 73　　'28 ・どうして日本人と同じに税金を払っているのに、国民年金が年寄りには貰えないのだ。

愛　知 男 60 全南 '42 ・終戦後、靴磨きの日本人に「朝鮮人早く国へ帰れ」と言われ、ハンマーでその人の頭を殴ってしまった。警察につかまり、警察で「敗戦国民が解放国民に対して、朝鮮人云々とは」と反発したが、拘留された。

愛　知 男 67 慶南 '28 ・賃金格差。日本人の嫌がる仕事をやらされた事。

愛　知 男 76 慶北 '24 ・仕事中、刑事が来て無理矢理警察に連れて行かれた。いきなり黒板に「天皇のバカ」と書けと言われた。何が何だか理由も分からず戸惑ったが、あまりしつこいので3回も書いてやった。殺されると思った。牢に入れられたが、昼過ぎに帰され、後で聞いたところによると、公衆の場に落書きがあったらしく、その字を見るためだったとの事。警

察には、同じ様に数名の同胞がいた。私は日本人のきたなさをイヤというほど思い知った。

愛 知 男 74 忠南 '26 ・万引や泥棒その他、悪いことがあると大衆で朝鮮人がやったといって皆でいじめられた。また、工場で働いていたときも言葉が分からないし、やり方も教えてくれなかった。

愛 知 男 82 全南 '23 ・娘が就職で落とされ、合否の通知もなかったことが悔しかった。

愛 知 男 61 慶南 '23 ・差別は勿論あったが、仕事に対しての差別が一番つらかった。土建の仕事をしていたので、いろんな妨害があり、現場が完成できないように仕向けてきた。

愛 知 75 慶北 '30 ・ある工場で夜仕事をしているときに親方から呼び出され、ある場所まで来いと言われました。しかし、私は釜を扱う仕事だったので、「手が離せません」と断ると、親方は「なに！朝鮮人のくせに」と言って、どなられたり、いじめたりしたことが悔しかった。

愛 知 男 82 慶北 '16 ・私が日本に来たのが大分昔のことで、当時は朝鮮人も珍しくいじめられたり、差別されたりすることはなく、逆に可愛がられたことの方が多かった。

愛 知 男 58 慶北 '39 ・群馬県で遊技業を経営している時に、客に「朝鮮人出て来い!!」と言われた時、これほど屈辱を感じたことはなかった。又、学校で体育の時間など集合するのに遅れたりすると、同じ遅れた日本人の子より二、三発余分に殴られたりした事など、全ての差別体験が忘れられない。

愛 知 男 71 慶南 '29 ・私は昔、日本人として扱われていた頃に町会議員をしていたことがあるので、町の中では差別されるよりも信頼が厚かった方である。また苦労した時でも投げ出さずにいたので、余計に信頼が厚かった。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・文盲でないとして、特高警察の取り調べを多く受けた。

愛 知 女 60 京畿 ・疎開先の田舎の土手沿いで、同じ朝鮮人の友達とヨモギを採っていると、若い連中が「朝鮮人があそこで葉っぱを採っとる！」とか「朝鮮人は雑草を食べるのか」と言われた。

愛 知 男 62 全南 '41 ・遊びに街へ出かけて行って、雑踏の中で軍の上級将校にぶつかると、「朝鮮人！」と言われ殴られた。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・学校の同級生と３人で、土方の飯場などで働いていた当時、仕事の帰り、夕食まで街を散歩していた。すると、小さな子供がこちらへ二人歩いて来るので、頭を撫でてやった。すると、その子は「朝鮮人さわるな！」と怒鳴って逃げて行った。あの時のつらさや悲しさは忘れられない思い出だ。

愛 知 男 60 平北 '44 ・人並の差別体験は受けたが、特に忘れられない出来事といっても別にない。まあ、家を変わる時に不動産屋に韓国人だという事で断られた事ぐらいかな。

愛 知 男 71 慶南 '37 ・口では苦しいことが表現できなかった。

愛 知 男 66 慶南 '40 ・仕事場へ行ってもすぐ差別されるし、警察官からも差別された。きつい仕事をしなくては食べていけないし、土方で働きにいっても親方が

逃げていったりして金銭的に非常に困った。

愛　知 男 72 忠南 '27 ・当時住んでいた近所に馬車引き連中がたくさん住んでいたが、自分が儲かっているのをよくは思わず「朝鮮人が！」と軽蔑してよく大きな喧嘩をした。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・差別というものではなかった。その中でも日本人と韓国人を比較すると日本人はきれいで楽な仕事、韓国人はえらくて一番汚く、給料も安い。いくら自分が努力しても何ともならなかったのが辛かった。

愛　知 男 73 慶北 '28 ・川口市にいる頃、鋳物工場へ働きに行き、そのうちポストがあがり、当時土方が1円そこそこの給料だったのに自分は 120円ぐらい貰うようになっていた。そこで「朝鮮人で 120円ももらうのはおかしい」と警察に捕まり、ベルトで背中を2回殴られた。その内工場の社長が来て、疑いが晴れた。その他には殆ど差別を受けたことがない。

愛　知 男 75 慶南 '27 ・自分の職場は韓国人が多かったし、日本人も特に差別はなかった。

愛　知 女 61 慶北 '40 ・風呂屋へ子供を連れていくと子供達に水をかけていじめたりする人がいて、その人と大喧嘩をしたことがある。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・子供が学校で「朝鮮人」だと苛められた。「朝鮮人と書いて行け」と苛められた。自身は嫌われる事は無かったが、全体的に朝鮮人を馬鹿にした。

富　山 男 64 慶北 '33 ・地方銀行に融資の申込みをした時に韓国人（外国人）には融資しないと断られた事。言葉に表現しないけれど、今でも中年以上の多くの日本人は差別意識を絶対もっている。無意識のうちに優越感を感じているらしい。

富　山 男 65 慶南 '37 ・一般の人々からは、余り差別を受けた事はないが、警察関係からは差別的言動をされた事がある程度である。

富　山 男 53 慶北 '43 ・大学生の頃、アルバイト先を探していた時に、本名で申込みに行くと、なかなか採用してくれず、仕方なく日本名を使ってアルバイトにありつくことが出来たことがある。

富　山 男 70 慶南 '32 ・岐阜県の山の中にいる時、炭の搬出の時、町に降りてくると、村の人達に朝鮮人と苛められた。

富　山 女 80 慶北 '30 ・戦前は特に差別された事はなく、戦後、子供達が学校へ行くようになりますと、時々あったように聞いています。唯、地域的な行事とか祭り事には町内で少しありました。気にしなければ特にどうという程の事では無かった。子供の就職の時は大変でした。日本人も就職難だったので、どうなることかと思いましたが、私にはどうすることもできず、言葉も充分でなく、縁故もなく、唯、息子が可哀相だった。

大　阪 男 57 慶北 '43 ・職さがしの時、本籍地が明らかになると仕事を辞めさせられた。

大　阪 男 76 済州 '26 ・仕事熱心で表面上には差別はなかったように思う。仕事口は沢山有った。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・長崎造船所で組長をしているとき、捕虜をかばおうとして20人くらいの日本人にかこまれ、チョウセンやからと批判をされたこと。

大　阪 女 73 済州 '33 ・朝鮮人を日本人が珍しがられ、口でどうのこうのと言うよりも、そういった感情を表した目で見られるのが恥ずかしいように思った。

大　阪 女 70 慶北 '33 ・別に差別はなかった。私の住んでいる町は殆ど同じ国の人でしたので、言葉にしても、生活面でも差別は別に感じなかった。

大　阪 男 71 慶南 '31 ・大人や子供までが朝鮮人とさげすんだ。半島人とも呼ばれた。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・差別はあるにはあった。「朝鮮人」と呼ばれて馬鹿にされたのは悔しかった。そうゆう差別は実際にあった。

大　阪 男 62 済州 '43 ・終戦直後の大阪は韓国人の天下であった。だからその時分は差別はなかった。しかし、終戦直後三、四年には日本人が多く帰って来て住む場所について差別があった。働きたい仕事がなく、闇市などよくした。元々土地などを持っていた日本人と何もない韓国人との間に当然差が出来、差別につながっていた。

大　阪 男 69 慶北 '34 ・差別体験はない。

大　阪 男 55 慶南 '44 ・仕事上での給与待遇に差がついていた。

大　阪 女 76 慶南 '33 ・日本の子供達が「朝鮮人」と馬鹿にしていた。腹が立っても仕方ないと思うしかなかった。

大　阪 男 70 済州 '27 ・大阪から東京に上がっていって、家をなかなか貸してくれなかった。日本人になりすましていましたので、やっと家が借りられるようになった。だけど引っ越しの日、家主が家に来て韓国人とばれたために家を貸さないと断られた。だけど話し合いの結果、住めるようになった。（昭和８年頃）

大　阪 男 69 済州 '34 ・戦争当時、協和会から強制的に女性は着物を身に付けるようにした。逆らったら服にインクをかけられたりした。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・ひどい差別はなかった。言葉で言われる程度で。

大　阪 女 62 慶北 '40 ・韓国人と知らないときは普通だったのに、韓国人と分かったとたん知らん顔されたり、又挨拶しても急に冷たくする。今でも仕事の為、市場へいったときでも、タコ焼の仕入れにいったら冷たくされるし、仕事が出来ないときでも、出来ないんだったら韓国に帰ったらいいというような口調である。

大　阪 男 61 慶南 '41 ・富山へ行った時、ダムを作る工事で、村の人達（少し偉い人）が朝鮮人はどんな顔しているのかと見に来た時。

大　阪 男 63 全南 '37 ・軍ではあるが、民間で住んでいる時は、別にさほどではなかった。

大　阪 男 67 全南 '38 ・日本語が良く出来ない事を馬鹿にされた。学問がない為。

大　阪 女 57 慶南 '40 ・布団の打ちかけの時の記憶しかない。顔色で感じるが、面と向かって言われたことはない。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・差別はなかった。日本人より、朝鮮人同士の方がつぶし合いが多い。日本人の方が人間ができている。

大　阪 男 59 慶南 ・軍隊ではなかった。別に受けなかった。

大　阪 男 63 慶南 ・熊本にいるときは、やはりある程度の差別はあったが、最後には自分の力で無くした。

大 阪 女 61 慶北　　・言葉があまり通じなかったので、悪いことは皆こちらのしたことにされた。子供らが学校に行ってからは、子供らが「チョーセン」と馬鹿にされた。成績でも対等に扱ってもらえなかった。北海道へ行ってからは、あまり差別されなくなった。

大 阪 男 60 全南　　・学校で先生に質問された時、当時韓国訛りがあったため、周りの日本人の子供が笑った。

大 阪 男 69 済州　　・「チョーセン」「チョーセン」と言われたこと。

大 阪 女 60 済州　　・言葉が分からないので困難であった。しかし、一部（近所）の日本人は言葉が分からないといって親切にされたこともあった。

大 阪 女 72 慶北　　・子供らが学校で、韓国人と馬鹿にされたので学校に行って、どうしてそんな差別するのかと怒鳴りこんだ。

兵 庫 男 66 慶南 '33 ・皆が皆悪い人ではなかったが、「朝鮮人だから」と言って馬鹿にされ殴り合いをした。その人の名前は忘れもしない。

兵 庫 女 68 済州 '40 ・ああ、それはようあったな。自分のひがみかも知れへんが、仕事場でも「朝鮮の人や、朝鮮の人や」って口で言われた。学校なんかでも、子供なんかは、「朝鮮学校に行ったらいいのに〜」とかよく言われたらしい。引っ越しするたびにいろいろ近所の人に言われた。

兵 庫 男 65 慶南 '35 ・ひどい差別も受けたが、その反対にとても親切にしてもらったこともあるので、あまり言いたくない。

兵 庫 女 71 慶北 '34 ・今でも親切にしてくれる（昔、知り合った人に）。日本人が「あなたどこの人？」と声をかけてきて、韓国人ですといったらどこに住んでいたのと言ったので「ソウルです」と言った。そうしたら外国人やねと言った。別に大した差別の体験はない。

兵 庫 男 59 慶南 '39 ・朝鮮人は帰れとしょっちゅう言われただけだ。

兵 庫 女 59 済州 '36 ・馬鹿にされた事もあるし、真っ直ぐに帰れなかった。軒下を通って帰った。チョゴリを来て歩いている時に、警官にチョゴリのひもも引きちぎられた事がある。

兵 庫 男 60 慶南 '41 ・差別は言い切れないほどあった。殆どがつらい立場であった。何をしようとしても「韓国人」という事で通らない事ばかりであった。

兵 庫 男 63 済州 '40 ・差別体験は「朝鮮、朝鮮」と言われたくらい。

兵 庫 女 55 慶南 '43 ・物を買う場合、日本人とは多少の差をつけられたような事もあった。

兵 庫 女 72 慶北 '24 ・近所の人はよかったけど、日本人が悪い事をした時は、何にも言わないが、朝鮮人が少しでも悪い事したら「朝鮮人が悪い、朝鮮人が悪い」とすぐ言われた。

兵 庫 男 67 慶北 '33 ・日本に来て初めて日本人と喧嘩した時、私は何も悪くなかったのに、警察に連れて行かれ、警官に殴る蹴るの暴行を受けた。ただ、朝鮮人というだけで、訳も聞かずに話そうとしても頭ごなしに「お前は朝鮮や」「朝鮮人のくせに」と侮辱された。あの時の屈辱感は死ぬまで忘れられない。

兵 庫 男 67 慶北 '36 ・「あなた」というのが同等の立場での相手の呼び方だったが、韓国人

だとわかると「あなた」から「きみ」という一段下がった呼び名に変わった。言葉での差別があった。陰口で噂された事はあっても、面と向かってされた事は私にはなかった。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・日本人を連れて仕事をしている時に、周りの人から「朝鮮人のくせに日本人を使って仕事をしている」と言われ、すごく悔しかった。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・子供の喧嘩の為に親が頭を下げるだけだった。近所の人とは折り合いが悪かった。「朝鮮、朝鮮」と言って、馬鹿にされた。いい人もいた。

兵　庫 女 65 済州 '28 ・市場で車の前に立っていると、服に墨等をかけられた。鉄の棒でしばかれた。チョゴリではなく、着物を着ろと強制された。神社参拝を強制された。いやだと一言でも言うと連れて行かれた。日本人は家を貸してくれなかった。

兵　庫 男 65 慶北 '34 ・表だって何も言わない。全てに対して差別だったと思う。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・朝鮮人だと言われた。そして何かわからないけど、日本人の人と何かが違っていたような気がする。

兵　庫 女 58 慶南 '44 ・当時、韓国人は白い服を着ていたけれども、それを日本人が禁止し、鉄砲に黒インクを入れてかけられた。それから、服を黒く染めて着るようになった。みんなが「朝鮮人」と馬鹿にした。チョゴリを着ていたら、長いリボンを日本人がハサミで切った。それから、日本の服しか着ないようになった。喋ると韓国人だと分かるので、喋れなかった。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・差別どころじゃなくて、奴隷みたいだった。「半島人」は人間のうちに入らなかった。ちょっと何かしたら、「半島人」とか「このバカ」とか、もう話にならなかった。「このバカ、半島人のくせに何ゆうとんね」という調子で。

兵　庫 男 63 忠南 '42 ・「朝鮮人」とか色々言われたけど、別に気にしなかった。東北の方にもいたけど、その日本人は別に朝鮮人でも、アメリカ人でも関係ないみたいだった。

兵　庫 女 59 慶北 '39 ・子供が女子学校に入りたいと言ったが、入れてくれなかった。朝鮮人はすぐ喧嘩するということで。でも入れた。民族差別はいけないということで闘った。悪いことがあったら朝鮮人だと言っている。住友とも直接取引できなかった。日本航空、全日空などでは国籍で入れなかった。（娘のこと）

兵　庫 男 60 慶南 '38 ・戦後はあったけど、戦前は差別されるどころか良くしてくれた。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・戦時中、配給もろくに貰えなかった。ある日、ナムルにする草を取りに行く途中、白い服を着て近所の人と歩いていると、何人かの日本人が朝鮮、朝鮮と言って、服に墨をかけ、馬鹿にしたり、石を投げたりされた。あの時、石が当たる痛さよりも悔しい、情ない気持ちで涙が出そうになり、それを我慢するのがやっとだった。あの時の悔しさは、死んでも忘れられない。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・私は差別をされたというのは覚えていないが、子供が差別をされたようだった。

兵　庫 男 69 慶南 '30	・外国人であるという理由で差別されていた。就職の面などで差別もされた。
兵　庫 男 63 全南 '32	・韓国人というだけで差別をされていた。
兵　庫 男 62 慶北 '41	・私がカン拾いをしていたら「許可がなかったらそんなことしたらあかんのや」と言ってきた。許可を取る時は、無茶苦茶、品物を取られた。中員の（ママ）日本人は無茶苦茶、無条件で品物を取っていった
兵　庫 女 72 　　 '26	・根性の悪い奴は一言一言に差別的な言葉が含まれていて、大変イヤであった。
滋　賀 女 78 全北 '20	・朝鮮は臭いなどと言われ、石を投げつけられ、子供達にさえさげすまされた。自分の子供がいじめられるのが一番つらかった。何かというと、あいつは朝鮮だからあいつが悪いと言われた。
広　島（不明）	・頭にうかぶのは、炭坑にいた時、人間扱いされなかった。という事、一つ一つ思いかえすには、余りに多くのことがありすぎたと、そう思う。
広　島（不明）	・子供がよく学校でいじめられた。主人がすぐ先生の所にいって、朝鮮人がにんにく臭いのは当たりまえじゃけ。そんなんで差別するないうて先生に言うた。
広　島（不明）	・当たり前に食事もくれない。働いても当たり前の賃金をくれない。
広　島（不明）	・引越の度に警察が来て、私が「北」かどうか聞いてきた。白いものを着ていると、黒いのを着ろと言われた。
岡　山 男 57 慶北 '43	・ハンセン氏病で国立療養所に入所させられ、日本人僚友は、政府から多くの金をもらい、韓国人は殆どなかった。そのため、不自由な体で無理しながら、畑や漁に出ねばならなかったこと。
岡　山 男 65 全南 '34	・よく日本人が、私に向かって言った言葉で「日本でいっぱい儲けて韓国に持って帰るから、日本が良くならない」と陰険な冗談を言うが、これが一番頭にくる。
岡　山 男 78 慶北 '34	・子供が学校卒業時、チョーセンは会社に入れないとか、さんざん就職差別を受けた。
京　都 女 79 済州 '22	・朝鮮人はよく帰れと言われた屈辱が忘れられない。
鳥　取（不明）	・カラフトで働いているとき、我々同胞はいつも危険な仕事につかされた。事故が多く、多くの同胞が死んだ。その遺体遺骨が本国の家族のもとへ送られないことが多かった。
鳥　取 男 66 慶南 '29	・当時、金品が無くなると、韓国人という理由で盗人扱いされ、無実をはらすためよく喧嘩した。
鳥　取 男 63 慶南 '41	・古物商の商いで堀込へ行った帰り、四、五人と道路端で休んでいる時、軍人に捕まりベルトで殴られ、3日間寝込んだ。
山　口 女 59 慶南 '42	・私達同胞の仕事は、危険で賃金の安いとこしかなかった。日本人は安全でそのくせ私達をいつも馬鹿にしていた。能力はあってもそんな仕事しかない同胞がかわいそうだった。
山　口 男 68 慶北 '31	・仕事をしてから差別を受けたことはないな、私の場合。

山　口 男 70 慶南 '31 ・私達人夫は、人間ではなかった。風呂にも入らなかった。いつも真黒に汚れて、服もボロボロで、そんな姿で道路に穴を掘っていたら学生がよけて通って行った。これは日本人だけでなく、同胞で人夫の親方をしている所は娘を学校にやっていたが、彼女等もよけて通っていった。

山　口 男 66 慶北 '41 ・島根の田舎にいたが、子供が学校に行ったら、いじめられて学校をやめた。学校に来るなと言われた。何年間か学校に通うことを禁止された時があった。食料の買い出しに行っても朝鮮人には売らないと断られた。朝鮮人を殺すという流言が流れた。実際殺された者もいる。

山　口 男 66 慶南 '31 ・炭坑から出られなかった。働いた金をちゃんと払ってくれなかった。（これは日本人も同じだった）

山　口 男 61 忠北 '30 ・当時、何事においても「この朝鮮人」と言われて悔しかった。

山　口 男 64 全南 '33 ・「朝鮮人」、「朝鮮」と言われ怒りを感じた。悔しかった。日本人の中でも皆ではなく、根性の悪い中途半端な日本人が、ただ意味もなく口走っていた。

山　口 男 59 慶北 '24 ・何か事件が起きると必ずといっていいほど朝鮮人がやったと言われ、いくら言い訳しても朝鮮人だからという理由で殴られ、蹴られ無理に"白状"させられた。

山　口 女 68 全北 '34 ・"下関"に移転した後、自分の子供達が周りの日本人からやじられたり、仕事の出先で韓国人だからどこの家も泊めてくれず、小屋の中とか橋の下などで寝た。

山　口 男 68 忠北 '40 ・仕事でいい監督にあたったら、優しくしてくれるし、悪い人やったら、「アホッタレ」、「クソッタレ」言うし、しょうがない。

山　口 女 54 慶南 '42 ・日本人に比べ、同胞はいつも職がなかった。

山　口 男 78 慶北 '27 ・韓国人というだけで、お米を買いに行っても同じお金で悪いものを出したり、馬鹿にされたりした。韓国人だから、無理矢理、勤労奉仕させられた事が今も忘れられない。

山　口 女 59 全南 '39 ・日本に来た時、日本人に家を借りていたが、夜になると毎日のように「出ていってくれ」と言われ、ひどい時は「おまえは朝鮮人だからおまえの居る所ではない。何を大きなことを言うか!!」とせめられ、家の中の荷物を全部前の道路に投げ捨てられて、お腹の中には子供がいるし、よそへ行くあてもなく、ただ泣くばかりだった。そんな所へ、その部落の班長さんがやってきて、「いくら韓国の人でも人間は変わりなし。奥さんも日本に来たばかりで言葉も何もわからないし、苦しめちゃいけない」と言って助けてくれた事を忘れられない。

山　口 男 59 済州 '40 ・言葉を奪われ、「この朝鮮人」と言われたことが今だに忘れられない。

山　口 男 60 忠南 '44 ・終戦直後、町で喧嘩をして警察署に連行され、取り調べの刑事から「朝鮮人は朝鮮に帰れ」と言われ「誰が日本に徴用で強制的に連行して来たのか」と反抗して、その刑事を殴って、1年の実刑判決を受けた。

山　口 男 60 全南 '41 ・警察問題で連行されると、取り調べは人間扱いでなく、口で言われない位ひどいもので、心の中で母国に帰って死のうと思った。

山　口 男 55 慶北 '43 ・昭和21、22年頃強盗があり、私は旅館に宿泊していたが、すぐに警察に引っ張られて容疑をかけられた。留置場で三、四日泊めさせられた。後に真犯人が逮捕され、解放され、とても悔しい思いをした。他には朝鮮と言われたことがたまにあった。

香　川 男 60 慶北 '36 ・九州に居た頃（14才の時）近くの学校の先生の子供から、朝鮮人と指されたことが腹がたった思いがした。昭和18年、19年、軍事空港拡張建設（徳島の時）現場で差別された。重労働、人のいやがる仕事、危険な仕事等々に当時は仕方のないことだと思って、とにかく生き伸びることだけ考えて、夢中になって仕事をした。今になって考えると良く出来たと思う。しかし、今さら当時のことを詳しく話す気分にはなれません。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・渡日当時、日本語が全く出来なかったので朝鮮人と言われ、仕事面で最低賃金で一番苦しい仕事をやらされた。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・警察が蔑視した。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・セメント工場でドロを運び出したり、石を運びこんだりしていたが、日本人は自分たちに命令ばかりし、韓国人ばかりに仕事をさせていた。自分よりも年が若い日本人から、いつも馬鹿にされていた。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・言葉での差別、日本人と韓国人の賃金差は当たり前であった。韓国人は人間扱いしてなかった。

福　岡 女 57 巨済 '44 ・空襲がひどくて、母、長男と満州に渡った。終戦の時は奥さんは満州にいた。北の思想がはびこっていて、避難してきた。財産を全部置いてきた。汽車の線路を全部きっていて、10日間も歩いて避難していった。避難する時、38度がつかえなくて遠回りして帰った。朝鮮人と言われた。天仁から韓国に帰国船が来ていて仁川に行った。２週間隔離された。天然痘が発生すれば、１週間位延ばされた。子供が危ないので子供を連れて釜山に逃げて来た。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・奥さんが満州に行って、日本には主人一人だけ、仁川で二週間収容、天然痘が発生したら１週間また延びる。子供を連れて逃げ出す、名古屋にいて帰国者の団体に入る。２年位で対立。軍事工場で技術系の仕事をしていた。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・炭坑で仕事中、危険な場所で多くの朝鮮人坑夫が死んでいった事。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・本国で白の洋服を着てると、水鉄砲に墨を入れてそれをかけられた。仕事をどれだけ上手にしても、日本人は軽作業、自分達は重作業、危険な仕事であった。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・特に日本人からの差別ということはなく、記憶ではよくしてもらった方が多かった。

福　岡 男 75 慶南 '25 ・徴用で志免鉱に 260人に欲しいと晋州市に手配が出た。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・「半島人」と言われたことが忘れられない。

福　岡 男 73 慶南 '26	・あまり差別をされた覚えがない。
福　岡 男 63 慶北 '39	・朝から夜までが差別だった。日本人の坑夫と同胞とは食事の量、仕事場の危険度すべてに差があった。日本人坑夫とも対立があったが、こちらが弱く出ず、強い立場と態度で対すれば、反対に同業者として助け合う事ができる様になった。
福　岡 男 72 慶北 '31	・田川の炭坑から移って、炭坑で韓国人と日本人がぐるになって、炭坑坑夫を引っ張ったということで殺すと言われ、縄できびって殴られた。親方（韓国人）50円位、自分達は15円位で親方達は手当を上げる為、韓国人達をこき使っていた。
福　岡 男 67 忠南 '42	・差別はあったが、仕事の上ではあまりなかった。
福　岡（不明）	・学校時代の差別がひどかった。言葉の差別、チョーセン。
福　岡（不明）	・工場で働いている時、日本のおかずが合わないので自分で朝鮮料理を持っていったら、日本人から便所の匂いより臭いと言われた。飯炊きのおばさんまで馬鹿にするので、朝鮮人同志で団結し集団脱走したが連れ戻され、意見を聞いてもらい、それから日本人の食卓と朝鮮人の食卓がなくなり、みんな一緒のテーブルになった。
福　岡（不明）	・言葉が分からないので殴られた。
福　岡（不明）	・日本人坑夫よりも食事が少なかった。
福　岡 男 72 慶北 '27	・炭坑に入って、日本人と同じ仕事をしても、金も違うし監督のあたりかたもちがった。朝鮮人と言うと人間扱いされなかった。

質問Ｌ：解放時の気持ちを具体的に話して下さい。また当時の同胞の状況についてもお話し下さい。

⑰ 八・一五解放！東京都内をデモ行進する同胞たちの姿（一九四五年八月二〇日）

北海道 男 59 忠南 '42 ・よかったと思った、戦争が終わって。解放後、韓国に帰る同胞達の乗った船に日本が魚雷を落として、一度に何百人も殺したが、全く新聞にも載らなかったことが何回かある。韓国へ帰ってから日本の秘密が洩れるのを恐れたために、そのようなことがあった。

北海道 男 56 全南 '40 ・自分の国があるんだという感激と、二度と無くしてはいけないと、そのとき目が覚めた。

北海道 男 69 慶南 '31 ・ウリナラが解放されるなど考えてもいなかったため、まさかという驚きでいっぱいだった。

東　京（不明）・とても苦しかった。食べ物も手に入らず、お昼頃になるとお腹が空いた事さえわからなくなり、1週間全然食べられなかった事もあった。子供も頭の中にでき物ができたり、栄養失調になってしまった。

東　京 男 62 済州 '31 ・やっと日本人から解放されたという気持ちでいっぱいである。

東　京 男 61 済州 '40 ・国を失い、日本にいても大変不自由な生活から解放されて嬉しかった。

東　京 男 69 京畿 '34 ・同胞たちがあちらこちらで団体等をつくった。共に生きようとした。解放により自由が与えられたので、皆の集まりができた。祖国が日帝の支配下を抜け、独立したことが嬉しかった。

東　京 男 73 済州 '22 ・青森での生活が安定していたこともあり、解放されたことで大きな変化もなく、大して感じるものはなかった。親しい人の中には、本国へ帰る者もいた。

東　京 男 65 全北 '27 ・着るものも何もなかったが、見ず知らずの同胞と出会うたびに酒を酌み交わし、解放を喜びあった。

東　京 男 62 全北 '52 ・何も感じなかった。日本の教育を受けた為、意識が薄れていた。帰国も、遊んでいたため船に乗り遅れてしまった。

東　京 男 64 済州 '32 ・これで本当に自分の国が戻って来たんだと思った。とても嬉しかった。

東　京 男 53 済州 '42 ・終戦は韓国で迎えた。悲しさ、嬉しさなど一つもなかった。ただ戦争が終わって、平和になったんだなあと思っただけだった。

東　京 男 55 済州 '45 ・当時、満15才で特に感じられるものはなかったが、本国へ帰るんだという意志しかなかった。

東　京 男 64 慶南 '39 ・嬉しく思った。皆で集まって、ドンチャン騒ぎをした。

東　京 男 66 済州 '36 ・自由になり、これで差別がなくなると思い嬉しく感じた。

東　京 女 58 済州 '41 ・軍事工場が閉鎖され、少しの間そこにいた。自由になったという嬉しさではしゃいで踊ったり、先輩達と解放を祝った。事務所の人達や社長などは逃げてしまって番犬だけが残った。明日からは、もう帰れると荷物などや帰る支度をした。国に帰る予定でいたが、兄が徴用で引っ張られており、兄さんが来るまで残って待っていた。帰るつもりでいたが、済州島で内乱事件があり、日本で暮らせと言われ、戻らなかった。

東　京 男 53 済州 '43 ・嬉しい。自分の国が独立したということは、大変な誇りだった。

東　京 女 56 済州 '42 ・言いようがない。強いて言えば、ほっとしたという気持ち。

東　京 女 63 全北 '38 ・主人がいつ学徒兵で連れて行かれるか心配していたが、それがなくなり、この晩から足を延ばして寝られる感じがした。

東　京 男 66 済州 '31 ・解放の時は東京に住んでいた。やっぱり感無量だった。生まれ変わった気持ちだった。

東　京 男 56 慶北 '40 ・これで解放された国を取り戻した、と思った。

東　京 女 68 慶北 '31 ・焼き出されてみじめだったが、終戦、解放を聞いてほっとした。生活はみじめだったが、余裕のある人達は母国へ続々と帰って行った。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・嬉しくて涙が出た。仕事場（現在は車の会社だが、当時は戦争の武器を作っていた）で知らされた。朝鮮建国促進同盟に加入。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・解放をラジオで聞いた。皆が、本国に帰ろうと大騒ぎしていた。他の人は皆帰ったが、自分は"伝道"の為に残った。教会の土地の所有権で争ったが、勝って教会を建てた（横浜打越教会）。

千　葉 男 64 慶南 '39 ・当時、すぐにはピンとこなかった。あんなに締めつけられていたものが、解放されるのかと思った。

千　葉 男 65 済州 '35 ・終戦前に負けると思っていたので、この時は三輪車に子供を乗せて、山へ逃げる覚悟だった。隣に大尉が住んでいたが、やけになっていた。同胞は喜んでいて、帰国する者も多かった。

千 葉 男 64 忠南 '42 ・周りの韓国人が、我を急いで本国に帰ろうとしていた。

千 葉 男 70 慶北 '36 ・ああ、終わってよかったなあと思った。周りの人も嬉しそうだった。

千 葉 男 66 慶北 '33 ・早く自分の国へ帰りたい。同胞も同じ気持ち。

千 葉 男 61 慶南 '41 ・解放当時は、友人たち60人位と一緒に迎え、もう感激した。みんなが、みんな大騒ぎでバンザイをした。もう何も言えないし、本当に嬉しかった。

千 葉 男 60 慶南 '36 ・喜んだというよりも、これから自分はどうしたらいいかを考えた。国に帰っても、自分は次男だから家を継ぐこともないから。他の人達は喜んでいたし、国に帰った人もたくさんいる。

千 葉 女 64 全南 '44 ・ほっとした。これからは、自由に生きて行けると言い合った。暮らす場所が戻ってきた。

千 葉 男 65 慶南 '40 ・帰国しようと思った。

茨 城 (不明) ・この時私は、丸通で働いて解放の事を知ったが、別段感激みたいなものはなかったようだ。ただ生活の事が一杯で仕方がなかった。

茨 城 男 53 忠南 '44 ・嬉しかった。空襲がなく、死ぬ心配がなくなった。これから街へ出られるという嬉しさがあった。経済的展望も開かれるという感じがした。情報も少なかったので、同胞の状況についてはあまりわからない飯場生活だった。

茨 城 男 66 慶北 '39 ・私は当時、日本に居たが「解放」という二文字を聞いたときは、思わず手をたたき、跳んで走りました。その時の感激は一生忘れる事はないでしょう。同胞の状況も、同じ体験だったでしょう。

茨 城 男 57 慶南 '41 ・解放は時代の流れで当然だと思った。日本が負けてよかったと思った。日本政府に対する憎しみがあったので、本当に嬉しかった。祖国の独立の日を迎えて感激した。日本の権力機構が解体していくだろうと思った。

茨 城 男 51 慶南 '45 ・植民地生活からやっと解放されたという気持ちと、嬉しさのあまり小躍りしたい様な気持ちだった。喜び呼んで酒を酌み交わす者もあれば、徴用・徴兵に借り出され、戦争のもくずとなってしまった青年達の親は悔しさのあまり泣き崩れたり、多種多様の光景を眼にした。

茨 城 男 69 慶南 '32 ・茨城県にて解放を迎える。嬉しく感激した。模範徴用として、何度も表彰を受けてきたが、解放により徴用が終わるという事で嬉しくて仕方がなかった。

西東京 女 66 慶南 '29 ・厚木の方に仕事に出た時に聞いたが、心の中で嬉しかった。話を聞き泣いている人もいた。

西東京 女 72 慶北 '28 ・とにかく嬉しかった。終戦に対して喜んだが、解放についてはなにも感じなかった。

西東京 女 66 慶南 '36 ・日本が負けたから、アメリカ人にいじめられるのかとも思った。

西東京 女 74 慶南 '32 ・死ぬかと思った。

西東京 女 59 慶南 '37 ・生活に追われ食べることだけで、その他の事に対して思う余裕はなかった。

西東京 女 59 慶北 '40 ・日本が負けたから、韓国が負けたからという特別な感情は湧かなかった。死んだも同然というような混乱した状態だった。同胞に関しては、喜んでいる人もたくさんいた。

西東京 男 64 慶北 '42 ・日本が戦争に負けたのが嬉しかった。仲間（同胞）達と一緒に飯場に入って生活していた。お金も無かったし、こっちで結婚もしていたので、身動きが出来なくなってしまった。それと本国へ帰る時は、1000円だけしか持っていってはいけないと言われたので、それではとても生活が出来ないと思った。

西東京 男 69 慶北 '28 ・日本が負け、自分達が解放されたと思ったら、嬉しかった。周囲の同胞達も喜んで騒いでいた。大変だった。

西東京 男 63 忠南 '40 ・気持ちというより、アメリカ人に殺されるのではないかとか、アメリカの虐待が怖くてその事しか頭に浮かんで来ず、解放の事はあまり感じなくて、同胞の人達も夜逃げしたりする状態だった。

西東京 女 70 慶北 '31 ・特に感じなかった。とにかく生活に追われて、周囲の状況なども特別記憶にない。

西東京 女 68 慶南 '34 ・何を言ってよいかわからないくらい、嬉しかった。

西東京 女 78 忠南 '30 ・近くのある人は、家を売り、船を買い、帰っていった人もいる。自分も近所の人と一緒に帰国する予定で約束をしたが、その時までに家を売ることが出来ず、自分達だけが残ってしまった。その後、売ったが、その時帰国した人が経済的に問題があり、また日本に来たという話を聞き、ハングで住むことが不安になり、そのまま残ってしまった。

西東京 男 65 慶南 '41 ・早く国に帰りたかった。

西東京 女 88 慶南 '38 ・解放前は「朝鮮人」といじめられる事が多かったが、解放後は目につくようなことは少なくなった。混乱の時代で先々に対する不安で、これといった感情はなかった。

西東京 女 82 慶北 '40 ・家も空襲で焼け、ガラスだけが残った状態だったので、生活の事で頭がいっぱいだったから、何も感じなかった。防空壕の中で1週間生活した。

西東京 女 72 慶南 '30 ・多少なりとも、解放されて嬉しかった。が、それよりも生活すること自体に追われて、それどころではなかった。食べる物がなく、大変だった。同胞達も、私と同じ考え、感じ方をしていたと思う。

西東京 女 79 慶北 '21 ・最初、帰ろうとしたが、息子がどうしても帰りたくないと言ったので、帰るのを断念した。土地も家具も全部、現金化してしまいました。

西東京 男 66 忠北 '37 ・戦争が終ったことが、嬉しかった。ほっとした。日本人が逆に韓国人を怖がった。

西東京 女 68 忠北 '42 ・ほっとした。もうちょっとで爆弾で死にそうな思いをして来て。朝鮮人だといじめられなくなった。

西東京 男 65 慶北 '38 ・戦前から差別体験がなかったので、日本人に対する悪感情もなかった。

西東京 女 59 慶南 '39 ・アメリカ兵が来るので、みんな殺されると思い、同胞たちは夜逃げしてました。

西東京 男 60 全北 '38 ・近所の同胞の人達と大喜びをして、酒を飲み、飲めや歌えのドンチャン騒ぎをした。とにかく嬉しかった。良い気味だと思った。

西東京 男 72 慶南 '40 ・とにかく嬉しくって、近所の同胞達と一晩中、飲めや歌えのドンチャン騒ぎをした。あまりの嬉しさにその後、すぐに帰国したぐらいだった。

西東京 女 75 慶北 '30 ・それまで韓国人がいじめられていたので、その時はとても嬉しくて皆で喜んでいた。そして殆ど周りの人達、親類の人達も沢山本国に戻っていた。でも自分は本国へ帰って、又、昔の様な苦しい生活をしたくなかったし、今帰っても食べて生活していけるかどうかわからなかったし、今の生活の方が良いと考えた。だから、帰らなかった。

西東京 女 61 慶北 '41 ・同胞同士が皆集まって、いろいろ話をした。日本人から何かされると思い怖かった。

西東京 男 62 慶南 '39 ・終戦を迎えて、部落の同胞達がより集まって喜び合いをした。反面、これからの日本で朝鮮人が何をされるかという不安で一杯だった。

西東京 男 57 全南 '40 ・今まで昼夜を問わず爆弾が落ちて来る中を転々としていたので、戦争終結によって自分にやっと自由が戻ったような気分だった。私の周りの同胞達は皆一様に喜んでいた様だった。青春がやっと戻って来た。

西東京 男 57 全南 '39 ・この時はすでに兄を亡くしていたので、解放されたと思ったり、日本が敗戦したと思ったらとても嬉しかった。ただ周りに同胞が少なかったから、周囲の状況はわからない。

西東京 男 72 忠南 '40 ・安心したし、何ともいえないくらい嬉しかった。

西東京 男 62 済州 '43 ・しかし、変わらなかった。

西東京 女 72 済州 '41 ・率直に解放されるんだ、自由になるという嬉しさだけ。

西東京 男 59 全南 '42 ・自由の身になれる喜びで一杯だった。

西東京 女 56 全南 '27 ・日本人と同等になった。引け目を感じずに済むと思った。今までより少しは生活が楽になるんじゃないかと思った。

静 岡 男 64 慶北 '38 ・その時、26才だったが、67人の韓国人の会社の部下が牛とドブロクを用意して待っててくれていたのが何よりも嬉しかった。

愛 知（不明） ・解放になって、日本に住んでいてもとても嬉しかった。涙が出る程嬉しかった。酒を飲んで、大騒ぎした。身体全体で喜びを表わした。同胞の中にも戦後どさくさに悪い事をした者もいた。後、生活状態は良くなったという事は無かった。やはり仕事はなく、今の手配仕の様な親方が食事などの面倒を見てくれた。その親方も職人の幽霊を作って、人数分だけ上から仕事をもらい、闇をやって儲けた。

愛 知 女 67 慶南 '24 ・大変嬉しく泣きながら喜んだ。当時、同胞は皆連盟に集まり、酒を飲みながら、歌をうたったり、チャンゴをたたいて踊ったりして楽しく遊んだ。

愛 知 女 65 慶北 '43 ・日本人を憎む気持ちもなかったし、どうやって食べていくかとその事で頭がいっぱいであった。日本が敗戦して日本自体が食料もお金もないのに、自分達がどうやって生きてゆけるのか不安だった。

愛　知 男 58 慶南 '40 ・日本は負けると思っていた。皆路頭に迷い、どうなるか心配していたのでは。思想をしっかり持ち、運動をしていた人達は万才をしただろうが、私達はどうなるのか心配だった。終戦になって迷った。

愛　知 男 60 慶北 '43 ・山奥の飯場にいたため、二、三日後に終戦を知った。これで何もかも解放されるんだ、と心から嬉しかった。又、引き揚げてくる日本人が仕返しに来るという噂が飛び、一人では歩くなと注意された。

愛　知 女 62 慶北 '40 ・あんなに嬉しかったことはない。日本人は、戦争に負けたと言って悲しんでいたけれど、私は本当に嬉しかった。主人と一緒に国へ帰ろうかと言っていましたが、少しすると1度帰った人達が、又日本に戻ってきたりするので不安になり、国へ帰るのはやめた。

愛　知 男 73 慶南 '28 ・日本の終戦の混乱のことが頭にいっぱいで、本国の解放のことを考える余裕はなかった。友人の同胞も皆同じだし、食べることに関して日本人も同じだったと思う。

愛　知 男 60 全南 '42 ・大変、嬉しかった。同胞の中には、自分を日本人だと思い込み、泣き出す者もいた。飯場で、皆で酒を飲んで喜びあっていたときに、ある同胞達は、日本が戦争に負けたのに、何が嬉しいと言ってくってかかり、喧嘩になったこともあった。解放されて飯場も閉鎖されて、仕事が無くなると、朝鮮人たちはドロボーする者が増えた。

愛　知 男 71 慶北 '34 ・自分の国が出来て嬉しいと思ったが、全体としては、ただ戦争が終わって、祖国が解放されたと思っただけ。

愛　知 男 76 慶北 '24 ・嬉しかった。しかし、家も焼け何も無いために、何もする事が出来なかったが、同胞がみんなで「万歳」と叫んで喜んだ。

愛　知 男 75 慶北 '32 ・当時住んでいた所や、家財道具一式を売って帰ろうと思った。

愛　知　　60 慶北 '39 ・日本人に殺されると思って、家を出るのが怖かった。そういう噂がたった為、皆そう思っていた。

愛　知 男 61 慶南 '23 ・とにかく嬉しいとか、悲しいという問題でなく、命が長引いたと思った。

愛　知 男 82 慶北 '16 ・鋳工場を持つようになり、同胞も多く使っていました。国が解放されると既に同胞達は国へ帰って行きました。自分は社長だったので、迷いました。しかし日本は戦争に負けたので、朝鮮人を殺しに来るのではと思い迷っていましたが、私は日本に残ることにしました。そして暫くすると、国へ帰った同胞達から連絡があり、国で苦労していると聞き、自分は帰らなくて良かったと思ったし、帰って行った同胞達を悲しくも思った。

愛　知 男 58 慶北 '39 ・何とも言えないくらい嬉しく思うと共に、日本人から受けた屈辱を仕返してやろうと思った。

愛　知 男 71 慶南 '29 ・戦時中は、軍隊に頭を下げたり、酒を差し入れたり、日本人にゴマをすらなければいけなかったので、敗戦になりもうそういう事をしなくても良くなったと思い、大変喜んだ。

愛　知 男 60 慶北 '40 ・日本が敗戦すると共に、南方から復員してきた。その時の喜びといっ

たら、口では表わせない程である。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・日本に解放されれば、基盤のしっかりした国が建国されるまで、内乱や騒動が繰り返されるのではないかと不安だった。

愛 知 女 60 京畿 ・終戦になり、疎開先から名古屋へ帰ってみると、父と弟は私が死んだと思って、もう本国へ引き揚げて行ってしまっていた。私は「ああ、これから私は一人ぼっちになってしまうんだなあ」と思い、悲しくて仕方なかった。

愛 知 男 62 全南 '41 ・私の周りの日本人達は「みんな日本人は、殺されるのだ！」と言ってワンワン泣いていた。私自身もこれからどうなってしまうのだろうと思って恐ろしかった。マッカーサーの指示で朝鮮人の引き揚げが始まったので、多くの人が下関まで苦労して行ったが、そこで伝染病が発生して引き揚げ中止になったと聞いた。

愛 知 女 65 全南 ・自分の国が独立したので、嬉しかった。

愛 知 男 62 慶南 ・当時、軍隊にいて、また、幹部候補でしたので立場上なんとも思わなかった。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・街角で日本人にまぎれて、玉音放送を聞いた。周りの人間がみんな泣いていたが、私は心の中で嬉しくて嬉しくて「俺達は助かった！」、「本国は自由になり、これで独立できるんだ！」、「差別がなくなる！」という思いが次々に頭をよぎった。しかし、喜びを顔に出して笑ったら袋叩きにされるので、表で泣くふりをしながら、心の中で喜んでいたのを覚えている。

愛 知 男 57 慶北 '42 ・解放後、私は日本で生活をしてゆく上で、敗戦は大変不安な気持ちでしたが、人と人との殺し合いがなくなった事は大変嬉しかった。同胞の状況はと聞かれても私は自発的に日本に来て、他のほとんどの人は徴兵又は徴用で来ている人ばかりなので、その人々は戦争が終った事ではなく、日本人が敗戦した事に喜びを感じていたと思います。

愛 知 女 56 京畿 '45 ・戦争が終ったのは、嬉しかったが、解放されたんだというとらえ方はあまりなかった。その頃はあまり同胞と交際がなかった。

愛 知 男 60 慶北 '38 ・解放当時は生活に追われ、解放という事すら考える余裕がなかった。

愛 知 男 60 平北 '44 ・大変うれしい気持ちでしたが、これからどうしたらいいのだろうとも思いました。本国には帰る所もなく、日本ではこれから仕事が出来るのか、生活が出来るのかと不安でした。その当時、同胞の仲間達は、盗み等悪い事をやっていたのを覚えています。

愛 知 男 76 全南 '28 ・口では言い表わせないくらい、嬉しかった。

愛 知 男 71 慶南 '37 ・戦争が終ったということが、まず暗い生活から抜け出した喜びと、自分の国が独立された喜び。

愛 知 男 66 慶南 '40 ・解放後すぐ本国へ帰ろうと思った。また同胞の人は帰国しようと身の周りの物を全部売り払い帰国したが、自分はいろんな話を聞いて留まった。

愛 知 男 72 忠南 '27 ・解放され、これで本国へ帰れると思い、嬉しかった。荷物を送って、

さあ帰ろうと思ったとき、本国の受け入れが一時拒否された。その為、結局帰れずじまいになってしまった。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・1年間は嬉しいと思ったが、すぐまた、苦しい生活と差別のある生活に戻った。

愛　知 男 73 慶北 '28 ・解放当時、朝鮮人を「殺せ」という噂が広まり、同胞達の多くは皆、国へ帰って行った。

愛　知 男 75 慶南 '27 ・みんな解放される前には、曲がりなりにも日本人として扱われていたので選挙権などの権利も一応はあった。それが解放されてからは元の韓国人として扱われるのだから、不安な気持ちだった。

愛　知 女 61 慶北 '40 ・日本に来た当時は、帰りたくて帰りたくてたまらなかったので、国が解放されたのだから、帰ることができると思い、大変うれしかった。

愛　知 女 80 慶南 '32 ・その時は涙を流して喜びました。もうこれ以上血や涙は見たくない。これから平和が来るんだと希望が湧いて来た。あまり付き合いがなかったので、当時の同胞のことはわかりません。

岐　阜 男 56 済州 '44 ・戦勝国とは言えないまでも、日本よりは上の国であるという意識はあった。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・命びろいをしたと思ってうれしかった。長野の疎開地には韓国人はいなかった。帰国すると殺されるという噂があって帰らなかった。

富　山 男 64 慶北 '33 ・正直言って私は、日本人ではないで敗戦したことについて残念な気持ちはなかった。今後どうなるのか生きる術も知らず、多くの同胞土木人夫達をつれて食を求めて一生懸命であった。

富　山 男 65 慶南 '37 ・日本が敗れ、本国が解放されたと聞いたとき、同胞はみんな一様に喜んだ。ただ、日本人、特に警官の態度が一変したのには驚いた。

富　山 男 70 慶南 '32 ・終戦時は山の中で生活をしていたので、あまり感激が無かったし、同胞がいなかったのでわからない。

富　山 女 73 慶南 '35 ・多くの人々は解放を喜び、資産を処分して何とか本国に持ち帰ろうと考えており、七、八割の人が帰国した。

富　山 女 80 慶北 '30 ・解放されたと聞いたときは、唯うれしく、有り難く言葉が出なかった。だが、男達は仕事もなく、韓国人はみな密造酒をつくり生活しましたが、男達はみな酒を飲むばかりで生活はよくならなかった。他には土木の請負をして金を儲ける人、人夫になる人、様々でした。

大　阪 女 61 慶南 '43 ・子供をつれていたので、子供がこれで安心と思い感激した（とてもうれしかった)。その時は3人の子供を連れていた（1人は病気をしていた）これで助かると思ってホッとした。（解放時の状況）韓国にいた日本人が向こうで苛められたので、日本人が日本に帰ってきて日本にいる韓国人に復讐するために殺すとか、殴るとかそういうような噂が田舎に流れたので、皆んな町に出るようになった。その時、アメリカ人に韓国の旗（太極旗）を見せたらチョコレート、あめをくれて可愛がってくれた。それで日本人だったらホッペタを殴られていた。

大　阪 男 57 慶北 '43 ・同胞達が終戦したので喜びを分かち合うため酒盛りをしたら、反対に

警察が連行しに来たりした。とにかく同胞達の喜び様は異常なくらい騒いだ。又、何人かの同志で以前の差別をした日本人（または日本人側についた朝鮮人）などに仕返しに行ったりした。朝鮮人のかつての親方の所へ行くと、先に他の朝鮮人達が乗り込んでいて仕返しが出来ずじまいだった。以前に働いてお金を貰えなかった親方の所、数軒を回って給料を貰いに友人と回った。働いた倍の金をよこし、友人達と２日ほど泊まり込んだりした。4000円の金を持って下関から帰国する予定であったが“バクチ”で負け船賃すらなくなり、帰国をあきらめた。

大 阪 男 76 済州 '26 ・終戦当時はその出来事自体よりも、生活の行き先が不安で仕方なかった（子供も抱えており、家も焼けていたので）。

大 阪 男 62 慶南 '35 ・国に帰ろうという気持ちが先走った。周りが韓国人ばかりに囲まれていた。皆がうきうきしながら喜んでいた。一度は帰ったが経済的な面で暮らせないので、また日本に戻って来た。

大 阪 女 73 済州 '33 ・終戦したため、危機感（空襲）をなくしほっとしたが、その反面アメリカ人の虐待があるのではないかという不安感も強かった。

大 阪 男 71 慶南 '31 ・朝鮮人が殺されるという噂を聞いた。軍事工場が沢山あり、韓国人が大勢行かされた。そしてその当時巡査とか、日本人を棒で殴ったりした。みんなが万歳をしていた。

大 阪 男 61 慶南 '39 ・自由になった気分「やった」という感じ。

大 阪 男 62 済州 '43 ・解放された当時、嬉しさもあったが少し不安もあった。大阪に住む友人を頼って北海道から来た。これからが本当の自分の人生だと思い、まずお金を儲けようと思った。

大 阪 男 69 慶北 '34 ・国に帰る準備をまずやった。日本人が私に20万円手形を貸してくれるほど、日本人と信頼関係があった。船で帰ろうと思ったが船が小さくて乗れなかった。

大 阪 女 75 慶北 '27 ・嬉しくてたまらなかった。三重県の山奥で迎えた。大阪におりて来て始めて知った。

大 阪 男 76 済州 '18 ・朝鮮連盟みたいなものがあって、会議をしていて朝鮮が勝って日本が負けたと騒いでいた。

大 阪 男 55 慶南 '44 ・日本人は一箇所に固まって、自分達のみを守るための準備を始めた。同級生らも夜の間にどこかに集まっていた。警察に恨みを持つような人達は、相当ひどいことをしていたようだ。

大 阪 女 61 慶北 '30 ・苦しくって食べるのが精一杯で、何も感じなかった。

大 阪 女 76 慶南 '33 ・嬉しくもなく悲しくもなく、「戦争が終った」と思っただけです。近所にいた韓国人は殆ど帰国した。

大 阪 男 70 済州 '27 ・みんなが酒を持って来て飲んだ。いずれ国に帰るぞという希望を持って。

大 阪 男 69 済州 '34 ・解放されて嬉しくも思い、日本人に対して反感を持った。当然いずれか解放されるものと信じていた。連盟に入り、役員もやったことがあ

る。内容は、学校建設、青年教育（夜間学校）、警察が無能なため同胞青年が暴力を振るうことが多く、その青年教育に勤めた。その他、食品店を連盟で経営したが、三年ほどで無くなった。その後、学校教育内容に不満を持ち、脱退した（学校内での共産主義教育に）。

大 阪 男 58 慶北 '41 • 自由になると皆思った。徴兵検査に受かっていたので、戦争が終わって命拾いしたと思った。日本人と一緒、日本人も悔しいけれど喜ぶ。

大 阪 女 60 慶北 '40 • 帰りたいという気持ちが強く、日本にいると「アメリカ人がくる」や「日本兵に殺される」などといわれ、帰る人が多かった。その頃韓国でコレラが流行っていたようで、それがおさまるのを待っている間に、もう日本に住み着いてしまった。帰国者などは持ち物を売るなどして資金を作った。同胞についてはあまり知らなかった。親の時代が終わっていたため、家族4人帰国の資金がなかったので、帰れなかった理由もある。

大 阪 女 62 慶北 '40 • 訳が分からなかった。子供が多いので生活がいっぱいだった。同胞達が騒いでいた。この付近の家はみんな韓国人達の税金で立っていたので、帰してもらったりしていた。お弁当を持ってみんなが集まり、騒いでいた。

大 阪 男 61 慶南 '41 • 広島から疎開した時、ラジオから聞いた。その時は、すぐに国に帰りたい気持ちを持っていた。同胞も、みんな同じ気持ちでいたのではないか。

大 阪 男 52 済州 '43 • 疎開先の島根県で終戦を迎えて、日本人に自分が殺されるのではないか、と恐怖におののいた。同胞も同じ気持ちを抱いていたらしく、四散した。

大 阪 男 63 全南 '37 • 刑務所で迎えた為、あまり知らない。解散と同時に出れた。

大 阪 男 67 全南 '38 • 日本が敗戦になり、韓国人も自由が戻り嬉しかった。

大 阪 女 57 慶南 '40 • 日本人が「負けた」と泣いた。韓国人は、「うちの国はどうなるのかなあ」と思った。

大 阪 男 79 済州 '20 • 帰国しようと思った。

大 阪 女 71 慶北 • 田舎にいて韓国人も少なかったので、よく状況が分からない。

大 阪 男 50 慶南 • 軍隊で大邱にいた。軍隊の中に10%くらい韓国人がいた。解放による分裂はなかった。両国人の中に対立はなかった。韓国民は無関心だった。市民のデモンストレーションも見なかった。戦争に負けたら、皆殺しになるというデマはたくさんあったし、信じた。

大 阪 65 済州 • 日本人の所で働いていた為、不安だった。同じ国の人達と付き合いがなかったし、これからの生活を考えると不安だった。喜んで、歌ったり、酒を飲んだりした。

大 阪 男 63 慶南 • 淋しくも楽しくもなく、金さえとれればよいと思った。戦争が終わって金が儲かり楽しかった。そして金さえとれれば、早く国に帰ろうと思った。本国内での事情が悪く、国に帰っても何にもなくなり、又すぐに日本に密航で来るものがいた。そういったことを見て、国に帰る

のに抵抗を感じた。

大 阪 男 64 ソウル ・これで国に帰してもらえると思った。下関から帰るとき、下関で金を全部取られた。下関駅前でムシロを敷いて寝た。私は6日間寝た。港で持ってる金は日本の金だから朝鮮では使えない、と取り上げられた。博多に集まった韓国人がぶっ切られた。そのことを知って広島にいたが、頭にきて車に乗って武器をもらって仕返しに行った。懲役16年受けた。網走に行った。苦しくて役員を殴った。そこで福岡の箱崎刑務所に移送された。そこで朝鮮人だと思ってひがみ根性を持たず、一生懸命生きろと励まされた。刑務所では皆、天皇が死ぬのを待った。恩赦があるから、6年半勤めて天皇の母が死んで、恩赦で2700円貰ってでた。

大 阪 女 61 慶北 ・その当時、これから先どうなるか非常に不安であった。デマとかで皆殺しにされるのではないか、と1日も早く帰らなくてはならないと思った。

大 阪 男 60 全南 ・ヤルタ・ポツダム宣言によって韓国が独立したときは、大変嬉しかった。そのときは、韓国人の人達は踊ったりした。

大 阪 男 69 済州 ・兵隊から帰った人が「朝鮮人」を殺すというので、朝鮮に帰った人もいる。帰国したいが、金がなかった。

大 阪 男 64 済州 ・出ていってみんな浪々とした。（日本人も韓国人も）物がなかったので、持っている人は片っ端から検査された。今考えると、戦争が続いていたらもうちょっと楽できたかもしれない。

大 阪 女 59 全羅 ・町の人がバンザイバンザイといって行進したのを見た。なぜ戦争に負けてバンザイするかわからなかった。嬉しかった、戦争中はろくに寝られなかった。近くに軍需工場があったので空襲が多かった。とれた片足が戻った感じだった。日本人と喧嘩をたくさんした。

大 阪 女 60 済州 '41 ・日本人から解放されたと、ほっとした。同胞達は万歳を連呼していた。

大 阪 女 72 慶北 '27 ・日本人に対して戦争に負けたのに、偉そうにするのよせと言った。韓国に帰ろうと荷物を準備したが、お金がなくて帰れなかった。

大 阪 女 68 済州 '30 ・とにかく食べていく考えしかなかった。

兵 庫 男 68 慶南 '30 ・嬉しいという、そんな言葉ではいい表わせられないくらい感激した。

兵 庫 男 66 慶南 '33 ・嬉しかった。家族が多いので、国も豊かでなかったので、冬の寒い時に帰っても住む所もないので、春になるのを待ったら家がなくても橋の下ででも、暮らして行けるのではないかと色々と考えたが、知人に無理な事だと止められた。

兵 庫 女 68 済州 '40 ・解放された時は、私はリュウマチで足が立たなくて、一番苦しいときだった。3年間も立てなかってな、仕事もできへんし、そんなことばっかりあったから、日本が負けて解放されても私には別に何も関係なかった。このまま日本におられるのか、向こうに帰らなあかんのか、そんな事を思ってたぐらい。

兵 庫 男 65 慶南 '35 ・広島の竹原で終戦を知った。噂でアメリカが上陸して来たら食べ物な

くなるとか、もっと生活が苦しくなると聞いた。解放の喜びなんかなかった。それよりその日、1日を暮らすのがやっとの状態だった。

兵 庫 女 71 慶北 '34 ・田舎の方にいたので、爆弾が落ちたものも見たことがない。本国へ帰るつもりで、タンス等を売ったり、人にあげたりした。その売ったお金で船の券を買ったが、日本人にだまされてしまい帰れなくなった。（日本の人が）食べ物を分けてくれた、（子供もいたから）その人から遊びにおいでと誘いがあった。戦争前より生活も豊かになった。

兵 庫 女 60 慶南 '37 ・戦争が終ったというから、帰らされるのと違うかいうて、周りの人は自分が韓国人であると知らされてなかった。自分が日本人でないと分かると、何かされるのではないかということがわかった。

兵 庫 男 59 慶南 '39 ・別に何も思わなかった。ただ、日本が負けたなと思っただけ。終戦の半月ほど前に徴用を受けたけど、すぐ終戦だったのでどこも跳ばされなかった。終戦になった時に、すぐ下関に朝鮮人が殺到した。

兵 庫 女 73 慶南 '28 ・逃げて帰って来るやつがおった。

兵 庫 女 59 済州 '36 ・自分の国が戻ってうれしかったけど、生活は苦しかったし、食べる物がなく、買い出しによく行った。二、三年買い出しに行ったし、それで闇市で商売した。

兵 庫 男 60 慶南 '41 ・とても嬉しく、同胞と喜んだ。「何くそ、今からだ!!」見ておれという気持ちであった。団体ができて、だいぶん権利等が強くなったように思った。

兵 庫 男 65 慶北 '38 ・友達もみんな本当に喜んで、嬉しかった。その時、神戸でトンネルを掘る工事の道具を運ぶ仕事をしていて、仲間と本当に喜んだ。

兵 庫 男 63 済州 '40 ・独立は感動した。密集地区に住んでいたので、辺りはマンセイでいっぱいだった。

兵 庫 女 55 慶南 '43 ・解放時はほっとした。国へ帰った人が多かった。日本に住んでいたら殺されるというので、たくさんの人が国へ帰った。町にたくさんの同胞がいたが、一人1000円あれば国へ帰れると言われた、（日当はその頃10円)。韓国に帰った人から「国へ帰っても生活できない」と聞かされたり、「船が沈んだ」と聞かされて帰るのが嫌になった。

兵 庫 女 72 慶北 '24 ・悲しいやら、嬉しいやら分からない。

兵 庫 女 64 慶南 '38 ・みんな自分の国に帰ると行って、その準備で忙しかった。自分の夫もその為に荷物を国へ送った。国に帰った人が「帰っても、今は自分達の居る所がない」と言った人がいて、結局帰らなかった。戦争が済んでやっぱり嬉しかった。早く国に帰りたかった。

兵 庫 男 67 慶北 '33 ・最高に嬉しかった。戦中、我々同胞達は買い出し、闇、密殺とか生活の為、色々当時の法律に触れる事をやって警察に捕まったり、追われていた人がたくさんいた。それが解放になり韓国人と日本人の立場が変わり、警察にも追われないし日本人たちの態度がガラッと変わった。各地で朝鮮人連盟ができ、同胞達が集まり一時はすごい羽振りだった。私もこれで晴れて韓国人として堂々と生きて行ける、と同胞達と酒を

飲み喜びはしゃいだ。

兵 庫 男 67 慶北 '36 ・ここの土地の人と共に空襲もここで受けたし、えらい目に合わされても別になんともなかった。日本がどういう状態で戦争が起ったのかわからなかったし、その頃は知らされてなかった。日本におる人と同じ様な気持ちであった。

兵 庫 82 慶南 '31 ・弟が近くにいた。韓国へ行こうという話があったが、お金が1銭もなかった。男の人の二、三倍仕事をした。空襲の時、三宮におったけど、その空襲で夫が死んでしもうたし、うちも顔やけどして、ちょっとの間、顔から膿が出たりわややった。空襲の時、家も何もかも焼けた

兵 庫 女 63 慶南 '39 ・どちらの勝利にも自分には関係ない。ただ自分の命が無事であったことに喜びを感じ、戦争が終ったのでこれからの自分の命の保障も出来、嬉しいと思った。

兵 庫 男 61 慶南 '42 ・解放と言っても、日本の敗戦という事なので、この先の自分の生活がどのようになるのか、不安であったと同時に嬉しかった。

兵 庫 女 70 慶南 '37 ・戦争が終わってすぐに主人が死に、自分はただ命があるから生きて行こうかと思った。

兵 庫 男 74 慶南 '27 ・苦しみも多かったが、解放された時は自由だなと思った。すごく嬉しかったし、感激した。食べ物がなかった時で、苦しい時だった。配給と言ってもろくな物がなかった。芋ずるばっかり食べていた。ひもじい思いをした。満州へ行って、死んだ同胞もたくさんいた。

兵 庫 女 77 慶南 '30 ・デモをやっていた。

兵 庫 女 65 済州 '28 ・嬉しかったが、周りに日本人が多く万歳ができなかった。隠れて静かに喜びをわかち合った。

兵 庫 男 60 慶北 '36 ・自分の祖国が返ってきた。あんた達にはわからない。解放という言葉で言えば、これ以上の喜びはなかった。帰国するにもお金がなかった。その当時は1000円か2000円しかなかった。1万円あれば帰っていただろう。解放後、子供達を集めて、韓国の言葉を少し教えた事がある。だけど言う事も聞かないし、日本の学校の勉強に追われて、韓国語の勉強までできなかったのだろう。

兵 庫 男 65 慶北 '34 ・やれやれと思うべきだけど、もう終ったのか、えらいことやなと思った。生活の不安があった。本国が独立することは嬉しかった。1度国へ引き揚げたが、1ヶ月目に又戻ってきて姫路に着いた。バレたらいけないので、九州で足止めになったといっていた。米は配給制であったので、区役所で名前が消されていたのをごまかした。これからどうするか迷った。帰る時は10万円あったが、3万円になっていた。働く仕事もなかったし、働いても食べていけなかったので商売をした。

兵 庫 女 62 慶南 '38 ・丁度その時、暑かった。昼飯を食べて一服している時、監督がラジオを聞いていて解放になったといった。それで工事をやめてしまったので、仕事がなくなった。嬉しいのは（日本人に）頭を押さえつけられていたのが自由になった。

兵 庫 女 57 忠北 '44 ・日本人が負けて嬉しかった。もし日本が勝っていたら、今のアメリカのようにいかないだろう。日本人が戦争の話をしているのを聞いて「同じ人間か」と思うほど、ひどいことをしていたみたいだった。

兵 庫 女 58 慶南 '44 ・みんなが嬉しそうな顔をしていて、本名が帰って来たと言って喜んだ。同胞の中には、日本人を殴ったりしている者もいた。

兵 庫 女 60 忠北 '41 ・国に帰るつもりは全然なかった。気楽な事もなかった。

兵 庫 男 63 慶南 '41 ・原爆が落ちて、後は二、三ヶ月意識不明で、今考えたら死んだと思います。後で気がついたら、頭の毛は全部抜けているし、三分の二以上火傷をしてたいし、よく生きていると思う。私の親戚も多くいましたけど、だいぶん死んでしまいました。

兵 庫 男 76 慶南 '33 ・戦争が終わって炭坑の仕事も出来なくなって、どうしようかと思った。息子達が神戸に居たので、それを頼ってきた。息子達がいるからそこへ行こうという気持ちしかなかった。家族が多かったし、生活は苦しかった。

兵 庫 女 59 慶北 '30 ・解放できるのかできないのか、韓国は独立するのか不安だった。帰るつもりで荷物を船で送っていたが、韓国動乱で帰れなかった。帰らなくても食べる物には困らなかった。

兵 庫 男 60 慶南 '38 ・その当時は、そんな事考える余裕がなかった。

兵 庫 女 77 慶南 '24 ・嬉しいことには越した事はないが、いざ今日から新しい生活に向けて頑張ろうと思っても、焼け野原になった町を何一つ食べる物もなく、焼け焦げた臭い米を拾って食べたものだ。

兵 庫 女 60 慶北 '43 ・嬉しかったです。これで少しは生活が楽になるやろうし、韓国にも帰れると思った。私達を馬鹿にしていた日本人の態度も変わった。人の話では、韓国人達が集団で権力ぶって無茶な事をしたそうです。私達も今までと違って町を歩く時、胸を張って歩きました。でも、それも長くは続かなかった。

兵 庫 女 57 慶南 '43 ・わからない。あの当時、闇の船で本国へ帰った人もあった。事実、私の主人もそれで帰ろうと思ったが今に至った。

兵 庫 男 69 慶南 '30 ・同胞の中で祖国へ帰る者もいたが、自分は帰らず残った。解放されて嬉しかったが、これといって覚えていない。

兵 庫 男 63 全南 '32 ・感動的な事だった。同胞達と嬉しさのあまり、騒ぎだしたのが忘れられない。

兵 庫 男 65 全南 '37 ・もちろん嬉しかった。早く韓国へ帰りたかったが、いろんな人に聞くと、韓国へ帰らない方がいいんじゃないかと言われた。結局日本で暮らした。解放の時、「韓国に帰れる」と嬉しかったが、それだけのもので、実際は生活するのが精一杯だった。

兵 庫 男 60 慶南 '36 ・嬉しかった。自分の国ができた。金のある者はみんな帰った。金のない者が残った。終戦後、二、三年して韓国へ行った。長いことはできなかった。

兵 庫 女 78 慶南 '28 ・「アメリカ人が来たら殺される」いうて、韓国に帰った人も多かった。

自分は生活が苦しかって、日本に来たのになんしに帰るか、死んでも帰るか。向こうも生活が苦しいのに誰がええ言うか。日本おっても、おばあちゃんほど金持っとる人はおらへんで。ほんまにもういろいろな事をした。いろんなもん作ったけどみんな売れた。二号の子供も含めて多くの人間がいたが、皆食べさす事ができた。イルボンサラムにいろいろしたった。食べもんやったり、服やったり。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・その時の気持ちは、死ぬか生きるかわからなかった。軍にいる時は、国のために死んでもいいと思っていたけど、戦争が終わったら、今度は死ぬか生きるの生活が待っていた。軍では食べる苦労がなかったから。

兵　庫 女 72 　　 '26 ・とても嬉しかった。涙がたくさん出た。当時、夫は人夫を抱え、飯場をやっていたが、家が燃えるにもかかわらず屋根でマンセイを呼んでいた。周りの人もマンセイを言っていた。

京　都 女 79 済州 '22 ・船賃があったら本国に帰っていたが、そのお金がなかった。仕方なく日本に住むことにした。闇米などの運搬を行って生計を立てていたが、警察に闇商で引っ張られ、留置所に入った。

広　島（不明）　・感激的であった。祖国が蘇った。もう２度と奪われることのないことを祈り続けた。

広　島（不明）　・漁船で帰った同胞が多く、よく転覆して死んだみたい。殺されると思って恐かった。しかし、うちの主人の人格が良かったので、日本人によくかわいがられていたから、少しだけ安心した。周りにいた同胞はほとんど帰った。次の年の２月～４月頃よく帰ってたみたいだ。私は娘が、２月に生まれたので帰らなかった。帰って死んだ人が多いので、帰らなくてよかった。娘に感謝したい。娘のおかげだ。

広　島（不明）　・上の人々がいいものを食べさせてくれなかった。負けて良かった。負けてから暴力もなくなった。日本が勝っていたら差別はもっと増えていた。

広　島（不明）　・東城町の方で一家が殺された。という話を聞いて、鉱を抱いて寝た事があった。しばらくして、主人が警察署長と仲が良くて、この話をしたら大丈夫だと言われ、安心して鉱をもとに戻した。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・解放は、大阪から山口に行った時、知った。大変嬉しかった。日本兵が韓国から引き揚げてくるとき、国内で日本人が殺されたため、恨みをもって同胞がたくさん殺された。

岡　山 男 65 全南 '34 ・やっと解放だと感激し、同胞に会えば手をとりあって「マンセー」を叫んだ。同胞は解放の喜びで一致団結していた。暫くして駅に向かい、下関から船に乗ろうと多くの同胞が駅周辺に集まっていた。これからは、金を稼いで国へ帰ろうと思った。

岡　山 男 79 慶北 '34 ・日本人を皆殺しにしたかった。同胞は集団でトラックにのって「マンセー」を言い合った。

鳥　取（不明）　・尼崎で解放を迎え、近所に15、６軒朝鮮人が住んでいた。皆「マンセ

ー」という気持ちだった。日本の敗戦のドサクサ時にあちこちで闇市が立ったが、同胞が多かった。

鳥　取（不明）　・私の息子達は、当時徴兵で中国に送られていた。戦争が終わり、その息子達は日本に帰る目処がつかず、終戦後２年位して日本に帰ろうと船に乗ったが、アメリカの収容船に捕まった。しかしその船でコレラが発生し、息子達は海に飛び込み15時間も漂流したのち、奇蹟の生還をしたこと。

鳥　取 男 66 慶南 '29 ・とにかく嬉しかった。帰国目的で境港に向かった。しかし帰国を急ぐ人で大混乱状態で、いつしか世話人的人間になり、人の帰国の世話ばかりしていた。

山　口（不明）　・飛び上がるほど嬉しかった。炭鉱で働いていた同胞が、毛布１枚と15円で追い出され、皆帰国したかったが日本語が出来ず、下関まで行けなかったが、駅裏で乞食みたいにしていた。

山　口 男 55 慶北 '43 ・特になんとも思わなかった。「ああ戦争が終ったんだなあ」ぐらい。あの時は船に乗っていて、国旗をやりなおさねばと他の人が言っていた。日の丸の旗が赤い丸を半分づつ分ければ、太極旗が出来ると話していた。船長は日本人だったが泣いていた。

山　口 男 66 慶南 '41 ・どちらが勝っても負けても、自分には関係がないと思った。ただ終われば韓国に帰してくれると言う約束だったのに、帰らせてもらえなかった。同胞のことは皆バラバラになったのでよく分からない。

山　口 女 65 慶南 '39 ・そりゃ嬉しい。発表はせんけど、帰る人がようけあった。ワシラも帰る準備を全部しちょったけど、遅れたから下関へ様子を見にいった。どこかで日本の兵隊が戻っては朝鮮人を殺すという話が出てね。はいでね、山の中に居る人はいつ殺されるかわからんと思うて、町の方に出て来たり、下関の方へ飛んでいった。風呂敷包んで、家も何もそのまんま、そういう人がようけあるよ。

山　口 男 66 慶北 '41 ・お金がある人はすぐに本国に帰っていたし、ない人は帰れない。ない人でも闇船で帰った人も多かった。お金がなくてもいつかは帰れるだろうと思っていた。

山　口 男 67 慶北 '42 ・戦争をしていても、終わっても、自分達は全然変わらなかったから、嬉しくも、悲しくも何ともなかった。同胞は（帰るお金のある人）は帰っていたが、自分達はお金がなかったから帰れなかった。田舎に行けば、どうかして食べられるんじゃないかと思って、奥に入って行った。

山　口 男 78 慶北 '27 ・食べる物もなく、ただ苦しいばかりで帰る人は帰る、帰れない人はいるしかない。そんな感じ。

山　口 女 59 全南 '39 ・多くの人が韓国に帰っていった。自分達も帰るつもりで、借りていた畑や田などを返して準備をしたが、寒い冬に帰るよりも春に帰ろうという事になり農業を続けていたが、一度韓国に帰った人がみんな日本に帰って来だして、それは日本よりももっと本国の方が生活が苦しい

という事で、それならまだ日本にいた方がいいと言うのを聞いて、自分達も帰国を諦めた。

山 口 男 59 済州 '40 ・嬉しくて、大変感激した。同胞は皆歓喜した。

山 口 男 68 慶南 '28 ・自分の国が独立したことに対して、感激した。自分の国ができたことが、今からの自分の生活にとって何かプラスになると思い、嬉しかった。周りの同胞のことは記憶していない。

山 口 男 62 慶南 '36 ・祖国が解放されたため、帰国しようと思い、人夫7人を密航で帰郷させ、後で自分も帰国しようと思ったが、その頃下関で闇市が行われていたので、その商売に手を出した。それ以後、生活のため下関に在住し、今日に至っている。

山 口 男 67 慶南 '39 ・終戦を韓国で迎えた日本人達が帰って来て、その中に韓国で日本に帰るとき、朝鮮人にひどい目にあったと言って、その敵討ちと言って、韓国人を殴ったり、中には殺した人もいた。

山 口 男 60 忠南 '44 ・終戦になったので、まず親兄弟に会えると思って嬉しかったし、これで朝鮮が独立できると思って感激した。日本全国から韓国に帰るという事で下関に多くの同胞が集まった。

山 口 男 60 全南 '41 ・これから先どうなるのかわからなく、日本で住まれなくなると思った。

山 口 女 59 慶南 '42 ・解放当時、私は故郷に帰れると思って嬉しかった。両親も朝鮮にいたし、一刻も早く帰りたかった。しかし、夫が帰っても仕事もなく、もう少し日本で金を貯めて帰ろうと言った。それが今まで日本にいることになるとは思いもしなかった。

山 口 男 68 慶北 '31 ・悲しいとも嬉しいとも何とも思わんかったなあ。初めはね。それから後に独立するからというんで嬉しかったかもしれんが、終戦直後は何とも思わんじゃった。終戦になった言うんで、はあ、皆ゾロゾロ本国へ帰る言うて帰ったそいや。

山 口 男 70 慶南 '31 ・当時は公文書偽造で刑務所に入っていた。どんな罪かというと、私は土方の親方をやっていて、人夫を食べさす為に米を確保しなくてはならなかった。一般の仕事は米は手に入らなかったが、たまたま軍の防空壕を掘っていたので工事を急ぐ為、軍から闇米が支給された。この米をもらう時、配給キップがいるのだが、私はこのキップを偽造してしまった。軍の仕事には私の他に20名ほど親方がいたが、彼等も皆逮捕された。軍に命令されてやったのに、刑務所に入れられてしまった。解放当時、釈放されると思って嬉しかったが、それはダメだった。

山 口 男 64 慶南 '38 ・姉達は、帰ろうと言ったが、韓国に帰っても生活の基盤がなにもなかった。幸い解放当時は仕事をうまくやってゆけたので、日本に残ることに決めた。

山 口 女 57 慶北 '43 ・戦争が終わって空襲警報などがなくなったので嬉しかった。田舎に住んでいた同胞は、日本人に殺されると言って家を捨てて町へ逃げて来た。みんな韓国へ帰ろうとして下関へ集まって来た。

山 口 男 66 慶北 '41 ・これからどうなるのかと心配だった。これまでの苦労が水の泡になる

と思った。朝鮮人が殺されるという流言が流れ怖かった。

山　口 女 60 慶南 '41 ・感激、感激で口が開けないくらいだけど、それとは反対に38年間、終戦後私の祖国は思わぬ38度線の事を思えば、息がつまる程悲しい。

山　口 男 66 慶南 '31 ・日本が負けて嬉しかった。韓国へ帰ろうと思って皆、下関へ集まって来た。何とか闇船に乗って韓国へ帰ろうとしたが、船が浸水して出国出来なかった。

山　口 女 62 慶北 '38 ・日本が負けて嬉しかった。韓国へ帰ろうと皆下関へ集まって来た。

山　口 男 61 慶南 '40 ・弟が学校で差別され、いじめられた事に対して学校に行き、校長に抗議をしている時に終戦の放送を聞いた。

山　口 男 61 忠北 '30 ・当時、食料がなくただ戦争に負けたと思った。そして皆、韓国に帰るといって準備をしていた。

山　口 男 64 全南 '33 ・解放された時は嬉しかった。自由になれるから。でも生活は苦しく、誰もが食べる為に必死になっていた。

山　口 男 62 忠南 '24 ・自由になれるから、ものすごく嬉しかった。一緒に仕事をしていた五、六人の韓国人は皆バラバラになってしまった。帰った人もいるが、何処にいるかもわからない。

山　口 男 78 慶北 '24 ・一緒に仕事をしていた人は、自分達以外全部帰って行った。でも自分は、帰っても食べられないので、帰らなかった。

山　口 男 68 慶南 '31 ・涙が出るほど嬉しかった。自分の仕事仲間の多くは帰って行った。団体で闇船を買って韓国へとどんどん帰って行ったが、自分達はそんな事が……しかしお金はないから、帰りたくても帰れない。日本兵が引き上げて来て、日本に残っている韓国人を殺すと脅し、皆どんどん逃げて行った。下関まで行って船に乗って帰ろうと思った。大雨で着る物もなにもないし、おまけに汽車の連結部に親子4人で必死の思いで捕まって行ったのに、駅に着くと韓国人は密航が多いと言われ、出して貰えず、帰ろうと思って死ぬ思いで貯めたお金も、足止めをくっている内、最小限のお米を買っていく内に半分になり、子供のおしめもなにもないし、帰る費用がなくなってしまった。

山　口 男 59 慶北 '24 ・戦争が終った事はとても嬉しかった。生活も楽になり、自分の意志で自由に行動できるようになった。大勢の同胞が本国の方へ帰って行ったが、自分達は経済的に無理であり、当時は下関から船に乗るしか帰省する方法がなく、そこまで行くことも出来なかった。汽車一つ乗るにしても朝鮮人には、キップすら売ってくれず、しかしその問題は連盟という組織ができたことにより強い力が持てて、日本人が買えないキップでさえも朝鮮人という登録があれば、簡単に買えるようにまでになった。

山　口 女 68 全北 '34 ・解放した時は年もとっていたし、自分の生活の上ではあまり変化がないので、特に感情はなかった。

山　口 男 68 忠北 '40 ・岩国から8月18日に宇部に着いた。金ある人は、国に帰ると言うし、日本の兵隊がこっちに来て、皆殺すと言うし、皆行くけど金がないの

にね。行ってどうする。死んでもええ、金儲けの為、日本に来ちょるけ、金儲けて韓国に行くって、今までおる。独立になった言うけど、そんなに実感なかった。嬉しいのは、嬉しいけど、戦争が終わって、自由になったからよかった。

山 口 女 54 慶南 '42 ・嬉しかった。これで国に帰れると思った。そう思って山口へ来たが、帰る方法もなく、帰ってどうしようと言うことも決まってなかった。私の友達が多く帰ったが、帰る途中で多くの人が死んだ。特に台風に逢ったら、船が沈んでものすごい死者が出た。私達一家は宇部に住んだが、そうしているうちに動乱が起きた為、暫く日本にいることに決め、現在に至る。

山 口 女 57 慶南 '39 ・勤労奉仕、挺身隊として広島の呉のエダジマという所で解放になった。15、6になるとみんな家に置いとかんから、みんな戦闘帽子かぶって、サゲ袋して、悲しかったね。よその国で、子供心ながら（そういう仕事は）悲しかった。解放になってからは、困っていながらも嬉しかったよ。自分の国が取り戻されるから。

山 口 男 65 慶北 '31 ・祖国が独立した。その感動は天をつく感無量だった。

香 川 男 66 慶南 '40 ・日本の敗戦、そして解放を知った時は、理屈抜きで嬉しかった。仲間同志で飲んで騒いだ記憶があります。当時、私は無一文だったので、帰国出来ない腹立ちさと、渡日後の不満でよく飲み、よく騒いだものです。私の回りの同胞で、同じ年代の者は皆、同じ気持ちだったのではないですか。だから、皆同じ事をしていました。

香 川 男 74 慶北 '34 ・嬉しかった。すぐに帰国して皆と一緒に平和な生活が出来るような気がした。丸亀には10世帯ぐらいの同胞数で、その内三世帯が帰国しようと下関まで行ったが、半年後に丸亀に帰って来て帰国出来なかった事情を話していました。

徳 島 男 61 慶北 '38 ・軍属として、南方のジャングル内で生死を紹越した為、「ヤッタ」といった感じだった。

徳 島 男 68 慶北 '42 ・木沢村にて解放を知ったが、知ったのは日本人の監督から聞いて知った。監督は、韓国人に解放のことを言うと、その時から居なくなった。

徳 島 男 72 慶南 '27 ・何とも言えないぐらい、心から嬉しかった。周りの人は、本国に帰ると言って喜んでいたが、自分は本国に帰る気持ちはなかった。日本で生活がある程度できるメドがついていたし、国へ帰っても田畑が全くなく、帰っても生活する基盤がないと思っていたからと思う。

福 岡（不明） ・親族のいる者だけが、本国に簡単に脱出していた。村に帰った時は、みんなチャング等をたたいて酒盛りであった。

福 岡（不明） ・胸がすっとした。国に帰ることができると思った。日本人以上に同胞をいじめていた、同胞の監督に対して、仕返しをしたいと思った。人間以下の生活を強いられた。収容所に何百人も押し込められて、リンチで死んで行った人も数多かった。

福 岡（不明） ・大変嬉しく、これで故郷に帰れると思った。しかし、韓国に帰っても

生活のメドが立たず、対馬にいる限り最低食べる事は出来るので、これからどうするものかと両親、又近所の人達がよく話していた。当時、日本人とのトラブルはあったものの、それ程ひどい状況ではなく、韓国人はすぐに自治組織を作り始めた。

福　岡（不明）　・大変嬉しく、近くに住む同胞と酒を飲み帰国の準備をした。

福　岡（不明）　・解放時から仕事がなくなりました。

福　岡 女 62 慶北 '40 ・日本が負けてよかった。

福　岡 男 62 慶北 '35 ・部落総上げで、どんちゃん騒ぎをした。

福　岡 男 73 慶北 '32 ・解放前に土木の請負をしていて、解放とともにその仕事がつぶれ、解放の喜びはあったものの、生活の心配が大きくのしかかってきた。

福　岡 男 72 慶北 '27 ・とても嬉しかった。日本人の監督達は逃げる人も多かった。生活は苦しくなったが、自由があった。朝鮮人学校や団体ができたが、マッカーサーに潰された。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・皆な「バンザイ、バンザイ」と朝から夜まで祝酒であった。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・解放した気持ちとして、自分より若い日本人から馬鹿にされることもないと思った。みな同胞は体に羽が生えたみたいに飛んで回った。日本人は家に閉じこもっていた。しかし、今考えると喜びもわずかの期間であった。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・やっと本国に帰れると思った。自由になったと、皆なと一緒に帰国する準備。金があった人達は帰国して行ったが、金がなかった人達は帰国できなかった。

福　岡 男 71 済州 '24 ・神奈川県で解放を迎え、帰国するつもりで夫婦子供連れで下関まで行く途中、無法地帯となっている町を列車又は徒歩で数日をかけ下関まで行ったが、同胞の協力なくして命がない状態だった。韓国人、中国人は勿論、一部日本人も過激であった。解放で嬉しさは大であったが、少し現金以外は持ち合せがなく、ただ不安であった。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・連絡が出来なくて不安であった。奥さんと別れていて、腕時計と女を欲しがる。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・実感がなく、嬉しくはあったが生活の心配だけだった。当時は田舎に住んでいたが、日本人も韓国人もそれ程大きな動揺はなかった様だ。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・周りの同胞は引き揚げていった。自分も引き揚げようと思っていたが、引き揚げた人達がまた戻ってきたので思いとどまった。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・解放した時の気持ちは、なんとも思わなかったり、周りにいる同胞もそれほどうれしかったりした事もなかった。

福　岡 男 75 慶南 '25 ・帰国4班に分けて、くじ引きで決める。自分はスカだった。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・本国に帰る為、印紙を払わないといけないので、ずうっと1ヶ所にいたので本国に帰る時、税務所が税金を取りに来た。みんな日本人に殺されると言って多くの人が帰ったが、金がなくて帰られなかった。終戦後、少し生活は楽になった。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・昼過ぎ、現場で聞いた。半信半疑であった。あくる日、ジープが10台

くらい海岸に上がってきた。三、四日いたら日本人女性がついてまわっていた。

福　岡 男 73 慶南 '26 ・これで朝鮮半島がよくなるのかと思った。周りに同胞がいたが、戦争が終ったのを聞いて本国に何人かが帰国し、残っているのは金がなく帰国出来なかった。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・つらい仕事からの解放感と、これを期に国に帰れる嬉しさでいっぱいだった。今まで死んだ同胞の数とその状況を思うと、それでも足りない程だった。私も加わったがすぐ帰国しなくてはいけないと思い、仲間をつのって団体で博多へ出発した。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・解放後、朝連等の活動はしなかったが、博多港に帰国者が相当数集まり、帰国の準備をしながら同胞と協力しあい、自治活動等を行なった。一時、無法状態であり、日本人との間にイザコザが多く、死人も出ていた。当時終戦まで私は統制会社といって戦時中、軍の統制品目になっていた木材等の調達をしていたので、日本人の知人が多く日本人とのイザコザはほとんどなかったが、日本人社会での立場が保障されていたので解放を迎え、嬉しさは勿論多大であったが、生活の方向が180度転換されたため戸惑いもあった。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・山に行ってバンザイを叫んだ。周りの同胞と帰るのに一生懸命だった。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・その時仕事の責任者だったが、仕事を辞めてくれと言われたので、なくなく聞いてみると天皇が手をあげたということを聞いた。本国に帰らずに日本で儲けて暮らそうと思った。身体も自由になったし、飯も食えるようになった。

佐　賀 男 59 満州 '45 ・大変な喜びであり感激した。あまりの嬉しさに万歳を叫んで、そこいら中飛び回った。同胞についても同じ状況だった。

佐　賀 男 65 慶南 '40 ・生まれてからずうっと日本の教育を教えこまれたので、その当時は本当に残念だと思った。付近の同胞は集まって何日も仕事をしないで、鶏をつぶして酒飲んで大騒ぎをしていた。

宮　崎 男 67 慶北 '32 ・例えば川の水が切れて、岸部の石の下に魚が集まっておるので、石をひっくり返すと四方に逃げ散るように解放を喜ぶ心はあっても、無秩序な何の目的もないと言った様な状態で右往左往するのみだった。

第5章　民族運動との関わり

⑱　八・一五解放の日（1945年）

1945年8月15日、光復の日。祖国を奪われ、民族のことばも、名前も許されず、異郷の地で貧困と差別に喘ぐのみであった当時の一世たちにとって、祖国の解放はどれ程にうれしかったでしょう。日本全国、津々浦々で約200万人いた一世たちにとって、一日も早く祖国に帰りたい、生まれ育った故郷に帰りたい、そして父母、家族に一刻もはやく会いたいと思うのは、当然すぎる程、当然のことでした。しかし戦争による破壊の為、関釜連絡船のある下関に行くことは大変困難であり、戦後の混乱の最中で治安や食料の面での問題も深刻でした。同胞が力を合わせて、互いに助けあってゆこう、その様な気運が出てくるのは、ごく自然のことと言えましょう。全国各地で同胞の集りが、多数発生してゆき、一時期には300以上の団体が結成されるまでに及びました。これらの団体が全国的に大同団結して、全国的な組織をつくろうという動きの中で、純粋な福祉厚生団体である「在日本朝鮮人連盟」(朝連) が1945年10月に結成されました。ところがこの「朝連」は当初、何の政治的色彩も持たない福祉団体であったのに、日本共産党の指導下にある人士が、共に「朝連」を構成する自由主義者、民族主義者を結成の日に暴力的に追い出し、この生まれたてで巨大な全国組織体を

急速に共産主義化してゆくのです。上層部の動きが変っていっても、一般の一世同胞には何の関係もありません。食べてゆく為に、生活を守る為に一生懸命でした。交通の利便を図ってくれること、配給制の食糧を配ってもらうこと、そして自分たちの子供たちに民族の言葉を、歴史を教えてもらうことが大事だったのです。駅の字が読めないハラボジを案内してくれる、ハルモニの重い荷物を代ってもってくれる、祖国に帰る船の手配をしてくれる等、こういった当時の同胞たちが生きてゆく上で助けとなり、心の拠り所であったのが、当時の民族団体であったと思います。しかしこのかけがえのない“ウリチョジク”(私たちの組織)が、おかしな方向に行っている、変な思想や考えを押しつけてくるといった声が起き高まってゆく。このとまどいの中で同胞は、自由民主主義と民族的立場に立つ、「朝鮮建国促進青年同盟」(建青)の呼びかけの下に結集し、天皇を暗殺するといった罪に問われ秋田刑務所に拘置されていた朴烈を代表に1946年10月3日、「在日朝鮮居留民団」(民団)の結成を迎えたのです。

日本帝国主義の支配下から解放された祖国は、光復の喜びにひたる間もなく、南を米国、北をソ連の影響下におかれ、分断の影が差し込んでいました。そして1945年12月に、「五ケ年間を期限とする信託統治を行う」という所謂、モスクワ協定によって分断状況に拍車がかかってゆきます。南では空前の反信託統治運動が盛りあがりを見せ、北においては、これを無条件に受け容れるに至り、その影響は当然、在日同胞社会にも反映されてゆきました。共産主義の立場をとる「朝連」は賛成へ、相対する「建青」「民団」は反対と、その対立はますます激しくなってゆきました。同胞同士の暴力的対立は、その度合いを増してゆき、最後には数多くの死傷者が多数出るにいたるまでとなりました。同じ故郷をもち、共に苦楽を分かち合ってきた同胞同士が互いに憎しみ合い傷つけ合うという哀しい時代を、解放の喜びにひたる間もなく一世同胞は迎えたのです。

質・量共に圧倒的な組織力を誇る「朝連」と極めて少数で組織基盤も弱い「民団」との抗争は、当然、「民団」が守勢に回らざるを得ませんでした。「朝連」は、当時の闇市の利権、配給制の食糧の管理、「民団」系の同胞に対する危害を加えたり、治安の管理等を青壮年層で構成される保安隊などによって暴力的な行為をほしいままにしていました。そしてこの「朝連」の“暴走”に対して1949年に「団体等規正令」により解散を命じられ、その短い歴史を閉じたのです。

1950年6月25日、韓国動乱が勃発、同族相残の戦争が起こり、在日同胞も否応なしに巻き込まれてゆきます。旧「朝連」系と「民団」の抗争も激しさを増し、所謂“火炎ビン時代”に突入し、相方の不信・憎悪は決定的になり、在日同胞社会に38度線が引かれてしまったのです。この抗争の時期にあって「朝連」の暴力的な体質に嫌気がさした人や共産主義に嫌悪感をもつ人たちが、「民団」組織に集ってゆき、その組織基盤は徐々に拡がってゆきました。当時の「民団」幹部は、それこそいつどこでも「朝連」の襲撃にそなえて懐中に短刀やピストルをしのばせていたという逸話が数多くあります。1953年韓国動乱が休戦を迎え、抗争もピークを終え、沈静化してゆき、2年後には旧「朝連」系の組織は「在日朝鮮人総連合会」(朝総連)となり、幾多の変遷を経て今日、「民団」が「朝総連」を凌駕するにいたったのです。

この章では、解放直後の一世たちの歓喜の声と新しい組織づくりと新しい国造りに燃え、走り回る姿が浮びあがっています。そして当時の同胞と組織がいかに密接に結びついており、心の拠り所であったかが理解できます。その一世同胞の姿が容易に目に浮かぶほど、逆に相方が南北に分断してゆき、互いに傷付け合うことの哀しさも感じざるを得ないのです。

質問M：解放後、民族団体に参加しなかった方、その理由をお話し下さい。

⑲ 南北分断による同胞同士の抗争は激しさを増し多くの死傷者を出していった（1949年5月8日）

東　京 男 65 全北 '27 ・誘いがあって、しばらく参加していたが、本国において朝鮮戦争で父と妹夫婦が北軍に殺されたと聞いて、一切参加をしなくなった。

東　京 男 53 済州 '42 ・参加する様な暇など無かった。

神奈川 男 75 慶北 '30 ・クリスチャンなので、伝道の方に力を入れた。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・団体の存在を知らなかった。山村の飯場生活をしていた為、団体の存在すら知らなかった。

茨　城 男 66 慶北 '39 ・私は団体組織に入らないというよりも、私個人、韓国人という自覚をもって、いつ韓国に行けるか、本当に行けるのかという事ばっかりを考えた次第です。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・連盟。参加する気持ちがなかった。何の興味ももたなかった。

西東京 男 66 全南 '35 ・そういったものに縛られるのが嫌いだったから。

西東京 女 72 慶北 '28 ・働いて食べるのに必死で余裕がなかった。

西東京 女 74 慶南 '32 ・家が苦しくて、それどころではなかった。

西東京 男 59 全南 '42 ・参加できる状態でなかった。

西東京 女 56 全南 '27 ・生活に追われていて、それどころじゃなかった。

西東京 男 64 慶北 '42 ・生活するのに一生懸命で、そのような団体に参加する余裕がなかった。

西東京 女 88 慶北 '38 ・すでにかなりの年になっていたので、そういう事に参加しなかった。

西東京 女 68 忠北 '42 ・身体の具合が悪くて。知らずに北鮮系に居たことがあり、その事を出ると言われて耳が痛かった。（ママ）くやしくて行かなかった。

西東京 男 57 全南 '39 ・自分の周りには同胞がいるのかいないのかも分からなかったし、ただ参加はしたかった。

愛 知 男 71 慶北 '34 ・解放後２年間食うものも食わず苦労したので、民族団体に参加する余地がなかった。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・民団と総連に分かれて、どちらも政治的な意味合いを強くしてきたので、統一にはよくないと思った。

愛 知 女 60 京畿 ・はんのつき合い

愛 知 男 62 慶南 ・青年同盟、悪いことばかりしていた。みんなを食べさせたりしていた。みんな自分勝手。

愛 知 男 60 慶北 '38 ・生活に追われて。

愛 知 男 60 平北 '44 ・働いて食べていくのが精一杯の生活でしたから、参加する余裕がありませんでした。

愛 知 男 75 慶南 '27 ・自分の生活を支えるのが精一杯だった。

富 山 女 73 慶南 '35 ・同胞たちが職もなくたむろしており、あまり仲間に入りたくなかったので参加しなかった。

大 阪 女 61 慶南 '43 ・子供を食べさすので精一杯で、そんな余裕はなかった。その時は田舎（対馬）へ行っていた（子供をつれて）。

大 阪 女 73 済州 '33 ・夫が入っていたので入会したが、積極的な行動や運動はしなかった。

大 阪 男 71 慶南 '31 ・団体の存在は知らなかった。

大 阪 男 57 京畿 '43 ・関心がなかったから。

大 阪 男 62 済州 '43 ・家も何もなく、参加したところで役に立たないと思い、しなかった。

大 阪 男 55 慶南 '44 ・一定の場所に定着していなかったから、そういう活動なんかはできない。

大 阪 女 76 慶南 '33 ・家庭を守るのに精一杯で余裕がなかった。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・アボヂは、加入したが、興味がなかったので、全然できない。（ママ）

大 阪 女 71 慶北 ・田舎にいたから、そんな団体なかったし、あまり関係もなかった。

大 阪 男 63 慶南 ・その当時は、民族団体に入る時間がなかった。

大 阪 男 69 済州 ・田舎だから、団体がある場所から離れていた。

大 阪 男 64 済州 ・噂は聞いていたが、暇がなかった。

大 阪 女 59 全南 ・食べるのが忙しくてそれどころでなかった。

大 阪 女 60 済州 '41 ・参加する気持ちが、わかなかった。

兵 庫 女 68 慶南 '30 ・家事が忙しくて、そんなん参加できるかいな。金もうけせなあかんのに、そんな暇あるかいな。

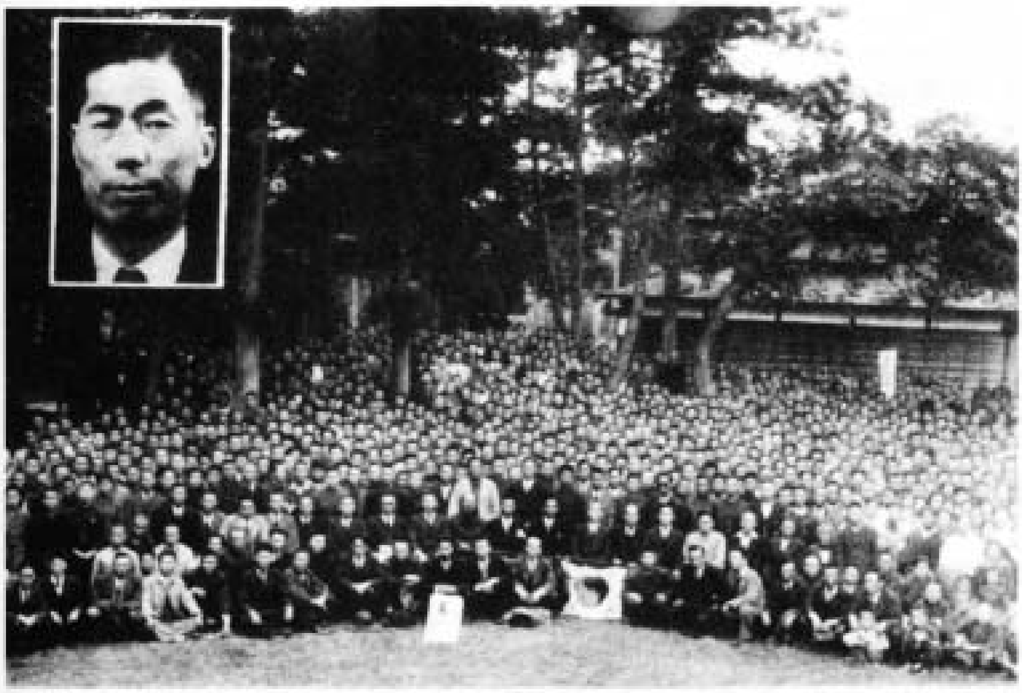
兵 庫 女 71 慶北 '34 ・字も分からなかったから、出るのがこわい。

兵 庫 男 59 慶南 '39 ・日本人の所に住んでいたので、そういった所へ行ったら、何か言われそうな気がした。

兵 庫 女 59 済州 '36 ・あるのは知ってたけど、生活が苦しかったから出えへんかった。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・働いていた（興味なし）。時間がない。
兵　庫 女 72 慶北 '24 ・朝連の人が来たので、自分は南朝鮮だからと断った。
兵　庫 女 64 慶南 '38 ・豊岡には民族団体がなかった。人数が少なかったので。
兵　庫 女 63 慶南 '39 ・自分達、貧しい人達を楽にしてくれる様に民族団体にすがってみたが、結局、何もしてくれなかったので、今でも参加しない様になった。
兵　庫 女 70 慶南 '37 ・同胞の友達もなく、また自分が生きるだけで精一杯でそんなとこに行く余裕がなかった。
兵　庫 男 60 慶北 '36 ・興味はあったけど、積極的には出ていない。生活的に余裕がなかったから。
兵　庫 男 60 慶南 '38 ・当初は存在を知らなかった。職がなかったので、生活の為に走り回っていた。朝連の幹部が近所のゴロつきみたいな奴で、みんなに嫌われとった。そういうやつを軽蔑していたから。
兵　庫 女 77 慶南 '24 ・私のまわりにも参加している人はいなかったし、子育てで忙しかった。
兵　庫 男 69 慶南 '30 ・自分自身入る気持ちもなかったし、誘われた事もなかったので、参加しなかった。
兵　庫 男 65 全南 '37 ・当時、田舎に住んでいたので知らなかった。それに無学だから私は各地を転々としていたので、そういう団体に触れる事もなかった。
兵　庫 男 60 慶南 '36 ・朝連の学校が二つあったのを知っとった。トラブルが起こった。阪神支部の総務部長が殺された。トラック乗って、石積んで、ピストル持って…。
兵　庫 男 62 慶北 '41 ・そんな団体に入る間がなかった。自分の生活をするだけで働くだけで暇がなかった。
兵　庫 男 64 京畿 '44 ・そういう団体がなかったし、知らなかった。
山　口 男 67 慶北 '42 ・自分たちの回りにはそういう団体がなかったし、そういう団体があること自体知らなかった。
山　口 男 78 慶北 '27 ・民族団体がこの地区になかった。
山　口 女 59 全南 '39 ・自分は団体があった事を全く知らなかった。
山　口 男 61 忠北 '30 ・当時、韓国に帰る為に全国から人が下関に多数、集まって来たので、その整理をしたり進駐軍の手助けをした。
山　口 男 68 慶南 '31 ・韓国人というのが少ないしそんな団体があるという事が分からなかった。
山　口 男 55 慶北 '43 ・解放後も船に乗って日本近海を操業していた。
福　岡 女 65 慶南 '43 ・自分は、言葉が分からなかったので参加しなかったが夫は、いろいろ参加していたようだ。
福　岡 男 73 慶北 '32 ・仕事が忙しかった。
福　岡 男 70 慶北 '41 ・子供達を育てる為、精一杯である。
福　岡 女 57 慶南 '44 ・韓国内にいた。大韓婦人会で活躍していた。
福　岡 男 58 慶南 '42 ・生活が先でその団体の存在が分からなかった。
福　岡 男 73 慶南 '26 ・日本人の中に暮らしていたし、民団があるのか、またないのかも分からなかった。

質問N：解放後、民族団体に参加された方、当時の状況、出来事をお話し下さい。



㉘　秋田刑務所から出獄する朴烈を迎える同胞たち

北海道 男 59 忠南 '42 ・生活中心だったから、民族団体への参加もつき合い程度でしかなかった。生活することで手一杯であった。食糧の配給が始まったのも、終戦1年を経てからなので、その間が最も苦しかった。その当時の苦しさは、日本人も韓国人も同じ。日本人で農業をしていた人たちが、一番生活に困らなかった。自分で作った米を取り上げられることもなく自分で食べることができたから。

北海道 男 65 済州 '34 ・解放後、民族の一員として連盟に参加した。自分も帰国したいと思いながら、大阪で韓国に帰る人々の世話をした記憶がある。

東　京（不明） ・朝連の青年達が夜、家を取り囲んで「出ていけ」と言われた。子供がそのため、警察を呼びに行ったら「その子を殺すんだ」と、その青年達は翌日家にのり込んで、家さがしをした。

東　京 男 62 済州 '31 ・兵庫の多賀で終戦を迎え、そのすぐ後に建国青年同盟が結成され、それに加わり、建設次長として、逮捕された朝鮮人などを引き取りに行ったりした。朝鮮人の指導及び取締りを行なった。

東　京 男 61 済州 '40 ・当初つき合い程度で参加していたが、そのような状況下で動乱が起き、以後、民族団体対朝総連のいざこざがあった。商売が失敗して大変な

こともあったが、民団との関わりでいえば、同胞がいて楽しかった。そのような関わりあいがあったので、民族組織が好きだった。

東　京 男 69 京畿 '34 ・集会などがたまにあった。大体、日本において在日韓国人の生活等について話し合ったように記憶している。但し、当時はかなり混沌とした時代であり、組織等の区別がはっきりしてきたのは、動乱以後であると記憶している。

東　京 男 62 全北 '52 ・自分の国が南の方で、親戚なども南に居たし、自分の考えでも民団の方を支持した。よく総連系ともめた。幹部として、よく参加した。

東　京 男 64 済州 '32 ・朝総連の関係で色々な争いがあった。

東　京 男 55 済州 '45 ・当時、足立に民団がなくて、初めて足立に民団が出来たとき、父が団長になった。民団混乱期であったため、朝総連系に多くのいやがらせをされた。周囲はほとんど朝総連系であった。

東　京 男 64 慶南 '39 ・朝鮮人連盟の人たちが、同胞をいじめたりするので、それに対して反対組織を作った。

東　京 男 66 済州 '36 ・昭和29年頃、浅草で総連に参加し、その後、引越しを機会に民団に移籍した。その当時、籍を移したことを理由に暴行を受けた。

東　京 女 57 全北 '38 ・国際キリスト教会の中で、21名で朝鮮人連盟を主人と自分を含めて結成した。また民青との対立があった。

東　京 男 66 済州 '31 ・民族意識をもち、自然に参加した。参加したほとんどが組織の内情、目的などをよく理解していなかった。また組織自体も複雑だった。

東　京 女 68 慶北 '31 ・何かの団体が必要であり、最初は民団がなかったので朝連に参加し、子供達を民族学校へ通わせた。その後、子供の教育のために民団に切り替えたが、当時は民団側と総連側との抗争が激しく、物を投げたり、火をつけたりしていた。この当時から民団に入っていた人は、あまりいないと思う。

神奈川 男 85 慶南 '22 ・"吉田茂"氏が首相の時、赤刈りで事務所などを没収されたのが悔しかった。当時2万から3万ぐらい寄付した。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・思想の違いで総連としょっちゅう喧嘩していた。MPにつかまり鶴見の留置所に3泊入った。促進同盟に入った沼部上南支部・玉川分団の団員が世田谷支部の……。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・そこに入れば帰国もでき、子供を民族学校にも入れられるという気持ちだったし、その頃は寄付もした。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・今と違ってみんながんばって燃えていた。

千　葉 男 70 慶北 '36 ・自分は民団が出来てから、すぐ民団に移ったが、朝連はいつも、勧誘に来ていて、無理矢理入れさせようとしていた。総連の人でも、昼間は、みんな隠れていた。

千　葉 男 61 慶南 '41 ・青年だけで60人程度だった。朝連と建青が二つに分かれたときはものすごい喧嘩をした。その時、幹部だったのでチャッチ隊（自治？）に連れていかれ、半殺しの目にあった。

千　葉 男 60 慶南 '36 ・総連との対立があった。

千葉 女 64 全南 '44 ・千葉で市役所（現県庁）の２階を借りて、集まった。これからは、団体で行動しよう、今までのように日本人にペコペコしないで堂々とすることを誓った。

千葉 男 65 慶南 '40 ・熊本から福岡にかけて、活動。民団ができるまで同胞のほとんどが加盟していた。

千葉 男 63 慶南 '37 ・みんなが万歳三唱をして喜んだ。その時は、日本人より、優位になった。実際日本人に対して、恨みをはらしたりした人もたくさんいた。

千葉 男 63 慶南 '37 ・いろいろ活発に活動もし、たえず争いもあった。

茨城（不明） ・解放されたので、これからは正々堂々として生きていくんだ。また、日本人にゴマスリしながら生きていかなくてもいいんだ。国にも、帰れるのだという言葉が出てきて、意気盛んだった。

茨城 男 51 慶南 '45 ・青年時代で言葉やハングルの文字が他の若者達よりも知っていたので、民族学校、創立時に講師の様な形で参加させられた。

茨城 男 69 慶南 '32 ・特別な理由はなく、昭和20～25年参加（朝連）。特に記憶なし。

西東京 女 66 慶南 '29 ・旦那さんは積極的に参加していた。自分は何か事があると（デモ、結婚式等）手伝いに行っていたが割りとよく参加していた。

西東京 女 66 慶南 '36 ・旦那さんがやっていて自分は良く解らない。

西東京 女 59 慶南 '37 ・友人等がいたので付き合いで参加した。

西東京 女 75 慶南 '28 ・役職には付いていたが、生活が苦しく食べることに追われ、あまり参加しなかった。

西東京 男 72 慶南 '39 ・役員をしていた。民団運営がむずかしかった。

西東京 女 59 慶北 '40 ・よく集まりの場を持っていた。集まっては「北」か「南」かどちらを選ぶかワイワイ話し合っていた。

西東京 男 69 慶北 '28 ・韓国はこれからどの様に生きていくかなどの指導をしたりした。

西東京 男 63 忠南 '40 ・あまり記憶にないが、博多に住んでいた頃の幹部の人達は活発に活動して凄かったのを覚えている（連盟の学校建立の件で）。

西東京 女 70 慶北 '31 ・特に夫や長男が積極的に参加し、幹部として活躍していたので、デモなどもよく参加した。自分は婦人会の方の幹部として、近所で冠婚葬祭があれば、飛んで行き、いろいろ世話をしてあげた。

西東京 女 70 全南 '30 ・動員がかかった時、夫について行くぐらい。

西東京 女 72 慶南 '30 ・主人が友人達とのつき合いで参加。自分はそれに従っただけ。当時の状況は記憶にない。

西東京 男 66 忠北 '37 ・昔、総連に参加したが、自分達の意思で民団に変わった。その時、民団役員に何かあるたびに元総連といっていじめられた。

西東京 女 59 慶南 '39 ・幹部の人達は半端じゃなくすごかった。

西東京 男 60 全北 '38 ・田舎に住んでいたが他の同胞が日本人に殴られたり、いじめられたりしていたら、団体で応援しに行って話し合いをしたりして解決した。とにかく差別をなくそうと一生懸命協力してやった。

西東京 男 72 慶南 '40 ・特別、積極的に参加したわけではないが日本人に復讐しようという気持ちが強かったので。例えば同胞が日本人にいじめられたりしている

と、すぐにかけつけ助けてあげたりした。

西東京 女 75 慶北 '30 ・最初は民団と言う様な団体は無かった。朝連の団体しかなかった。朝連の人はお金も有ったし、頭も良かった。その反面、民団の人達はお金もなかったし、頭もいい人が余りいなかった様だ。なんでも朝連より遅れていたみたいだ。

西東京 女 61 慶北 '41 ・当時天皇を襲い、秋田の刑務所にいた青年が終戦で釈放され、その人が日本人に襲われるかもしれないので、皆で警護したのが始め。

西東京 男 62 慶南 '39 ・一青年の天皇暗殺未遂をきっかけに民族意識に目覚め、東京に出て来て民族団体（こちらの）に参加。

西東京 男 57 全南 '40 ・同胞達が一様に集まって、これからの韓国人民としてのあり方を話し合っていたので自分も仲間として参加した。

西東京 男 72 忠南 '40 ・出来事というより、今の民団員より考え方がしっかりしていたと思う。

西東京 女 72 済州 '41 ・旦那さんが参加していたので何かある時について行く程度。

静 岡 男 64 慶北 '38 ・毎日、事務所に集まり、子供達に韓国語を教えたりした。

愛 知（不明） ・仲間が皆、連盟に入り、一緒に活動していたが、1948年に妻が渡日して来て、非常に反対したため脱退した。連盟には、思想的に入ったのではなくそれしかなかかったためで、民団には思想的に入団した。

愛 知 女 65 慶北 '43 ・最初は、朝総連に加わっていたが、思想や人間性、祖宗などが違うため、民団へ変わった。

愛 知 男 58 慶南 '40 ・まず、朝連をつくるために頑張った。朝連を結成してから、体をこわし入・退院する頃にはいろいろな団体が30程あった。そして諸団体で争いがあったが、すでに民団が出来ていた。それからは、支部を結成するために頑張った。

愛 知 男 60 慶北 '43 ・自分達の生活を守るため、家庭訪問をしながら団結力を固めていった。

愛 知 男 77 忠北 '28 ・朝連に参加しましたが、分裂するとすぐ民団に移りました。自分がいた（朝連時代）支部では、朝鮮学校へ子供を入れ、またそのために、お金を集めたりしました。その時は、すでに赤化されはじめていて、自分の考えとあわなくなり、民団にはしりました。その土地を離れて、すぐ民団豊橋支部を作りました。また、大崎では朝総連の者たちからだいぶ嫌がらせを受けました。道を行くと、わきの女性たちからも、だいぶひどく罵声（口に出して言えませんが）をあびせられました。また、私の子供たちも朝鮮学校へ通う子らに捕まり、殴られたり石を投げられたりしました。

愛 知 男 73 慶尚 '28 ・よく内容は覚えてないがデモをよくやったと思う。

愛 知 男 60 全南 '42 ・同胞たちの帰国を手伝った。日本政府から切符が配られ、同胞たちに配り、自分は一番最後に帰るつもりだった。しかし、自分が帰る時に事件に巻き込まれて帰れなくなった。

愛 知 男 76 慶北 '24 ・民団と朝連の関係で、民団が朝連に嫌がらせをされた。支部団長を朝連の事務所に連れていかれ、1ヶ月のケガをさせられていた。

愛 知 男 75 慶北 '32 ・朝連に参加し、そのうち民団と朝連に別れ、それから、民団に参加し

た。支部の事務所を建設するために、お金もたくさん出したが、ちょっとして朝総連に事務所を捕られたりしたこともあった。

愛 知 男 74 忠南 '26 ・北海道に住んでいた時、連盟という、組織ではなく、朝鮮人援護局の幹部として、活動をしていた。その時、網走刑務所にいた同胞の援護活動とか帰国の手続き活動をしていた。

愛 知 60 慶北 '39 ・最初は、韓国の旗を立て、やり始めたが、韓国動乱後、二つに分れてしまい、殴られたり、支部同志でガラスを割ったりして、戦争みたいなものだった。

愛 知 男 58 慶北 '39 ・腕に青年団の腕章をつけ、警察に乗り込み戦争中に捕えられた人を取り返しに行った。民族教育をするために日本の学校に通っている韓国の子供達を日本の学校の授業が終わってから、小学校の体育館に集めて勉強を教えた。

愛 知 男 71 慶南 '29 ・民団と朝総連との間で争いがありました。民団支部創立総会の時には民団員四、五人朝総連員七、八十人でしょっちゅう、邪魔され「自分を殺す」などと言ってよく妨害された。何か集会を開くと、よく対立し合い、警察が介入したことも何度がありました。

愛 知 男 60 慶北 '40 ・朝連から建青に入った当時、総連との喧嘩が断えなかった。よく日本刀を持って喧嘩をしたものである。

愛 知 女 60 京畿 ・ほんのつき合い程度なのでよくわからない。

愛 知 男 62 全南 '41 ・最初、朝連しかなかったので、それに参加したが、進む方向が違ってきたなと思い、建設同盟に参加した。この両者の抗争は、今、思い出しても震えが来る程、恐ろしかった。どちらかが大会を開くとトラック一杯の青年が武器を手に襲って来たものだ。

愛 知 女 65 全南 ・誰も協力してくれず、その当時、何回も家庭訪問を繰り返し、何とか今の名西支部婦人会を創った。

愛 知 男 62 慶南 ・雑炊をすすった。米がない芋を食べる。人数多かった。青年同盟が出来てから、いろいろな同盟が出来るようになった。倉庫などから物をみんなで取りに行ったりした。こういうことをしていていやになった。1年半のうちに財産を食いつぶして活動をやめた。

愛 知 男 60 慶北 '41 ・当時の朝連は、政治的な色合いは全くなく、生活のため、流浪している朝鮮人をひとつにまとめ、彼らの生活の向上に努める為に頑張った。ヤミの焼酎を作って罰を受けた時も警察権力とたたかった。

愛 知 女 56 京畿 '45 ・戦前に買っておいた丸太が高く売れて、大変裕福だったので金銭的にかなりバックアップした。が、政治思想が強くなってきたので利用されるのがイヤでやめた。

愛 知 男 71 慶南 '37 ・北送船で北へ瀬戸からかなりの人が帰った時、北朝鮮はよっぽどいいところだなあと思った。

愛 知 男 66 慶南 '40 ・まず食べていくことが一番で知らないうちに民団に入っていた。民団に入った頃、総連の人が家に来て息子を「学校へ入れろ」といやがらせをした。

愛　知 男 72 忠南 '27 ・解放後すぐ手伝った団体は朝鮮人の権益擁護だけが目的だった。引き上げ希望者を無料で列車に乗せ下関まで送った。

愛　知 男 79 慶北 '31 ・連盟に入った時、幹部として活動していたが、意見の違いで殴られて、頭にきて、それから民団が出来るまで参加しなかった。

愛　知 男 73 慶北 '28 ・家にいると朝総連の人間が来て、朝総連に「入れ」と言われ、「いやだ」と断ると「殺す」と言われた。慌てて警察に通報し、約1ヶ月警護してもらい自分も隠れていた。

愛　知 女 61 慶北 '40 ・主人も近所の人たちも、始めは朝連に参加しましたが、色々仕事をしてみると自分達には理解できないことが多くなり、これではだめだと数人の人達と民団を創るためにがんばった。その内、朝連の者たちは主人を殺そうかと考えていました。その為、いつもいやがらせなどが絶えませんでした。

愛　知 女 80 慶南 '32 ・ただパスポートをとりたかっただけで、団体のことはあまり分かりません。

岐　阜 男 56 済州 '44 ・みんなで集まって解放を喜び合った。自分達の祖国が戻ったとか、朝鮮人に戻ったとかいって喜びあった。自分達の民族が戻ったことを喜んだ。"金天海"が共産主義団体として変化させていこうとすることがわかるようになって、1人、2人と参加しなくなった。みんなは民族の一員として団体に参加していたのに、裏切られたような感じであった。

岐　阜 男 71 慶北 '27 ・民団で青年団を組織するとき入選をした（すぐには組織に入らずしばらくして民団に入った）。救済事業をやった。民団結成時に参加→牧師中心に結成した。東京は今のＹＭＣＡの人が委員長をやった。ずっとあとになって団長に推薦されたが忙しいので断った。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・自分の国に行きたくて民団に入った。

富　山 男 64 慶北 '33 ・私の地方にも、朝鮮人連盟支部設立するとのキャッチフレーズで何の事かもわからないまま出席した。朝連中央幹部数名が壇上に羅列し、我々は36年間苦悩の道を歩いたが、今や戦勝国であり、解放され自由になった。しかし、我々の生命、財産、人権を保障してくれる者は誰もいない。そこで我々は団結して上記事項を守るために、朝連支部を結成する。これに反対する者は民族反逆者だ。参加者皆賛成し、成立した。後日、私用あって東京調布の親戚に立寄ったとき、民団の前身の朝鮮建国促進青年同盟朴烈氏を先頭に結成した、との孫相浩氏の弁、私は分裂はよくないと主張したが、朝連は容共団体である。君は田舎者だから何も知らないと笑われた。それから私の耳目は変った。そして正体を現した。私は朝連に訣別した。当時私は総務部長であった。

富　山 男 65 慶南 '37 ・日本で韓国人として生きて行くときに、何か民族団体に加入する必要があると思い連盟に入った。

富　山 男 53 咸北 '43 ・韓国学校の教師として勤務し、現在、韓民統のある所で韓青を設立し、いろいろ苦労した。

富　山 女 80 慶北 '30 ・よくわかりませんが、戦争後すぐ連盟ができて、その中に入ったのではないかと思われます。私達は韓国人はみんな入るものと思いこんでいました。唯一大変いやなことがありました。私達の近くに住んでいる朝鮮人は（みんなはじめは朝鮮人だった）1人残らず、日本の政府から生活保護を受けるよう連盟の人からいわれた。私達夫婦は、それはしたくありませんでした。ひどい生活をしようとも、できれば日本政府からのお金をもらいたくなかった。将来息子が大きくなった時、そのようなお金をもらえば息子の出世に影響すると思った（出世できない)。保護を受けることを拒否しますと、連盟でいやがらせや村八分みたいなことをされた。それ以来連盟に不信感をもち、一度も集会や行事に参加しなかった。

大　阪 男 57 慶北 '43 ・食うものもなく九州でさまよっており、食べ物欲しさに日本人にものごいをすると、連盟に行ってもらえと言われ、そこに行くとパンをもらった。

大　阪 男 76 済州 '26 ・参加しなければ（周りの状況）ならないようになった。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・毎月200～300円になった頃から民団ができたと思う。会費を6ヶ月ぐらいためておくとカンペみたいな人達が取りに来た。（個人的に委員長がよこした）何度も来た、しまいに東京から体の大きな人が来て、話をしたり国の話をしたりしているうちに会費の話も消えた。

大　阪 女 70 慶北 '33 ・付き合いぐらい。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・地元の事務所で四、五十人集まった。総連との対立はなかった。

大　阪 女 75 慶北 '27 ・この付近は民団と朝連のいがみ合いばかりしていた。今の本部も、民団と朝連がもめ合い、そして民団になった。

大　阪 女 76 慶南 '33 ・韓国人の知り合いに誘われて行くようになった。行事の時だけ。

大　阪 男 70 済州 '27 ・運動等も端から見ていた程度で具体的に参加した憶えがない。

大　阪 男 58 慶北 '41 ・事務所は大和高田に奈良本部があった。1000人～2000人来た（大会で）1年1回ぐらいあった。三・一、八・一五記念大会があった。動乱時、民団で奈良県全体で募集して政府に送った。防衛隊員五、六人参戦、二、三人日本に帰国。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・山口にいるとき朝連だった。民団側に朝連がふきかけていた。民団に対して参加している人の家などに石を投げるなどし、あまり民団はいいものではないと思った。北鮮は良いとみんな思っていた。朝連に入っていた時は、話を聞くなどしていただけで特に活躍していなかった。

大　阪 女 62 慶北 '40 ・解放当時はみんな連盟だったが、そのうち二つに分かれて、朝連と民団に分かれて喧嘩をしていた。今の民団本部も元は朝連だったが、今は民団の本部になっている。当時は民団と朝連がいつもいがみ合っていた。

大　阪 男 61 慶南 '41 ・連盟とよく喧嘩した。その当時、東大阪にいた。8割くらい連盟がいたので。連盟は連盟なりに、思想的な対立でよくやった。死にものぐるいでやった。

大　阪 男 52 済州 '43 ・朝連の方からよく、活動を邪魔された。

大　阪 男 63 全南 '37 ・連盟の保安隊で参加。駅などに待機し、米を持った日本人のは奪い、韓国人ならば知らんぷりで、道を通したりした。その当時、警察の力が弱いために。

大　阪 女 57 慶南 '40 ・朝連事務所にみんな集まって、毎日会議した。手帳（外登）を作ったりした。

大　阪 男 79 済州 '20 ・共産主義反対。50～100人集まった。

大　阪 男 64 ・いい格好をして俺達を利用して裏ではメチャクチャ。ムショを出ても誰も何も言ってくれなかったので連中と縁を切った。結婚して一人前の人間にならなくてはいけないと民団に入った。戸籍を取り寄せてもらってうれしかった。

大　阪 女 61 慶北 ・主人が団結しなければならないと建設同盟に参加し、寄付もたくさんしたが、だんだん思想が合わなくなったので民団結成に参加した。

大　阪 男 60 全南 ・誰でも朝連に入って朝鮮人は、誰かれなしに名簿を作った。

大　阪 女 60 済州 '41 ・帰国のための便宜をはかったもらうため。

大　阪 女 72 慶北 ・主人が民団支部、創立当時から活動していたので、総連と人の取り合いをした。

兵　庫 男 68 慶南 '30 ・その時、そこへ行けばみんなと会えるという感覚でしたので、他の組織的なことはこれといって記憶はない。

兵　庫 女 68 済州 '40 ・別に自分で参加しようと思ったわけじゃなく、近所の人が誘いに来て、デモに出るとか会費を払えと言われたら、払うとかぐらいである。

兵　庫 男 75 慶南 '35 ・当時あちこちで同胞同士の衝突があった。私もその頃は若く、何も分からないまま、目上の人達と一緒に喧嘩をしに行った。とにかくやらなければやられるといった状態で、一般動員をやってた。詳しいことはあまり覚えてない。

兵　庫 女 73 慶南 '28 ・最初、朝連に入った。民団があとから出来て、阪神では抗争があった。死人も出た。

兵　庫 男 60 慶南 '41 ・個人では何も出来ないから、みんな団結した。付き合い程度で参加したけれど、北と南の争いで同盟もつぶされてしまった。その後に民団が出来たようだった。

兵　庫 男 65 慶北 '38 ・在日朝鮮人連盟を作った理由は、われわれ財産、生命を守るためと言うことで作った。アメリカ人が天皇に爆弾を投げたが失敗して捕まったのが残念だった。

兵　庫 女 55 慶南 '43 ・最初合同で行なわれた（朝鮮人連盟）団体に参加したが、後にそれは朝鮮系で、それに参加していたら韓国へ行けないと言われてやめた。その後、民団が出来たのでそれに参加した。朝鮮人連盟ができ、田舎にいた連中の名簿を作った。参加してないと、殺されても解らない様な状態だった。（街中では同胞が集まっていたので、そういう危険はなかった）。

兵　庫 男 67 慶北 '33 ・解放後、朝連布施支部に参加。青年同盟（民青）の結成準備委員長と

して活動していた。ところがか朝連が共産主義に流れ出した。そのひとつに東京では日本共産党員講師を招き、八・一五政治学院で3ヶ月間の学習会が開かれた。私も東京に行くように誘われたが、結成当初の主旨と食い違ってきたため、支部内で意見が対立、脱会、その後もしつこい誘いがあったが断り、三、四年後、民団に参加した。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・民族運動をした人達が幹部になっていた。当時は韓国で、小学校を出た人が少なかったので字の分かる人も少なかった。幹部になる人は、字の分かる偉い人達がなったんだろう。分会長をした事もあるが、する事もまんねりで、生活を維持するのに大変でそうそう続けてばかりもいられなくなった。

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・友人に入らないかと誘われて入って、そのうちだんだん共産系がいやになってやめて、今の民団に入った。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・生活に追われて行く暇がなかった。北の方から誘いがあったが断った。500円くらい取りに来て、何故、南なのにやらにゃいかんのかと言った事もあった。

兵　庫 女 65 済州 '28 ・みんな朝連を大きくしようと必死だった。お金集めを懸命に頑張った。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・最初は朝連に入っていたがベルゲだと分かって、民団が出来たらすぐに民団に入った。民団に入った当時は、もとの朝連が夜中に車で家に「殺すぞ」と言って来るのでおちおち眠ってもいられなかった。

兵　庫 女 58 慶南 '44 ・平和になったと言って、みんな朝連に参加した。朝連の事務所で歌って踊っていた。

兵　庫 女 60 忠北 '41 ・その当時、九州にいた。北が多かった。本をたくさん持って来て見せたり、国のいい事を言ったりしていた。訳が分からずにいた。登録を作れと言ったので作ったが、朝鮮籍になった。でも西宮に来てから民団になった。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・現在みたいに、政治が民団系、総連系とはっきり分かれていなかった。とにかく外国人は一つにならなければいけないと思い、朝連に入って行った。

兵　庫 男 63 忠南 '42 ・その時はみんな大きな事言っていた。また団長みたいな人々は腕に腕章みたいなものつけてムチャクチャな事しよった。

兵　庫 女 59 慶北 '39 ・主人が先頭になって日本に住んでいる間は団体が必要だ、でないと日本人に殺される、と考えていた。日本の警察から集会などやるなと言われた。教育事件－民族教育をなくすと日本人が言っていたので交渉した。警察がたくさん来て水をかけたり棍棒で殴ったりした。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・私が入った頃から、だんだんと民団系と朝連系に分かれて行って、よくもめていたようでした。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・そういえばまわりの人が姫路へ何か運動をしに行くと言っていたことをかすかに思い出す（総連と民団の対立が激しかった）。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・団結心が強かった。

兵　庫 男 60 慶南 '36 ・宝塚は朝連しかなかった。

広　島（不明）	・祖国があるのだから、1人1人が団結して一生懸命やろうと思った。参加する事は当然の義務であると思った。朝連ができて、しばらくは青年の動員に忙しく、眠る暇がなかった。当時、炭焼き、ボロ買い、をしている人々が多く、分散して暮らしていたので動員は困難をようした。
広　島（不明）	・南北が統一したら良いと思った。南から大統領が出たらいいと思った。民団の上層部がだらしなかった。金を着服した。貧乏人の意見を聞いてくれない。
岡　山 女 64 慶南 '41	・総連の攻撃がすごかった。大極旗を上げていると、家の中にまで来て朝鮮の旗に変えるように言われた。
岡　山 男 64 慶南 '34	・建青で総務部長をする。差別をされると、警察でもどこでもいつも対抗してよく喧嘩した。民青との対立がすごかった。その後民団に入った。
岡　山 男 65 全南 '34	・神戸の建青で組織部長をし、四国、奈良、東京へと支部結成のため東奔西走した。今になって考えると、建青の腕章を権力にして市役所、警察に乗り込んだりした。皆解放の喜びで団結し、若さもあって無茶したものだ。
岡　山 男 78 慶北 '34	・朝連の集会に何度か参加したが、私はクリスチャンなのでアカがきらい。明石ではまだ民団が出来てなかったので、90世帯のうち我家だけ。朝連から何度か呼び出された。
鳥　取（不明）	・解放日は兵庫県の尼崎で迎えた。1ヶ月程して朝連ができ、すぐに参加し、青年組織「保安隊」に加入。朝連上部と保安隊の対立が起こり脱退し、神戸で建青に参加。昭和22年、建青兵庫県本部委員長が東京で何者かに暗殺された。
山　口 男 55 慶北 '43	・団員として民団に入っただけ。
山　口 男 66 慶南 '41	・ただ団結意識っていうのを、しっかり持って固まって勉強をしたりした。
山　口 男 66 慶北 '41	・埴生の駅の下に建物を建て、日本人たちに負けぬように団結してがんばった。朝鮮学校というのが近くにあってそこで子供たちに言葉を教えていた。今の民団とあまり変わらない。
山　口 男 68 慶南 '28	・三・一記念などの行事にだけは参加した。
山　口 男 62 全南 '36	・解放後、下関で同胞のために密航の手助けをしようと思い「求助会」という団体を作り、それが民族団体「下関大同会」へ。その会員が下関での民団結成への手がかりとなった、と覚えている。解放3年後の八・一五光復節の際、炭で走る車に分乗し、市内を回り、大坪、朝鮮市場の上の辺（旧民団事務所周辺）で総連が行っていた光復節のアーチを壊し、宇部を回り徳山までトラックで行った。徳山で総連に襲われ乱闘事件になり、日本の警察へ保護を求めに行った。
山　口 男 68 慶北 '31	・初めはつき合いで参加したいの。終戦直後は大韓民国の居留民団ちゅうのがなかったそいの。へやからね、その時は、全部総連でもない連

盟っていうたいな。それからボツボツ、23年頃ここに出て来て（初めは田舎におったから何が何か分からんかった）居留民団があるのを知ったけど、ここに来た時も一時は連盟におった。居留民団の人は、ここ周辺は2人しかおらんかった。何かの切っ掛けで6人が相談して連盟を脱退して民団に入ろうとしたら、まるで喧嘩ごしのようなこともあった。6人で組んじょるから向こうも強いことよう言えんし、わしらもここに民団の分団事務所を作ろうと言って、ここに今、在るのがそのまま建っちょるそ。昭和28年頃、連盟に行ってからわしは、これで、名前を言うて入るんじゃなく全部が連盟じゃった。自然にね。

山　口 男 70 慶南 '31 ・私は刑務所を出て青年同盟に入った。私は職がなかったので朝連の経済部に専従として入れてもらい1年位民族運動をした。

山　口 男 64 慶南 '38 ・解放後すぐに青年同盟に加入した。私達がやったことは、日本人を糾弾したり山口県湯田にあったアメリカ軍と交渉して、食料、衣類等を援助して貰うことだった。米軍は意外と協力的だった。現在の民団幹部は殆ど青年同盟で活動している人だ。

山　口 女 57 慶北 '43 ・色々な集会やデモに参加したりした。総連とのトラブルが時々あった。

山　口 男 66 慶北 '41 ・朝総連と民団の喧嘩がよくあった。石を投げたり家に火を点けたり、人が殺されたりもした。

山　口 女 60 慶南 '41 ・分裂が激しかった。それは、日本が（外登証に）朝鮮と登録したのでそれを韓国に切り替えるのに反乱になって、怪我をしたり死んだ人もいるくらいだ。

山　口 男 64 全南 '33 ・民族の一員として連盟に参加し、山口県庁まで生活の安定を訴えにデモを行なったが水をかけられ追い返された。

山　口 男 59 慶北 '24 ・連盟という団体に入っていて実際活動はしてないが、ひと月の給料の内半分の10円（1ヶ月20円の賃金）というお金が団費として給料日には会社の方から引かれていた。活動内容については分からない。

山　口 女 68 慶北 '34 ・初めは、騙されて北朝鮮の団体に参加させられたが、すぐに民団の方に変わり集会をしたり大会に参加したりした。

山　口 男 68 忠北 '40 ・初め分からんでね。朝鮮人みんな行っちょる。行かんかった人間おらんよ。

山　口 女 54 慶南 '42 ・私の友人はほとんど韓国籍だったため、私も韓国籍を取った。民団が出来てから、友人がほとんど加入したため、私も民団に参加した。

山　口 男 65 慶南 '31 ・知人とのつき合いで参加した。

香　川 男 60 慶北 '36 ・1947年当時、朝連の香川本部が琴平町にあり、私も加入してよく琴平町まで行き仲間と会ったものです。出来事としては、当時、新居浜市に朝鮮学校があったのですが、それが廃校になるので反対運動に行ったんです。校内で治安当局ともみ合って、多数の同胞が泣いたり、わめいたりしたものです。その後、生徒は、個人の民家に分かれて勉強したが、だんだん、日本の学校に行くようになったのです。

香　川 男 66 慶南 '40 ・友人と親族の勧めで、1960年頃加入した。団体活動より、生活苦（妻、

子供５人）の方が最優先でした。生活の苦労は大変だった。一家７人が、食べていくことに全精神を費やした。

香　川 男 74 慶北 '34 ・解放後、近所の同胞が良く集まって、これからのことを相談していました。同胞数の少ない（10世帯）地域での集会でしたが、それでも、いつも集まると帰国のことを話していました。そのうちの１人が（リーダ格）が昭和20年頃と思うが、琴平町にある団体の集会に参加しようと音頭をとり、８名で琴平町まで行きました。その団体が、民団組織だったのです。

徳　島 男 61 慶北 '38 ・朝鮮動乱後、民団に加入しましたが、古ぼけた長屋の事務所が印象に残っている。

徳　島 男 68 慶北 '42 ・在日朝鮮連盟にて、会計をまかされた。当時、連盟だというと、日本人はペコペコ頭を下げた。事務所も、県庁の中にあり、会議が出来る程であった。連盟は、500 人くらいいた。その後、各組織が出来ていったが、組織間のぶつかりはなかった。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・民団のあるのを知らなかったので、朝連に入ったが、大阪の代表部に行った時に、初めて入った団体の違っているのに気づき、これではいけないと思い、代表部に申請して、現在の居留民団徳島県本部を結成した。自分の家を事務所にして電話を置き、民団のために力を注ぎました。結成当時は、警察ににらまれ、電話を取り上げられそうになった事もあった。

福　岡（不明） ・村は、総連関係が握っていた。副会長（総連）もやったことがあり、村にいて総連の集会に出る時には、お金が出ていた。

福　岡（不明） ・積極的に民族の団体に参加した。主人は連盟を兵庫で兄さんと作り、おばさんは、婦人会で活動した。

福　岡（不明） ・倉敷で、初めて民団組織をする際、公民館を借りていたが、朝連が暴力をふるい参加者が散会した。そして、その晩、自宅を事務所代わりにして、民団を結成した。結成後、何ヵ月も朝連から、いやがらせがあった。本人自身は、当時、財政部長をしていた。

福　岡（不明） ・解放後、帰国意志と勉強をしたい意思を強く持っていた。帰国船の順番を待つ内に、同胞の勉強会に参加する内、朝連に入り、同世代の仲間が多かった私は、すぐに役を持ち、指導的立場になり帰国出来なくなるやいなや、尚一層、組織運動に励む様になった。しかし、途中から、共産主義に疑問を持ち始め、仲間、部下のほとんど引き連れて民団に入った。

福　岡 男 61 慶南 '42 ・朝鮮学校ができたが、赤系統であったのであまりよくなかった。それから学校閉鎖し、淋しかったが、今考えると赤であったため、よかったかもしれないと思う。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・大勢集まるとうれしい。心強い。車で宣伝していた。名簿というものがなく来る人は拒まなかった。日本人はおとなしいものであった。自分達が大きな声でしゃべっていても。

福　岡 男 71 済州 '24 ・朝連には、日本人も援助し良く活動はしたが、不真面目さがあった。援助物資等を幹部だけで分けたり、一部同胞のひんしゅくをかっていた。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・無政府状態であった。カンペの親分が金を強制的に取り上げる。韓国の代表部、連盟と対立。国民登録をするしないで一等書記官県庁横に出来る。渡辺通りホテルに泊まり本国と連絡を取り合っている。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・夫が米軍機により負傷し片足だけになっていたので、生活が大変つらく、朝連にたのんで当局に補償をしてくれる様たのんだ。朝連、又一部日本人（共産党員）達はよく応援してくれた。その関係で朝総連に入り1年前、民団に入る。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・保安隊に居た。電車に乗り老人達が立っていたら、日本人を立たせて座らせたりした。警察も文句を言えなかった。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・生活に追われていたので、何か民団の集会で同胞が呼びに来た時には、参加する程度であった。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・飯塚の民団で一度、金をくわれた。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・筑豊から博多へ帰国するため、来たものの、その当時の博多は全国から同胞が集まりまた、朝鮮、満洲から帰国の日本人とで混乱状態にあり、無法地帯になっており、バラックや闇市が出て帰国する者の便宜を図っていた。その内に急にＧＨＱに帰国停止され帰国出来ず、日本での生活が必要になった。当時、共産主義者が現れており疑問を感じた。私は筑豊へ帰り、同胞の思想にかぶれない自治団体結成のため、働き出した。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・朝連時代は参加せず、のち民団活動をし朝総連と激しい闘争をした。解放当時は“正義新聞”を出し、1年間続けた。数人の人が集まり新聞を出すことを決め、主に同胞の状況の弘報等を書いた。当時、紙が手に入らなかったがＧＨＱ福岡の中に韓国系2世の軍人がいて彼をして紙を調達せしめ活動した。

福　岡 男 72 慶北 '31 ・構成員として月二、三回参加する程度であった。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・民団が出来て参加するようになった。

佐　賀 男 65 慶南 '40 ・連盟はどんなことするのか内容もよく分からんで参加した。当時は力の強いもんが勝ちで、朝鮮人は団体を組んで乱暴むちゃくちゃしてた。汽車の切符買いにずらっと並んでいるのに、一番前に二、三人で割り込んで文句言うたりすると、袋叩きにしよった。目の前で見た。

宮　崎 男 67 慶北 '32 ・終戦で朝鮮が独立したので朝鮮連盟が出来、宮崎でも大多数の人が入会した。その後共産党が共産主義、レーニン主義を施行し始めたので、中央で朴烈先生が韓国居留民団を作られた。我々もそれを受け中央で綱領を受けて宮崎本部を結成した。当時は4万5000人居留しており事務員が七、八人いた。現在は900人程度しか居ない。

第6章　次世代に対して

㉑　これからの未来を担う三・四世のオリニたち

解放からわずか40余年。解放の時に生まれた人を考えても、まだ孫ができるかどうかといった程度の時間ですが、その間に、在日の考えは、世代間で大きく変わってしまいました。

この章のテーマは、民族教育と帰化についてですが、日帝の支配を直接体験した一世に対して、それが一世の人生観にどれほど濃い影を落としているかは、一目でうかがい知れるでしょう。それは、あらゆる意味における日本の拒絶という形をとっています。日本人の配偶者の拒絶にはじまり、日本語・日本文化摂取の拒否等、要するに、「日本」というものを連想させるすべてのものが遠ざけられ、否定されたのでした。

しかし、そうした一方で、彼らが「日本に居住することを選択した韓国人である」という動かしがたい現実の重みが、否定しようもない圧力で、着実に「日本居住」という「実績」を積み重ねてゆきます。この結果、一世の直接的体験は、一世の思い出の中にしまわれてゆき、さらに、世代間の時代的背景のギャップの中に吸収され、その代りに、日本に居住せねばならないという切実な要求が生き方に対して大きなウェイトを占め始めるのです。

こうした影響が最初に表出するのが、民族教育の問題でしょう。一世の生活が悲惨であればあったほど、次の世代には「自分たちのしたような苦労をさせたくない」という考えが強く働いたのももっともだったと言えると思います。「朝鮮人」と一言でかたづけられて日本社会から排除された経験が、子供たちに「日本名」を名のらせ、日本社会で通用するように「日本学校」へ通わせる結果となりました。もちろん、現在のように多くの同胞子弟が日本の学校へ通うことには、それだけの理由しかなかったのではありません。

解放後、それは、まさに日本の政治的支配からの解放であったことに留まらず、それまでに押し

つけられてきた、通用してきた価値観からの解放をも意味していましたから、「朝鮮人であること」を否定する必要が一応はなくなり、特に子弟たちに忘れられかけていた民族性(朝鮮人であること)をとり戻させるための民族教育が盛んに行われました。しかし、それは、法的にはまだ「日本国籍」を有するとされていた頃であったため、日本の学校教育法に基づく教育をせよと、GHQ・日本政府は、1948年民族学校閉鎖令を出し、朝鮮人側がそれを拒否すると、神戸では戒厳令を出し、戦車を出動させて、実力で閉鎖を強行したのでした。

こうしたわけで、在日には、民族教育をする権利とそのための機会・手段が奪われていたのですから、一概に前述のようなことは言えませんが、そうした「日本で生活すること」の重みは、日を重ね、時を経るほどに堆積されていったことも動かしがたい事実です。

このように、何もかも日本人と同じか、それに少しでも近づき追い越そうとした努力は積み重ねられましたが、その一方で、やはり「朝鮮人であること」そのものをもって排除されるという現実から逃れることもまた不可能でした。本人の努力の限界を超えたところにある障害は、この「朝鮮人性」でした。日本人と日本社会にある、この抜き難い差別性は、個人の能力や人格の優秀さよりも、個人が日本人でなく朝鮮人であることを最初に評価の尺度とするもので、それに個人の「朝鮮人性」の尻尾をつかませると、それは勝ち誇ったように、個人に屈服を要求したのです。

個人として、これを乗り越えるには、基本的には、日本名の使用が条件でしたが、より厳格なケースでは、「帰化」をすることが条件となりました。この制度としての「帰化」は、一般の日本国民には、単なる国籍取得のための殆んど唯一絶対の手段であるとされているようですが、正確には、「帰化」と国籍取得(日本では市民権取得と同義)とは違うものです。つまり、国籍取得は、単に外国人が居住国などの市民的権利を取得する純粋に法的な手続であるにもかかわらず、「帰化」は、日本人というよりは、大和民族化することを要求するもので、一種の踏み絵的制度です。ですから、大和民族の一員となるためには、身も心も日本的なものと同化しなければならず、個人の「外国人性」が保存されていては帰化できないのです。ごく最近は一応そうではなくなりましたが、日本人らしい名前をつけることも、また一家そろっての帰化を強要されることも、帰化以外に例えば日本人との婚姻により日本国籍を取得することがないということも、そうした発想の産物でした。

このため、「朝鮮人」にとって、帰化するということは、単に個人的な社会的ハンディを技術的に解決するということ以上の深刻な意味を持っていました。もちろんそれは、朝鮮・韓国人性を捨て、日本人になり切ることで、日本人から「朝鮮人」と蔑まれた一世にとって、朝鮮人として誇りを維持しようとした人にとって、それは、信念を曲げることであり、民族を裏切ることであり、ひいては、日本の植民地支配を肯定することになると考えられたのも無理はなかったと言えましょう。

そういうことですから、帰化をした人が在日社会から排除され、また、日本人の社会も、「朝鮮人であること」をもって差別していたわけですから、法的に完全な日本人となったとしても、所詮は「元外国人」「新日本人」なのであって、人によって違いはありますが、やはり特別視されるという体質は拭い去れないものでした。

この章の回答を読み進むにあたっては、こうしたことと、一世の渡航の背景、時代背景、教育程度を念頭に置き、現在からの一方的視点から見るという愚を避け、我々二・三世が、次世代に対して残す教育や価値観に関し、どのような態度で臨むべきかということを参考としながら活用して欲しいと思います。

質問O：お子さんやお孫さんに民族教育をほどこさなかった方、その理由をお話し下さい。

㉒ 民族学校で民族の言葉・歴史を学ぶ

北海道 男 59 忠南 '42 ・理由はないが、日本に住む以上、日本の教育を受けなければならないから、自然にこうなった。一度子供を韓国に連れて行き、「ここがお父さんの故郷だよ」と教えた。子供なりに何かを感じていると思うが、韓国人として生きるのは自分だけで終わりになるであろう。何十年か経てば、自分の財産も皆日本のものになる（妻子が日本国籍なので）。だが裸で日本に来たのだから、裸で終わるのは、それはそれで良い。自分が生きている間は、本国の親戚などに多少の援助はできる。

北海道 男 69 慶南 '31 ・妻が日本人のため、子供に教育をしなかった。

東　京（不明）　・茨城県にいたため、子供達は全員日本学校を出て、韓国語を全然知らず、一言もしゃべれない。韓国にも行かそうと思わず、子供達も行きたいとは言わない。

東　京（不明）　・余裕がなかったので。

東　京 男 69 京畿 '34 ・自分の生活に追われ、民族教育にかかわらず、日本の生活常識さえも教えられなかった。

東　京 男 73 済州 '22 ・子供たちの意識もなく、日本での生活を考えた時、子供たちに強制するものではないと考えた。なるがままにまかせた。

東　京 男 65 全北 '27 ・妻が日本人なので。
東　京 男 62 全北 '52 ・まだ子供が小さいので、中学生になったら韓国学校に入れるつもり。
東　京 男 64 済州 '32 ・近所にその様な民族学校がなかった。高校生くらいになったら、それなりの教育を考えている。
東　京 男 66 済州 '36 ・子も孫も日本籍なので。
東　京 男 58 忠南 '42 ・無理して教えなくても、自然に覚えてくれるだろうから。
千　葉 男 69 慶北 '37 ・初め、朝連当時はいれたが、丁度民団と朝連が分かれたので、自分たちも喧嘩などがあり、民族学校を新しく作ったりして、それどころではなかった。
千　葉 男 65 済州 '35 ・連盟から、長男を入学させるよう勧められてたが、その時は、日本学校に入れ、あとで子供に任せるつもりだった。
茨　城 男 53 忠南 '44 ・生活に追われて、その精神的余裕がなかった。
茨　城 男 66 慶北 '39 ・日本人妻のために自分の考え、教育などを教える事が出来なかった。
茨　城 男 57 慶南 '41 ・希望はしたが現実生活のなかで困難だった。民族教育自体が現実生活の中でそれ程プラスにならないと思ったことも事実です。帰国準備という意味で民族教育をとらえた場合、帰国の意思がないのでなんら意味がない。
茨　城 男 69 慶南 '32 ・民族教育機関までの地理的不都合。
西東京 女 72 慶北 '28 ・若い時に渡日したので自分自身があまりよく知らない。また、その日暮らしの生活で教育をする余裕がなかった。
西東京 女 66 慶南 '36 ・仕事に追われて特にしなかった。韓学が出来てから通わせた子もいる。
西東京 女 59 慶南 '37 ・日本人との付き合いが多くまた、余裕がなかった。
西東京 男 63 忠南 '40 ・特に民族教育というのはしてないが、親のを見ていて自然に知っていたのでしなかった。
西東京 女 70 慶北 '31 ・夫が教育に関して全てやってくれたので、自分はしてなかった。
西東京 女 88 慶南 '38 ・日本に来て、韓国の事を捨てて来た。生活に追われそういう事を考えるどころではなかった。
西東京 女 82 慶北 '40 ・特にしなかったけれど、親のを見ていて自然に身についていた様だった。
西東京 男 66 忠北 '37 ・韓国人であることを最初、教えていなかった。子供が学校でいじめられるのが、かわいそうだから。
西東京 女 68 忠北 '42 ・日本人の中で生活しているので。こわくて学校でいじめられるといけないと思い、子供に何も言わなかった。
西東京 女 59 慶南 '39 ・積極的には教えなかったが、親を見て自然に憶えてた。
西東京 男 62 済州 '43 ・生活するのに忙しく、時間がなかった。
愛　知（不明） ・生活に関した事は日々覚えていったし、又、何かあれば教えながら今まで来た。言葉も、使っていれば自然に覚えてくれた。特に時間を設けた事はない。
愛　知 男 58 慶南 '40 ・家庭ではなかなか難しい。小学生では小さくて分からず、中学生は受験でダメ。

愛 知 男 60 全南 '42 ・教える暇もなかったし、教える必要もないと思ったから。
愛 知 男 71 慶北 '34 ・今の子供は、妻の連れ子で、思想的に違っていたため。
愛 知 男 61 慶南 '23 ・当時住んでいた村に自分しか韓国人がいなかったため。
愛 知 男 58 慶北 '39 ・生活に追われあまり教育が出来なかったが、言語以外の歴史、食べ物、礼儀作法などは教えたつもりである。
愛 知 女 65 全南 ・自分が何も言わなくても、自発的に自国語を学び、風習を覚え組織の活動に出向いて行くから。
愛 知 男 62 慶南 ・子供が自分から進んで勉強している。韓国教室に行っている。テープで勉強している。
愛 知 女 56 京畿 '45 ・コスモポリタンな人間に育てたかったので、今後生きて行く為に必要な教育を優先した。
愛 知 男 60 慶北 '38 ・子供達は日本で生まれ育ち、生きて行くのだから、民族的な事は必要ない。
愛 知 男 76 全南 '28 ・子供達は、まったく理解しようとしてくれなかった。
愛 知 男 66 慶南 '40 ・働くのが一番でそのような暇がなかった。
愛 知 男 73 慶北 '28 ・子供たちは皆、本国で生活しているから。
愛 知 女 80 慶南 '32 ・１人息子は韓国にいるので民族教育を施す理由がない。
岐 阜 女 69 慶北 '44 ・朝鮮学校からしつこく勧誘に来たが、共産主義は嫌いなので断って喧嘩した。
富 山 女 80 慶北 '30 ・朝鮮何年だったか、子供達はみな朝鮮学校へ入って勉強したが、その後、また日本の学校へ入れるといわれてその通りにしただけでした。今から12年前朝総連から声がかかりすぐ近くで日曜日だけ朝鮮学校があると聞き、誘いを受け、孫をやったが勉強はせず、金日成の元帥さまの歌ばかり習ってくるので、息子夫婦と相談してやめさせた。私の故郷は南にあり、なぜ北の元帥の歌を習う必要があるかと思いました。
大 阪 男 57 慶北 '43 ・先妻とは離婚、現在日本人の女性と同居。子供達はすべて妻の連れ子達である。
大 阪 男 76 済州 '26 ・教えるほどの知識がなかった。教えたとしても国にいるときのことや生活のことで。
大 阪 女 73 済州 '33 ・子供達２人は直接民族学校に入学させていたので、詳しくはしなかった。
大 阪 男 62 済州 '43 ・高さん自身韓国のことが分からないので、教える必要はないと思う。家でも韓国語は話さない。子供達自身興味があればしてもかまわないが、日本で住んでいる以上は必要はないと思う。
大 阪 女 61 慶北 '30 ・近所に民族学校がなかった。
大 阪 女 76 慶南 '33 ・夫に任せていたから。
大 阪 男 69 済州 '34 ・日本学校に通わせるのに精一杯であり、精神的余裕がなかった。
大 阪 女 60 慶北 '40 ・特に理由はないが、日本の学校に行かしていたため転校させる気もなかったので。ただなんとなく無関心。青年会や民団へ参加させたことはほとんどない。

大　阪	男	61	慶南	'41	・愛国心を植えつけようとしたが、日本の学校に行っている。また、注意や意見をしているが、子供達は、その時は、分かったと言っているし、また、本人も自覚しているものと思っている。
大　阪	男	67	全南	'38	・経済的理由のため、両親が生活に多忙であり、出来なかった。
大　阪	女	60	慶北	'40	・子どもがいやがるし、そういう必要も感じなかった。
大　阪	男	59	慶南		・言っても聞かないし、教えても仕方ないと思って、強制しなかった。
大　阪	男	63	慶南		・必要ないと思った。
大　阪	男	60	全南		・近くにいい韓国学校がなかったため。
大　阪	男	64	済州		・必要と感じなかった。ウリマルより外国語を覚えなければならない。
大　阪	女	60	済州	'41	・食べていくのが精一杯であった。
兵　庫	女	71	慶北	'34	・しなかった。自然におばあちゃんのまねをしていた。チョゴリも着たりする。朝鮮学校の孫はウリマルが出来る。（孫は小学まで民族学校、中学からは日本の学校）
兵　庫	女	60	慶南	'37	・子供は全て女の子、帰化したくない、気持ちだけでも韓国人という気持ちを捨てたくない。女の子だからお父さんがなるべく外に出さなかった。料理教室は行かした。
兵　庫	女	73	慶南	'28	・子供が8人いた。うち2人は死んだ。北に3人行った。日本人の子供もいる。
兵　庫	女	59	済州	'36	・別に日本学校も民族学校も関係なく、とにかく、学校行かすだけで精一杯で、家庭教育をする暇もなかった。
兵　庫	男	65	慶北	'38	・子供が拒否した。
兵　庫	女	77	慶南	'30	・戦後は、娘にチマチョゴリで歩かしていた。
兵　庫	男	60	慶北	'36	・日本の学校に追われてもて、学校を卒業してから教えようと思っていた。団体でなかったら、そういう民族教育は出来ない。
兵　庫	女	60	忠北	'41	・子供を朝鮮学校へ父が勝手に入れた。途中、女子は日本の学校、男子は金剛学園に入れた。礼儀作法もあまり教えなかった。
兵　庫	男	63	慶南	'41	・それだけ余裕がなかった。
兵　庫	男	65	慶北	'34	・日本学校の教育が必要と思った。少しは教えたけど（勉強、礼儀作法など）食べ物はバリバリ。
兵　庫	女	62	慶南	'38	・朝鮮語を使う。朝鮮の学校に行かした。
兵　庫	男	63	忠南	'42	・子供が大きくなってしまって、子供に言っても言うだけ無駄だった。
兵　庫	女	59	慶北	'39	・2番目の子供は留学させた。家庭で教えている。全部一応教えている。
兵　庫	女	57	慶南	'43	・行かすにしても近くに学校がなかった。ただ事務所で民族教育をしていたことがあったが次第に人が町へ出ていってしまうので消滅してしまった。
兵　庫	男	65	全南	'37	・妻が日本人だから。子供も日本籍だし、子供達は私が韓国人だという事は理解しているが、それだけで、子供は日本人として育った。
兵　庫	男	60	慶南	'36	・韓国学校に行かす気はない。字だけ覚えてどうするのか。社会へ出られへん。金剛学園、白頭学院たいしたことない。
京　都	女	79	済州	'22	・生活に追われていたし、自分の名前もろくに書けないのに、子供の民

族教育なんてとても出来なかった。

西東京 女 72 済州 '41 ・余裕がなかったのでそれどころでなかった。

山 口 男 55 慶南 '41 ・子供がいやがるから。

山 口 女 57 慶北 '43 ・生活に余裕がなくて子供に教育する暇がなかった。

山 口 男 61 忠北 '30 ・生活に追われて出来なかった。

山 口 男 64 全南 '33 ・近くに学校もなかったが、経済的に苦しかった。

香 川 男 60 慶北 '36 ・娘3人は、それぞれ日本人学校に行きました。民族学校に入学してほしいと思ったが、香川県には民族学校がなく、幼い子を遠方の学校に預けることが不満だった。本人達も、民族学校より日本の学校を希望していたので本人達の気持ちを尊重した。

徳 島 男 61 慶北 '38 ・妻が日本人だったためと、船に乗れば二、三ヶ月に二、三回家に居るだけで、ほとんど子供の養育は、妻まかせだった。民族教育はなくても父の国を理解し、真面目に正しく成長してくれたのが、うれしかった。

福 岡 女 62 慶北 '40 ・本人がいやがる。

質問P：帰化を考えたことのない方、その理由をお話し下さい。

㉓ 同胞の存在と人権をかけて様々の運動が行われた（1967年頃）

北海道 男 59 忠南 '42 ・愛国心の一言です。
東　京（不明）　・韓国人は韓国人だから。
東　京 男 61 済州 '40 ・自分の子供たちについては、日本に住む上でこの先、止むを得ない（帰化）かもしれないが、私としては機会があれば国に帰りたい。だからそのつもりはない。
東　京 男 69 京畿 '34 ・帰化することに必然性を感じなかった。それゆえ、本籍を変えることなど考えなかった。
東　京 男 73 済州 '22 ・近い将来、夫婦で故郷に帰る予定があるし、更に、同胞とのつながりを考えて。
東　京 男 62 全北 '52 ・自分の名前さえも、変えたくない。
東　京 男 64 済州 '32 ・自分の先祖を裏切ることになるので、この先死ぬまで考えられない。子供達は、どうか分からない。
東　京 男 53 済州 '42 ・日本の籍など考えたことがない。民族的意識が高い。
東　京 男 55 済州 '45 ・自分の国の歴史をみれば、とても帰化出来るとは考えられない。36年間日本に支配され、その上、日本人になりたいと思わない。自分の国がある。帰化する人間は、いくら将来のためとはいえ、人間とは思え

ない。米国のように本名を名乗っての帰化なら分からないことはない。

東　京 男 66 済州 '36 ・帰化をしても変わりがない。韓国人は韓国人だ。

東　京 女 58 済州 '41 ・子供と孫は分からないが、昔のことを考えると、とてもじゃないけど考えられない。今まで生きてこられなかったわけじゃないのに無理してすることもない。

東　京 男 53 済州 '43 ・自分の国籍を売るなどということは、民族として、変えられない。

東　京 女 56 済州 '42 ・私達が死んだ後は分からないが、民族意識があるから、現在はない。

東　京 男 66 済州 '31 ・韓国人としてあたりまえだ。

東　京 男 56 慶北 '40 ・自分自身を失いたくないし、いずれ国に帰るから。

東　京 男 70 慶南 '31 ・自分の国があるのに、とんでもない。

東　京 女 68 慶北 '31 ・70才近くなって帰化しても、日本人達が何かしてくれるわけでもないので、考えなかった。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・韓国人だからする必要がない。死んでもしない。金海金を捨てられない。人間本来の姿だから。韓民族に属するのだから。

千　葉 男 64 全南 '42 ・帰化しても変わらないし、しょうがないから。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・終戦前は日本人に、終戦後は韓国人になったが、それは日帝が勝手にしたことで、自分はずっと韓国人であるから、帰化など考えたこともない。

千　葉 男 65 済州 '35 ・帰化するのは、自分の国を売るような感じがするし、祖先が困る。我々には我々のプライドがある。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・自分の親が日本人を大変嫌っていた。いつも親のことを頭で考えていたので、帰化は親に対する裏切りだと思っている。

千　葉 男 70 慶北 '36 ・日本人には世話になったけど、日本人になりたくなかった。

千　葉 女 64 全南 '44 ・自分の親の国を捨てるわけには、いかないから。

千　葉 男 63 慶南 '37 ・帰化しても、真の日本人になるわけじゃないし、食べさせてくれるわけじゃないから。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・自分は韓国人であり、帰化する必要がない。

茨　城（不明） ・日本人で生きても生活自体が変わるわけでもない。どうせなら、自分の国を信じて生きるのが幸せであるよ。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・別に帰化してもその中身が変わるものではないから、国籍を変えても血が変わるものではないから。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・韓国人としての民族意識と誇りを持っている。子供の教育はもちろんのこと、日本人社会に住みついているものの、立派な韓国人として過ごしていくことを常に自分の脳裏において生きている。

西東京 女 66 慶南 '29 ・韓国がいい、自分の国だから（悠々としていられる）今更変えても…。

西東京 女 72 慶北 '28 ・今更する必要がないから。

西東京 女 66 慶南 '36 ・大きな商売をしていた訳でもないし、別に差し支えなかったから考えなかった。また、そういう気持ちにならなかった。

西東京 女 74 慶南 '32 ・母国を捨てるような真似は出来ない。民族意識があったから。

西東京 女 59 慶南 '37 ・今の生活のままでよいから。

西東京 女 59 慶北 '40 ・国籍だけはそのままにしておきたい。肉親が本国内にいるから。

西東京 男 64 慶北 '42 ・実際には思った時もあったが、今はもう年をとったし体も悪いので、帰化は考えない。

西東京 男 69 慶北 '28 ・韓国人として生きていきたい。帰化する事は、自分の国を捨てるのと同じだ。

西東京 男 63 忠南 '40 ・自分の兄弟、親戚がまだ本国にいるし、自分自身、帰化するつもりが全くない。仕事にも差し支えがないし。

西東京 女 68 慶南 '34 ・韓国人は韓国人。孫はどうするか、分からないが……。

西東京 女 78 忠南 '30 ・死ぬまであまり時はないし、今さらという考えもある。行く所は一つなのに、何も帰化などしなくても良い。どこまでも、帰化は反対である。

西東京 男 65 慶南 '41 ・あたりまえ。

西東京 女 70 全南 '30 ・韓国人なのに、する必要があるわけない。

西東京 女 88 慶南 '38 ・年令が年令で、帰化などは子供達にまかせる。

西東京 女 82 慶北 '40 ・年寄りだし、全く考えていない。でも、若い人は仕方ないんではないか。

西東京 女 72 慶南 '30 ・国民として当然のことだと思っている。

西東京 女 79 慶北 '21 ・自分の国を捨てたくなかったので帰化はしなかった。

西東京 男 66 忠北 '37 ・韓国人は韓国人だから帰化はしない。

西東京 女 68 忠北 '42 ・民族を大切にしたい。

西東京 男 65 慶北 '38 ・優秀な民族を捨てる必要がない。普段行ったり来たりしているので近いし、生活に支障がない。

西東京 男 60 全北 '38 ・民族を捨てたくなかった。誇りを持っていた。帰化をしても韓国人は変わらない。結局は韓国人なのだから……。

西東京 男 72 慶南 '40 ・結局、元々民族が違うのだから帰化をする必要は全くない。それに今では特別不自由もないし、帰化なんてとんでもない。ただ今の若い人達はすぐ帰化してしまうが、まあ仕事上の理由でだろうけど、やはりもっと民族意識を持ってもらいたい。淋しい気がする。

西東京 女 75 慶北 '30 ・自分の国が有るのに何で日本人になる必要が有るのか。嫁も韓国人でなくてはだめだし、今、自分の子供が日本の嫁をもらった人がいるけど、そこには殆ど行っていない。男が日本の嫁をもらうと名前もなくなってしうまからダメだと思う（日本の籍に入ったら）。

西東京 女 61 慶北 '41 ・民族意識があったから。

西東京 男 62 慶南 '39 ・民族意識が強かったため、自分では帰化を考えなかった。

西東京 男 57 全南 '40 ・やはり日本は外国であり、韓国は祖国で自分の生まれ故郷であるため、今まで1度も考えたことはない。

西東京 男 57 全南 '39 ・帰化する必要は全くない。今までさんざんいじめられて、それで日本人になんかなりたくない。韓国人として日本人を見返してやりたい。

西東京 男 62 済州 '43 ・帰化しても同じ。

西東京 女 72 済州 '41 ・必要ない。自分は韓国人として生きて行く。例え変えたとしても韓国

人には変わりない。

西東京 男 59 全南 '42 ・理由も何も、自分は韓国人として生きて来たし、これからも先もそのつもりでいるし、子供、孫にもそういう教育をしている。

西東京 女 56 全南 '27 ・帰化をしてもしなくても自分は変わらない。韓国人としての意識から。

静岡 男 64 慶北 '38 ・韓国人としての誇りのため（日本人が嫌いだからとか云々ではなく）。

愛知（不明） ・私達は韓国人であり、日本人にはなりたくない。帰化など考えたことはない。

愛知 女 65 慶北 '43 ・日本で苦労して長い間住んでいた所もあるし、生活も安定しているから。

愛知 男 60 慶北 '43 ・親・兄弟が本国にいるため。

愛知 男 77 忠北 '28 ・韓国人です。何んで日本人になる必要があるのか。

愛知 男 65 '42 ・民族として、国を捨てるようなことは、考えたことがないから。

愛知 男 60 全南 '42 ・日本人になりたくないし、自分の国を捨てる気もない。

愛知 男 58 慶北 '39 ・実のところ帰化は考えたが、準備はしなかった。今更、帰化しても、世界中の人（近所の人）が知っているのに、自分が日本人になったと言ってみてもしようがないと思った。

愛知 男 60 慶北 '40 ・してもしなくても韓国人に変わりはないから。

愛知 男 59 忠北 '37 ・民族の一員として当然である。

愛知 女 60 京畿 ・韓国人だから当然だ。

愛知 男 62 全南 '41 ・韓民族の血は変わらない。民族の一員として当然。

愛知 女 65 全南 ・自分の国を誇りに思っているから。

愛知 男 62 慶南 ・考えが古いと思う。いい悪いは別として。

愛知 男 60 慶北 '41 ・帰化をして日本籍を持っても韓国人としての血を変えることは出来ない。

愛知 男 57 慶北 '42 ・現状で満足しているから。

愛知 男 60 平北 '44 ・その日暮らしの生活だったので、そんな事を考える余裕などなかった。現時点、考えたとしても、年寄りに今更という気がする。

愛知 男 76 全南 '28 ・考えるほどのことではない。

愛知 男 71 慶南 '37 ・現在の帰化制が本当の帰化ではない。（新日本人）と記入。

愛知 男 66 慶南 '40 ・うっとおしいから嫌だ。

愛知 男 72 忠南 '27 ・帰化しても血は変わらず。

愛知 男 79 慶北 '31 ・今さら帰化してどうなるの。

愛知 男 73 慶北 '28 ・自分はやっぱり韓国人だし、先祖も韓国人だからしようとは思わない。

愛知 男 75 慶南 '27 ・韓国人として当然だ。

愛知 女 80 慶南 '32 ・日本で1人でここまで苦労してきて、この年で身寄りもないのに帰化しても仕方ない。

岐阜 男 56 済州 '44 ・これから先、日本の生活が長いことも考えると帰化ということも頭に浮かぶ。法的地位の問題、権利の問題なんかが解決されなければ帰化ということも考えるようになってしまう。

岐阜 男 71 慶北 '27 ・やがて国に帰る。韓国人だから。

岐　阜 女 69 慶北 '44 ・息子が反対する（上の子は一世）。齢なので息子について帰化しない。

富　山 男 70 慶南 '32 ・本国に私の兄弟や親類がたくさんいたし、家内の方も多かったから。それと韓国人がどこで住んでいようと韓国人だから。

富　山 女 73 慶南 '35 ・役場から帰化するよう求められたが、そうすると本国の財産も放棄することになり、不利であると考え、そうしなかった。

富　山 女 80 慶北 '30 ・子供達はどのように考えるかはともかく、年寄の自分には考えられない問題であり、息子がしたとしても自分はそのままにしておけば良いと思う。

大　阪 女 61 慶南 '43 ・韓国人として当然である。そんなこと考えたことがない。

大　阪 男 76 済州 '26 ・年齢的にも問題があったので深く考えたことがない。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・韓国人だから他国人にはなりたくない。

大　阪 女 73 済州 '33 ・国をやはり捨てきれない（済州島に親族もいている）。

大　阪 男 71 慶南 '31 ・韓国人は韓国人のままで良い、日本人になる必要はない。

大　阪 男 57 京畿 '43 ・あくまで一世である以上、韓国人としての誇りを堅持したいし、帰化しなくてはならない理由もない。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・わざわざ祖国を捨てる必要はない。韓国人として死にたい。韓国人として誇りを持っている。

大　阪 男 62 済州 '43 ・両親が健在であった頃は考えなかった。今もし若ければ分からない。

大　阪 男 69 慶北 '34 ・自分の祖先を売ることはない。日本人になる理由がない。

大　阪 女 75 慶北 '27 ・絶対にしたくない。自分の国だから考えたことがない。また来たくて来たのじゃないから別に考える必要もないと思う。

大　阪 男 55 慶南 '44 ・なんで俺が日本人にならなあかんねん！　そんなことは考えたこともない。

大　阪 女 61 慶北 '30 ・帰化をしても韓国人は韓国人だから。また、今もする気はない。

大　阪 女 76 慶南 '33 ・韓国人やのに日本人になる必要はない。

大　阪 男 70 済州 '27 ・自分の国を捨てる必要じゃないし、もし帰化したとしてもかえって馬鹿にされるから。

大　阪 男 69 済州 '34 ・全く考えたことがない。

大　阪 男 58 慶北 '41 ・日本人になってもしょうがない、祖先は向こうだ。

大　阪 男 61 慶南 '41 ・韓国人だし、韓国で生まれたし、死ぬ時も韓国で死にたいと思っている。

大　阪 男 52 済州 '43 ・祖国を愛しているから。

大　阪 男 63 全南 '37 ・得にもならないし、韓国人として、生きる方が良い。

大　阪 男 67 全南 '38 ・韓国で生まれ、育ち、本国忘れることは出来ず、帰化することなどは、考えられない。

大　阪 女 57 慶南 '40 ・そんな淋しいこと出来ない。帰化したら、どっちつかずになる。

大　阪 女 60 慶北 '40 ・考えたこと自体ないので、理由もない。

大　阪 女 71 慶北　　・別に帰化しなくても、故郷へ行ったり来たり出来るし、必要性も感じない。

大　阪　　65 済州　　・男の子がいないので、考えてないし、将来、本国で死にたいから。

大　阪　男 63 慶南　・甥が大統領館に居るので立場上そういったことは出来ない。また、そういったことは、思ったことも考えたこともなかった。

大　阪　男 64 ソウル　・私は日本人に悪いことをしてないし、国を捨てる必要なし。帰化しても韓国人は韓国人だ。帰化しなくても何でもできる。

大　阪　男 60 全南　・自分の祖国があって、昔に支配されていた国に帰化するということは、自分だけええ目をできないし、愛国心に反する。今は韓国は日本に経済的に劣るけど、いつまでもこのままではないので、将来の母国を担うため。

大　阪　男 69 済州　・先祖が向こう（本国）にいるのに何で帰化せなあかん。帰化しない理由→子や子孫がこっちにおるから帰りたいけど帰らない。

大　阪　男 64 済州　・わざわざ帰化する必要ない。自分の気持ちだけまっすぐしたらいい。

大　阪　女 59 全南　・帰化早くすれば良かった。就職差別などで子供が不憫。生きて行くため仕方ない。まず会社だ。

大　阪　女 60 済州　・別に深い理由はない。考えたこともない。

大　阪　女 72 慶北　・韓国人は韓国人として生きたらよいので、帰化は考えたことがない。

大　阪　女 68 済州　・財産もないし、世の中、先は分からないし、国籍なんかより神様をよく信じる。

兵　庫　男 68 慶南 '30　・私の息子が言うのは、いくら帰化したとしても、周りの人たちは決して日本人とは呼んでくれないと思うから、帰化する必要はないと思う。

兵　庫　女 68 済州 '40　・若かったら、そんな気も起こるかもしれへんけど、いつ死ぬかも分からへんのに。

兵　庫　女 68 慶南 '30　・主人が考えなかったから。

兵　庫　男 65 慶南 '35　・私は韓国で生まれ育ち、日本に来てからも韓国人として立派に生きて来たつもりだ。どこで暮らしても帰化しても韓国人には変わりはない。韓国人は韓国人としての誇りを持って生きるのが当然である。

兵　庫　女 71 慶北 '34　・考えたこともない。

兵　庫　男 59 慶南 '39　・齢が齢だし、日本人になったからといって、何も変わらないから。

兵　庫　女 73 慶南 '28　・やっぱり韓国人だから、韓国のままでいるしかない。

兵　庫　女 59 済州 '36　・韓国人やから。それに貧乏人は帰化出来ないのとちゃう？

兵　庫　男 60 慶南 '41　・以前、差別や圧迫された印象が強く、心に残ったからだと思う。日本人に対して憎悪が多く残っている。日本について今更言うのは悪いと思うが、今までの苦労は絶対に消えない。

兵　庫　男 65 慶北 '38　・韓国人として当然のことだから。

兵　庫　男 63 済州 '40　・年寄りだから。（この一言でかたづけられたが、一世にこの質問をうまく答えられる人がいるだろうか）

兵　庫　女 72 慶北 '24　・帰化しても朝鮮人は朝鮮人。帰化しても同じとこに住んでたら新朝鮮と言われる。生きてる間はしたくない。

兵　庫　女 64 慶南 '38　・朝鮮人は朝鮮人で、日本人は日本人だ。いくら帰化したところで。

兵　庫　男 67 慶北 '33　・どこに行っても、どこで暮らしても、我々は韓国人として、立派に誇りを持って生きるのが当然。

兵　庫 男 67 慶北 '36 ・帰化も考えたがすべきでないと思ってやめた。経済的にゆとりのない人には難しかったのではないだろうか？　海外旅行に行く時に朝鮮籍では出られない。韓国籍でパスポートを作るにしてもとても高い。高すぎる。

兵　庫 女 63 慶南 '39 ・最初はその気はなかったけれど、子供達が日本で生まれ、今更韓国に帰っても生活出来ないし、日本で生まれた夫も最近日本に帰化することが日本で生活するに、最も良いと勧めるし、子供達も日本で骨を埋める様（結局子供や家庭が日本にある）だし、今更祖国に戻っても、嫁に出た以上、実家は（韓国風では）他人の様なもの。だから祖国には自分を受け入れる何もないので、このまま家族と日本で永住し、自分も最近骨を埋めることで決意しているのだから帰化しても良いと思い出した。

兵　庫 男 61 慶南 '42 ・新日本人になったところで、あらゆる面で差別があるので。

兵　庫 女 70 慶南 '37 ・自分自身は韓国人だからと言って、不便に思った事はないし、自分の国籍を捨てる必要はない。

兵　庫 男 74 慶南 '27 ・帰化する理由がない。われわれは韓国人としての国籍があるのに、何故日本人にならなあかんのか。考えても分かることである。

兵　庫 女 77 慶南 '30 ・孫のことを考えると……。でも本国へ1度行ってきっぱりと消えた。

兵　庫 女 65 済州 '28 ・韓国人として当然である。

兵　庫 男 60 慶北 '36 ・それは、民族性があるから。後は分からないけど、今の時点ではない。

兵　庫 男 65 慶北 '34 ・あったがやめた。子供のことが心配だったから。

兵　庫 女 62 慶南 '38 ・わしらが死んだらみんな日本人になっちゃうんとちゃうか。それが悲しいですわ。

兵　庫 女 57 忠北 '44 ・自分の生まれた国が忘れられない。

兵　庫 女 58 慶南 '44 ・朝鮮人は朝鮮人やのになんで日本人にならないかんのや。

兵　庫 女 60 忠北 '41 ・帰化ということを聞くとムカムカする。

兵　庫 男 63 慶南 '41 ・本国で生まれたし、別に日本人になっても得することもないし、韓国人は韓国人だし、先祖の墓も本国にあるから。

兵　庫 男 76 慶南 '33 ・朝鮮人が帰化したところで朝鮮に変わりはない。外は日本人でも中は韓国人や。

兵　庫 男 63 忠南 '42 ・自分は韓国人やから韓国の籍を手放すつもりはない。

兵　庫 女 59 慶北 '39 ・考えない。帰化しても体内の血は韓国人である。仮面をかぶっても韓国人は韓国人である。

兵　庫 男 60 慶南 '38 ・わいは韓国人や！

兵　庫 女 77 慶南 '24 ・私がもし帰化をしても、朝鮮人であるという事が変わるわけでもないし、現在、朝鮮人であるという事で何の不自由もなく生活できるので、そういう必要はない。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・日本に永住したいとは思わないし、韓国人であることに誇りを持っているから。帰化するということは、祖先を捨てることになる。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・私ら夫婦は帰化を考えたことはない。

兵　庫 男 69 慶南 '30 ・自分の先祖がいるのに、それを裏切ってよその国の人間になる気はなかった。そんな気持ちが強かったから帰化なんか考えた事もなかった。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・自分の祖先を捨てることが出来ない。

兵　庫 男 60 慶南 '36 ・齢やし、今更帰化したところでむずかしい。もうあかんやろ。

兵　庫 女 78 慶南 '28 ・齢をとったからどっちでもええ。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・私は帰化しても仕方がない。朝鮮人は朝鮮人だから。だけど表むきでも帰化したら商売する上でプラスになると思う。

兵　庫 男 64 京畿 '44 ・私は韓国人なので、嫌いな日本人なんかには絶対なりたくなかった。韓国人は韓国人やから。

不　明 女 78 慶南 '28 ・年とってたからどうでもええと思った。

滋　賀 女 78 全北 '20 ・どんなにつらくても、韓国は世界で1番強い国だと思ってきた。例え日本にいようとも、おばあちゃんは韓国人という誇りを持って生きて来たのだから、帰化する必要はない。

広　島（不明） ・絶対、日本人にだけはなりたくなかったから。

広　島（不明） ・金もったけえ言うて、日本人なるのは人間じゃないで！誇りをもっとったら絶対ならん。国があるのに。殺されても誇りをもたなけりゃいけんよ。

広　島（不明） ・幽霊になりたくない。民団よもっとしっかりしろ。民団がしっかりすれば、帰化を考える事はない。貧乏人でも、韓国人の一員であるから、韓国人として生きていけば良い。

岡　山 女 64 慶南 '41 ・韓国人が日本に帰化してどうする。する必要ない。考えた事ない。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・先祖から受け継いだ歴史、名前を重んじていたため、そのような気持ちになったことがない。

岡　山 男 65 全南 '34 ・私個人は帰化の意思はない。国を売り、血を売ることになる。しかし、子供たちに対してはその時期になって、日本の情勢を把握し、自身で判断すべきだと思う。

山　口 男 55 慶北 '43 ・帰化申請しても受理許可がおりないと思ったので、別に深く考えなかった。

山　口 男 66 慶南 '41 ・帰化をしても、韓国人に変わりはないのだから、する必要がない。

山　口 女 65 慶南 '39 ・何であんた、韓国人が日本人にならんといけんの。

山　口 男 66 慶北 '41 ・韓国人は韓国人である。

山　口 男 67 慶北 '42 ・韓国人は韓国人でいいと思う。韓国人の方がいい。

山　口 男 78 慶北 '27 ・帰化ということは今までに1度も考えたことがない。とんでもないことだ。意味がない。

山　口 女 59 全南 '39 ・韓国人としてのプライドがあり、日本人にする必要もないし、いくら帰化しても韓国人は韓国人なのだと思う。

山　口 男 59 済州 '40 ・大韓民国人として立派に生きたかったから。

山　口 女 59 慶南 '42 ・帰化をしなくても生活してゆけるから。

山　口 男 68 慶北 '31 ・それはあんた、あくまでも韓国人は韓国人でね。自分の「朴」をやめて日本人になろうとは思わん。

山　口 男 70 慶南 '31 ・今の職業では帰化は必要ではないが、帰化に対して抵抗はない。要は本人の気持ちだろう。
山　口 男 64 慶南 '38 ・帰化でなんの解決も出来ないからだ。帰化しても生活は変わらないだろうし、子供の結婚のことを考えても利点は何もない。
山　口 女 57 慶北 '43 ・韓国人は韓国人でいい。祖国を捨てる気はない。
山　口 男 66 慶北 '41 ・韓民族として国を捨てる気はない。
山　口 男 66 全南 '36 ・韓国人としての誇りがあるから。
山　口 男 66 慶南 '31 ・祖国を捨てる理由がない。民族の誇りがある。
山　口 女 62 慶北 '38 ・韓国人として生まれて何故日本人になる必要があるか。祖国を捨てたくない。
山　口 男 64 全南 '33 ・何処に住んでいても、自分が韓国人であるという事には変わりはないし、誇りに思っているから帰化する気はない。
山　口 男 78 慶北 '24 ・自分の国はちゃんと持ち続けていかなければいけない。
山　口 男 68 慶南 '31 ・韓国人は韓国人だし、帰化したからとそれが変わるわけではない。それにもう年をとっているし、今さら帰化をしても何もすることはない。
山　口 男 59 慶北 '24 ・誇りがある。
山　口 女 68 全北 '34 ・自分は韓国人であって、今さら日本人になる必要もないし、誇りに思っている。
山　口 男 68 忠北 '40 ・今になって何をする。この年になって考えたこともないね。
山　口 女 57 慶南 '39 ・そりゃもう、大韓民国の国民じゃから、帰化したら、おおごとじゃろ。やっぱり私ら商売を一生懸命やったら、食べては行けるのだから、大反対。
山　口 男 65 慶南 '31 ・民族の誇りがあるから。
香　川 男 60 慶北 '36 ・解放後、いつかは故郷に帰るつもりで仕事をし生活していたので、帰化は考えることなかった。
香　川 男 66 慶南 '40 ・子供、孫のことは分からないが、この年令まで韓国籍でいたので、残り少ない生涯もこのままで行きます。帰化しても、何の得もありません。
徳　島 男 68 慶北 '42 ・韓国人としての誇りがそうさしている。
福　岡（不明） ・年金が今から取れるわけでもないし。
福　岡（不明） ・自分の国が立派にあるのに、自分の国を捨ててまでも、日本人になりたくない。
福　岡（不明） ・韓国人としての民族意識があるから、当然帰化しない。
福　岡（不明） ・帰化しても、何かが始まるわけでもなく、ただ日本人になるだけである。日本人になりきれないものをなろうとする事自体、不自然だ。
福　岡（不明） ・自分自身を偽ることになる。
福　岡 女 62 慶北 '40 ・いまさら日本人になっても、先がないのに。韓国が好きである。
福　岡 男 62 慶北 '35 ・自分の戸籍まで、売ろうと思わない。
福　岡 男 73 慶北 '32 ・とんでもないことで、自分の国籍を変えるなんて考えたこともない。
福　岡 男 72 慶北 '27 ・自分の祖国があるのに、何故今さら日本人になるもんか。

福　岡	男	62	慶北	'38	・韓国に自分の親族が居るのでする気はない。
福　岡	男	70	慶北	'41	・日本人にはならない。帰化し自分の名まで売る必要はない。
福　岡	女	57	慶南	'44	・民族心、誇り。
福　岡	男	71	済州	'24	・家族へのしめしがつかない。
福　岡	男	60	慶南	'37	・苦労して子供しか残って…。日本人になってしまう。韓国人という誇りがある。
福　岡	女	61	慶南	'38	・自分の血と民族にさからうことは出来ない。
福　岡	男	68	慶南	'37	・齢をとってまで日本人になっても仕方ない。
福　岡	男	60	慶南	'42	・民族として当然だから。また、息子が今24才だから息子が韓国に帰ってもいいと言うならば自分としては本国で暮らしたい。
福　岡	男	75	慶南	'25	・何故、他の民族に入らなければならないか。
福　岡	女	59	慶南	'39	・昔やられた事が忘れられず、将来は必ず本国に帰る。
福　岡	男	58	慶南	'42	・妻が（日本籍）死んだ時、子供を自分の籍（韓国籍）に入れ変えた位だから帰化は全く考えてない。
福　岡	男	73	慶南	'26	・我々朝鮮民族が何故日本名を使ってまで生活しなければならないか。
福　岡	男	63	慶北	'39	・帰化を考える必要がない。
福　岡	男	73	忠南	'24	・同胞全体に対する帰化の意味は考えているが、個人の帰化を考えた事もその必要も認めないから。
福　岡	男	72	慶北	'31	・自分の名まで売りたくないし、国を捨てることにつながる。
福　岡	男	67	忠南	'42	・韓国人だから。
佐　賀	男	59	滿州	'45	・我が民族に誇りを持っているからの一言。
佐　賀	男	65	慶南	'40	・私は韓国人だから帰化する必要がない。選挙権がない以外に不自由はない。私は民族としての誇りを持っているので子供に対しても帰化は絶対にだめだと言っている。

第7章　エピローグ

㉔　一世と二・三世が世代を越えて取り組んだ外登法改正運動

祖国を失い日帝植民地支配によって、日本に渡航し、数々の苦難を経て、今日の基盤を築きあげてきた、私たちのアボジ・オモニである一世。民族差別、偏見に苛まれながらも屈することなく、絶対的な貧困の中から不屈の努力と精神力を持って生活基盤を創りあげ、南北分断の悲劇にまみえながらも自分たちの社会を創りあげてきた一世。その一世から次なる世代としての二・三世に向けてのメッセージを求めたのが「R：今後青年会、あるいは青年たちに望む事」の設問で、その証言内容を記したのがこの章です。今調査での最後の設問であったこともあってか、この設問に於ける一世の回答数は多く、言い換えるのなら、それだけ次の世代である二・三世に寄せる気持ちの強いことの現われであるかも知れません。

証言内容の底に流れているのは、二・三世、特に青年に対する期待と愛情、そして自分たちがどんなに苦しくても、つらくても放棄することのできなかった民族の心です。民族の言葉を学ぶことの意味、重要性を長かった日帝36年間の忍耐と属従の時代に身につけた一世の世代からしてみれば当然すぎる程、当然であったと思われます。特に解放の日を迎えても自分たちの学校を建てることが認られなかった等の悔しさを経てきた一世にとって、せめて民族の言葉だけは何としても学んで

欲しいという気持ちが証言の中から伝わってきます。これは苛酷な時代にあっても、精神的な支えとしての民族的自負心を保持していれば、絶望することはないという、まさに一世たちの歴史的教訓を私たちに伝えたいということではないでしょうか。その思いは、団結することの大切さ、同胞が結集する場としての組織の重要性を異句同音に強調していることにも通じています。異国の地で生きてゆく上で同じ胞(はらから)が共に力を合わせ、手を携えることがいかに心強いものであるか。生活向上を期してゆく上で、どれ程に重要であるのか。解放後40数年間にあって、組織を育み、守ってきた一世の言葉であるからこそ、重みをもって私たちに問いかけてくるのです。それ故に、私たちに対する注文や要望が厳しくなっているといえましょう。そして反面、それは一世たち自身の過去への反省と総括をふまえた上での要望、期待となっているのです。特に南北分断によって同胞同士が傷付けあうことの愚かさや哀しさ、そして友人としての日本人との関わりに於いて、自らの間違いを繰り返して欲しくないと願うアボジ、オモニたち一世の心の奥深くのやわらかな部分を、私たちは見る思いがするのです。そして〝一世に負けるな!〟と叱咤する声に託された一世の寄せる愛情と期待を私たちは、真正面から受け止め、これら一世の子として、孫としての誇りを活力として在日同胞社会の明るい未来づくりに携ってゆく。それが寄せられた一世からのメッセージに対する私たち二・三世の回答なのです。

質問R：今後青年会、あるいは青年たちに望むことがあればお話し下さい。

㉕　一世の築きあげた礎を受け継ぐ二・三世の責任は重い

北海道 男 59 忠南 '42 ・韓国人としての意識をもった人達が活動をするのはいいことである。自分の生涯を一つ一つ話したら、1冊の本ができるくらいである。

北海道 男 56 全南 '40 ・今後も日本の中に住んでいる同胞の為に、人権を守る事や、生活の苦しい人達をいかに助けるかを考えて、良くなるように頑張って下さい。皆さん大変良くやっていると思います。

北海道 男 69 慶南 '31 ・一世ができなかった事を、二世は努力して達成するようにして欲しいし、自分としても協力もしたいが今の青年会自体、まだまだ努力が足りないような気がするし自分本位だ。

北海道 男 59 忠南 '42 ・これからは二世三世の時代。自分達が今までしてきたが、その不足な分、青年達に努力して欲しい。自分達のやり易いように、やって欲しい。

東　京（不明）　・堂々と韓国人として生きていって欲しい。

東　京 男 61 済州 '40 ・バックアップするものもないし、大変だと思う。ただ、皆が顔を会わすなど、そういう集りを保って欲しい。まず、皆が集まることが必要だ。今後も頑張って欲しい。

東　京 男 73 済州 '22 ・今、特に望むことはないが、このような活動等に益々頑張って欲しい。

東　京 男 69 京畿 '34 ・このアンケートを評価しないではないが、これほどのアンケート内容を考えると、普段の接触なくしてどこまで奥深い解答が得られるかを考えた時、非常に無理が感じられる。突然、他家に邪魔をして、「貴方の過去を話して下さい」では、得られる回答はたかが知れていると思われる。その為と布石となる普段の活動が必要であると思う。ある方向性を持って普段の接触を大事にして欲しい。

東　京 男 64 済州 '32 ・頑張って下さい。私達が団結して、より良い生き方をしてゆきたい。今、頑張ればそのうち皆が協力してくれる。

東　京 男 53 済州 '42 ・応援している。もっと人数を増やして大きな組織として協力し合って欲しい。民団は青年次第で総連より上を行ける。

東　京 男 62 慶南 '42 ・同胞青年を集めて、韓国語を教えたりして欲しい。

東　京 男 66 済州 '36 ・韓国政府に在日同胞の生活向上をはかってくれるように進言して欲しい。

東　京 女 58 済州 '41 ・民団の人達より、一層の頑張って欲しい。青年達の交流を図り、二・三世の時代まで韓国人として生きて欲しい。

東　京 男 53 済州 '43 ・20年後の為に民族教育をやる。口先きだけでなく、どんどん動く。

東　京 女 56 済州 '42 ・これからの若い青年は民族教育もそうだけど、自分の国だけは忘れないで欲しい。

東　京 女 63 全北 '38 ・被爆者の映画を上映して欲しい。

東　京 男 56 慶北 '40 ・もっと韓国人としての自覚を持って欲しい。

東　京 男 70 慶南 '31 ・民族心をはぐくみ、敬老心を忘れずに、そして、帰化せずに生きていって欲しい。活発に運動を推進していって欲しい。

東　京 女 68 慶北 '31 ・何でも今まで以上に頑張って欲しい。総連の人達は徹底してやっているが、民団はその点、積極性がない。もっと家庭訪問をして欲しい。

神奈川 男 63 慶北 '40 ・活動をもっとやって欲しい。

千　葉 男 64 慶南 '39 ・何かやろうとしても金がないとダメなので、運営資金でも出し合って、力を入れてもいいような青年にこまめに根気よく、家庭訪問をして欲しい。

千　葉 男 64 全南 '42 ・青年が一生懸命やっているのを余り見かけないし、もっと団結して勉強して欲しい。民族学校を建てて欲しい。

千　葉 男 69 慶北 '37 ・自分達はもうだめだが、これからの若者は青年会に入って、韓国を担って欲しい。

千　葉 男 65 済州 '35 ・まだまだ青年の力が足りない。最近は手紙の勧誘が多いが、直接来た方がよい。これからもしっかり頑張って。

千　葉 男 64 忠南 '42 ・民団をなくさないように頑張って欲しい。

千　葉 男 70 慶北 '36 ・こんなアンケートをしているより、テレビで見た、新宿の養老院に居たおばあさんの事を、考えてあげて欲しい。今になっても言葉もわからないで養老院に1人で入り、ずっと泣いているのをテレビで見て、私も泣いてしまった。何とか、あの人を助けて欲しい。

千　葉 男 66 慶北 '33 ・青年達が団結して、自分達の権益を守る。自分は韓国人だという意識

を持って、目的を持って、意識的な団結力を…。

千　葉 女 64 全南 '44 ・日本人に負けないで、立派な青年になって欲しい。

千　葉 男 65 慶南 '40 ・同胞を守る会なので、各家庭を見極めて、個別訪問をする必要がある。積極的に働きかける必要がある。

千　葉 男 69 慶南 '33 ・先祖の墓は、韓国にあるのだから故郷に行って欲しい。ソウルなどの都市で遊ぶだけでなく、韓国に行って親戚と会うようにして欲しい。そうしないと日本人でも韓国人でもなくなってしまう。

千　葉 男 63 慶南 '37 ・一世は年をとったので、二世が頑張って努力して守って欲しい。外国にいるのだから、悪い事はするな。外国で団結がないと、生きるのが大変。正しいと思うことをして欲しい。

茨　城（不明） ・一世の築きあげた組織をいつまでも持続し、新たな発展があるように頑張ってもらいたい。

茨　城 男 53 忠南 '44 ・日本の社会の中で生きていく上で、一・二世のパイプ役として働いてもらいたい。組織整備を進めていく必要がある。組織存在の意義を高めていく必要がある。

茨　城 男 57 慶南 '41 ・青年会の存在そのものの価値を余り評価できない。

茨　城 男 51 慶南 '45 ・民団の行事の際には、会員達が全員参加する事を望む。本名を名乗る事、歴史・ハングルの勉強。一世達に負けない強力な組織作りを目指して欲しい。一世達の民族遺産をしっかり守って欲しい。

西東京 女 66 慶南 '29 ・青年会はなくてはだめ。世話になることがあるだろうから、その時よく世話して欲しい。自分達も段々年を取り、しゃべれなくなったらウリマルで相手をして欲しい。

西東京 男 66 全南 '35 ・活動しても結果としてあらわれるものをやって欲しい。

西東京 女 72 慶北 '28 ・別にこれといってない。

西東京 女 66 慶南 '36 ・青年会は無くしてはいけないと思っている。若い人がしっかりしなくてはいけない。

西東京 女 59 慶南 '37 ・今のままでよい。

西東京 女 75 慶南 '28 ・自分の子供達ももっと色々な活動等に参加して欲しいが、親の言うことを聞かない。自分達の思っていることを子供達がしてくれればよいと思う。その為には青年会の活動も工夫をして面白い企画、楽しそうなことを考えてやればよいのではないかと思う。

西東京 男 72 慶南 '39 ・頑張ってくれ。

西東京 男 69 慶北 '28 ・青年達が先頭に立ってやらなければならないのに、フラフラしている者が多い。自分の子供・孫達が幹部としてやっているが、一生懸命やっている割には何も変わらない。どこで活躍しているか全然わからない、もっとしっかりしろ!!

西東京 男 63 忠南 '40 ・他国に住んでいるのだから、団結してもっともっと活発に活動して欲しい。特にバカにされない様に！

西東京 女 70 慶北 '31 ・とにかく忙しいだろうけれど。青年会の仕事を頑張ってやってほしい。

西東京 女 68 慶南 '34 ・頑張って下さい。

西東京 男 65 慶南 '41 ・これからも同胞の為に頑張って。
西東京 女 88 慶南 '38 ・頑張って下さい。
西東京 女 82 慶北 '40 ・大変良い事だと思うし、今のままよくやってくれれば良い。御苦労さま！
西東京 女 72 慶南 '30 ・今までの青年会がどの様な事をやっているのかわからなかったので、青年会に望むことはない。が、青年会の人達がこのようなことをやっているのだということがわかった。深い事については、余り年を取り過ぎているので、わからない。
西東京 女 79 慶北 '21 ・別に無いけれど、青年会の皆さんがよく頑張っているので、今後徐々に良くなると思いますので、力を入れて頑張って。
西東京 男 66 忠北 '37 ・韓国人として誇りを持って欲しい。
西東京 女 68 忠北 '42 ・韓国人としてもっと頑張らなくてはいけない。
西東京 女 59 慶南 '39 ・もっと青年会の人達がしっかりして、これからの活動に可能性あるものにしてくれれば十分です。
西東京 男 65 慶北 '38 ・お互い仲良くやって欲しい。1人が悪い事をすると皆が悪いと思われる。
西東京 男 60 全北 '38 ・全て、何かをやるのならば徹底してやって欲しい。今見ていると、何か中途半端な気がするし、だらしなく感じる。個人個人勝手に行動しないで団結してやって欲しい。
西東京 男 72 慶南 '40 ・自分は民団の役員になった事もないし、もう年だし、たいした行事にも参加しないので青年会の存在は知らなかったが、この様に沢山の青年達が民族意識をきちんと持って活動するという事はとても良い事だ。とにかく今は二・三世の時代なので、もっともっと国の為に頑張って欲しい。応援します。
西東京 女 75 慶北 '30 ・良くやっていると思うし、年寄りが口を出す様なことは何もない。これからも頑張って下さい。
西東京 女 61 慶北 '41 ・もっと積極的に活動を行なって欲しい。青年会独自でやる仕事が沢山有ると思うので、そういうのを行なって欲しい。
西東京 男 62 慶南 '39 ・青年会はもっと積極的に活動をして青年同志の親睦を深め、今までよりもっと中味の濃い青年会を作って欲しい。
西東京 男 57 全南 '39 ・自分の子供も青年会の役職に就いてやっているが、何か遊びの事ばかりやっている様に見える。自分の子供を見ていると一生懸命やっている様だが、目に見えた成果がない。もっとしっかりしてもらいたい。
西東京 男 72 忠南 '40 ・もっと意識を持って欲しい。
西東京 男 62 済州 '43 ・頑張ってくれ。
西東京 女 72 済州 '41 ・同胞のつながりをしっかり固めて欲しい。自分の子供達に対して民族教育をしなかったことが悔まれる。
西東京 男 59 全南 '42 ・大変だろうが、途切れないよう、仲良くやっていってくれる事を望む。
西東京 女 56 全南 '27 ・友達を沢山作り、協力し合って生きていって欲しい。
静 岡 男 64 慶北 '38 ・しっかりやって貰いたい。

愛　知（不明）　・現在の青年会に対しては、息子も参加しているが、皆、良くやっているなあと思っている。皆で力を合わせて今後も仲良くやって欲しいし、子供達とも長く付き合って欲しい。

愛　知（不明）　・我々は一世だから言葉ができるのは当たり前だし、子供達に対して教えて来なかった事も確かだが、君達はあまりにぬるま湯につかり過ぎている気がする。もっともっと頑張りなさい。

愛　知 女 65 慶北 '43 ・今後も継続して欲しい。

愛　知 男 58 慶南 '40 ・愛知は青年会が育ちにくい環境を作ってしまった。これからは民団よりも青年会が中心になっていくべきだ。青年会に重点を置くべき。学生会は青年会に入るべきだ。レクリエーションは一緒なんだから。成人式でももっとアピールして成人式に参加した青年を青年会に入れるぐらいにしなくてはいけない。それだけのメリットがなくてはいけない。

愛　知 男 60 慶北 '43 ・自分の為、本国の為、団結して様々な苦労を乗り越えて行動していって欲しい。

愛　知 女 62 慶北 '40 ・今の若い人たちは、日本人とも仲良くしていったほうがいいと思う。昔のようなことは、繰り返して欲しくない。

愛　知 男 65　　 '42 ・民族団体は必要である。若い者も、自分の事をよく考えて、もう少し頑張って貰いたい。

愛　知 男 73 慶南 '28 ・日本に住んでいても、たとえ韓国人であっても、まっすぐにやましいことをしなければ、日本人に後ろ指や差別される日は無くなると思う。しっかりやってくれ。

愛　知 男 60 全南 '42 ・民団の後継者となり、世代交替して欲しい。

愛　知 男 71 慶北 '34 ・若い青年達は、まず少しでも多く、民族団体に参加し、民族教育を受け団結し、日本が住み易くなるよう活動して欲しい。

愛　知 男 75 慶北 '32 ・他人に迷惑をかけないように、学ぶ事はしっかり学び、努力して欲しい。

愛　知 男 74 忠南 '26 ・日本で生まれても韓国人だという意識を持って欲しい。

愛　知 男 82 全南 '23 ・しっかり働いて、若い時の苦労は買ってでもするべきだ。

愛　知 男 82 慶北 '16 ・一生懸命仕事をして欲しい。

愛　知 男 58 慶北 '39 ・昔の青年団と比べて、まだまだ消極的で行動力がないので、もっとしっかりして欲しい。もっと他の青年が興味を持って青年団に参加出来るような行動や活動をして欲しい。友達から聞いた話によると、子供が青年団に出て行っても、やっている事が良く理解できなかったり、年上の人ばかりで話が旨く合わない。又、出て行ってもだんだん来る人も少なくなり意欲を無くしてしまう。

愛　知 男 71 慶南 '29 ・世の中が不景気になってきているし、韓国人は就職が厳しいので、就職問題を真剣に取り組んで考えて欲しい。

愛　知 男 60 慶北 '40 ・同化されやすい環境にあるので、１人でも多くの同胞青年を目覚めさせるように努力して欲しい。

愛 知 男 59 忠北 '37 ・韓国人特有のぬるま湯的ナアナア主義を排除していって欲しい。
愛 知 女 60 京畿 ・若い人達はもっとウリマルを覚えて欲しい。そうすれば一世と二・三世の心はもっと通い合うはずだ。
愛 知 男 62 全南 '41 ・これは若者だけじゃなく在日同胞全てに言いたいが、本名を使って欲しい。三、四十年も昔に強制されて使った名前を今も使うのか!?
愛 知 男 62 慶南 ・いつまでも、自分の国を忘れずに希望を持ってやりなさい。
愛 知 女 65 全南 ・日本人と違って親あれば子あり、子があれば親があるように親を大切にして欲しい。仲良くして欲しい。
愛 知 男 60 慶北 '41 ・日本という制約の中で大変よくやっていると思う。君達、青年会の中から未来の民団を背負って立つ人が現れると思うので、しっかり学び遊んで下さい。それから苦言を一つ。民団及び青年会は在日韓国人の為に動いて欲しい。
愛 知 男 57 慶北 '42 ・サークル活動も大事だが、もっと勉強をして本国についての知識が欲しい。一宮だけでも 400世帯もある中で10人くらいしか集まらないのでは淋しい気がする。
愛 知 女 56 京畿 '45 ・これから本国を愛し、在日同胞は韓民族の代表なのだという気構えで、世界に通用する立派な人間になって下さい。
愛 知 男 60 慶北 '38 ・若い人達が頑張って欲しい。青年会という団体がどういう団体なのかは理解していない。しかし我々、同胞には、民族団体が必要である。これからはぜひ青年に頑張って欲しい。
愛 知 男 60 平北 '44 ・活発に活動し、研究したりして、知識を高めて欲しい。自分達の生活を確立しながらも活動の輪を広げて欲しい。
愛 知 男 76 全南 '28 ・一世が築いたものを、1日も早く継承して欲しい。
愛 知 男 71 慶南 '37 ・まず母国語を習得して欲しい。
愛 知 男 66 慶南 '40 ・先祖のしきたりを忘れずに守って欲しい。
愛 知 男 72 忠南 '27 ・在日同胞は、いわば日本にも本国にもすてられた民族だ。今の民団幹部に、もはや本当の意味での団結力が無くなっている。君達青年会が頑張ってこの民族団体あるいは社会に活力をつけて欲しい。
愛 知 男 79 慶北 '31 ・とにかく民族意識を忘れずにがんばり、必ず韓国を統一して欲しい。
愛 知 男 73 慶北 '28 ・韓国人は韓国人としてのプライドを持って生きて欲しい。
愛 知 男 75 慶南 '27 ・これからはお前達の時代だ。まあしっかり引っ張っていってくれ。
愛 知 女 80 慶南 '32 ・存在を知っていますが、あまり関知していません。よくわかりませんが頑張って下さい。
岐 阜 男 56 済州 '44 ・祖国の発展も大事であるし、在日同胞社会の発展も大事である。年寄りは若い人の活躍が大事である。適材適所ということを考えて頑張ってほしい。
岐 阜 男 71 慶北 '27 ・青年たちが、総連、韓民統がごちゃごちゃしている。あいまいさをなくし、大韓民国国民としてどの程度徹底しているか。総連に倒されるおそれもあった。
岐 阜 男 56 済州 '44 ・日本政府に対して不満ばかりをぶつけるのではなくて、韓国人として

韓国人として尊敬されるような存在になっていく必要があるのではないかと思う。金があるなしにかかわらず尊敬されるようになって欲しい。金のある人が金銭面以外の面で金のない人をよく指導していってもらいたい。韓国人同士の信頼感を高め、日本人との信頼感を協調しあい組織力を強化させる必要がある（要するに人材の問題を解決すべきである）。

富　山 男 65 慶南 '37 ・日本の人々の中にあって同胞の青年が彼らと交流し、かつ民族のために活動するのは良いことだ。

富　山 男 53 慶北 '43 ・忘れがたき日帝36年であったが、その過去のことは心に秘めておき、在日に位置する青年会員は韓日親善を通じて不動の地位を建立すべきである。そのためには、確固たる民族精神（民族愛）を内に秘めたうえで自己啓蒙運動すること。すなわち人格形成を行なうこと。日本社会に認められる仕事に従事すること。すなわち、最低限の税金を支払う、あるいは納めること。日本社会および世界に通用する資格を取得すること。などを消化することによって余力をよって同胞をかえりみつつ、日本社会に進出、信用を獲得することで発言力を得ること。誠実なる努力と信頼のあるところには必ず善意の"生きもの"が生まれるはずであるから。我々は（青年だけでなく）意固地と自らの偏見を捨て、あまり過去にこだわりすぎず、おおらかになるべきである。

富　山 男 70 慶南 '32 ・もっと自分達の国の歴史や言語を勉強してほしい。

富　山 女 73 慶南 '35 ・今後も同胞のために、より民族主体性をもって一生懸命頑張って欲しいと思う。

大　阪 女 61 慶南 '43 ・まじめに一生懸命働くようにして、悪いことしないで親孝行しなさい。

大　阪 男 57 慶北 '43 ・南北青年会同志のいがみ合いみたいなものが気にかかる。青年達が政治活動から身を引いて、在日同胞青年による統一組織を作って、本国の平和統一を考えて欲しい。

大　阪 男 62 慶南 '35 ・青年達が団結をし頑張る事。韓国人として誇りを持って堂々と生きていくように。

大　阪 男 71 慶南 '31 ・自分達の為になることを勉強し、祖国の為になるよう頑張って欲しい。

大　阪 男 57 京畿 '43 ・韓青同の連中であっても我々一世から見れば子供達であるし、早く目を見開いて欲しい。

大　阪 男 61 慶南 '39 ・韓国語を持った人が集まって韓国との交流を沢山持って欲しい。

大　阪 男 62 済州 '43 ・青年会はよくやっていると思うが望むことは別に無い。

大　阪 男 69 慶北 '34 ・親が死んだ時にどうするのか、青年が中心になって物事をやらなければならない。将来を考えなければならない。親が同胞組織に子が出るのを拒む傾向がある、上に立つ者と青年達の考えに違いがある。今の青年は裕福だが、昔は貧しい中からカンパをして金を集めた。

大　阪 女 75 慶北 '27 ・自分なりに頑張って欲しい。もっともっと頑張って又、憎まれないように頑張って欲しい。

大　阪 男 76 済州 '18 ・若者はとにかく一生懸命やって欲しい。

大 阪 男 55 慶南 '44 ・若い人達に大いに頑張って欲しい。青年同志の輪を広くできるように努力をして、無関心層の青年も包みこんでいくような活動をして欲しい。

大 阪 女 61 慶北 '30 ・ウリマルを覚えて欲しい。

大 阪 男 70 済州 '27 ・関心を持った人達が集まってもっと行動して欲しい。歴史、その他いろいろな勉強をして頑張って欲しい。関心のない人達を引っ張っていって、若い人達にとても頑張って欲しい。これからも祖国の自覚を持って、誇りを持って頑張って欲しい。

大 阪 男 69 済州 '34 ・青年を集めるのにも距離的に遠方に住んでばらばらであるので、困難だと思う。今後、活発に青年会が活動し、日常会話も多少活かせるようになって欲しい。

大 阪 男 58 慶北 '41 ・中途半端、日本人、韓国人の中間。韓国人として誇りを持つ事。日本人に迷惑を掛けない事。

大 阪 男 60 慶北 '40 ・日本で住んで行く中で、政治をよくし、韓国人として暮らしのいいようにして欲しい。

大 阪 女 62 慶北 '40 ・自分の人生を夢見ながら頑張って欲しい。日本人に負けずに、堂々と歩いて欲しい、生活、その他、ｅｔｃ.

大 阪 男 61 慶南 '41 ・今、日本の学校を出て、日本式の生活をしている人が多い。一世の人がなくなれば、別にうるさく言う人がいなくなるので、自然に無くなるのではないかと思う。現在は、自由な団体であるので、今の状態では、民団というものがなくてもよいと思う。民団では、給料を取らせて、責任を持って、やって行くべきだと思う。

大 阪 男 52 済州 '43 ・若い間にどんどん活動して欲しい。同胞の若い青年達にひかれるような、青年会になって欲しい。

大 阪 男 63 全南 '37 ・これから韓国人に対して、民族の為に役立つように頑張って欲しい。

大 阪 男 67 全南 '38 ・青年会の青年達は、韓国人としての自覚と誇りをもって、韓国人らしき人間になる事を望みますね。

大 阪 女 57 慶南 '40 ・ここで生まれたので日本人と一緒に育ったが、韓国人ということで、劣等感はないはずだ。だから、一世の知らないところは教える、親の言うことばかり聞かないで、自分で考えて、堂々と立派に生きて欲しい。無知な親の悪いところはマネするな。年の功で、親が知っているところは、素直に認めて習え。日本人に負けるな（負けるはずがないのだから）。一世に負けるな。無学な親のマネをするな。

大 阪 女 60 慶北 '40 ・主人についていくだけで、青年会に関心ないので、望むこともない。貴方なりに成功しなさい。

大 阪 女 71 慶北 ・わからん！ウリマルをよく覚えて欲しい。

大 阪 男 59 慶南 ・一人一人がしっかりして、日本人に負けないような模範を示して欲しい。一人一人が立派な人間になって欲しい。

大 阪 男 65 済州 ・若い青年が、本国に奉仕をして欲しい。又、本国地域発展の為に、頑張って欲しい。

大　阪 男 63 慶南　　・見ていないからわからないけど、是非とも続けて欲しい。又、する事は、自分達で考えて作り出して欲しい。

大　阪 女 61 慶北　　・皆んなで団結して目標に向かって前進して欲しい。より良く生きていく為に頑張って欲しい。する人だけするんじゃなくて、皆公平に受け持ってやっていって欲しい。

大　阪 男 60 全南　　・韓民族は、団結し、民主主義レベルが低いからそれを高めて自分の国の歴史を学んでいって、愛国心を持ち続けて欲しい。これから先の自分の国がどうなっていくのか、その前に自分の国の歴史を学んでいって愛国心を持って、韓民族人が団結し、民主主義レベルを高めていって欲しい。韓国という国を観光地として見ずに、自分の国であるといったことをわかって、遊びに行く気持ちを持たないで欲しい。自分の国の歴史を学び次の世代に伝えていって欲しい。

大　阪 男 69 済州　　・皆で力を合わせて頑張って欲しい。ＴＶを見たら苦労したと思うが、兄ちゃんらが頑張らんと。

大　阪 男 64 済州　　・今まで青年会やって得したことがない。パッとしない日本国のことを考えず、突発的なことしかやっていない、あばれるだけではいけない、できるだけ皆の承認を受けて行動をしなさい。家族の事を聞かない人がやるから青年会が旨くいかない。韓国の為か、民団のためか、目的をしっかりもって一直線にやりなさい。

大　阪 女 59 全南　　・韓国人でもどこの会社にも就職できる社会を作って欲しい。

大　阪 女 72 慶北 '27 ・今以上に頑張って、もっと団結して、より生活し易くなる様に頑張って欲しい。

大　阪 女 68 済州 '30 ・体だけ丈夫だったらよいであろう。

兵　庫 男 68 慶南 '30 ・去年の青年会の映画会にいったとき、初めて合った青年に私が挨拶をすると知らん顔していたことがあった。やはり、挨拶は気持ち良くし欲しいものだ。初めの印象が悪いと、次からの集会に行くのがどうしてもおっくうになる。

兵　庫 男 66 慶南 '33 ・希望になるが、私の目の黒いうちに、本国の統一を願う。

兵　庫 女 68 済州 '40 ・もう、今はみんなが健康に注意して生活して行ってくれたらそれだけでいい。金持ちになれば、それにこしたことはないが、元気でいて、人に迷惑さえかけなければそれだけで十分である。

兵　庫 女 72　　　'26 ・安定所へいって金をかけると又金が貰える（国民年金）と聞いたので、金を貰ったが「貴方は外国人だからダメ」と言われ悔しくて腹立って、それが帰化を考えるキッカケにもなった。

兵　庫 女 68 慶南 '30 ・うちら年寄りが何言えんの？若い人達がどんどんどんどん頑張ってんのに年寄りが口出しする必要ないわ。

兵　庫 男 65 慶南 '35 ・もっと韓国（祖国）を理解し、韓国人としての誇りを持って生きて欲しい。青年会はよくやってるが、一部の人間だけでもっともっと人を集めて活発に活動して欲しい。祖国や祖先を大事にして立派に生きて欲しい。

兵　庫 女 71 慶北 '34 ・人間は年とっても学問がないとダメ。
兵　庫 女 60 慶南 '37 ・いいと思うよ。二世も三世もなっている人が自分の国に愛着を持つのは立派だと思う。これからの人達が自分の国に愛着をもってやるのがはたして何人いるだろう。
兵　庫 男 59 慶南 '39 ・これから先、長いから昔の人の事をもっと学習していって、もっともっと自分の歴史をこれを資料にして知って貰いたい。
兵　庫 女 59 済州 '36 ・とにかく頑張って下さい!!
兵　庫 男 60 慶南 '41 ・団体心が少し弱いと思う。なるべく自分は韓国人だと言う事を頭からは決して忘れて欲しくない。青年会の一部ではよく働いていると思う。今回でも、昼に仕事をし、疲れているのに、夜に回っているという事は、誰にもできる事ではない。これからも頑張って欲しい。
兵　庫 男 65 慶北 '38 ・青年同胞が一つに集まって運動することはええことだ。これからももっと続けて欲しい。我々私生活にささえのなるような事をやって欲しい。
兵　庫 男 63 済州 '40 ・わしら字も読めんし頭も悪いけど、今の子はしっかりしとるさかい、思う存分頑張っておくれやす。
兵　庫 女 55 慶南 '43 ・青年達と一緒何かやる企画は嬉しい。同胞の集まりがあれば嬉しい、嬉しいのでやって欲しい。ええ事はどんどんやったらええねん、ワシらも応援したるよ。
兵　庫 女 72 慶北 '24 ・一生懸命頑張ってくれたらいいわ。
兵　庫 女 64 慶南 '38 ・言葉を覚えたらいい。
兵　庫 男 67 慶北 '33 ・もっと韓国人として民族性を高めて欲しい。韓国人でもない、日本人でもない。いったい何人かと言いたくなるような青年をよく見かける。もっと自国語を理解し、礼儀作法を守り、韓国人として立派に生きて欲しい。道徳観念がなさすぎる。もっと韓国語を学習して欲しい。会員各自の団結力がない。我々韓国人社会の明日を担う青年会は、もっともっと前に出て、活発な活動をして貰いたい。
兵　庫 男 67 慶北 '36 ・こういう事をしているのは良い事だと思う。
兵　庫 男 61 慶南 '42 ・民団活動の先頭に立って貰いたい。
兵　庫 男 74 慶南 '27 ・これからも色々な面で熱心にやって貰いたい。
兵　庫 女 77 慶南 '30 ・青年会自体を知らない。これからの青年の為に頑張って欲しい。
兵　庫 女 65 済州 '28 ・本国統一の為に頑張って欲しい。国を統一してくれる事が一番嬉しい。
兵　庫 男 65 慶北 '34 ・団結ができないから無力。
兵　庫 女 57 忠北 '44 ・私達が出来ないような事を韓国の為に、青年の為に何かやって欲しい。
兵　庫 女 58 慶南 '44 ・青年が団結して青年会を各地方に作って貰いたい。
兵　庫 男 63 慶南 '41 ・将来と国の為にしっかりやって欲しい。
兵　庫 男 76 慶南 '33 ・生活が苦しいから楽になるようにして欲しいだけや、こんな事若い者に言うたって仕方ない。
兵　庫 男 63 忠南 '42 ・青年達がこれからしっかりしていってもらって、自分達の子供のように、日本人になりきていってしまうような青年を作らないように頑張

っていって欲しい。

兵　庫 女 59 慶北 '39 ・きめこまかく皆に知らせるようにした方が良い。

兵　庫 男 60 慶南 '38 ・魂の問題、国民の為、美しい民族の魂を持って、同胞社会の為、頑張って下さい。生活に密着する運動をやって欲しい。私らみたいな貧乏な人間の為に。

兵　庫 女 60 慶北 '43 ・日本で永住しても、韓国人としての誇りを持って生きて欲しい。もっと団結して、お互い韓国人同士、愛情をもって、手を取り合っていって欲しい。

兵　庫 女 57 慶南 '43 ・こういう私みたいな人間に訪問してくれて大変嬉しい。自分の息子もこういうことをして欲しいと思う。

兵　庫 男 69 慶南 '30 ・別にない。これからも頑張って貰いたい。年寄りが口を出す必要はないと思う。

兵　庫 男 63 全南 '32 ・もっと国の言語を覚えて欲しい。韓国人としての自覚を持って欲しい。

兵　庫 男 62 慶北 '41 ・韓国人の同じ世代の人々に対して、何も知らない青年に対して、自分の目上に対する礼儀をきっちり覚えさせていくように模範となっていって欲しい。

兵　庫 男 64 京畿 '44 ・国の統一を実現さして欲しい。

不　明 女 78 慶南 '28 ・日本の人と仲良くして。

兵　庫 男 65 全南 '37 ・青年の皆さんには、真面目に一生懸命働いて、いいお父さん、お母さんになって、韓国人として恥じない人間としてこれから先、日本で生活して欲しい。

兵　庫 女 78 慶南 '28 ・日本の人と仲良くして。悪い、悪い思わんと、誰かが悪いとか、そんなん思わんと、おばあちゃんでもイルブンサランの友達が多いで。

兵　庫 女 72　　 '26 ・年寄りに福祉が充実を獲ち取って欲しい。国民年金等を貰えように。

広　島（不明）・１人１人が団結意識をもって大きく前進することを望む。それが祖国の発展につながるだろう。民族の心、学習を一生懸命やってほしい。

広　島（不明）・少数意見の尊重。

岡　山 女 64 慶南 '41 ・我々一世は、祖国を愛し守って行こうと思っているのに、二・三世は日本に住んでいるので、今さら言葉、歴史など習う必要ないと言うが、改めて欲しい。

岡　山 男 57 慶北 '43 ・私たちは祖国のために何もできなかったから健康な青年達は、体で国の為に寄与して下さい。また知識のある者は頭で寄与して下さい。青年達にウリマルを勉強して下さい。中国人のようにウリマルを愛して下さい。

岡　山 男 64 慶南 '34 ・礼儀作法を知らなすぎる。

岡　山 男 65 全南 '34 ・国語習得、歴史を勉強し、組織内では下手でも良いからウルマルを使って欲しい。また祖国を愛するために祖国を知って欲しい。知る為に訪韓し、課題をみつけ動機として欲しい。

岡　山 男 78 慶北 '34 ・日本人に負けないぐらいの見本になって欲しい。また、祖国統一のため頑張ってほしい。母国が早く日本を追いこすよう在日同胞と本国人

とのギャップを少しでもうめて欲しい。

鳥　取（不明）　・もっと活発に活動して欲しい。まあ、仕事をしながらのことだし、良くやってると思う。

鳥　取 男 66 慶南 '29 ・もっともっと民族意識を高めなければいけない。ウリマルの勉強をして欲しい。

山　口 男 55 慶北 '37 ・このアンケート調査は、大変若い者にとって大切な事をやっていると思う。我々の苦労をよく知ってもらい、今後の青年会作りに一生懸命やってもらいたい。

山　口 男 66 慶南 '41 ・良くやっているのは、本当に良くやってると思うが、団結心が足りない。もう少し話し合いをすべきだと思う。わからない人にもわかるようちゃんと説明してあげる。そんな場を沢山作るべきだ。

山　口 女 66 慶南 '39 ・私達の子供に対して、子供が親の言う事を聞かないで、自分勝手にする。親を侮辱する、それがいかん。親を尊敬せんじゃいけん。

山　口 男 66 慶北 '41 ・もっと言葉を覚えるようにすべきだ。

山　口 男 59 済州 '40 ・二・三世が先頭に立ち、団結して同胞社会の為に頑張って欲しい。

山　口 女 59 全南 '39 ・どんどん大きな力となって、日本にバカにされる事なく頑張って欲しい。私たちはいつも団費を取りに来たり、こうして話を聞きに来たとき、心の中で"ごくろうさん"と念じている。しっかりとして、韓国人は死ぬまで韓国人なのだということを忘れず行動して欲しい。

山　口 男 60 忠南 '44 ・青年たちを支えるぐらいはまかせて、わからないことは一世が教えながら育てて行く。

山　口 男 60 全南 '41 ・とにかく民族の為に、活発に動いてもらいたい。

山　口 女 59 慶南 '42 ・同胞の青年を１人でも多く集めて、頑張って下さい。

山　口 男 68 慶北 '31 ・まだ不充分ですな。とにかくね、もう少し青年会が団結して皆より、集まって、勉強も言葉も互いにわかるようにして貰いたい。皆が余り本気にならんから、個別訪問してから参加させてみると、ＯＢ会の人にも電話した。年中やる人間はやるけど、他の人は知らん顔じゃろが。そういう人を誘わんじゃいけん。

山　口 男 70 慶南 '31 ・自分の事は自分で考えて行動してゆけ。日本の事を必要以上に悪く思いすぎる。

山　口 男 64 慶南 '38 ・早く民団に上って来て欲しい。

山　口 女 57 全南 '42 ・日本社会の中で日本人に負けないように団結して頑張って欲しい。

山　口 男 55 慶南 '41 ・韓国の発展に頑張って欲しい。

山　口 女 57 慶北 '43 ・祖国の事を半分位、わかって欲しい。日本人に馬鹿にされない様に努力して欲しい。

山　口 男 66 慶北 '41 ・若い者がしっかりやって、我が国を守り立てて欲しい。

山　口 男 66 全南 '36 ・若い者同志、とにかく日本人に敗けない様、頑張って欲しい。

山　口 男 66 慶南 '31 ・民団を守り立てて欲しい。

山　口 女 62 慶北 '38 ・民団を守り立てて欲しい。

山　口 男 64 全南 '33 ・自分達は（一世が）年をとっていくので、若い人達に韓国の為、又は

在日同胞の為に良くして欲しい。

山　口 男 62 忠南 '24 ・団結心を強く持って、年をとった自分達に代わって頑張って欲しい。

山　口 男 59 慶北 '24 ・よくやっていると思う。今後も頑張って欲しい。

山　口 女 68 全北 '34 ・これからは、青年会がしっかりしていかないと、バラバラになってしまうので、頑張って貰いたい。

山　口 男 68 忠北 '40 ・ないより、あった方がいいと思う。

山　口 女 54 慶南 '42 ・これからは自分達で考え、自分達で行動しなくてはならない。

山　口 男 65 慶北 '31 ・地方別に見ても、青年会そのものが何の役割りに立脚して、何をやっていくのかその本質をつかんでいない。有名無実に等しいと思う。青年よ、21世紀の山を登攀せよと言いたい。青年達の幹部育成こそ、急務ではなかろうか？

徳　島 男 61 慶北 '38 ・単一民族の尊厳性と優秀性、そして韓国の文化を子孫に残す為にも、特に青年達は大いに勉強し下さい。又、今後韓国人の地位向上運動が盛り上がると思うが、同時に日本の社会にあって日本人から、信頼される韓国人になって欲しいと思う。

徳　島 男 72 慶南 '27 ・出来るだけ民団や会の集まりに参加して、語学の勉強会にも積極的に参加して、少しずつでも、国の事を理解し、学んでいって欲しいと思います。そうすることにより、子孫にも、何かしら少しずつ教えていけるようなものができると思う。それと、一番大切な事は、同じ国の人同志のお付き合いを大事にしていって欲しいと思います。

福　岡（不明） ・民族意識だけは、持っていて欲しい。

福　岡（不明） ・今後、青年達は、韓国のしきたりを忘れずやっていって欲しい。

福　岡（不明） ・もうちょっとしっかりして欲しい。クリスマスパーティーなどやらなくてよい。いらん金を使い過ぎる。もう少し実現できるよう活動をして欲しい。国際結婚は、するな！

福　岡（不明） ・青年会の活動者は二世、三世の内、数少ない集団であるから、もっと民族性を出していい思う。だから、もっと民族性を出す団体になって欲しい。言葉、食事、習慣にしても、言える事だ。そして、韓日両国、両民族のかけ橋として、なれる様に日本社会で頑張って欲しい。

福　岡（不明） ・日本で生きる方向性を常に頭に置き、現在の活動をやって貰いたい。

福　岡 女 65 慶南 '43 ・日本に住んでいても、韓国というものを出来るだけ知って欲しい。特に、言葉。

福　岡 男 73 慶北 '32 ・皆、集まって目的の為、頑張って下さい。

福　岡 男 72 慶北 '27 ・日本にいても、自分なりに自覚を持って生きていけ。帰化はするな。

福　岡 男 62 慶北 '38 ・隅から隅まで同胞を把握して下さい。青年会の組織がやる行事に息子が参加するようにしてくれると助かる。

福　岡 男 70 慶北 '41 ・ウリ学校があれば青年達が集まると思うが、福岡にはウリ学校がないものだから言葉を知らないからと、青年会に出ていけない人達もいることを覚えていて欲しい。幹部だけの会話だけで済まさないで、一般の人達の集まる場を作ってもらいたい、気軽に集まれる場を作って貰

いたい。

福　岡 男 71 満州 '24 ・民族の血をわきまえ、日本人の中に良い同化をすべきで、青年会は綺麗なお金の使い方をし、同胞に信頼される団体にならなくてはならない。

福　岡 男 60 慶南 '37 ・民団を利用して私腹を増やすようなことをしてはならない。

福　岡 女 61 慶南 '38 ・朝総連から民団にきて若い人の差にびっくりした。朝青が宣伝活動は活発だし、一世の色々のアンケート、又、実態調査は数年前に終っている様だ。朝総連の教育はいきすぎと日本社会にマッチしない面があるが、組織的にも青年も活動が多様で、民団の青年会が活動するのを見ると宣伝、家庭訪問活動など、この程度かと正直に行ってあきれた。

福　岡 男 68 慶南 '37 ・動員力がない。

福　岡 男 60 慶南 '42 ・言葉を覚えて欲しい。韓国のしきたりを覚えて欲しい。

福　岡 女 59 慶南 '39 ・民族意識を持って、言葉を覚えて欲しい。

福　岡 男 58 慶南 '42 ・行事の多様化、言葉の勉強等をやってもらいたい。

福　岡 男 73 慶南 '26 ・福岡に韓国学校を建ててくれたら、子供達の為にもいい事ではないか。

福　岡 男 63 慶北 '39 ・人が集まるだけが青年会でも団体でもない。韓国との精神的つながりをもちながら、日本在住しながらも民族の自尊心をもたなければいけない。青年会も強い民族の自尊心をもつ人達の集団になって欲しい。

福　岡 男 73 忠南 '24 ・祖国平和統一は同胞の大きな問題であるが、民団にはこの問題を解決できない様に思える。なぜなら、対立は対立しか生む事は出来ず、解決にはどちらか一方の高次元の立場と意志がまず求められるからだ。青年会は民団、又は朝総連等、一世世代とは異なった広い気持ちと高次元の立場を持ち、憎しみのない関係を自らが作り、又、活動の際にもそう努力をする必要がある。

福　岡 男 67 忠南 '42 ・韓国の礼儀をわきまえて、日本人のようになって欲しくない。年寄りの前での礼儀を。

佐　賀 男 59 満州 '45 ・民団の後継者として頑張って欲しい。

佐　賀 男 65 慶南 '40 ・民族としての意識に欠けている。小学3年以上から青年まで週に1回でもいいから、学習会を3年から5年続けてやらなければならない。

宮　崎 男 67 慶北 '32 ・民族教育を受ける事を望む。韓国の礼儀作法を受けさせたいと思う。

<写真提供先一覧>

No. ③ ④ ⑨ ⑩ ⑬ ⑮ ⑯ ㉑ ………… 辛基秀編著〈映像が語る「日韓併合」史〉より転載

No. ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ………………………… 毎日新聞社刊〈日本植民地史①「朝鮮」〉より転載

No. ⑪ ⑫ ……………………………… 東亜日報社刊〈写真で見る韓国100年〉より転載

No. ⑰ ⑲ ㉓ ………………… 在日本大韓民国居留民団中央本部刊〈民団30年史〉より転載

No. ㉒ ……………………………………… 梶村秀樹著〈解放後の在日朝鮮人運動〉より転載

No. ① ⑱ ………………………………… 青丘文化ホール（代表 辛基秀氏）より借用

卷末資料

日本社会科教科書史実歪曲完全是正要求在日韓国青年学生

9・1全国代表者集会開催

青年会中央本部は、昨今6月から問題となった一連の日本国教科書史実歪曲問題に対し、学生会、青商連合会と共に「日本教科書史実歪曲完全是正要求在日韓国青年学生代表者集会」を9月1日、東京・民団中央会館にて開催した。当日、全国各地から平日にもかかわらず、青年・学生代表200余人が史実歪曲に対する抗議の意を結集させ、集会文書を採択し、抗議文を文部省へ手渡す等、各地方組織の代表者として、怒りの声を上げた。

『民族史の創造的継承を！』

〈一連の動き〉

6月25日、文部省の教科書検定が終了した後、日本のマスコミはもちろん、韓国をはじめとする各国の新聞でも、史実歪曲を批判する記事が相次いで掲載された。そして抗議の声は一般大衆にも広がり、韓国・中国ではデモや集会が行われるようになった。そういった中、7月28日、民団中央本部は内外記者会見を行い、同時に是正要望書を文部省に提出、また、婦人会も8月に入り、都内でデモを行い気勢を上げた。

こういった一連の動きに対し、青年会中央本部は、8月10日「緊急拡大地協事務局長会議」を召集、歪曲是正の意思を確認、ただちに小川文部大臣宛ての抗議文を文部省に提出し、是正の返答を要求、20日に再度交渉する約束を取りつけた。

しかし、文部省の〝事情〟により24日にやむなく伸ばされた。再度集まった地協事務局長、主要地方会長らは文部省に対し、10日提出した抗議文の返答を求めたが明確な返答は得られなかった。

青年会は同日、対策会議をもち正式に9月1日、学生会、青商連合会とも連帯し、一大抗議集会の開催を決定した。

各国の批判の声が高まる中、日本政府はその早急な対応を迫られていたが、8月26日、ようやく宮沢官房長官が日本政府の見解として談話を発表した。その中で日本の過去における過ちを反省する事を再確認した上で、歪曲是正の暫定期間として2年間という期間を打ち出した。

その談話に対し韓国政府は、ある程度日本の是正努力は評価しながらも、早急なる是正を改めて要求した。そういった動きの中、9月1日、在日同胞青年、学生の代表者集会として,200余名が東京に集結した。

〈集会の開催〉

集会は59年前、同胞が大虐殺された関東大震災の起った9月1日に行われた。

青年会・学生会・青商連合会という在日同胞青年・学生を代表する組織の共闘体制で行われた集会は、まず各団体長の人事から始まり、鄭夢周青年会中央本部会長が「史実歪曲は、日本政府の同

化・追放政策のあらわれである。自分達の手でこれを改めて行こう――」と問題点を指摘し、即刻是正を訴え、鄭富相学生会中央本部会長と朴安淳東京青商会長も各々歪曲是正にむけて、青年・学生の一層の力強い連帯の必要性を呼びかけた。また来賓として出席した丁海龍民団中央事務総長も「未来を担う青年・学生としてがんばってほしい」と参加者を激励した。

次に教科書問題の発端となった6月25日の検定から、9月1日集会を開くまでの経過説明が主催者側から行われた。そして、集会参加者全員が史実歪曲部分の確認と抗議意志の統一を図るため、スライドによる学習も行われた。このスライドは、青年会中央の任員らの手によって作成されたもので、教科書歪曲部分と史実を比較させ、問題点を平易に説明したものであった。

この後、声討が行われ数多い挙手の中から、福岡の小倉支部、学生会、大阪本部等から参加者の力強い声討をして、会場は一層、熱気の帯びたものとなった。そして抗議文、決議文、日本人に対するアピール文が読み上げられ、それぞれ採択された。

集会では合わせて、権清志青年会中央組織部長から、現在の教科書問題に対する青年会としての行動提起を行った。提起は日本政府、社会へ対応する体内学習として、青年・学生がもっと韓日関係史を始めとする民族史を学ばなければいけない、というものであった。その中で特に、一世の証言を元に、在日同胞の渡航史について実態調査をまとめながら学習を進めていくという内容である。

集会に参加した各組織の代表者は、怒りの声を会場内のみにとどめることはできないとして、集会終了後、文部省へ駆けつけ、集会で採択した抗議文を手渡し、その場で即刻完全な是正を求めるシュプレヒコールを行った。

日本の行政機関が集中する虎ノ門に同胞青年・学生の怒りの声が響き渡り、我々の抗議行動が周辺の日本人にも広く知れ渡った。参加者は各々、文部省側の誠意のない対応に怒りを押さえ切れないながらも、新たに今後の行動への志気を確認しあい解散した。

〈今後の対応〉

青年会中央は、日本教科書の史実歪曲に対し、1日の集会で行動提起を打ち出した。提起の内容は、23日「全国会長会議」以後、約2ヶ月、活動期間と定め、同胞の歴史を学習しなおそうというものである。特にその中で、一世の証言を元に我々二・三世が「在日渡航史」の資料をまとめようという計画で、活動期間の間できるだけ多くの一世の戸別訪問を行い、渡日した年月日、理由、就職先、生活水準等を調査、そういった渡航史の元、近代史を中心に歴史の学習を行う予定にしている。私達が一世の"生"の証言を聞き学ぶことは、ただ単に歴史を学習する上で役に立つのみではなく、今後の在日同胞社会のあり方にまで必らず影響していくはずである。

私達は史実歪曲を行う日本政府に対し当然の抗議を行い、今後も慎重にその対応をみつめて行く必要がある。

そして、今回の教科書問題を契機に、歴史を私達の内部の問題として自ら正しい史実を把握し、周りの日本人に感情的にでなく論理的に伝えて行くことが大切ではないであろうか。そういった作業をせずに、一方的な主張のみでは矛盾している事になる。

82年度も前半が終了した。前半期活動の総括を元に「歴史を取り戻す運動」も含めた後半期活動の充実をめざし、成功させようではないか!

青年会中央本部機関紙「韓国青年」1982年10月9日付より

12・11集会（83.12.11中央会館）

抗　議　文

去る８月26日、宮沢官房長官談話にて、今般、深刻な問題となっている教科書史実歪曲に関する貴国の正式見解が発表された。これは、貴国で使用される高校用社会科教科書における韓日関係史実の歪曲、とりわけ日帝の犯した侵略行為の美化・正当化を図ろうとする記述と、これを良しとする文部省の姿勢に対しての見解である。その内容は次のように四項目よりなっており、

①韓日共同コミュニケ・日中共同声明で示した、過去の戦争などの行為を反省するとの精神に変わりない。

②この精神が学校教育・教科書の記述にも反映されるべきものとして政府責任において是正する。

③教科用図書検定調査審議会に諮り検定規準を改め、1984年度使用教科書の記述については、この方針に基づきおこなう。また検定済み教科書に対しては、検定年を１年くり上げ、是正してゆく。その間、未修生で使用されるが、経過措置を構ずる。

④近隣諸国と相互理解と友好・発展を再確認する。

以上の様な内容であり、この見解は１ヶ月程前の韓国政府の公式抗議に対する正式見解である。

我々はこの見解に対し、ある程度是正する方向性をみることができるが、しかしまだ具体性に欠けている点で到底容認できるものではない。韓日共同コミュニケの精神を学校教育・教科書で適切に反映させるよう措置を講ずるとしながら２年間ものあいだ誤ったままの教科書を使用し、「文部公報」のみで教育現場での指導を徹底させるとしている。さらに、教科書記述の是正をせず、何ら補助的教材の使用もせず、一般教師・生徒にどこまで誤まりを徹底して教えられるのかなど、具体性の欠如に、はなはだ疑問を禁じえない。以上のことより韓日共同コミュニケの精神は充分に反映されておらず、履行されてはいない。歪曲された教科書の使用は、我々在日同胞子弟も多数通学している現状にかんがみても、また日本の次代を担う青少年達へ、歴史的価値観の欠陥・民族的偏見などの禍根を及ぼすと言わざるを得ない。また本来であれば歪曲史実是正においても貴国が自主的に改訂してゆくべき事が原則であるにもかかわらず、変則的な是正方針は国益優先を意図し発表した妥協的産物の見解であり、小手先のみであり、何ら前向きな姿勢を示したものとは思われない。

以上述べてきたように、今回の日本政府の史実歪曲問題に関する見解は、反省の真意を測りかねるもので到底納得ゆかないものである。

国際社会は新たな秩序を形成しつつあり、相互理解に基づく平和社会の建設を世界は希求している。その根底たるべきものは、人類の残した歴史の考証と確信し、正当な史実を直視し、現代への教訓をその中より学び取る事こそが国際社会の相互理解の基盤だと信じる。しかるに貴国が、平和社会建設へのあるべき姿と相互理解・友好促進を願うものであれば、貴国の責任において速やかに問題の教科書内容の即刻完全是正こそが将来への正しい進路であることはいうまでもないことである。

ここに我々は、「日本教科書史実歪曲完全是正を要求する在日韓国青年学生の代表者集会」の名において「即刻是正」を要求するものである。

1982年９月１日

日本教科書史実歪曲完全是正要求
在日韓国青年学生代表者集会

日本国民に送るアピール文

親愛なる日本国民の皆さん！

今日、我々は日本の中高校教科書検定における史実歪曲に抗議し、その早急な是正を促求するためにここに集まりました。

さる６月下旬の検定終了とともに問題が提起されて２ヶ月余り、また韓国政府が外交ルートを通じて教科書の記述是正を求めてからほぼ１ヶ月の月日が流れた今も、日本政府は我々の要求に対し、納得ゆく明確な解答を示してはいません。

さる８月26日に出された宮沢官房長官談話の政府見解においても〝過去における日本の行為が、韓国の国民に多大の苦痛と損害を与えたことを自覚し反省する〟としながらも、今年度に検定申請の行われる教科書については84年度より、また、すでに昨年検定申請が行われ、来年度から使用されるものについては85年度から是正し、それまでの間の措置として〝文部大臣の所見を現場において反映せしめる云々〟という、はなはだ不満足かつ誠意ない解答しか得ることができませんでした。

我々は、日本政府に対して、無理難題を要求しているのではありません。ただ、まちがった史実を伝える教科書を放置せず、即刻是正し、過去の事実を事実として、教育の場において伝えて欲しい……それだけなのです。

日本国民の皆さん！

今朝、我々は、関東大震災でなくなられた方々の霊をとむらう慰霊祭をとりおこないました。59年前の今日、起こった震災で多くの人命が失なわれました。その中には多くの在日韓国人も含まれています。

我々が、この震災を忘れようとしても忘れられないのは、当時の日本政府が故意に流した「流言」によって、多くの在日韓国人が虐殺されたという事実があるからです。

今回の「検定」済み教科書は、この関東大震災の際の混乱に関して「韓国人が暴動を起こすというわさ」あるいは「流言」によるものとして、あくまでも偶発的なものであったかのように取り扱い、虐殺の事実を正当化しようとしています。

震災後の混乱と人心不安の中、日本人の反政府暴動発生を憂慮した当時の日本政府が民心収拾のために、意図的に韓国人暴動のデマをでっちあげ、日本全国に電報で流布し、それを官憲が誇張した結果、引きおこされた韓国人虐殺であった……即ち、決して偶発的なものではなく、日本政府によって、意図的に引きおこされたものであったという史実を、皆さんはご存知だったでしょうか！これが史実歪曲の実態です。

日本国民の皆さん！

これはひとつの例にしかすぎません。

自分の言葉を話すことを禁じ、先祖代々の名前を変えさせ、土地を奪い、強制労働に、あるいは戦地へとかりたてる等、日本の植民地政策の数々の蛮行が「検定」済み教科書ではたくみに除ぺいされ、「進出」の言葉で美化され、日本の韓国侵略が、あたかも合法的であったかのごとく記述されています。

このように、歪められた歴史が、これからの時代をになう青少年の国際的視野と世界観に歪みを

もたらすことは明らかです。

日本国民の皆さん！

今になって、過去の日帝の韓国侵略の歴史をとがめようというのではありません。過去は過去なのです。ただ、だからといってすべてを忘れ去ってしまってよいはずはありません。まして大きくそれを美化し、間違った歴史を後世に伝えるという行為は、決して許されないことです。

我々は冷静な眼で歴史を見つめなければなりません。たとえそれが恥ずべき出来事であったとしても、事実は事実として受けとめる勇気を持たねばならないのです。あやまちはあやまちとして認識し、そのあやまちを二度と繰り返さないという決意の上で、新しい歴史をつくっていかなければ、韓日間に今なお根強く残るしこりを取り除くことは出来ず、従って本当の意味での韓日友好はあり得ないのです！

親愛なるすべての日本国民の皆さん！

我々は、真の韓日友好を望み、また、日本社会を構成する一員として、よき隣人として、平和で自由な社会生活を皆さんと共に享有するがために今回の「検定」教科書の史実歪曲を糾弾するのです。歪曲教科書を決して容認してはなりません！　誤まった史実を伝え、青少年を誤導する歪曲教科書はひとときも放置されてはならないのです！

共に、日本政府に対して、史実の即刻完全是正を要求しましょう。

1982年９月１日

日本教科書史実歪曲完全是正要求
在日韓国青年学生代表者集会

対文部省抗議行動（82.9.1 文部省前）

決　議　文

今日、「日本教科書史実歪曲完全是正要求在日韓国青年学生代表者集会」に結集した我々、在日韓国青年学生代表２百余名は、教科書問題における日本政府の今回の見解がまったく具体性を欠いた不誠実極まるものであり、再度、強く抗議し、歪曲史実の即刻完全是正を要求してゆくことを確認した。

去る６月25日、文部省の責任下にて「検定」されたとする高校社会科教科書の内容は、過去の日帝の侵略行為を正当化・美化するものであり、数多くの史実の隠ぺい、歪曲に満ちたものである。この内容と「検定」を行った文部省に対して、我が国や中国をはじめとして、かつて日帝の軍靴に踏みにじられたアジア諸国からも厳しい憤激の声があがり、日本は国際世論の強い非難を浴びるに至った。特に36年間にわたって、痛苦に満ちた植民地支配を受けた我が国では、韓日国交正常化以来の深刻な外交問題にまで発展、また、国民間にも反日感情が高まり、今後もますます拡大する様子を見せている。日本においては、民団、婦人会や青年会をはじめとする在日韓国人社会からも是正を要求する強い抗議の意が表明され、また、日本の世論も日本政府に対して率直に非を認め是正すべきと主張している。これら内外の激しい批判に対処する為に日本政府は８月26日、宮沢官房長官の談話で正式な見解を発表した。しかしながらその内容は、歪曲史実の具体的個所や是正の為の方法については何ら触れてはおらず、且つ来年から使用される教科書は是正を行わないままに今後２年間使用するという、到底容認し難いものとなっている。

我々の要求は明確である。まず何よりも、焦点となった来年度から使用が予定されている教科書の歪曲史実の即刻且つ完全是正である。在日韓国人社会の形成の史実をも歪曲するのを黙過するならば、我々の未来すらも奇型化されることをも意味する。在日同胞子弟の約八割が日本の教育機関に通学している現状を鑑みても、即刻なる歪曲史実の是正が緊要である。

また我々が銘心しなければならないのは、我々の保有する歴史は我々自身の手によって継承し、他民族・他国家によって左右されるような脆弱な民族史観ではなく、強固な民族史観を確立しなければならないことである。それは在日韓国人社会の世代交替の主体勢力である我々の重要な課題でもある。

我々は歪曲史実の即刻完全是正を強く要求し、同時に自らの歴史を創造的に継承すべく最大限の努力を行うことを決意し、以下の如く決議する。

一、我々は、日本政府に対して、来年度から使用が予定されている教科書の歪曲史実の即刻且つ完全なる是正を要求する！

一、我々は、日本政府が韓日共同コミュニケの精神に立ち返り、教科書是正の具体的にして明確な措置を講じることを要求する！

一、我々は、世代交替の主体勢力として、民族史を創造的に継承し、次代を担う青年学生隊列を構築する！

1982年９月１日

日本教科書史実歪曲完全是正要求
在日韓国青年学生代表者集会

集会に至るまでの経過

検定終了から外交決着まで（6.25～9.9）

6・25　日本・教科書検定作業終了。

7・20　韓国・新聞各紙「歪曲性を外交ルートで訂正せよ」と報道する。

7・23　日本・小川文相、松野国土庁長官、韓国等の抗議は内政干渉と発言。

7・27　日本・朝日新聞社説で史実の歪曲は、在日韓国人子弟への影響をもおよぼすと報道する。

7・27　韓国・この頃よりソウルを中心に、市民の集会等が活発に行われる。

7・28　民団中央、内外記者会見を行い歪曲是正の意を示し、文部省へ要望書も提出する。

7・28　日本・教科書執筆者ら文部省の修正強制を証言する。

8・4　韓国・李外相、駐韓日本大使へ、改定要求の覚書を手渡す。

8・5　韓国・国史編さん委、24カ所の歪曲部分を指摘する。

8・6　韓国・日本政府特使の派遣を拒否する。

8・6　日本・松野長官、安重根義士に対し妄言をする。

8・10　青年会中央本部、拡大地協事務局長会議で、抗議文を文部省へ提出する。

8・15　民団、各地で光復節を行い、是正を求める抗議文、決議文を採択する。

8・18　婦人会中央、都内で、デモを行う。

8・24　青年会中央、再度拡大地協事務局長会議を開き①文部省に対して10日手渡した抗議文の見解をただす②9・1集会開催を決定する。

8・26　日本・宮沢官房長官、政府見解として談話を発表。「①是正した教科書は85年より使用②2年間は文相所見による歪曲部分を補足指導する」

8・27　韓国・李文公相「日本政府の見解を評価しながらも、早急な是正を求める」と談話。

8・31　崔外務部アジア局長、駐韓日本公使に是正即時実行を迫る。

9・1　青年会、学生会、青商の合同で「日本教科書史実歪曲完全是正要求在日韓国青年学生代表者集会」を開く。

9・9　韓国・中国共に、日本政府の一連の是正努力を評価する見解を出し、外交上の決着を一応ここにみる……。

会員の声

"教科書問題" 決着はまだ

金　相　烈

去る6月25日の教科書検定終了とともに提起され、外交問題にまで発展した、いわゆる「教科書問題」は、8月26日の宮沢官房長官による日本政府の政府見解表明と、それを受けた韓国、並びに中国両政府が不満足としながらも、一応の評価をするという態度を示したことによって、現在、それなりに平静をとり戻した感がある。

しかし、仮に国家間の外交上の結着はついたとしても、「教科書問題」の本質の部分は、いまだに手つかずのまま残されていると言えるであろう。というのは、今般の「教科書問題」における日本政府の対応を見る時、韓国並びに中国から、歪曲教科書是正の要求をつきつけられた日本政府が、外交上の大問題への発展を憂慮し、不本意ながらも、圧力に屈したかたちで、是正を約束せざるを得ない立場に追い込まれた…といった印象が強い。

根本的歴史観の誤りを認め、それを正そうという姿勢が見られないという点においては、「内政干渉云々」の、一部閣僚発言あるいは、「韓日併合はどちらが正しいのかどうかわからない云々」の松野発言がなされた時点から、一歩も踏みだしていないと言わざるをえないからである。

歪曲教科書は、これまでも再三言われてきたように、次代をになうべき青少年の歴史観、世界観に歪みをもたらし、真の意味での韓日友好の障害となるものである。にもかかわらず、日本政府は歪曲教科書を即刻是正しようとはせず、文相の所見により歪曲部分を補足説明するという、まことにもってあいまいなかたちで、結果的に85年度まで放置しようとしている。

歴史を冷静に見つめた上で真実を真実として伝えなければならないという反省に基づいた歪曲是正ならば、当然、即刻是正されてしかるべきではないか。ともあれ、85年度からは歪曲個所が是正された教科書が使われることになり、一応の成果は得られたとするむきもあるが、本質的な歴史観が是正されない限り、たとえ教科書が書き直されたとしても、それは単に「進出」という単語が「侵略」に、また、「暴動」という単語が「独立運動」に置きかえられるという、それだけの意味しか持たないものであり、そして第二、第三の「教科書問題」が起こりうる危険性を常にはらんだ、とりつくろわれた歴史でしかありえないということを、心してかからねばならない。

それでは、今われわれがなさねばならないことは一体何か。

今般の教科書問題は、くしくもわれわれ自身の、われわれの歴史に対する無知を露呈する結果をもたらした。この機会をのがしてはならない。われわれ自らが、われわれの歴史を知り真実を伝えてゆかなければ、誰が伝えてくれるのか。「歪曲教科書を是正せよ！」と、群れ集ってシュプレヒコールをくり返すことはたやすい。が、その行為自体に、果たしてどれ程の意味があるのだろうか。われわれは弱い犬であってはならない。

地に足をつけ、地道な努力を重ねて、一歩一歩着実に力を身につける時がきた。われわれひとりひとりが、在日韓国人とは何か、なぜ今、われわれがここにいるのかを、あらためて問いなおす時がきたと信ずる。われわれが、烏合の衆に堕さないために、ひとりひとりが牙を研ぎ鋭い眼を持った狼にならねばならない。何事にも動じない自信にうらづけられた鋭い眼でわれわれの過去と現在を見つ

め、そして未来を創造しつづけなければならない。眠っていても、「明日」は必ずくる。しかし、何もせず、ただ漫然と時を過ごしたならば、われわれに「未来」はないということを知らねばならない。日々の暮しに追われ、ともすれば退色しがちな未来への情熱を、今再び、静かに燃やす時だと信ずる。

在日同胞社会の世代交替が叫ばれるようになってすでに久しい。が、現状を見る限りでは、世代交替が順調に行なわれているとは言いがたい。それでも歳月だけはとどまることなく流れつづけて、在日同胞社会から、一世世代が姿を消す日も、そう遠い将来ではない。われわれは貴重な「生き証人」を失ってしまうことになる。だから「今」なのだ。これからの在日同胞社会の主体勢力となるべきわれわれは、一世世代を越えて生きてゆかねばならない。彼らの歩いてきた道のり、残してきた足跡、苦難に満ちた歴史を吸収し、消化し、その上で自らの進むべき新たな道を、自ら切りひらかねばならない宿命を背負っている。われわれが今この時を漫然と過ごしていてよいはずはない。われわれの歴史をとり戻す機会は今をおいてはないと確信する。

一時のさわぎがうそのように、今では「教科書問題」の活字を新聞紙上に見つけることもまれになってしまった。が、しかし、くどいようだが、「教科書問題」に対する本質的な決着は、今だについていないのである。表面上の平静さにかくされた問題の本質を決して見失ってはならない。むしろ、「教科書問題」をわれわれ自身の問題としてとらえるならば、「教科書問題」は、今、まさに、問題の提起がなされた段階なのであり、歪曲教科書を是正するのは日本政府ではなく、他ならぬわれわれ自身であることを肝に銘じるべきであろう。偏りのない眼で歴史を見つめ、われわれひとりひとりの心の中の「教科書」をつづっていく、そのためのペンを、今われわれは、しっかりと握らなければならない。

もう後には退けない！

張　五　清

今回の教科書問題は、僕等が予想してた以上の激しさと広がりをもって、日本国内のみならず、韓国や中国などかつて日帝の侵略（進出なんて生やさしいものではない）を受けたアジアの国々にとどまらず、アメリカや西ドイツにまで飛火した。アメリカが、どれ程のことを言えるのかとその資格を問いたい気もあるが、とにもかくにも今度の問題は世界の国々の注目を集めた。最初は楽観の構えを取っていた日本政府も事の〝重大さ〟にあわてふためき、内部の足並の悪さや、その「選択性・悪性健忘症」的体質を露呈するなどしてぶざまな動きを見せた後、やっと８月26日の政府見解で体裁をつくろう始末である。今回はめずらしく韓国政府がスカッとした強気の姿勢で臨んでくれ、対日借款問題で今イチ、パッとしなかった印象を払ってくれた。本国に於いても一般民衆レベルでの抗議活動が激しく、このような状態は、韓日国交正常化以来のことであるそうだ。

これらの抗議の声のボルテージが高まるにつれて、僕等自身の心の内に何か割り切れないものを感じていた。勿論、文部省の非を認めようとしない態度や、自らの無知蒙昧ぶりを表わした一部閣僚の暴言などに対しては激しい怒りを感じるし、誤った史実を学んでいく日本の子供たちが将来、僕等や韓国に対してどのような見方をしてゆくかを想像した時に空恐ろしくなる。けれどそれでも何か割り切れなかった。それは僕等を含めた在日韓国人社会の在り方ではないだろうか？

今回の歪曲・隠蔽された史実は特に近代、現代史の個所においてそのねじまげぶりが甚しいが、その個所は僕等の存在にも大いに関係ある部分である。当時の韓国人を大量に日本や中国北部に移住せしめた土地調査事業の記述や、"本名"と"通名"という奇妙な現象を生んだ創氏改名など、僕等の現状を語る上で実に重要なものがある。

ではその重要な歴史や父母たちの歩んできた道をどれだけ僕等が知り得ていたのだろうか。そしてそれらの歴史や道のりを伝える作業がどれだけ行われていたのだろうか？　非常におざなりになっていたのではなかろうか。それでも一部の真面目な青年たちは書物を購入し、独学で歴史を学んできた。しかしその書物も日本人の手で書かれたものであり、たいがいは"左より"の味つけがしてある奴であって非常に心もとない。

では、在日韓国人社会の大衆組織であり、"政府的存在"である民団や朝総連の行ってきた歴史継承作業たる「民族教育」はどうであろうか。まず朝総連は論外。日本教科書よりひどい史実の歪曲が行なわれているからだ（誰が三・一独立運動の指導者が金日成の父親だなんて信じるか！）。民団はと言うと、「50時間制」や「春季・夏季学校」を開催するなどしているが、今ひとつ精彩を欠いた感が否めない。多分、誰もがこのままではいけないと思いながら今日まで来てしまったんじゃないだろうか。もし今回の教科書問題が起こらなかったら、今後もずっと放置されたままだったと思う。

幸か不幸か、今回の教科書問題という強烈なキッカケが僕等の歴史を見直す必要性を突きつけてくれた。僕等はもう後には退けない。僕等自身の歴史は、僕等自身の手で受け継がなけりゃいけない。その上で他の民族や国家に歪曲されたりする余地を与えない強固な史観を築く。そのことを9月1日の集会で決議したし、青年会の運動として展開してゆくのだから。日本政府相手に抗議と糾弾だけを何万回繰り返したって意味がない。まず自らの手で創りあげてゆくことが最も重要なことであり、そのことが僕等の主体性を確立してゆくことにつながることだと信じている。

青年会中央本部機関紙「韓国青年」1982年10月9日付より

「一世同胞の渡航及び生活史実態調査」

アンケート調査実施要領

1．実施期間

1982年10月25日～1983年1月15日

2．目　　標

母集団として位置付けた一世の10%を調査目標とする。

3．内　　容

(1)　日帝の植民地政策の体験調査

(2)　渡航理由の実態調査

(3)　生活実態の把握

(4)　結婚状況・法的地位・民族教育等の実態調査

(5)　現在までの生活状況

4．調査対象者（母集団）

在日韓国人で渡航時満12才以上の方々とする。（学歴で言えば小学校卒業～）

5．調査方法

調査対象者に個別面接し、各項目を説明して答えてもらい、調査担当者（以下面接員）が記入する方法を原則とする。

6．準備にあたっての留意事項

母集団からサンプル抽出にあたっての留意事項。

母集団とは、そこからサンプルが引き出される元の集団をいう。

調査結果が摘用される範囲として調査の究極的対象である。

(1)　今回において母集団とは次の事を基本とする。

①いわゆる本国出生の一世であり、

②1910年～1945年8月15日（解放）の間に日本に渡日された方の中で、

③渡日時において渡日前後の本国内の状況を記憶し、体験している必要があることから、その時の年齢が基本的に小学校卒業時の年齢、満12才以上を最低基準とする。

④故に現在（1982年）50才以上の方々である。

(2)　調査対象者抽出方法

①母集団台帳を国民登録台帳とする。

②調査対象者の範囲は母集団の10%を基本とする。抽出率は1／10とする（地方分担一覧表参照）。

③抽出方法は「系統的抽出法」を採用する。

④抽出は基本的に各地方本部にて実施する。大手地方本部は割当が大きすぎる為、支部に割り当てても良いが、次の抽出方法によって行なう事。

⑤抽出手順

第１段階：渡日当時満12才以上で、現在満50才以上の方々を国民登録台帳から抜き出し、一連番号をふる。

第２段階：調査対象者と母集団の比率は10%、つまり１／10となる。

第３段階：上記段階の比率に従い等間隔の番号を母集団名簿から抜き出す。

第４段階：抜き出した調査対象者を地域的に振り分ける。

第５段階：班を編成し訪問する。

※　地域特殊性の把握には最低200本以上の票本が必要となる為､特に自地方の特殊性を引き出す為には１／10（10%）の比率にとらわれず調査対象者を上記抽出方法で､200人以上を集める事が必要。分析は中央で行ない、その結果をさらに地方で分析が可能である。

※　抽出方法の厳守

分析された結果が全体同胞を代表しているか否か、信頼度の問題となる為、特に注意するように。

７．収集にあたっての留意事項

(1)　指導者としての注意

面接法による調査の成否は面接員の働きいかんにかかっているということを十分に考慮した上で、次の事に注意するように。

①面接員に対しては調査の目的、内容を十分に理解せしめる。

②面接員は１名でなく、最低２名以上で班を組み訪問することが望ましい。

③１班につき調査対象者は15名以内に限定する方が望ましい。それ以上になると、面接員の姿勢に疲労が重なり注意が散慢となる為である。

④各地方の特殊性を把握したい地方においては、(2)**調査対象者抽出方法**の末備※印で示した通り200本以上のサンプルが必要となる。

(2)　面接員としての注意

①調査の成否が自らの双肩にかかっているということを自覚し、生半可な姿勢で臨まない。

②回答者はご老人がほとんどである為、敬意を払うとともに根気よく質問する。

③面談している時は、感情的な反応等にも注意を傾け予定の質問事項を越えて、さらに奥深く問題を追求する柔軟性を持って臨む。

④快活にさりげなく礼儀正しく自信を持って回答者に接する。

⑤自分はだれで何の為にきたのか、調査の目的・意義を簡単に述べ協力を依頼する。（回答者がより詳しく説明を求めた場合、答えられる十分な準備をしておくこと）

⑥親密な語り合いの中で調査を進め回答者を気軽な気持ちにさせる。

⑦常に同情的聴き手の姿勢をくずさず学ぶ者の立場に徹し、まじめで真剣な態度で接する。

⑧自分の意見を述べたり、回答を暗示・誘導しない。

⑨あらかじめ、調査票の内容をよく理解し質問をいかにも読み上げているといった感じを与えないよう、率直に素直で自然な会話で質問をする。

⑩回答はできるだけ忠実に記録する。特に自由回答の場合、可能な限り発言通り記録する。

8．調査票設問に対する留意事項

(1) 本実態調査票の内容は、上述の「3．内容」であげている為に除くが、全設問の時代区分としては下記の如くである。

①渡日前後 "問11～問18。

②解放前後 "問18～問23。

③独立（建国）前後 "問24～問27。

④現在の状況 "問1－問10、問28～問29。

(2) 回答覧の記入方法

①回答覧の数字を◯印で囲む。

②必要事項は必らず記入するように。回答を得られない場合は、その箇所に "無回答。又は "NA。(No Answer) と書き入れる。

※ なお全説問の中で "Ⓐ～Ⓢ。の様に自由回答覧を多く設けてあるのは、地方史編さんの際の資料とする為である。それぞれの要領に従って証言を収集し、別の自由回答用紙に面接員が記入する。

(3) 問1～問31までの設問に対する留意事項は次の通り。

① "地区番号。と "対象番号。について

地区番号は下の中から選定して記入（別紙参照)。又 "対象者番号。は前述"6の②。項の抽出方法で出された番号を記入。

② "調査員。及び "点検者氏名。について

調査回答票の正確度を高める為に、必らず調査者とその点検者の名前を記入。

③「問3・結婚状況」について

結婚はされても、現在は死別もしくは離婚して一人の場合も少なくないと考えられる。その方々の場合は「1・ハイ」に◯印をしてその下に"㊗死別。か"㊗離婚。と記入してチェックだけする。又、SQの問いにおいて "籍。についてであるが、「3・日本籍」は日本に帰化された韓国人をさす。「5・元日本人」は韓国に帰化された日本人を言う。

④「問4・家族構成」「問5・家族人数」について

これは家族の状況を調べようとするものである。日本でも深刻な老人の一人暮しの状況についてわかる。

⑤「問6・法的地位」について

ほとんどの方が回答できないと考えられる。その場合、誤解を招かない様 "在留資格。について説明をしながら "外国人登録。に記載されている事を教えてあげる様

に。"登録証。を見せてもらいながら記録する。

⑥「問8・出生地」について

出身道に◯印をつけた後、市・郡まで記入してもらう様に。特定地区に同郷出身の方々が密集されている例が多いと言われている。よってそれぞれの特徴を知る事ができる。

⑦「問9・最終学歴」について

2書堂は日本風に言えば、寺子屋に近いものであるが、当時の韓国では相当数分布されていたと言われている。一世の方々の中には書堂で学ばれた方が多いと思われる。

⑧「問10、問11、問13ＳＱ８」について

同胞の職業は幅広いものと考えられる。故にまずどの様な内容の仕事なのかを確めて次に"自営・被雇用・無。の選択肢の職種の中から一つを選ぶ。

⑨以下の各問の中に含まれている、自由回答Ⓐ～Ⓡは別添記録票に記録する様に。

「問12Ⓐ、問13ⒷⒸⒹⒺⒻ、問14Ⓖ、問15ⒽⒾ、問16Ⓙ、問18Ⓚ、問20Ⓛ、問21Ⓜ、問24Ⓝ、問25Ⓟ、問28Ⓠ、問30Ⓡ、問31Ⓢ」

⑩「問13・渡航理由」について

ほぼ五つの選択肢で十分であると考えられる。選択肢の内容は次の通り。

Ａ．"徴兵。について

韓国人に対する徴兵は1942年より実施された。相当数の同胞の方々が体験されていると考えられる。ＳＱ１－ＳＱ３までが徴兵に関わる調査項目である。特に体験談については注意が必要。

Ｂ．"徴用。について

募集の始まりは、1911年頃と言われているが数は多くなかったらしい。急増したのは、1917年第一次世界大戦の特需景気により労働力として募集したからと言われている。しかし1938年国家総動員法の公布により強制的な連行に変わったとされている。ＳＱ４～ＳＱ６までが徴用に関する項目である。①と同様に体験談の収録に注意。

Ｃ．"経済的理由・留学・その他。について

上述した①、②以外にも、いわゆる本国で生活が成り立たず出稼ぎ的に来られた方も多いと思われる。この様な方は、"経済的理由。に含まれる。"留学。については問題はないと思われる。又、妻や子として家族の一員として来られた方は、"その他。に含まれる。①、②と同様に体験談を収録する。

⑪「問14・土地調査事業」について

1910年韓日併合から２年後の1912年より実施された。当時の我が国は、土地の所有関係が明確でなかった事に目をつけた日帝は、土地制度の近代化を図ると称して農民に土地を申告させ、"期限内。に申告しない農民については、土地を取り上げたとされている。この事業によって国をやむなく離れた同胞は多いと思われる。土地調査事業に関する証言を、できるだけ具体的に収録する。

⑫「問15・創氏改名、問16・韓国語使用禁止、問17・神社参拝」について

各問はいずれも日帝の植民地政策として、いわゆる韓民族の抹殺を目ざした皇民化

政策の中で、特徴的なものであった。

A、創氏改名は文字通り、我が民族の固有の姓を取り上げ、日本名にする事を強要した政策であり、我々が現在日本名を使用する様になった原点でもある。この政策は1939年より実施されている。特にどの様な方法で日本名をつけたのかを注意して収録する。

B、韓国語使用禁止は1938年より実施され、韓国語新聞は弾圧を受ける事になった。

C、神社参拝は"皇国臣民誓詞斉唱。を強要する事によって神社参拝を強制したとされている。

⑬「問18・生活状況、問19・移転、問20・差別体験」について

これらを調査する事によって、渡日後、一世の苦労の足跡を多少なりとも知る手がかりとなる。父母の体験は一世の方々の共通のものと考える事ができ、現在の状況と比べる資料となる。差別体験の証言も具体的に収録する。

⑭「問21・解放時、問22・帰国意志、問23・解放後の生活状況」について

解放時の状況と同胞の動態を知る手がかりとなる。

A、「問21・解放をむかえた場所」について

(3)①の番号を記入する。

B、帰国意志については、解放当時日本に 210万人以上の同胞が在住しており、解放を迎えるや否や2年前後の間に、150万人に達する同胞が帰国の途についたと言われている。現在日本に住んでいる同胞の多くも、帰国意志を持っていたと推測される。

⑮「問24・民族運動」について

解放後"帰国の便宜を図る為。"子弟教育の為。に各地に団体がつくられたとされている。しかし考え方の異なりや、祖国の分断によって日本に居住する同胞も分断され、今日に至っているが、当時の混乱状況を知る上での手がかりとなる。

⑯「問25、26、27」について

A、一世の方々が子弟に行った教育の内容。

B、民族教育についてどの様に考えているか。

C、同胞社会との結びつき等を知る手がかりとなる。

⑰「問28・帰化」について

現在帰化が増加しているとよく言われるが、一世の方々の中でどの程度帰化を考えているかを知る手がかりとなる。

⑱「問29・帰国」について

現在も帰国意志を有しているのか、いないのかを知る手がかりとなる。

⑲「問31・青年会」に対する評価

青年会に対する関心度を知る為の項目である。

素直な意見を収集する様に。

以上各設問に対して、留意し記入の事。

自由回答用紙

「我々の歴史を取り戻す運動」

◇◇◇◇◇◇◇一世同胞の渡航及び生活史実態調査◇◇◇◇◇◇◇

調査票において自由回答が求められている質問に対しては、この回答紙のそれぞれの該当欄に記入して下さい。

生きた証言を収集するために、できるだけ回答者の言葉に忠実に記録するようにお願いします。

在日本大韓民国青年会

④ あなたが渡日された当時、本国内においての出来事の中で特に記憶されていることをお話し下さい。

一世の渡航及び生活史実態調査票

1982年10月～1983年１月
在日本大韓民国青年会

記入方法は各質問の回答欄の数字に○をするか、必要事項を記入して下さい。

対象者番号

地方		—	対象者			
①	②		③	④	⑤	⑥

調査月日　　　月　　日

調査員氏名 ______________

点検者名 ______________

問 1 〔性　別〕

1	2
男	女

⑦

問 2 〔年　令〕 お年はおいくつですか。満でお答え下さい。

（　　　）才

問 3 〔婚姻状況〕 結婚していらっしゃいますか。 ⑧⑨

1	2
ハイ	イイエ

⑩

SQ 配偶者の国籍はどちらですか。次の中から選んで下さい。

1	2	3	4	5	6
韓国籍	朝鮮籍	日本籍	日本人	元日本人	その他

⑪

問 4 〔家族構成〕 お宅の家族構成は次のどれに当りますか。次の中からひとつ選んで下さい。

1. 一人暮らし
2. 夫婦二人暮らし
3. ２世代（ 親又は子がいる ）
4. ３世代（ 親と子又は 子と孫がいる ）
5. その他

⑫

問 5 〔家族人数〕 あなたのご家族はあなたを含めて何人ですか。次の中からひとつ選んで下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8
１人	２人	３人	４人	５人	６人	７人	８人以上

⑬

問 6 〔法的地位〕 あなたの在留資格は次のうちどれですか。

1	2	3	4	5	6
協定永住	一般永住	126－２－６	４－１－16－２	４－１－16－３	特例永住

⑭

問 7 〔旅券〕 あなたは韓国政府発行の旅券を持っていらっしゃいますか。

1	2
ハイ	イイエ

⑮

問 8 〔出 生 地〕 お生まれはどちらですか。次の中から選んで下さい。

1	2	3	4	5	6	7
済州島	慶尚南道	慶尚北道	全羅南道	全羅北道	忠清南道	忠清北道
8	9	10	11	12	13	14
京畿道	江原道	黄海道	平安南道	平安北道	咸鏡南道	咸鏡北道

⑯ ⑰

（　　　　　　）市・郡

問 9 ［最終学歴］

(1) あなたの本国における最終学歴を次の中から選んで下さい。 （中退は卒業とみなします。

1．無
2．書堂
3．尋常小学校、 高等小学校卒
4．旧制中学校、高等女学校、師範学校、実業学校卒
5．旧制高校、高等師範学校、旧専門学校卒
6．大学卒

⑲

(2) あなたの日本における最終学歴を次の中から選んで下さい。 （中退は卒業とみなします）

1．無
2．尋常小学校、高等小学校卒
3．旧制中学校、高等小学校、師範学校、実業学校卒
4．旧制高校、高等師範学校、旧専門学校卒
5．大学卒

⑲

問 10 ［現在の職業］ あなたの現在のご職業はなんですか。
具体的にお答え下さい。

（ ）

自営					被雇用				無職	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	×
農業	林業	漁業	商業	サービス業	管理職	専門技術	事務	労務	学生	その他

⑳

渡日前の事に関しておうかがいします。

問 11 ［渡日前の職業］日本に来られる前の本国における職業はなんですか。

具体的にお答え下さい。

（ ）

自営					被雇用				無職	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	×
農業	林業	漁業	商業	サービス業	管理職	専門技術	事務	労務	学生	その他

㉑

問 12 ［渡日年度］ 渡日されたのは何年頃ですか。 また何歳くらいの時ですか

（19 ㉒㉓ ）年頃 満（ ㉔㉕ ）歳

その当時、本国内においての出来事の中で特に記憶されていることがありましたら、どうぞ述べて下さい。

［ ㉖ ］

問 13 ［渡日理由］ 渡日に至った理由を次の中から選んで下さい。

1 徴兵　2 徴用　3 経済的理由　4 留学　5 その他（ ）

㉗

1 → SQ1～SQ3　2 → SQ4～SQ6　4 → SQ7～SQ8

在日三世の私から見た一世の方々の想いを、この泣き笑いの顔にこめて、今は亡き父(アボジ)と、その後の私たち姉弟を支えてくれた母(オモニ)に捧げます。

（表紙担当）スタジオà Deux　李 徳子

編集後記

"我々の歴史を取り戻す運動" はそのまま、"在日同胞のルーツ" だった。そして、一世からの最大の贈り物だったようです。（仁）

膨大な自由回答の編集作業をしながら、幼い頃、母の苦労している姿のみを通して観ていた「在日の歴史」そのものが、より膨らみパノラマのように私の瞼の前に拡がっていった。（南）

この運動自体を知らない青年会世代に属する僕でしたが、自由回答の整理を一から手がけてゆくうちに、よくもこんなとてつもない事業をしたもんだと感じざるを得なかった。遅ればせながらこの事業の締め括りに手を染められたことを誇りに思う。（宇）

当初、この運動を提唱した時、「できれば素晴らしいが、土台無理じゃないか」とか、「途中で頓挫するのでは」といった周囲から危惧の声があがったものだ。しかし、これだけは、多少無理をしても二世のプライドをかけて、何としても成し遂げたい気持ちが強く、強行した。６年前の当時の仲間も奮闘してくれ、試行錯誤を繰り返しつつやっと発刊にこぎつけた。この冊子は、まさに数多くの一世たちと、無数の二・三世の青年たちとの努力の結晶であると思う。この冊子が、昨今の「軽やかな実像を見ない」在日論議にくさびをうって欲しいこと期待しつつ後記とさせてもらいます。（清）

定価　2,500円

아버지(アボジ)聞かせて　あの日のことを

—"我々の歴史を取り戻す運動"報告書—

1988年2月20日　発　行

発行人　権　清　志

発行所　在日本大韓民国青年会中央本部

〒106　東京都港区南麻布1－7－32

電　話　(03)　4 5 3－0 8 8 1 (代)